

DB2 照会報告書作成プログラム (QMF)
バージョン 12 リリース 1

DB2 QMF メッセージ
およびコード

IBM

DB2 照会報告書作成プログラム (QMF)
バージョン 12 リリース 1

DB2 QMF メッセージ
およびコード

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、巻末にある『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM DB2 12 for z/OS (5650-DB2) および IBM DB2 11 for z/OS (5615-DB2) のフィーチャーである IBM DB2 照会報告書作成プログラム (QMF) Classic Edition および Enterprise Edition バージョン 12 リリース 1 に適用されます。また、本書は、スタンドアロン IBM DB2 for z/OS ツールである IBM DB2 QMF for z/OS (5697-QM2) バージョン 12 リリース 1 にも適用されます。この情報は、新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： GC27-8881-00
DB2 Query Management Facility
Version 12 Release 1
DB2 QMF Messages and Codes

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1982, 2016.

© Rocket Software, Inc. 2013, 2016. All rights reserved.

目次

この情報について	v
前提知識	v
サービス更新およびサポート情報	v
強調表記規則	v
メッセージ説明の検索方法	vi
ご意見の送付方法	vi
第 1 章 QMF メッセージの読み方	1
第 2 章 初期化とインターフェースのメッセージ	5
第 3 章 割り込みメッセージ (TSO)	7
第 4 章 DSQ10001 - DSQ19633	9
第 5 章 DSQ20005 - DSQ23738	209
第 6 章 DSQ30101 - DSQ36999	433
第 7 章 DSQ40001 - DSQ40594	575
第 8 章 DSQ50001 - DSQ51305	595
第 9 章 DSQ60001 - DSQ60902	677
第 10 章 DSQ70001 - DSQ70177	723
第 11 章 DSQ80011 - DSQ85733	731
第 12 章 DSQ90001 - DSQ90575	817
第 13 章 DYQ0001 から DYQ0999	825
特記事項	841
商標	842
製品資料に関するご使用条件	842
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項	843
用語集	845

この情報について

IBM® DB2® 照会報告書作成プログラム (QMF) for TSO/CICS® は、堅固に統合された強力で信頼性の高いツールであり、照会および報告書作成の機能を提供して、以下のリレーショナル・データベースのデータへのアクセスおよびデータの提示を支援します。

- DB2 for z/OS®
- DB2 for Linux, UNIX, and Windows
- DB2 for iSeries
- DB2 Server for VSE and VM

本書には、すべての QMF™ メッセージについて、メッセージ、コード、およびヘルプ・テキストがリストされています。本書は、エンド・ユーザーへの QMF のデプロイを担当する QMF プログラマーとデータベース管理者を対象としていて、QMF を開始せずにメッセージ・テキストを見たい場合に便利です。QMF には数千のメッセージが用意されています。メッセージとそれに関連付けられたヘルプ・テキストは、エラーが起こったか否かを判別し、そのエラーを訂正する方法を知るのに役立ちます。

前提知識

本書は、読者が QMF の基本機能について「DB2 QMF 使用の手引き」に記述されている概念を理解していることを前提としています。

サービス更新およびサポート情報

ソフトウェア・フィックスパック、PTF、よく尋ねられる質問 (FAQ)、技術情報、トラブルシューティング情報、ダウンロードなど、サービス更新およびサポート情報を検索するには、次の Web ページを参照してください。

IBM ソフトウェア・サポート Web サイト

強調表記規則

この情報では、内容を強調するために以下の表記規則を使用しています。

- 太字体は、コマンドまたはユーザー・インターフェース・コントロール (フィールド名、フォルダー名、アイコン名、メニュー選択項目名など) を示します。
- モノスペースは、ユーザーが示されたとおり正確に入力するテキストの例を示します。
- イタリック は、他の資料の表題、または重要な用語の強調を示します。ユーザーが値を置き換える必要のある変数を示すためにも使用されます。

メッセージ説明の検索方法

以下のどちらの方法でも、メッセージおよびコードを検索できます。

インフォメーション・センターでの検索

IBM Knowledge Center などの Eclipse ヘルプ・システムの左上のツールバーにある検索ボックスに、見つけたいメッセージの番号を入力します。例えば、DFS1065A を「検索」フィールドに入力できます。

以下のヒントは、メッセージ検索を効率良く行うために役立ちます。

- コードを入力することで、コードに関する情報を検索できます。例えば -327 と入力します。
- メッセージ番号の全体または一部を入力します。メッセージ番号にワイルドカードを使用すれば、検索範囲を広げることができます。複数の文字を表すには * を、単一の文字を表すには ? を使用します。以下に例を示します。
 - 検索ストリング DFS20?I は、ストリング DFS20 で始まり、任意の 1 文字が続き、その後に I が続くメッセージをすべて返します。
 - 検索ストリング DFS20??I は、ストリング DFS20 で始まり、任意の 2 文字が続き、その後に I が続くメッセージをすべて返します。
 - 検索ストリング DFS20*I は、ストリング DFS20 で始まり、任意の数とタイプの文字が続き、その後に I が続くメッセージをすべて返します。

インフォメーション・センターには、インフォメーション・センターに含まれているすべての情報管理製品の最新のメッセージ情報があります。

Web 検索エンジンの使用

Web 上で利用できる一般的な検索エンジンはいずれも、メッセージ説明の検索に使用できます。特定のメッセージ番号またはコードを検索エンジンに入力すると、IBM インフォメーション・センター内のメッセージ情報へのリンクが表示されます。

ご意見の送付方法

IBM にお客様のご意見をお寄せください。本書または他の資料に関してご意見がありましたら、以下のオプションのいずれかをご利用ください。

- 次のアドレスにあるオンラインの読者コメント・フォームを使用する。

<http://www.ibm.com/software/data/rcf>

- E メールで comments@us.ibm.com にコメントを送信する。その際、資料名、部品番号、ご使用の製品のバージョン、および該当する場合はコメントの対象となるテキストの具体的な位置 (例えば、ページ番号や表番号) を必ず含めてください。

第 1 章 QMF メッセージの読み方

QMF は、QMF の実行中に発生するエラーや割り込みをユーザーに通知するためにメッセージを発行します。

重要: メッセージ番号およびメッセージ・テキストはリリースごとに変わるがあるので、既存の QMF メッセージを計画目的で使用するべきではありません。

QMF メッセージの形式とメッセージ・ヘルプ・テキスト

エラーが起これると、QMF は通常、メッセージ番号を表示します。大部分のメッセージ番号の形式は、`DSQnnnnn` です。ここで、*n* はそれぞれ、0 から 9 までの数字です。初期化メッセージの番号の形式は、`DSQInnnn` です。メッセージ番号の後に、必ず簡単なメッセージが表示されます。

対話式で作業している場合、QMF メッセージ・ヘルプ機能を利用できます。大部分の標準メッセージについて、QMF メッセージ・ヘルプ機能はヘルプ・パネルに詳細なメッセージ・テキストを表示します。メッセージ・ヘルプ・パネルを表示するには、エラー・メッセージが表示されたときに「ヘルプ」ファンクション・キーを押します。コマンド行に `HELP DSQnnnnn` を入力してヘルプ・パネルを表示することもできます。ここで、*nnnnn* はメッセージ番号です。

以下の図のメッセージ例では、QMF メッセージ・ヘルプ・パネルの 3 つの部分を示しています。

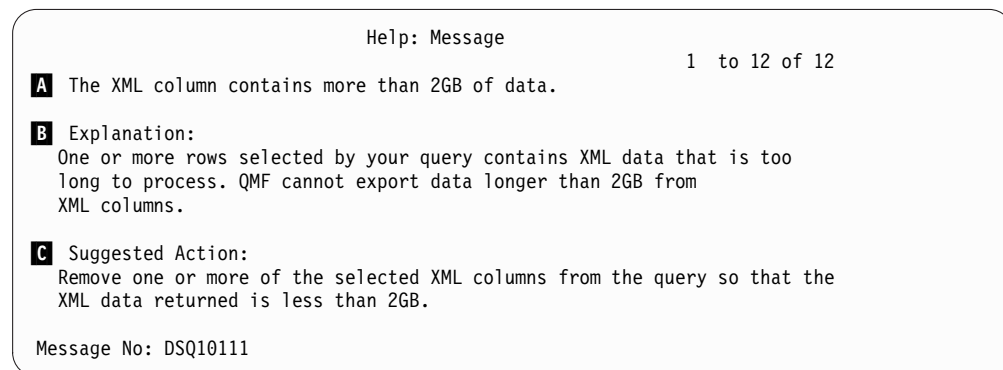


図 1. QMF メッセージ例

- A** この領域には、エラー条件が発生したときに発行される QMF メッセージ全体が表示されます。
- B** この領域には、エラーが発生した理由が表示されます。
- C** この領域には、エラーを修正するために実行できる手順が表示されます。

QMF メッセージのタイプ

QMF は初期化とインターフェースのメッセージ、割り込みメッセージ、および標準 QMF メッセージを発行します。

- 初期化とインターフェースのメッセージ

QMF START の処理中、またはコマンドあるいは呼び出し可能インターフェースからの呼び出し中に、QMF メッセージ・ハンドラーが使用可能になる前にエラーが起こることがあります。START コマンドが失敗するか、コマンドまたは呼び出し可能インターフェースからの呼び出しが失敗すると、QMF はメッセージ番号とメッセージ・テキストを戻します。呼び出し可能インターフェースを使用するコンパイル済みアプリケーションの場合、QMF はメッセージ番号とメッセージ・テキストを DSQCOMM インターフェース連絡域に入れます。REXX 呼び出し可能インターフェースを用いるアプリケーションの場合、メッセージ番号は REXX 変数 DSQ_MESSAGE_ID に、またメッセージ・テキストは REXX 変数 DSQ_MESSAGE_TEXT に入っています。コマンド・インターフェースから出されるコマンドの場合には、メッセージ番号は ISPF 変数 DSQCIMNO に入れられます。メッセージ・テキストは ISPF 変数 DSQCIMSG に入れられます。初期化とインターフェースのメッセージは、DSQInnnn の形式であり、QMF メッセージ・ハンドラーでは処理されません。したがって、それらのメッセージに対してヘルプは使用できません。

REXX、ISPF、およびコマンド・インターフェースは CICS ではサポートされません。

- 割り込みメッセージ

ユーザーまたはシステムが QMF 処理に割り込むと、QMF はメッセージを発行します。割り込みメッセージの結果として QMF が終了することもあります。割り込みメッセージは、DSQ505nn の形式であり、QMF メッセージ・ハンドラーによって処理されません。したがって、それらのメッセージに対してヘルプは使用できません。

- 標準 QMF メッセージ

標準メッセージは、QMF を開始した後、QMF メッセージ・ハンドラーによって生成されます。

QMF メッセージ内の変数に使用される規則

多くのメッセージ・ヘルプ・パネルでは、変数が使用されます。この資料では、変数は $&Xn$ という形式で示しています。ここで X は文字であり、 n は数字です。一部のメッセージ・ヘルプ・パネルは、SQL ステートメントに関係するもので、 $&DSQSQLST$ という名前の変数を使用して SQLSTATE データを返します。変数はすべて、エラー・メッセージを受け取ったときにヘルプ・キーを押すと解決されます。

呼び出し可能インターフェース使用時の QMF メッセージの取得

呼び出し可能インターフェースを使用して QMF を開始する場合、インターフェース連絡域 (DSQCOMM) からメッセージ番号とメッセージ・テキストを取り出すことができます。

関連概念:

5 ページの『第 2 章 初期化とインターフェースのメッセージ』
REXX、コマンド・インターフェース、および ISPF は CICS ではサポートされま
せん。 コマンド・インターフェースのエラーの場合、メッセージ・テキストは
ISPF 変数 DSQCIMSG に入れます。

7 ページの『第 3 章 割り込みメッセージ (TSO)』
QMF は、ユーザーまたはシステムのいずれかが QMF 処理に割り込みを行うとい
う状況に備えて、特殊な一連のメッセージを用意しています。これらのメッセージ
はすべて DSQ505 で始まり、QMF 処理の割り込みに関係しています。 QMF は、
これらのメッセージに対してメッセージ・ハンドラーを使用せず、ヘルプ・テキス
トも提供しません。

第 2 章 初期化とインターフェースのメッセージ

REXX、コマンド・インターフェース、および ISPF は CICS ではサポートされません。コマンド・インターフェースのエラーの場合、メッセージ・テキストは ISPF 変数 DSQCIMSG に入れます。

START コマンドが失敗した場合、または、コマンドまたは呼び出し可能インターフェースからの呼び出しが失敗した場合、QMF は、その失敗の原因の判別に役立つメッセージを出します。それらのメッセージの番号は、DSQInnnn の形式です。ここで、nnnn は 4 桁の数です。

START コマンドおよびコマンドあるいは呼び出し可能インターフェースからの呼び出しをデバッグしやすくするために、次のリストはメッセージ・テキストとそれに該当するメッセージ番号との対応関係を示しています。現行レベルの DSQCOMM を使用している場合、メッセージ・テキストはその DSQCOMM に入っています。REXX アプリケーションの場合、メッセージ番号は変数 DSQ_MESSAGE_ID に、メッセージ・テキストは変数 DSQ_MESSAGE_TEXT に入っています。メッセージ・テキスト内の &V1 は、値またはプログラムの置換パラメーターを示します。

DSQI0001

メッセージ: 正しくないバージョンの QMF インターフェースを使用しています。最新バージョンを使用してプログラムを再リンクしてください。

DSQI0002

メッセージ: QMF 製品を開始するために十分な仮想記憶域がありません。

DSQI0004

メッセージ: サポートされていないシステム環境です。TSO または CICS を使用してください。

DSQI0005

メッセージ: QMF モジュール &V1 をロードできません。

DSQI0006

メッセージ: 呼び出し可能インターフェースへの無効な呼び出しです。

DSQI0014

メッセージ: DSQSCMD で指定された REXX プログラム &V1 を実行できません。

DSQI0015

メッセージ: DSQSCMD プログラム・パラメーターの値の長さが長過ぎます。

DSQI0017

メッセージ: DSQALANG プログラム・パラメーターの値の長さが長過ぎます。

DSQI0018

メッセージ: DSQSCMD プログラム・パラメーターの値がありません。

DSQI0020

メッセージ: DSQALANG プログラム・パラメーターの値がありません。

DSQI0021

メッセージ: DSQALANG プログラム・パラメーターの値 &V1 が正しくありません。

DSQI0022

メッセージ: 呼び出しパラメーターのキーワードが多過ぎます。

DSQI0023 • DSQI0049

DSQI0023

メッセージ: 呼び出しパラメーターの値がないか、無効な区切り記号があります。

DSQI0024

メッセージ: QMF 製品を開始するために十分な仮想記憶域がありません。

DSQI0025

メッセージ: パラメーターの数が正しくありません。 3 または 9 でなければなりません。

DSQI0026

メッセージ: QMF モジュール DSQCBST をロードできません。

DSQI0027

メッセージ: QMF 連絡域 (DSQCOMM) 内の DSQ_INSTANCE_ID が正しくありません。

DSQI0028

メッセージ: コマンドを実行することができません。 START コマンドを出す必要があります。

DSQI0029

メッセージ: QMF 製品を開始するために十分な仮想記憶域がありません。

DSQI0030

メッセージ: コマンド・ストリングの長さのパラメーター・アドレスが正しくありません。

DSQI0031

メッセージ: コマンド・ストリングの長さの値が正しくありません。

DSQI0032

メッセージ: コマンド・ストリングのパラメーター・アドレスが正しくありません。

DSQI0033

メッセージ: QMF REXX インターフェース・モジュール DSQCIX へのサポートされない呼び出しです。

DSQI0035

メッセージ: DSQSCMD で指定された REXX プログラム &V1 が結果を戻しませんでした。

DSQI0036

メッセージ: QMF インターフェース・モジュール DSQQMFE へのサポートされない呼び出しです。

DSQI0037

メッセージ: モジュール DSQCBST への CICS LINK を EXEC することができません。

DSQI0041

メッセージ: モジュール (複数の場合もある) &V1 をロードできません。

DSQI0045

メッセージ: ISPLINK SELECT PGM(DSQCCISW) TCB スイッチの障害です。

DSQI0046

メッセージ: 初期化の際と異なる TCB で QMF が呼び出されました。

DSQI0047

メッセージ: コマンドを実行することができません。 START コマンドを出す必要があります。

DSQI0048

メッセージ: QMF は既にアクティブです。 START コマンドは許可されません。

DSQI0049

メッセージ: 予期しない CICS エラーです。 CICS サービスおよび EIBRESP: &V1。

第 3 章 割り込みメッセージ (TSO)

QMF は、ユーザーまたはシステムのいずれかが QMF 処理に割り込みを行うという状況に備えて、特殊な一連のメッセージを用意しています。これらのメッセージはすべて DSQ505 で始まり、QMF 処理の割り込みに関係しています。QMF は、これらのメッセージに対してメッセージ・ハンドラーを使用せず、ヘルプ・テキストも提供しません。

DSQ50517

メッセージ:

QMF

は異常終了しました

-->異常終了コード =

-->プログラム名 =

-->CSECT 名 =

-->CSECT アドレス =

-->ABEND の CSECT オフセット =

-->プログラム状況ワード =

-->汎用レジスター (0-F):

-->QMF CSECT トレース:

==>ENTER キーを押して、QMF の終了を続行してください。

DSQ50518

メッセージ: QMF の異常終了が進行中です。

DSQ50519

メッセージ: QMF は異常終了の情報を記録できません。 次の情報を記録してください。

-->プログラム名 =

-->CSECT 名 =

-->CSECT アドレス =

-->ABEND の CSECT オフセット =

-->プログラム状況ワード =

-->汎用レジスター (0-F):

-->QMF CSECT トレース:

==>ENTER キーを押して、QMF の終了を続行してください。

DSQ50546

メッセージ: QMF コマンドが中断しました。 画面をクリアして、Enter キーを押してください。

DSQ50547

メッセージ: QMF コマンドが中断しました。 下記の 1 つを行ってください。

==> QMF コマンドを続行するには、「CONT」と入力する。

==> QMF コマンドを取り消すには、「CANCEL」と入力する。

==> QMF デバッグに入るには、「DEBUG」と入力する。

DSQ50548

メッセージ: OK、QMF コマンドを続行します....

DSQ50549

メッセージ: 応答が誤っています。 QMF コマンドを続行します....

DSQ50550

メッセージ: OK、QMF コマンドを取り消しています。

DSQ50551

メッセージ: OK、QMF デバッグに入りました。 QMF CSECT トレースは次のとおりです。

==> QMF コマンドを続行するには、「CONT」と入力する。

==> QMF コマンドを取り消すには、「CANCEL」と入力する。

==> QMF を強制終了するには、「ABEND」と入力する。

DSQ50552 • DSQ50565

==> QMF トレースを設定するには、「TRACEALL」または「TRACENONE」と入力する。

DSQ50552

メッセージ: QMF は強制終了中です。

DSQ50553

メッセージ: QMF トレースを設定できません。使用中のため、後で再試行してください。

DSQ50554

メッセージ: 取り消しできません。エラーを処理中です。

DSQ50560

メッセージ: オペレーターがシャットダウンを要求しました。作業を終えて、セッションを終了してください。

DSQ50561

メッセージ: データベース・マネージャーはもうアクティブではありません。即時にセッションを終了してください。

DSQ50565

メッセージ: セッションはエラーで終了しました。理由コード = &V1。

第 4 章 DSQ10001 - DSQ19633

これらの標準 QMF メッセージは、QMFの実行中に発生するエラーに対するものです。メッセージには、ソリューションを提供したり、エラーを診断したりするのに役立つ情報が含まれています。

DSQ10001 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効な入力パラメーターに '&V1' の値が設定されています。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10010 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効な機能コード「&V1」がモジュールまたはサービスに渡されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認

してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ10011 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10012 記憶スペースがありません。

説明:

コマンドを完了させるのに必要な仮想記憶域またはメモリーが十分にありません。

ユーザーの処置:

現在の報告書を必要としなくなった作業を行っている場合は、RESET DATA コマンドを発行して現在の報告書を削除してください。これにより、十分な記憶域が解放されて、問題を解決できる場合があります。

このエラーにより報告書全体を表示できない場合は、データベースから戻される行または列の数が少なくなるように照会を変更することを検討してください。

報告書を表示できて、合計データの表示に問題がある場合は、合計データが使用している記憶域が大きすぎる可能性があります。例えば、グループ取扱コードを使用して報告書を変更する場合は、照会においてグループ化対象の列が配列されます。グループ化されている列の値が変わるたびに、合計制御が作成されます。

また、TSO ログオン領域サイズを増やしたり、QMF の開始時に DSQSBSTG パラメーターを指定したりしてみてください。『DB2 QMF インストールおよび管理の手引き』を参照してください。

報告書が大きすぎる場合、QMF 管理者は QMF スピル・ファイルを使用して、または現行 QMF スピル・ファイルのサイズを増やして、使用可能な記憶域スペースを調整できます。管理者は、予備ファイルをデータ・セットに割り振るか (CICS または TSO のいずれか)、または QMF が TSO で実行されている場合は 64 ビットの記憶域を使用できます。予備記憶域の実装と報告書のパフォーマンスの改善については、「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ10013 このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明:

指定された名前にはロケーション修飾子 "&V1" があります。使用中のデータベースはロケーション修飾子をサポートしていません。

ユーザーの処置:

ロケーション修飾子 "&V1" を除去してコマンドを再試行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認してください。

DSQ10014 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10015 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

&V1 EXEC の実行中にエラーが検出されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10016 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FREE STORAGE FAILED.

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10017 QMF は、コミュニケーション・データベースを読み取れませんでした。パッケージ &V1 をバインドしてください。

説明:

QMF プログラムがローカル・データベースにインストールされていない可能性があります。あるいは、QMF プログラムはインストールされているが、DB2 コミュニケーション・データベースのインストールが QMF のインストールの後に行われたのかもしれない。

ユーザーの処置:

ローカル・データベースのパッケージに対して &V1 の DBRM をバインドするように QMF 管理者に依頼してください。

DSQ10018 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10019 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

モジュール &V1 をロードできません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10020 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

モジュール &V1 を削除できません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10021 &V1 のロケーション名が検出されなかったため、QMF の初期化が終了しました。

DSQ10026 セッションを開始するためにはプロファイル情報が必要です。

説明:

端末セッションを制御するために必要な特性が QMF に使用可能な状態になっていません。 プロファイルを入力するまでは、処理を進めることはできません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に、QMF システムへの登録を依頼してください。登録が完了した時点で、セッションを再始動してください。

DSQ10028 リセットできません：プロファイルは保管されていません。

説明:

システム制御表 Q.PROFILES の中に、ユーザー ID に該当するプロファイルがなく、デフォルトのシステム・プロファイルもありません。したがって、プロファイルのリセットはできません。一時記憶域の中の現プロファイルによって操作を続けることはできます。

ユーザーの処置:

コマンド DISPLAY PROFILE を発行して、希望の値が含まれるように現行プロファイルを変更してください。その後、コマンド SAVE PROFILE を発行して、使用中

のユーザー ID 用のプロファイルが記録されるようにしてください (そうしないと、再び QMF にサインオンすることができません)。プロファイルを消去したユーザーまたは消去された理由を突き止め、再発を防止してください。

DSQ10030 &V1 として接続するためにはプロファイル情報が必要です。

説明:

ユーザー &V1 として端末セッションを制御するために必要な特性が QMF に使用可能な状態になっていません。&V1 用のプロファイルがある状態になるまでは、処理を続行できません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に依頼して、要求されているユーザーを QMF システムに登録してもらってください。登録が完了すれば、そのユーザーに対しての接続も行うことができます。

DSQ10042 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10043 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ10045 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10046 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10049 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10050 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10052 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10053 **Q.RESOURCE-VIEW** の読み取りエラー。 **SQLCA** は **&V1** です。

説明:

QMF ガバナー・リソース・ビューを読み取るときにエラーが検出されました。 **SQLCA** には、この特定エラーに関する情報が含まれています。 QMF は、リソース・テーブルにアクセスせずに機能し続けます。

ユーザーの処置:

ご使用のシステムで定められた手順に従ってエラーを報告してください。

DSQ10059 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10063 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10064 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10065 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10076 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DI 機能の入力として、無効な機能コード '**&V1**' が見つかりました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が **Q.ERROR_LOG** テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 **Q.ERROR_LOG** テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。 QMF の使用を続けることができます。

DSQ10077 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なデータ・タイプ '**&V1**' が DBM から戻されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が **Q.ERROR_LOG** テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 **Q.ERROR_LOG** テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。 QMF の使用を続けることができます。

DSQ10078 照会に使用されている列が多すぎます。

説明:

選択または挿入しようとしている列の数 **&V1** が、1 つの照会の中で単一の表または複数の表からの列の数として許容されている最大数 **&V2** を超えています。

ユーザーの処置:

使用する列の数をもっと少なくして、照会を書き直してください。 SQL の照会の場合には、"**SELECT * FROM A, B, C**" に類するステートメントを検査してください。このステートメントは、表 A、B、および C からすべての列を選択することを指定しています。

DSQ10079 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10080 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10081 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

'DESCRIBE' に予期しないエラーが起きました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。 QMF の使用を続けることができます。

DSQ10082 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10084 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DESCRIBE ステートメントが 'SELECT' ではありません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認

してください。 QMF の使用を続けることができます。

DSQ10086 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10089 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10091 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10092 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10093 列名 '&V1' が長すぎます。

説明:

現在使用中の、&LS. へのデータベース接続は、以下の長さをサポートします。

- データベース列名は &LC. 文字まで指定できます。

ユーザーの処置:

短い列名を使用して、このデータベース接続の使用を続けるか、または長い名前をサポートするデータベースに接続してください。

DSQ10101 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なデータ・タイプ '&V1' が見つかりました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈について

DSQ10103 • DSQ10124

は、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10103 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10104 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10105 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10106 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10107 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10108 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10109 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10110 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10116 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10117 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10122 **OK、&V1** コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ10123 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

タイプ '&V1' は Q.OBJECT_DIRECTORY の行 '&V2' において無効です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10124 許可 ID 「&V1」が長すぎます。
(Authorization ID '&V1' is too long.)

説明:

使用中のデータベース接続でサポートされている最大長は &V3 です。許可 ID の長さは &V2 です。

ユーザーの処置:

正しい許可 ID を使用するか、この長さの許可 ID をサポートするデータベースに接続してください。

DSQ10125 &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明:

&V1 コマンドは、データベース内のオブジェクトの名前として &V2.&V3 を使用しています。この名前の &V4 オブジェクトはデータベース中にありますが、QMF が処理できないサブタイプ &V5 を持っています。

ユーザーの処置:

&V1 コマンドに指定した名前を、QMF が処理できるオブジェクトの名前に変更し、コマンドを再実行してください。このコマンドをリスト・パネルから入力した場合は、コマンドの形式が正しいことを確認してください。リスト・パネルから QMF コマンドを入力する場合の詳細については、リスト・パネルのヘルプを参照してください。

DSQ10126 &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明: 『DSQ10125』を参照してください。

DSQ10127 &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明: 『DSQ10125』を参照してください。

DSQ10128 &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明:

&V1 コマンドは、データベース内のオブジェクトの名前として &V2.&V3 を使用しています。この名前の &V4 オブジェクトはデータベースに存在しますが、QMF で処理できないバージョン・レベル &V5 を持っています。

ユーザーの処置:

&V1 コマンドに指定した名前を、QMF が処理できるオブジェクトの名前に変更し、コマンドを再実行してください。このコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する場合の詳細については、リスト・パネルのヘルプを参照してください。

DSQ10129 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10130 このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明: 10 ページの『DSQ10013』を参照してください。

DSQ10131 QMF オブジェクト名にロケーションを使用することはできません。

説明:

QMF オブジェクト (照会、プロシージャ、分析、フォーム、またはフォルダー) は、ローカル・データベースに格納する必要があります。QMF オブジェクト名の一部としてロケーションは指定できません。QMF オブジェクト名の形式は以下のとおりです。

authid.objectname

ユーザーの処置:

名前からロケーション修飾子「&V1」を除去し、コマンドを再発行してください。

DSQ10132 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10133 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10134 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

モデル '&V1' は Q.OBJECT_DIRECTORY の行 '&V2' において無効です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを

DSQ10135 • DSQ10155

報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ10135 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 15 ページの『DSQ10134』を参照してください。

DSQ10136 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 15 ページの『DSQ10134』を参照してください。

DSQ10137 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 15 ページの『DSQ10134』を参照してください。

DSQ10138 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 15 ページの『DSQ10134』を参照してください。

DSQ10139 許可 ID 「&V1」が長すぎます。
(Authorization ID '&V1' is too long.)

説明: 14 ページの『DSQ10124』を参照してください。

DSQ10140 オブジェクト名 '&V1' が長すぎます。

説明:

使用中のデータベース接続でサポートされている最大長は &V3 です。オブジェクト名の長さは &V2 です。

ユーザーの処置:

正しいオブジェクト名を使用するか、この長さのオブジェクト名をサポートするデータベースに接続してください。

DSQ10141 オブジェクト名 '&V1' が長すぎます。

説明: 『DSQ10140』を参照してください。

DSQ10143 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10144 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10149 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10101』を参照してください。

DSQ10150 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10151 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10152 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10153 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10154 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10155 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10156 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10157 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10158 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10162 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10163 視点 &V1 がありません。

説明:

リスト・コマンドで、QMF が &V2 大域変数によって指定された視点からデータを選択するような情報を要求しました。この視点 &V1 がデータベース内に見つかりませんでした。

データベースが 3 部構成の名前をサポートしている場合は、ロケーション修飾子が視点自体の名前に追加されており、&V2 大域変数で指定された名前に追加されていない場合に、この問題が発生することがあります。

ビュー名が Q.DSQEC_QMFOBJSJL の場合、このビューは誤ってデータベースから削除された可能性があります。

ユーザーの処置:

&V2 大域変数に指定された視点名のスペルが正しいことを確認してください。スペルが正しい場合は、その視点がデータベースに存在していることを確認してください。

視点が存在し、ご使用のデータベースで 3 部構成の名前がサポートされている場合、以下のロケーション修飾子が &V2 大域変数に指定された名前が存在することを確認してください。

&V3

メッセージで参照されている視点名が Q.DSQEC_QMFOBJSJL の場合、QMF 管理者は、イン

ストール・ジョブ DSQ1BVW を実行することにより、視点を再作成できます。

DSQ10164 視点 &V2 の定義は無効です。

説明:

大域変数 &V1 で指定されたビューから QMF に選択を行わせる情報を要求しました。そのビューの定義は無効です。SELECT DISTINCT 文節が含まれていて、QMF で予期された列数よりも多くの列がビューに含まれていることが原因と考えられます。

リスト・ビューの定義に SELECT DISTINCT 文節が含まれる場合、その定義には、ご使用のオペレーティング・システム用の DB2 QMF インストールおよび管理の手引きにおいてこのビューに対して指定された列の組み合わせが組み込まれていなければなりません。

ユーザーの処置:

&V2 が正しい名前か確認してください。そうでない場合は、大域変数 &V1 を変更して、正しい名前を指定してください。正しい場合には、QMF 管理者に連絡して詳しい情報を調べてください。

DSQ10165 ロケーション修飾子は使用できません。

説明:

指定された名前には、ロケーション修飾子が使用されています。3 つの部分からなるオブジェクト名は、ローカル・ロケーション名が定義されるまでは使用できません。

ユーザーの処置:

ロケーション修飾子を除去し、コマンドを再試行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認するか、ローカル・ロケーション名を定義してもらってください。

DSQ10166 &V2 は無効なロケーション名です。

説明:

次のいずれかの状況が起きています。

1. 名前 &V2. のロケーションがない。
2. &V2 に英字の特殊文字 (#, @, \$) がある。英字の特殊文字は、ロケーション名には使用できません。

ユーザーの処置:

ロケーション名を訂正し、再試行してください。

DSQ10167 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

LIST コマンドの実行エラー。 SQLCA は &V1 です。コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ10168 列 &V4 が視点 &V2 の中にありません。

説明:

大域変数 &V1 で指定されたビューから QMF に選択を行わせる情報を要求しました。指定された視点 &V2 は、必要な列 &V4 を使用して定義されていなければなりません。

データベースが 3 部分名をサポートし、ロケーション修飾子が視点の名前に追加された場合には、使用されたロケーション修飾子は次のとおりです: &V3

ユーザーの処置:

要求されたように &V4 列を定義して、視点 &V2 を再作成してください。

DSQ10169 オブジェクト情報用に選択した 2 つ以上の行が長過ぎます。

説明:

QMF がオブジェクト情報 (名前のリストなど) をどこから取得するのかを制御する大域変数に指定された 1 つ以上のビューから QMF がビューを選択することになるような情報が要求されました。QMF はそのビューを使用して要求を処理できませんでした。要求を処理するために使用された視点 (または複数の視点) は、以下のとおりです。

&V1
&V2
&V3

視点名を取得するために使用された大域変数 (または複数の大域変数) は、以下のとおりです。

&V4
&V5
&V6

この問題の原因として最も考えられることは、ビューが SELECT DISTINCT として定義されていること、および QMF が検索しようとしている行の 1 つ以上に、データベースには長すぎて SELECT DISTINCT の処理においてソートできないデータが含まれていることです。

ユーザーの処置:

大域変数に含まれるビュー名が正しいことを確認してください。正しい場合は、詳細について QMF 管理者にお問い合わせください。オブジェクト詳細を検索するための代替ビューを作成する方法については、ご使用のオペレーティング・システム向けの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ10170 視点の列が正しく定義されていません。

説明:

QMF がオブジェクト情報 (名前のリストなど) をどこから取得するのかを制御する大域変数に指定された 1 つ以上のビューから QMF がビューを選択することになるような情報が要求されました。そのビューのいずれかに含まれる OWNER 列、TNAME 列、または CNAME 列は列関数または式から取得されました。これらの列は実際の表列から取得されなければなりません。

要求を処理するために使用された視点 (または複数の視点) は、以下のとおりです。

&V1
&V2
&V3

視点名を取得するために使用された大域変数 (または複数の大域変数) は、以下のとおりです。

&V4
&V5
&V6

ご使用のデータベースが 3 つの部分の名前をサポートし、ロケーション修飾子が視点の名前に追加された場合に使用されたロケーション修飾子は以下のとおりです。

&V7

ユーザーの処置:

大域変数に含まれるビュー名が正しいことを確認してください。正しい場合は、詳細について QMF 管理者にお問い合わせください。オブジェクト詳細を検索するための代替ビューを作成する方法については、ご使用のオペレーティング・システム向けの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ10171 視点 &V1 を使用する権限がありません。

説明:

大域変数 &V2 によって指定された視点から QMF が選択を行う結果になるような情報を要求しました。このビューを使用して、要求した情報を取得するには、このビューから選択を行う特権があらかじめ必要となります。データベースが 3 部分名をサポートし、ロケーション修飾子が視点の名前に追加された場合には、使用されたロケーション修飾子は次のとおりです: &V3

ユーザーの処置:

&V1 が正しい名前か確認してください。正しくない場合には、大域変数 &V2 を変更して、正しい名前を指定してください。正しい場合には、QMF 管理者に連絡して詳しい情報を調べてください。

DSQ10172 &V2 は無効なロケーション名です。

説明: 17 ページの『DSQ10166』を参照してください。

DSQ10182 &V2 の列 &V3 には NULL が許可され

ます。

説明:

大域変数 &V1 で指定されたビューから QMF に選択を行わせる情報を要求しました。その視点 &V2 は、定義が無効である &V3 という列を含みます。要求した情報を得るために視点を使用する前に、列を NOT NULL として定義しなければなりません。

データベースが 3 部分名をサポートし、ロケーション修飾子が視点の名前に追加された場合には、使用されたロケーション修飾子は次のとおりです: &V4

ユーザーの処置:

&V3 列を NOT NULL として定義する、視点 &V2 を再作成してください。

DSQ10183 視点 &V2 の列 &V3 が長すぎます。

説明:

大域変数 &V1 で指定されたビューから QMF に選択を行わせる情報を要求しました。その視点 &V2 は、長すぎる &V3 という列を含みます。その列は &V4 の長さで定義されていますが、許可される最大の長さは &V5 です。要求した情報を得るために視点を使用する前に、列を &V5 またはそれ以下で定義しなければなりません。

データベースが 3 部分名をサポートし、視点名にロケーション修飾子が追加された場合、使用されるロケーシ

ョン修飾子は次のとおりです: &V6

ユーザーの処置:

&V3 列を &V5 またはそれ以下の長さとして定義する、視点 &V2 を再作成してください。

DSQ10184 &V2 の &V3 は、文字データではありません。

説明:

大域変数 &V1 で指定されたビューから QMF に選択を行わせる情報を要求しました。その視点 &V2 は、定義が無効である &V3 という列を含みます。このビューを使用して、要求した情報を取得するには、その列を文字データとして定義しておく必要があります。

データベースが 3 部分名をサポートし、ロケーション修飾子が視点の名前に追加された場合には、使用されたロケーション修飾子は次のとおりです: &V4

ユーザーの処置:

&V3 列を文字データとして定義する、視点 &V2 を再作成してください。

DSQ10185 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10186 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10187 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10189 大域変数 &V1 の ID の一部が欠落しています。

説明:

大域変数 &V1 で指定されたビューから QMF に選択を行わせる情報を要求しました。大域変数で指定された ID &V2 は、必要な部分が欠落しています。例えば、次のようになります。

SMITH.

これは、"." の後に名前が予期されるので不完全です。この ID を完全な名前にしたい場合には、二重引用符で囲まなければなりません。(例、"SMITH.")

ユーザーの処置:

大域変数 &V1 の値を変更し、完全な ID を指定してください。

DSQ10190 大域変数 &V1 の ID は「.」で始めることはできません。

説明:

大域変数 &V1 で指定されたビューから QMF に選択を行わせる情報を要求しました。大域変数で指定した ID &V2 は、「.」で始まっています。「.」(ピリオド)文字は引用符なしの名前の先頭文字として使用できません。

ユーザーの処置:

先頭文字として使用されている「.」を大域変数 &V1 の ID から削除するか、名前全体を二重引用符で囲んでください (例えば ".ABC")。

DSQ10191 大域変数 &V1 の名前に、対になっていない二重引用符があります。

説明:

大域変数 &V1 で指定されたビューから QMF に選択を行わせる情報を要求しました。大域変数で指定された ID &V2 には、名前の先頭または末尾に二重引用符がありますが、それと対になる二重引用符がありません。例えば次のようにします。

*MY*TABLE

これは、末尾の二重引用符がないので無効です。

ユーザーの処置:

大域変数 &V1 で指定される名前に、対になる二重引用符を追加してください。

DSQ10192 大域変数 &V1 での名前に組み込み二重引用符があります。

説明:

大域変数 &V1 で指定されたビューから QMF に選択を行わせる情報を要求しました。大域変数で指定した ID &V2 は組み込み二重引用符を含んでいます。ID は組み込み二重引用符を持つことはできません。例えば、ABC"XYZ は無効です。二重引用符は名前を囲むために使用できます。例えば、表名 "MY*TABLE*" は有効です。

ユーザーの処置:

大域変数 &V1 で指定される名前から、組み込み二重引用符を取り除いてください。

DSQ10193 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

パッケージ &V2 からの予期されない結果の &V1 です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ10195 大域変数 &V1 にある名前に位置名を付けてはなりません。

説明:

大域変数 &V1 で指定されたビューから QMF に選択を行わせる情報を要求しました。その大域変数内に指定された ID &V2 には、ロケーション修飾子 &V3 が付いています。QMF は、ビューを使用する際、必要に応じてロケーション修飾子を自動的に追加するので、ビュー名の一部としてロケーション修飾子を指定してはなりません。

ユーザーの処置:

ロケーション修飾子を含まないように、大域変数 &V1 の値を変更してください。

DSQ10196 列名 '&V1' が長すぎます。

説明: 13 ページの『DSQ10093』を参照してください。

DSQ10197 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10077』を参照してください。

DSQ10201 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10202 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

&V2 データベース内で &V1 モジュールに対する DBRM が見つかりませんでした。 戻された SQLCODE は -805 です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

SQL code: -805

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10203 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10204 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10207 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10208 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10209 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10210 無効な数の PRINT REPORT コマンドが検出されました。

説明:

このエラーは、CALL ステートメントを使用して QMF for TSO を DB2 for z/OS のストアード・プロシージャーとして開始すると発生します。 QMF は CALL ステートメントの最初のパラメーターに指定されたプロシージャーを実行しようとしたが、プロシージャーは無効な数の結果セット (&V1) を生成することになるため不完全なまま終了しました。QMF が DB2 (z/OS 版) のストアード・プロシージャーとして開始される場合に許可される結果セットの最大数は &V2 です。結果セットは、以下のコマンドが発行されるたびに生成されません。

```
PRINT REPORT (PRINTER=' ')
```

このコマンドの PRINTER パラメーターの値は、CALL ステートメントを発行した QMF ユーザーのプロファイルから継承することが可能です。この場合は、パラメーターが指定されていない PRINT REPORT コマンドも結果セットを生成します。

ユーザーの処置:

QMF for TSO を開始した CALL ステートメントの最初のパラメーターとして渡された QMF プロシージャー、およびこの手順によって呼び出されたすべてのプロシージャーやアプリケーションを調べてください。このプロシージャーが完了するときに、結果セットを生成する PRINT REPORT コマンドが &V2 しか発行されていないことを確認してください。コマンドが &V2 しか見つからなかった場合は、内部 QMF エラーによりこの問題が発生した可能性があります。この場合は、QMF 管理者に問題を報告してください。管理者は、IBM サポートに連絡して支援を依頼してください。

DSQ10211 無効な数の PRINT REPORT コマンドが検出されました。

説明: 『DSQ10210』を参照してください。

DSQ10212 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10213 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10214 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10215 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10216 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10217 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10218 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10219 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10220 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10228 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10239 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10242 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10243 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

'&V1'.'&V2' が Q.OBJECT_DATA に見つかりません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。 QMF の使用を続けることができます。

DSQ10245 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10246 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

RPT: &V1 からの予期されていない戻りコードです。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび

QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ10247 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ10248 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ10249 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10250 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10254 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10272 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10273 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10274 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DSQICONN に渡されるパラメーターが不足しているための内部エラー。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ10275 始動ロケーション名の長さが &V2 の文字数を超えました。

説明:

QMF 始動中にロケーション名 &V1 を指定しました。しかし、インストール先システムのロケーション名は &V2 の文字数を超えることはできません。

有効な始動ロケーション名を与えるまで、QMF は開始できません。

ユーザーの処置:

ロケーション名、&V1 が正しいかどうか検査してください。QMF でリモート作業単位を処理したくない場合、始動ロケーション名を省略し、QMF を再始動してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ10276 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10277 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10278 ロケーション名は現行のデータベースではサポートされていません。

説明:

QMF を開始したときに、ロケーション名を指定しました。しかし、ロケーション名パラメーターは、データベースでサポートされていないリモート・ロケーションに接続したために使用することができません。

DSQ10279 • DSQ10285

QMF は、このロケーション名を使用して開始することはできません。

ユーザーの処置:

ロケーション・パラメーターの中のロケーション名の値を除去し、QMF を再始動してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ10279 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

データベースを使用できません; RC = &V1。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10280 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ10279』を参照してください。

DSQ10281 アクティブなユーザーが多すぎるため、ローカル DB2 を使用することができません。

説明:

ローカル DB2 サブシステムは、現時点ではこれ以上のユーザーを扱えません。

ユーザーの処置:

1 人以上のアクティブ・ユーザーがログオフするまで待ってから QMF を使用してください。

DSQ10282 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

データベースを使用できません; ATTACH サブタスク・エラー。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10283 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ10279』を参照してください。

DSQ10284 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ10279』を参照してください。

DSQ10285 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。 SQLCA は &V1 です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10286 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 24 ページの『DSQ10279』を参照してください。

DSQ10287 データベース・マネージャー (&V1) は QMF の前に開始する必要があります。

説明:

QMF は、データベース・マネージャー・プログラムと併用されてはじめて機能を果たします。データベース・マネージャー・プログラム (&V1) は、現在実行していません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者にこの問題を報告してください。管理者はデータベース・マネージャー・プログラムを開始できます。データベース・マネージャーの開始後に、QMF を再始動してください。

DSQ10288 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

データベースを使用できません; サブシステム ID=&V1、理由=&V2。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10289 データベースの PLANID &V1 の使用権限がありません。

説明:

QMF を起動するために使用したプロシージャーは、DB2 PLANID "&V1" を参照しました。あなたには、この PLANID の使用権がありません。

ユーザーの処置:

呼び出しプロシージャーを検査してください。PLANID のスペルを間違えて指定したものと思われる。

DSQ10290 アクティブなユーザーが多すぎるため、ローカル DB2 を使用することができません。

説明: 24 ページの『DSQ10281』を参照してください。

DSQ10291 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

データベースを使用できません; PLANID=&V1、理由=&V2。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10294 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

データベースの使用を取り止めることができません; RC=&V1。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認

認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10297 &V1 は有効な DB2 for z/OS サブシステム ID ではありません。

説明:

QMF を呼び出したプロシージャが DB2 サブシステム ID 「&V1」を参照しています。このサブシステム ID を持つデータベースは現行のオペレーティング・システムに見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

QMF 管理者にこの問題を報告してください。管理者は、呼び出しプロシージャを確認して、サブシステム ID のスペルが正しいことを確認できます。正しい場合、QMF 管理者はこの ID に関連付けられたデータベースのインストールを再確認して、インストールが正しく完了していることを確認できます。さらに詳しいトラブルシューティング情報については、以下の場所で DB2 (z/OS 版) の情報を参照してください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

DSQ10298 データベースの PLANID &V1 が無効です。

説明:

QMF を起動するために使用したプロシージャは、DB2 PLANID "&V1" を参照しました。PLANID "&V1" は無効です。

ユーザーの処置:

呼び出しプロシージャを検査してください。PLANID のスペルを間違えて指定したものと思われる。

DSQ10299 警告、呼び出し接続機能のリリースが DB2 のリリースに適合しません。

DSQ10304 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10307 列 '&V2' のデータ・タイプ &V1 は &V3 または &V4 でなければなりません。

説明:

QMF コントロール表にある列名 '&V2' のデータ・タイプ

は &V1 ですが、&V3 または &V4 でなければなりません。

ユーザーの処置:

この状態は、QMF のインストール、または、ロング・ネームをサポートする新しいバージョンの QMF コントロール表への移行の結果として起こることがあります。QMF インストールまたは移行を検証してください。問題を訂正し、再試行してください。

QMF コントロール表の名前は以下のとおりです。

- Q.OBJECT_DIRECTORY
- Q.OBJECT_REMARKS
- Q.OBJECT_DATA

詳しくはシステム管理者に連絡してください。

DSQ10308 列 '&V2' のデータ・タイプ &V1 は &V3 でなければなりません。

説明:

QMF コントロール表にある列名 '&V2' のデータ・タイプは &V1 ですが、&V3 でなければなりません。

ユーザーの処置:

この状態は、QMF のインストール、または、ロング・ネームをサポートする新しいバージョンの QMF コントロール表への移行の結果として起こることがあります。QMF インストールまたは移行を検証してください。問題を訂正し、再試行してください。

QMF コントロール表の名前は以下のとおりです。

- Q.OBJECT_DIRECTORY
- Q.OBJECT_REMARKS
- Q.OBJECT_DATA

詳しくはシステム管理者に連絡してください。

DSQ10309 列 '&V2' のデータ・タイプ &V1 は &V3 でなければなりません。

説明: 『DSQ10308』を参照してください。

DSQ10310 警告メッセージが生成されました。

説明:

QMF の開始時に検出された状態について QMF から警告メッセージが生成されました。これらのメッセージは QMF トレース・データに含まれています。

ユーザーの処置:

QMF トレース・データ内の警告メッセージを調べてください。調べ方が分からない場合、またはメッセージの

対象に詳しくない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ10311 警告メッセージが生成されました。

説明:

CONNECT コマンドの実行中に検出された条件に関して、QMF が警告メッセージを生成しました。これらのメッセージは QMF トレース・データに含まれています。このメッセージは、PF キーの定義、インストール先定義コマンドの定義、またはリソース表の処理、またはリポジトリ管理プログラムが使用可能でないことに関連するものです。リポジトリ管理プログラムが使用可能でない場合、モデルはこのセッションに対して ER から REL に変更されました。

ユーザーの処置:

QMF トレース・データ内の警告メッセージを調べてください。それを行う方法が分からない場合、またはメッセージで指摘された QMF 事項をよく知らない場合には、QMF 管理者に相談してください。

DSQ10315 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10316 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10084』を参照してください。

DSQ10317 表の列の数が多すぎます。

説明:

表には、許容される最大列数 &V2 を超える &V1 個の列があります。

ユーザーの処置:

最大列数よりも少ない数の列を選択する照会を作成し、実行してください。

DSQ10319 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10320 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10325 **Q.DSQ_RESERVED** から選択する許可が与えられていません。

説明:

QMF のインストール中に、QMF 表 Q.DSQ_RESERVED は、public の権限が与えられませんでした。この表には PUBLIC の権限が必要です。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ10328 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

SYSTEM.SYSOPTIONS から選択する許可が与えられていません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ10329 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

SQLOPTION &V1 が SYSTEM.SYSOPTIONS に定義されていません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ10330 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

SYSTEM.SYSOPTIONS の SQLOPTION &V1 の値 &V2 が誤っています。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ10331 DB2 リソース制限により、QMF の実行が停止されました。

説明:

QMF の初期化中に、DB2 がリソース制限の超過を示しました。QMF は、動的 SQL の実行にもっと長い時間を必要としました。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に、DB2 リソース制限を変更するよう依頼してください。

DSQ10332 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10333 データベース製品 (&V1) は、QMF によってサポートされていません。

説明:

QMF は、ご使用のデータベース・タイプ (&V2) またはご使用のデータベースのリリース・レベル (&V3) のいずれかをサポートしていません。

このリリースの QMF は、以下のレベル (またはそれ以降) のデータベース製品をサポートしています。

- DSN - DB2 for z/OS。 最低リリース・レベルは V9.1 NFM です。ただし、QMF のこのリリースは、DB2 10 CM8、CM8*、ENFM8、または ENFM8* をサポートしていません。
- SQL - DB2 for Linux、UNIX、および Windows。 最低リリース・レベルは 9.5.0 です。
- QSQ - DB2 for iSeries。 最低リリース・レベルは 5.4.0 です。
- ARI - DB2 for VM または VSE。 最低リリース・レベルは 7.3.0 です。

ユーザーの処置:

接続に指定されたロケーション名を確認してください。必要な修正を行ってから、接続を再試行してください。

QMF 管理者に支援を依頼して、インストールされているデータベース製品レベルを判別してください。

DSQ10334 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10015』を参照してください。

DSQ10335 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10336 データベース製品 (&V1) は、QMF によってサポートされていません。

説明: 『DSQ10333』を参照してください。

DSQ10337 接続には &V3 以下の長さの許可 ID が必要です。

説明:

接続に使用しようとしている許可 ID '&V1' は長さが &V2 ですが、これは QMF でサポートされる最大長 &V3 を超えています。

ユーザーの処置:

QMF コントロール表と一致するように許可 ID を変更するか、または、許可 ID と一致する同じレベルの QMF コントロール表を持つ別のデータベースに接続してください。

DSQ10338 データベース製品 (&V1) は、QMF によってサポートされていません。

説明: 28 ページの『DSQ10333』を参照してください。

DSQ10339 データベース製品 (&V1) は、QMF によってサポートされていません。

説明: 28 ページの『DSQ10333』を参照してください。

DSQ10340 データベース製品 (&V1) は、QMF によってサポートされていません。

説明: 28 ページの『DSQ10333』を参照してください。

DSQ10341 サポートされないデータベース・タイプまたはリリース・レベルです。

説明:

QMF を開始しようとしている対象データベースは &V2 データベースであり、リリース・レベル &V3 です。

QMF バージョン 11 は、リリース・レベル 9.1 NFM 以上 (ただし DB2 10 CM8、CM8*、ENFM8、および ENFM8 を除く) の DB2 for z/OS データベース上でのみ開始できます。DB2 (z/OS 版) データベースのデフォルト名は「DSN」で始まります。

ユーザーの処置:

データベースの名前が「DSN」で始まらない場合は、データベースが DB2 (z/OS 版) データベースであることを確認してください。DB2 (z/OS 版) である場合は、以下を確認してください。

- QMF の開始時に DSQSSUBS パラメーターにデータベース名を正しく指定した。
- DSQSPLAN パラメーターが指定している実行時アプリケーション・プランは、CURRENTSERVER パラメーターに結合されていない。CURRENTSERVER パラメーターは、QMF バインド・ジョブでサポートされていません。このパラメーターが使用されている場合、初期化が失敗します。

QMF は DB2 (z/OS 版) サブシステム内で開始して、DB2 (z/OS 版) 以外のサーバーにすぐに接続できま

す。この方法で QMF を開始するには、DSQSSUBS パラメーターに DB2 (z/OS 版) データベースの名前を指定し、DSQSDBNM パラメーターを使用して接続先の DB2 (z/OS 版) でないサーバーの名前を指定します。DSQSDBNM パラメーターは、QMF for TSO を DB2 (z/OS 版) のストアード・プロシージャーとして開始する場合は、無効です。

QMF プログラム・パラメーターについて詳しくは、「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ10344 GDDM コード・ページ (&V1) は、このデータベース (&V5) で使用されている CCSID に一致していません。

説明:

コード化文字セット識別子 (CCSID) は、処理と交換のさまざまな段階を通して、文字の意味とレンダリングを割り当て、保持するために必要なすべての情報を含みます。この情報は、常に少なくとも 1 つのコード・ページを含んでいます。CCSID は、さまざまなコード・ポイントが処理される方法を管理する関連付けられたエンコード・スキームも含んでいます。

QMF は、GDDM のアプリケーション・コード・ページ (APPCPG) を以下の異なる 2 つの CCSID 値と比較します。

- CURRENT APPLICATION ENCODING SCHEME 特殊レジスター
データベースのアプリケーション・コード化スキームは、DB2 (z/OS 版) のこの特殊レジスターにより指定されます。SBCS 言語の場合は、GDDM のアプリケーション・コード・ページが、この特殊レジスターの値と一致している必要があります。
QMF は、このレジスターの CCSID 値が &V2 であると検出しました。
- SYSIBM.SYSTEM_EBCDIC_CCSID セッション変数
このセッション変数は、このシステムの EBCDIC データに使用される CCSID を指定します。DBCS 言語の場合は、GDDM のアプリケーション・コード・ページがこのセッション変数の値と一致している必要があります。
QMF は、このセッション変数の CCSID 値が &V3 であると検出しました。

QMF は、GDDM のアプリケーション・コード・ページが CURRENT APPLICATION ENCODING SCHEME 特殊レジスターの値、または SYSIBM.SYSTEM_EBCDIC_CCSID セッション変数の値のどちらにも一致しないと、このメッセージを発行しま

す。QMF は、QMF パッケージとプランのバインドに使用された CCSID 形式と同じ形式で EBCDIC データを受信することを予期しています。この警告は、DB2 から GDDM に送信される表示用データと、実際に表示される内容との間に相違がある可能性を示しています。この問題が発生した場合、入力 (UPDATE および INSERT ステートメント) および出力 (SELECT ステートメント) の両方でデータ破壊が起きる可能性があります。通常、出力におけるデータ破壊は永続的ではありません。画面上でのみ発生し、データベース内の実際のデータには問題がない可能性があります。この問題は、2 つの CCSID で同じコード・ポイントにマップされない文字に影響します。

CURRENT APPLICATION ENCODING SCHEME 特殊レジスタまたは SYSIBM.SYSTEM_EBCDIC_CCSDID セッション変数の詳細については、以下で DB2 (z/OS 版) の情報を参照してください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

使用中の QMF リリースは &V4 です。

ユーザーの処置:

- SBCS 言語を使用している場合は、GDDM の APPCPG パラメーターに CURRENT APPLICATION ENCODING SCHEME 特殊レジスタの値を設定します。この値は現在 &V2 です。後でこのレジスタの値を決定する必要がある場合は、以下の照会を使用できます。

```
SELECT CURRENT APPLICATION ENCODING SCHEME
FROM SYSIBM.SYSDUMMY1
```

- DBCS 言語を使用している場合は、GDDM の APPCPG パラメーターに SYSIBM.SYSTEM_EBCDIC_CCSDID セッション変数の値を設定します。この値は現在 &V3 です。後でこの値にアクセスする必要がある場合は、アクセス方法について DB2 の情報を参照してください。

APPCPG パラメーターの設定方法については、GDDM の情報を参照してください。

APPCPG パラメーターの値を変更するとともに、使用している端末エミュレーターのコード・ページが、上で説明したように、使用されている他の CCSID と整合していることも確認してください。

DSQ10346 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ10347 表、視点、および別名だけがリストされています。

説明:

リスト要求で LOCATION オプションを使用しました。QMF オブジェクト (照会、プロシージャー、フォーム、分析、およびフォルダー) の参照にロケーション名は使用できません。したがって、QMF オブジェクトはリストには含まれません。リストにはデータベース内のすべての表、視点、別名などが含まれます。

ユーザーの処置:

QMF オブジェクトのリストを表示したい場合、リストを要求するときにロケーション名を使用しないでください。

DSQ10348 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10349 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10350 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10351 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10352 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ10353 このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明: 10 ページの『DSQ10013』を参照してください。

DSQ10354 ロケーションが指定されている場合、
QMF オブジェクトをリストすることはできません。

説明:

QMF オブジェクト (照会、プロシージャー、フォーム、分析、またはフォルダー) のリストを要求するときにロケーション名が使用されました。QMF オブジェクトの参照にロケーション名は使用できません。現行データベースに保管された QMF オブジェクトのみをリストできます。

ユーザーの処置:

現行データベースに保管されている QMF オブジェクトのリストを表示したい場合、リストを要求するときにロケーション名を指定しないでください。

DSQ10361 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ10362 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ10364 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ10381 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

SQL ステートメントを格納するにはバッファが小さすぎます。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

ださい。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ10382 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ10381』を参照してください。

DSQ10383 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ10381』を参照してください。

DSQ10384 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ10381』を参照してください。

DSQ10385 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ10381』を参照してください。

DSQ10386 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ10381』を参照してください。

DSQ10392 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10400 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ10401 特殊タイプ (UDT) データ・タイプを検索できません。

説明:

表エディター CHANGE モードでの値の検索に、1 つ以上の特殊タイプ・データ・タイプ (ユーザー定義タイプ) が含まれています。強い型定義の UDT が DB2 によって強制されるため、それらを表エディターにおいて検索することはできません。

ユーザーの処置:

UDT が位置する行を指定できる場合は、CHANGE または ADD パネルで UDT を更新することができます。

DSQ10403 • DSQ10414

す。UDT 値が入っているのと同じ行にある他の非 UDT 列の値が分かっている場合は、その列を検索し、UDT 値はブランクのままにしてください。その行が表示されたら、UDT 値を変更できます。UDT データを見つけるために使用できるような他の値が分からない場合、QMF 照会パネルで SQL ステートメントを使用して、特殊タイプ (UDT) として定義されているデータの検索と更新を行ってください。UDT 名が SQL に組み込まれていなければならないことに注意してください。例えば、特殊タイプ XYZ が作成され、ある表の COLUMN1 にその UDT のデータが入れられているとすると、値 'FRED' を含む行を選択したい場合、WHERE COLUMN1 = 'FRED' は無効です。

以下のように、UDT を指定する必要があります。
WHERE COLUMN1 = XYZ'FRED'

DSQ10403 列 '&V2' のデータ・タイプ &V1 は &V3
または &V4 でなければなりません。

説明: 26 ページの『DSQ10307』を参照してください。

DSQ10404 列 '&V2' のデータ・タイプ &V1 は &V3
でなければなりません。

説明: 26 ページの『DSQ10308』を参照してください。

DSQ10405 QMF オブジェクト・コントロール表構造
が予期されたものと違います。

説明:

QMF オブジェクト・コントロール表は現在、列名「OWNER」について以下のようになっています。

- データ・タイプは &V1 です。
- 列の長さは &V2 です。

列名'NAME'の場合:

- データ・タイプは &V5 です。
- 列の長さは &V6 です。

QMF オブジェクト・コントロール表構造は、列名「OWNER」について以下のようになっていません。

- データ・タイプは &V3 でなければなりません。
- 列の長さは &V4 でなければなりません。

列名'NAME'の場合:

- データ・タイプは &V7 でなければなりません。
- 列の長さは &V8 でなければなりません。

ユーザーの処置:

この状態は、QMF のインストール、または、ロング・ネームをサポートする新しいバージョンの QMF コントロール表への移行の結果として起こることがあります。QMF インストールまたは移行を検証してください。問題を訂正し、再試行してください。

QMF オブジェクト・コントロール表の名前は以下のとおりです。

- Q.OBJECT_DIRECTORY
- Q.OBJECT_REMARKS
- Q.OBJECT_DATA

詳しくはシステム管理者に連絡してください。

DSQ10406 QMF オブジェクト・コントロール表構造
が予期されたものと違います。

説明: 『DSQ10405』を参照してください。

DSQ10407 警告メッセージが生成されました。

説明: 26 ページの『DSQ10310』を参照してください。

DSQ10408 警告メッセージが生成されました。

説明: 27 ページの『DSQ10311』を参照してください。

DSQ10411 列 '&V2' のデータ・タイプ &V1 は &V3
または &V4 でなければなりません。

説明: 26 ページの『DSQ10307』を参照してください。

DSQ10412 列 '&V2' のデータ・タイプ &V1 は &V3
でなければなりません。

説明: 26 ページの『DSQ10308』を参照してください。

DSQ10413 列 '&V2' のデータ・タイプ &V1 は &V3
でなければなりません。

説明: 26 ページの『DSQ10308』を参照してください。

DSQ10414 警告メッセージが生成されました。

説明: 26 ページの『DSQ10310』を参照してください。

DSQ10415 警告メッセージが生成されました。

説明: 27 ページの『DSQ10311』を参照してください。

DSQ10420 ロケーション &V5 でリソースを使用できません。

説明:

位置&V5 でのリモート要求の処理時に、システム・リソースを使用できませんでした。引き続き現在のロケーションに接続されています。

- SQLCODE = &V9
- 理由コード = &V1
- リソース・タイプ = &V2
- リソース名 = &V3
- 製品 ID = &V4
- ロケーション名 = &V5

このエラーの詳細については、使用しているデータベースのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

ユーザーの処置:

QMF は引き続き使用できます。問題が解決しない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -30040

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10421 &V5 への接続は、リソースを利用できないため失われました。

説明:

ロケーション &V5 への接続は失われました。リモート要求がロケーション &V5 で処理されたとき、特定のシステム・リソースが利用できなかったのが原因です。

- SQLCODE = &V9
- 理由コード = &V1
- リソース・タイプ = &V2
- リソース名 = &V3
- 製品 ID = &V4
- ロケーション名 = &V5

このエラーの詳細については、使用しているデータベースのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

QMF によって、現行ロケーションへの再接続が試行されました。この試行が成功すれば、引き続き QMF を使

用できます。失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルからプロンプトが出され、他のロケーションに接続するか、または QMF を終了するよう指示されます。

ユーザーの処置:

QMF によって正常に現行ロケーションに再接続された場合、引き続き QMF を使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示された場合、他のロケーションに接続することを選択できます。ロケーションに接続できない場合、QMF を終了し、QMF 管理者に連絡してください。

問題が解決しない場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQL code: -30041

Database: DB2 for z/OS or DB2 Server for VSE & VM

DSQ10422 指定したロケーションにアクセスすることは許可されていませんでした。

説明:

指定したロケーションにアクセスしようとした試みが失敗したのは、ユーザー ID が十分な権限を持っていないからです。SQLCODE は &V9 です。

このエラーにより、現行ロケーションへの接続が失われました。QMF によって、現行ロケーションへの再接続が試行されました。再接続が失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルからプロンプトが出され、他のロケーションに接続するか、または QMF を終了するよう指示されます。

ユーザーの処置:

QMF によって正常に現行ロケーションに再接続された場合、引き続き QMF を使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示された場合、他のロケーションに接続することを選択できます。ロケーションに接続できない場合、QMF を終了し、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -30060

Database: DB2 for z/OS or DB2 Server for VSE & VM

DSQ10423 指定したロケーションは見つかりませんでした。

説明:

指定したロケーションにアクセスする試みは、そのロケーションが見つからなかったため失敗しました。これは、指定されたロケーションがリモートにあり、ローカル DB2 サブシステムに正しく定義されていないために

DSQ10424 • DSQ10426

起こった可能性があります。SQLCODE は &V9 です。

このエラーにより、現行ロケーションへの接続が失われました。QMF によって、現行ロケーションへの再接続が試行されました。再接続が失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルからプロンプトが出され、他のロケーションに接続するか、または QMF を終了するよう指示されます。

ユーザーの処置:

QMF によって正常に現行ロケーションに再接続された場合、引き続き QMF を使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示された場合、他のロケーションに接続することを選択できます。ロケーションに接続できない場合、QMF を終了し、QMF 管理者に連絡してください。

指定したロケーションがローカル DB2 サブシステムに正しく定義されていない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -30061

Database: DB2 for z/OS or DB2 Server for VSE & VM

DSQ10424 通信エラーが検出されました。

説明:

このエラーの詳細については、使用しているデータベースのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

SQLCA は &V1 です。

このエラーはデータベース・システムが指定されたターゲット・ロケーションに対して接続をサポートしていないために起こります。

あるいは、このエラーは、アプリケーション・サーバーが DB2 for VM/VSE であり、接続が AVS または TSAF を介して経路指定されていたときにコマンド "FORCE WITHOUT DISABLE" が発行された場合に発生することもあります。

このエラーにより、接続は失われました。QMF によって、エラーが検出される前に接続していたロケーションへの接続が試行されます。その再接続の試行が失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルが表示されます。

ユーザーの処置:

以前のロケーションに QMF によって正常に再接続された場合、引き続き QMF を使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示される場合、他のロケーションに接続するか、または QMF を終了することを選択できます。ロケーションへの接続を確立できな

い場合は、QMF を終了し、QMF 管理者に相談してください。

問題が解決しない場合は、QMF 管理者に SQLCA データを送ってください。

SQL code: -30080

Database: DB2 for z/OS or DB2 Server for VSE & VM

DSQ10425 READ-ONLY の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明:

リモート・ロケーションでデータの更新、挿入、削除を試みましたが、現行の操作環境ではリモートの読み取り専用になっています。例えば、CICS 操作環境で、サーバー・データベースが 2 フェーズ・コミットをサポートしない場合は、リモート・データの更新はできません。

READ-ONLY 操作環境でリモート・データをアクセスするには、以下のいずれかを使用できます。

- SQL SELECT ステートメント
- QMF DISPLAY コマンド

ユーザーの処置:

QMF の使用を続けることができます。リモート・データを更新する必要がある場合には、サポートしている操作環境に切り換えてください。そうでない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -30090

Database: DB2 for z/OS or DB2 Server for VSE & VM

DSQ10426 サーバーは、DDM パラメーター &V1 をサポートしません。

説明:

リモート・サーバーへ接続しようとしたが、そのサーバーが分散データ管理 (DDM) コマンド・パラメーター値 &V1 をサポートしていないため失敗しました。

SQLCODE は &V9 です。

次のことが、このエラーの原因と考えられます。

- サーバーに接続しようとした。不適切な CCSID 変換規則がそのサーバーに定義されていたため、リクエストから文字ストリングがターゲット・サーバーで変換されなかった。

ユーザーの処置:

QMF コマンドが正しいことを検証してください。正しい場合、QMF 管理者に連絡してください。このエラーの詳細については、現在接続しているサーバーの資料

「メッセージおよびコード」を参照してください。

SQL code: -30073

Database: DB2 for z/OS or DB2 Server for VSE & VM

DSQ10427 通信エラーが検出されました。

説明:

リモート・クライアントまたはリモート・サーバーと通信中に、通信エラーが検出されました。以下のデータが戻されました。

- &V1 エラーが起きた通信プロトコル。
- &V2 DB2 によって使用される通信アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API)。
- &V3 パートナー・システムのネットワーク・ロケーション。
- &V4 障害が起こった通信機能。
- &V5 第 1 戻りコード標識。
- &V6 第 2 戻りコード標識。
- &V7 第 3 戻りコード標識。

戻りコード値については、ご使用のオペレーティング・システム用のアセンブラー・プログラミング情報を参照してください。

ユーザーの処置:

障害の原因を判別するには、通信の担当者に尋ねてください。

SQL code: -30081

Database: DB2 for z/OS or DB2 Server for VSE & VM

DSQ10428 無効なセキュリティ資格情報のために、接続に失敗しました。

説明:

無効または不正なセキュリティ資格情報のために、リモート・データベース・サーバーへ接続しようとして拒否されました。このエラーの原因は、以下の理由コードと理由ストリング値で説明されます。

&V1

理由コード値および理由ストリング値の説明を以下に示します。

- 1 (パスワード期限切れ) -遠隔サーバーへの接続に使用されるパスワードの有効期限が切れています。
- 2 (パスワード無効) -遠隔サーバーへの接続に使用されるパスワードが、遠隔サーバーに保管されているパスワードと一致しません。

- 3 (パスワードなし) -接続要求にパスワードが含まれていなかったため、遠隔サーバーで接続要求が拒否されました。
- 4 (プロトコル違反) -適切なセキュリティ資格情報が接続要求に含まれていなかったため、遠隔サーバーで接続要求が拒否されました。サーバー・システムで、セキュリティ違反の性質を説明するエラー・メッセージまたはトレース・レコードを確認してください。
- 5 (ユーザー ID なし) -接続要求にユーザー ID が指定されていなかったため、遠隔サーバーで接続要求が拒否されました。
- 6 (ユーザー ID 無効) -接続要求に指定されていたユーザー ID が、遠隔サーバー・システムに定義されていません。
- 7 (ユーザー ID 取り消し済み) -接続要求に指定されていたユーザー ID は取り消されています。
- 15 (SECURITY FAILURE &V3 &V4) - リモート・サーバー・システムで認証が失敗しました。DDM 用語 SECCHKCD および SVCERRNO の詳細については、使用しているデータベース管理システムの DRDA 情報を参照してください。
- 16 (新規パスワード無効) -パスワード変更要求で指定されたパスワードが、サーバーの要件を満たしていませんでした。
- 17 (UNSUPPORTED FUNCTION) - クライアントによって指定されたセキュリティ・メカニズムは、このサーバーに対して無効です。
- 26 (SWITCH USER INVALID) - クライアントはトラステッド接続を要求するように構成されています。トラステッド接続が確立されなかったため、ユーザー切り替え要求は無効です。

ユーザーの処置:

理由コード値および理由ストリング値で記述されたエラーを修正して、コマンドを再発行してください。理由コード 4、7、15、17、および 26 の場合は、QMF 管理者の支援が必要となることがあります。

このエラーに関連付けられている SQL コードおよび SQLSTATE は以下のとおりです。

&V9

これらのコードの詳細情報は、IBM Knowledge Center に掲載されています。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

SQL code: -30082DB2@37

Database: DB2 for z/OS or DB2 Server for VSE & VM

DSQ10429 関数がサーバーでサポートされていないため、実行できませんでした。

説明:

サーバーでサポートされていない関数: ロケーション &V1、製品 ID &V2、理由コード &V3。現行の SQL ステートメントは、要求された機能をサポートしていないサーバーに経路指定されたため、失敗しました。このエラーによって、これ以上の SQL ステートメントを正常に実行できなくなります。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST。

ユーザーの処置:

SQL ステートメントに関する支援をデータベース管理者に依頼してください。

SQL code: -30005DB2@30

Database: DB2 for z/OS or DB2 Server for VSE & VM

DSQ10430 サーバーでサポートされない関数が原因で終了しました。

説明:

サーバーでサポートされない関数が原因で接続が終了しました: ロケーション &V1、製品 ID &V2、理由コード &V3。要求された関数をサポートしないサーバーに経路指定されていたため、現行 SQL ステートメントが失敗しました。このエラーは、それ自体では、以降の SQL ステートメントの失敗の原因にはなりません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST。

ユーザーの処置:

データベース管理者に SQL ステートメントに関する支援を依頼し、必要な変更を行ってください。

SQL code: -30025DB2@30

Database: DB2 for z/OS or DB2 Server for VSE & VM

DSQ10431 無効な期間指定または期間節が指定されています。

説明:

期間指定または期間節 &V1 が無効です。理由コード = &V2。理由コードには、以下のものがあります。

- 1 The period name was specified more than one time for the table reference.
- 2 The SYSTEM_TIME period was specified, but the table is not a system-period temporal table.
- 3 Each expression must return a built-in data type.
- 4 The period specification or period clause was specified for a view.
- 5 The precision of an expression must be greater than the precision of the columns of the period.
- 6 FOR SYSTEM_TIME was specified but the value of the CURRENT TEMPORAL SYSTEM_TIME special register is not null and the SYSTIMESENSITIVE bind option is set to YES.
- 7 FOR BUSINESS_TIME was specified but the value of the CURRENT TEMPORAL BUSINESS_TIME special register is not null and the BUSTIMESENSITIVE bind option is set to YES.

36 DB2 QMF メッセージおよびコード

- 8 The period specification or period clause was specified for a table that is not an application-period temporal table.
- 9 An expression must not return a value with a time zone if the begin and end columns of the specified period are defined as TIMESTAMP WITHOUT TIME ZONE.

理由コード (&V2) の詳しい説明については、使用しているデータベースのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

ユーザーの処置:

構文を訂正して、照会を再実行してください。

SQL code: -20524DB2@2421

Database: DB2 for z/OS or DB2 Server for VSE & VM

DSQ10432 操作 &V1 はサポートされていません。理由コード = &V4。

説明:

このデータ変更操作 &V1 は、操作のターゲットがテンポラル表を参照しており、期間指定 &V3 が指定されていたため、ターゲット・オブジェクト &V2 ではサポートされません。期間指定は、特殊レジスターによって暗黙的に指定されていたか、またはターゲットとして指定された全選択内に明示的に指定されていたかのどちらかです。

理由コード 1 は、CURRENT TEMPORAL SYSTEM_TIME 特殊レジスターに非 NULL 値が含まれており、データ変更操作のターゲットがシステム期間テンポラル表であることを示しています。システム期間テンポラル表のデータは、期間指定が指定されている場合は変更できません。

理由コード (&V4) の詳しい説明については、使用しているデータベースのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

ユーザーの処置:

CURRENT TEMPORAL SYSTEM_TIME 特殊レジスターに NULL を設定し、データ変更操作を &V1 再試行します。

SQL code: -20535DB2@2421

Database: DB2 for z/OS or DB2 Server for VSE & VM

DSQ10433 &V1 は表 &V2 内の期間指定ではありません。

説明:

指定された期間 &V1 が、指定された表 &V2 に存在しません。このステートメントを処理することはできません。

ユーザーの処置:

SQL ステートメントに、正しい期間指定と表名が含まれていることを確認してください。

SQL code: -20527

Database: DB2 for z/OS or DB2 Server for VSE & VM

DSQ10450 ロケーション &V1 でリソースを使用できません。

説明:

ロケーション &V1 でのリモート要求の処理時に、システム・リソースが使用できませんでした。ただし、現行ロケーションにはまだ接続されています。

- SQLCODE = &V9
- リソース・タイプ = &V2
- 理由コード = &V3
- サブコード = &V4

詳細については、使用しているデータベースの「メッセージおよびコード」マニュアルを参照してください。

ユーザーの処置:

QMF の使用を続けることができます。問題が解決しない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -30040

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10451 &V1 への接続は、リソースを利用できないため失われました。

説明:

ロケーション &V1 への接続は失われました。リモート要求がロケーション &V1 で処理されたとき、システム・リソースを利用できなかったからです。

- SQLCODE = &V9
- リソース・タイプ = &V2
- 理由コード = &V3
- サブコード = &V4

このエラーの詳細については、使用しているデータベースの「メッセージおよびコード」マニュアルを参照してください。

QMF によって、現行ロケーションへの再接続が試行されました。この試行が成功すれば、引き続き QMF を使用できます。失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルからプロンプトが出され、他のロケーションに接続するか、または QMF を終了するよう指示されます。

ユーザーの処置:

QMF によって正常に現行ロケーションに再接続された場合は、ロケーション &V1 で引き続き QMF を使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示された場合、他のロケーションに接続することを選択できます。ロケーションに接続できない場合、QMF を終了し、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -30041

Database: DB2 Server for VSE & VM or SQL/DS

DSQ10452 ロケーション &V1 にアクセスする権限がありません。

説明:

ロケーション &V1 をアクセスする試みは成功しませんでした。その理由はユーザー ID がそのロケーションにアクセスするための十分な権限を持っていないからです。SQLCODE は &V9 です。

このエラーにより、現行ロケーションへの接続が失われました。QMF によって、現行ロケーションへの再接続が試行されました。再接続が失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルからプロンプトが出され、他のロケーションに接続するか、または QMF を終了するよう指示されます。

ユーザー ID とロケーション名の両方を指定して CONNECT コマンドを発行した場合、ターゲット・ロケーションで明示的な接続権限が必要となります。

ユーザーの処置:

QMF によって現行ロケーションに正常に再接続され、ロケーション &V1 でのデフォルト・ユーザー ID の使用が十分である場合、"CONNECT TO &V1" コマンドを発行できます。データベースによって提供された暗黙接続によってデフォルト・ユーザー ID を使用して &V1 にアクセスが可能です。

再接続を指示され、ロケーション &V1 でデフォルト・ユーザー ID の使用で十分であれば、ロケーションの値として &V1 を入力し、ユーザー ID とパスワードをブランクのままにしてください。ロケーション &V1 に接続することができない場合は、別のロケーションを指定してください。

&V1 でデフォルト以外のユーザー ID を使用しなければならない場合は、QMF を終了し、QMF 管理者を通してロケーション &V1 での明示的接続権限を取得してください。

SQL code: -30060

Database: DB2 Server for VSE & VM or SQL/DS

DSQ10453 指定したロケーション名が見つかりませんでした。

説明:

指定したロケーションへのアクセスの試みは、そのロケーションが見つからなかったため失敗しました。これは、指定のロケーションがリモート・ロケーションであり、そのロケーションがデータベースに正しく定義されていないために発生することがあります。

SQLCODE は &V9 です。

このエラーにより、現行ロケーションへの接続が失われました。QMF によって、現行ロケーションへの再接続が試行されました。この試行が失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルからプロンプトを出され、別のロケーションに接続するか、または QMF を終了するよう指示されます。

ユーザーの処置:

指定のロケーション名がユーザー通信ディレクトリーに定義されている場合は、その指定のロケーションに対する項目が正しく定義されていることを確かめてください。正しくない場合は、修正し、再度試みてください。

QMF によって正常に現行ロケーションに再接続された場合、引き続き QMF を使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示された場合、他のロケーションに接続することを選択できます。ロケーションに接続できない場合、QMF を終了してください。

QMF 管理者に連絡して、デフォルトのデータベースにロケーション &V1 を正しく定義してください。

SQL code: -30061

Database: DB2 Server for VSE & VM or SQL/DS

DSQ10454 通信エラーが検出されました。

説明:

このエラーの詳細については、使用しているデータベースの「メッセージおよびコード」マニュアルを参照してください。

SQLCA は &V1 です。

このエラーは次の理由で起こることもあります。

- ユーザーは CONNECT コマンドを出し、通信ディレクトリーは定義されていますが、目標のロケーションのパスワードが失効しています。
- アプリケーション・サーバーが DB2 for VM/VSE であり、接続が AVS または TSAF を介して経路指定されていたときにコマンド "FORCE WITHOUT DISABLE" が発行されました。

このエラーにより、接続は失われました。

QMF によって、エラーが検出される前に接続していたロケーションへの接続が試行されます。もし再接続が失敗した場合、接続喪失プロンプト・パネルが表示されません。

ユーザーの処置:

以前のロケーションに QMF によって正常に再接続された場合、引き続き QMF を使用できます。

接続喪失プロンプト・パネルが表示される場合、他のロケーションに接続するか、または QMF を終了することを選択できます。ロケーションに接続できない場合は、QMF を終了し、QMF 管理者に連絡してください。

ユーザー通信ディレクトリーに古いパスワードがある状態で CONNECT コマンドを発行した場合は、そのパスワードを更新し、通信ディレクトリーをロードし直してください。

問題が解決しない場合は、QMF 管理者に SQLCA データを送ってください。

SQL code: -30080

Database: DB2 Server for VSE & VM or SQL/DS

DSQ10455 READ-ONLY の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: 34 ページの『DSQ10425』を参照してください。

SQL code: -30090

Database: DB2 Server for VSE & VM or SQL/DS

DSQ10456 サーバーは、DDM パラメーター &V1 をサポートしません。

説明: 34 ページの『DSQ10426』を参照してください。

SQL code: -30073

Database: DB2 Server for VSE & VM or SQL/DS

DSQ10457 TIMESTAMP WITH TIME ZONE データ・タイプは、暗黙的に別の日時データ・タイプにキャストすることはできません。

説明:

この問題が発生するのは、ステートメントが、時間帯を含む日時値のストリング表現を、時間帯なしで定義されている日時ターゲットにキャストしようとした場合で

す。このような暗黙的なキャスト操作はサポートされていません。

ユーザーの処置:

ターゲットへの割り当てを行う前に、CAST 指定を使用してストリング表現を `TIMESTAMP WITH TIME ZONE` データ・タイプに明示的にキャストしてください。その後、その結果を時間帯なしの日時値にキャストします。

SQL code: -20497

Database: DB2 Server for VSE & VM or SQL/DS

DSQ10480 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FP 機能のシステム問題です。FPCODE = &V1。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が `Q.ERROR_LOG` テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。`Q.ERROR_LOG` テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ10481 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ10480』を参照してください。

DSQ10482 OK、コマンドは取り消されました。 大域変数 `DSQEC_KEEP_THREAD` は 0 にリセットされます。

DSQ10490 &V2。

説明:

上記のメッセージに関連付けされた正の SQL コードをデータベースから受け取りました。この SQL コードと関連する `SQLSTATE` 情報は、以下のように、テキスト「SQL Code (SQL State):」に続いて表示されます。

このエラーの発生元は、ユーザーが QMF コマンド行から発行したコマンドであるか、またはプロシージャマ

たはアプリケーションで発行されたコマンドである可能性があります。正の SQL コードは、コマンドが完了したが警告があることを示します。

ユーザーの処置:

このエラーの原因となっているコマンドを判断するには、次のコマンドを発行して、メッセージとコマンドを最も詳細なレベルでログに記録するようにトレース機能を設定してください。

```
SET PROFILE (TRACE=L2
```

トレース機能の設定後に、エラーを発生させたコマンド、プロシージャ、またはアプリケーションを再実行します。QMF 管理者にこの問題を報告して、トレース出力の調査と問題の診断を依頼してください。

データベースにより発行される警告について詳しくは、ユーザー自身または QMF 管理者が、SQL コードの説明を以下にある IBM Knowledge Center で検索できます。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

QMF がこのメッセージを発行するのは、`DSQDC_POS_SQLCODE` 大域変数が 2 に設定されている場合です。データベースが正の SQL コードを戻した際に QMF からこのメッセージを発行しないようにするには、この大域変数を 0 に設定します。QMF から、画面にはではなく `DSQDEBUG` データ・セットに警告メッセージを発行するようにするには、この大域変数を 1 に設定します。

すべての QMF 大域変数とその値の説明のリストについては、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ10491 警告: 正の SQL コードをデータベースから受け取りました。

説明:

この SQL コードと関連する `SQLSTATE` 情報は、以下のように、テキスト「SQL Code (SQL State):」に続いて表示されます。

ユーザーの処置:

このエラーの原因となっているコマンドを判断するには、次のコマンドを発行して、メッセージとコマンドを最も詳細なレベルでログに記録するようにトレース機能を設定してください。

```
SET PROFILE (TRACE=L2
```

トレース機能の設定後に、エラーを発生させたコマンド、プロシージャ、またはアプリケーションを再実行

します。QMF 管理者にこの問題を報告して、トレース出力の調査と問題の診断を依頼してください。

データベースにより発行される警告について詳しくは、ユーザー自身または QMF 管理者が、SQL コードの説明を以下にある IBM Knowledge Center で検索できます。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

QMF がこのメッセージを発行するのは、DSQDC_POS_SQLCODE 大域変数が 2 に設定されている場合です。データベースが正の SQL コードを戻した際に QMF からこのメッセージを発行しないようにするには、この大域変数を 0 に設定します。QMF から、画面にはなく DSQDEBUIG データ・セットに警告メッセージを発行するようにするには、この大域変数を 1 に設定します。

すべての QMF 大域変数とその値の説明のリストについては、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ10492 コマンドの処理中にデータベース取り出しエラーが発生しました。

説明:

コマンドを完了させるために QMF がデータベースから行を取り出そうとして、エラーまたは警告が発生しました。これらのエラーまたは警告による、データベース・アクティビティの異常終了は起こりませんでした。ただし、コマンドに関連した行の一部またはすべてが、データベースから取り出されなかった可能性があります。例えば、報告書を表示するコマンドを発行した場合、報告書が完全には表示されない可能性があります。

ユーザーの処置:

QMF 管理者にこの問題を報告してください。管理者は DSQDEBUIG データ・セットにアクセスして、SQLCODE +354 および関連の診断情報を探すことで、原因を診断できます。SQLCODE +354 には、内在する負の SQL コードが隠されている場合があります。この問題が発生するのは、複数行取り出しをオン (MR=YES) にして QMF を開始した場合です。このため、複数行取り出しをオフ (MR=NO) にすることで、問題を切り分けてトラブルシューティングできる可能性があります。DSQSMRFI (MR) プログラム・パラメーターの詳細については、「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ10493 QMF はこのデータベースに接続できません。

説明:

このエラーが発生するのは、コマンドが送信されたデータベースに接続する権限がない場合です。QMF は、このエラーが検出される前にユーザーが接続していたデータベースに対し、再接続を自動的に試行します。QMF が再接続できない場合は、接続損失プロンプト・パネルが表示されます。

ユーザーの処置:

QMF 管理者にこの問題を報告してください。管理者は以下の手順でこの原因を診断できます。

- コマンドの送信先システムでユーザー ID が定義されていることを確認します。定義されている場合は、ユーザー ID とパスワードを正しく入力したことを確認します。

パスワードは (場合によってはユーザー ID も)、大/小文字が区別されます。ご使用のサイトで、大/小文字混合のパスワードを使用している場合は、QMF プロファイルの CASE オプションが MIXED に設定されていることを確認してください。MIXED に設定されていない場合、QMF は入力されたパスワードを大文字に変換するため、CONNECT コマンドが失敗します。

- コマンドの送信先のシステムで、QMF のインストーラが正しく完了していることを確認します。
 - バインド・ジョブ DSQ1BPKG でロケーション名が正しいことを確認します。CONNECT コマンドが正しく機能するには、リクエストとサーバー・データベースの両方でこのジョブが実行される必要があります。ジョブのプロログのすべての指示を確認し、必要な変更を行ってから、ジョブを実行してください。
 - すべてのインストール手順が正しく完了していることを確認してください。
 - インストール検査手順 (IVP) の各手順が正しく実行されたことを確認してください。
- このエラーの原因となったコマンドの処理に関するシステムの QMF サービスが最新であることを確認します。サービスが最近適用された場合は、ジョブ DSQ1BPKG を再実行して QMF で必要な適用業務パッケージを再バインドするようにしてください。

このエラーに関連付けられている SQL コードおよび SQLSTATE は以下のとおりです。

&V9

これらのコードの詳細情報は、IBM Knowledge Center に掲載されています。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

SQL code: -922

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10494 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 21 ページの『DSQ10202』を参照してください。

SQL code: -923

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10495 OK、コマンドは取り消されました。

SQL code: -495

Database: DB2 for z/OS

DSQ10496 &V2.

説明:

これは、QMF から報告された SQL エラーです。QMF は、このエラーについて以下の情報を受け取りました。

- DB2 メッセージ ID: &V1
- SQLERRD1/SQLERRD2/SQLERRD3: &V4
- SQLERRD4/SQLERRD5/SQLERRD6: &V5
- DB2 理由コード: &V3
- DB2 製品 ID: &V6

ユーザーの処置:

QMF 管理者 (上述の説明にあるメッセージと理由コード、並びにご使用のデータベース管理システムに関するメッセージとコードの説明を使用して、このエラーの原因を判断できるユーザー) にこの問題を報告してください。

エラーが修正されたら、QMF コマンドを再試行してください。

DSQ10497 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 24 ページの『DSQ10285』を参照してください。

DSQ10498 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 24 ページの『DSQ10285』を参照してください。

DSQ10499 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 21 ページの『DSQ10202』を参照してください。

SQL code: -902

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10500 &V2.

説明: 『DSQ10496』を参照してください。

DSQ10501 照会が長すぎるか、または複雑すぎます。

説明:

QBE 照会の結果、SQL ステートメントは長すぎて、または複雑すぎて、解釈できません。これは、次のものの数を減らすことによって簡素化できます。

1. あるデータ・タイプから別のデータ・タイプへの変換
2. 10 進演算
3. 挿入される定数
4. 組み込み関数

ユーザーの処置:

照会を短くするか、または 2 つ以上の照会として書き直してください。中間結果の表を生成する照会を作成することを検討してください。その表を保管し、これを用いて最終結果を出すための第 2 の照会を作成します。

SQL code: -101

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10503 &V1 は数字で始まっていますが、有効な数値ではありません。

説明:

&V1 は数字で始まっていますが、有効な整数、10 進数、10 進浮動小数点数ではありません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

次のガイドラインに従って &V1 を変更し、照会を再実行してください。

DSQ10505 • DSQ10527

- 浮動小数点数の場合、"E" の後に必ず正符号または負符号を付け、その後に指数を指定してください。
- 文字定数は単一引用符で囲んでください。
- 名前が数字で始まらないようにしてください。

SQL code: -103

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10505 照会の中の **NULL**、式、または比較が無効です。

説明:

照会で **NULL** キーワードを使用する場合、**NULL** キーワードは = (または ^=) 符号の右側で使用します。また、**NULL** キーワードが式の一部や、式を含む条件の一部にならないようにします。

照会で **I.** 演算子が使用されている場合、データを挿入する行が、他の行へのリンクを含んでいない場合は、その行では定数のみが使用されていることを確認してください。

照会で **U.** 演算子が使用されている場合、更新する列での比較を使用していないことを確認してください。

照会で **CREATE DATABASE** ステートメントが使用されている場合、'AS TEMP' 文節が指定されていないことを確認してください。

次の **SQLSTATE** が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

無効な使われ方をしている **NULL** キーワードを訂正するか、**I.** 演算子を含む行から式を除去するか、**U.** 演算子を含む列から比較を除去するかしてください。その後、照会を再実行してください。

SQL code: -105

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10518 **D.**、**I.**、または **U.** の入った行が同じ表の中の行に連係することはできません。

説明:

D.、**I.**、または **U.** の入った行を、それと同じ表を参照する別の行に連係させることはできません。

ユーザーの処置:

連係を除去し、照会を再実行してください。

SQL code: -118

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10521 同一の照会で同じ列を二度変更することはできません。

説明:

「変更」には、挿入 (**I.**) および更新 (**U.**) が含まれません。例えば、次の照会は無効な例で、"YEARS" (勤続年数) という列は 2 回以上変更することはできません。

Incorrect:

Q.STAFF	ID	YEARS	JOB	YEARS
I.	400	7	CLERK	8

ユーザーの処置:

照会を変更して、実行し直してください。

SQL code: -121

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10524 **AO.** または **DO.** を、17 列以上の列に使用しています。

説明:

AO. または **DO.** 演算子を含むことができるのは 16 列以内です。

ユーザーの処置:

AO. または **DO.** を含む列の数を、16 以下に減らしてください。

SQL code: -124

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10527 1 つの行に対して複数の **UNQ.** または **COUNT.** 参照があります。

説明:

1 つの行には、**UNQ.** または **CNT.** 参照は 1 つしか指定できません。次の無効な照会では、**Q.STAFF** 表の同じ列に対し、**CNT.** と **UNQ.** の両方の参照が指定されています。

```
Invalid Query:  Q.STAFF | DEPT | SALARY | YEARS |
                -----|-----|-----|-----|
                | P.G. | _S | _Y | P.CNT._S |
                -----|-----|-----|-----|
                | CONDITIONS |
                | AVG.UNQ._Y > 5 |
                -----|-----|-----|-----|
```

ユーザーの処置:

照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -127

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10529 照会で使用している表または列の数が多すぎます。

説明:

照会で以下の項目の 1 つが、以下にリストされた制限を超えています。

Table Names	15
Selected columns	255

ユーザーの処置:

所定の限度内になるように照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -129

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10534 **LONG VARCHAR** 列が誤って使われています。

説明:

LONG VARCHAR または **LONG VARGRAPHIC** のデータ・タイプの列を使用する場合に、以下の制限が適用されます。

- その列を、探索条件の中で、算術演算または組み込み関数を含んで使用することはできません。
- **NULL** の値だけが列に挿入できるか、または列だけが **NULL** に更新できます。
- **SQL** 照会では、このような列を以下のものとともに使用することはできません。
 - **GROUP BY**、**ORDER BY**、**UNION**、または索引
 - 副照会で、**SELECT DISTINCT**、**UPDATE** の **SET** 文節、または **SUBSTR** か **LENGTH** 以外の関数
 - **LIKE** 以外の述部の単独で
- **QBE** の場合には、**AO**、**DO**、または **G** とともに使用することはできません。
- 長ストリング列からなっている基本表から派生する視点では使用できません。

ユーザーの処置:

LONG VARCHAR または **LONG VARGRAPHIC** のデータ・タイプの列に対して前に示された条件と比較するか、列を取り除いてから、照会を再実行してください。

SQL code: -134

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10535 **LONG VARCHAR** 列が誤って使われています。

説明: 『DSQ10534』を参照してください。

SQL code: -135

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10541 挿入または更新の値が視点定義の条件を満たしていません。

説明:

データを挿入または変更しようとしているビューの定義で **WITH CHECK OPTION** 文節が使用されました。このようなビューで行を挿入または更新しようとする試みはすべて、その結果がビューの定義に準拠していることを確認するために検査されます。照会の中に、その定義の中の条件を満たさない値があります。

次の **SQLSTATE** が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

視点の定義を調べて、変更が拒否された理由を判断し、照会の中の値を変更してください。

SQL code: -141

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10550 この照会は視点の中のデータを変更しようとしています。

説明:

次の視点には **I**、**U**、または **D**。演算子を使用できません。

- 複数の表を基礎としているもの。
- 式または組み込み関数 (例えば、**_SALARY**、**_COMM**、**AVG_SALARY** など) によって定義された列を含むもの。
- **HAVING**、**DISTINCT**、または **GROUP BY** キーワードを使用する **SQL SELECT** ステートメントによって定義されているもの。

次の **SQLSTATE** が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

ビューの作成に使用される表を変更する照会を複数に分けて作成し、それらの照会を実行してください。

SQL code: -150

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10551 • DSQ10565

DSQ10551 この照会は視点の中のデータを変更しようとしています。

説明: 43 ページの『DSQ10550』を参照してください。

SQL code: -151

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10552 視点の照会が無効です。

説明:

この操作は、次の規則のいずれかに違反しています。

- 以下のデータがビューで使用される場合、I、U、D. はいずれも実行できません。
 - data from more than one table.
 - data selected using a SQL DISTINCT or GROUP BY.
- SQL の式 (SALARY/12 など) または SQL の組み込み関数 (AVG (SALARY) など) で定義された列に、I. または U. の使用はできません (D. は使用できます。)
- 視点の 2 つの列が表の同じ列を基礎としている場合、またはその視点が見点の中の NOT NULL と定義されている列を使用している場合には、I. を使用することはできません。

ユーザーの処置:

照会を、上記の規則に照らして有効なものにしてください。

SQL code: -152

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10554 視点の照会が無効です。

説明: 『DSQ10552』を参照してください。

SQL code: -154

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10555 照会で、グループ化で定義された視点を使用されています。

説明:

定義に GROUP BY または HAVING が使用されている場合には、ビューはグループ化によって定義されます。このような視点は、ほかの視点または表とともに照会の中で使用することはできません。

ユーザーの処置:

次のような方法をとってください。

- グループ化で定義した視点からデータの選択に照会を実行する。

- そのデータを新しい表として保管する。
- 新しい表からのデータを他の視点および表からのデータとともに選択する照会を実行する。

SQL code: -155

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10556 視点の定義または使用法が無効です。

説明:

DISTINCT または GROUP-BY を使用してビューが作成されました。視点を使用するには以下のルールに従わなければなりません。

- 複数の DISTINCT の列でビューが作成された場合は、選択リストにすべての列を組み込む必要があり、ビューの列には AVG などの列関数を使用できません。例えば視点が決定的に以下のように定義されていたとします。

```
CREATE VIEW V1 (COLA,COLB)
AS SELECT DISTINCT (COL1,COL2) FROM TABLEA
```

V1 からは COLA、COLB の両方を選択しなければなりません。さらに、AVG(COLA)、またはそのほかの列関数は使用できません。

- GROUP BY でビューが作成された場合は、ビューの列には列関数を使用できません。
- 1 つ以上の DISTINCT 列を指定して、視点が決定的に作成されている場合は列関数には計算式を使用できず、作成した視点を結合できません。
- 1 つの DISTINCT 列でビューが作成された場合は、ビューから選択を行うときに選択リストに許可される列関数は 1 つのみです。

ユーザーの処置:

照会を変更して、実行し直してください。

SQL code: -156

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10565 照会中の名前の最初か終わりがブランクです。

説明:

名前の始まりと終わりはブランクではなりません。無効な照会の例を次に示します。この例では、" YEARS" という名前の始まりに、ブランクがあるために無効です。

```
Invalid Query:      Q.STAFF | NAME | " YEARS"
                   -----|-----|
                   P. | |
```

ユーザーの処置:

名前から始めか、後ろのブランクを取り除いてください。

SQL code: -165

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10566 DBCS 定数が無効です。

説明:

照会の中に、"DBCS 定数" すなわち G'、N'、または X' で始まる漢字リテラルが含まれています。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

DBCS 定数を使いたい場合には、次の形式で使うようにしてください。

```
G'<aabbcc' or N'<aabbcc'
```

< および > は、シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) を表しています。SI と SO との間には偶数バイトの文字がなければなりません。

ユーザーの処置:

照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -166

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10580 日時値の形式が無効です。

説明:

DATE データ・タイプで定義されたデータのストリング表記は、以下の形式 (またはローカルに定義された形式) でなければなりません。

```
'mo/dd/yyyy'
'dd.mo.yyyy'
'yyyy-mo-dd'
```

mo は月、dd は日、yyyy は年を表します。

TIME データ・タイプで定義されたデータのストリング表記は、以下のいずれかの形式 (またはローカルに定義された形式) でなければなりません。

```
'hh:mm xM'
'hh.mm.ss'
'hh:mm:ss'
```

hh は時、mm は分、ss は秒、x は AM または PM の表記を示す A または P を表します。

TIMESTAMP データ・タイプで定義されたデータのストリング表記は、以下の形式でなければなりません。

```
'yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.nnnnnnnnnnn'
```

形式の日付、時刻、およびタイム・スタンプ部分は前述のとおりで、nnnnnnnnnnnn は秒数の小数部分を表す 0 桁から 12 桁の値です。

TIMESTAMP WITH TIME ZONE データ・タイプで定義されたデータのストリング表記は、以下の形式でなければなりません。

```
'yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.nnnnnnnnnnnzth:tm'
```

形式の日付、時刻、およびタイム・スタンプ部分は前述のとおりです。z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号、th は時間帯の時、tm は時間帯の分です。時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

日時値の形式を修正して、照会を再実行してください。

SQL code: -180

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10581 日時の値が無効です。

説明:

ユーザーが発行したコマンドに関する日時値のストリング表現に、範囲外の値が含まれています。日時値の正しい範囲は次のとおりです。

Years	- 1 to 9999
Months	- 1 to 12
Days	- 1 to 31
Hours	- 0 to 24
Minutes	- 0 to 59
Seconds	- 0 to 59
Fractional seconds	- 0 to 999999999999
Time zone offset	
from UTC	- -24:00 to +24:00

UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQL code: -181

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10582 日付時刻の値を使っている算術式が無効です。

説明:

指定された算術式で、日時値または単純期間が正しく使用されていません。正しい使用例を以下に示します。

DSQ10583 • DSQ10604

```
Q.PROJECT | STARTD |
-----|-----|
      |_D | P._D + 10102433.
```

ユーザーの処置:

日付時刻値を調べて再度、照会し直してください。

SQL code: -182

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10583 日付、またはタイム・スタンプに関する算術演算で、無効な結果が出ました。

説明:

日付、またはタイム・スタンプの値を求める算術演算で、有効範囲外の値が求められました。有効な日付は、0001-01-01 から 9999-12-31 までです。

ユーザーの処置:

日時の値を訂正して、再度照会し直してください。

SQL code: -183

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10585 日付または時刻の値を形式設定できません。

説明:

次のいずれかの状況が起きています。

1. LOCAL オプションを使って日付または時刻の値を形式設定しようとしたが、使用可能なインストール先定義の日付または時刻ルーチンが存在しない。
2. 日付または時刻の値をストリングで表現して指定したが、ストリングがデータベースの認識できる形式ではない。または、そのストリングを処理できるインストール先定義の日付または時刻ルーチンが存在しない。

ユーザーの処置:

日付または時刻の値のストリング表現を認識可能な形式に変更するか、QMF 管理者に連絡してデータベースでインストール先定義の日付・時刻ルーチンを利用可能にしてもらってください。

SQL code: -185

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10591 混合データに、不適切な **DBCS** データ値が含まれています。

説明:

混合データで X'OE' (シフトアウト) または X'OF' (シフトイン) が抜けているか、あるいは混合データに DBCS 文字の 1 バイト分が含まれています。

46 DB2 QMF メッセージおよびコード

理由コード &V1 のこのエラーの詳細については、使用しているデータベースの「メッセージおよびコード」マニュアルを参照してください。

ユーザーの処置:

参照したデータの値が正しいことを確認してください。正しくない場合は、必要な変更を行ってから照会を再実行してください。

SQL code: -191

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10592 スカラー関数 &V1 の最初の引数はサブタイプを **MIXED** にできません。

説明:

スカラー関数 &V1 の最初の引数として混合サブタイプの式を使用することはできません。

ユーザーの処置:

SQL ステートメントを訂正し、再試行してください。

SQL code: -192

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10602 列 &V1 は、指定された表の中にありません。

説明:

例示表の列名として &V1 が入力されていますが、これはデータベース内の、その表の列ではありません。

ユーザーの処置:

列名を変更してください。すべての列名が正しく記入されている例示表を取得するには、コマンド「DRAW テーブル名」(テーブル名は表の名前) を実行してください。

SQL code: -202

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10604 &V1.&V2 は、システム・カタログにありません。

説明:

ステートメントに指定されているオブジェクトが、システム・カタログの中に見当たりません。名前スペルが違っているか、または誤った修飾子 (&V1) を指定したと考えられます。

ユーザーの処置:

名前を訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -204

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10605 列名 &V1 は表 &V2 の中にありません。

説明:

列名 &V1 が使用されました。これは、表 &V2 の中に見つかりませんでした。名前のスペルが違っているか、または表名を修飾する必要があると考えられます。

ユーザーの処置:

列名と所有者が正しいかどうか、およびスペルが正しいかどうかを検査してください。

SQL code: -205

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10712 コロン (:) の使用は無効です。

説明:

照会で、"WHERE (A.DEPT=:B.DEPTNUMB)" のように、前にコロンの付いた列名が使用されています。この用法は、プリプロセッサ・プログラムに実行依頼される照会では意味がありますが、QMF での照会では無効です。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

照会を訂正してください。文字定数、表名、列名、またはビュー名は単一引用符で囲んでください。

SQL code: -312

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10713 "?" の使用法が無効です。

説明:

文字 "?" がデータベース中のいずれかの名前の一部である場合は、二重引用符で囲まなければなりません。照会に指定する名前 "?" のこれ以外の使用法は無効です。文字 "?" は文字定数として使用できますが、単一引用符で囲まれていると使用できません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -313

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10730 1 つまたは複数の文字が現行サーバーによって使用可能なコードに変換されませんでした。

説明:

SQL ステートメントはアプリケーション・サーバーに適合するコードに変換されるべき文字ストリングを参照しましたが、データ表示における不一致が原因で変換を行うことができませんでした。文字ストリングが、対応する列データ・タイプと互換性がありません。したがって、指定された文字ストリングを使用できません。

ユーザーの処置:

文字列および参照した値が正しいかどうか検査してください。誤りがあれば、必要な変更を行い、再度照会を試みてください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQL code: -330

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10732 互換性のない CCSID によって文字ストリングは変換されませんでした。

説明:

SQL ステートメントが、コード化文字セットに現在の ID と異なるコード化文字セット ID、つまり CCSID (&V1) が含まれている文字ストリングを参照しました。現行サーバーでこの文字ストリングを使用するには、ソース CCSID (&V1) からターゲット CCSID (&V2) に変換しなければなりません。しかし、この CCSID ペアに関する変換ルールは SYSSTRINGS システム表に定義されていません。したがって、データベース・システムは文字ストリングをアプリケーション・サーバーに適合するコードに変換できません。

このエラー (理由コード &V3) の詳細な説明については、ご使用のデータベースの「メッセージおよびコード」マニュアルを参照してください。

この変換エラーが起こりうる原因は、次のとおりです。

- SQL ステートメントは MIXED サブタイプとして定義されているが、アプリケーション・リクエスターによって MIXED CCSID が指定されていない。
- SQL ステートメントに図形または混合データが使用されていて、現行サーバーまたはリクエスターで DBCS オプションが NO に設定されている。

ユーザーの処置:

参照された文字の列および値が正しいことを検証してください。正しくない場合は、必要な変更を行ってから照会を再実行してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ10751 • DSQ10802

SQL code: -332

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10751 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明:

アプリケーション・リクエスターによりサポートされない SQL データ・タイプがあります。&V1 は、無効なデータ・タイプを持つ SQLDA の最初のエレメントです。このエラーの一般的な原因として、アプリケーション・リクエスターがアプリケーション・サーバーにあるラージ・オブジェクト・データを記述しようとしたことが考えられます。このエラーの原因となる可能性のある SQLTYPE には、BLOB、CLOB および DBCLOB などがあります。

ユーザーの処置:

無効なデータ・タイプを除去し、照会を再実行してください。

SQL code: -351

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10801 非互換の複数のデータ・タイプを 1 つの式または条件の中で使用することはできません。

説明:

このエラーは以下のいずれかが原因であると考えられます。

- 式または条件の中に、数字オペランドと非数字オペランドが混在している。
- 非互換のデータ・タイプが含まれた列の比較を照会が発行しようとした。
- バイナリー・データには許可されない操作を照会が実行しようとした。バイナリー値は無条件に提示できますが (値のない P.)、QBE でバイナリー列のデータの挿入 (I.)、更新 (U.)、または削除 (D.) を行うことはできません。このような操作を実行するには、SQL 照会を使用してください。
- QBE で XML 列に対して許可されていない操作を実行しようとした。XML 列で実行できる QBE 操作は、以下の操作に限られます。

- Present column data unconditionally (P.)
- Insert data (I.)
- Update data (U.)
- Create conditions using only the NULL or ALL keywords

このエラーを起こす可能性のある照会の例を以下に示します。

以下の条件では、変数 _X が解決されると数値データ (1234) が文字データと比較され、その結果、エラーになります。

Q.STAFF	ID	NAME
P.		_X

CONDITIONS
_X = 1234

以下の照会は、バイナリー列 (BIN1) からデータを削除しようとするしますが、QBE を使用してバイナリー値の挿入、更新、削除を行うことはできません。

MYLOBS	BIN1
D.	00010110

以下の照会は、XML 列 (XML1) に特定の値が入っているすべての行を提示しようとし、XML データの入った列に対して暗黙の条件を作成することになります。

QBE を使用して XML 列に対する暗黙の条件を作成することはできません。

TABLE1	XML1
P.	'<X>FROG</X>'

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

照会で使用するすべてのオペランドまたは比較において同じデータ・タイプが参照されるようにしてください。バイナリー列および XML 列に対する操作が上記のガイドラインに従っていることを確認してください。

SQL code: -401

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10802 算術式は文字または日時のデータで使用できません。

説明:

算術式、および組み込み関数 AVG と SUM を用いる式は、数値データに対してのみ操作できます。照会内の式が、文字または日時のデータを含む列を参照しました。式の有効なオペランドは、数値データ・タイプを持つか、または暗黙的に数値データ・タイプにキャスト可能です。

ユーザーの処置:

数値のデータ・タイプ、または暗黙的に数値データ・タイプにキャスト可能なデータ・タイプのみを使用して式を書き直してください。その後、照会を再実行します。

SQL code: -402

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10810 値 '&V1' の長さが、許容される文字数を超えています。

説明:

浮動小数点定数は 30 文字を超える長さにはできず、10 進浮動小数点ストリングは 42 文字を超えることはできません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

&V1 を丸めて、正しい文字数で表せるようにしてください。

SQL code: -410

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10811 "USER" の使い方が無効です。USER が式の中で使用されたか、数値データと比較されたか、または条件で使用されませんでした。

説明:

USER は条件の中でだけ使用できます。また、USER は数値データと比較できません。下記は USER の有効な使い方の例です。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM	YEARS
P.	USER			

ユーザーの処置:

照会での USER の使い方を訂正してください。

SQL code: -411

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10813 データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明:

算術オーバーフローが生じたために、算術演算または挿入演算の結果は無効です。例えば、データ・タイプ INTEGER の値をデータ・タイプ SMALLINT の列に挿入しようとした可能性があります。INTEGER の値が十分に小さいものであれば変換を正常に行うことができます。しかし、32767 を超える値は、算術オーバーフローを招く結果となります。

ユーザーの処置:

演算を訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -413

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10814 LIKE 演算子は、文字データまたは図形データのみで使用できます。

説明:

LIKE 演算子は、文字または図形データ・タイプで定義されている列のみで使用できます。他のデータ・タイプで LIKE 演算子を使用すると、エラーが発生します。例えば、次の QBE 照会は、Q.STAFF 表の SALARY 列のデータを提示しようと試みるために無効です。SALARY 列は、数値データ・タイプで定義されています。

Q.STAFF	NAME	SALARY
P.		LIKE'20%'

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

LIKE 演算子が文字または図形のデータを含む列を参照するように照会を書き直してください。問題となっているデータ・タイプと互換性のある演算子を使用するように変更することもできます。SQL ステートメントの適切な構文について詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照するか、または使用中のデータベースの SQL 参照情報をご覧ください。

SQL code: -414

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10815 2 つの異なる P. 行の同じ列に検索して入れるデータは、比較可能な定義をされていなければなりません。

説明:

照会の中に 2 つ以上の P. 行で比較できないデータが定義されています。この照会と同じ列にデータを検索して入れようとして失敗しました。P. 行のデータの定義は検索して比較に成功しなければなりません。さらに、同じ出力列に取り込まれる列にフィールド・プロシージャがある場合、その列には同じフィールド・プロシージャおよび列 CCSID の値が必要です。

次の照会では、数値データ (DEPT) と文字データを (JOB) を同じ列に入れようとしています。

Q.staff	DEPT	JOB
Invalid Query:	-D	P. _D P. _J

ユーザーの処置:

同じ列には、比較ができる定義のデータを入れるようにしてください。

SQL code: -415

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10816 2つの異なる P. 行により検索されて同じ列に入れられるデータは、長い可変文字属性のデータを参照してはなりません。

説明:

この照会は、2つのデータ・ソースから検索したデータを同じ列に入れようとしています。これらのデータ・ソースの少なくとも一方が、長い可変文字データとして定義されています。無効な例を下に示します。

Invalid Query:	MYTABLE LONGVARCHAR1	YOURTABLE LONGVARCHAR2
	P.	
	P.	
	_L2	_L2

ユーザーの処置:

長い可変文字属性データに対する同一列内の参照を除去してください。

SQL code: -416

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10817 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -417

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10818 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -418

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10819 使用されている値を用いた 10 進除算はできません。

説明:

分子の精度または分母の位取りが、10 進除算を行うには大きすぎます。

ユーザーの処置:

10 進除算値の精度または位取りを変更してから、照会を再実行してください。INTEGER、または SMALL INTEGER の値が、この計算のために 10 進数に変換された可能性があることに注意してください。

SQL code: -419

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10930 外部キーの値が無効です。

説明:

更新または挿入照会で、外部キーの値を指定しました。ただし、その値は、親表の主キー値のいずれにも相当しません。

外部キーの参照制約の名前がデータベースにより提供されたものである場合、その名前は次のようになります: &V1.&V2。

ユーザーの処置:

主キーの値のどれかに一致する外部キーの値を使用してください。

SQL code: -530

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10932 従属行のため、行の更新または削除はできません。

説明:

親行を更新または削除しようとしたが、親行が従属行をもっているか、または RESTRICT 規則を使用して制限された従属行にカスケードしているため失敗しました。

外部キーの参照制約の名前がデータベースにより提供されたものである場合、その名前は次のようになります: &V1.&V2。

ユーザーの処置:

行の選択が、正しかったことを確かめてください。正しかった場合には、RESTRICT が指定された従属行を更新または削除してください。その次に、親の行を更新または削除してください。

SQL code: -532

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10934 複数行の主キーまたはユニーク制約を更新できません。(Cannot update a primary key or unique constraint in multiple rows.)

説明:

U. を使用して一度に複数の行で主キーやユニーク制約を更新することはできません。

ユーザーの処置:

更新要求がデータ行を 1 行だけ選択することを確認してください。

SQL code: -534

DSQ10936 • DSQ11087

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10936 表 &V1.&V2 が影響を受ける可能性があるため、削除は無効です。

説明:

D. を使用して、ある表からの削除を表 &V1.&V2 内の値に基づいて行うことはできません。表 &V1.&V2 がその削除から影響を受ける可能性があるためです。

ユーザーの処置:

影響を受ける可能性がある表の中の値に基づいて、表に対する削除操作を実行しないでください。

SQL code: -536

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10951 照会の実行に必要な権限がありません。

説明:

QBE 照会で次に示す演算子の 1 つが使用されています。したがって、該当する表に対してこの演算子に対応する権限が必要です。

```
D. -- DELETE  
I. -- INSERT  
P. -- SELECT  
U. -- UPDATE
```

ユーザーの処置:

照会に必要な許可を得るために QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -551

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10952 照会の実行に必要な権限がありません。

説明: 『DSQ10951』を参照してください。

SQL code: -552

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ10961 **CONNECT** 権限がなければデータベースを使用できません。

説明:

データベースを使用するためには **CONNECT** 権限が必要です。このセッションで既にデータベースを使用している場合は、作業中に **CONNECT** 権限が他のユーザーによって取り消された可能性があります。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に問題を報告してください。

SQL code: -561

52 DB2 QMF メッセージおよびコード

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11040 図形と混合データ・タイプは現行サーバーによってサポートされていません。

説明:

SQL ステートメントはその文節またはスカラー関数 &V1 を参照しましたが、現行サーバーがそれをサポートしていませんでした。

これは、次のいずれかによります。

- **ALTER** または **CREATE TABLE** ステートメントで **FOR MIXED DATA** 文節を指定したが、現行サーバーのデフォルトの混合 **CCSID** はゼロであった。
- **ALTER** または **CREATE TABLE** ステートメントで図形データ・タイプを指定したが、現行サーバーのデフォルトの図形 **CCSID** がゼロであった。
- **SQL** ステートメントは **VARGRAPHIC** スカラー関数を指定し、現行サーバーのデフォルトの図形 **CCSID** はゼロであった。

ユーザーの処置:

混合、図形、および **VARGRAPHIC** データ・タイプをサポートしているサーバーで SQL ステートメントを出してください。これらのデータ・タイプが現行サーバーに使用されている場合、そのシステムのデフォルト **CCSID** をリセットするよう、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -640

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11068 表 &V1.&V2 にアクセスできません。
&V3 &V4 はアクティブではありません。

説明:

&V3 &V4 はアクティブではないため、表 &V1.&V2 に対して何も操作を実行できません。

ユーザーの処置:

キーがアクティブになった時点で、再度操作を試みてください。

SQL code: -668

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11087 フィールド・プロシージャで定義された列との比較が無効です。**(Invalid comparison with a column defined with a field procedure.)**

説明:

フィールド・プロシージャで定義された列と比較された値のフィールド・タイプが異なります。比較は列の値のエンコード形式で行われます。例えば、列のエンコード値が整数の場合、比較される値のデータ・タイプは同じでなければなりません。ストリングの場合は、そのデータ・タイプは互換性がなければなりません。

ユーザーの処置:

SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQL code: -687

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11101 DBSPACE のデータのために割り振られているスペースがいっぱいです。

説明:

DBSPACE にデータのための十分なスペースがないので、この照会は実行されません。

ユーザーの処置:

表を作成しようとしている場合には、別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示に従ってデータ・スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQL code: -701

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11102 DBSPACE で索引用に割り当てられているスペースがいっぱいです。

説明:

DBSPACE に索引のためのスペースが追加されるまでは、照会は実行されません。

ユーザーの処置:

表を作成しようとしている場合には、別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示に従って索引スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQL code: -702

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11103 DBSPACE のヘッダー情報用のスペースがいっぱいです。

説明:

NHEADER パラメーターによって、ヘッダー情報用として DBSPACE の中で割り振られているスペースが、いっぱいになりました。追加の DBSPACE スペースを

確保しないかぎり、この照会の処理はできません。

ユーザーの処置:

表を作成しようとしている場合には、別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示に従ってヘッダー・スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQL code: -703

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11110 この照会に必要な私用 **DBSPACE** は使用中です。

説明:

専用 DB スペースにアクセスできるのは、同時に 1 人のユーザーのみです。照会の中で要求されている表は、現在使用中の私用 DBSPACE に入っています。

ユーザーの処置:

私用 DBSPACE が使用可能になってから、照会を実行しなおしてください。

SQL code: -710

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11112 INTERNAL DBSPACE に照会を実行するだけの余地がありません。

説明:

QMF は十分な数または十分な大きさの内部 DB スペースを取得できませんでした。照会を簡素化するか、またはそれを 2 つ以上の照会に分割してください。

ユーザーの処置:

QMF のためにもっと多くの INTERNAL DBSPACE を確保するよう、QMF 管理者に依頼してください。

SQL code: -712

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11201 SQL ステートメントの算術演算が、エラーに終わりました。

説明:

ビューを使用しようとしていますが、ビュー定義の副選択文節における算術演算の結果、エラーが発生しました。例外タイプは &V1、演算タイプは &V2、データ・タイプは &V3 です。

ユーザーの処置:

視点の所有者に連絡して、算術演算と視点の副選択文節

DSQ11202 • DSQ11205

列を調べてもらい、どのデータが問題を引き起こしたか判別してください。

SQL code: -801

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11202 SQL コマンドにおける算術演算の結果、例外エラーが発生しました。(An arithmetic operation in the SQL command has resulted in an exception error.)

説明:

SQL コマンドは、掛け算や割り算などの算術演算を実行しようとしたのですが、その結果、次のいずれかの例外が発生しました: FIXED POINT OVERFLOW、DECIMAL OVERFLOW、ZERO DIVIDE、DIVIDE EXCEPTION、EXPONENT OVERFLOW、または OUT OF RANGE。

ユーザーの処置:

コマンド内の算術演算および列を検査して、プログラム例外を起こす可能性があると考えられるデータを判別してください。例えば、1000000 は、INTEGER データ・タイプで定義された列では許容可能な値ですが、1000000 * 1000000 の結果は、INTEGER データ・タイプで定義されたフィールドに格納するには大きすぎます。

SQL code: -802

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11203 固有索引列の中に重複値があります。

説明:

ある値を挿入または更新しようとしている列の 1 つに、その値と同じ値がすでに入っています。その列は「ユニーク索引」列です。ユニーク索引列には、重複する値を指定できません。索引スペースに XML 索引が含まれている場合、重複する値は、XML 文書中の値が原因で発生するか、または、データ・タイプ変換および丸めの結果として発生する可能性があります。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

既存の値と重複しないように値を変更し、照会を再実行してください。

SQL code: -803

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11205 パッケージ &V1 が、カタログ表に見つかりません。

説明:

データベースは、QMF プログラムを実行しようとしたときにカタログ表 SYSTEM.SYSACCESS でパッケージを検出できませんでした。この問題は以下の原因で発生する可能性があります。

- QMF プログラムが正常にプリプロセスされていない。
- コマンドの送信先ロケーションに QMF がインストールされていないため、適切なパッケージが存在しない。
- コマンドに 3 部構成の名前が含まれていたが、コマンドが DB2 for VM または DB2 for VSE サーバーへ送信された。3 部構成の名前が含まれたコマンドは、これらのタイプのサーバーへ送信できません。
- QMF サービスがシステムで現行でないか、またはサービスを適用したがジョブ DSQ1BPKG を再実行しなかった (またはジョブが正常に完了しなかった)。

ユーザーの処置:

この問題を QMF 管理者に報告してください。QMF 管理者は、以下の手順で問題を診断および訂正できます。

- コマンドが送信されたサーバーに QMF がインストールされているかどうかを調べてください。インストールされている場合は、すべてのインストール・ジョブが正常に実行されたこと、およびインストール検査手順のすべてのステップがエラーなしで終了したことを確認します。

CONNECT コマンドなどの QMF コマンドが正しく機能するには、リクエスターとサーバー・データベースの両方でジョブ DSQ1BPKG を実行する必要があります。ジョブで「ssid」(ローカルの DB2 for z/OS リクエスターを識別する)と「location」(リモート・サーバーを識別する)に対して正しい値を入力したことを確認してください。インストール・ロードマップと手順は「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」に記載されています。

- このエラーの原因となったコマンドの処理に関するシステムの QMF サービスが最新であることを確認します。

QMF に必要な QMF 適用業務パッケージに影響するサービスを最近適用した場合は、ジョブ DSQ1BPKG を再実行して、QMF パッケージを再バインドします。CONNECT コマンドが正しく機能するためには、リクエスターとサーバー・データベースの両方で、このジョブを再実行する必要があります。ジョブで「ssid」(ローカルの DB2 for z/OS リクエ

スターを識別する)と「location」(リモート・サーバーを識別する)に対して正しい値を入力したことを確認してください。

このエラーの詳細な説明については、使用中のデータベースのメッセージおよびコード情報を参照してください。

SQL code: -805

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11208 システム・カタログを変更する権限がありません。

説明:

権限を付与されていなければ、システム・カタログを変更することはできません。照会または DISPLAY コマンドを用いてシステム・カタログの読み取りおよびデータの検索を行うことはできます。

ユーザーの処置:

権限が必要であれば、QMF 管理者の指示に従ってください。

SQL code: -808

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11223 システム・カタログに対しこの操作は実行できません。

説明:

要求でシステム・カタログを指定しました。ユーザーはシステム・カタログから削除したり、1 次または外部キーをシステム・カタログに追加したり、システム・カタログを外部キーの親として参照することはできません。

ユーザーの処置:

データベースからオブジェクト "NAME1" を除去する場合、ERASE NAME1 コマンドを入力してください。

SQL code: -823

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11311 データベースの必要な部分が使用中です。

説明:

別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトにアクセスすることはできません。

ユーザーの処置:

QMF セッションを終了し、後で再度サインオンしてください。

SQL code: -911

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11312 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 『DSQ11311』を参照してください。

SQL code: -912

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11314 取り消し要求が出されました。

説明:

CANCEL は、ユーザーあるいはシステムによって出された可能性があります。システムによって出された CANCEL はロック要求ブロックの限界に達したためです。

ユーザーの処置:

必要であれば変更をやり直してください。CANCEL 要求を出していないのに SQLCODE -914 を受け取り続ける場合は、システム・プログラマーに連絡して、アプリケーション・サーバーが開始するときの NLRBU または NLRBS パラメーターを大きくするようにしてください。

SQL code: -914

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11315 システム作業負荷が原因で照会は処理されませんでした。

説明:

データベース・システムの作業負荷のために、いまは照会を処理することができません。

ユーザーの処置:

他の処理を続行し、あとでもう一度照会の実行を試みてください。現在のシステム作業負荷の詳細を知りたい場合には、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQL code: -915

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11316 オペレーターの処置が原因で照会は処理されませんでした。

説明:

システム・オペレーターが照会の処理を中断しました。照会にはエラーはありません。

DSQ11330 • DSQ11343

ユーザーの処置:

その後照会を実行してください。

SQL code: -916

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11330 データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明:

データベース・マネージャーには、ユーザーの照会を実行する十分な仮想記憶域がありません。

ユーザーの処置:

後で、QMF のアクティビティーが少なくなった時点で、再試行してください。同じ状態が続く場合には、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -930

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11333 &V1 への通信パスが使用可能ではありません。

説明:

下記のいずれかの理由によって、データベース &V1 にアクセスできません。

- データベースが停止された。
- データベース接続の最大数 (MAXCONN) を超えた。
- データベース・システム・エラーが発生した。

ユーザーの処置:

データベース名 &V1 が正しいことを検証してください。正しくない場合は、データベース名を訂正して、要求を再試行してください。

DB2 for VM/VSE データベース接続の許可数の制限は、データベース・ディレクトリー内の MAXCONN 値で設定されます。この制限を超えた場合は、後でシステム・アクティビティーが軽いときに要求を試行してください。この状態が頻繁に発生する場合は、MAXCONN 値を増やすように QMF 管理者に依頼してください。

"CONNECT TO <location>" コマンドがサポートされている場合、QMF によって現行ロケーションへの再接続が実行された可能性があります。その場合は、引き続き QMF を使用できます。QMF が再接続を行えない場合、接続喪失プロンプト・パネルから、別ロケーションへの接続を指示するプロンプトが出されます。

SQL code: -933

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11339 データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明: 『DSQ11330』を参照してください。

SQL code: -939

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11340 データベース &V1 が作動可能でないか、または見つかりません。

説明:

下記のいずれかの理由により、このデータベースにはアクセスできません。

- データベースが開始されていない。
- システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

データベース名 &V1 が正しいことを検証してください。正しくない場合は、データベース名を訂正して、要求を再試行してください。

"CONNECT TO <location>" コマンドがサポートされている場合、QMF によって現行ロケーションへの再接続が実行された可能性があります。その場合は、引き続き QMF を使用できます。QMF が再接続を行えない場合、接続喪失プロンプト・パネルから、別ロケーションへの接続を指示するプロンプトが出されます。

SQL code: -940

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11342 データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明: 『DSQ11330』を参照してください。

SQL code: -942

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11343 QMF 仮想計算機 &V2 は、データベース &V1 にアクセスできません。

説明:

QMF 仮想計算機が正しく定義されていません。QMF 計算機の A ディスクにあるファイル ARISRMBT MODULE に、QMF がアクセスしようとしているデータベース・プログラムが記述されていません。

ユーザーの処置:

このメッセージが出たことを QMF 管理者に知らせ、その指示を待ってください。QMF 仮想計算機が正しく定

義されるまでは、何もできることはありません。

SQL code: -943

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11348 データベースへの接続は、オペレーター操作によって切断されました。

説明:

DB2 for VM/VSE データベース・オペレーターが FORCE コマンドを入力したため、現行の作業論理単位の ROLLBACK が引き起こされ、データベースへの接続が切断されました。ユーザー ID、パスワード、およびデータベース名は、すべてデフォルト値にリセットされました。

ユーザーの処置:

継続できます。発行した明示的 CONNECT はすべて、失われました。元の接続を再確立するには、同じユーザー ID を使用して、再度、明示的 CONNECT 要求を発行する必要があります。

SQL code: -948

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11407 名前 &V2 は長すぎます。最大サイズは &V3 です。

説明:

名前 &V2 は長すぎます。データベース・サーバー &LS. でサポートされるこの名前の最大長は &V3 です。

以下の項目名は、< 文字を超えてはいけません。

- SQL 表
- SQL 視点
- SQL 索引
- SQL 別名
- SQL 同義語
- 関数
- ストアード・プロシージャ

SQL 列名は &LC. バイトを超えてはいけません。

ロケーション名は 16 バイトを超えてはいけません。

以下の項目は、&LA. バイトを超えてはいけません。

- 許可 ID
- 表修飾子
- 視点修飾子
- スキーマ名

次の SQLCODE が返されました: &V9

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

短くした名前を指定し、QMF の使用を続けてください。

SQL code: -107

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11419 この視点は使用できません。

説明:

コマンドに指定された視点の定義に次のエラーがあります。

1. SELECT の後に列名と列関数の両方が使用されているが、GROUP BY がない。

Correct: SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF GROUP BY DEPT

2. SELECT の後にリストされた列が、GROUP BY の後がない。

Correct: SELECT DEPT, JOB, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT, JOB
(Not: GROUP BY DEPT)

3. HAVING の後に、グループには適用されない条件がある。

Correct: HAVING MIN(YEARS) > 6
(Not: HAVING YEARS > 6)

4. 式でのグループ値と単一値が混用されている。

Correct: SUM (UNITS * RATE)
(Not: SUM(UNITS) * RATE)

ユーザーの処置:

視点の定義を訂正して、コマンドを再入力してください。

SQL code: -119

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11429 指定されている表には列が多すぎます。

説明:

指定表中には、次の項目が限界値を超えています。

Selected columns 255

ユーザーの処置:

コマンドを修正して限界値と一致させてください。

SQL code: -129

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11441 挿入または更新の値がビュー定義を満たしません。(Insert or update value does not satisfy view definition.)

説明:

&V1 コマンドは、"WITH CHECK OPTION" 文節を使用している視点の挿入または更新を試みました。このビューにおいて試みられる行の挿入や更新はすべて、結果がビュー定義に従っていることを確認するために検査されます。挿入または更新を試みた値は定義の条件を満たしていません。

ユーザーの処置:

ビュー定義を調べて、変更が拒否された原因を判別してください。次に、処理を試みようとした &V1 コマンドの値を変更してください。

SQL code: -141

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11449 指定されたオブジェクトを変更することができません。

説明:

指定されたオブジェクトは、複数の表に基づくビューです。ビューが複数の表に基づく場合、ビューの挿入、削除、更新は許可されません。

ユーザーの処置:

指定した表または視点の名前が正しいかどうかを確認してください。

SQL code: -149

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11450 この視点では &V1 を用いることはできません。

説明:

コマンドを実行すると QMF が以下の処理を行わなければならない場合、ビューはそのようなコマンドでは指定できません。

- 以下のような挿入、更新、または削除
 - Data from more than one table.
 - A column defined by a built-in function (like SUM(COMM)).
 - Data selected by HAVING, DISTINCT, or GROUP BY clauses.
- 式によって (例: SALARY/12) 定義される列へのデータの挿入または更新
- ビューに基づいている表において NOT NULL として定義されている列に NULL 値を挿入

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

ビューの作成に使用される表を変更する照会を複数に分けて作成し、それらの照会を実行してください。

SQL code: -150

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11451 列 &V2 は変更できません。

説明:

&V1 コマンドは REPLACE オプションを指定して実行できません。それは、次の列の内容を変更します。

1. 複数の表に基づく視点
2. 式または組み込み関数によって定義される列を含む視点 例: UNITS*PRICE または AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントによって定義されたビュー
4. 表スペースの区分化キー
5. 列が更新されないカタログ表

ユーザーの処置:

保管するデータの新しい名前を選択し、新しい表として保管してください。

SQL code: -151

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11454 この視点では &V1 を用いることはできません。

説明: 『DSQ11450』を参照してください。

SQL code: -154

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11465 ブランクで始まるか、終わる名前を二重引用符で囲むことはできません。

説明:

先頭または末尾に空白がある二重引用符付きの名前がコマンドに含まれています。データベースに、このような形式の名前を持つことはできません。

ユーザーの処置:

タイプ・エラーと思われます。訂正を行って、コマンドを再発行してください。リスト・パネルからこのコマンドを入れた場合には、コマンドの形式が正しかったかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する場合の詳細については、リスト・パネルでヘルプ・ファンクション・キーを押してください。

SQL code: -165

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11480 &V1 コマンドが、無効な日時値を参照しました。

説明:

この問題は、コマンドが、ビュー定義内に無効な日時値を含むビューを参照したときに発生する可能性があります。

DATE データ・タイプで定義されたデータのストリング表記は、以下の形式 (またはローカルに定義された形式) でなければなりません。

```
'mo/dd/yyyy'
'dd.mo.yyyy'
'yyyy-mo-dd'
```

mo は月、dd は日、yyyy は年を表します。

TIME データ・タイプで定義されたデータのストリング表記は、以下のいずれかの形式 (またはローカルに定義された形式) でなければなりません。

```
'hh:mm xM'
'hh.mm.ss'
'hh:mm:ss'
```

hh は時、mm は分、ss は秒、x は AM または PM の表記を示す A または P を表します。

TIMESTAMP データ・タイプで定義されたデータのストリング表記は、以下の形式でなければなりません。

```
'yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.nnnnnnnnnnn'
```

形式の日付、時刻、およびタイム・スタンプ部分は前述のとおりで、nnnnnnnnnnnn は秒数の小数部分を表す 0 桁から 12 桁の値です。

TIMESTAMP WITH TIME ZONE データ・タイプで定義されたデータのストリング表記は、以下の形式でなければなりません。

```
'yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.nnnnnnnnnnnzth:tm'
```

形式の日付、時刻、およびタイム・スタンプ部分は前述のとおりです。z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号、th は時間帯の時、tm は時間帯の分です。時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

&V1 コマンドが視点を参照している場合は、視点定義内の日時値の形式を修正して、コマンドを再実行してください。

SQL code: -180

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11504 &V2.&V3 が見つかりません。

説明:

&V3 は、データベース内に &V2 が所有しているものの名前ではありません。&V1 コマンドに、表 &V2.&V3 に基づく同義語が指定されていると考えられます。この表はもはやデータベースにありません。したがって、この表に基づく同義語を使用するコマンドも、実行できません。

ユーザーの処置:

別の操作を続行してください。

SQL code: -204

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11505 列名 &V1 は表 &V2 の中にありません。

説明: 47 ページの『DSQ10605』を参照してください。

SQL code: -205

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11630 1 つ以上の変換された文字が使用可能ではありません。

説明:

&V1 コマンドは、アプリケーション・サーバーに適合するコードに変換する必要がある文字ストリングを参照しましたが、データ表示における不一致が原因で変換を行うことができませんでした。文字ストリングが対応する列のデータ・タイプと互換性がありません。指定された文字ストリングをそのまま使用できません。

ユーザーの処置:

コマンドが正しいかどうか検査してください。コマンドが正しくない場合は、必要な変更を行い、コマンドを再実行してください。または、QMF 管理者に相談してください。

SQL code: -330

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11632 互換性のない CCSID によって文字ストリングは変換されませんでした。

説明:

&V1 コマンドは、現行文字セットと違ったコード化文字セットの中にあるコード化文字セット ID (CCSID)

&V2 を持つ文字ストリングを参照しました。 現行サーバーでこの文字ストリングを使用するには、この文字ストリングは、ソース CCSID &V2 からターゲット CCSID &V3 に変換されなければなりません。

しかし、この CCSID ペアに関する変換ルールは SYSSTRINGS システム表に定義されていません。 したがって、データベース・システムは文字ストリングをアプリケーション・サーバーに適合するコードに変換できません。

理由コード &V4 のこのエラーの詳細については、使用しているデータベースの「メッセージおよびコード」マニュアルを参照してください。

ユーザーの処置:

コマンドが正しいかどうか検査してください。 正しくない場合、必要な変更を行って、再度コマンドを出してください。 または、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQL code: -332

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11651 位置 &V2 のデータ・タイプはサポートされていません。

説明:

アプリケーション・リクエストによりサポートされない SQL データ・タイプがあります。 &V2 は、サポートされないデータ・タイプをもつ SQLDA の最初の要素の位置です。 このエラーの一般的な原因は、アプリケーション・リクエストがアプリケーション・サーバーに接続し、そのアプリケーション・サーバーに属するデータ・タイプを記述しようとしたことです。 このエラーの原因となる SQLTYPE には、CLOB、BLOB および DBCLOB があります。

ユーザーの処置:

サポートされないデータ・タイプを除去し、照会を再実行してください。

SQL code: -351

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11707 この視点では &V1 を用いることはできません。

説明: 58 ページの『DSQ11450』を参照してください。

SQL code: -407

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11830 外部キーの値が無効です。

説明:

コマンドで置き換えられる表に外部キーがあります。 新しいデータには、外部キー &V2.&V3 の値が含まれていますが、それは親表の主キーのどの値にも等しくありません。

データベースによって外部キーの参照制約の名前が提供されている場合、その名前は &V2.&V3 です。

ユーザーの処置:

表を、新しいデータで置き換えることはできません。 データを新しい表として保管してください。

SQL code: -530

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11832 RESTRICT の指定のために、表を置き換えることができません。

説明:

置き換えようとした表には主キーが定義されています。 そのような表を置き換えるには、既存の行および主キーを削除しなければなりません。 ただし、RESTRICT が 1 つ以上の下位表に対して指定されたため、主キーの値は削除できません。

ユーザーの処置:

データを新しい表として保管するか、またはすべての従属表に関する制約規則を再検査してください。

SQL code: -532

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11850 SYSTEM を所有者として作成することはできません。

説明:

例えば、次のようなステートメントの入った照会を実行することはできません。

```
(Incorrect) CREATE TABLE SYSTEM.NEWTABLE .....
```

また、次のようなコマンドを出すこともできません。

```
(Incorrect) SAVE DATA AS SYSTEM.NEWTABLE
```

ユーザーの処置:

この操作は行わないようにしてください。

SQL code: -550

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11851 この &V1 コマンドを使用するために必要な権限がありません。

説明:

必要な特権がご使用のユーザー ID にないため、&V1 コマンドを発行できません。必要な特権は次のとおりです。

- DRAW、DISPLAY、EXPORT、および PRINT コマンドには、コマンドで参照される表または視点に対して SELECT 特権が必要です。
- QMF 管理者でない場合は、所有するオブジェクトのみに対して ERASE コマンドを発行できます。
- ACTION=APPEND オプションを指定して SAVE または IMPORT コマンドを発行するには、表または視点に対して SELECT および INSERT 特権が必要です。ACTION=REPLACE オプションを指定して (またはオプションなしで) SAVE または IMPORT コマンドを発行するには、既存の表に対する SELECT 特権が必要なほか、表を保持する表スペース (定義されていない場合) を作成する権限と、表を作成する権限の両方が必要です。

このメッセージは、XML タイプ修飾子に XML スキーマが 2 度以上指定されている場合にも発行されることがあります。

ユーザーの処置:

発行しようとしているコマンドに対して必要となる許可がない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

作業中の表に XML 列が含まれている場合は、XML 列を変更して、そのタイプ修飾子から XML スキーマを削除してください。

SQL code: -551

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11852 この &V1 コマンドを使用するために必要な権限がありません。

説明: 『DSQ11851』を参照してください。

SQL code: -552

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11860 CONNECT 権限がなければデータベースを使用できません。

説明:

データベースを使用するためには CONNECT 権限が必要です。

このセッションで既にデータベースを使用している場合

は、作業中に CONNECT 権限が他のユーザーによって取り消された可能性があります。

CONNECT コマンドを使用しようとしていた場合は、指定したユーザー ID やパスワードが無効でした。

データベースを既に使用していて、CONNECT を使用して別の ID に切り替えたとき、再び元の ID に切り替えたい場合は、そのユーザー ID に明示的に切り替える権限はなくてもかまいません。そのユーザー ID を使用して QMF を開始していれば、暗黙的に接続されています。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に問題を報告してください。

SQL code: -560

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11861 CONNECT 権限がなければデータベースを使用できません。

説明: 『DSQ11860』を参照してください。

SQL code: -561

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11864 CONNECT 権限がなければデータベースを使用できません。

説明: 『DSQ11860』を参照してください。

SQL code: -564

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11901 同じ名前のオブジェクトがすでにあります。

説明:

作成しようとしているオブジェクトの名前、または取得しようとしている DB スペースの名前は既に存在しています。

ユーザーの処置:

名前を、データベースに存在しない名前に変更して、照会を再実行してください。

SQL code: -601

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11904 データ長、位取り、または精度が無効な列があります。

説明:

保管しようとしているデータ、またはエクスポートしよ

DSQ11907 • DSQ11968

うとしている表に、ゼロか、データベースでサポートしている最大値を超えたデータ長、10 進位取り、または精度があります。

ユーザーの処置:

SAVE DATA を処理しようとして、しかも保管したいデータが照会を実行して、検索したものであれば、照会でデータ長がゼロの列を選択した可能性があります。照会を変更して、この列を選択しないようにして、照会を再実行してください。

すでにインポートした表、データを IMPORT、または SAVE しようとしている場合は、データベースがサポートしている最大長を超える精度が指定された 10 進数の列がデータにあった可能性があります。データ形式を変更して、データベースの制限に精度を合わせてください。

SQL code: -604

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11907 データを保管するスペースがありません。

説明:

プロファイルで指定された DBSPACE には、すでに 255 の表が入っています。

ユーザーの処置:

プロファイルに異なる DBSPACE を入れるか、または表を消去して入力用のスペースを解放してください。

SQL code: -607

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11908 &V1 のために使用できる DBSPACE がありません。

説明:

次のいずれかの状況が生じています。

1. プロファイルで DBSPACE が指定されておらず、私用 DBSPACE もない。
2. プロファイルで指定されている DBSPACE を使用する権限がない。
3. 使用できる DBSPACE がいっぱいになっている。
4. プロファイルで指定されている DBSPACE が存在していない。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡して、正しい DBSPACE を獲得してください。

SQL code: -608

Database: DB2 Server for VSE & VM

62 DB2 QMF メッセージおよびコード

DSQ11910 プロファイルに指定した SPACE 中の表に &V1 を行えません。

説明:

プロファイルにおいて指定されているスペースは別のユーザーまたはシステムによって所有されています。あなたには、その中の表に対して &V1 を行う権限がありません。

ユーザーの処置:

コマンド SET (SPACE=tablename を QMF オブジェクト・パネルから使用するか、プロファイル中の SPACE の値を変更して、表スペースの名前を変更してください。またはインストール先の手続きに従って、ほかのユーザーが所有する表スペースを使用する権限を得てください。

SQL code: -610

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11920 表に使用可能な私用 DBSPACE がありません。

説明:

プロファイルに指定されている SPACE 値がブランクに設定されています。専用 DB スペースがありません。&V1 コマンドを発行した場合は、その結果、CREATE TABLE ステートメントが実行され、&V2 が所有する私用 DBSPACE を見つけるための検索が実行されました。

DBSPACE が見つからなかったか、いっぱいであったか、あるいは回復不能記憶域プールに入っていたかのいずれかです。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡をして、プロファイル中の SPACE 値に使用できる有効な DBSPACE を得るか、または私用 DBSPACE を作成してください。

SQL code: -620

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ11968 &V4 &V5 はアクティブではありません。

説明:

&V4 &V5 がアクティブでないため、表 &V2.&V3 に対して &V1 を実行できません。

ユーザーの処置:

キーがアクティブになった時点で、再度操作を試みてください。

SQL code: -668

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12001 &V1 の実行に必要な十分な **DBSPACE** スペースがありません。

説明:

DBSPACE に十分な使用可能スペースがないので、&V1 を実行することができません。

ユーザーの処置:

新しい表を保管しようとしている場合には、プロファイルの SPACE オプションで別の DBSPACE を指定してください。データを挿入する余地がなくても、指定した表は &V1 コマンドによって作成されてしまっているので、まずその表を消去する必要があります。

既存の表を保管する場合に、その表を消去すると、既存の権限、ビュー、または索引が失われてしまうおそれがあります。既存の表を削除し、もっと大きい DBSPACE を使用したい場合には、上記に従って、表を消去し、プロファイルの SPACE オプションを変更してください。その他の場合には、QMF 管理者に連絡して詳しい情報を調べてください。

SQL code: -701

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12002 **DBSPACE** で索引用に割り当てられているスペースがいっぱいです。

説明:

DBSPACE に索引に必要な新たなスペースが追加されるまでは、&V1 コマンドを実行することはできません。

ユーザーの処置:

新しい表を保管しようとしている場合には、プロファイルの SPACE オプションで別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示に従って索引スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQL code: -702

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12003 **DBSPACE** でヘッダー情報に割り当てられているスペースがいっぱいです。

説明:

NHEADER パラメーターによって、ヘッダー情報用として DBSPACE の中で割り当てられているスペースが、いっぱいになりました。追加の DBSPACE を確保しないかぎり、&V1 の処理はできません。

ユーザーの処置:

新しい表を保管しようとしている場合には、プロファイルの SPACE オプションで別の DBSPACE を指定してください。その他の場合には、QMF 管理者の指示に従ってヘッダー・スペースを大きくして、照会を再実行してください。

SQL code: -703

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12010 要求された私用 **DBSPACE** は使用中です。

説明:

コマンドの実行に必要な私用 DBSPACE は、一時点で 1 人のユーザーしか使用することができません。

ユーザーの処置:

あとで私用 DBSPACE が使用可能になった時点で、&V1 コマンドを再入力してください。

SQL code: -710

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12012 &V1 の実行に必要な十分な余地が **INTERNAL DBSPACE** 内にありません。

説明:

QMF は十分な数または十分な大きさの内部 DB スペースを取得できませんでした。コマンドが視点を使用している場合には、その視点の改訂によって、そのコマンドの簡素化ができることもあります。

ユーザーの処置:

QMF のためにもっと多くの INTERNAL DBSPACE を確保するよう、QMF 管理者に依頼してください。

SQL code: -712

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12101 視点定義の算術演算が、エラーに終わりました。

説明:

&V1 コマンドは視点を参照しています。ビュー定義の副選択文節における算術演算の結果、エラーが発生しました。例外タイプは &V2、操作タイプは &V3、データ・タイプは &V4 です。

ユーザーの処置:

視点の所有者に連絡して、算術演算と視点の副選択文節列を調べてもらい、どのデータが問題を引き起こしたか判別してください。

DSQ12102 • DSQ12123

SQL code: -801

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12102 SQL コマンドの算術演算で、エラーが発生しました。

説明:

SQL コマンドで乗算または除算のような算術演算を行うおとしました。しかし、コンピューターは選択された列で 1 つ以上の値が無効であることを検出しました。例えば、乗算の結果がコンピューター内部記憶域を超えたか、0 による除算になっています。

ユーザーの処置:

コマンド内の算術演算および列を検査して、プログラム例外を起こす可能性があると考えられるデータを判別してください。

SQL code: -802

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12103 固有索引列の中に重複値があります。

説明:

コマンドによって変更されようとしている列の 1 つに、挿入されようとしている値と同じ値が含まれています。その列は「ユニーク索引」列です。ユニーク索引列には、重複する値を指定できません。索引スペースに XML 索引が含まれている場合、重複する値は、XML 文書中の値が原因で発生するか、または、データ・タイプ変換および丸めの結果として発生する可能性があります。 &V1 コマンドは実行されませんでした。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

既存の値と重複しないように値を変更し、照会を再実行してください。

SQL code: -803

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12105 パッケージ &V2 が、カタログ表に見つかりません。

説明:

データベースは、QMF プログラムを実行しようとしたときにカタログ表 SYSTEM.SYSACCESS でパッケージを検出できませんでした。これは次の原因で起こりません。

- QMF プログラムが正常にプリプロセスされていない。

- QMF が接続先のロケーションにインストールされていない。

ユーザーの処置:

ご使用のデータベース用のメッセージとコードの資料を参照して詳細を調べ、この問題を QMF 管理者に報告してください。

SQL code: -805

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12108 システム・カタログを変更する権限がありません。

説明:

権限を付与されていない場合は、システム・カタログを変更することはできません。SQL の照会ステートメントを用いて、カタログの読み取りとデータの検索を行うことはできます。"&V1" コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置:

権限が必要であれば、QMF 管理者の指示に従ってください。

SQL code: -808

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12115 アカウンティング・ユーザー出口ルーチンによって接続が拒否されました。

説明:

データベースへの接続の試行は、インストール先システムのアカウント・ユーザー出口ルーチンによって拒否されました。

ユーザーの処置:

QMF 管理者を参照してください。

SQL code: -815

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12123 システム・カタログの &V1 はできません。

説明:

操作が許可されていません。どのユーザーにも、この操作を行う権限はありません。

ユーザーの処置:

この操作は行わないようにしてください。

SQL code: -823

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12136 現行ロケーションで接続を行う際にユーザー ID を使用することはできません。

説明:

現行ロケーションまたはターゲット・ロケーションでサポートされていないため、CONNECT コマンド内でユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方を使用することはできません。

この状況で発行できる有効な CONNECT コマンドは、次のものだけです。

```
CONNECT TO <location>
```

ユーザーの処置:

現行ロケーションおよびターゲット・ロケーションに対して CONNECT コマンドが正確であることを確認してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQL code: -836

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12200 QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明:

前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。引き続き QMF を使用したい場合は再接続を試行できます。あるいは、QMF の終了を選択することができます。

ユーザーの処置:

別のロケーションに接続することを選択した場合は、有効なロケーションに接続するための正しい値を入力してください。そうでない場合、QMF を終了する必要があります。

SQL code: -900

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12211 データベースの必要な部分が使用中です。

説明:

別のユーザーが処理を完了するまでは、データベース中の必要なオブジェクトにアクセスすることはできません。

ユーザーの処置:

QMF セッションを終了し、後で再度サインオンしてください。

SQL code: -911

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12212 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 『DSQ12211』を参照してください。

SQL code: -912

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12214 取り消し要求が出されました。

説明: 55 ページの『DSQ11314』を参照してください。

SQL code: -914

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12215 システム作業負荷が原因で &V1 は処理されませんでした。

説明:

QMF システムの作業負荷のために、現在 &V1 を実行することができません。

ユーザーの処置:

ほかの操作を続行し、あとでもう一度 &V1 を試みてください。現在のシステム作業負荷の詳細を知りたい場合には、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQL code: -915

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12216 オペレーターの処置が原因で &V1 は実行されませんでした。

説明:

システム・オペレーターが &V1 の処理を中断しました。コマンドは正しく指定されましたが、処理されませんでした。

ユーザーの処置:

コマンドを再入力してください。

SQL code: -916

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12230 データベース・マネージャーは仮想記憶域を使い果たしました。

説明:

データベース・マネージャーにはユーザーの &V1 コマンドを実行するには十分な仮想記憶域がありません。

ユーザーの処置:

DSQ12233 • DSQ12243

後で、QMF のアクティビティーが少なくなった時点で、再試行してください。同じ状態が続く場合には、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -930

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12233 &V2 への通信パスが使用可能ではありません。

説明:

下記のいずれかの理由によって、データベース &V2 にアクセスできません。

- データベースが停止された。
- データベース接続の最大許可数 (MAXCONN) を超えた。
- "CONNECT TO &V2" を発行しようとしたが、通信プロトコルはリクエスター側で DRDA に設定されており、サーバー &V2 はこのプロトコルをサポートしていない。
- "CONNECT TO &V2" を発行しようとしたが、通信プロトコルは SQLDS に設定されており、異種サーバー &V2 への接続は許可されない。
- DB2 for VM/VSE システム・エラーが発生した。

ユーザーの処置:

"CONNECT TO &V2" コマンドを発行した場合は、ロケーション名 &V2 が正しく、通信ディレクトリーに定義済みであることを検証してください。正しくない場合は、修正し、再度試みてください。それ以外の場合は、正しい通信プロトコルについて QMF 管理者に問い合わせてください。

データベース接続の許可数の制限は、DB2 for VM/VSE ディレクトリー内の MAXCONN 値で設定されます。この制限を超えた場合は、後でシステム・アクティビティーが軽くなってからコマンドを試してください。この状態が頻繁に発生する場合は、MAXCONN 値を増やすように QMF 管理者に依頼してください。

"CONNECT TO <location>" コマンドがサポートされていて、CONNECT 以外のコマンドを発行した場合は、QMF によって現行ロケーションへの再接続が試行された可能性があります。その場合は、引き続き QMF を使用してください。そうでない場合は、接続喪失プロンプト・パネルが別のロケーションに接続するよう指示します。

SQL code: -933

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12239 データベース・マネージャーは仮想記憶域を使い果たしました。

説明: 65 ページの『DSQ12230』を参照してください。

SQL code: -939

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12240 データベース &V2 が作動可能でないか、または見つかりません。

説明:

下記のいずれかの理由により、このデータベースにはアクセスできません。

- データベースが開始されていない。
- システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

"CONNECT TO &V2" コマンドを発行した場合は、ロケーション名 &V2 が正しく、通信ディレクトリーに定義済みであることを検証してください。正しくない場合は、修正し、再度試みてください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

"CONNECT TO <location>" コマンドがサポートされていて、CONNECT 以外のコマンドを発行した場合は、QMF によって現行ロケーションへの再接続が試行された可能性があります。その場合は、引き続き QMF を使用してください。そうでない場合は、接続喪失プロンプト・パネルが別のロケーションに接続するよう指示します。

SQL code: -940

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12242 データベース・マネージャーは仮想記憶域を使い果たしました。

説明: 65 ページの『DSQ12230』を参照してください。

SQL code: -942

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12243 QMF 仮想計算機 &V3 は、データベース &V2 にアクセスできません。

説明:

QMF 仮想計算機が正しく定義されていません。QMF 計算機の A ディスクにあるファイル ARISRMBT MODULE に、QMF がアクセスしようとしているデータベース・プログラムが記述されていません。

ユーザーの処置:

このメッセージが出たことを QMF 管理者に知らせ、その指示を待ってください。QMF 仮想計算機が正しく定義されるまでは、何もできることはありません。

SQL code: -943

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12248 データベースへの接続は、オペレーター操作によって切断されました。

説明:

DB2 for VM/VSE データベース・オペレーターが FORCE コマンドを入力したため、現行の作業論理単位の ROLLBACK が引き起こされ、データベースへの接続が切断されました。ユーザー ID、パスワード、およびデータベース名は、すべてデフォルト値にリセットされました。

ユーザーの処置:

継続できます。発行した明示的 CONNECT はすべて、失われました。元の接続を再確立するには、同じユーザー ID を使用して、再度、明示的 CONNECT 要求を発行する必要があります。

SQL code: -948

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12301 照会が長すぎるか、または複雑すぎます。

説明:

SQL ステートメントが長すぎるか、または複雑すぎて、解釈することができません。これは、次のものの数を減らすことによって簡素化できます。

1. あるデータ・タイプから別のデータ・タイプへの変換
2. 10 進演算
3. 挿入される定数
4. 組み込み関数

140 を超える列、または 4070 文字より幅広い行を持つ視点を定義することもできます。

ユーザーの処置:

照会を短くするか、または 2 つ以上の照会として書き直してください。この問題が続く場合、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -101

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12302 データが最大長を超えています。引用符を検査してください。

説明:

文字定数は引用符で囲んでください。引用符で囲むことを省略すると、データは最大長 &LE を超えてしまいます。

ユーザーの処置:

データを訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -102

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12303 &V1 は数字で始まっていますが、有効な数値ではありません。

説明: 41 ページの『DSQ10503』を参照してください。

SQL code: -103

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12304 &V1 またはその近くにあるものが無効です。

説明:

次のような原因が考えられます。

- 1 つまたは複数の無効な文字がある。
- 照会の後に余分な入力が続いている。
- 名前が下線で始まっている。
- 長さゼロの (二重引用符で囲まれた) 名前がある。
- 数値が必要な箇所に非数値がある。
- 照会の中の最後の語の後に、何か欠落している。
- UPDATE を使用していて、SET キーワードの後に副照会がある。
- CREATE DATABASE ステートメントが 'AS TEMP' 文節を指定している。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

照会の内容を調べ、必要な訂正を加えた上で再実行してください。

SQL code: -104

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12305 &V2 は &V1 の後に続けられません。

説明:

次のような原因が考えられます。

1. &V2 の指定の順序に誤りがある。(例えば、WHERE は ORDER BY の後には指定できません)
2. &V1 または &V2 が予約語であるのに誤って使用した。例えば、列名に FROM を用いることはできません。SQL 予約語のリストについては、DB2 QMF 解説書を参照してください。
3. &V2 が文字定数のつもりで指定されている。文字定数にするためには、引用符で囲まなければなりません。
4. リストの中で、次の例のようにコンマが抜けている。SELECT COLUMNA COLUMNB

ユーザーの処置:

照会を変更して、実行し直してください。

SQL code: -105

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12306 照会の終わりに、何らかの欠落があります。

説明:

欠落している項目は、単一の引用符からいくつかの行に至るまで、あらゆるものが考えられます。次の例に示すような終わり方をする照会を実行しようとすると、このメッセージが出されます。

```
... WHERE JOB = 'SALES' (Missing quote)
... WHERE JOB          (Condition incomplete)
... ORDER BY           (Column list missing)
... FROM               (Table name and everything
                       after is missing)
```

ユーザーの処置:

照会を完全にして、再実行してください。

SQL code: -106

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12307 &V1 が長すぎます。最大許容サイズは &V2 です。

説明:

最大長を超える長さの名前が照会に含まれています。この名前の長さを決める場合は、EBCDIC 文字は 1 バイトで、DBCS 文字は 2 バイトです。

表名または視点名の修飾子は 8 バイトの長さを超えることができません。

ユーザーの処置:

&V1 を短くして、照会を再実行してください。

SQL code: -107

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12308 &V1 が長すぎます。最大許容サイズは &V2 です。

説明: 『DSQ12307』を参照してください。

SQL code: -108

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12310 &V1 は関数ではありません。

説明:

関数には、AVG、MAX、MIN、SUM、COUNT、DATE、TIME、TIMESTAMP、YEAR、MONTH、DAY、HOUR、MINUTE、SECOND、MICROSECOND、CHAR、DAYS などがあります。&V1 がこれらの内のどれかである場合は、その関数が指定されているステートメントの句読点が正しいことを確認してください。例えば、

```
SELECT MIN(PRICE), MAX(PRICE) is correct.
SELECT DATE('1996-10-01') - 10102433. is correct.
```

ユーザーの処置:

関数の名前またはステートメントの句読点を変更し、照会を再び実行してください。

SQL code: -110

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12311 列関数が、列名を使用していません。

説明:

列関数 AVG、MAX、MIN、および SUM は、アクセスされた表の列名を含む式に対して動作しなければなりません。

```
Correct: SELECT SUM (SALARY * 1.15) FROM Q.STAFF
Incorrect: SELECT SUM (18000 * 1.15) FROM Q.STAFF
```

ユーザーの処置:

すべての列関数が処理する列を持っていることを確認して、照会を再実行してください。

SQL code: -111

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12312 列関数が使用する式が無効です。

説明:

列関数は、AVG、COUNT、MAX、MIN、および SUM

です。これらの列関数の式に別の列関数を含んではなりません。

Correct: AVG(UNITS * PRICE)
Incorrect: AVG(UNITS * MAX(PRICE))

ユーザーの処置:

列関数が正しい式になるように訂正して、照会を再実行してください。

SQL code: -112

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12314 指定した 3 部分名が無効です。

説明:

&V1 のロケーション修飾子が接続ロケーション &V2 の名前と一致しません。DB2 for VM/VSE は、現行ロケーションに一致するロケーション修飾子の 3 部構成名のみをサポートします。

ユーザーの処置:

QMF CONNECT コマンドを発行して、指定されたロケーションに接続してから、照会アクティビティを続行してください。

SQL code: -114

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12315 &V1 の使用法に誤りがあります。

説明:

'>' または '=' などの単純比較演算子の後には、項目のリストを続けることはできません。ANY および ALL 比較演算子の後には、式や項目のリストではなく、副選択を続ける必要があります。以下に例を示します。

Correct: WHERE SALARY > ALL (SELECT COMM FROM Q.STAFF)
Incorrect: WHERE SALARY > ALL (10000)

ユーザーの処置:

&V1 の使用法を変更し、照会を再実行してください。

SQL code: -115

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12316 データベースのラベルが長すぎます。

説明:

列または表のラベルの長さが、上限である 30 バイトを超えています。EBCDIC の 1 文字は 1 バイト、DBCS の 1 文字は 2 バイトとして数えます。

ユーザーの処置:

ラベルを短くして照会を実行し直してください。

SQL code: -116

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12317 値の数と列の数が一致しません。

説明:

例えば INSERT INTO Q.STAFF などのステートメントでは、NOT NULL と定義された各列に値を指定しなければなりません。

表名のあとに列のリストを指定しない場合には、VALUES のあとに、表内の各列に関する値を指定します。

表名の後に列のリストを指定する場合には、VALUES の後にそのリストの中の各列に関する値を指定します。

Example: INSERT INTO Q.STAFF (ID, NAME, DEPT)
VALUES (400, 'HARRISON', 20)

ユーザーの処置:

INSERT INTO によって処理したい個々の列に値を指定して、照会を再実行してください。

SQL code: -117

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12318 副照会の中で使用される表を変更することはできません。

説明:

ここでいう変更には、INSERT、UPDATE、および DELETE があります

Incorrect:
INSERT INTO Q.STAFF
SELECT * FROM Q.STAFF WHERE YEARS > 7

上記の例では、受け取るデータの出所である表を変更しようとしています。

ユーザーの処置:

副照会に使用されている表が変更されることのないような形に照会を訂正するか、またはその表を変更するための別個の照会を作成してください。

SQL code: -118

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12319 グループ化に矛盾があります。

説明:

次のいずれかの状況が起きています。

1. SELECT に列名と列関数があるが、GROUP BY がない。

Correct: SELECT DEPT, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF GROUP BY DEPT

2. SELECT の後にリストされた列が、GROUP BY の後がない。

DSQ12320 • DSQ12325

```
Correct: SELECT DEPT, JOB, AVG(SALARY) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT, JOB
(Not: GROUP BY DEPT)
```

(SELECT の後に * を用いた場合には、GROUP BY の後にすべての列名をリストしなければなりません。)

3. HAVING キーワードの後に、グループには適用されない条件がある。

```
Correct: HAVING MIN(YEARS) > 6
(Not: HAVING YEARS > 6)
```

4. 式でのグループ値と単一値が混用されている。

```
Correct: AVG (UNITS * PRICE)
(Not: AVG(UNITS) * PRICE)
```

5. GROUP BY の後に、リストした列は定数、式、または関数から引き出した視点列である。
6. HAVING が GROUP BY を付けずに指定されている。

ユーザーの処置:

SQL ステートメントを訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -119

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12320 組み込み関数またはグループ化列の使用法に誤りがあります。

説明:

副照会の一部として使う場合、または、索引定義のキー式で使う場合を除き、WHERE または SET キーワードの後に組み込み関数 (AVG、COUNT、MAX、MIN、または SUM) を使用することはできません。

```
Correct: WHERE YEARS > (SELECT AVG(YEARS) FROM Q.STAFF)
Incorrect: WHERE YEARS > AVG(YEARS)
```

照会でビューを参照する場合、そのビューの定義において GROUP BY の後に指定されている列は照会の条件で使用できません。例えば、ビューの定義において GROUP BY の後に DEPT が使用されている場合、次の構文は正しくありません。

```
SELECT DEPT, SUM(SALARY) FROM viewname
WHERE DEPT = 20
```

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

照会を訂正し、再実行してください。照会で視点をを用いる場合は、視点のもととなっている表から選択するように照会を書いてください。

SQL code: -120

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12321 同一の照会で同じ列を二度変更することはできません。

説明:

「変更」には INSERT および UPDATE が含まれません。無効な指定の例を次に示します。YEARS は一度しか変更することはできません。

```
Incorrect:
INSERT INTO Q.STAFF (ID, YEARS, JOB, YEARS)
VALUES (400, 7, 'clerk', 8)
```

ユーザーの処置:

一度の変更だけですむように SQL ステートメントを訂正し、再度実行してください。

SQL code: -121

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12322 グループ化に矛盾があります。

説明: 69 ページの『DSQ12319』を参照してください。

SQL code: -122

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12324 ORDER BY の後に指定できるのは最大 16 列までです。

説明:

名前または整数によって参照される列が ORDER BY リストに 17 個以上含まれています。指定できる列の最大数は 16 です。

ユーザーの処置:

ORDER BY 文節中で参照される列の数を 16 以下に減らし、照会を再実行してください。

SQL code: -124

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12325 列 &V1. は ORDER BY に指定できません。

説明:

SELECT の後のリストに &V1 という列はありません。(列番号は、SELECT の後のリストにおける列の位置を示します。例えば、リストされている列が 8 つもないのに、列 8 を指定することはできません。)

ユーザーの処置:

照会を訂正して、再実行してください。

SQL code: -125

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12327 **DISTINCT** は、1 つの照会中では一度しか使用できません。

説明:

DISTINCT の使用例:

Correct: `SELECT AVG(DISTINCT SALARY), DEPT FROM STAFF
GROUP BY DEPT
HAVING AVG(SALARY) > 16000`

Incorrect: `SELECT AVG(DISTINCT SALARY), DEPT FROM STAFF
GROUP BY DEPT
HAVING AVG(DISTINCT SALARY) > 16000`

ユーザーの処置:

照会の中の **DISTINCT** を 1 つだけ残して他をすべて除去し、照会を再実行してください。

SQL code: -127

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12328 **NULL** は、**IS** または **IS NOT** とともに使用してください。

説明:

WHERE 文節内の **IN** に続くリストの中の項目として **NULL** を用いることはできません。次に例を示します。

```
WHERE AMT IN (20,50,NULL) is wrong, but
WHERE AMT IN (20,50) OR AMT IS NULL is OK.
```

ユーザーの処置:

NULL の構文を訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -128

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12329 照会で使用している表または列の数が多すぎます。

説明: 43 ページの『DSQ10529』を参照してください。

SQL code: -129

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12330 **SELECT** を 2 回使用する場合には、括弧が必要です。

説明:

照会において、副照会と呼ばれる別の照会によって計算される値または値セットが参照されています。照会全体の中の副照会部分は括弧で囲まなければなりません。

ユーザーの処置:

(**SELECT**.....) のように、副照会の前後に括弧を付けた上で、照会を再実行してください。

SQL code: -130

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12331 **LIKE** で使用されている拡張文字が無効です。

説明:

エスケープ文字を定義するには、**ESCAPE** 文節において 1 つの文字を引用符で囲む必要があります。エスケープ文字は、**LIKE** に続くストリング内に指定できます (ただし、そのエスケープ文字の後に、そのエスケープ文字と同じ文字、%、または _ がある場合に限りません)。 **LIKE** または **NOT LIKE** キーワードの左側の列名が **MIXED** 属性を使用して定義されている場合、**ESCAPE** 文節は指定できません。また、列データ・タイプがバイナリー・ストリングである場合、式およびエスケープ文字はバイナリー・ストリングでなければなりません。例えば、次の **WHERE** 文節では「+」がエスケープ文字であり、**COL1** のタイプは **CHARACTER** です。この **WHERE** 文節は、'AA%BB' で始まる **COL1** 内の値を表示します。

```
WHERE COL1 LIKE 'AA%BB%' ESCAPE '+'
```

この例では、**LIKE** キーワードに続く文字ストリングにおいて「++」、「+%」、または「+_」以外で「+」が使用されるとエラーとなります。(ただし、**COL1** が **MIXED** 属性を使用して定義されている場合、エスケープ文字は無効です。)

次の **SQLSTATE** が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

文字ストリングを修正してください。または、別のエスケープ文字を選択し、それに従って文字ストリングを変更してください。 **LIKE** または **NOT LIKE** キーワードの左側にある列名が **MIXED** 属性で定義されていないことを検証してください。

SQL code: -131

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12332 **LIKE** や **NOT LIKE** が正しく使用されていません。

説明:

LIKE や **NOT LIKE** で書かれた条件が無効です。 **LIKE** や **NOT LIKE** の後には文字ストリングを続けてください。 '%' と '_' のシンボルを使用することもできます。

```
Write NAME LIKE 'J0%', where NAME is a column name.
```

DSQ12333 • DSQ12341

UPDATE ステートメントまたは DELETE ステートメントの WHERE 文節に LIKE 条件が現れる場合は、使用される列を、ビュー定義の式、定数、またはスカラー関数から取得してはなりません。

ユーザーの処置:

LIKE や NOT LIKE を使用している条件を変更し、もう一度照会を実行してください。

SQL code: -132

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12333 **HAVING** または **WHERE** 文節の後の式の用法に誤りがあります。

説明:

対象の列が **HAVING** 文節か **WHERE** 文節の関連参照列の場合、組み込み関数の引数としては、式ではなく列名を使用しなければなりません。例えば、

```
SELECT DEPT,SUM(YEARS) FROM Q.STAFF VARX
GROUP BY DEPT HAVING SUM(YEARS) >
ANY (SELECT AVG(YEARS) FROM Q.STAFF
GROUP BY DEPT HAVING MAX(YEARS) > MIN(1*VARX.YEARS))
```

は正しくありません。-- (1*VARX.YEARS) を組み込み関数 **MIN** の引数にはできません。これは関連参照変数 **VARX.YEARS** を含む式だからです。

ユーザーの処置:

照会を訂正した上で、再実行してください。

SQL code: -133

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12334 **LONG VARCHAR** 列が誤って使われています。

説明: 43 ページの『DSQ10534』を参照してください。

SQL code: -134

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12335 **LONG VARCHAR** 列が誤って使われています。

説明: 43 ページの『DSQ10534』を参照してください。

SQL code: -135

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12337 &V1 の結果の長さが、&V2. を超えています。

説明:

&V1 の操作の結果が長すぎます。 &V2. を超えることはできません。

ユーザーの処置:

結果を短くするために照会を変更し、照会をふたたび実行してください。

SQL code: -137

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12340 このビューには **WITH CHECK OPTION** 文節は使用できません。

説明:

WITH CHECK OPTION 文節は、以下の記述のいずれかが当てはまる場合は使用できません。

- 視点が読み取り専用として定義されている (例えば、視点定義に **DISTINCT**、**GROUP BY**、または **JOIN** ステートメントが含まれている)。
- 視点定義に副照会が含まれている。
- 視点定義にグローバル変数が含まれている。
- 指定された視点定義が基礎としている視点に **INSTEAD OF** トリガーが定義されている。
- 視点定義が、行アクセス制御または列アクセス制御が活動化されている表を参照している。

次の **SQLSTATE** が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

別の操作で作業を続行してください。ここにリストされている事例では、**WITH CHECK OPTION** 文節を使用しないでください。

SQL code: -140

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12341 挿入または更新の値が視点定義の条件を満たしていません。

説明: 43 ページの『DSQ10541』を参照してください。

SQL code: -141

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12349 指定されたオブジェクトを変更することができません。

説明:

指定されたオブジェクトは、複数の表に基づくビューです。ビューが複数の表に基づく場合、ビューの挿入、削除、更新は許可されません。

ユーザーの処置:

指定した表または視点の名前が正しいかどうかを確認してください。

SQL code: -149

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12350 この視点の中のデータを変更することはできません。

説明:

以下の視点では INSERT、UPDATE、および DELETE ステートメントを使用することはできません。

- 複数の表を基礎としているもの。
- 式または組み込み関数 (例えば、"UNITS*PRICE" や "AVG(SALARY)" など) によって定義された列を含むもの。
- HAVING、DISTINCT、または GROUP BY キーワードを使用する SELECT ステートメントによって定義されているもの。
- 参照表にすべての非 NULL 可能列を含まないもの。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

ビューが基になっている表を変更する照会を複数に分けて作成し、それらの照会を実行してください。

SQL code: -150

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12351 この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: 『DSQ12350』を参照してください。

SQL code: -151

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12352 組み込み関数によって定義された列を条件に使用しています。

説明:

照会で使用されている表の 1 つがビューです。

WHERE の後の条件で、そのビューからの列が使用されていますが、その列は組み込み関数 (AVG、COUNT、MAX、MIN、SUM) のいずれかによって定義されたものです。このような列は条件の中では使用できません。

ユーザーの処置:

問題のビューの定義を調べて、WHERE の後で使用できない列を確認してください。照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -152

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12353 式または関数によって定義されたビューの列には名前が必要です。(View columns defined by expressions or functions need names.)

説明:

CREATE VIEW ステートメントに、式 (UNITS * PRICE など)、組み込み関数 (AVG(YEARS) など)、または定数 ('JUNE 1' など) から定義された列が含まれています。このような列には名前を与えなければなりません。したがって、各列の名前を示す名前リストが必要です。

ユーザーの処置:

CREATE VIEW 照会の中で、関数または式に基づいて定義されるすべての列に、新しい名前を与えてください。

SQL code: -153

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12354 視点の定義または使用法が無効です。

説明:

この操作は、次の規則のいずれかに違反しています。

- UNION で視点を定義することはできません。
- 次のものを使用する視点の挿入、更新、削除はできません。

- data from more than one table.
- data selected by DISTINCT or GROUP BY.

- 式 (SALARY/12 など) または列関数 (AVG(SALARY) など) で定義された列は挿入も更新もできません (ただし削除はできます)。
- 視点の 2 つの列が表の同じ列に基づいている場合、またはその視点で、NOT NULL として定義されている表の列を使用していない場合には、挿入はできません。

ユーザーの処置:

DSQ12355 • DSQ12364

コマンドを視点の規則に照らして有効にして、再度入力してください。

SQL code: -154

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12355 **GROUP BY** または **HAVING** で定義されたビューが **FROM** の後に指定されています。(A view defined by **GROUP BY** or **HAVING** is named after **FROM**.)

説明:

照会において **FROM** の後に指定されている表の 1 つが、**GROUP BY** 文節または **HAVING** 文節が使用された照会によって定義されるビューです。そのようなビューは、**FROM** の後で他の表とともに指定することはできません。

ユーザーの処置:

FROM の後で他の表とともにそのようなビューを指定することのないように、照会を作成し直してください。その後照会を実行してください。

SQL code: -155

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12356 視点の定義または使用法が無効です。

説明: 44 ページの『DSQ10556』を参照してください。

SQL code: -156

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12357 ビューは、**FOREIGN KEY** 文節では使用できません。(A view cannot be used in a **FOREIGN KEY** clause.)

説明:

&V1.&V2 は、**CREATE** または **ALTER TABLE** ステートメントの **FOREIGN KEY** 文節で指定された視点です。**FOREIGN KEY** 文節では、ビューではなく、表を識別する必要があります。

ユーザーの処置:

正しい名前が使用されていることを確認してください。**FOREIGN KEY** 文節では視点を参照しないでください。

SQL code: -157

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12358 **CREATE VIEW** と **SELECT** の両リストには、同数の列が必要です。

説明:

次のいずれかの状態が発生しました。

- **CREATE TABLE** ステートメントで表に指定される列名の数、後続の全選択の結果表における列の数と同じではありません。
- 相関節に指定される列名の数、対応する表、視点、表式、表関数、データ変更表参照の列数と同じではありません。
- ユーザー定義表関数の **RETURNS TABLE** 文節で指定される列数、**RETURN** ステートメントの全選択で指定されるエレメントの数と同じではありません。全選択では、1 つ以上の列とともに、0 以上の行を返すことができます。全選択での列数は、関数結果の列数と一致する必要があります。
- 共通表式の列リストで指定される列名の数、全選択で指定されるエレメントの数と同じではありません。

ユーザーの処置:

結果の各列について列名を指定し、照会を再実行してください。

SQL code: -158

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12363 コロン (:) の使用は無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10712』を参照してください。

SQL code: -163

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12364 **DBCS** 定数が無効です。

説明:

照会の中に、"DBCS 定数" すなわち G'、N'、または X' で始まる漢字リテラルが含まれています。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

DBCS 定数を使いたい場合には、次の形式で使うようにしてください。

```
G'<aabbcc>' or N'<aabbcc>'
```

< および > は、シフトアウト (SO) およびシフトイン (SI) を表しています。SO と SI のあいだの文字数は偶数でなければなりません。

ユーザーの処置:

照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -164

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12365 二重引用符で囲まれた名前の始まりか終わりをブランクにできません。

説明:

二重引用符で囲まれていて、始まりか終わりがブランクである名前を含む照会を実行しようとしてしました。これは許可されません。例えば、次に示す照会は、" 1978 PARTS" がブランクで始まっているので、正しくありません。

Incorrect: CREATE VIEW " 1978 PARTS"
AS SELECT * FROM INVENTORY WHERE DATE = '1978'

ユーザーの処置:

照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -165

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12366 DBCS 定数が無効です。

説明: 74 ページの『DSQ12364』を参照してください。

SQL code: -166

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12367 16 進数リテラルが無効です。

説明:

照会は、定数が 'X' で始まる、「16 進数リテラル」を含んでいます。

文字定数を使いたい場合には、定数全体を単一引用符で囲んでください。

16 進数リテラルの使用を意図しているのであれば、偶数個の文字で表した有効な 16 進数コードを使用してください。

ユーザーの処置:

照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -167

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12369 DBCS 定数が無効です。

説明: 74 ページの『DSQ12364』を参照してください。

SQL code: -169

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12370 DBCS 定数が無効です。

説明: 74 ページの『DSQ12364』を参照してください。

SQL code: -170

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12371 スカラー関数 '&V2' の引数 '&V1' が無効です。

説明:

スカラー関数 '&V2' に指定されたデータ・タイプ、データの長さ、またはデータの値が間違っています。スカラー関数の詳細については、使用中のデータベースの情報を参照してください。

ユーザーの処置:

関数 '&V2' のデータ・タイプ、データの長さ、またはデータの値を変更して再度、照会し直してください。

SQL code: -171

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12372 スカラー関数 '&V1' に指定した引数の数が無効です。

説明:

SQL ステートメントにあるスカラー関数 &V1 の引数が多すぎるか少なすぎます。提供されている関数は、以下のとおりです。

DATE, TIME, TIMESTAMP, YEAR, MONTH, DAY, HOUR, MINUTE, SECOND, MICROSECOND, CHAR, DAYS, AVG, MAX, MIN, COUNT.

ユーザーの処置:

スカラー関数 &V1 の使用法を確かめてください。スカラー関数を変更して、照会を再実行してください。

SQL code: -172

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12380 日時値の形式が無効です。

説明: 45 ページの『DSQ10580』を参照してください。

SQL code: -180

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12381 • DSQ12391

DSQ12381 日時の値が無効です。

説明: 45 ページの『DSQ10581』を参照してください。

SQL code: -181

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12382 日付時刻の値を使っている算術式が無効です。

説明:

指定された算術式で、日時値または単純期間が正しく使用されていません。正しい使用例を以下に示します。

```
SELECT STARTD + 10102433. FROM Q.PROJECT
SELECT STARTD + 1 YEAR FROM Q.PROJECT
```

ユーザーの処置:

式を訂正して、再度その照会を実行してください。

SQL code: -182

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12383 日付、またはタイム・スタンプに関する算術演算で、無効な結果が出ました。

説明: 46 ページの『DSQ10583』を参照してください。

SQL code: -183

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12384 "?" の使用方法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -184

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12385 日付または時刻の値を形式設定できません。

説明: 46 ページの『DSQ10585』を参照してください。

SQL code: -185

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12387 単純期間が、日付 / 時刻算術式にありません。

説明:

1 MONTH などの単純期間は、正しい日付 / 時刻の算

術文脈で使用しなければなりません。例えば、次のステートメントの WHERE 文節は次のようになります。

```
SELECT PROJNO FROM Q.PROJECT couId be:
WHERE STARTD - 1 MONTH > '1987-05-05'
WHERE STARTD > DATE('1987-05-05') + 1 MONTH
```

次のように式の中で、単純期間だけを使用しないでください。

```
WHERE STARTD > 1 MONTH.
```

また、単純期間を日付として識別できない式で使用しないでください。

```
Incorrect: WHERE STARTD > '1987-05-05' + 1 MONTH
Correct:   WHERE STARTD > DATE('1987-05-05') + 1 MONTH
```

ユーザーの処置:

単純期間を正しい日付 / 時刻算術式で使用し、照会を再度、実行してください。

SQL code: -187

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12389 ステートメントが無効な **CCSID &V1** を参照しました。

説明:

CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントは、無効なコード化文字セット ID (CCSID) &V1 を参照しました。

- CCSID &V1 は、1 から 65534 の認められる範囲を超えている。
- CCSID &V1 は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントに指定したサブタイプと互換性がない。(サブタイプは、FOR SBCS DATA、FOR MIXED DATA、または FOR BIT DATA のいずれかです。)
- CCSID &V1 がデータベースによってサポートされていない。

ユーザーの処置:

CCSID タグまたは CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの文字列のサブタイプを訂正してください。

SQL code: -189

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12391 混合データに、不適切な **DBCS** データ値が含まれています。

説明: 46 ページの『DSQ10591』を参照してください。

SQL code: -191

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12392 スカラー関数 &V1 の最初の引数はサブタイプを **MIXED** にできません。

説明: 46 ページの『DSQ10592』を参照してください。

SQL code: -192

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12401 **FROM** のあとに修飾子 &V1 が指定されていません。

説明:

照会の **SELECT**、**WHERE**、**GROUP BY**、または **ORDER BY** 文節中で使われた修飾子 &V1 が、照会の **FROM** 文節に見つかりません。 **FROM** が、副照会などで使われる場合のように二度以上使用されている場合、ある場所で使われた修飾子が別の個所でも必要なことがあります。

修飾子として使われる表の名前は、**FROM** 文節内と同一の形式で指定しなくてはなりません。

修飾子として使われる相関変数は、**FROM** 文節で定義しなくてはなりません。

ユーザーの処置:

FROM の後に &V1 を指定してください。

SQL code: -201

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12402 **SELECT**、**UPDATE**、**INSERT**、または **DELETE** ステートメントで指定されているいずれの表にも列 &V1 は存在しません。(Column &V1 is not in any table named in the **SELECT**, **UPDATE**, **INSERT**, or **DELETE** statement.)

説明:

&V1 は、**SELECT**、**UPDATE**、**INSERT**、または **DELETE** ステートメントで指定されている表またはビューの列ではありません。これが文字定数のつもりで入力したものであれば、単一引用符で囲んでください。

ユーザーの処置:

列名を変更するか、または列 &V1 が含まれている表をステートメントに追加して、照会を再実行してください。

SQL code: -202

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12403 列 &V1 が複数の表にあります。

説明:

FROM 文節にある複数の表またはビューに非修飾列名の列がある場合、またはネストされた表の式の複数の列に非修飾列名がある場合、その非修飾列名は未確定です。列名またはネストされた表の式の相関名が固有である場合のみ、修飾列名は未確定です。

ユーザーの処置:

この問題が、ネストされた表の式の非固有列名により起こる場合は、ネストされた表の式を変更して、列が固有になるようにしてください。問題が非修飾名の使用によって起こる場合は、表、視点または相関名で修飾してください。

SQL code: -203

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12404 &V1.&V2 は、システム・カタログにありません。

説明: 46 ページの『DSQ10604』を参照してください。

SQL code: -204

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12405 列名 &V1 は表 &V2 の中にありません。

説明: 47 ページの『DSQ10605』を参照してください。

SQL code: -205

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12406 &V3.&V4 に &V1 &V2 が見つかりません。

説明:

照会は、&V1 &V2 を参照します。この &V1 は、表 &V3.&V4 には存在していません。

ユーザーの処置:

スペルの誤りがないかどうかを検査してください。

SQL code: -206

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12407 ORDER BY の後には、列名ではなく列番号を使用してください。

説明:

UNION とともに ORDER BY を使用する際には、ORDER BY の後には列名を使用しないでください。SELECT の後のリスト上での列の位置を示す番号を使用してください。

```
Example: SELECT NAME, ID FROM Q.STAFF
         UNION
         SELECT NAME, TEMPID FROM Q.APPLICANT
         ORDER BY 1
```

ユーザーの処置:

列名を列番号に変更して、照会を再実行してください。

SQL code: -207

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12408 SELECT リストに &V1 がなければなりません。

説明:

ORDER BY の後に &V1 が続いています。&V1 が SELECT リストに含まれていないか、または、ORDER BY の後でそのつづりに誤りがあります。

ユーザーの処置:

&V1 を SELECT リストに付け加えてください。そして、それが ORDER BY の後の列名に一致することを確認してください。

SQL code: -208

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12409 ORDER BY の後に列 &V1 が指定されていますが、この列は、SELECT の後に 2 回出てきています。

説明:

SELECT リストに複数の表の列名 &V1 が含まれていません。この同じ名前前の列のどちらを、ORDER BY したいのでしょうか。

ユーザーの処置:

ORDER BY の後に、正しい列を番号で指定するか、または、列名に修飾子を付けてください。

SQL code: -209

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12411 FROM の後の表名 &V1 は表ラベルを必要とします。

説明:

FROM の後に 2 回以上出てくる表名が、修飾子として SQL コマンドに含まれています。その表名は固有のものではないので、FROM の後の各表名は、列名を修飾するための固有の表ラベルを必要とします。

ユーザーの処置:

FROM の後の表名にそれぞれ固有の表ラベルを付加して、照会を再実行してください。

SQL code: -211

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12445 関数 &V1 の呼び出しが未確定です。

説明:

DB2 は、以下の場合にこのエラーを発行します。

- 暗黙的キャスト操作の結果、関数の呼び出しで複数の候補関数がある。

関数解決のプロセスにおいては、プロモート可能なプロセスと、キャスト可能なプロセスの両方が使用されます。複数の候補関数が関数呼び出しに等しく一致すると、エラーが返されます。

例えば、以下のステートメントを検討します。

```
CREATE FUNCTION A.F1(int)
CREATE FUNCTION A.F1(rowid)
SELECT A.F1(varcharCol)
```

この場合、2 つのユーザー作成関数のどちらを関数呼び出しの解決に使用するか不明確なため、SELECT ステートメントはエラーになります。

- DB2 が、ストリング・データ・タイプと数値データ・タイプの間で引数を暗黙的にキャストする方法を判断できない。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

問題を修正して、コマンドを再発行してください。問題の解決には、1 つ以上の SQL ステートメントの変更、1 つ以上の関数定義の変更、または関数呼び出しを発行したユーザーの SQL パスの変更が必要な場合があります。

SQL code: -245

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12512 コロン (:) の使用は無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10712』を参照してください。

SQL code: -312

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12513 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -313

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12530 1 つまたは複数の文字が現行サーバーによって使用可能なコードに変換されませんでした。

説明: 47 ページの『DSQ10730』を参照してください。

SQL code: -330

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12532 互換性のない **CCSID** によって文字ストリングは変換されませんでした。

説明: 47 ページの『DSQ10732』を参照してください。

SQL code: -332

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12551 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: 48 ページの『DSQ10751』を参照してください。

SQL code: -351

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12601 非互換の複数のデータ・タイプを 1 つの式または条件の中で使用することはできません。

説明:

1 つの式または条件の中で、異なるタイプのデータを使用しているか、比較操作のオペランドが非互換です。

このエラーは次の理由で起こります。

- いずれかの列でフィールド・プロシージャが定義されている。

算術計算または比較操作の 1 つの列がフィールド・プロシージャを用いて定義されている場合、その演算の中の他の列も同じフィールド・プロシージャを用いて定義されていなければなりません。

- 特殊タイプ (ユーザー定義タイプ (UDT)) が、類似していないデータ・タイプと比較される。UDT 比較では強い型定義が強制されます。これは、UDT と比較できるのは類似の UDT のみであり、そのソース・データ・タイプではないことを意味します。

例えば、次の照会では "COMM" が引用符で囲まれていて、これは数値列であるため、この照会は無効です。

```
WHERE SALARY = 12*'COMM'
```

別の例として、XYZ という特殊データ・タイプを作成し、このデータ・タイプのデータを表の COLUMN1 に挿入するとします。値 'FRED' が含まれている行を選択したい場合、次のように、照会の条件に特殊タイプを指定する必要があります。

```
WHERE COLUMN1 = XYZ'FRED'
```

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

照会の式または条件を、同じタイプのデータを参照するように変更してください。

SQL code: -401

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12602 数字データが必要です。

説明:

算術式、および組み込み関数 AVG と SUM には、数値データが必要です。数字以外のデータは使用できません。照会は処理されませんでした。

ユーザーの処置:

算術式または組み込み関数が数値データだけを含むように照会を訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -402

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12604 文字値が、それに対応する列または索引キーには長すぎます。

説明: 49 ページの『DSQ10804』を参照してください。

SQL code: -404

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12605 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 49 ページの『DSQ10805』を参照してください。

SQL code: -405

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12606 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 49 ページの『DSQ10805』を参照してください。

SQL code: -406

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12607 **NOT NULL** の列を **NULL** 値で更新することはできません。

説明:

更新しようとしている列では **NULL** が許可されません。その列を **NULL** 値で更新しようとしています。その **NULL** 値は副照会から生じた可能性があります。

ユーザーの処置:

無効な **NULL** 値を照会から取り除いて、それを再実行してください。

SQL code: -407

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12608 副照会から、適合性のないタイプのデータが返されました。

説明:

この問題が発生するのは、**WHERE** 文節で副照会を使用して挿入または更新する適切な行を検索する **INSERT** または **UPDATE** ステートメントを実行した場合です。この場合、照会内の **WHERE** キーワードに続く 1 つ以上の列のデータ・タイプが、列に関連する副照会から戻されたデータ・タイプと互換性がありません。例えば数値列を更新するには、**WHERE** 節の列に関連する副照会が、数値、または数値データ・タイプと互換性のある値を戻すようにしてください。

ユーザーの処置:

副照会を訂正して、照会を再実行してください。

SQL code: -408

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12609 **COUNT** の用法に誤りがあります。

説明:

組み込み関数 **COUNT** と一緒に使用できるのは「*」、または **DISTINCT** と列名のみです。下にその使用例を示します。

1. **COUNT (*)** は、選択された行の数を数えて示します。
2. **COUNT (DISTINCT 列名)** は、その列の中の異なる値の数を数えて示します。

ユーザーの処置:

COUNT の用法を変更した上で、照会を再実行してください。

SQL code: -409

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12610 値 '&V1' の長さが、許容される文字数を超過しています。

説明: 50 ページの『DSQ10810』を参照してください。

SQL code: -410

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12611 **USER** の用法に誤りがあります。

説明:

USER は「ユーザー識別」を表します。値は &LA. 文字です。次の内のどちらかのエラーが生じました。

1. 算術式の中で **USER** が使われている。
Incorrect: USER - 50
2. 数値データ・タイプ、または &LA. 文字未満の列に対する更新または挿入に **USER** が使用される。
3. **SELECT** リストの中で **USER** が使われている。

ユーザーの処置:

SQL ステートメントを訂正してから、照会を再実行してください。

SQL code: -411

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12612 副照会の **SELECT** の後には列を 1 つしか使用できません。

説明:

副照会で **SELECT** を使用する場合、それによって選択できる列名は 1 つだけです (ただし **INSERT** の後の場合は別です)。

Incorrect: (SELECT PARTNO, PRICE.....)

ユーザーの処置:

副照会の SELECT リストを訂正して、照会を再実行してください。

SQL code: -412

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12613 データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 50 ページの『DSQ10813』を参照してください。

SQL code: -413

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12614 LIKE は文字データ、バイナリー・データ、またはグラフィック・データを必要としますが、列に含まれているのは数値データまたは日付/時刻データです。

説明:

LIKE 演算子と一緒に使用できる列は、文字データ、バイナリー・データ、または図形データが含まれている列のみですが、照会における LIKE 演算子が、これら以外のデータ・タイプで定義された列を参照しています。数値データの列を照会するには、「n >= 1000 and n < 2000」のような数値比較を使用してください。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -414

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12615 SELECT リストの列属性が統一されていません。

説明:

UNION か UNION ALL で複数の照会を結合しました。その場合、各照会の SELECT リストには、同数の列がなければなりません。各 SELECT リストの対応する列はすべて、後続の SELECT のデータ定義と比較可能でなければなりません。対応する列にフィールド・プロシージャがあれば、両者は同じフィールド・プロシージャおよび CCSID 値をもたなければなりません。

ユーザーの処置:

照会を比較が可能な列の SELECT リストで書き直し

て、照会を再実行してください。

SQL code: -415

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12616 長ストリング列を UNION で使用することはできません。

説明:

合併に使用される表のうちの 1 つに長ストリング列が含まれているため、照会内の SQL ステートメントを実行できません。QMF は、データベースから -416 SQL コードが発行されると、このエラー・メッセージを表示します。

ユーザーの処置:

この問題の詳細については、SQL コード -416 の情報を参照してください。

DB2 for z/OS を使用している場合は、この情報は次の IBM Knowledge Center にあります。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

DB2 (VM 版) または DB2 (VSE 版) を使用している場合は、データベース管理システムのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。この情報は、次の場所の IBM Publications Center にあります。

<http://www.ibm.com/shop/publications/order>

SQL code: -416

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12617 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -417

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12618 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -418

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12619 使用されている値を用いた 10 進除算はできません。

説明: 51 ページの『DSQ10819』を参照してください。

DSQ12621 • DSQ12734

SQL code: -419

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12621 偶数個の 16 進文字が必要です。

説明:

照会は、定数が X' で始まる、「16 進数リテラル」を含んでいます。この定数は、図形データ・タイプを持つ列に関連付けられているため、偶数個の 16 進文字を表していなければなりません。定数の長さ (一重引用符の間の長さ) が 4 で割り切れることを確かめてください。

ユーザーの処置:

照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -421

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12622 各 SELECT リストの列数が一致していません。

説明:

UNION によって複数の照会を連結する場合には、その場合、各照会の SELECT リストには、同数の列がなければなりません。

ユーザーの処置:

照会を訂正して、再実行してください。

SQL code: -422

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12623 IN の後の 16 進数リテラルは無効です。

説明:

照会は、定数が X' で始まる、「16 進数リテラル」を含んでいます。IN の前に 16 進数リテラルがある場合には、IN の後のリスト上の最初の項目は、16 進数リテラルであってはなりません。

Incorrect: X'C9C4' IN (X'F1F0', X'F2F0')

Correct: X'C9C4' IN (10, X'F2F0')

ユーザーの処置:

照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -423

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12716 GROUP BY または HAVING 文節を使用する副照会には、ALL、ANY、EXISTS、または IN が必要です。

説明:

GROUP BY または HAVING を用いる副照会では複数の値の生成が予測されます。したがって、先行する ALL、ANY、EXISTS、または IN のいずれかのキーワードが必要です。

ユーザーの処置:

照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -516

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12730 外部キーの値が無効です。

説明: 51 ページの『DSQ10930』を参照してください。

SQL code: -530

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12732 従属行のため、行の更新または削除はできません。

説明: 51 ページの『DSQ10932』を参照してください。

SQL code: -532

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12734 複数行の主キーまたはユニーク制約を更新できません。(Cannot update a primary key or unique constraint in multiple rows.)

説明:

更新操作により表の複数行で主キーまたはユニーク制約を更新しようとしてしました。主キーやユニーク制約に影響を与える UPDATE ステートメントは、表の複数行を更新するために使用することはできません。

ユーザーの処置:

UPDATE ステートメントの探索条件が、更新する表の 1 行だけを選択することを確認してください。

SQL code: -534

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12736 表 &V1.&V2 が影響を受ける可能性があるため、**DELETE** ステートメントは無効です。

説明:

表 &V1.&V2 に関して **DELETE** 操作が試みられましたが、この表は副照会で参照されています。しかし、この表は削除操作のオブジェクト表に従属していて、しかも **RESTRICT** の規則によって変更に対し保護されていないため、削除は実行できません。

ユーザーの処置:

表がそのステートメントによって影響を受ける可能性がある場合は、**DELETE** ステートメントの副照会で指定されている表を参照しないでください。

SQL code: -536

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12737 複数の列名を使用しました。

説明:

主キー、外部キー、またはユニーク制約に、重複した列名を含めることはできません。主キー、外部キー、またはユニーク制約の文節で、同じ列名を複数回使用しました。エラーの列は、&V1 &V2 です。

ユーザーの処置:

固有の列名を指定してください。

SQL code: -537

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12738 外部キー &V1 が、表 &V2.&V3 の主キーの記述と合致していません。

説明:

以下の理由の 1 つでこのエラーを受け取った可能性があります。

- &V1 によって示されている外部キーと表 &V2.&V3 の主キーの列数が同じでない。
- 両方のキーの記述が同一ではありません。(記述が同一であるキー同士では、データ・タイプ、長さ属性、およびフィールド・プロシージャールが同じでなければなりません。)

フィールド・プロシージャールが対応する列に定義されている場合は、これらの列の **CCSID** 値は同一でなければなりません。

ユーザーの処置:

外部キーの記述が示されている表の主キーの記述と一致

するように、**FOREIGN KEY** 文節を訂正してください。

SQL code: -538

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12739 表 &V1.&V2 には、主キーがありません。

説明:

FOREIGN KEY 文節で親表として表 &V1.&V2 を指定しましたが、この表は主キーがないため、親表は定義できません。

ユーザーの処置:

ALTER TABLE を使用し表に主キーを定義してください。

SQL code: -539

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12741 外部キー &V1 は重複した参照制約であるため、無効です。

説明:

指示された **FOREIGN KEY** 文節では、別の参照制約と同じ外部キーおよび親表が定義されています。

ユーザーの処置:

重複した参照制約をステートメントから削除してください。

SQL code: -541

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12742 &V1 は主キーまたは固有制約の列にはできません。

説明:

列 &V1 は **NULL** 値を含むことができます。そのため、主キー文節、固有制約文節、または親キー (**REFERENCES** 文節経由) に組み込むことはできません。

ユーザーの処置:

主キー、または固有制約を定義する場合、**NULL** 値を含むことができない列だけを使用してください。主キーまたはユニーク制約文節を訂正し、ステートメントを再実行してください。 **REFERENCES** 文節で示される列を定義する場合、親表を除去してから、**NOT NULL** と定義される参照列によって列を再作成します。

SQL code: -542

DSQ12750 • DSQ12755

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12750 所有者を "SYSTEM" とする &V1 の作成はできません。

説明:

例えば、次のようなステートメントの入った照会を実行することはできません。

```
CREATE TABLE SYSTEM.&V1 .....
```

ユーザーの処置:

この操作は行わないようにしてください。

SQL code: -550

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12751 指定されたオブジェクトが存在しないか、必要な権限がありません。

説明:

この問題は以下の場合に発生する可能性があります。

- コマンドで参照されるオブジェクトが存在していない。
- コマンドで参照されるオブジェクトが読み取り専用の表または視点である。
- XML タイプ修飾子に XML スキーマが 2 度以上指定されている。
- 指定した表または視点に対して発行したコマンドを使用するのに必要な権限または特権を持っていない。ユーザーが所有していない表または視点に対してさまざまな操作を行うには、以下のようにさまざまな権限または特権が必要です。
 - ユーザーが所有していない表または視点に対して SELECT ステートメントを発行するには、SELECT 特権が必要です。
 - ユーザーが所有していない表または視点に対して挿入、更新、削除、または変更操作を行うには、INSERT、UPDATE、DELETE、または ALTER 特権が必要です。索引を作成するには、INDEX 特権が必要です。
 - ユーザーが所有していない表または視点に対して特権を付与するには、(WITH GRANT OPTION 節を使用して発行された) GRANT 権限が必要です。
 - 外部キー操作を行うか、または DROP FOREIGN KEY、DROP PRIMARY KEY、または DROP UNIQUE ステートメントを発行するには、表または視点に ALTER 特権が必要です。

- データベースで表を作成、データを保存、またはスペースを予約するには、特定の権限が必要です。

ユーザーの処置:

コマンドが正しいオブジェクト名を参照していることを確認してください。作業中の表に XML 列が含まれている場合は、XML 列を変更して、そのタイプ修飾子から XML スキーマを削除してください。必要な権限や特権がない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -551

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12752 指定されたオブジェクトが存在しないか、必要な権限がありません。

説明: 『DSQ12751』を参照してください。

SQL code: -552

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12754 自分自身に対して特権を付与することはできません。

説明:

"GRANT CONNECT TO ALL USERS" コマンドで明示的に CONNECT 権限を付与されていても、自分自身に対して特権を付与したり、またはパスワードを設定したりすることは、データベース・マネージャーにより許可されていません。パスワードを変更できるのは、DBA により明示的に CONNECT 権限が付与され、初期パスワードを設定済みの場合のみです。

ユーザーの処置:

ステートメントを訂正し、再実行してください。

SQL code: -554

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12755 自分自身が保有している特権を取り消すことはできません。

説明:

あるユーザーが持っている特権を取り消すことができるのは、所定の権限を持つ別のユーザーだけです。ただし、SQLRULES(STD) が有効であるか、または CURRENT RULES に STD が含まれている場合は、自分自身への GRANT が可能です。

ユーザーの処置:

自分の持つデータベース特権のいずれかを削減したい場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -555

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12756 この特権を &V1. から取り消すことはできません。

説明:

取り消そうとしている特権を &V1 が持っていないか、または、その特権を付与したユーザーの許可識別名がユーザー自身のものではありません。取り消すことのできる特権は、ユーザー自身の許可識別名のもとに付与されている特権だけです。

ユーザーの処置:

別の操作に移ってください。

SQL code: -556

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12757 この組み合わせの特権を付与または取り消すことはできません。

説明:

付与しようとしている特権または取り消そうとしている特権がいくつかありますが、これらの特権は 1 つのステートメントで付与したり取り消したりすることはできません。

ユーザーの処置:

GRANT または REVOKE ステートメントを、それぞれ独立したいくつかのステートメントに分けてから、照会を再実行してください。

SQL code: -557

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12758 DBA から「特殊」特権を取り消すことはできません。

説明:

ユーザーは、DBA 権限を持つユーザーから、RESOURCE などの「特殊」特権を取り消すことはできません。

ユーザーの処置:

この操作は行わないようにしてください。

SQL code: -558

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12761 CONNECT 権限がなければデータベースを使用できません。

説明: 52 ページの『DSQ10961』を参照してください。

SQL code: -561

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12764 ステートメントが無効なユーザー ID を参照しています。

説明:

SQL のユーザー ID は、英字で始まっていて、8 文字以内の英字または数字で構成されていなければなりません。途中にブランクを入れたり、特殊文字を用いたりすることはできません。

PUBLIC と SYSTEM のユーザー ID は、特定の限定された文脈でしか使用できません。

特に、PUBLIC または SYSTEM から、特殊な特権 (CONNECT、DBA、および RESOURCE) を付与したり取り消したりすることはできません。

ユーザーの処置:

指定されているユーザー ID を変更できなければ、この操作を実行しないでください。

SQL code: -564

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12801 作成しようとしているオブジェクトの名前がすでに存在しています。

説明:

作成または獲得しようとしているオブジェクトの名前が、既存の項目の名前と同じです。

ユーザーの処置:

名前を、データベースに存在しない名前に変更して、照会を再実行してください。

SQL code: -601

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12802 表または視点の中の列が多すぎるか、キー式の指定が正しくありません。

説明:

照会を実行すると列の数が許容最大数 (256) を超えるような表または視点が作成されるか、または、CREATE INDEX ステートメントか ALTER INDEX ステートメントに指定されたキー式が 64 列を超えています。

DSQ12803 • DSQ12807

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

作成しようとしている表または視点の列の数が 256 未満になるように照会を変更するか、キー式が制限内になるように索引定義を変更してください。

SQL code: -602

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12803 &V1 の列に重複値が含まれています。

説明:

重複値がある &V1 列を作成できません。指定した列の 1 つがそうになっています。VARCHAR または VARGRAPHIC のタイプの列であれば 2 つの列の違いは後ろのブランクの数だけで、重複することになります。

ユーザーの処置:

重複値を含む列が参照されることがないように、CREATE ステートメントを変更するか、または表から重複値が含まれている行を削除してください。

SQL code: -603

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12804 列定義が無効です。

説明:

表の 1 つ以上の列についてのデータ・タイプ定義で、無効な長さ、精度、または位取りの属性が指定されています。

このエラーの考えられる原因は次のとおりです。

- DECIMAL 列の精度または位取りが、DECIMAL データ・タイプで許可される範囲内がない。
- 列の長さが、データ・タイプで許可される範囲内がない。

ユーザーの処置:

列に割り当てられたデータ・タイプの制限に準拠するように列定義を変更して、SQL 照会を再実行してください。データ・タイプの制限についての詳細な説明は、使用しているデータベースの SQL 参照情報を参照してください。

SQL code: -604

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12805 ステートメントは、1 つの表の索引の最大許容数を超過しています。

説明:

DB2 (VM/VSE 版) の表に許可された最大索引数は 255 ですが、ターゲット表の索引数は現在その最大数となっています。

この状態は目標とするテーブルがすでに 255 の索引を持ち、ADD PRIMARY KEY または ADD UNIQUE の制約文節を指定して CREATE INDEX または ALTER TABLE ステートメントを出した場合に発生します。

ユーザーの処置:

不要な索引をすべて除去し、ステートメントを再度出してください。これを行うには、DROP PRIMARY KEY 制約文節または DROP UNIQUE 制約文節を指定した DROP INDEX ステートメントまたは ALTER TABLE ステートメントを使用します。

DB2 (VM/VSE 版) のすべての索引のリストについては、SYSINDEXES システム表を表示してください。

SQL code: -605

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12806 指定の表または列が存在しないか、他のユーザーが所有しています。

説明:

COMMENT ON ステートメントまたは、LABEL ステートメントで指定されている表または列が、存在していないか、または他のユーザーにより所有されています。これらのステートメントは、自分が作成した表に対してのみ使用できます。DBA 権限がある場合に限り、他のユーザーの表に対して COMMENT ON または、LABEL ON を使用できます。

ユーザーの処置:

別の操作を続行してください。

SQL code: -606

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12807 この DBSPACE にはこれ以上表を追加できません。

説明:

DBSPACE 当たりの表の最大数は 255 です。

ユーザーの処置:

別の DBSPACE に表を作成するか、指定した

DBSPACE の表を除去して、スペースを解放してください。

SQL code: -607

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12808 DBSPACE が見つかりません。

説明:

DBSPACE とともに IN を使用した場合には次のいずれかが原因です。

1. 該当する DBSPACE が存在しない。
2. DBSPACE を使用する権限がない。
3. DBSPACE がいっぱいである。

IN を使用しなかった場合には、次のいずれかが原因です。

1. デフォルトの DBSPACE がない。
2. デフォルトの DBSPACE がいっぱいである。

ユーザーの処置:

使用することのできる DBSPACE の名前を入力して、SQL 照会を再実行してください。

SQL code: -608

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12809 システム DBSPACE を変更することはできません。

説明:

どのようなユーザーも、システム DBSPACE を変更することはできません。この記憶域の中にある情報は、システムの操作にとって重要なものばかりであり、したがってユーザーが変更することはできません。

ユーザーの処置:

この操作は行わないようにしてください。

SQL code: -609

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12810 指定した DBSPACE に表を作成することはできません。

説明:

他のユーザーまたはシステムが所有する DBSPACE に表を作成するには、そのために必要な権限を持っていないければなりません。

ユーザーの処置:

別の DBSPACE を用いて表を作成してください。他の

ユーザーまたはシステムが所有する DBSPACE の使用権が必要ならば、該当の手続きに従ってください。

SQL code: -610

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12811 ALTER TABLE とともに NOT NULL を使用することはできません。

説明:

ALTER TABLE ステートメントは、表に新しい列を 1 つ追加します。既存の行がすべて拡張され、新しい列には NULL 値が指定されます。したがって、NOT NULL オプションは使用できません。

ユーザーの処置:

ALTER TABLE ステートメントから NOT NULL オプションを除去して、照会を再実行してください。

SQL code: -611

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12812 列名 &V1 が 2 回使われています。

説明:

CREATE INDEX、CREATE TABLE、CREATE VIEW、XMLQUERY、XMLEXISTS、または ALTER TABLE ステートメントで、索引、表、またはビューの複数の列に対して、またはトリガー定義の UPDATE OF 文節の複数の列に対して、同じ列名が指定されています。列名はユニークでなければなりません。1 つの列は、ALTER COLUMN 文節または ADD CHECK CONSTRAINT 文節に指定されていないかぎり、複数の ALTER TABLE 文節に指定することはできません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

別の列名を選んで、照会を再実行してください。

SQL code: -612

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12814 選択された列に索引を付けることができません。

説明:

コマンドが DB2 (VM 版) または DB2 (VSE 版) に送信された場合は、許容最大長が 254 文字を超える VARCHAR 列に索引を付けることはできません。列のグループの内部の長さの合計が 255 文字を超えている場合には、そのグループに索引を付けることはできません。

DSQ12817 • DSQ12829

コマンドが DB2 (z/OS 版) に送信された場合は、最大長は次のとおりです。

- PADDED 索引の場合は、列の長さ属性の合計を 2000-n (n は NULL 値を含む列の数) より大きくすることはできません。
- NOT PADDED 索引の場合は、列の長さ属性の合計が 2000-n-2m (n は NULL 可能な列の数で、m は可変長の列の数) より大きくすることはできません。

ユーザーの処置:

列を 1 つまたは 2 つ以上除外するか、または長い列を短い列で置き換えることによって、索引定義または主キー定義を修正してください。

SQL code: -614

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12817 CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントに指定された列が多すぎます。

説明:

CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントに指定されている列の数が、許容されている最大数を超えています。

ユーザーの処置:

CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントを変更して、使用しているデータベース・バージョンでの列の制限数を超えないようにしてください。

SQL code: -617

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12819 EXPLAIN 表に、正しくない定義があります。

説明:

必要な説明表が正しく定義されていないために、EXPLAIN ステートメントの実行中にエラーが発生しました。

EXPLAIN 表 (および認識されている場合は列):
&V1 &V2

次の理由で、定義が正しくない可能性があります。

- 表に列がない。
- 表に余分な列がある。
- 列が間違った順番で定義されている。
- 列に、次の属性のいずれかに関連した無効な定義がある。

- 列名
- 列のデータ・タイプ
- 列の長さ
- NOT NULL

ユーザーの処置:

EXPLAIN を使用する前に、必要な説明表の定義を訂正してください。EXPLAIN ステートメントと説明表の定義方法の詳細については、SQL 解説書を参照してください。

SQL code: -619

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12820 私用の回復可能 DBSPACE が使用できません。

説明:

CREATE TABLE コマンドで DBSPACE 名が指定されていないため、&V1 が所有する私用 DBSPACE を見つけるために探索が行われました。

DBSPACE が見つからなかったか、いっぱいであったか、あるいは回復不能記憶域プールに入っていたかのいずれかです。

ユーザーの処置:

私用 DBSPACE を獲得するか、既存のスペース内に余裕をもたせるか、または必要な DBSPACE を明示的に指定するかしてください。

SQL code: -620

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12829 外部キー &V1 には SET NULL を指定できません。

説明:

キーの列には NULL 値を指定できないため、FOREIGN KEY 文節 &V1 には SET NULL 削除規則は指定できません。

ユーザーの処置:

キーの列を変更して NULL 値を指定できるようにするか、または削除規則を変更してください。

SQL code: -629

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12830 キーワード `&V1` が二度指定されています。

説明:

この照会では、キーワード `&V1` を一度だけ使用します。2 回以上出てきました。

ユーザーの処置:

照会を訂正して、再実行してください。

SQL code: -630

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12832 規則での制限のため、表を `&V3.&V4` の従属表として定義できません。

説明:

表 `&V3.&V4` の従属表として表を定義できません。その関係が、既存のものと矛盾します。例えば、従属表を、特定の親表との SET NULL 関係を複数持つようには定義できません。この関係を定義できない理由は、理由コード '`&V5`' によって示されています。

ユーザーの処置:

FOREIGN KEY 文節を訂正するかステートメントから除去してください。理由コード '`&V5`' の説明については、使用しているデータベースのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

SQL code: -632

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12840 図形と混合データ・タイプは現行サーバーによってサポートされていません。

説明: 52 ページの『DSQ11040』を参照してください。

SQL code: -640

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12844 `&V1` は重複名です。

説明:

この表ですでに使用されているので `&V1` を新しい外部キー名または固有制約として使用できません。現在の表で同じ外部キーか、固有制約に対して、指定した名前がある場合、重複が発生します。

ユーザーの処置:

別の名前を使用するか、または名前を指定しないでください。外部キー名を指定しないと、デフォルトの名前が割り当てられます。

SQL code: -644

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12848 複数経路を使用する連結削除規則のために、外部キーを定義できません。

説明:

関係が原因となって、表 `&V1.&V2` が表 `&V3.&V4` に、複数の経路を介して連結削除されます。理由コードが `&V5` であるため、外部キーを定義することができません。

- 理由コード '01' は、両方の表が SET NULL について同じ削除規則を使用していることを示します。
- 理由コード '02' は、両方の表で使用している削除規則が異なっていることを示します。

このエラーの詳細については、使用しているデータベースの「メッセージおよびコード」マニュアルを参照してください。

ユーザーの処置:

関連する表に対する結合が正しく定義されていることを確認してください。正しくない場合は、訂正を行ってから SQL ステートメントを再実行してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -648

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12856 表 `&V1.&V2` にはすでに主キーがありません。

説明:

表 `&V1.&V2` はすでに主キーを持っているので、この表に対して主キーを定義することはできません。表には複数の主キーは持てません。

ユーザーの処置:

この表で、異なる主キーを持ちたい場合、最初に存在する主キーを落とさなくてはなりません。

SQL code: -656

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12857 UPDATE STATISTICS はビューと一緒に使用できません。(UPDATE STATISTICS does not work with a view.)

説明:

UPDATE STATISTICS ステートメントはビューと一緒に使用できません。このステートメントは 1 つの表

DSQ12867 • DSQ12883

についてだけ使用することができます。

ユーザーの処置:

ビューを構成する表に作用する照会を作成してから、照会を再実行してください。例:

```
UPDATE STATISTICS FOR TABLE PRICES
```

SQL code: -657

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12867 表 &V3.&V4 に対して定義された &V1 &V2 をアクティブにできません。

説明:

キーが無効になるため、&V1 &V2 はアクティブにすることができません。例えば、重複値が含まれている非アクティブの主キーはアクティブにはできません。キーをアクティブにすることができない理由は、理由コード '&V5' で示されます。

ユーザーの処置:

理由コード '&V5' の説明については、使用しているデータベースのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

SQL code: -667

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12868 表 &V1.&V2 にアクセスできません。
&V3 &V4 はアクティブではありません。

説明: 52 ページの『DSQ11068』を参照してください。

SQL code: -668

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12869 主キー索引は明示的に除去することはできません。

説明:

DROP INDEX を使用して主キーを除去できません。

ユーザーの処置:

主キー索引を再編成したい場合は、ALTER TABLE ステートメントの ACTIVATE PRIMARY KEY 文節を使用できます。この文節を使用すると、主キー索引が除去されて再作成されます。主キーを除去したい場合は、ALTER TABLE ステートメントの DROP PRIMARY KEY 文節を使用できます。

SQL code: -669

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12870 表 &V2.&V3 の外部キー &V1 を作成できません。

説明:

キーが無効になるため、外部キー &V1 は作成できません。例えば、外部キーによって参照されている親表に非アクティブの主キーがある場合、外部キーは作成できません。キーをアクティブにすることができない理由は、理由コード '&V4' によって示されます。

ユーザーの処置:

理由コード '&V4' の説明については、使用しているデータベースのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

SQL code: -670

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12874 データベースは、DBCS データ変換ルーチンをロードできません。

説明:

データベースは、理由コード &V2、サブコード &V3 のため、DBCS データ変換ルーチン &V1 のロードに失敗しました。このエラー状態の原因として、以下が考えられます。

- &V1 ルーチンが使用可能でない。
- 十分な記憶域がない。
- 他の何らかのシステム・ロード・エラー。

また、サブコードが X'01' の場合、エラーはアプリケーション・リクエスターで検出され、サブコードが X'02' の場合、エラーはアプリケーション・サーバーで検出されました。

ユーザーの処置:

変換ルーチン &V1 が正しい場合は、QMF 管理者に連絡して援助を求めてください。

SQL code: -674

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12883 列 &V2 のデータ・タイプ &V1 は許されません。

説明:

データ・タイプ &V1 は、文字の列 (CHAR、VARCHAR、および LONGVARCHAR) に対してのみ有効です。

ユーザーの処置:

&V1 オプションを列 &V2 から除去してください。

SQL code: -683

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12887 フィールド・プロシージャで定義された列との比較が無効です。(Invalid comparison with a column defined with a field procedure.)

説明: 52 ページの『DSQ11087』を参照してください。

SQL code: -687

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12898 そのステートメントで、無効なエンティティ表のオーバーフローが起こります。

説明:

そのステートメントは、索引に無効という印を付けるため、無効なエンティティ表の入力を予約しておかなければなりません。しかし、無効な索引と、無効の可能性のある索引の数が、データベースの内部限界を超えています。ステートメントを処理することはできません。ステートメントを処理することはできません。

ユーザーの処置:

CREATE INDEX と REORGANIZE INDEX を同時に実行するユーザーがたくさんいる場合、後でもう一度ステートメントを試してください。エラーが残っている場合は、QMF 管理者に連絡し、無効な索引を見つけ、エンティティ表をクリーンアップしてください。

SQL code: -698

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12899 DBSPACE の利用可能な記憶域プールが、いっぱいです。

説明:

DBSPACE は利用可能ですが、DBSPACE が存在する記憶域プールに、DBSPACE を得るために十分なスペースがありません。STORPOOL 文節を使用した場合は、指定した記憶域プールはいっぱいなので、別の記憶域プールを使用できます。STORPOOL 文節を使用していない場合は、利用可能な記憶域プールはすべていっぱいであることを意味します。DBSPACE を得るのに十分な記憶域プール・スペースはありません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡して、いっぱいになった記憶域プールを見つけ、DBEXTENTS を記憶域プールに追加し、サイズを増やしてください。

SQL code: -699

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12900 記憶域プール &V1 に使用可能なスペースがありません。

説明:

SQL ステートメントが、新しいページまたはシャドロー・ページを要求していますが、記憶域プール &V1 には十分なスペースがありません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡して、記憶域プール &V1 のサイズを増やしてください。SQL ステートメントが REORGANIZE INDEX である場合、索引に無効の印が付いているかどうかを判別するように QMF 管理者に頼んでください。索引が無効の場合は、索引を除去して再作成するか、記憶域の問題が訂正された後で、もう一度索引を再編成してください。

SQL code: -700

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12901 DBSPACE のデータのために割り振られているスペースがいっぱいです。

説明: 53 ページの『DSQ11101』を参照してください。

SQL code: -701

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12902 DBSPACE で索引用に割り当てられているスペースがいっぱいです。

説明: 53 ページの『DSQ11102』を参照してください。

SQL code: -702

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12903 DBSPACE のヘッダー情報用のスペースがいっぱいです。

説明: 53 ページの『DSQ11103』を参照してください。

SQL code: -703

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12904 要求されたサイズとタイプの使用可能な **DBSPACE** がありません。

説明:

ACQUIRE DBSPACE ステートメントは実行されませんでした。 次のいずれかの状況が起きています。

- 要求したページ数が使用可能ページ数より多かった。
- すべての共用、または私用 **DBSPACE** がすでに獲得されていた。
- 指定した記憶域プールがない。

ユーザーの処置:

記憶域プールを指定した場合、その記憶域プールがあるかどうかを QMF 管理者に連絡して、確認してください。記憶域プールがある場合は、PAGES オプションの中のページ数を減らすか、または別のタイプの **DBSPACE** を要求してください。それでも状況が改善されない場合には、QMF 管理者に連絡して、**DBSPACE** の追加を要求し、それが追加されたら、ACQUIRE DBSPACE ステートメントを再入力してください。

SQL code: -704

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12905 &V1 に指定された値が無効です。

説明:

ACQUIRE または ALTER **DBSPACE** ステートメントの場合、対応するパラメーターが指定されていない場合は次の値が使用されます。

NHEADER	- 8	PAGES	- 128
PCTFREE	- 15	LOCK	- PAGE
PCTINDEX	- 33		

CREATE INDEX の場合、または主キーを表に追加する場合に、PCTFREE が指定されていなければ、PCTFREE にデフォルト値 10 が使用されます。

&V1 の最大および最小値はアプリケーションに依存します。具体的な情報については、QMF 管理者に連絡してください。

ユーザーの処置:

&V1 の値を変更して、照会を再実行してください。

SQL code: -705

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12908 公用 **DBSPACE** の除去、ロック、または変更はできません。

説明:

公用 **DBSPACE** の除去、ロック、または変更ができるのは、所定の権限を持つユーザーだけです。

ユーザーの処置:

必要な権限を持っているユーザーに連絡し、除去または変更の処置を要求してください。

SQL code: -708

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12909 この **DBSPACE** にはシステム・カタログ表が入っています。

説明:

どのユーザーも、システム・カタログ表の入った **DBSPACE** を除去することはできません。

ユーザーの処置:

この **DBSPACE** を除去しようとししないでください。

SQL code: -709

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12910 この照会に必要な私用 **DBSPACE** は使用中です。

説明: 53 ページの『DSQ11110』を参照してください。

SQL code: -710

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ12912 **INTERNAL DBSPACE** に照会を実行するだけの余地がありません。

説明: 53 ページの『DSQ11112』を参照してください。

SQL code: -712

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13001 **SQL** ステートメントの算術演算が、エラーに終わりました。

説明: 53 ページの『DSQ11201』を参照してください。

SQL code: -801

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13002 SQL コマンドにおける算術演算の結果、例外エラーが発生しました。(An arithmetic operation in the SQL command has resulted in an exception error.)

説明: 54 ページの『DSQ11202』を参照してください。

SQL code: -802

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13003 固有索引列の中に重複値があります。

説明: 54 ページの『DSQ11203』を参照してください。

SQL code: -803

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13005 パッケージ &V1 が、カタログ表に見つかりません。

説明: 54 ページの『DSQ11205』を参照してください。

SQL code: -805

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13008 システム・カタログを変更する権限がありません。

説明: 55 ページの『DSQ11208』を参照してください。

SQL code: -808

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13009 行が長すぎます。

説明:

この挿入または更新操作を行うと、許容長より長い行が作成されます。列が LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC として定義されていない限り、最大長は 4,080 桁です。

ユーザーの処置:

もっと短い行が作成されるように照会を変更するか、もっと長い行を格納できるようにコマンドで参照される列を LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC として再定義してください。

SQL code: -809

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13010 複数の値を生成する副照会があります。

説明:

副照会は、表の 2 つ以上の列をもとにして値を生成するものであってはならず、また、多くの場合、2 つの行をもとにして値を生成するものであってはなりません。複数の値を生成する副照会には、ALL、ANY、EXISTS、または IN を使用してください。

Examples: WHERE DEPT = ANY (SELECT DEPTNUMB FROM Q.ORG)
 HAVING AVG(X) > ALL (SELECT X FROM Y)
 WHERE EXISTS (SELECT * FROM X WHERE N1 = N2)

ユーザーの処置:

照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -810

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13013 視点のロックはできません。

説明:

LOCK は、表または DBSPACE のロックの場合にかぎり使用できます。ビューは表とは異なり保管されません。ビューはロックできません。

ユーザーの処置:

視点を形成する 1 つまたは複数の表をロックすることはできません。

SQL code: -813

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13014 システム・カタログ表やシステム DBSPACE はロックできません。

説明:

LOCK ステートメントで、システム・カタログ、または、システム・カタログ表の入った DBSPACE をロックしようとしています。権限に関係なく、どのようなユーザーもこれらの項目をロックすることはできません。

ユーザーの処置:

システム・カタログの排他的アクセスが必要なのであれば、QMF 管理者に連絡して、データベースの排他使用を要求してください。アクティブな他のユーザーが存在しない場合には、LOCK は不要です。

SQL code: -814

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13015 アカウンティング・ユーザー出口ルーチンによって接続が拒否されました。

説明:

データベースへの接続の試行は、インストール先システムのアカウンティング・ユーザー出口ルーチンによって拒否されました。

ユーザーの処置:

QMF 管理者を参照してください。

SQL code: -815

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13023 システム・カタログに対しこの操作は実行できません。

説明: 55 ページの『DSQ11223』を参照してください。

SQL code: -823

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13036 DRDA プロトコルを使用して現行ステートメントを実行できません。

説明:

現行ステートメントは、DRDA プロトコルに定義されていません。DRDA プロトコルが使用されるときには、以下にリストするステートメントはサポートされません。

- 拡張 PREPARE SINGLE ROW (FORTRAN では、SELECT INTO)
- FORTRAN 内の位置付け UPDATE または位置付け DELETE
- 拡張 EXECUTE...USING OUTPUT DESCRIPTOR
- CONNECT (ユーザー ID) IDENTIFIED BY (パスワード)
- DB2 サーバー (VM 版) のオペレーター・コマンド
- 変更可能パッケージ用の拡張動的ステートメント

SQL ステートメントの処理は終了しました。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

データベース・アプリケーション・サーバーに対してプログラムをプリプロセスおよび実行し、DRDA プロトコルは使用しないでください。DB2 Server for VM アプリケーション・サーバー以外に対して実行する必要がある場合は、プログラムを書き直して上記のステートメントを使わないようにしてください。例えば、現行ステ

ートメントが PREPARE SINGLE ROW の場合は、これを基本 PREPARE に置換し、カーソル操作を使用し必要なデータを検索してください。

SQL code: -836

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13111 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 55 ページの『DSQ11311』を参照してください。

SQL code: -911

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13112 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 55 ページの『DSQ11311』を参照してください。

SQL code: -912

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13114 取り消し要求が出されました。

説明: 55 ページの『DSQ11314』を参照してください。

SQL code: -914

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13115 システム作業負荷が原因で照会は処理されませんでした。

説明: 55 ページの『DSQ11315』を参照してください。

SQL code: -915

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13116 オペレーターの処置が原因で照会は処理されませんでした。

説明: 55 ページの『DSQ11316』を参照してください。

SQL code: -916

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13130 データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明: 56 ページの『DSQ11330』を参照してください。

SQL code: -930

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13133 &V1 への通信パスが使用可能ではありません。

説明: 56 ページの『DSQ11333』を参照してください。

SQL code: -933

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13139 データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明: 56 ページの『DSQ11330』を参照してください。

SQL code: -939

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13140 データベース &V1 が作動可能でないか、または見つかりません。

説明: 56 ページの『DSQ11340』を参照してください。

SQL code: -940

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13142 データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明: 56 ページの『DSQ11330』を参照してください。

SQL code: -942

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13143 QMF 仮想計算機 &V2 は、データベース &V1 にアクセスできません。

説明: 56 ページの『DSQ11343』を参照してください。

SQL code: -943

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13145 アクセス・モジュールの **DBSPACE** がすべていっぱいなので、視点を作成できません。

説明:

アクセス・モジュール用の DB スペースがすべてフルであるため、ビューを正常に作成するには、アクセス・

モジュール用に別の DB スペースを取得しておく必要があります。DBSPACE の使用可能なアクセス・モジュールがすべて使用されている場合や、DBSPACE に使用可能なフリー・スペースがない場合は、DBSPACE はいっぱいになります。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡して、アクセス・モジュール用の追加 DBSPACE を取ってもらい、再度照会を実行してください。

SQL code: -945

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13146 DBSPACE 番号 &V1 に十分な余地がないため、視点を作成できません。

説明:

DBSPACE 番号 &V1 がいっぱいであるために視点を作成できませんでした。DBSPACE の使用可能なアクセス・モジュールがすべて使用されている場合や、DBSPACE に使用可能なスペースがない場合は、DBSPACE はいっぱいになります。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡して、アクセス・モジュール用の追加 DBSPACE を取ってもらい、再度照会を実行してください。

SQL code: -946

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ13148 データベースへの接続は、オペレーター操作によって切断されました。

説明: 57 ページの『DSQ11348』を参照してください。

SQL code: -948

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ14000 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14001 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14002 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14003 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14004 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14005 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14006 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14007 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14008 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14009 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14010 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14011 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14012 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14013 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14014 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14015 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14016 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ14020 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:
モジュール &V1 で内部エラーが検出されました。
コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してく

ださい。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ14021 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 96 ページの『DSQ14020』を参照してください。

DSQ14051 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ14052 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10077』を参照してください。

DSQ14053 照会に使用されている列が多すぎます。

説明: 12 ページの『DSQ10078』を参照してください。

DSQ14054 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14055 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14057 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14058 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14059 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10084』を参照してください。

DSQ14060 データベースからの行の長さが 32767 文字を超えています。

説明:

照会によって選択された行が長すぎて処理ができません。

ユーザーの処置:

行の長さが 32767 文字以下になるように照会から 1 つ以上の列を除去するか、行の最大数が 2GB になるように DSQEC_TWO_GB_ROW 大域変数を 1 に設定してください。この変数について詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ14061 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14062 表の列の数が多すぎます。

説明: 27 ページの『DSQ10317』を参照してください。

DSQ14063 データベースからの行の長さが 32767 文字を超えています。

説明:

&V1 コマンドによって選択された行が長すぎて処理できません。

ユーザーの処置:

行の長さが 32767 文字以下になるように照会から 1 つ以上の列を除去するか、行の最大数が 2GB になるように DSQEC_TWO_GB_ROW 大域変数を 1 に設定してください。この変数について詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ14065 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14066 列名 '&V1' が長すぎます。

説明: 13 ページの『DSQ10093』を参照してください。

DSQ14067 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14068 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14069 LOB 列の長さが
DSQEC_LOB_COLMAX により設定された最大を超えています。

説明:

検索される LOB 列データの長さが、大域変数 DSQEC_LOB_COLMAX で指定された LOB 列の最大サイズを超えています。検索される LOB データの長さは &V2 です。DSQEC_LOB_COLMAX は &V1 に設定されます。データ検索は終了します。

ユーザーの処置:

大域変数 DSQEC_LOB_COLMAX は、0、または検索されるデータのサイズよりも大きい値に設定します。それから、コマンドを再試行します。

DSQEC_LOB_COLMAX の有効な値 (KB 単位) は、0 から 2147483637 (2 GB) です。後者の値は最大 LOB サイズです。値 0 は、最大がないことを示し、最大 LOB サイズの検索が許可されます。

DSQEC_LOB_COLMAX のデフォルト値は &V3 です。

DSQ14096 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 無効な機能コード

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認

認ってください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ14097 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14098 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14099 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14100 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14101 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ14102 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14103 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14104 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - バッファ・プール・レコードが使用できません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ14105 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14106 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14107 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ14108 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14109 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14104』を参照してください。

DSQ14110 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14104』を参照してください。

DSQ14111 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14112 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14113 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14114 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ14115 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14116 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14117 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14118 LOB 列の長さが DSQEC_LOB_COLMAX により設定された最大を超えています。

説明: 98 ページの『DSQ14069』を参照してください。

DSQ14119 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14121 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ14122 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10077』を参照してください。

DSQ14123 照会に使用されている列が多すぎます。

説明: 12 ページの『DSQ10078』を参照してください。

DSQ14124 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14125 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14126 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10081』を参照してください。

DSQ14127 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14129 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10084』を参照してください。

DSQ14130 データベースからの行の長さが 32767 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14060』を参照してください。

DSQ14131 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14132 表の列の数が多すぎます。

説明: 27 ページの『DSQ10317』を参照してください。

DSQ14133 データベースからの行の長さが 32767 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14063』を参照してください。

DSQ14134 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14136 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14137 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14138 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14140 列名 '&V1' が長すぎます。

説明: 13 ページの『DSQ10093』を参照してください。

DSQ14141 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14142 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14143 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14144 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14150 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ14151 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14152 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 24 ページの『DSQ10285』を参照してください。

DSQ14153 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 24 ページの『DSQ10285』を参照してください。

DSQ14154 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 24 ページの『DSQ10285』を参照してください。

DSQ14155 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14156 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14157 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14158 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14161 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ14176 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ14177 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10077』を参照してください。

DSQ14178 照会に使用されている列が多すぎます。

説明: 12 ページの『DSQ10078』を参照してください。

DSQ14179 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14180 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14181 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10081』を参照してください。

DSQ14182 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14184 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10084』を参照してください。

DSQ14186 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14189 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14191 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14192 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14193 列名 '&V1' が長すぎます。

説明: 13 ページの『DSQ10093』を参照してください。

DSQ14200 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

必要な記憶域を割り当てることができませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ14201 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14200』を参照してください。

DSQ14202 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14200』を参照してください。

DSQ14203 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14200』を参照してください。

DSQ14204 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14200』を参照してください。

DSQ14205 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14200』を参照してください。

DSQ14206 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14207 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

テンプレート・ツリーを作成できませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ14210 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

選択式を追加することができませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ14212 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

RM 呼び出しエラー - 関数 (&V1) CRC(&V2) CSI(&V3)。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ14213 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

リポジトリ管理プログラムの呼び出しのさいに内部エラーが発生しました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップし

たパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ14214 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14215 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14216 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14217 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14218 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14219 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14220 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14221 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14212』を参照してください。

DSQ14223 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14207』を参照してください。

DSQ14224 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14225 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14226 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 103 ページの『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14227 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

リポジット管理プログラムが無効なデータを受け取りました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。 QMF の使用を続けることができます。

DSQ14228 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14229 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14230 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

RM 呼び出しエラー - 関数 (&V1) CRC(&V2)
CSI(&V3) 戻りコード (&V4)。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。 QMF の使用を続けることができます。

DSQ14231 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14230』を参照してください。

DSQ14232 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ14233 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10077』を参照してください。

DSQ14234 照会に使用されている列が多すぎます。

説明: 12 ページの『DSQ10078』を参照してください。

DSQ14235 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14236 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14237 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10081』を参照してください。

DSQ14238 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14239 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10084』を参照してください。

DSQ14240 データベースからの行の長さが 32767 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14060』を参照してください。

DSQ14241 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14242 表の列の数が多すぎます。

説明: 27 ページの『DSQ10317』を参照してください。

DSQ14243 データベースからの行の長さが 32767 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14063』を参照してください。

DSQ14244 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14245 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14246 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14247 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14249 列名 '&V1' が長すぎます。

説明: 13 ページの『DSQ10093』を参照してください。

DSQ14250 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14230』を参照してください。

DSQ14251 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14230』を参照してください。

DSQ14252 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14230』を参照してください。

DSQ14253 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14227』を参照してください。

DSQ14254 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14227』を参照してください。

DSQ14255 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 103 ページの『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14256 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 103 ページの『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14257 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 103 ページの『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14258 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14230』を参照してください。

DSQ14259 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14230』を参照してください。

DSQ14260 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 103 ページの『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14261 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14227』を参照してください。

DSQ14280 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ14281 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10077』を参照してください。

DSQ14282 照会に使用されている列が多すぎます。

説明: 12 ページの『DSQ10078』を参照してください。

DSQ14283 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14284 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14285 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10081』を参照してください。

DSQ14286 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14288 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10084』を参照してください。

DSQ14289 データベースからの行の長さが 32767 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14060』を参照してください。

DSQ14290 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14291 表の列の数が多すぎます。

説明: 27 ページの『DSQ10317』を参照してください。

DSQ14292 データベースからの行の長さが 32767 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14063』を参照してください。

DSQ14293 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14295 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14296 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14297 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14299 列名 '&V1' が長すぎます。

説明: 13 ページの『DSQ10093』を参照してください。

DSQ14300 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14301 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14302 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14303 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14304 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ14305 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10077』を参照してください。

DSQ14306 照会に使用されている列が多すぎます。

説明: 12 ページの『DSQ10078』を参照してください。

DSQ14307 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14308 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14309 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10081』を参照してください。

DSQ14310 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14311 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10084』を参照してください。

DSQ14312 データベースからの行の長さが **32767** 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14060』を参照してください。

DSQ14313 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14314 表の列の数が多すぎます。

説明: 27 ページの『DSQ10317』を参照してください。

DSQ14315 データベースからの行の長さが **32767** 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14063』を参照してください。

DSQ14316 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14317 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14318 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14319 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14321 列名 '&V1' が長すぎます。

説明: 13 ページの『DSQ10093』を参照してください。

DSQ14322 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ14323 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10077』を参照してください。

DSQ14324 照会に使用されている列が多すぎます。

説明: 12 ページの『DSQ10078』を参照してください。

DSQ14325 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14326 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14327 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10081』を参照してください。

DSQ14328 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14329 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14330 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10084』を参照してください。

DSQ14331 データベースからの行の長さが **32767** 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14060』を参照してください。

DSQ14332 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14333 表の列の数が多すぎます。

説明: 27 ページの『DSQ10317』を参照してください。

DSQ14334 データベースからの行の長さが **32767** 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14063』を参照してください。

DSQ14335 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14336 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14337 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14338 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14339 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14340 LOB 列の長さが **DSQEC_LOB_COLMAX** により設定された最大を超えています。

説明: 98 ページの『DSQ14069』を参照してください。

DSQ14341 列名 '&V1' が長すぎます。

説明: 13 ページの『DSQ10093』を参照してください。

DSQ14349 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14350 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14351 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14352 要求を実行するために十分な、**2 GB** 境界より上の記憶域がありません。

説明:

QMF は、LOB および XML データ・タイプが含まれる QMF コマンドまたは SQL ステートメントを処理するために、2 GB 境界より上の記憶域を必要とします。要求を処理するために使用できる十分な、2 GB 境界より上の記憶域がありません。

ユーザーの処置:

要求を再サブミットする前に、2 GB 境界より上の記憶域の一部を解放してください。

以下のアクションで、2 GB 境界より上の記憶域の一部を開放できる場合があります。

- 現在の報告書を必要としなくなった場合は、RESET DATA コマンドを発行して現在の報告書を削除してください。
 - このエラーにより報告書全体を表示できない場合は、データベースから戻される行または列の数が少なくなるように照会を変更することを検討してください。
-

DSQ14353 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

2 GB 境界より上の記憶域の解放が失敗しました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ14354 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14355 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14104』を参照してください。

DSQ14356 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ14357 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 障害が起こったバッファ制御レコードを削除してください。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ14358 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14359 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14360 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14361 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14362 要求を実行するために十分な、2 GB 境界より上の記憶域がありません。

説明: 109 ページの『DSQ14352』を参照してください。

DSQ14363 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ14364 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ14357』を参照してください。

DSQ14365 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14104』を参照してください。

DSQ14366 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14367 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14400 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ14401 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 103 ページの『DSQ14212』を参照してください。

DSQ14402 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 103 ページの『DSQ14212』を参照してください。

DSQ14403 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14230』を参照してください。

DSQ14408 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14230』を参照してください。

DSQ14409 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14230』を参照してください。

DSQ14410 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14230』を参照してください。

DSQ14411 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14230』を参照してください。

DSQ14412 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

照会のリセット中にエラーが起きました。エラー (&V1)。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ14413 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

データのリセット中にエラーが起きました。エラー (&V1)。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ14414 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14415 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14416 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 103 ページの『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14420 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 103 ページの『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14421 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 103 ページの『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14422 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14227』を参照してください。

DSQ14423 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14227』を参照してください。

DSQ14424 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14227』を参照してください。

DSQ14425 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 104 ページの『DSQ14227』を参照してください。

DSQ14426 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 103 ページの『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14427 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14428 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 103 ページの『DSQ14213』を参照してください。

DSQ14438 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14439 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14440 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 96 ページの『DSQ14020』を参照してください。

DSQ14441 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 96 ページの『DSQ14020』を参照してください。

DSQ14442 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ14443 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 96 ページの『DSQ14020』を参照してください。

DSQ14444 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 96 ページの『DSQ14020』を参照してください。

DSQ14456 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ14457 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10077』を参照してください。

DSQ14458 照会に使用されている列が多すぎます。

説明: 12 ページの『DSQ10078』を参照してください。

DSQ14459 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14460 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14461 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10081』を参照してください。

DSQ14462 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14463 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14464 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10084』を参照してください。

DSQ14465 データベースからの行の長さが 32767 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14060』を参照してください。

DSQ14466 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14467 表の列の数が多すぎます。

説明: 27 ページの『DSQ10317』を参照してください。

DSQ14468 データベースからの行の長さが 32767 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14063』を参照してください。

DSQ14469 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14470 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14471 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14472 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14473 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14474 LOB 列の長さが
DSQEC_LOB_COLMAX により設定された最大を超えています。

説明: 98 ページの『DSQ14069』を参照してください。

DSQ14475 列名 '&V1' が長すぎます。

説明: 13 ページの『DSQ10093』を参照してください。

DSQ14478 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 110 ページの『DSQ14353』を参照してください。

DSQ14479 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ14480 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14104』を参照してください。

DSQ14481 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ14482 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14483 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14484 要求を実行するために十分な、2 GB 境界より上の記憶域がありません。

説明: 109 ページの『DSQ14352』を参照してください。

DSQ14485 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ14486 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14487 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ14488 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ14489 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14490 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14491 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ14492 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14493 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14494 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14495 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14104』を参照してください。

DSQ14496 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ14497 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14498 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14499 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14500 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14501 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ14502 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14503 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14504 要求を実行するために十分な、2 GB 境界より上の記憶域がありません。

説明: 109 ページの『DSQ14352』を参照してください。

DSQ14505 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14506 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ14507 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10077』を参照してください。

DSQ14508 照会に使用されている列が多すぎます。

説明: 12 ページの『DSQ10078』を参照してください。

DSQ14509 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14510 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14512 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14513 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14514 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10084』を参照してください。

DSQ14515 データベースからの行の長さが 32767 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14060』を参照してください。

DSQ14516 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14517 表の列の数が多すぎます。

説明: 27 ページの『DSQ10317』を参照してください。

DSQ14518 データベースからの行の長さが 32767 文字を超えています。

説明: 97 ページの『DSQ14063』を参照してください。

DSQ14520 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14521 列名 '&V1' が長すぎます。

説明: 13 ページの『DSQ10093』を参照してください。

DSQ14522 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ14523 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ14524 LOB 列の長さが DSQEC_LOB_COLMAX により設定された最大を超えています。

説明: 98 ページの『DSQ14069』を参照してください。

DSQ15101 照会が長すぎるか、または複雑すぎます。

説明: 41 ページの『DSQ10501』を参照してください。

SQL code: -101

Database: DB2 for z/OS

DSQ15103 &V1 は数字で始まっていますが、有効な数値ではありません。

説明: 41 ページの『DSQ10503』を参照してください。

SQL code: -103

Database: DB2 for z/OS

DSQ15104 照会の中の NULL、式、または比較が無効です。

説明: 42 ページの『DSQ10505』を参照してください。

SQL code: -104

Database: DB2 for z/OS

DSQ15113 名前 &V1 に、無効な文字があります。

説明:

データベース、記憶域グループ、表スペース、およびバッファー・プールの名前に使用できる文字は、英字の大文字、国別文字 (*、&、または @)、または数字だけです。最初の文字は、英字または国別文字でなければなりません。

ユーザーの処置:

名前 &V1 の無効な文字を訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -113

Database: DB2 for z/OS

DSQ15118 D、I、または U. の入った行が同じ表の中の行に連係することはできません。

説明: 42 ページの『DSQ10518』を参照してください。

SQL code: -118

Database: DB2 for z/OS

DSQ15120 照会に、視点に対する無効な参照があります。

説明:

ビューの定義において GROUP BY 文節で使用されている列は、更新することも条件で使用することもできません。組み込み関数で定義されている列は更新できません。

例えば、次の照会では、列 A が暗黙の条件で使用されるため、この照会は正しくありません。

```
CREATE VIEW VJ(A, B) AS
SELECT JOB, AVG(COMM)
FROM Q.STAFF GROUP BY JOB
```

これに加えて、列 A も列 B も U. 演算子と共に使用することはできません。従業員 Pernal の仕事を 'MGR' に更新する次のような照会は無効です。

VJ	NAME	A	B
-----	-----	-----	-----
	PERNAL	U.MGR	

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

視点の基礎となっている表にアクセスするための照会を作成してください。

SQL code: -120

Database: DB2 for z/OS

DSQ15121 同一の照会で同じ列を二度変更することはできません。

説明: 42 ページの『DSQ10521』を参照してください。

SQL code: -121

Database: DB2 for z/OS

DSQ15123 &V1 の位置のパラメーターは、定数またはキーワードである必要があります。

説明:

関数 &V2 の &V1 の位置のパラメーターは、定数であるよう要求された場合に定数でないか、またはキーワードであるよう要求された場合にキーワードではありません。

ユーザーの処置:

関数呼び出しを訂正して、照会を再実行してください。

SQL code: -123

Database: DB2 for z/OS

DSQ15127 1 つの行に対して複数の UNQ. または COUNT. 参照があります。

説明: 42 ページの『DSQ10527』を参照してください。

SQL code: -127

Database: DB2 for z/OS

DSQ15129 照会で 15 を超える表参照が用いられています。

説明:

1 つの照会で、15 を超える表参照を行うことはできません。

ユーザーの処置:

照会を 2 つ以上の照会に分割し、それぞれの表参照が 15 以下になるようにしてください。

SQL code: -129

Database: DB2 for z/OS

DSQ15131 LIKE 使用のステートメントに不適切なデータ・タイプがあります。

説明:

LIKE または NOT LIKE キーワードの右側の式にエスケープ文字が含まれている場合、そのエスケープ文字のデータ・タイプは、左側に指定された列のタイプと互換でなければなりません。

LIKE または NOT LIKE キーワードの左側に指定された列が CHAR として定義されている場合は、右側の式の結果データ・タイプも CHAR でなければなりません。文節に指定された列が図形データ・タイプで定義されている場合、右側の式の結果のデータ・タイプも GRAPHIC でなければなりません。

DSQ15134 • DSQ15161

同様に、列のデータ・タイプがバイナリー・ストリングである場合、式およびエスケープ文字はバイナリー・ストリングでなければなりません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

すべてのオペランドのデータ・タイプを調べて、もう一度、照会し直してください。

SQL code: -131

Database: DB2 for z/OS

DSQ15134 幅広の文字列が間違っ使われています。

説明:

文字データ・タイプで 254 文字を超える幅の列を使う場合には、いくつかの制限があります。このような列は、検索条件、ソート、算術演算に使用できません。また、このような列に対する挿入または更新に使用する値は定数でなければならず、副照会の結果として得られた値であってはなりません。

QBE 照会では、このような列の中で使用できる照会は、P.、I.、または U. 演算子だけです。

ユーザーの処置:

幅の広い文字列の使用を変更するか、またはその列を除去して、照会を再実行してください。

SQL code: -134

Database: DB2 for z/OS

DSQ15136 複合ソート・キーが長すぎるため表のソートができません。

説明:

複合ソート・キーは次の内のどちらかから導き出されません。

1. 例示表の中で AO.、DO.、または G. が使用されていないならば、検索されるすべての列がソートの公式化に使われます。
2. 列のすべてに AO. または DO. が含まれていません。
3. G. 演算子を含む列。

複合ソート・フィールドの長さが 4000 を超える場合は、表はソートできません。

ユーザーの処置:

複合ソート・キーをもっと短くしてください。

SQL code: -136

Database: DB2 for z/OS

118 DB2 QMF メッセージおよびコード

DSQ15150 この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: 73 ページの『DSQ12350』を参照してください。

SQL code: -150

Database: DB2 for z/OS

DSQ15151 列 &V1 は変更できません。

説明:

INSERT、UPDATE、または DELETE (SQL の場合) の使用、または I.、U.、または D. (QBE の場合) の使用で、下記の中の列を変更できません。

1. 複数の表に基づく視点
2. 式または組み込み関数によって定義される列を含む視点。例えば、UNITS*PRICE または AVG(SALARY)
3. DISTINCT または GROUP BY を使用する SELECT ステートメントにより定義された視点
4. 表スペースの区分化キー
5. 列を更新できないカタログ表

ユーザーの処置:

視点の作成に使われた各表を変更するために、それぞれ異なる照会を書いてください。

SQL code: -151

Database: DB2 for z/OS

DSQ15155 照会で、グループ化で定義された視点が使用されています。

説明: 44 ページの『DSQ10555』を参照してください。

SQL code: -155

Database: DB2 for z/OS

DSQ15161 挿入または更新の値が視点定義の条件を満たしていません。

説明: 43 ページの『DSQ10541』を参照してください。

SQL code: -161

Database: DB2 for z/OS

DSQ15180 日時の値 &V1 が無効です。

説明:

DATE データ・タイプで定義されたデータのストリング表記は、以下の形式 (またはローカルに定義された形式) でなければなりません。

```
'mo/dd/yyyy'
'dd.mo.yyyy'
'yyyy-mo-dd'
```

mo は月、dd は日、yyyy は年を表します。

TIME データ・タイプで定義されたデータのストリング表記は、以下のいずれかの形式 (またはローカルに定義された形式) でなければなりません。

```
'hh:mm xM'
'hh.mm.ss'
'hh:mm:ss'
```

hh は時、mm は分、ss は秒、x は AM または PM の表記を示す A または P を表します。

TIMESTAMP データ・タイプで定義されたデータのストリング表記は、以下の形式でなければなりません。

```
'yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.nnnnnnnnnnn'
```

形式の日付、時刻、およびタイム・スタンプ部分は前述のとおりで、nnnnnnnnnnnn は秒数の小数部分を表す 0 桁から 12 桁の値です。

TIMESTAMP WITH TIME ZONE データ・タイプで定義されたデータのストリング表記は、以下の形式でなければなりません。

```
'yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.nnnnnnnnnnnzth:tm'
```

形式の日付、時刻、およびタイム・スタンプ部分は前述のとおりです。

- z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号です。
- th は時間帯の時です。
- tm は時間帯の分です。

時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

日時値の構文を変更して、再度その照会を実行してください。

SQL code: -180

Database: DB2 for z/OS

DSQ15181 日時の値が無効です。

説明: 45 ページの『DSQ10581』を参照してください。

SQL code: -181

Database: DB2 for z/OS

DSQ15182 日付時刻の値を使っている算術式が無効です。

説明: 45 ページの『DSQ10582』を参照してください。

SQL code: -182

Database: DB2 for z/OS

DSQ15183 日付、またはタイム・スタンプに関する算術演算で、無効な結果が出ました。

説明: 46 ページの『DSQ10583』を参照してください。

SQL code: -183

Database: DB2 for z/OS

DSQ15185 日付または時刻の値を形式設定できません。

説明: 46 ページの『DSQ10585』を参照してください。

SQL code: -185

Database: DB2 for z/OS

DSQ15204 &V1 が見つかりません。

説明:

照会の中で &V1. が参照されています。データベースにこの名前を持つものがありません。

ユーザーの処置:

スペルの誤りがないかどうかを検査してください。

SQL code: -204

Database: DB2 for z/OS

DSQ15205 列名 &V1 は表 &V2 の中にありません。

説明: 47 ページの『DSQ10605』を参照してください。

SQL code: -205

Database: DB2 for z/OS

DSQ15206 列 &V1 は、指定された表の中にありません。

説明: 46 ページの『DSQ10602』を参照してください。

SQL code: -206

Database: DB2 for z/OS

DSQ15250 ロケーション修飾子は使用できません。

説明:

指定された名前には、ロケーション修飾子が使用されています。3つの部分からなるオブジェクト名は、ローカル・ロケーション名が定義されるまでは使用できません。

ユーザーの処置:

ロケーション修飾子を除去し、照会を再試行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認するか、ローカル・ロケーション名を定義してもらってください。

SQL code: -250

Database: DB2 for z/OS

DSQ15251 &V1 は、無効なロケーション名です。

説明:

&V1 には、英字の特殊文字 (#, @, \$) が含まれていません。英字の特殊文字は、ロケーション名には使用できません。

ユーザーの処置:

ロケーション名を訂正し、再試行してください。

SQL code: -251

Database: DB2 for z/OS

DSQ15270 関数はサポートされていません。

説明:

このステートメントは、1つ以上の次の制限を違反しているために処理されません。

ALTER INDEX または CREATE INDEX ステートメント。

- CREATE INDEX または ALTER INDEX ステートメントは、その索引が XML 索引の場合、あるいは、VARBINARY 列に対する索引である場合に PADDED を指定することはできません。CREATE

INDEX あるいは ALTER INDEX ステートメントでは、VARBINARY 列に NOT PADDED を指定してください。

- 索引が EXCLUDE NULL KEYS を使用して定義されている場合は、CREATE INDEX または ALTER INDEX ステートメントで、NOT NULL として定義されている列を指定してはなりません。
- 索引が EXCLUDE NULL KEYS を使用して定義されている場合は、CREATE INDEX ステートメントで、UNIQUE、BUSINESS_TIME WITHOUT OVERLAPS、XML 索引指定、またはキー式を指定してはなりません。
- 索引がパーティション索引である場合は、CREATE INDEX ステートメントで、EXCLUDE NULL KEYS を指定してはなりません。
- CREATE INDEX ステートメントは、XML 索引の場合は ASC、DESC、あるいは RANDOM を指定することはできません。
- CREATE INDEX ステートメントは、その索引が式に対する索引の場合に DESC または RANDOM を指定することはできません。CREATE INDEX ステートメントからキーワード DESC または RANDOM を削除してください。
- CREATE INDEX ステートメントは、パーティション・キーで BINARY 列または VARBINARY 列を指定することはできません。
- CREATE または ALTER INDEX ステートメントで、TIMESTAMP WITH TIME ZONE として定義されている列を含む索引の ASC、DESC、RANDOM を指定してはなりません。
- CREATE INDEX ステートメントは、空間インデックスの場合は DEFER YES を指定する必要があります。
- CREATE INDEX ステートメントは、宣言されたグローバル一時表の名前を指定することはできません。
- 列には、1つの空間インデックスのみ作成できます。
- 空間インデックスを BLOB 列または BLOB の特殊タイプの列に作成する場合、BLOB 列を保管する LOB 表スペースが存在している必要があります。
- 空間インデックスは変更できません。
- バージョン付きオブジェクト記述子 (OBD) の 30,000 バイトの内部制限を超えました。この状態は、ALTER INDEX ステートメントによって新しい索引バージョンに変更された場合に発生することがあります。

ALTER TABLE または CREATE TABLE ステートメント。

- VARBINARY 列がユニーク索引の一部になっている場合、ALTER TABLE ステートメントでその VARBINARY 列を BINARY に変更することはできません。
- ALTER TABLE ステートメントで、ADD CLONE 文節にマテリアライズ照会表を指定することはできません。変更を実行する前にマテリアライズ照会表を基本表に変更してください。
- ALTER TABLE または CREATE TABLE ステートメントは、パーティション・キーで BINARY 列または VARBINARY 列を指定することはできません。
- ALTER TABLE ALTER COLUMN SET DATA TYPE ステートメントは、列がパーティション・キー列であり、既存のデータ・タイプが CHAR または VARCHAR FOR BIT DATA であるときには、新しいデータ・タイプに VARBINARY または BINARY を指定することはできません。
- マテリアライズ照会表は、ALTER TABLE 用にクローン作成することはできません。
- CREATE TABLE ステートメントの as-result-table 文節に指定された全選択の結果表に、異なる CCSID セットでエンコードされたデータが含まれます。結果表に複数の CCSID セットを使用することはできません。
- バージョン付きオブジェクト記述子 (OBD) の 30000 バイトの内部制限を超えました。この状態は、ALTER 表ステートメントによって新しい表バージョンになる、そのステートメントがバージョン付き表に対して実行される、またはそのステートメントによって新規索引バージョンになる場合に発生することがあります。
- この表スペースはユニバーサル表スペースではないため、LOB 列に INLINE LENGTH を使用することはできません。
- ALTER TABLE ステートメントが ADD PERIOD 文節とともに指定されました。列マスクまたは行の許可が表に定義されています。列マスクまたは行の許可が定義されている表に、期間を追加することはできません。

CREATE VIEW または ALTER VIEW REGENERATE ステートメント

- 視点定義で参照されるすべての視点と SQL 関数は、定義されている視点と同じ丸めモードになっている必要があります。丸めモード情報が未定義の SQL 関数は、丸めモード検査中、無視されます。

その他の制限

- SQL ステートメントで参照される視点および SQL 関数は、SQL ステートメントと同じ丸めモードを使

用している必要があります。丸めモード情報が未定義の視点および SQL 関数は、丸めモード検査中、無視されます。

- 副選択では、OLD TABLE が指定されている場合に、選択リストに XML 列を含めることはできません。
- RID 組み込み関数、および ROW CHANGE TOKEN 式は、副選択が直接 LEFT OUTER JOIN、RIGHT OUTER JOIN、または FULL OUTER JOIN 演算子を含んでいる場合にその副選択に指定することはできません。
- ROW CHANGE TIMESTAMP 式は、副選択に直接 LEFT OUTER JOIN、RIGHT OUTER JOIN、または FULL OUTER JOIN 演算子が含まれており、表指定子が行変更タイム・スタンプ列を含む基本表を識別する場合にのみ、副選択に指定できます。
- フィールド・プロシージャで定義された列から派生した式を使用して SQL 表関数を呼び出してはなりません。
- SQL 表関数の入力引数に、直接的にまたは式の一部としてスカラー全選択が含まれてはなりません。
- SQL ステートメントに、XMLAGG 関数の呼び出しだけでなく、ARRAY_AGG 関数の呼び出しが含まれています。これらの 2 つの関数を同じステートメントから呼び出すことはできません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

構文を訂正し、ステートメントを再実行依頼してください。

SQL code: -270

Database: DB2 for z/OS

DSQ15312 ID &V1 に対するコンテキストが無効です。

説明:

照会に含まれる何らかの項目が、プリプロセッサに送信される照会において有効である可能性があります。QMF では無効です。ID またはその前の予約語のどれかにエラーがあるものと考えられます。

このエラーを起こす可能性のある状態の例を以下に示します。

- 文字値が単一引用符で囲まれていない。例えば、次の条件は誤りです。

```
WHERE NAME IN (JONES, SMITH)
```

この条件は、次のように 'JONES' と 'SMITH' が単一引用符で囲まれていれば有効です。

DSQ15313 • DSQ15399

WHERE NAME IN ('JONES','SMITH')

- 照会の中に無効なキーワードがある。例えば、"SELECT NAME INTO TYPE" は、キーワード "INTO" が正しくは "FROM" であるため無効です。
- 列名の前にコロンが付いている (例えば、"WHERE NAME = :JONES")。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

照会を訂正して、再実行してください。

SQL code: -312

Database: DB2 for z/OS

DSQ15313 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -313

Database: DB2 for z/OS

DSQ15332 文字ストリングが CCSID の未定義によって変換されませんでした。

説明:

SQL ステートメントは、現行文字セットと違ったコード化文字セットの中にあるコード化文字セット (CCSID) &V1 を持つ文字ストリングを参照しました。現行サーバーでこの文字ストリングを使用するには、この文字ストリングをソース CCSID &V1 からターゲット CCSID &V2 に変換しなければなりません。&V3 は DB2 から返される理由コードを記述しています。

DB2 から返される理由コードは、先頭が「DSN」であり、変換が要求されたコンテキストを示します。先頭が「DSN」以外の値は、他の DB2 プラットフォームから返されたもので、そのような値についてはそのプラットフォームの資料に説明があります。

ユーザーの処置:

文字列および参照した値が正しいかどうか検査してください。誤りがあれば、必要な変更を行い、再度照会を試みてください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQL code: -332

Database: DB2 for z/OS

DSQ15338 ON 文節の使用が無効です。

説明:

ON 文節が以下のいずれかの理由で、誤って使用されています。

- 述部の式の一方は、関連結合演算子のオペランド表の一方に含まれる列のみを参照しなければなりません。述部の式のもう一方は、もう一方のオペランド表の列のみを参照しなければなりません。
- 結合演算子が FULL OUTER JOIN または FULL JOIN の場合にのみ、VALUE または COALESCE 関数を ON 文節で使用できます。
- '=' 以外の演算子は、FULL OUTER JOIN または FULL JOIN では許可されていません。
- ON 文節に副照会を含めることはできません。
- ON 文節に XMLEXISTS 述部を含めることはできません。
- マージ・ステートメントの ON 文節の検索条件では副照会は許可されません。
- マージ・ステートメントの ON 文節の検索条件に非決定性スカラー関数を含めることはできません。
- 完全な結合の場合は、EBCDIC 表のバージョン 11 ユニコード列を結合条件で参照することはできません。
- 完全な結合の場合は、EBCDIC 表のバイナリー・ユニコード列を結合条件で参照することはできません。

ユーザーの処置:

ON 文節の構文を訂正して、照会を再実行してください。

SQL code: -338

Database: DB2 for z/OS

DSQ15351 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: 48 ページの『DSQ10751』を参照してください。

SQL code: -351

Database: DB2 for z/OS

DSQ15399 ROWID 列に無効な値があります。

説明:

ROWID 列に無効な値を挿入しようとしました。

ユーザーの処置:

前もって DB2 で生成された ROWID の値だけを ROWID 列に挿入する値として使用することができま

DSQ15408 • DSQ15419

Database: DB2 for z/OS

DSQ15408 UPDATE コマンドまたは INSERT コマンドに指定された値が、関連する列のデータ・タイプと非互換です。

説明: 49 ページの『DSQ10808』を参照してください。

SQL code: -408

Database: DB2 for z/OS

DSQ15409 照会中の名前の最初か終わりがブランクです。

説明: 44 ページの『DSQ10565』を参照してください。

SQL code: -409

Database: DB2 for z/OS

DSQ15410 値 '&V1' の長さが、許容される文字数を超えています。

説明: 50 ページの『DSQ10810』を参照してください。

SQL code: -410

Database: DB2 for z/OS

DSQ15411 "USER" の使い方が無効です。USER が式の中で使われているか、または数字データか図形データと比較されたか、条件に使われていません。

説明:

USER は条件の中でだけ使用できます。また USER は数字データまたは図形データとは比較できません。下記は USER の有効な使い方の例です。

```
Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM | YEARS |
-----+-----+-----+-----+-----+
P.      | USER |       |     |     |
```

ユーザーの処置:

ユーザーの照会の中の USER の使用個所を訂正して再度、照会し直してください。

SQL code: -411

Database: DB2 for z/OS

DSQ15413 データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 50 ページの『DSQ10813』を参照してください。

SQL code: -413

Database: DB2 for z/OS

DSQ15414 LIKE 演算子は、文字データまたは図形データのみで使用できます。

説明: 50 ページの『DSQ10814』を参照してください。

SQL code: -414

Database: DB2 for z/OS

DSQ15415 2 つの異なる P. 行の同じ列に検索して入れるデータは、比較可能な定義をされていなければなりません。

説明: 50 ページの『DSQ10815』を参照してください。

SQL code: -415

Database: DB2 for z/OS

DSQ15416 2 つの異なる P. 行により検索されて同じ列に入れられるデータは、長い可変文字属性のデータを参照してはなりません。

説明: 51 ページの『DSQ10816』を参照してください。

SQL code: -416

Database: DB2 for z/OS

DSQ15417 "?" の使い方が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -417

Database: DB2 for z/OS

DSQ15418 "?" の使い方が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -418

Database: DB2 for z/OS

DSQ15419 使用されている値を用いた 10 進除算はできません。

説明: 51 ページの『DSQ10819』を参照してください。

SQL code: -419

Database: DB2 for z/OS

DSQ15420 無効な文字ストリング引数が、&V1 関数で使用されました。

説明:

文字ストリング引数が、関数の規則に合っていません。例えば、DECIMAL 関数に渡される文字ストリングが、SQL 整数や 10 進数定数を形成するためのルールに従っていませんでした。

ユーザーの処置:

引数の値を変更して、関数の要件に合うようにしてください。

SQL code: -420

Database: DB2 for z/OS

DSQ15423 位置「&V1」に指定されたロケーターが無効です。

説明:

SQL ステートメント内のロケーター変数のリストの位置 &V1 に、無効な値を持つ変数が含まれています。このエラーの原因は、ロケーター変数のタイプによって異なります。

- 結果セット・ロケーター 結果セット・ロケーターが関係するエラーの一般的な原因は以下のとおりです。
 - 結果セット・ロケーターとして使用されたホスト変数に、有効な結果セット・ロケーター値が割り当てられなかった。結果セット・ロケーター値は、DESCRIBE PROCEDURE ステートメントおよび ASSOCIATE LOCATORS ステートメントから返されます。
 - SQL カーソルが閉じた可能性がある。結果セット・ロケーター値は、基になる SQL カーソルが開いている場合のみに有効です。コミットまたはロールバック操作で SQL カーソルが閉じられた場合、そのカーソルに関連付けられた結果セット・ロケーターは無効でなくなります。
- LOB ロケーター LOB ロケーターが関係するエラーの一般的な原因は以下のとおりです。
 - LOB ロケーターとして使用されたホスト変数に、有効な LOB 値が割り当てられなかった。
 - コミットまたはロールバック操作、または SQL FREE LOCATOR ステートメントでロケーターが解放された。
 - 3 部構成の名前を使用して LOB 列を含む表を参照する QMF 照会を、リモート・サーバーで実行しようとした。DSQEC_LOB_RETRV 大域変数を

1 に設定すると、QMF は、3 部構成の名前を使用して LOB データを含む表をリモート・サーバーで参照する照会をサポートしません。これはデフォルト設定です。リモート・サーバーで LOB データを取り出す、または操作する照会を実行するには、2 つのオプションがあります。

DSQEC_LOB_RETRV 大域変数の設定は、2 または 3 に変更できます。あるいは、QMF CONNECT コマンドを使用して、リモート・サーバーに接続し、照会を再度実行できます。

DSQEC_LOB_RETRV 大域変数について詳しくは、『DB2 QMF 解説書』を参照してください。

- 表ロケーター 表ロケーターでは、一般にこのエラーは、表ロケーターとして使用されたホスト変数に有効な表ロケーター値が割り当てられなかった場合に発生します。

ユーザーの処置:

ロケーターの追加の詳細情報については、DB2 for z/OS の情報を、以下にある IBM Knowledge Center で参照してください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

SQL code: -423

Database: DB2 for z/OS

DSQ15430 &V1 &V2 が異常終了しました。

説明:

&V1 &V2 (SPECIFIC NAME &V3) は、異常終了しました。次の SQLSTATE が返されました:&DSQSQLST。

ユーザーの処置:

ストアード・プロシージャまたは関数を修正する必要があります。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡してください。このルーチンは、修正されるまで、使用しないでください。

SQL code: -430

Database: DB2 for z/OS

DSQ15441 DISTINCT または ALL を &V1. とともに使用することは無効です。

説明:

キーワード DISTINCT または ALL が、関数 &V1. への参照の括弧内で検出されました。この関数はスカラー関数として認識されました。

ユーザーの処置:

DSQ15442 • DSQ15495

スカラー関数を使用されている場合は、キーワード DISTINCT または ALL を除去してください。これはスカラー関数には無効です。

列関数を使用されている場合、関数解決に問題があります。特殊レジスター CURRENT FUNCTION PATH の値を調べてください。また関数名のスペル、および照会とシステム・カタログの両方にあるパラメーターの数とタイプも検査してください。

SQL code: -441

Database: DB2 for z/OS

DSQ15442 ルーチン &V1 の参照中にエラーが発生しました。

説明:

ルーチン &V1 への参照で引数の指定が多すぎます。最大許容数は 90 です。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

ステートメントを訂正して使用されている引数の数が正しいことを確認し、照会を再度実行してください。

SQL code: -442

Database: DB2 for z/OS

DSQ15443 外部関数 &V1 からエラーが返されました。

説明:

外部関数 &V1 が、以下の診断テキストを持つ SQLSTATE エラーを戻しました。

&V3

この関数の具体的な名前は &V2 です。この名前の最初の 3 文字が DSQ の場合、失敗した関数は QMF 関数です。

ユーザーの処置:

QMF 管理者にこの問題を報告してください。管理者はこのメッセージに関連付けられた SQL コードの説明を読んで、この問題を診断できます。この SQL コードを以下に示します。SQL コードの説明については、データベース管理システムのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

SQL code: -443

Database: DB2 for z/OS

DSQ15471 理由 &V2 により、関数またはプロシージャ &V1 の呼び出しに失敗しました。

説明:

ルーチンが呼び出されましたが、その呼び出しは受け入れられませんでした。戻された DB2 理由コードは &V2 です。失敗の原因を判別するには、データベースのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

ステートメントは実行できません。エラーを説明するメッセージが z/OS システム・コンソールに表示される場合があります。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

DB2 理由コードで説明された状態を訂正して、関数またはストアード・プロシージャを再試行してください。

SQL code: -471

Database: DB2 for z/OS

DSQ15495 この照会を行うと、DB2 のコストの見積もりの制限を超えます。

説明:

DB2 は、この照会でのコストの見積もりが、照会の実行を防ぐリソース限定機能 (DB2 管理プログラム) に指定された制限を超えると判別しました。

照会ステートメントのコスト見積もりの詳細は、次のとおりです。

- コスト見積もりは &V2 サービス単位 * である。
 - 指定された制限は &V4 サービス単位 * である。
 - DB2 のコスト・カテゴリーは '&V3' である。
 - 約 &V1 プロセッサ・ミリ秒ほどかかる。
- * サービス単位はプロセッサ使用量の測度で、異なるプロセッサ・タイプ間でも一貫しています。

ユーザーの処置:

コスト・カテゴリー値が「B」の場合は、DB2 管理者に支援を要請してください。DB2 カタログ統計またはリソース限定表 (RLST) の更新が必要となる場合があります。

SQL ステートメントの費やすプロセッサ時間があまりにも多い場合は、より効果的に実行できるようにステートメントを書き直して、照会を再実行してください。

次の事項について検査してください。

- 照会で選択された列で、使用されていないものはないか。
- 不必要な ORDER BY または GROUP BY 文節がないか。
- WHERE 文節が正しく記述されているか。
- 照会に副照会が含まれているか。
- 照会に列関数が含まれているか。

照会によっては、照会から GROUP BY 文節を除去し、代わりに QMF FORM の GROUP 取扱コードを使用すると、簡略化できる場合があります。

照会によっては、外部結合や CASE 式などの拡張 SQL 構文を使用することでパフォーマンスが向上する場合があります。

拡張分析の場合、EXPLAIN SQL ステートメントを使用して、照会の構造および実行パフォーマンスについての情報を収集できます。

照会および EXPLAIN ステートメントの情報については、SQL 解説書を参照してください。

照会の調整、および効率的な述部および副照会の記述の詳細については、データベース管理システムの管理情報を参照してください。

SQL code: -495

Database: DB2 for z/OS

DSQ15512 照会内にリモート・オブジェクトへの無効な参照があります。

説明:

このエラーは、以下の場合に発生する可能性があります。

- 照会内で指定されたオブジェクトが、複数のリモート・ロケーションに格納されている。
照会に 3 部構成の名前を持つオブジェクトが複数含まれている場合は、これらの名前のすべてでロケーション修飾子が同じである必要があります。QMF は、一度の照会で複数のリモート・ロケーションのデータにアクセスできません。
- 照会が別名を不正に使用している。
- 照会に、現行ロケーションのみで発行可能なステートメントが含まれている。
例えば、リモート・ロケーションに存在する表を作成、および除去することはできません。
- リモート参照を持つ 3 部構成の名前が所有権譲渡ステートメントで使用されています。

ユーザーの処置:

- 照会で、複数のリモート・ロケーションを参照しないようにしてください。
- 照会内の別名がすべて正しく使用されていることを確認してください。
- 照会にリモートで完了できないステートメントが含まれている場合は、CONNECT コマンドを使用して問題となっているデータベースに接続してから、照会を再実行します。

別名の使用に関する追加情報については、以下にある IBM Knowledge Center を参照してください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

SQL code: -512

Database: DB2 for z/OS

DSQ15513 別名 &V1 は他のローカルカリモートの別名として定義できません。

説明:

&V1 によって示されたオブジェクトは、示されたロケーションに存在します。しかし、そのロケーションで別名として定義されています。

ユーザーの処置:

すべてのオブジェクト参照が、示されたロケーションにある表または視点になるように、照会を変更してください。

SQL code: -513

Database: DB2 for z/OS

DSQ15530 外部キーの値が無効です。

説明: 51 ページの『DSQ10930』を参照してください。

SQL code: -530

Database: DB2 for z/OS

DSQ15531 親行の主キー &V1 は更新できません。

説明:

更新要求で更新対象の表の主キーに対して値が指定されていますが、その主キー値によって識別される行には従属行が関連付けられています。親行の主キーの値は、その親行に従属行がある場合は更新できません。

ユーザーの処置:

更新する行として正しい行を指定したか確認してください

DSQ15532 • DSQ15607

い。親行の主キーの値を更新する前に、親行に従属行があつてはなりません。

SQL code: -531

Database: DB2 for z/OS

DSQ15532 **RESTRICT** 削除規則のため、行は削除できません。

説明:

削除操作で親行を削除しようとした。しかし、その親行は削除できません。それは、RESTRICT の削除規則がこの削除操作によって影響を受ける表と関連しているからです。その親行に RESTRICT の削除規則との関係で従属表が存在するか、または削除が RESTRICT の削除規則との関係で従属表になっている行にカスケードするからです。

ユーザーの処置:

削除する正しい行を選択しているか確認してください。選択している場合は、RESTRICT の削除ルールによって従属行をすべて削除してください。親行を削除してください。

SQL code: -532

Database: DB2 for z/OS

DSQ15533 自己参照表には複数行を挿入できません。

説明:

自己参照表には、I. を使用して一度に複数行を挿入することはできません。

ユーザーの処置:

挿入要求で 1 行のデータ行だけ挿入することを確認してください。

SQL code: -533

Database: DB2 for z/OS

DSQ15534 複数行の主キーまたはユニーク制約を更新できません。(Cannot update a primary key or unique constraint in multiple rows.)

説明: 51 ページの『DSQ10934』を参照してください。

SQL code: -534

Database: DB2 for z/OS

DSQ15536 表 &V1 が影響を受ける可能性があるため、削除は無効です。

説明:

表 &V1 の値による表からの削除操作を実行するために、D. は使用できません。それは、表 &V1 はその削除によって影響を受ける可能性があるからです。

ユーザーの処置:

影響を受ける可能性がある表の中の値に基づいて、表に対する削除操作を実行しないでください。

SQL code: -536

Database: DB2 for z/OS

DSQ15540 表 &V1 には、主キーまたは ROWID の基本索引がありません。

説明:

表 &V1 には、主キーまたは ROWID 列があるが、基本索引がないので、この表をコマンドで参照できません。

ユーザーの処置:

表の参照する前に、その表に対する基本索引を定義してください。

SQL code: -540

Database: DB2 for z/OS

DSQ15551 照会の実行に必要な権限がありません。

説明: 52 ページの『DSQ10951』を参照してください。

SQL code: -551

Database: DB2 for z/OS

DSQ15552 照会の実行に必要な権限がありません。

説明: 52 ページの『DSQ10951』を参照してください。

SQL code: -552

Database: DB2 for z/OS

DSQ15607 操作またはオプション &V1 はこのオブジェクトに対して定義されていません。

説明:

以下の制限が当てはまります。

- システム・オブジェクトの所有者が SYSIBM である場合、またはそのスキーマの先頭が SYS である場合、多くのシステム・オブジェクトの所有権は譲渡できません。
- DB2 カタログ (DSNDB06) データベースでの表スペースの作成時または変更時に、LOGGED および NOT LOGGED を設定することはできません。
- カタログ・オブジェクトおよびディレクトリー・オブジェクトのクローンは作成できません。
- 操作 &V1 を指定する ALTER TABLE ステートメントを、カタログ表で指定することはできません。
- 表参照が表でない場合は期間指定を使用してはなりません。
- 操作は SELECT ステートメントで、操作のターゲットはディレクトリー・オブジェクトです。DB2 は、SELECT ステートメントを UR 分離レベルに変換することはできません。例えば、ディレクトリー・オブジェクト SYSIBM.SYSLGRNX に対する SELECT 操作は、UR 分離レベルに変換できないため、次の SQL ステートメントは実行できません。 UPDATE T1 SET C1 = (SELECT C1 FROM T1) WHERE EXISTS(SELECT LGRDBID FROM SYSIBM.SYSLGRNX);

ユーザーの処置:

このオブジェクトで SQL ステートメントのオプションを実行できない場合、SQL ステートメントを修正してステートメントを再実行依頼してください。オブジェクトで操作が定義されていない場合、ステートメントは実行できません。

SQL code: -607

Database: DB2 for z/OS

DSQ15618 システム・データベースに対しては &V1 はできません。

説明:

システム・データベースは、&V1 も含めて特定の操作の対象とすることはできません。考えられる理由は以下のとおりです。

- システム・データベースの作成中に CCSID ASCII が指定された。
- システム・データベースの作成中に APPEND が指定された。
- システム・データベースで所有権の譲渡が指定された。

ユーザーの処置:

この操作は行わないようにしてください。

SQL code: -618

Database: DB2 for z/OS

DSQ15642 固有キーに指定された桁が多過ぎます。

説明:

CREATE TABLE ステートメントの UNIQUE 文節で使用されている列が多過ぎます。指定した列の総数が、データベース制限を超えてはいけません。

ユーザーの処置:

UNIQUE 文節のキーの合計桁数を減らすようにしてください。データベース制限については、「SQL 解説書」マニュアルを参照してください。

SQL code: -642

Database: DB2 for z/OS

DSQ15652 プロシージャ &V1 が結果を拒否しました。

説明:

&V1 は照会の結果の編集または検証を目的としてインストール先で定義されているプロシージャです。照会の結果が、このプロシージャの要件を満たしていませんでした。

ユーザーの処置:

インストール先の編集および検証プロシージャについては、QMF 管理者に説明を求めてください。

SQL code: -652

Database: DB2 for z/OS

DSQ15659 表オブジェクトの最大サイズを超えました。

説明:

表を構成している 1 つまたは複数のオブジェクトが、最大サイズに達しました。表を構成している記憶域オブジェクトを以下に示します。

- データ-基本列データが保管されている場所です。
- 索引 - 表のすべての索引が格納されている場所です。
- 長データ - LONG VARCHAR および LONG VARCHARIC 列データが格納されている場所です。
- LOB/LOB - BLOB、CLOB および DBCLOB 列データ、および制御情報が格納されている場所です。

DSQ15666 • DSQ15735

一度記憶域オブジェクトがその最大サイズになると、それ以上拡張することはできません。

ユーザーの処置:

オブジェクト内の既存のスペースを新規データを保管するのに使用するには、以下を行うことができます。

- 表を再編成する。
- 表から不必要な行を削除する。
- 表から索引を除去する。
- 行を更新してデータの量を減らす。

SQL code: -659

Database: DB2 for z/OS

DSQ15666 ユーティリティ、リソース限定機能、または分散データ機能が実行中です。

説明:

システム・ユーティリティが実行中の場合は、照会が実行される前に、実行を完了しなければなりません。リソース限定機能が実行中の場合は、照会が実行される前に、停止されるかまたは別のリソース限定管理表に切り替えられなければなりません。分散データ機能が実行中の場合、通信データベースのオブジェクトが除去される前に停止していなければなりません。

ユーザーの処置:

ユーティリティが終了するまで待つか、またはリソース限定機能が停止するか別のリソース限定管理表に切り替えられるまで待ち、照会を再度実行してください。または、分散データ機能が停止するまで待ち、そのオブジェクトを除去してください。

SQL code: -666

Database: DB2 for z/OS

DSQ15681 列 &V1 が、インストール先で定義したフィールド・プロシージャに違反しました。 **RT:** &V2、**RS:** &V3、**MSG:** &V4。

説明:

列 &V1 で、フィールド・プロシージャのエラーが発生しました。以下の戻りコード (RT) で、問題を判別してください。

4 Invalid value on encode or decode or invalid column definition.
8 Invalid parameter value.
12 Field procedure error on any function.

詳細は、理由コード (RS) およびメッセージ (MSG) トークンを利用してください。

ユーザーの処置:

フィールド・プロシージャに誤りがない場合は、その

フィールド・プロシージャに必要となる要件を判別してください。フィールド・プロシージャに誤りがある場合には、そのフィールド・プロシージャを調べてください。

SQL code: -681

Database: DB2 for z/OS

DSQ15686 互いに異なるフィールド・プロシージャを使用して定義された 2 つの列を比較することはできません。 (**A column defined with a field procedure cannot be compared to another column with a different field procedure.**)

説明:

フィールド・プロシージャを使用して定義された 2 つの列を比較する場合、2 つの列のフィールド・プロシージャは同じでなければなりません。

ユーザーの処置:

SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQL code: -686

Database: DB2 for z/OS

DSQ15687 列のフィールド・タイプが適合しません。

説明:

フィールド・プロシージャを持つ列を別の列と比較する場合は、両方の列のフィールド・プロシージャとフィールド・タイプが同じでなければなりません。比較は列の値のエンコード形式で行われます。例えば、エンコードされた値が数字であれば、それらのデータ・タイプは数字でなければなりません。エンコードされた値がストリングであれば、それらのデータ・タイプもストリングでなければなりません。

ユーザーの処置:

SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQL code: -687

Database: DB2 for z/OS

DSQ15735 データベース &V1 は所有サブシステムの共有データベースではありません。

説明:

&V1 で示されるデータベース中のオブジェクトにアクセスしようとしていました。そのデータベースは、アクセスしているサブシステムで ROSHARE READ として定義

されています。そのデータベースは所有サブシステムで ROSHARE OWNER として定義されていません。したがって、オブジェクトにアクセスすることはできません。

ユーザーの処置:

正しいオブジェクトが指定されていることを検査してください。

SQL code: -735

Database: DB2 for z/OS

DSQ15766 DB2 補助表は、直接参照することはできません。

説明:

補助表にあるデータは、補助表名を指定してアクセスすることはできません。補助表にあるデータは、基本表での操作によってのみアクセスできます。

ユーザーの処置:

該当する基本表を使用し、照会を再実行してください。

SQL code: -766

Database: DB2 for z/OS

DSQ15798 GENERATED ALWAYS と定義されている列に値を指定することはできません。

説明:

列 &V1 で値を挿入または更新しようとしてしました。これは GENERATED ALWAYS と定義されています。GENERATED ALWAYS と定義されている列は、VALUES リスト内の対応するエントリーが DEFAULT でない限り、INSERT または UPDATE ステートメントで列リストに指定するべきではありません。

ユーザーの処置:

列 &V1 を列リストから除去するか、または VALUES 文節の &V1 ID 列に DEFAULT を指定してください。

Example 1:
INSERT INTO MYTABLE (COL2, COL3)
VALUES ('LUCINDA',49.95)

Example 2:
INSERT INTO MYTABLE
VALUES (DEFAULT,'LUCINDA',49.95)

SQL code: -798

Database: DB2 for z/OS

DSQ15801 ゼロによる除算が試みられました。

説明:

列または演算式の処理の結果が、ゼロによる除算となりました。

ユーザーの処置:

ステートメントを訂正し、再実行してください。

SQL code: -801

Database: DB2 for z/OS

DSQ15802 SQL コマンドにおける算術演算の結果、例外エラーが発生しました。(An arithmetic operation in the SQL command has resulted in an exception error.)

説明: 54 ページの『DSQ11202』を参照してください。

SQL code: -802

Database: DB2 for z/OS

DSQ15803 固有索引列の中に重複値があります。

説明: 54 ページの『DSQ11203』を参照してください。

SQL code: -803

Database: DB2 for z/OS

DSQ15805 使用したコマンドには、見つからなかった適用業務パッケージが必要です。

説明:

データベースから -805 SQL コードが発行されると、QMF がこのエラー・メッセージを発行します。

QMF インストール・ジョブ DSQ1BPKG によって実行されるバインド処理では、QMF に必要な適用業務パッケージをバインドします。このエラーは、コマンドを完了するために必要なパッケージ &V1 が見つからないことを示しています。

この問題は以下の原因で発生する可能性があります。

- CONNECT コマンドを発行してリモート・ロケーションへ接続したが、実行しようとしている QMF バージョンが、コマンドが送信されたロケーションにはインストールされていないため、適切なパッケージが存在しない。
- コマンドに 3 部構成の名前が含まれていたが、3 部構成の名前のサポートを遠隔サーバーで使用可能にするための適切なインストール手順を完了しなかった。
- コマンドに 3 部構成の名前が含まれていたが、コマンドが DB2 for z/OS 以外のサーバーに送信された。リクエスト・データベースで、複数行取り出しサポートがオンになった状態で QMF が開始された。複数行取り出し機能がアクティブであるときは、

DB2 for z/OS 以外のサーバーへ 3 部構成の名前を送信することはできません。

- コマンドに 3 部構成の名前が含まれていたが、コマンドが DB2 for VM または DB2 for VSE サーバーへ送信された。3 部構成の名前が含まれたコマンドは、これらのタイプのサーバーへ送信できません。
- QMF サービスがシステムで現行でないか、またはサービスを適用したがジョブ DSQ1BPKG を再実行しなかった (またはジョブが正常に完了しなかった)。

ユーザーの処置:

この問題を QMF 管理者に報告してください。管理者は、以下の手順でこの問題を診断および修正できます。

- コマンドが CONNECT コマンドだった場合は、コマンドの送信先サーバーに QMF バージョンがインストールされていることを確認してください。インストールされている場合は、すべてのインストール・ジョブが正常に実行されたこと、およびインストール検査手順のすべてのステップがエラーなしで終了したことを確認します。

CONNECT コマンドが正しく機能するためには、リクエスターとサーバー・データベースの両方でジョブ DSQ1BPKG を実行する必要があります。ジョブで「ssid」(ローカルの DB2 for z/OS リクエスターを識別する) と「location」(リモート・サーバーを識別する) に対して正しい値を入力したことを確認してください。インストールのロードマップと手順は、「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」に記載されています。

- コマンドに 3 部構成の名前が含まれていた場合は、3 部構成の名前をサポートするように遠隔サーバーを準備するためのインストール手順を正常に完了したことを確認してください。このサポートのために従う必要のあるインストールのロードマップと手順は、「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」に記載されています。
- コマンドに 3 部構成の名前が含まれていて、DB2 for z/OS 以外のリモート・サーバーに送信された場合は、大域変数 DSQAO_DSQSMRFI を確認して、QMF が複数行取り出し機能をオンにして開始されたかどうかを判別してください。そうであれば、QMF を、複数行取り出し機能をオフ (MR=NO) にして再始動してください。
- このエラーの原因となったコマンドの処理に関するシステムの QMF サービスが最新であることを確認します。

QMF に必要な QMF 適用業務パッケージに影響するサービスを最近適用した場合は、ジョブ DSQ1BPKG を再実行して、QMF パッケージを再インストールします。CONNECT コマンドが正しく機能す

るためには、リクエスターとサーバー・データベースの両方で、また、3 部構成の名前サポートが正しく機能するためには、サーバー・データベースで、このジョブを再実行する必要があります。ジョブで「ssid」(ローカルの DB2 for z/OS リクエスターを識別する) と「location」(リモート・サーバーを識別する) に対して正しい値を入力したことを確認してください。

この問題の詳細については、SQL コード -805、理由コード &V3 の情報を参照してください。この情報は、以下の IBM Knowledge Center にあります。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

SQL code: -805

Database: DB2 for z/OS

DSQ15840 ユーザーの照会で使用している列の数が多すぎます。

説明:

1 つの照会では、データベースで許可されている最大列数より多くの列を表や表セットから選択したり挿入したりできません。

ユーザーの処置:

使用する列の数をもっと少なくして、照会を書き直してください。SQL の照会の場合には、「SELECT * FROM A, B, C」に類するステートメントを検査してください。このステートメントは、表 A、B、および C からすべての列を選択することを指定しています。

SQL code: -840

Database: DB2 for z/OS

DSQ15900 QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明:

前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。引き続き QMF を使用したいときは、QMF 接続喪失プロンプト・パネルを使用して別のロケーションに接続できます。または、QMF を終了することを選択できます。

ユーザーの処置:

別のロケーションに接続することを選択した場合は、有効なロケーションに接続するための正しい値を入力してください。そうでない場合、QMF を終了する必要があります。

SQL code: -900

Database: DB2 for z/OS

DSQ15904 リソースを使用できなかつたため、実行が失敗しました。(理由コード: &V1、リソースのタイプ: &V2、およびリソース名: &V3)。

説明:

タイプ '&V2' のリソース '&V3' が '&V1' で示される理由のため使用できず、要求は実行できませんでした。理由コード (&V1) の詳しい説明については、使用しているデータベースのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

これは一時的な条件です。

この条件の一般的な原因は次のとおりです。

- ローカルのオブジェクトを参照したが、リモート・ロケーションに接続されている。例えば、リモート・ロケーションに接続されているときは、ローカルの表は作成もドロップも選択もできません。
- 参照したリソースが、別のユーザーに所有されている。
- DB2 分散データ機能(DDF)が停止していた。CONNECT コマンドがサポートされており、QMF が現行ロケーションから切断されている場合は、接続喪失プロンプト・パネルが表示されます。

ユーザーの処置:

JES ログ情報にアクセスできる場合は、この使用不可リソース・エラーのログ・レコードをブラウズしてください。

ローカルのオブジェクトを参照する必要がありますが、現在リモート・ロケーションに接続されている場合は、ローカルのロケーションに接続して、ローカルのオブジェクトを参照できます。

リソースが一時的に使用不可の場合は、照会を再度行ってください。

DDF が停止して、接続喪失指示が表示される場合、ローカルの DB2 にのみ再接続可能になります。

エラー状態が続く場合、QMF 管理者に援助を求めてください。

SQL code: -904

Database: DB2 for z/OS

DSQ15905 DB2 のリソース限界を超えたので、実行が失敗しました。リソース名 = &V1、限界 = &V2。

説明:

DB2 のリソース限界を超えたので、SQL ステートメントの実行が終了しました。

- リソース名は &V1 です。
- CPU 秒での超過した限度は &V2 です。
- サービス単位での超過した限度は &V3 です。
- 限度を引き出すのに使用された情報源は、DB2 リソース限定表または DB2 システム・パラメーターのどちらかの名前です。制限リソース名は &V4 です。

ユーザーの処置:

DB2 のリソース限界を超えないようにするため、SQL ステートメントの単純化、表および索引の再構成、またはリソース限界の変更を検討してください。さらに援助が必要な場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -905

Database: DB2 for z/OS

DSQ15907 リモート・ロケーションで実行された更新が成功したかどうかを判断できません。

説明:

更新の実行されたリモート・ロケーションでシステム・エラーが発生したか、リモート・ロケーションとの通信に失敗しました。エラーは更新のコミット要求をリモート・ロケーションに送信した後で起きました。DB2 ではコミット操作が成功したかどうか判断できません。コミットが成功した場合、データベースは更新されません。コミットが失敗した場合、更新は取り消されます。

ユーザーの処置:

リモート・ロケーションとの通信が再確立した後、データ照会をして、コミット操作が成功したかどうか判断してください。

SQL code: -907

Database: DB2 for z/OS

DSQ15911 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 55 ページの『DSQ11311』を参照してください。

SQL code: -911

Database: DB2 for z/OS

DSQ15913 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 55 ページの『DSQ11311』を参照してください。

SQL code: -913

Database: DB2 for z/OS

DSQ15918 QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 132 ページの『DSQ15900』を参照してください。

SQL code: -918

Database: DB2 for z/OS

DSQ15930 ステートメントを処理するのに使用できる記憶域が十分にありません。

説明:

別のメモリー・ページを必要とする要求がデータベース・マネージャーになされましたが、データベース・マネージャーで使用できるメモリーはもうありません。次のような原因が考えられます。

- 実記憶域が不十分である。
- 仮想記憶域が不十分である。
- 実行中のバックグラウンド・プロセスが多すぎる。

ユーザーの処置:

問題を訂正して、照会を再実行してください。

SQL code: -930

Database: DB2 for z/OS

DSQ15948 DDF がアクティブでない場合には、リモート・データへはアクセスできません。

説明:

リモート・データベースにあるデータへのアクセスが照会で試みられましたが、分散データ機能が開始されていません。ユーザーの照会はロール・バックされます。

ユーザーの処置:

QMF は引き続き使用できます。問題が解決しない場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQL code: -948

Database: DB2 for z/OS

DSQ16060 &V3 の値 &V2 は無効です。

説明:

&V1 コマンドで生成された SQL ステートメントは、&V2 の指定が正しくない &V3 になっているデータ・タイプを指定しています。このデータ・タイプの &V2 の指定は、有効な値である必要があります。

このエラーの原因の一部として、次の原因が考えられます。

- DECIMAL データ・タイプの位取りまたは精度が、DECIMAL データ・タイプで許可される範囲内でない。
- CHARACTER、FLOAT、DECFLOAT、または図形データ・タイプに指定された長さが、データ・タイプで許可される範囲内でない。
- 照会に CREATE INDEX ステートメントが含まれている場合は、VARCHAR 列に指定された長さが 1000 を超えていた。
- DECFLOAT データ・タイプに指定された長さが有効でない。長さは 16 または 34 である必要があります。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

&V1 コマンドに対する入力データがデータ・タイプに応じた制約に準拠していることを検証してください。そうでない場合、&V2 指定を変更し、コマンドを再実行してください。データ・タイプの制限についての説明は、使用しているデータベースの SQL 参照情報を参照してください。

SQL code: -060

Database: DB2 for z/OS

DSQ16104 &V3 &V1 またはその前で SQL エラーが起きました。

説明:

このエラーは、QMF が照会内で無効な SQL 構文を見つけると発生します。&V3 &V1 は、問題のおおよその場所です。照会のこの領域にあるステートメントの構文を検討してください。有効な SQL 構文の詳細については、IBM Knowledge Center で SQL 参照情報をご覧ください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

特に、以下の問題がないかどうか確認してください。

- 無効な文字があるか、または下線で始まる名前がある。
- 句読点がないか、余分にある。
照会に複数の SQL ステートメントが含まれている場合は、最後のステートメントを除き、各ステートメントがセミコロンで終了する必要があります。
- キーワードが必要な場所に定数または名前がある。
- 数値が必要な場所に非数値がある。
- 照会の最後で情報が欠落している。
- 最初の語が SQL ステートメントでない。

- DB2 では無効なキーワードがある。
- CREATE DATABASE ステートメントが AS TEMP 文節を指定している。

メッセージで指定された照会の領域にあるステートメントが有効であると考えられる場合は、照会の残り部分のステートメントを調べてください。

以下の行に、エラーの原因の可能性のある SQL ステートメントまたはキーワードをリストします。

&V4

このリスト内のすべてのステートメントまたはキーワードが、照会の送信先のデータベース・マネージャー・プログラムで有効なことを確認してください。このリストに含まれているステートメントまたはキーワードが照会パネルに見つからない場合は、このエラーに関連するトレース・データを調べることができる QMF 管理者にこの問題を報告してください。

"SELECT" および "CALL" ステートメントでは、照会がデータベースへのサブミットのために準備されるときに、無効な SQL 構文が生成される可能性があります。これは、QMF が自動的に特定のキーワードを追加するためです。これらのキーワードは照会パネルに表示されません。トレース・データに存在する照会のバージョンにのみ見つかります。「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」は、QMF アクティビティのトレース方法に関する情報を提供しています。エラーの行および位置番号が、QMF によって追加されたキーワードによって影響を受けた可能性があります。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

照会を訂正して、再実行してください。

SQL code: -104

Database: DB2 for z/OS

DSQ16107 名前 &V2 は長すぎます。最大サイズは &V3 です。

説明: 57 ページの『DSQ11407』を参照してください。

SQL code: -107

Database: DB2 for z/OS

DSQ16113 名前 &V2 に無効な文字があります。

説明:

データベース、記憶域グループ、表スペース、およびバッファ・プールの名前に使用できる文字は、英字の大文字、国別文字 (*、&、または @)、または数字だけです。最初の文字は、英字または国別文字でなければなりません。

ユーザーの処置:

名前 &V2 (小文字ではないかどうか検査してください) の無効な文字を訂正して、もう一度コマンドを実行してください。SAVE DATA や IMPORT TABLE を使用して新しい表を作成している場合は、間違っているのは、プロファイルに指定されている表スペース名である場合があります。その場合、DISPLAY PROFILE を使用して、この SPACE 値を見てください。

SQL code: -113

Database: DB2 for z/OS

DSQ16119 この視点を使用できません。

説明: 57 ページの『DSQ11419』を参照してください。

SQL code: -119

Database: DB2 for z/OS

DSQ16150 この視点では &V1 を用いることはできません。

説明: 58 ページの『DSQ11450』を参照してください。

SQL code: -150

Database: DB2 for z/OS

DSQ16151 列 &V2 は変更できません。

説明: 58 ページの『DSQ11451』を参照してください。

SQL code: -151

Database: DB2 for z/OS

DSQ16180 &V1 コマンドが、無効な日時値を参照しました。

説明: 59 ページの『DSQ11480』を参照してください。

SQL code: -180

Database: DB2 for z/OS

DSQ16204 &V2 が見つかりません。

説明:

名前 "&V2" が &V1 コマンドで、または &V1 コマンドの処理の結果で見つかりましたが、データベース中にその名前の付いたものは見つかりません。

このエラーは、以下の場合に発生する可能性があります。

- オブジェクト名のいずれかの部分 (データベースのロケーション名、所有者名、またはオブジェクト名自体を含む) が誤って記述されている。
- オブジェクトが別のユーザーによって所有されているため、所有者のユーザー ID でオブジェクトを修飾する必要があります。
- コマンドが参照するオブジェクトが、リモート・データベースには存在しているが、現在接続しているデータベースには存在していない。

現在接続しているデータベースの名前は、QMF ホーム・パネルに表示されます。

- QMF プロファイルで指定されている表スペースが存在しない。

ユーザーの処置:

- オブジェクト名全体にスペル誤りがないことを確認します。ロケーション名および所有者名を指定した場合は、それらのスペルも確認します。
- 以下のいずれかの LIST コマンドを使用して、ユーザーが使用する権限がある QMF およびデータベース・オブジェクトのリストを表示します。

```
LIST FORMS (OWNER=ALL
LIST PROCS (OWNER=ALL
LIST QUERIES (OWNER=ALL
LIST TABLES (OWNER=ALL
LIST ANALYTICS (OWNER=ALL
LIST ALL (OWNER=ALL
```

オブジェクトがリストに表示されていても、別のユーザーに所有されている場合は、オブジェクト名の先頭に所有者名、その後にピリオドを追加して、コマンドを再発行してください。例えば、ユーザー KRISTI によって所有されている TEST という名前の表を表示するには、以下のコマンドを発行します。

```
DISPLAY KRISTI.TEST
```

- 接続しているデータベースの名前を確認するには、SHOW HOME コマンドを使用します。コマンドで参照されるオブジェクト名がデータベースに存在することを確認してください。存在しない場合は、CONNECT コマンドを使用し、オブジェクトが保管されているデータベースに接続して、コマンドを再試行してください。
- &V2 が表スペースの名前である場合は、SHOW PROFILE コマンドを発行して SPACE オプションの値を確認してください。この表スペースが存在し、

スペルが正しいこと、およびこの表スペースを使用する権限があることを QMF 管理者に確認してください。

QMF コマンドの詳細については、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

SQL code: -204

Database: DB2 for z/OS

DSQ16205 列名 &V1 は表 &V2 の中にありません。

説明: 47 ページの『DSQ10605』を参照してください。

SQL code: -205

Database: DB2 for z/OS

DSQ16250 ロケーション修飾子は使用できません。

説明:

指定された名前には、ロケーション修飾子が使用されています。3つの部分からなるオブジェクト名は、ローカル・ロケーション名が定義されるまでは使用できません。

ユーザーの処置:

ロケーション修飾子を除去し、コマンドを再試行してください。QMF 管理者に連絡して、正しいデータベースを使用していることを確認するか、ローカル・ロケーション名を定義してもらってください。

SQL code: -250

Database: DB2 for z/OS

DSQ16251 &V2 は無効なロケーション名です。

説明:

次のいずれかの状況が起きています。

1. 名前 &V2. のロケーションがない。
2. &V2 に英字の特殊文字 (#, @, \$) がある。英字の特殊文字は、ロケーション名には使用できません。

ユーザーの処置:

ロケーション名を訂正し、再試行してください。

SQL code: -251

Database: DB2 for z/OS

DSQ16301 &V1 コマンドは、現行データ・オブジェクトを処理できません。

説明:

現行データ・オブジェクト内の列番号 &V2 は、ターゲット表の対応する列と互換性がありません。この問題は、要求された操作とデータ・タイプとが互換性がない DB2 環境から QMF を実行すると発生します。

ユーザーの処置:

このエラーについて詳しくは、以下の IBM Knowledge Center にある SQLCODE -301 の説明を参照してください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

あるいは、列 &V2 からのデータ除去を試行して、&V1 コマンドを再発行することもできます。

SQL code: -301

Database: DB2 for z/OS

DSQ16303 値を出力ホスト変数 &V1 に割り当てることができません。

説明:

CALL、FETCH、SELECT、VALUES INTO、または SET ステートメントは、出力ホスト変数 &V1 のデータ・タイプが、ステートメント内の対応するエレメントのデータ・タイプと互換性がないため、実行できませんでした。

出力変数の値およびそれに対応するステートメント内のエレメントは、以下のいずれかのカテゴリーである必要があります。

- 一方の値が数値であり、以下の条件のうちのいずれかが真である。
 - もう一方の値も数値である。
 - もう一方の値が文字ストリングである。
 - もう一方の値が図形ストリングであり、ユニコードを使用する。
 - ステートメントに FOR BIT DATA のサブタイプがある。
- ユニコードを使用していない限り、両方とも文字ストリングである。
- ユニコードを使用していない限り、両方とも図形ストリングである。
- 両方とも行 ID である。
- 両方ともバイナリー・ストリングである。または一方が BINARY あるいは VARBINARY で、他方が FOR BIT DATA である。

- 変数のデータ・タイプが XML またはバイナリー XML で、対応するステートメント・リスト・エレメントが XML である。
- ユーザー定義の配列型として変数が定義されており、ステートメント内の対応するエレメントは配列値である。

さらに、結果の列のデータ・タイプが DATE または TIME の場合、対応する出力変数のデータ・タイプは、適切な最小長を持つ文字データ・タイプである必要があります。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

表定義が現行のものであり、出力変数のデータ・タイプが正しいことを確認してください。

SQL code: -303

Database: DB2 for z/OS

DSQ16332 文字ストリングが CCSID の未定義によって変換されませんでした。

説明:

&V1 コマンドは、現行文字セットと違ったコード化文字セットの中にあるコード化文字セット ID (CCSID) &V2 を持つ文字ストリングを参照しました。現行サーバーでこの文字ストリングを使用するためには、文字ストリングをソース CCSID &V2 からターゲット CCSID &V3 に変換しなければなりません。

しかし、この CCSID ペアの変換ルールは SYSSTRINGS システム表に定義されていません。したがって、データベース・システムは文字ストリングをアプリケーション・サーバーに適合するコードに変換できません。

ユーザーの処置:

&V1 コマンドが正しいかどうか検査してください。正しくない場合、必要な変更を行って、再度コマンドを出してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQL code: -332

Database: DB2 for z/OS

DSQ16351 位置 &V2 のデータ・タイプはサポートされていません。

説明: 60 ページの『DSQ11651』を参照してください。

SQL code: -351

DSQ16372 • DSQ16440

Database: DB2 for z/OS

DSQ16372 表で ROWID として定義できる列は 1 つだけです。

説明:

&V1 コマンドで複数の ROWID 列を作成しようとしたか、または既に 1 つの ROWID 列がある表にさらに ROWID 列を追加しようとした。

ユーザーの処置:

&V1 コマンドのデータで、複数の ROWID データ・タイプの列を保管することはできません。

SQL code: -372

Database: DB2 for z/OS

DSQ16407 この視点では &V1 を用いることはできません。

説明: 58 ページの『DSQ11450』を参照してください。

SQL code: -407

Database: DB2 for z/OS

DSQ16423 位置「&V1」に指定されたロケーターが無効です。

説明:

SQL ステートメント内のロケーター変数のリストの位置 &V1 に、無効な値を持つ変数が含まれています。このエラーの原因は、ロケーター変数のタイプによって異なります。

- 結果セット・ロケーターの場合: 結果セット・ロケーターに関するエラーの一般的な原因には以下のものがあります。
 - 結果セット・ロケーターとして使用されたホスト変数に、有効な結果セット・ロケーター値が割り当てられなかった。結果セット・ロケーター値は、DESCRIBE PROCEDURE ステートメントおよび ASSOCIATE LOCATORS ステートメントから返されます。
 - SQL カーソルが閉じた可能性がある。結果セット・ロケーター値は、基になる SQL カーソルが開いている場合のみに有効です。コミットまたはロールバック操作で SQL カーソルが閉じられた場合、そのカーソルに関連付けられた結果セット・ロケーターは無効でなくなります。
- LOB ロケーターの場合: LOB ロケーターに関するエラーの一般的な原因には以下のものがあります。

- LOB ロケーターとして使用されたホスト変数に、有効な LOB 値が割り当てられていなかった。
- コミットまたはロールバック操作、または SQL FREE LOCATOR ステートメントでロケーターが解放された。
- 3 部構成の名前を使用して LOB 列を含む表を参照する QMF 照会を、リモート・サーバーで実行しようとした。

DSQEC_LOB_RETRV 大域変数を 1 に設定すると、QMF は、3 部構成の名前を使用して LOB データを含む表をリモート・サーバーで参照する照会をサポートしません。これはデフォルト設定です。リモート・サーバーで LOB データを取り出す、または操作する照会を実行するには、2 つのオプションがあります。DSQEC_LOB_RETRV 大域変数の設定は、2 または 3 に変更できます。あるいは、QMF CONNECT コマンドを使用して、リモート・サーバーに接続し、照会を再度実行できます。DSQEC_LOB_RETRV 大域変数について詳しくは、『DB2 QMF 解説書』を参照してください。

- 表ロケーターの場合: 表ロケーターの場合は、表ロケーターとして使用されたホスト変数に、有効な表ロケーター値が割り当てられなかったときに、このエラーが発生するおそれがあります。

ユーザーの処置:

ロケーターの追加の詳細について以下にある DB2 for z/OS の情報を参照し、その情報に応じて値を訂正してください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

SQL code: -423

Database: DB2 for z/OS

DSQ16430 &V1 &V2 が異常終了しました。

説明: 125 ページの『DSQ15430』を参照してください。

SQL code: -430

Database: DB2 for z/OS

DSQ16440 名前 &V2 では、互換性がある引数を持つ &V1 は見つかりませんでした。

説明:

これは、参照を実装するための関数またはストアド・プロシージャーを、DB2 が検出できないときに、ルー

チン (ストアド・プロシージャーまたは関数) &V2 への参照の中で起きます。

これには以下の理由が考えられます。

- &V2 が正しく指定されていないか、またはデータベースにありません。
- 修飾参照が行われたが、修飾子のスペルが正しくない。
- ユーザーの現行パスに、必要な関数が属するスキーマが含まれていなく、非修飾参照が使用された。
- 組み込まれた引数の数が正しくありません。
- 引数の 1 つ以上のデータ・タイプが関数に対して誤っている。
- ルーチン起動側がルーチンの実行を許可されていない。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST。

ユーザーの処置:

ステートメントを訂正し、再実行してください。

SQL code: -440

Database: DB2 for z/OS

DSQ16443 外部関数 &V1 からエラーが返されました。

説明: 126 ページの『DSQ15443』を参照してください。

SQL code: -443

Database: DB2 for z/OS

DSQ16471 理由 &V2 により、関数またはプロシージャー &V1 の呼び出しに失敗しました。

説明: 126 ページの『DSQ15471』を参照してください。

SQL code: -471

Database: DB2 for z/OS

DSQ16495 DB2 コスト見積もり制限を超えました - &V1 は終了しました。

説明:

DB2 が、この照会のコスト見積もりがリソース限定機能 (DB2 管理プログラム) で指定された制限を超えると判断し、照会の実行を抑制したため、&V1 コマンドは終了しました。

照会ステートメントのコスト見積もりの詳細は、次のとおりです。

- コスト見積もりは &V3 サービス単位 *。
- 指定された制限は &V5 サービス単位 *。
- DB2 のコスト・カテゴリは '&V4'。
- 消費されるプロセッサ時間は、およそ &V2 ミリ秒。

* サービス単位はプロセッサ使用量の測度で、異なるプロセッサ・タイプ間でも一貫しています。

ユーザーの処置:

コスト・カテゴリ値が「B」の場合は、DB2 管理者に支援を要請してください。DB2 カタログ統計またはリソース限定表 (RLST) の更新が必要となる場合があります。

SQL ステートメントの費やすプロセッサ時間があまりにも多い場合は、より効果的に実行できるようにステートメントを書き直して、照会を再実行してください。

次の事項について検査してください。

- 照会で選択された列で、使用されていないものはないか。
- 不必要な ORDER BY または GROUP BY 文節がないか。
- WHERE 文節が正しく記述されているか。
- 照会に副照会が含まれているか。
- 照会に列関数が含まれているか。

照会によっては、照会から GROUP BY 文節を除去し、代わりに QMF FORM の GROUP 取扱コードを使用すると、簡略化できる場合があります。

照会によっては、外部結合や CASE 式などの拡張 SQL 構文を使用することでパフォーマンスが向上する場合があります。

拡張分析の場合、EXPLAIN SQL ステートメントを使用して、照会の構造および実行パフォーマンスについての情報を収集できます。

照会および EXPLAIN ステートメントの情報については、SQL 解説書を参照してください。

照会の調整、および効率的な述部および副照会の記述の詳細については、データベース管理システムの管理情報を参照してください。

SQL code: -495

Database: DB2 for z/OS

DSQ16512 リモートのオブジェクトを参照するコマンドは無効です。

説明:

ユーザーの入力した &V1 コマンドはリモートのオブジェクトを参照しています。リモートの参照は別名を使用した結果である場合があります。以下の条件のいずれかが存在します。

- 現在のロケーション以外のロケーションにある表を消去しようとした。
- 現在のロケーション以外のロケーションにある表を作成しようとした。例えば、リモート表は保管もインポートもできませんが、SAVE コマンドや IMPORT コマンドを使用して置換することはできます。
- 正しく定義されていない別名を参照しました。

ユーザーの処置:

1. ローカルの表を作成または消去したい場合、指定した名前を検査してつづりが正しいことを確かめてください。
2. リモートの表を作成または消去したい場合で、CONNECT コマンドがサポートされている場合は、そのリモート・ロケーションに接続して、その表を作成または消去できます。CONNECT コマンドがサポートされていない場合は、QMF 管理者に連絡してください。
3. 使用したコマンドのリモートの参照が、別名を使用した結果の場合、別名が正しく定義されているかを確認するか、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -512

Database: DB2 for z/OS

DSQ16530 外部キーの値が無効です。

説明: 60 ページの『DSQ11830』を参照してください。

SQL code: -530

Database: DB2 for z/OS

DSQ16532 RESTRICT の指定のために、表を置き換えることができません。

説明: 60 ページの『DSQ11832』を参照してください。

SQL code: -532

Database: DB2 for z/OS

DSQ16540 &V2 に主キーの基本索引がない。

説明:

&V1 コマンドを表 &V2 と共に使用することはできません。表には主キーはありますが、基本索引がありません。

ユーザーの処置:

&V1 コマンドを使用する前に、表に基本索引を定義してください。

SQL code: -540

Database: DB2 for z/OS

DSQ16551 &V1 コマンドに必要な権限がありません。

説明:

ユーザーには、オブジェクト &V4 に対して &V3 を実行するために必要な特権がないため、このユーザー ID (&V2) ではこの &V1 コマンドを発行できません。必要な特権は次のとおりです。

- DRAW、DISPLAY、EXPORT、および PRINT コマンドには、コマンドで参照される表または視点に対して SELECT 特権が必要です。
- QMF 管理者でない場合は、所有するオブジェクトのみに対して ERASE コマンドを発行できます。
- ACTION=APPEND オプションを指定して SAVE または IMPORT コマンドを発行するには、表または視点に対して SELECT および INSERT 特権が必要です。ACTION=REPLACE オプションを指定して (またはオプションなしで) SAVE または IMPORT コマンドを発行するには、既存の表に対する SELECT 特権が必要なほか、表を保持する表スペース (定義されていない場合) を作成する権限と、表を作成する権限の両方が必要です。

このメッセージは、XML タイプ修飾子に XML スキーマが 2 度以上指定されている場合にも発行されることがあります。

ユーザーの処置:

発行しようとしているコマンドに対して必要となる許可がない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

作業中の表に XML 列が含まれている場合は、XML 列を変更して、そのタイプ修飾子から XML スキーマを削除してください。

SQL code: -551

Database: DB2 for z/OS

DSQ16552 この &V1 コマンドを使用するために必要な権限がありません。

説明: 61 ページの『DSQ11851』を参照してください。

SQL code: -552

Database: DB2 for z/OS

DSQ16553 &V2 は有効な許可 ID ではありません。

説明:

CONNECT コマンドに指定された許可 ID は、1 次許可 ID でもなく、2 次許可 ID のいずれでもありません。

ユーザーの処置:

ステートメントに指定された許可 ID を訂正するか、または QMF 管理者に連絡し指定された許可 ID をユーザー用に定義するように依頼してください。

SQL code: -553

Database: DB2 for z/OS

DSQ16571 READ-ONLY の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: 34 ページの『DSQ10425』を参照してください。

SQL code: -571

Database: DB2 for z/OS

DSQ16601 &V2 はデータベースの既存 &V3 と同じ名前です。

説明:

&V3 に &V2 という名前が割り当てられました。しかし、それと同じ名前のものが既にデータベースの中にあります。同じ名前を 2 回使用することはできません。

ユーザーの処置:

&V2 という名前を変更し操作を続けてください。

SQL code: -601

Database: DB2 for z/OS

DSQ16604 データ長、位取り、または精度が無効な列があります。

説明: 61 ページの『DSQ11904』を参照してください。

SQL code: -604

Database: DB2 for z/OS

DSQ16607 このカタログ・オブジェクトに対して &V1 は使用できません。

説明:

どのカタログ・オブジェクトに対しても ERASE または SAVE は使用できません。

ユーザーの処置:

この操作は行わないようにしてください。

SQL code: -607

Database: DB2 for z/OS

DSQ16618 システム・データベースに対して &V2 は許されません。

説明:

&V1 コマンドに、データベースに対して &V2 操作が指定されています。しかし、システム・データベースに対してこの操作は許されません。

ユーザーの処置:

この操作は行わないようにしてください。

SQL code: -618

Database: DB2 for z/OS

DSQ16646 表スペース &V3 には既に表があります。

説明:

コマンドは CREATE TABLE ステートメントを生成し、データベースは表スペース &V3 に表を置こうとしました。しかし &V3 は、既に既存の表を含む区分表スペースまたはデフォルト表スペースでした。1 つの区分化表スペースまたはデフォルト表スペースに含めることができる表は 1 つのみです。

ユーザーの処置:

QMF ユーザー・プロファイル内の SPACE 値が正しいことを確認してください。1 つの区分化表スペースまたはデフォルト表スペースに複数の表を作成しようとしてしないでください。

SQL code: -646

Database: DB2 for z/OS

DSQ16652 プロシージャ &V2 が結果を拒否しました。

説明:

&V1 コマンドは、照会の結果の編集または検証を目的

DSQ16653 • DSQ16669

として、インストール先で定義されているプロシージャ &V2 によって拒絶された操作を必要としています。

ユーザーの処置:

インストール先の編集および検証プロシージャについては、QMF 管理者に説明を求めてください。

SQL code: -652

Database: DB2 for z/OS

DSQ16653 表 &V2 に区分化索引がありません。

説明:

&V1 コマンドは、区分表を作成、または使用しようとしたが、表の区分索引が作成されていませんでした。作成された表に対する索引が作成されるまで、区分表 (区分表スペースの表) を参照することはできません。区分表スペース &V3 の表 &V2 に索引がありません。

ユーザーの処置:

既存の表を使用しようとしている場合は、&V1 コマンドに正しい表が指定されていることを確かめてください。その場合は、CLUSTER 文節を使用して、表に対する索引を作成し、もう一度コマンドを実行してください。

新しい表を作成しようとする場合は、プロファイルの SPACE 値が、区分表スペースの名前を指定していないことを確かめてください。データを区分表に保管、または搬入したい場合は、表とその索引を作成した後に、SAVE や IMPORT コマンドを出してください。

SQL code: -653

Database: DB2 for z/OS

DSQ16659 表オブジェクトの最大サイズを超えました。

説明:

表を構成している 1 つまたは複数のオブジェクトが、最大サイズに達しました。表を構成している記憶域オブジェクトを以下に示します。

- データ-基本列データが保管されている場所です。
- 索引 - 表のすべての索引が格納されている場所です。
- 長データ - LONG VARCHAR および LONG VARCHARIC 列データが格納されている場所です。
- LOB/LOB - BLOB、CLOB および DBCLOB 列データ、および制御情報が格納されている場所です。

一度記憶域オブジェクトがその最大サイズになると、それ以上拡張することはできません。

ユーザーの処置:

オブジェクト内の既存のスペースを新規データを保管するのに使用するには、以下を行うことができます。

- 表を再編成する。
- 表から不必要な行を削除する。
- 表から索引を除去する。
- 行を更新してデータの量を減らす。

SQL code: -659

Database: DB2 for z/OS

DSQ16666 システム機能がアクティブなので、&V1 は実行できません。

説明:

システム・ユーティリティー、リソース限定機能、または分散データ機能が実行中です。ユーティリティーが実行中の場合、完了してから &V1 を再度実行してください。リソース限定機能が実行中の場合には、停止させるか、異なるリソース限定管理テーブルに切り替えてから &V1 を実行してください。分散データ機能が実行中の場合は、&V1 が実行される前に停止してください。

ユーザーの処置:

ユーティリティーが完了するまで、またはリソース限定機能が停止または異なるテーブルに切り替わってから、または分散データ機能が停止するまで待ってから &V1 を再度実行してください。

SQL code: -666

Database: DB2 for z/OS

DSQ16669 この表の &V1 はできません。

説明:

消去しようとしている表は区分化表スペースの中にあります。このような表を消去するためには、表スペース全体を消去しなければなりません。

ユーザーの処置:

この操作は行わないようにしてください。

SQL code: -669

Database: DB2 for z/OS

DSQ16670 行の長さが表スペースのページ・サイズを超えています。

説明:

作成しようとしている表の行の長さが、割り当てられている表スペースのページ・サイズを超えています。

DB2 は、サイズが 4KB、8KB、16KB、または 32KB のページ内にレコードを保管します。レコードの最大サイズがページ・サイズより大きい表を作成することはできません。

ユーザーの処置:

この問題は、以下のいずれかの方法で解決できます。

1. 列をいくつか削除するか、または列の幅を狭くして、行の長さを短くする。
2. QMF プロファイル内の SPACE を、32K のバッファ・プールを備えた表スペースを指定するように変更して、ページ・サイズを 32K に増加させる。

SQL code: -670

Database: DB2 for z/OS

DSQ16690 コマンドは **DB2** データ定義制御サポートによって拒否されました。

説明:

&V1 コマンドは、理由コード &V2 で DB2 データ定義制御サポート (DDCS) によって拒否されました。この理由コードの詳細については、使用しているデータベースのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

ユーザーの処置:

正しいオブジェクト名が指定されていることを確認してください。QMF 管理者に連絡し、DDL 登録インストール・オプションが適切に設定されていることを確認してください。また、データ定義制御サポート・モードが実行されているかを確認してください。その後、アプリケーション登録表とオブジェクト登録表を検査して、入力正しいかを判別してください。正しくない場合は、必要に応じて登録表を更新してください。

SQL code: -690

Database: DB2 for z/OS

DSQ16691 必要な登録表 &V2 が見つかりません。

説明:

データ定義制御サポートは、アプリケーション登録表またはオブジェクト登録表 &V2 (あるいはその両方) を見つけることができませんでした。コマンド &V1 は、登録表が正しく定義されるまで実行できません。

ユーザーの処置:

正しいオブジェクト名が指定されていることを確認してください。QMF 管理者に連絡し、登録表が適切に作成され、表名が正しいことを確認してください。

SQL code: -691

Database: DB2 for z/OS

DSQ16733 表スペース、索引または表が所有サブシステムと整合していません。

説明:

ROSHARE READ として定義されている ROSHARE READ データベースの表スペース、索引または表の定義は、所有サブシステムの記述と整合していなければなりません。

ユーザーの処置:

表スペース、索引または表の定義が所有サブシステムのそれと整合しているか確認してください。

SQL code: -733

Database: DB2 for z/OS

DSQ16735 データベース &V2 は所有サブシステムの共有データベースではありません。

説明:

&V2 で示されるデータベース中のオブジェクトにアクセスしようとしてしました。そのデータベースは、アクセスしているサブシステムで ROSHARE READ として定義されています。そのデータベースは所有サブシステムで ROSHARE OWNER として定義されていません。したがって、オブジェクトにアクセスすることはできません。

ユーザーの処置:

正しいオブジェクトが &V1 コマンドに定義されていることを確認してください。

SQL code: -735

Database: DB2 for z/OS

DSQ16737 読み取り専用共有データベースで暗黙の表スペースは使用できません。

説明:

&V1 コマンドは QMF に表の作成をさせようとしてしました。しかし、プロファイル中の SPACE 値に、表に表スペースを暗黙的に作成するためのデータベース名だけが指定されていました。データベースは読み取り専用共有データベースであり、表スペースを暗黙的に読み取り専

DSQ16747 • DSQ16805

用共有データベースに作成することはできません。

ユーザーの処置:

所有サブシステムからの名前を使用して表の表スペースを作成してください。プロファイルに DBNAME.TSNAME と同一の SPACE 値を設定してください。DBNAME はデータベース名、TSNAME は表名です。(プロファイルの値から「DATABASE」という語を取り除いたことを確認してください。) その後で &V1 コマンドをもう一度出してください。

SQL code: -737

Database: DB2 for z/OS

DSQ16747 表 &V2 の定義が不完全です。

説明:

表 &V2 は、外部に保管される列のための補助表と索引が作成されるまで、利用不能です。

ユーザーの処置:

欠落している補助表と索引を作成し、コマンドを再実行してください。

SQL code: -747

Database: DB2 for z/OS

DSQ16766 &V1 コマンドは、補助表では許可されません。

説明:

補助表にあるデータは、補助表名を指定してアクセスすることはできません。補助表にあるデータは、基本表での操作によってのみアクセスできます。

ユーザーの処置:

コマンドで、該当する基本表を使用してください。

SQL code: -766

Database: DB2 for z/OS

DSQ16798 &V1 コマンドは、現行データ・オブジェクトを処理できません。

説明:

現行データ・オブジェクト内の列番号 &V2 は、ターゲット表の対応する列と互換性がありません。この非互換性は、列が GENERATED ALWAYS と定義されており、その値が DEFAULT キーワードを指定して設定されていない DB2 環境から QMF を実行すると発生します。

ユーザーの処置:

このエラーについて詳しくは、以下の IBM Knowledge Center にある SQLCODE -798 の説明を参照してください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

あるいは、列 &V2 からのデータ除去を試行して、&V1 コマンドを再発行することもできます。

SQL code: -798

Database: DB2 for z/OS

DSQ16801 ゼロによる除算が試みられました。

説明:

列または演算式の処理の結果が、ゼロによる除算となりました。

ユーザーの処置:

ステートメントを訂正し、再実行してください。

SQL code: -801

Database: DB2 for z/OS

DSQ16802 SQL コマンドの算術演算で、エラーが発生しました。

説明: 64 ページの『DSQ12102』を参照してください。

SQL code: -802

Database: DB2 for z/OS

DSQ16803 固有索引列の中に重複値があります。

説明: 64 ページの『DSQ12103』を参照してください。

SQL code: -803

Database: DB2 for z/OS

DSQ16805 &V1 コマンドには、見つからなかった適用業務パッケージが必要です。

説明:

データベースから -805 SQL コードが発行されると、QMF がこのエラー・メッセージを発行します。

QMF インストール・ジョブ DSQ1BPKG によって実行されるバインド処理では、QMF に必要な適用業務パッケージをバインドします。このエラーは、コマンドを完了するために必要なパッケージ &V2 が見つからないことを示しています。

この問題は以下の原因で発生する可能性があります。

- CONNECT コマンドを発行してリモート・ロケーションへ接続したが、実行しようとしている QMF バージョンが、コマンドが送信されたロケーションにはインストールされていないため、適切なパッケージが存在しない。
- コマンドに 3 部構成の名前が含まれていたが、3 部構成の名前のサポートを遠隔サーバーで使用可能にするための適切なインストール手順を完了しなかった。
- コマンドに 3 部構成の名前が含まれていたが、コマンドが DB2 for z/OS 以外のサーバーに送信された。リクエスター・データベースで、複数行取り出しサポートがオンになった状態で QMF が開始された。複数行取り出し機能がアクティブであるときは、DB2 for z/OS 以外のサーバーへ 3 部構成の名前を送信することはできません。
- コマンドに 3 部構成の名前が含まれていたが、コマンドが DB2 for VM または DB2 for VSE サーバーへ送信された。3 部構成の名前が含まれたコマンドは、これらのタイプのサーバーへ送信できません。
- QMF サービスがシステムで現行でないか、またはサービスを適用したがジョブ DSQ1BPKG を再実行しなかった (またはジョブが正常に完了しなかった)。

ユーザーの処置:

この問題を QMF 管理者に報告してください。管理者は、以下の手順でこの問題を診断および修正できます。

- コマンドが CONNECT コマンドだった場合は、コマンドの送信先サーバーに QMF バージョンがインストールされていることを確認してください。インストールされている場合は、すべてのインストール・ジョブが正常に実行されたこと、およびインストール検査手順のすべてのステップがエラーなしで終了したことを確認します。

CONNECT コマンドが正しく機能するためには、リクエスターとサーバー・データベースの両方でジョブ DSQ1BPKG を実行する必要があります。ジョブで「ssid」(ローカルの DB2 for z/OS リクエスターを識別する) と「location」(リモート・サーバーを識別する) に対して正しい値を入力したことを確認してください。インストールのロードマップと手順は、「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」に記載されています。

- コマンドに 3 部構成の名前が含まれていた場合は、3 部構成の名前をサポートするように遠隔サーバーを準備するためのインストール手順を正常に完了したことを確認してください。このサポートのために従う必要のあるインストールのロードマップと手順は、「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」に記載されています。

- コマンドに 3 部構成の名前が含まれていて、DB2 for z/OS 以外のリモート・サーバーに送信された場合は、大域変数 DSQAO_DSQSMRFI を確認して、QMF が複数行取り出し機能をオンにして開始されたかどうかを判別してください。そうであれば、QMF を、複数行取り出し機能をオフ (MR=NO) にして再始動してください。
- このエラーの原因となったコマンドの処理に関するシステムの QMF サービスが最新であることを確認します。

QMF に必要な QMF 適用業務パッケージに影響するサービスを最近適用した場合は、ジョブ DSQ1BPKG を再実行して、パッケージを再バインドします。CONNECT コマンドが正しく機能するためには、リクエスターとサーバー・データベースの両方で、また、3 部構成の名前サポートが正しく機能するためには、サーバー・データベースで、このジョブを再実行する必要があります。ジョブで「ssid」(ローカルの DB2 for z/OS リクエスターを識別する) と「location」(リモート・サーバーを識別する) に対して正しい値を入力したことを確認してください。

この問題の詳細については、SQL コード -805、理由コード &V4 の情報を参照してください。この情報は、以下の IBM Knowledge Center にあります。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

SQL code: -805

Database: DB2 for z/OS

DSQ16817 READ-ONLY の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: 34 ページの『DSQ10425』を参照してください。

SQL code: -817

Database: DB2 for z/OS

DSQ16900 QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明:

前のエラーのためにデータベース・サーバーが失われています。引き続き QMF を使用したいときは、QMF 接続喪失プロンプト・パネルを使用して別のロケーションに接続できます。または、QMF を終了することを選択できます。

ユーザーの処置:

別のロケーションに接続することを選択した場合は、有

DSQ16904 • DSQ16907

効なロケーションに接続するための正しい値を入力してください。そうでない場合、QMF を終了する必要があります。

SQL code: -900

Database: DB2 for z/OS

DSQ16904 リソースを使用することができません。

説明:

コマンドは、リソース '&V4'(タイプ '&V3') が現在使用できないため、完了できませんでした。この問題でデータベースから発行される理由は、'&V2' です。このエラーは、以下の場合に発生する可能性があります。

- コマンドで参照されるデータベースまたはオブジェクトが現在使用不可になっている。
- コマンドはローカル・データベースで使用可能なオブジェクトを参照したが、ユーザーはリモート・データベースに接続している。

接続しているデータベースの名前は、QMF ホーム・パネルに表示されます。

- コマンドで参照されたオブジェクトが現在他のユーザーによって保留されている。
- コマンドの送信先データベースへの接続が失われた。これは、ユーザーのサイトの分散データ構成が DB2 の分散データ機能 (DDF) を利用していて、DDF が停止した場合に発生することがあります。この場合は、QMF により接続損失プロンプト・パネルが表示されるので、データベースへの再接続を試行できます。

ユーザーの処置:

- オブジェクト名の全部分を正しく入力したことを確認してください。
- 接続しているデータベースの名前を確認するには、SHOW HOME コマンドを使用します。コマンドで参照されるオブジェクト名がデータベースに存在することを確認してください。存在しない場合は、CONNECT コマンドを使用し、オブジェクトが保管されているデータベースに接続して、コマンドを再試行してください。「DB2 QMF 解説書」に CONNECT コマンドの詳細が説明されています。
- コマンドで参照されているデータベースまたはオブジェクトが一時的に使用不可になっている場合は、QMF 管理者にこの問題を報告して、オブジェクトが使用不可である理由を判断するための支援を依頼してください。このメッセージに関連付けられた理由コード '&V2' が、問題のトラブルシューティングに役立つ場合があります。理由コードの説明については、デ

ータベース管理システムのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

- コマンドの送信先データベースとの接続が切断された場合は、接続損失プロンプト・パネルを使用するか (パネルが表示された場合)、または CONNECT コマンドを使用して、再接続を試行してください。再接続できない場合は、QMF 管理者にこの問題を報告してください。

JES ログにアクセス可能な場合は、QMF 管理者はログ・レコードからこのエラーを見つけて、問題のトラブルシューティングに役立つ詳細情報を得ることができます。

- 新しい表にラージ・オブジェクト・データを保存することがこの問題に関係している場合は、表が固有の DB2 表スペースに存在するようにしてください。例えば、QMF プロファイルの SPACE オプションを DATABASE "DSNDB04" に設定します。

SQL code: -904

Database: DB2 for z/OS

DSQ16905 DB2 リソース限度を超えました - &V1 は終了しました。

説明:

DB2 リソース限度を超過したため、&V1 コマンドは終了しました。

- リソース名は &V2 です。
- CPU 秒での超過した限度は &V3 です。
- サービス単位での超過した限度は &V4 です。
- 限度を引き出すのに使用された情報源は、DB2 リソース限定表または DB2 システム・パラメーターのどちらかの名前です。限度ソース名は &V5 です。

ユーザーの処置:

DB2 リソース限度を超えないようにするため、表および索引の再構成またはリソース限度の変更を考慮してください。さらに援助が必要な場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -905

Database: DB2 for z/OS

DSQ16907 リモートの更新が成功したかどうか判断できません。

説明:

更新の実行されたリモート・ロケーションでシステム・エラーが発生したか、リモート・ロケーションとの通信に失敗しました。エラーは更新のコミット要求をリモート・ロケーションに送信した後で起きました。DB2 で

はコミット操作が成功したかどうか判断できません。コミットが成功した場合、データベースは更新されません。コミットが失敗した場合、更新は取り消されます。

ユーザーの処置:

リモート・ロケーションとの通信が再確立した後、データ照会をして、コミット操作が成功したかどうか判断してください。

SQL code: -907

Database: DB2 for z/OS

DSQ16911 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 65 ページの『DSQ12211』を参照してください。

SQL code: -911

Database: DB2 for z/OS

DSQ16913 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 65 ページの『DSQ12211』を参照してください。

SQL code: -913

Database: DB2 for z/OS

DSQ16918 QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 145 ページの『DSQ16900』を参照してください。

SQL code: -918

Database: DB2 for z/OS

DSQ16930 ステートメントを処理するのに使用できる記憶域が十分にありません。

説明:

別のメモリー・ページを必要とする要求がデータベース・マネージャーになされましたが、データベース・マネージャーで使用できるメモリーはもうありません。次のような原因が考えられます。

- 実記憶域が不十分である。
- 仮想記憶域が不十分である。
- 実行中のバックグラウンド・プロセスが多すぎる。

ユーザーの処置:

問題を訂正して、コマンドを再実行してください。

SQL code: -930

Database: DB2 for z/OS

DSQ16948 DDF がアクティブでない場合にユーザーのコマンドがリモート・データにアクセスしようとした。

説明:

&V1 コマンドがリモート・データベースのデータにアクセスしようとしたが、分散データ機能が開始されていません。コマンドはロールバックされます。

ユーザーの処置:

QMF は引き続き使用できます。問題が解決しない場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQL code: -948

Database: DB2 for z/OS

DSQ16950 ロケーション名はローカル DB2 サブシステムに認知されていません。

説明:

コマンドを発行しましたが、そのロケーション名は、ローカル DB2 サブシステムを指定しておらず、DB2 コミュニケーション・データベース中にリストされてもいません。

ロケーション名がローカル DB2 サブシステム名でない場合は、ロケーション名を DB2 SYSIBM.LOCATIONS 表に定義する必要があります。

ユーザーの処置:

指定したロケーション名が正しいか検査してください。正しくない場合は、修正し、再度試みてください。

「CONNECT TO <location>」コマンドを発行した場合は、以下のステップを実行して、SYSIBM.LOCATIONS 表で定義されているすべてのロケーション名をリストできます。

1. CONNECT コマンド・プロンプト・パネルを表示するために "CONNECT ?" コマンドを入力する。
2. リスト・ファンクション・キーを押して、ロケーション名リストを表示する。(QMF の開始後に SYSIBM.LOCATIONS 表に追加されたロケーション名は、リストに表示されません。)

それでも希望するロケーションに接続できない場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQL code: -950

Database: DB2 for z/OS

DSQ17001 &V2.

説明:

これは、QMF Data SERVICE (QDS) により実行された照会に関して QMF から報告された SQL エラーです。QMF は、このエラーについて以下の情報を受け取りました。

- SQLERRD1/SQLERRD2/SQLERRD3: &V4
- SQLERRD4/SQLERRD5/SQLERRD6: &V5
- QDS 理由コード: &V3
- QDS 製品 ID: &V6

ユーザーの処置:

QMF 管理者 (上述の説明にあるメッセージと理由コード、並びにご使用のデータベース管理システムに関するメッセージとコードの説明を使用して、このエラーの原因を判断できるユーザー) にこの問題を報告してください。

エラーが修正されたら、QMF コマンドを再実行してください。

SQL code: -001

Database: DB2 for z/OS

DSQ17007 照会の中の文字 "&V1" は無効です。

説明:

文字 "&V1" になんらかの誤りがあるために、照会の処理ができません。その文字は、使用先のコンテキストにおいて、誤った位置にあるか、または無効の可能性があります。

ユーザーの処置:

"&V1" を除去するか、またはそれを有効な文字に変更してください。

SQL code: -007

Database: DB2 for z/OS

DSQ17010 '&V2' &V1 で始まる値には終わりの引用符が必要です。

説明:

文字定数は単一引用符で囲む必要があります (例: 'SANDERS')。データベースのオブジェクト (表や列など) の名前は二重引用符で囲みます (例: "MYTABLE")。最後の引用符がないと定数や名前がどこで終わっているか判断できません。

引用符を別の引用符で囲まれたストリング内で使用する場合、2 つの連続する引用符で示さなければなりません。例えば、

```
Correct: ... WHERE NAME = '0''CONNOR'
Incorrect: ... WHERE NAME = '0'CONNOR'
```

ユーザーの処置:

値が文字定数であるか、または二重引用符で囲まれた名前であることを意図している場合は、最終引用符を追加するか、引用符の内側にある引用符を二重にしてください。または、最初の引用符の除去をしてください。

SQL code: -010

Database: DB2 for z/OS

DSQ17060 &V2 の値 &V1 は無効です。

説明:

照会が、&V1 の指定が正しくない &V2 になっているデータ・タイプを指定しています。このデータ・タイプの &V1 の指定は、有効な値である必要があります。

このエラーの原因の一部として、次の原因が考えられます。

- DECIMAL データ・タイプの位取りまたは精度が、DECIMAL データ・タイプで許可される範囲内にならない。
- CHARACTER、FLOAT、または図形データ・タイプに指定された長さが、データ・タイプで許可される範囲内にならない。
- DECFLOAT データ・タイプに指定された長さが有効でない。長さは 16 または 34 である必要があります。
- CREATE INDEX ステートメントの場合、VARCHAR に指定される長さは 1000 以下でなければならず、DECFLOAT で指定される整数は 34 でなければなりません。
- CREATE TABLE、CREATE TYPE、ALTER TABLE ADD COLUMN、または ALTER ALTER COLUMN ステートメントの場合、LOB タイプに対して指定される INLINE LENGTH 属性は CLOB 列および BLOB 列については 32680 を超えてはならず、DBCLOB 列については 16340 を超えてはなりません。
- CREATE VARIABLE ステートメントの場合、文字ストリングとして定義されている要素を持つ配列タイプは CCSID UNICODE で定義されなければなりません。

ユーザーの処置:

データ・タイプに対して有効になるように &V1 の指定を変更して、照会を再実行してください。データ・タイプの制限についての詳細な説明は、使用しているデータベースの SQL 参照情報を参照してください。

SQL code: -060

Database: DB2 for z/OS

DSQ17084 このデータベース・マネージャーではそのステートメントは無効です。

説明:

実行しようとしているステートメントは、他のデータベース・マネージャーでは有効であったとしても、DB2では無効です。許可されない SQL ステートメントおよびオプションの全リストは、データベース管理システムに付属の SQL 参照情報に掲載されています。

ユーザーの処置:

このデータベース・マネージャーを使用しているときは、DB2 のステートメントだけを使用してください。

SQL code: -084

Database: DB2 for z/OS

DSQ17101 照会が長すぎるか、または複雑すぎます。

説明:

ステートメントが長すぎるか、または複雑すぎて、解釈することができません。副照会および相関照会のネスティングが複雑すぎて、SQL 処理ができないことも考えられます。並列処理を使用可能にすると、ステートメントがより複雑になります。

ユーザーの処置:

照会を短くするか、または 2 つ以上の照会として書き直してください。並列処理が可能にされている場合は、CURRENT DEGREE 特殊レジスターを「1」に設定してみてください。この問題が続く場合、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -101

Database: DB2 for z/OS

DSQ17102 '&V3' &V1 で始まる定数は長過ぎます。

説明:

問題の定数の長さは最大許可長よりも長くなっています。文字定数は引用符で囲む必要があります。引用符で囲むことを省略すると、データは最大長を超えてしまいます。QMF は、データベースから -102 SQL コードが発行されると、このエラー・メッセージを表示します。

ユーザーの処置:

文字定数が文字定数の場合は、文字定数が引用符で囲まれていることを確認してください。

この問題の詳細については、SQL コード -102 の情報を

参照してください。この情報は IBM Knowledge Center にあります。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

SQL code: -102

Database: DB2 for z/OS

DSQ17103 &V3&V1 は無効な数値です。

説明:

&V3 は数字で始まっていますが、有効な整数、10 進数、10 進浮動小数点数ではありません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

参照行: .br ==>&V2

ユーザーの処置:

次のガイドラインに従って &V3 を変更し、照会を再実行してください。

1. 浮動小数点数の場合、"E" の後に必ず正符号または負符号を付け、その後に指数を指定してください。
2. 文字定数は単一引用符で囲んでください。
3. 名前が数字で始まらないようにしてください。

SQL code: -103

Database: DB2 for z/OS

DSQ17104 &V3 &V1 またはその前で SQL エラーが起きました。

説明: 134 ページの『DSQ16104』を参照してください。

SQL code: -104

Database: DB2 for z/OS

DSQ17105 ステートメントに無効な文字列が指定されています。

説明:

ステートメントに無効な文字列が指定されています。有効な文字列は、文字列とグラフィック・文字列のみです。

ユーザーの処置:

正しい形式の文字列を指定してください。グラフィック・データの場合は、文字列内で区切り文字が対になっていること、文字 G、バイト数が偶数であることを確認してください。

SQL code: -105

DSQ17107 • DSQ17111

Database: DB2 for z/OS

DSQ17107 名前 &V3 は長すぎます。最大サイズは &V4 です。

説明:

名前 &V3 は長すぎます。データベース・サーバー &LS. でサポートされるこの名前の最大長は &V4 です。

以下の項目名は、< 文字を超えてはいけません。

- SQL 表
- SQL 視点
- SQL 索引
- SQL 別名
- SQL 同義語
- 関数
- ストアード・プロシージャ

SQL 列名は &LC. バイトを超えてはいけません。

ロケーション名は 16 バイトを超えてはいけません。

以下の項目は、&LA. バイトを超えてはいけません。

- 許可 ID
- 表修飾子
- 視点修飾子
- スキーマ名

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

短くした名前を指定し、QMF の使用を続けてください。ユニコード・カタログを持つデータベースでは、名前はユニコード・バイトで保管されます。DB2 (z/OS 版) NFM データベースには、ユニコード・バイトで保管された名前が含まれています。データベース・サーバー &LS. でサポートされる実際のユニコード文字数は、この画面で指定されている数よりも少ない場合があります。

SQL code: -107

Database: DB2 for z/OS

DSQ17108 名前 &V1 に、正しくない数の修飾子が含まれています。

説明:

名前 &V1 を持つオブジェクトでは、修飾子は 1 つしか持てません。列名が、修飾名、非修飾名、または相関名のいずれかの表名で修飾されています。コンテキス

トでは、列名に表名修飾子が必要です。

ユーザーの処置:

オブジェクトを正しく修飾して、照会を再実行してください。

SQL code: -108

Database: DB2 for z/OS

DSQ17109 &V1 文節は許可されていません

説明:

使用された文節は、以下のいずれかの理由で許可されていません。

- LOGGED 文節または NOT LOGGED 文節が使用されている ALTER TABLESPACE ステートメントが XML 表スペースに対して指定された。
- ALTER TABLE ステートメントで、XML 列を含む表に対して ALTER PARTITION 文節が指定された。

ユーザーの処置:

照会を訂正して、再実行してください。

SQL code: -109

Database: DB2 for z/OS

DSQ17110 &V3&V1 で始まる値に、正しくない 16 進データが見つかりました。

説明:

1 つの 16 進文字は 2 つの英字または数字で表されません。したがって、16 進数値は、0 から 9 までの数字および英字 A、B、C、D、E、または F の偶数個の組み合わせにより表されていなければなりません。誤りのある 16 進数値は、奇数個の数字または英字により表されているか、または無効な英字か、そのほかの文字が含まれています。

ユーザーの処置:

無効な値を訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -110

Database: DB2 for z/OS

DSQ17111 列関数が、列名を使用していません。

説明: 68 ページの『DSQ12311』を参照してください。

SQL code: -111

Database: DB2 for z/OS

DSQ17112 列関数が使用する式が無効です。

説明: 68 ページの『DSQ12312』を参照してください。

SQL code: -112

Database: DB2 for z/OS

DSQ17113 ストリングで無効文字が検出されました:
&V3

説明:

DB2 が SQLCODE &V9、理由コード&V4 を戻しました。

ストリングに無効文字が含まれています。これは、SQL の通常 ID 名、ホスト変数名、または DBCS 注釈の可能性にあります。

SBCS SQL の通常 ID の場合、バッファー・プール、データベース、プラン、および記憶域グループの名前には、大文字の英字または国別文字、および文字セットがカタカナの場合は数値のみが含まれていなければなりません。先頭文字は、英字または国別文字である必要があります。

場合によっては、SQL プロシージャの名前に下線文字を含めることができます。詳しくは、DB2 SQL 解説書を参照してください。

以下の理由コードは、SBCS ID に適用されます。

- 000 - SBCS ID に無効文字が見つかりました(SBCS ID のみが許可されている場合に、DBCS ID が使用されたケースも含まれます)。

以下の理由コードは、DBCS ID または注釈に適用されます。

- 101 -シフトアウト文字とシフトイン文字の間のバイト数が奇数です。
- 102 -シフトイン文字またはシフトアウト文字がありません。
- 103 - DBCS ブランク X'4040'は許可されていません。
- 104 -シフトアウト文字とシフトイン文字の間に文字がありません。
- 105 -シフトアウトをシフトアウト文字とシフトイン文字の間の DBCS 文字の先頭バイトにすることはできません。

ユーザーの処置:

名前を訂正してください。

SQL code: -113

Database: DB2 for z/OS

DSQ17115 &V3&V1 の使用法に誤りがあります。

説明:

'>' または '=' などの単純比較演算子の後には、項目のリストを続けることはできません。ANY および ALL 比較演算子の後には、式や項目のリストではなく、副選択を続ける必要があります。以下に例を示します。

Correct: WHERE SALARY > ALL (SELECT COMM FROM Q.STAFF)
Incorrect: WHERE SALARY > ALL (10000)

ユーザーの処置:

&V3 の使用法を変更して、照会を再実行してください。

SQL code: -115

Database: DB2 for z/OS

DSQ17117 値の数と列の数が一致しません。

説明: 69 ページの『DSQ12317』を参照してください。

SQL code: -117

Database: DB2 for z/OS

DSQ17118 副照会の中で使用される表を変更することはできません。

説明: 69 ページの『DSQ12318』を参照してください。

SQL code: -118

Database: DB2 for z/OS

DSQ17119 グループ化に矛盾があります。

説明: 69 ページの『DSQ12319』を参照してください。

SQL code: -119

Database: DB2 for z/OS

DSQ17120 WHERE 文節、SET 文節、または VALUES 文節に列関数が含まれていません。

説明:

列関数 (または列関数に基づくユーザー定義関数) は、SET 文節や VALUES 文節では許可されず、索引定義のキースクームとしても許可されません。列関数 (または列関数に基づくユーザー定義関数) を WHERE 文節で使用できるのは、その WHERE 文節が HAVING 文節の副照会内にある場合のみです。例えば、AVG 関数を使用して、勤続年数が平均より長い全従業員を調べたいとしま

DSQ17121 • DSQ17131

す。そのための照会を書く正しい例と誤りの例の両方を以下に示します。

```
Correct: WHERE YEARS > (SELECT AVG(YEARS) FROM Q.STAFF)
Incorrect: WHERE YEARS > AVG(YEARS)
```

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

照会を訂正し、再実行してください。

SQL code: -120

Database: DB2 for z/OS

DSQ17121 同一の照会で同じ列を二度変更することはできません。

説明: 70 ページの『DSQ12321』を参照してください。

SQL code: -121

Database: DB2 for z/OS

DSQ17122 グループ化に矛盾があります。

説明: 69 ページの『DSQ12319』を参照してください。

SQL code: -122

Database: DB2 for z/OS

DSQ17123 &V1 の位置のパラメーターは、定数またはキーワードである必要があります。

説明: 117 ページの『DSQ15123』を参照してください。

SQL code: -123

Database: DB2 for z/OS

DSQ17125 **SELECT** リストの番号が列を識別していません。

説明:

エラーの認められた列番号は、0 であるか、または **SELECT** の後にリストされている列の数より大きい可能性があります。

```
Incorrect Examples:
ORDER BY 5 means ordering by the fifth item in the
SELECT list; it won't work if the SELECT
list has only four items.
ORDER BY 0 will never work.
```

ユーザーの処置:

SELECT リストに適合するように **ORDER BY** の後の列番号を変更し、照会を再実行してください。

SQL code: -125

Database: DB2 for z/OS

DSQ17127 **DISTINCT** は、1 つの照会中では一度しか使用できません。

説明: 71 ページの『DSQ12327』を参照してください。

SQL code: -127

Database: DB2 for z/OS

DSQ17128 **NULL** は、**IS** または **IS NOT** とともに使用してください。

説明: 71 ページの『DSQ12328』を参照してください。

SQL code: -128

Database: DB2 for z/OS

DSQ17129 照会で 15 を超える表参照が用いられています。

説明: 117 ページの『DSQ15129』を参照してください。

SQL code: -129

Database: DB2 for z/OS

DSQ17130 **LIKE** で使用されている拡張文字が無効です。

説明: 71 ページの『DSQ12331』を参照してください。

SQL code: -130

Database: DB2 for z/OS

DSQ17131 **LIKE** 使用のステートメントに不適切なデータ・タイプがあります。

説明:

LIKE または **NOT LIKE** キーワードの右側の式にエスケープ文字が含まれている場合、そのエスケープ文字のデータ・タイプは、左側に指定された列のタイプと互換でなければなりません。

LIKE または **NOT LIKE** キーワードの左側に指定された列が **CHAR** として定義されている場合は、右側の式の結果データ・タイプも **CHAR** でなければなりません。文節に指定された列が図形データ・タイプで定義されている場合、右側の式の結果のデータ・タイプも **GRAPHIC** でなければなりません。

同様に、列のデータ・タイプがバイナリー・ストリング

である場合、式およびエスケープ文字はバイナリー・ストリングでなければなりません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

各オペランドのデータ・タイプをチェックし、必要な変更を行ってから照会を再実行してください。

SQL code: -131

Database: DB2 for z/OS

DSQ17132 **LIKE** 比較 &V1 で無効な値が使用されています。

説明:

実際のエラーは LIKE の直前または直後にあるかもしれません。

LIKE の前には列名、あとには文字定数が必要です。定数の中では、ゼロまたは複数の文字のストリングを示す場合には '%' を使用してください。単一文字は、すべて '_' で表します。

例えば、JOHNSON のディレクトリーを探索したいがスペルが正確にわからない場合には、次のように入力できます。

```
WHERE NAME LIKE 'J%NS_N'
```

ユーザーの処置:

LIKE を用いる条件を訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -132

Database: DB2 for z/OS

DSQ17133 **HAVING** または **WHERE** 文節の後の式の使用法に誤りがあります。

説明: 72 ページの『DSQ12333』を参照してください。

SQL code: -133

Database: DB2 for z/OS

DSQ17134 **LONG** ストリング列は正しく使用されませんでした。

説明:

QMF は、データベースから -134 SQL コードが発行されると、このエラー・メッセージを表示します。

ユーザーの処置:

この問題の詳細については、SQL コード -134 の情報を

参照してください。この情報は IBM Knowledge Center にあります。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

SQL code: -134

Database: DB2 for z/OS

DSQ17136 ソート・キーの長さが 4000 バイトを超えることはできません。

説明:

ソート・キーは、DISTINCT の後か、ORDER BY または GROUP BY 文節の中で指定されている列のリストによって形成されます。DISINCT と ORDER BY または GROUP BY との両方がある場合、ソート・キーはその両方の列リストを組み合わせて構成されます。

ユーザーの処置:

ソート・キーの内部長が 4000 バイトを超えないように、ステートメントを変更してください。そのためには、ORDER BY 文節か GROUP BY 文節から、または DISTINCT 修飾子の後のリストから、1 つまたはいくつかの列名を削除しなければなりません。

SQL code: -136

Database: DB2 for z/OS

DSQ17137 連結の結果が長すぎます。

説明:

連結 (縦棒 2 本 '||') の結果、長さが 32,764 文字、または 16,382 漢字文字を超えました。

ユーザーの処置:

ストリングが短くなるように照会を変更して、もう一度、やり直してください。

SQL code: -137

Database: DB2 for z/OS

DSQ17138 関数 **SUBSTR** の 2 番目が 3 番目の引数が、範囲外にあります。

説明:

```
SUBSTR(ARG1, ARG2, ARG3)
```

```
ARG1: must be a character or graphic string
ARG2: must be an integer and 1 <= ARG2 <= L
ARG3: must be an integer and 0 <= ARG3 <= L-N+1
```

```
Where L : the length of ARG1
      N : the value of ARG2
```

ユーザーの処置:

DSQ17148

SUBSTR の 2 番目と 3 番目の引数を変えて、照会しなおしてください。

SQL code: -138

Database: DB2 for z/OS

DSQ17148 ソース表または表スペース &V1 は変更できません。理由: &V2。

説明:

次のリスト中の理由番号 &V2 が原因で、ALTER TABLE または ALTER TABLESPACE ステートメントを処理できません。

- ALTER ステートメントが ALTER COLUMN 文節を指定して、列のデフォルト値のドロップ、列のデフォルト値の変更、または列の長さの変更を行おうとしています。この列は、フィールド・プロシージャがあるか、また、参照制約に使用されているため、変更することはできません。デフォルト値は、列にフィールド・プロシージャがあるため変更できません。
- ALTER ステートメントが ALTER COLUMN 文節を指定して、列のデフォルト値のドロップ、列のデフォルト値の変更、または列の長さの変更を行おうとしています。&V1 で示された表には編集プロシージャまたは妥当性検査プロシージャがあるため、列を変更できません。
- ALTER ステートメントで、列のデフォルト値のドロップ、デフォルト値の変更、または列のデータ・タイプの変更を試行する ALTER COLUMN 文節が指定されました。DATA CAPTURE CHANGES で表が定義されており、サブシステム・パラメーター RESTRICT_ALT_COL_FOR_DCC が YES に設定されているため、列を変更できません。
- &V1 に対してクローン表が既に定義されているため、ALTER ステートメントを使用してクローン表を定義することはできません。
- 表 &V1 がユニバーサル表スペースにないか、または PAGENUM RELATIVE で定義された表スペースにあるため、ALTER ステートメントを使用してクローン表を定義できません。
- 表 &V1 は参照制約に使用されているため、ALTER ステートメントを使用してクローン表を定義することはできません。
- 表 &V1 に定義されている AFTER トリガーがあるため、ALTER ステートメントを使用してクローン表を定義することはできません。
- 表 &V1 はマテリアライズ照会表であるため、ALTER ステートメントを使用してクローン表を定義することはできません。
- 表 &V1 にアクティブなバージョン管理があるため、ALTER ステートメントを使用してクローン表を定義することはできません。
- 以下のいずれかの理由により、ALTER ステートメントを処理できません。
 - 表 &V1 の表スペース、あるいは、表 &V1 に対する索引が DEFINE NO を使用して作成されて、そのデータ・セットがまだ定義されていないため、ALTER ステートメントを使用してクローン表を定義することはできません。
 - LOB 列または XML 列を含むソース表の補助オブジェクトが、DEFINE NO を使用して作成されましたが、データ・セットが未定義です。
- ALTER ステートメントが、定義済みクローンのある表、または、それ自体がクローンである表を変更しようとしています。
- 表 &V1 は編集プロシージャ、妥当性検査プロシージャ、またはフィールド・プロシージャを持つように定義されているため、ALTER ステートメントを使用してクローン表を定義できません。
- 索引がバージョン管理の限度である 16 を超えているため、ALTER ステートメントは処理できません。
- ALTER COLUMN 文節の指定された ALTER ステートメントが、文字 FOR BIT DATA から BINARY にデータ・タイプを変更しようとしたが、キャストのデフォルト値の長さが 1536 UTF-8 バイトを超えています。
- 表スペースに関連付けられている保留中の変更がないため、ALTER ステートメントは処理できません。
- ALTER TABLESPACE ステートメントに、ハッシュ編成表スペースの MEMBER CLUSTER YES オプションを含めることはできません。
- 表 &V1 はハッシュ編成であるため、ALTER ステートメントを使用してクローン表を定義できません。
- 変更対象の列が EBCDIC 表の V11 ユニコード列であるため、ALTER ステートメントを処理できません。

ユーザーの処置:

&V1 を、指定どおりに変更できるオブジェクトの名前に変更してステートメントを再発行するか、または理由コードに応じた適切なアクションを実行してください。

- &V1 を指定どおりに変更できるオブジェクト名に変更してステートメントを再発行する操作を行わないでください。

2. 編集プロシージャーまたは妥当性検査プロシージャーを使用して定義されている列は変更しないでください。
3. DATA CAPTURE CHANGES で表が定義されており、サブシステム・パラメーター RESTRICT_ALT_COL_FOR_DCC が YES に設定されているときには、デフォルト値の変更やドロップ、また列のデータ・タイプの変更は行おうとしないでください。
4. クローン表を定義する前に、既に定義されているクローン表がないことを確認してください。
5. クローン表を定義する前に、表がユニバーサル表スペースであることを確認してください。
6. クローン表を定義する前に、表が参照制約に使用されていないことを確認してください。
7. クローン表を定義する前に、表に定義されている AFTER トリガーがないことを確認してください。
8. クローン表を定義する前に、表がマテリアライズ照会表でないことを確認してください。
9. クローン表を定義する前に、表にアクティブなバージョン管理がないことを確認してください。
10. クローン表を定義する前に、&V1 とその索引のデータ・セットが定義されていることを確認してください。
11. クローン表を削除してから列を変更してください。ALTER TABLE ステートメントに DROP CLONE 文節を使用する。
12. クローン表を定義する前に、表に編集プロシージャー、妥当性検査プロシージャー、あるいはフィールド・プロシージャーがないことを確認してください。
13. ALTER ステートメントを再発行する前に、索引のバージョン数を削減してください。
14. デフォルト値を削減またはドロップしてください。デフォルト値を変更するには、ALTER COLUMN SET DEFAULT を指定した ALTER TABLE ステートメントを使用してください。デフォルト値をドロップするには、ALTER COLUMN DROP DEFAULT を指定した ALTER TABLE ステートメントを使用してください。
15. 存在しない保留中の変更を削除するように表スペースを変更しないでください。
16. ハッシュ結合可能編成表スペースのための MEMBER CLUSTER YES オプションを追加しようとしてしないでください。
17. ハッシュ編成表に対してクローン表を定義しないでください。

18. EBCDIC 表のバージョン 11 ユニコード列を変更しないでください。

SQL code: -148

Database: DB2 for z/OS

DSQ17150 この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: 73 ページの『DSQ12350』を参照してください。

SQL code: -150

Database: DB2 for z/OS

DSQ17151 列 &V1 は変更できません。

説明: 118 ページの『DSQ15151』を参照してください。

SQL code: -151

Database: DB2 for z/OS

DSQ17152 ALTER ステートメントの DROP &V1 文節が無効です。

説明:

&V2 が &V3 なので、ALTER ステートメントの DROP &V1 文節は無効です。ALTER TABLE ステートメントの DROP clause が、DROP 文節の constraint-type と一致しない制約を除去しようとした。文節は、以下のように適切な制約タイプを識別する必要があります。

- REFERENTIAL CONSTRAINT - 識別される制約は参照制約でなければなりません。
- CHECK CONSTRAINT - 識別される制約はチェック制約でなければなりません。
- PRIMARY KEY CONSTRAINT - 識別される制約は主キー制約でなければなりません。
- UNIQUE KEY CONSTRAINT - 識別される制約はユニーク・キー制約でなければなりません。

ユーザーの処置:

ステートメントを変更して、ALTER TABLE ステートメントの DROP 文節を正しく使用してください。

SQL code: -152

Database: DB2 for z/OS

DSQ17153 式または関数によって定義されたビューの列には名前が必要です。(View columns defined by expressions or functions need names.)

説明: 73 ページの『DSQ12353』を参照してください。

SQL code: -153

Database: DB2 for z/OS

DSQ17154 UNION が使用されていたりリモート・オブジェクトが含まれていたりするビューは作成できません。(You cannot create a view that uses UNION or contains a remote object.)

説明:

作成対象のビューの定義においてキーワード UNION が使用されているか、またはリモート・オブジェクトが含まれています。これはビューの定義では許可されません。

ユーザーの処置:

視点の定義を別の形に変えてください。

SQL code: -154

Database: DB2 for z/OS

DSQ17155 GROUP BY または HAVING で定義されたビューが FROM の後に指定されています。(A view defined by GROUP BY or HAVING is named after FROM.)

説明: 74 ページの『DSQ12355』を参照してください。

SQL code: -155

Database: DB2 for z/OS

DSQ17156 照会に、表が指定されていません。

説明:

ALTER TABLE、DROP TABLE、LOCK TABLE、または CREATE INDEX を使用することができるのは表に対してだけです。ビューまたはリモート・オブジェクトの名前は、これらのステートメントの後では使用できません。

ユーザーの処置:

照会で正しい表名が使われていることを確認してください。上記にリストしたステートメントの後では、視点

またはリモート・オブジェクトの名前は使用しないでください。

SQL code: -156

Database: DB2 for z/OS

DSQ17157 表名は FOREIGN KEY 文節でだけ指定できます。&V1 は表名ではありません。

説明:

&V1 が、CREATE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節に指定されました。しかし &V1 は表名ではありません。FOREIGN KEY 文節では表が識別されなければなりません。

ユーザーの処置:

FOREIGN KEY 文節で、表名が使用されたか確認してください。

SQL code: -157

Database: DB2 for z/OS

DSQ17158 CREATE VIEW と SELECT の両リストには、同数の列が必要です。

説明: 74 ページの『DSQ12358』を参照してください。

SQL code: -158

Database: DB2 for z/OS

DSQ17159 使用されている名前は視点または別名ではなく表です。

説明:

DROP VIEW はビューの除去にのみ使用されます。
DROP ALIAS は別名の除去にのみ使用されます。
COMMENT ON ALIAS は別名のコメントにのみ使用されます。

DROP VIEW、DROP ALIAS または COMMENT ON ALIAS を使って表を除去、またはコメントを付けることはできません。

ユーザーの処置:

表を除去、またはコメントを付けたい場合、DROP TABLE か COMMENT ON TABLE ステートメントを使ってください。

SQL code: -159

Database: DB2 for z/OS

DSQ17160 このビューには **WITH CHECK OPTION** 文節は使用できません。

説明: 72 ページの『DSQ12340』を参照してください。

SQL code: -160

Database: DB2 for z/OS

DSQ17161 挿入または更新の値が視点定義の条件を満たしていません。

説明: 43 ページの『DSQ10541』を参照してください。

SQL code: -161

Database: DB2 for z/OS

DSQ17164 他のユーザーの名前でビューを作成することはできません。 (**You cannot create a view in another user's name.**)

説明:

この照会は、修飾子付きの名前 (USERID.TABLENAME という形式の名前) でビューを作成しようとしています。その名前の修飾子があなたの DB2 許可 ID ではありません。自分以外の許可 ID を用いて視点を作成することができるのは、"SYSADM" 権限を持つユーザーだけです。

ユーザーの処置:

照会を訂正して再実行するか、または他の人のための視点を作成する許可を得てください。

SQL code: -164

Database: DB2 for z/OS

DSQ17170 スカラー関数 '&V1' に指定した引数の数が無効です。

説明:

SQL ステートメントにあるスカラー関数 &V1 の引数が多すぎるか少なすぎます。

ユーザーの処置:

DB2 の資料で関数 &V1 の構文の説明を確認し、この関数で有効な数の引数を使用するようにしてください。

SQL code: -170

Database: DB2 for z/OS

DSQ17171 スカラー関数 '&V2' の引数 '&V1' が無効です。

説明: 75 ページの『DSQ12371』を参照してください。

SQL code: -171

Database: DB2 for z/OS

DSQ17180 日時の値 &V1 が無効です。

説明: 119 ページの『DSQ15180』を参照してください。

SQL code: -180

Database: DB2 for z/OS

DSQ17181 日時の値が無効です。

説明: 45 ページの『DSQ10581』を参照してください。

SQL code: -181

Database: DB2 for z/OS

DSQ17182 日付時刻の値を使っている算術式が無効です。

説明: 76 ページの『DSQ12382』を参照してください。

SQL code: -182

Database: DB2 for z/OS

DSQ17183 日付、またはタイム・スタンプに関する算術演算で、無効な結果が出ました。

説明: 46 ページの『DSQ10583』を参照してください。

SQL code: -183

Database: DB2 for z/OS

DSQ17184 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -184

Database: DB2 for z/OS

DSQ17185 日付または時刻の値を形式設定できません。

説明: 46 ページの『DSQ10585』を参照してください。

SQL code: -185

Database: DB2 for z/OS

DSQ17190 列 '&V1' に指定した属性は、既存の列の定義と互換性がありません。

説明:

ALTER TABLE ステートメントで列 '&V1' に対して ALTER COLUMN 文節に指定した属性は、既存の列の属性と互換性がありません。このエラーは次のいずれかの理由で起こります。

- SET DATA TYPE 文節を指定した場合、既存の列が、指定された新しいデータ・タイプと互換性がないか、または、既存の列のデータ・タイプが変更できないものです。ALTER TABLE ALTER COLUMN SET DATA TYPE ステートメントでは、文字列、数値列、またはバイナリ列を変更できます。
- 以下のいずれかの文節を指定した場合、このエラーは、既存の列が ID 列として定義されていないために発生しました。

```
RESTART
SET GENERATED
SET INCREMENT BY
SET MINVALUE
SET NO MINVALUE
SET MAXVALUE
SET NO MAXVALUE
SET CYCLE
SET NO CYCLE
SET CACHE
SET NO CACHE
SET ORDER
SET NO ORDER
```

これらの文節は ID 列として定義されている列のみ指定できるので、ステートメントは完了しませんでした。

ユーザーの処置:

ステートメントに指定された属性が既存の列定義と互換であるようにし、属性指定を除去するか、別の列名を指定してください。

SQL code: -190

Database: DB2 for z/OS

DSQ17193 列 '&V1' の指定が、NOT NULL として正しくありません。

説明:

ALTER TABLE ステートメントで、列 '&V1' が NOT NULL として指定され、DEFAULT 文節が指定されなかったか、または DEFAULT NULL として指定された

かのいずれかです。新規列が既存の表に追加される場合は、値はすべての既存の行に割り当てられる必要があります。デフォルトでは、NULL 値が割り当てられています。ところが、列は NOT NULL として定義されたので、NULL ではないデフォルト値を定義する必要があります。

ユーザーの処置:

列の NOT NULL 制限を除去するか、または列に NULL 以外のデフォルト値を与えて、ステートメントを訂正してください。その後、ステートメントを再実行してください。

SQL code: -193

Database: DB2 for z/OS

DSQ17195 &V1 の最後の列を除去できません。

説明:

ALTER TABLE ステートメントを使用して列をドロップしようとした。表を変更するときには既存の列が少なくとも 1 つ保持されている必要があるため、表 &V1 から列をドロップすることはできません。

ユーザーの処置:

ALTER ステートメントの完了後に、表 &V1 に少なくとも 1 つの列があるようにしてください。すべての列を削除する必要がある場合には、表をドロップして、表を再作成してください。

SQL code: -195

Database: DB2 for z/OS

DSQ17196 列 '&V1' はドロップできません。理由 = &V2。

説明:

指定された列をドロップしようとしたが、示された理由のために列をドロップできません。

- 1 列は、ハッシュ・キーまたはパーティション・キーの一部であるため、ドロップできません。
- 3 列は、セキュリティ・ラベル列であるため、ドロップできません。
- 4 列は、期間の一部であるため、ドロップできません。
- 5 列は、表がシステム期間テンポラル表であるため、ドロップできません。
- 6 列は、履歴表の列であるため、ドロップできません。

- 8 表 &V1 は、編集プロシージャまたは妥当性検査プロシージャで定義されています。
- 9 表 &V1 は、マテリアライズ照会表の定義で直接的または間接的に参照されています。
- 10 チェック制約が表 &V1 に定義されています。
- 11 拡張索引が表 &V1 に定義されています。
- 12 トリガーが表 &V1 に定義されています。または INSTEAD OF トリガーが、表に従属する視点に定義されています。
- 13 行の許可が表 &V1 に依存しています。
- 14 列マスクが表 &V1 に依存しています。
- 15 インライン SQL 表関数が表 &V1 に依存しています。

ユーザーの処置:

理由コードに対して以下のように適切な処置を取ってください。

- 1
- 列がパーティション・キーの一部である場合は、表をドロップして、ドロップする必要がある列なしで表を再作成し、パーティション・キーを再定義します。
 - 列がハッシュ・キーの一部である場合は、以下のようになります。
 1. 表を変更して、ハッシュ編成を除去します。
 2. 列をドロップします。
 3. 列のドロップ操作が有効になるように、表を含むスペースに対して REORG ユーティリティを実行します。
 4. 表を変更して、ハッシュ編成を追加します。

代替方法として、表をドロップし、ドロップする必要がある列なしでそれを再作成することを考慮してください。
- 3 表をドロップして、セキュリティ・ラベル列を作成せずに表を再作成します。
- 4 表をドロップして、ドロップする必要がある列を作成せずに表を再作成します。
- 5 表を変更して、システム期間データ・バージョン管理を除去し、表から列をドロップします。
- システム期間データ・バージョン管理が引き続き必要な場合は、以前に関連付けた履歴表からも対応する列をドロップし、次いで表を変更してシステム期間データ・バージョン管理を追加します。

- 6 バージョン管理をドロップし、表が履歴表ではなくなるようにして、次いで列を表からドロップします。

バージョン管理が引き続き必要な場合はさらに、システム期間テンポラル表から列をドロップし、次いでバージョン管理を追加し直します。

- 8 表が妥当性検査プロシージャで定義されている場合は、表を変更して妥当性検査プロシージャを削除し、次いで列をドロップします。表が編集プロシージャで定義されている場合は、ドロップする必要がある列を作成せずに、表をドロップして再作成します。
- 9 表を参照するすべてのマテリアライズ照会表をドロップしてから、列をドロップします。
- 10 表を参照するすべてのチェック制約をドロップしてから、列をドロップします。
- 11 表を参照するすべての拡張索引をドロップしてから、列をドロップします。
- 12 表または従属視点を参照するすべてのトリガーをドロップしてから、列をドロップします。
- 13 表を参照する行許可をドロップしてから、列をドロップします。
- 14 表を参照するすべての列マスクをドロップしてから、列をドロップします。
- 15 表を参照するすべてのインライン SQL 表関数をドロップしてから、列をドロップします。

SQL code: -196

Database: DB2 for z/OS

DSQ17197 修飾列名を **ORDER BY** に使用しないでください。

説明:

ORDER BY を UNION または UNION ALL と一緒に使用するとき、修飾列名を ORDER BY の後に続けて使用しないでください。代わりに、非修飾名か、または SELECT の後のリストの列の位置を示す数値を使用してください。

```
Example 1: SELECT NAME, ID FROM Q.STAFF
           UNION
           SELECT NAME, TEMPID FROM Q.APPLICANT
           ORDER BY 1
```

```
Example 2: SELECT NAME, ID FROM Q.STAFF
           UNION
           SELECT NAME, TEMPID FROM Q.APPLICANT
           ORDER BY NAME
```

ユーザーの処置:

修飾列名を使用しないようにステートメントを変更して、照会を再実行してください。

DSQ17198 • DSQ17203

SQL code: -197

Database: DB2 for z/OS

DSQ17198 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明:

空の照会またはコメントだけを含む照会には、処置を指示する命令が入っていないため、実行することはできません。

ユーザーの処置:

別の照会を書いてください。

SQL code: -198

Database: DB2 for z/OS

DSQ17199 &V3 &V1 またはその前で **SQL** エラーが起きました。

説明:

このエラーは、上記のメッセージで参照された照会の領域で QMF が無効な SQL 構文を見つけたために発生しました。この場所のステートメントは次のとおりです。

&V2

ユーザーの処置:

- 照会のこの領域にあるステートメントの構文を検討してください。有効な SQL 構文の詳細については、IBM Knowledge Center で SQL 参照情報をご覧ください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

特に、以下の点を確認してください。

- DISTINCT キーワードを各副照会で一度のみ使用した。
- SELECT ステートメントに続く各副照会を括弧で囲んだ。
- 指定したキーワードがすべて有効で、スペルが正しい。
- 照会内で句読点が必要な部分に正しく句読点を記述した。

照会に複数の SQL ステートメントが含まれている場合は、最後のステートメントを除き、各ステートメントがセミコロンで終了する必要があります。

- 照会内に FOR FETCH ONLY 文節がない。QMF は照会の実行前に照会にこの節を自動的に追加するため、この節を追加するとエラーが発生します。

- DELETE または UPDATE ステートメントに SKIP LOCKED DATA 文節がない。

- メッセージで指定された照会の領域にあるステートメントが有効であると考えられる場合は、照会の残り部分のステートメントを調べてください。

以下の行に、エラーの原因の可能性がある SQL ステートメントまたはキーワードをリストします。

&V4

このリスト内のすべてのステートメントまたはキーワードが、照会の送信先のデータベース・マネージャー・プログラムで有効なことを確認してください。このリストに含まれているステートメントまたはキーワードが照会パネルに見つからない場合は、このエラーに関連するトレース・データを調べることができる QMF 管理者にこの問題を報告してください。

"SELECT" および "CALL" ステートメントでは、照会がデータベースへのサブミットのために準備されるときに、無効な構文が生成される可能性があります。これは、QMF が自動的に特定のキーワードを追加するためです。これらのキーワードは照会パネルに表示されません。トレース・データに存在する照会のバージョンにのみ見つかります。「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」は、QMF アクティビティのトレース方法に関する情報を提供しています。エラーの行および位置番号が、QMF によって追加されたキーワードによって影響を受けた可能性があります。

次の SQLSTATE 情報も、このエラーの原因のトラブルシューティングに役立つ可能性があります:
&DSQSQLST。

SQL code: -199

Database: DB2 for z/OS

DSQ17203 列 &V1 が複数の表にあります。

説明: 77 ページの『DSQ12403』を参照してください。

SQL code: -203

Database: DB2 for z/OS

DSQ17204 &V1 が見つかりません。

説明: 119 ページの『DSQ15204』を参照してください。

SQL code: -204

Database: DB2 for z/OS

DSQ17205 列名 &V1 は表 &V2 の中にありません。

説明: 47 ページの『DSQ10605』を参照してください。

SQL code: -205

Database: DB2 for z/OS

DSQ17206 **SELECT、UPDATE、INSERT、または DELETE** ステートメントで指定されているいずれの表にも列 &V1 は存在しません。(Column &V1 is not in any table named in the SELECT, UPDATE, INSERT, or DELETE statement.)

説明: 77 ページの『DSQ12402』を参照してください。

SQL code: -206

Database: DB2 for z/OS

DSQ17207 **ORDER BY** の後には、列名ではなく列番号を使用してください。

説明: 78 ページの『DSQ12407』を参照してください。

SQL code: -207

Database: DB2 for z/OS

DSQ17208 **SELECT** リストに &V1 がなければなりません。

説明: 78 ページの『DSQ12408』を参照してください。

SQL code: -208

Database: DB2 for z/OS

DSQ17212 &V1 の使用が、**SQL** ステートメント内で固有ではありません。

説明:

名前 &V1 が SQL ステートメントで複数回出てきて、競合しています。

CREATE TRIGGER ステートメントでは、

REFERENCING 文節で使用されている名前は固有ではありません。

- 名前がトリガーのサブジェクト・テーブルと同じである可能性がある。
- 1 つの名前が **OLD** や **NEW** 関連名、または **OLD_TABLE** や **NEW_TABLE ID** で複数回使用されている可能性がある。

SELECT ステートメントでは、**FROM** 文節で使用されている名前は固有ではありません。

ユーザーの処置:

固有の名前を指定するよう、ステートメントを変更してください。

トリガー定義では、**REFERENCING** 文節で重複している名前がないように変更してください。

SELECT ステートメントでは、**FROM** 文節を書き直してください。 関連名を表名と関連付けるか、またはすべての表が個別に識別されるように、既存の関連名を変更してください。

SQL code: -212

Database: DB2 for z/OS

DSQ17214 &V2 文節の式が無効です。

説明:

&V2 文節の "&V1" で始まる式が無効です。

次のリスト中の理由番号 &V3 を参照してください。

1. **UNION** 演算子が使用されている場合、**SELECT** ステートメントの **ORDER BY** 文節には、ソート・キー式を使用できません。
2. 選択文節で **DISTINCT** が使用されている場合、**ORDER BY** 文節にはソート・キー式を使用できません。
3. **ORDER BY** 文節に列関数があっても **GROUP BY** 文節がない場合は、グループ化が発生します。
4. **GROUP BY** 文節の式はスカラー全選択にはできません。
5. **GROUP BY** 文節の式はスカラー全選択、つまり単一値を返す全選択にはできません。

ユーザーの処置:

SELECT ステートメントを変更して、照会を再実行してください。 次のリストの処置番号 &V3 を参照してください。

1. **ORDER BY** 文節からソート・キー式を除去してください。 列名または番号を使用してください。

DSQ17216 • DSQ17303

2. 選択文節から DISTINCT を除去するか、または ORDER BY 文節のソート・キーを列名または番号に変更してください。
3. GROUP BY 文節を追加するか、ORDER BY 文節から列関数を除去してください。
4. GROUP BY 文節から式を除去してください。代わりに、ネストされた表の式、または共通表式で照会を書き直すことができます。

SQL code: -214

Database: DB2 for z/OS

DSQ17216 "&V1" の両側のエレメントの値が、同じではありません。

説明:

述部演算子 "&V1" の左側と右側のエレメントの数と同じではありません。エレメントの数は、左右で同じでなければなりません。

これらのエレメントは括弧で閉じてある式のリストに表示されることがあり、また括弧で閉じてある選択ステートメントの列として表示されることもあります。

ユーザーの処置:

同じ数のエレメントが述部演算子の両側にあるように、述部を訂正してください。

示されている述部演算子が "=" の場合、SELECT ステートメントで書かれている IN 述部に問題がある可能性があります。

SQL code: -216

Database: DB2 for z/OS

DSQ17219 Explain 表 &V1 が存在しません。

説明:

EXPLAIN ステートメントには、1 つまたは複数のユーザー提供の説明表が必要で、ステートメントはここに情報を入れます。表 &V1 は、現行のデータベースのロケーションには定義されていません。

ユーザーの処置:

EXPLAIN を使用する前に、必要な説明表を作成してください。EXPLAIN ステートメントと説明表の作成について詳しくは、SQL 解説書を参照してください。

SQL code: -219

Database: DB2 for z/OS

DSQ17220 EXPLAIN 表に、正しくない定義があります。

説明: 88 ページの『DSQ12819』を参照してください。

SQL code: -220

Database: DB2 for z/OS

DSQ17245 関数 &V1 の呼び出しが未確定です。

説明: 78 ページの『DSQ12445』を参照してください。

SQL code: -245

Database: DB2 for z/OS

DSQ17250 ロケーション修飾子は使用できません。

説明: 120 ページの『DSQ15250』を参照してください。

SQL code: -250

Database: DB2 for z/OS

DSQ17251 &V1 は、無効なロケーション名です。

説明: 120 ページの『DSQ15251』を参照してください。

SQL code: -251

Database: DB2 for z/OS

DSQ17270 関数はサポートされていません。

説明: 120 ページの『DSQ15270』を参照してください。

SQL code: -270

Database: DB2 for z/OS

DSQ17303 非互換のデータ・タイプのため出力ホスト変数 &V1 に値を割り当てられません。

説明:

CALL、FETCH、SELECT、VALUES INTO、または SET ステートメントは、出力ホスト変数のデータ・タイプが、ステートメント内の対応するエレメントのデータ・タイプと互換性がないため、実行できませんでした。

出力変数の値およびそれに対応するステートメント内のエレメントは、以下のいずれかのカテゴリである必要があります。

- 一方の値が数値であり、以下の条件のうちのいずれかが真である。
 - もう一方の値も数値である。
 - もう一方の値が文字ストリングである。
 - もう一方の値が図形ストリングであり、ユニコードを使用する。
 - ステートメントに FOR BIT DATA のサブタイプがある。
- ユニコードを使用していない限り、両方とも文字ストリングである。
- ユニコードを使用していない限り、両方とも図形ストリングである。
- 両方とも行 ID である。
- 両方ともバイナリー・ストリングである。または一方が BINARY あるいは VARBINARY で、他方が FOR BIT DATA である。
- 変数のデータ・タイプが XML またはバイナリー XML で、対応するステートメント・リスト・エレメントが XML である。
- ユーザー定義の配列型として変数が定義されており、ステートメント内の対応するエレメントは配列値である。

さらに、結果の列のデータ・タイプが DATE または TIME の場合、対応する出力変数のデータ・タイプは、適切な最小長を持つ文字データ・タイプである必要があります。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

表定義が現行のものであり、出力変数のデータ・タイプが正しいことを確認してください。

SQL code: -303

Database: DB2 for z/OS

DSQ17304 データ・タイプ '&V1' の値をホスト変数に割り当てることはできません。その値は、位置 '&V2' にあるデータ・タイプ '&V3' のホスト変数の範囲内にないためです。

説明:

位置番号 '&V2' にホスト変数リストまたは構造がある、CALL、FETCH、SELECT、VALUES INTO、または SET 割り当てステートメントは失敗しました。データ・タイプ '&V3' のホスト変数の大きさが不十分で、検索されたデータ・タイプ '&V1' の値を保持できないためです。

ステートメントは完了できません。検索されたデータはありません。ステートメントが FETCH であった場合、カーソルは開いたままになります。

ユーザーの処置:

表定義が現行のものであり、ホスト変数のデータ・タイプが正しいことを検証してください。

SQLSTATE: &DSQSQLST

SQL code: -304

Database: DB2 for z/OS

DSQ17312 &V1 は、未定義または使用不能なホスト変数であるか、または、動的 SQL ステートメントまたはトリガー定義で使用されています。

説明:

SQL ステートメント中にホスト変数 &V1 がありますが、以下の状態の 1 つが該当します。

- 変数が宣言されていません。
- 変数の属性が、SQL ステートメント中でのその変数の使用法と不整合である。
- 動的 SQL ステートメントでホスト変数が指定されました。ホスト変数は、動的 SQL ステートメントでは無効です。
- ホスト変数配列が、サポートされていないコンテキストで使用されています。
- 変数は、CREATE TRIGGER ステートメント内でトリガーされる SQL ステートメントの 1 つに現れている。トリガー本体では、OLD 遷移変数を変更できません。
- SQL プロシージャ、SQL 関数、またはトリガーの本体で変数名が使用されていますが、変数が SQL 変数またはパラメーターとして宣言されていません。SQL 変数の有効範囲は、宣言が含まれたコンパウンド・ステートメントであり、そのコンパウンド・ステートメントにネストされたコンパウンド・ステートメントが含まれています。
- その変数が索引定義の key-expression の 1 つで使用されました。
- サポートされていないコンテキストで配列変数が使用されています。CREATE VIEW ステートメントで許可される配列変数は大域変数のみです。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

以下のいずれか解決策を使用してください。

DSQ17313 • DSQ17348

- プログラムまたは SQL ルーチンに、その変数の宣言が含まれていることを確認してください。SQL ステートメント内の変数名のスペルが正しいことを確認してください。
- 変数の属性がステートメントでの用法に準拠していることを確認してください。
- 動的 SQL ステートメントでは、ホスト変数ではなくパラメーター・マーカーを使用してください。
- 変数がトリガーで変更されるときには、NEW 遷移変数を指定してください。
- SQL ルーチンでは、SQL 変数またはパラメーターとして変数を宣言してください。
- 索引の定義を調べて、指定されているホスト変数を除去してください。
- 大域変数以外の配列変数をステートメントから除去してください。

SQL code: -312

Database: DB2 for z/OS

DSQ17313 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -313

Database: DB2 for z/OS

DSQ17332 文字ストリングが CCSID の未定義によって変換されませんでした。

説明: 122 ページの『DSQ15332』を参照してください。

SQL code: -332

Database: DB2 for z/OS

DSQ17338 ON 文節の使用が無効です。

説明: 122 ページの『DSQ15338』を参照してください。

SQL code: -338

Database: DB2 for z/OS

DSQ17348 &V1 はこのコンテキストでは指定できません。

説明:

ステートメントに、無効なコンテキストでの NEXT VALUE 式または PREVIOUS VALUE 式が含まれています。

NEXT VALUE 式または PREVIOUS VALUE 式は、次のコンテキストでは指定できません。

- 全外部結合の結合条件。
- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメント内の列のデフォルト値。
- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメント内で生成される列定義。
- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメント内のマテリアライズ照会表の定義。
- CREATE TABLE または DECLARED GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントの as-result-table 文節
- チェック制約の条件。
- LOAD ユーティリティの入力値指定。
- CREATE VIEW ステートメント。
- 索引定義のキー式で使用する。
- NOT ATOMIC データ変更ステートメントを含む副選択の SELECT リスト。
- 配列の索引の値を生成する式の中。

NEXT VALUE 式は、次のコンテキストでは指定できません。

- CASE 式。
- 集約関数のパラメーター・リスト。
- 副照会が許可されていないコンテキスト内の副照会。
- 外側の SELECT に DISTINCT 演算子または GROUP BY 文節が含まれている場合の SELECT ステートメント。
- 外部 SELECT が UNION、EXCEPT、または INTERSECT などのセット演算子を使用して他の SELECT ステートメントと結合されている SELECT ステートメント。
- 結合の結合条件。
- ネストされた表の式。
- 表関数のパラメーター・リスト。
- UPDATE ステートメントの SET 文節内の式的全選択の SELECT 文節。
- SELECT ステートメントの ORDER BY 文節。
- OLAP 指定の ORDER BY 文節。
- SQL ルーチン内の IF、WHILE、DO ... UNTIL、または CASE ステートメント。
- 索引定義のキー式で使用する。
- NOT ATOMIC データ変更ステートメントを含む副選択の SELECT リスト。
- OFFSET 文節を含む全選択の選択リスト。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

シーケンス式に対する参照を除去してから、ステートメントを再実行依頼してください。

SQL code: -348

Database: DB2 for z/OS

DSQ17350 SQL ステートメントが無効なコンテキストで列を参照しています。

説明:

&V1 が、使用できないコンテキスト中で暗黙的または明示的に参照されています。

このエラーの原因としては、以下のことが考えられます。

DECFLOAT 列を次のように指定または定義することはできません。

- PRIMARY KEY 文節で主キーの列として指定する。
- UNIQUE KEY の列として指定する。
- referential-constraint 文節で外部キーの列として指定する。
- REFERENCES 文節で親キーの列として指定する。
- 範囲パーティションのパーティション・キー列として指定する。
- EDITPROC を含む表に定義する。
- 索引キーの列として指定する。また、索引に対するキー式の結果データ・タイプ (中間結果を含む) を、DECFLOAT データ・タイプまたは DECFLOAT データ・タイプに基づく特殊タイプにすることはできません。XML 索引の場合、XML 列のみを指定することができますが、索引キーの結果タイプに DECFLOAT は可能です。

LOB 列を次のように処理することはできません。

- 一時表 (作成済みグローバル一時表または宣言済みグローバル一時表) で定義する。
- 行属性センシティブティティーを使用して定義されている編集プロシージャーを含む表で定義する。
- PRIMARY KEY 文節で主キーの列として指定する。
- UNIQUE KEY の列として指定する。
- REFERENCES 文節で親キーの列として指定する。
- UNIQUE KEY の列として指定する。
- REFERENCES 文節で親キーの列として指定する。
- 索引キーの列として指定する。また、索引に対するキー式の結果データ・タイプ (中間結果を含む) を、LOB データ・タイプまたは LOB データ・タイプに

基づく特殊タイプにすることはできません。キー式索引の場合、SUBSTR 関数式のソースとしてインライン LOB 列を使用できます。また、この式の間接結果として LOB データ・タイプを使用できます。

- 範囲パーティションのパーティション・キー列として指定する。
- 列マスクと行の許可の定義で参照する。
- 列マスクとして定義する。
- 期間の指定または期間文節で参照する。

索引のキー式に隠蔽列を指定することはできません。

ROWID、LOB、あるいは XML データ・タイプは、CREATE TABLE または DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントの as-result-table 文節の結果表の列のデータ・タイプにはなりません。

セキュリティ・ラベル列 column-name が as-result-table 文節の結果表に存在していますが、それが、その結果表にある唯一のセキュリティ・ラベル列ではありません。表は、単一のセキュリティ・ラベル列のみを使用して定義します。

TIMESTAMP WITH TIME ZONE 列を、範囲パーティションのパーティション・キーの列として指定することはできません。

DESC も指定する場合、VARBINARY 列を索引キーの列として指定することはできません。

XML 列を次のように指定または定義することはできません。

- PRIMARY KEY 文節で主キーの列として指定する。
- UNIQUE KEY の列として指定する。
- referential-constraint 文節で外部キーの列として指定する。
- REFERENCES 文節で親キーの列として指定する。
- 範囲パーティションのパーティション・キー列として指定する。
- 一時表 (作成済みグローバル一時表または宣言済みグローバル一時表) で定義する。
- 行属性センシティブティティーを使用して定義されている編集プロシージャーを含む表で定義する。
- 索引キーの列として指定する。また、索引に対するキー式の結果データ・タイプ (中間結果を含む) を、XML データ・タイプにすることはできません。XML 索引の場合、XML 列のみを指定することができますが、索引キーの結果タイプに DECFLOAT は可能です。

DSQ17351 • DSQ17356

- SET DEFAULT 文節または DROP DEFAULT 文節を使用して指定する。
- 列マスクと行の許可の定義で参照する。
- 列マスクとして定義する。

DOCID 列は以下のステートメントでは指定できません。

- ALTER COLUMN 文節の ALTER TABLE ステートメント。
- DROP COLUMN 文節の ALTER TABLE ステートメント。

EBCDIC 表のバイナリー・ユニコード列は以下の項目では指定できません。

- ALTER TABLE ステートメントの ADD COLUMN 文節 (表が EDITPROC で既に定義されている場合)。
- UNIQUE、PRIMARY KEY、REFERENCES、FOREIGN KEY、または ORGANIZE BY HASH 文節。

エラーは以下の理由でも発行されることがあります。

- 表に EBCDIC 表のバイナリー・ユニコード列が含まれている場合は、EDITPROC 文節は指定できません。
- EBCDIC 表のバイナリー・ユニコード列に対して、DEFAULT キーワードの後に値を指定できません。
- 表にバイナリー・ユニコード列が含まれている場合は、EBCDIC 表の索引に対して NOT PADDED を指定できません。
- EBCDIC 表のバイナリー・ユニコード列に対して UNIQUE 文節や PRIMARY KEY 文節は指定できません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

構文を訂正し、ステートメントを再実行依頼してください。

SQL code: -350

Database: DB2 for z/OS

DSQ17351 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: 48 ページの『DSQ10751』を参照してください。

SQL code: -351

Database: DB2 for z/OS

DSQ17356 列式またはキー式 &V1 は無効です。

説明:

CREATE INDEX ステートメントは、列式またはキー式の番号 &V1 が無効であるため完了できません。理由コード = &V2。

1. 副照会が含まれている。
2. 列への参照が最小限の 1 つも含まれていない。
3. 特殊レジスターが参照されている。
4. CASE 式が含まれている。
5. ユーザー定義関数が組み込まれている。
6. 索引に 2 回以上現れる。
7. 修飾された列が参照されている。
8. FIELDPROC 文節で定義されている列が参照されている。
9. ロケール名なしで LOWER 関数または UPPER 関数が参照されているか、または入力ストリング式が FOR BIT DATA である。
10. 出力変換テーブルなしで TRANSLATE 関数が参照されている。
11. 列式またはキー式の結果の CCSID コード化スキームが表の CCSID コード化スキームと異なる。
12. LOB 列のインライン部分を参照できるのは、SUBSTR 組み込み関数のみである。また、SUBSTR 関数の START および LENGTH 引数は、定数でなければならない。
13. 以下のいずれかの組み込み関数が参照されている。
 - VERIFY_GROUP_FOR_USER
 - VERIFY_TRUSTED_CONTEXT_ROLE_FOR_USER
 - VERIFY_ROLE_FOR_USER
14. 暗黙のタイム・ゾーン値を使用する必要がある式が含まれている。例えば、キー式に、TIMESTAMP WITH TIME ZONE 値の TIMESTAMP WITHOUT TIME ZONE 値への明示的キャストが含まれている場合がある。
15. 大域変数が参照されている。

追加の理由コード:

- 25 EBCDIC 表の索引の指定にバイナリー列およびバイト・ベースのユニコード列が含まれている。
- 116 式は「:na」で終わらなければならない。
- 117 式は関数呼び出しであり、その最初の引数は、増対対応区分化表スペースに存在しない表に含まれる列である。指定されたコンテキストでは、引数は、増対対応区画化表スペースに存在する表に含まれている列でなければなりません。

- 118 式は関数呼び出しであり、その最初の引数は LOB 列である。また、ステートメントは別の LOB 列を参照する CREATE INDEX ステートメントである。このコンテキストでは、1 つの LOB 列のみを参照できます。
- 119 式は関数呼び出しであり、この関数呼び出しはキー式の最外部の式でなければならない。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST。
ユーザーの処置:
ステートメントで索引キーを定義している部分の誤りを訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -356
Database: DB2 for z/OS

DSQ17372 表で ROWID として定義できる列は 1 つだけです。

説明:
複数の ROWID 列を作成しようとしたか、または既に 1 つの ROWID 列がある表にさらに ROWID 列を追加しようとした。

ユーザーの処置:
CREATE TABLE または ALTER TABLE SQL ステートメントに複数の ROWID データ・タイプの列を含めてはなりません。

SQL code: -372
Database: DB2 for z/OS

DSQ17397 オプション GENERATED の指定に誤りがあります。

説明:
GENERATED が CREATE または ALTER TABLE ステートメントで指定されましたが、列のデータ・タイプは ROWID でも、ROWID に基づく特殊タイプでもありません。GENERATED は、データ・タイプが ROWID、あるいは ROWID に基づく特殊タイプの列に対してのみ指定できます。

ユーザーの処置:
GENERATED 文節を除去するか、またはオブジェクトのデータ・タイプが ROWID であることを確認してください。

SQL code: -397
Database: DB2 for z/OS

DSQ17399 ROWID 列に無効な値があります。

説明: 122 ページの『DSQ15399』を参照してください。

SQL code: -399
Database: DB2 for z/OS

DSQ17401 非互換の複数のデータ・タイプを 1 つの式または条件の中で使用することはできません。

説明: 79 ページの『DSQ12601』を参照してください。

SQL code: -401
Database: DB2 for z/OS

DSQ17402 数字データが必要です。

説明:
算術関数または演算子に、非数字オペランドが指定されました。算術式には、数値データまたは日時データが必要です。

ユーザーの処置:
指定した関数または演算子のすべてのオペランドが数値になるように、照会を変更してください。

SQL code: -402
Database: DB2 for z/OS

DSQ17404 指定された値はターゲット列または索引キーには長すぎます。

説明: 123 ページの『DSQ15404』を参照してください。

SQL code: -404
Database: DB2 for z/OS

DSQ17405 数値 &V3 &V1 は、列の許容範囲外です。

説明:
&V3 は、列に許容される範囲外の値です。値は、照会に含まれる式の結果としての値の場合もあります。
適切な SQL 値の範囲は以下のとおりです。

FLOAT	-7.2E75 to -5.4E-79, 0, 5.4E-79 to 7.2E75
INTEGER	-2147483648 to 2147483647
SMALLINT	-32768 to 32767
DECIMAL	The range depends on the precision and scale of the column. For example, if the value is being specified for a decimal column defined with precision = 5 and scale = 2, the range is -999.99 to 999.99.
DECFLOAT	-9.999999999999999999999999999999E384 to 9.999999999999999999999999999999E383, 0, 9.999999999999999999999999999999E-383 to 9.999999999999999999999999999999E384 for DECFLOAT(16);

CURRENT SQLID への参照、またはリモート・オブジェクトへの参照を削除してください。

SQL code: -411

Database: DB2 for z/OS

DSQ17412 副照会の **SELECT** の後には列を **1** つしか使用できません。

説明: 80 ページの『DSQ12612』を参照してください。

SQL code: -412

Database: DB2 for z/OS

DSQ17413 データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 50 ページの『DSQ10813』を参照してください。

SQL code: -413

Database: DB2 for z/OS

DSQ17414 **LIKE** は文字データ、バイナリー・データ、またはグラフィック・データを必要としますが、列に含まれているのは数値データまたは日付/時刻データです。

説明: 81 ページの『DSQ12614』を参照してください。

SQL code: -414

Database: DB2 for z/OS

DSQ17415 **SELECT** リストの列属性が統一されていません。

説明: 81 ページの『DSQ12615』を参照してください。

SQL code: -415

Database: DB2 for z/OS

DSQ17416 長ストリング列を **UNION** で使用することはできません。

説明: 81 ページの『DSQ12616』を参照してください。

SQL code: -416

Database: DB2 for z/OS

DSQ17417 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -417

Database: DB2 for z/OS

DSQ17418 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -418

Database: DB2 for z/OS

DSQ17419 使用されている値を用いた **10** 進除算はできません。

説明: 51 ページの『DSQ10819』を参照してください。

SQL code: -419

Database: DB2 for z/OS

DSQ17420 無効な文字ストリング引数が、**&V1** 関数で使用されました。

説明: 125 ページの『DSQ15420』を参照してください。

SQL code: -420

Database: DB2 for z/OS

DSQ17421 各 **SELECT** リストの列数が一致していません。

説明: 82 ページの『DSQ12622』を参照してください。

SQL code: -421

Database: DB2 for z/OS

DSQ17423 位置「**&V1**」に指定されたロケーターが無効です。

説明: 125 ページの『DSQ15423』を参照してください。

SQL code: -423

Database: DB2 for z/OS

DSQ17430 • DSQ17444

DSQ17430 &V1 &V2 が異常終了しました。

説明: 125 ページの『DSQ15430』を参照してください。

SQL code: -430

Database: DB2 for z/OS

DSQ17433 "&V1" で始まる値は長すぎます。

説明:

値をなんらかの方法で変換するために、システム・キャストまたは調整関数が呼び出されましたが、その値が長すぎます。この値が使用されている場所では、切り捨てはできません。

この値は次のいずれかの状況で現れます。

- ユーザー定義関数に対する引数として
- UPDATE ステートメントの SET 文節への入力として
- 表に挿入されている値として
- 別のコンテキスト内のキャスト関数への入力として
- 再帰が進行するにつれて長くなる、再帰的参照列

ユーザーの処置:

値が SQL ステートメント内でリテラル・ストリングである場合、本来の使用目的からすると長すぎます。

値がリテラル・ストリングでない場合は、SQL ステートメントを調べて、どこで変換されるのかを判別してください。変換用に入力されたものが長すぎるか、ターゲットが短すぎます。

特定の長さ制限については、「SQL 解説書」マニュアルを参照してください。これはそれぞれのデータベース・サーバーによって異なる可能性があります。

使用法を訂正し、再実行してください。

SQL code: -433

Database: DB2 for z/OS

DSQ17438 アプリケーションでエラー &V1 が発生しました。

説明:

このエラーは、RAISE_ERROR 関数または SIGNAL SQLSTATE ステートメントの結果として発生しました。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

可能であれば、アプリケーションが提供した診断テキストを使用して、エラーの原因を判別してください。

170 DB2 QMF メッセージおよびコード

SQL code: -438

Database: DB2 for z/OS

DSQ17440 名前 &V2 では、互換性がある引数を持つ &V1 は見つかりませんでした。

説明: 138 ページの『DSQ16440』を参照してください。

SQL code: -440

Database: DB2 for z/OS

DSQ17441 DISTINCT または ALL を &V1. とともに使用することは無効です。

説明: 125 ページの『DSQ15441』を参照してください。

SQL code: -441

Database: DB2 for z/OS

DSQ17442 ルーチン &V1 の参照中にエラーが発生しました。

説明: 126 ページの『DSQ15442』を参照してください。

SQL code: -442

Database: DB2 for z/OS

DSQ17443 外部関数 &V1 からエラーが返されました。

説明: 126 ページの『DSQ15443』を参照してください。

SQL code: -443

Database: DB2 for z/OS

DSQ17444 ユーザー・プログラム &V1 が見つかりません。

説明:

DB2 は、ユーザー定義関数の呼び出しを含むストアド・プロシージャまたは SQL ステートメントのための SQL CALL ステートメントを受け取り、要求されたプロシージャ名に関連する SYSIBM.SYSROUTINES カタログ表の行を検出しました。しかし、SYSIBM.SYSROUTINES のその行の LOADMOD 列に示された z/OS ロード・モジュールが見つかりませんでした。

&V1 見つからなかった z/OS ロード・モジュールの名前。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

SYSIBM.SYSROUTINES 表の LOADMOD 列値が誤っている場合は、ALTER FUNCTION または ALTER PROCEDURE ステートメントを使用して値を訂正してください。

LOADMOD 列の値が正しい場合は、z/OS リンケージ・エディターを使用して、必要な z/OS ロード・モジュールを、インストール先でストアード・プロシージャ用に使用されている z/OS ロード・ライブラリーのいずれかに作成してください。

SQL code: -444

Database: DB2 for z/OS

DSQ17449 CREATE または **ALTER** ステートメントに無効な形式が含まれています。

説明:

&V1 の CREATE FUNCTION、ALTER FUNCTION、または ALTER PROCEDURE ステートメントの EXTERNAL NAME 文節でエラーが見つかりました。またはその文節が必要であるのに指定されていませんでした。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

SQL ステートメントの構文を訂正してください。EXTERNAL NAME 文節の詳細については、DB2 SQL 解説書を参照してください。言語が JAVA または COMPJAVA の場合は、以下の原因が考えられます。

- EXTERNAL NAME 文節を省略している。
- ブランクを含んでいる。
- 名前の始まりか終わりに '!' がある。
- 無効な external-java-routine-name を指定している。

SQL code: -449

Database: DB2 for z/OS

DSQ17450 パラメーターが、宣言された長さを超えて記憶域をオーバーレイしました。(A parameter overlaid storage beyond its declared length.)

説明:

関数またはストアード・プロシージャ &V1 から戻ったときに、DB2 が、パラメーター番号 &V2 の、宣言された長さを超える記憶域オーバーレイを検出しました。これは許されません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

関数またはストアード・プロシージャの作成者、あるいはデータベース管理者に連絡してください。この関数またはストアード・プロシージャは、修正が終了するまで使用しないでください。

SQL code: -450

Database: DB2 for z/OS

DSQ17456 CREATE ステートメントに指定された関数は既に存在します。

説明:

&V1 に対する CREATE FUNCTION ステートメントに、SPECIFIC 名が &V2 として明示的に指定されました。この名前は、スキーマ内の別の関数に対する SPECIFIC 名として既に存在しています。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

別の名前を選択し、CREATE ステートメントを再試行してください。

SQL code: -456

Database: DB2 for z/OS

DSQ17457 名前 &V1 はシステムが使用するために予約されています。

説明:

ユーザー定義関数またはユーザー定義タイプは、その名前がシステムでの使用に予約されているため、作成できません。

以下の名前は、区切り ID であっても、関数またはユーザー定義タイプには使用できません。

"="	"<"	">"	">="	"<="	"&"	"&>"	"<:"
"!="	"!>"	"!<"	"<>"	"^="	"^<"	"^>"	ALL
AND	ANY	BETWEEN	DISTINCT	EXCEPT	EXISTS	FALSE	FOR
FROM	IN	IS	LIKE	MATCH	NOT	NULL	ONLY
OR	OVERLAPS	SIMILAR	SOME	TABLE	TRUE	TYPE	UNIQUE
UNKNOWN							

組込みデータ型の名前は、ユーザー定義タイプの名前(例えば、CHAR)として使用することはできません。

ユーザーの処置:

システム用に予約されていない関数またはユーザー定義タイプの名前を選択してください。

SQL code: -457

Database: DB2 for z/OS

DSQ17461 • DSQ17478

DSQ17461 データ・タイプ &V1 の値はデータ・タイプ &V2 にキャストできません。

説明:

以下の組み合わせはサポートされていません。

- データ・タイプ &V1 の値をデータ・タイプ &V2 にキャストする。
- 複数のコード化スキームを参照するステートメントにフィールド・プロシージャを持つストリング値をキャストする。

ユーザーの処置:

明示的キャストが指定された場合、CAST の指定を訂正して、ソース・タイプおよびターゲット・タイプのサポートされている組み合わせを指定してください。

SQL code: -461

Database: DB2 for z/OS

DSQ17463 外部ルーチン &V1 が無効な **SQLSTATE** &V2 を返しました。

説明:

ユーザー定義関数またはストアード・プロシージャが戻すことができる有効な **SQLSTATE** は、38xxx (エラー)、38502 (エラー) および 01Hxx (警告) です。ユーザー定義関数またはストアード・プロシージャのルーチン名が、無効な **SQLSTATE** をメッセージ・テキストとともに返しました。ユーザー定義関数またはストアード・プロシージャはエラーの状態です。

ステートメントは実行できませんでした。

次の **SQLSTATE** が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

ユーザー定義の関数またはストアード・プロシージャを訂正する必要があります。データベース管理者または関数の作成者に連絡して、警告の意味を確認してください。呼び出し中のアプリケーションの不正 **SQLSTATE** の意味は、関数の作成者に確認できる可能性があります。

SQL code: -463

Database: DB2 for z/OS

DSQ17471 理由 &V2 により、関数またはプロシージャ &V1 の呼び出しに失敗しました。

説明: 126 ページの『DSQ15471』を参照してください。

SQL code: -471

Database: DB2 for z/OS

172 DB2 QMF メッセージおよびコード

DSQ17478 ステートメントは、オブジェクト従属関係のため実行できません。

説明:

ALTER、DROP、または REVOKE ステートメントは、別のオブジェクトが従属関係を持っている間はオブジェクトを除去できません。

オブジェクト名 (または、既知であればそのタイプ):
&V1

従属オブジェクトおよびタイプ (既知の場合) は以下のとおりです。

&V2.
&V3.

従属関係が発生する可能性がある例としては、以下のような状態があります。

ALTER または **DROP** ステートメント

オブジェクト・タイプが **FUNCTION** の場合、以下のいずれかの記述が当てはまる場合にはオブジェクトは除去されません。

- 行の許可または列マスクがこの関数を参照している。
- 除去しようとしているその関数を別の関数が使用している。
- その関数を使用している視点がある。
- その関数を使用しているトリガー・パッケージがある。
- チェック制約またはユーザー定義のデフォルトにおいて、表が関数を使用している。
- マテリアライズ照会表定義がこの関数を使用している。

オブジェクト・タイプが **DISTINCT TYPE** の場合、以下のいずれかの記述が当てはまる場合にはオブジェクトは除去されません。

- 関数のパラメーターまたは **SQL** 変数が、この特殊タイプとして定義されている。
- 表の列が、この特殊タイプとして定義されている。
- プロシージャのパラメーターまたは **SQL** 変数が、この特殊タイプとして定義されている。
- この特殊タイプにデータ・タイプとしてシーケンスが定義されている。

オブジェクト・タイプが **ALIAS** の場合、以下の記述が当てはまる場合にはオブジェクトは除去されません。

- 行の許可または列マスクがこの別名を参照している。

オブジェクト・タイプが SYNONYM の場合、以下の記述が当てはまる場合にはオブジェクトは除去されません。

- 行の許可または列マスクがこのシノニムを参照している。

オブジェクト・タイプが TABLE の場合、以下のいずれかの記述が当てはまる場合にはオブジェクトは除去されません。

- 行の許可または列マスクがこの表を参照している。
- この表が、システム期間テンポラル表の履歴表である。履歴表が含まれているデータベースまたは表スペースを除去しようとする場合も、このエラーが発生します。
- この表は、アーカイブ可能表のアーカイブ表です。アーカイブ表が含まれている表スペースまたはデータベースを除去しようとする場合も、このエラーが発生します。

オブジェクト・タイプが COLUMN の場合、以下のいずれかの記述が当てはまる場合にはオブジェクトは除去されません。

- 索引がこの列を参照する。
- ユニーク制約がこの列を参照する。
- 視点が直接または間接にこの列を参照する。
- 参照制約が外部キーとしてこの列を参照する。

オブジェクト・タイプが VIEW の場合、以下の記述が当てはまる場合にはオブジェクトは除去されません。

- 行の許可または列マスクがこの視点を参照している。

オブジェクトが大域変数である場合、以下のいずれかの記述が当てはまる場合にはオブジェクトは除去されません。

- SQL 関数がこのグローバル変数を参照している。
- 視点がこのグローバル変数を参照している。
- トリガーがこのグローバル変数を参照している。

REVOKE ステートメント

オブジェクト・タイプが FUNCTION の場合、以下のいずれかの記述が当てはまる場合には

は、オブジェクトは REVOKE ステートメントによりデータベースから除去されることはありません。

- 取り消される側が所有する関数が、この関数をソースとしている。
- この関数を使用する、除去対象が所有する視点がある。
- この関数を使用する、除去対象が所有するトリガー・パッケージがある。
- チェック制約またはユーザー定義のデフォルトにおいて、表がこの関数を使用している。
- この関数を使用する、除去対象が所有する索引がある。
- 取り消される側が所有するマテリアライズ照会表が、この定義での関数を使用している。

オブジェクト・タイプが DISTINCT TYPE の場合、以下のいずれかの記述が当てはまる場合には、オブジェクトは REVOKE ステートメントによりデータベースから除去されることはありません。

- 取り消される側が所有する関数のパラメーターまたは SQL 変数が、この特殊タイプとして定義されている。
- 取り消される側が所有するプロシーチャーのパラメーターまたは SQL 変数が、この特殊タイプとして定義されている。
- 取り消される側が所有する表の列が、この特殊タイプとして定義されている。
- 取り消される側が所有するシーケンスが、この特殊タイプを使用してデータ・タイプとして定義されている。

オブジェクト・タイプが PROCEDURE の場合、以下の記述が当てはまる場合には、オブジェクトは REVOKE ステートメントによりデータベースから除去されることはありません。

- 取り消される側が所有するトリガー定義に、このストアード・プロシーチャーの名前を持つ CALL ステートメントが含まれている。

オブジェクトが大域変数である場合、以下のいずれかの記述が当てはまる場合には、オブジェクトは REVOKE ステートメントによりデータベースから除去されることはありません。

- 取り消される側が所有する関数がこのグローバル変数を参照している。
- 取り消される側が所有する視点がこのグローバル変数を参照している。

- 取り消される側が所有するトリガーがこのグローバル変数を参照している。

さらに、SYSADM 権限が取り消される場合、カスケード REVOKE プロセスで、REVOKE ステートメントが正常に処理されるのを妨げる従属関係が見つかる場合があります。これには例えば、プロシージャがトリガーに関連付けられている場合の、そのプロシージャの権限取り消し試行などがあります。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

オブジェクトをデータベースから除去する前に、そのオブジェクトのすべての従属オブジェクトを除去してください。

SQL code: -478

Database: DB2 for z/OS

DSQ17480 プロシージャ &V1 はまだ呼び出されていません。

説明:

DESCRIBE PROCEDURE または ASSOCIATE LOCATORS ステートメントに示された手順がアプリケーション・プロセスで呼び出されていないか、手順は呼び出されたが、明示的または暗黙的なコミットがステートメントの前に行われました。

ステートメントは実行できませんでした。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

ステートメントを訂正し、CALL ステートメントでプロシージャ名を指定するために使用される正確な構文が、ASSOCIATE LOCATOR および/または DESCRIBE PROCEDURE 上の構文と同じになります。手順の呼び出しに非修飾名が使用されている場合は、1 部分名が別のステートメントでも使用される必要があります。CALL ステートメントが 3 部構成名を使用して作成されていて、現行サーバーがその 3 部構成名内のロケーションと同じである場合、ASSOCIATE LOCATOR または DESCRIBE プロシージャはロケーションを省略できます。ステートメントを再実行してください。

SQL code: -480

Database: DB2 for z/OS

DSQ17481 GROUP BY 文節が、&V2 内でネストされた &V1 を含んでいます。

説明:

次のタイプのネストは、GROUP BY 文節内では許されません。

```
CUBE          within CUBE, ROLLUP or GEL
ROLLUP       within CUBE, ROLLUP or GEL
()           within CUBE, ROLLUP or GEL
GROUPING SET within CUBE, ROLLUP, GROUPING SET or GEL
```

GEL は、グループ化式リスト (GROUP BY 文節の構文図に示されるエレメント) を表します。詳しくは、「SQL 解説書」マニュアルを参照してください。

ユーザーの処置:

GROUP BY 文節を変更して、ネストを除去し、照会を再実行してください。

SQL code: -481

Database: DB2 for z/OS

DSQ17482 プロシージャ &V1 がロケータを返しませんでした。

説明:

ASSOCIATE LOCATORS ステートメントに示された手順が、結果セット・ロケータを戻しませんでした。

ステートメントは実行できませんでした。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

DESCRIBE PROCEDURE ステートメントを使用して、示されたプロシージャから結果セット・ロケータが戻されるかどうか判別してください。

SQL code: -482

Database: DB2 for z/OS

DSQ17487 関数/プロシージャの定義で &V1 &V2 の SQL 試行が指定されませんでした。

説明:

ユーザー定義の関数またはストアード・プロシージャ &V2 が呼び出され、SQL ステートメントを実行しようとしたが、その関数またはプロシージャは NO SQL オプションを指定して作成されたものです。

ネストされた関数および手順の環境では、SQL オプションが、指定された中で最も限定的なオプションです。SQL データ・アクセス・オプションはデータの変更を許可していません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST

ユーザーの処置:

ALTER ステートメントを使用して SQL ステートメントを許可するように関数または手順の定義を変更するか、外部関数または手順から障害のある SQL ステートメントを削除してください。

SQL code: -487

Database: DB2 for z/OS

DSQ17495 この照会を行うと、DB2 のコストの見積りの制限を超えます。

説明: 126 ページの『DSQ15495』を参照してください。

SQL code: -495

Database: DB2 for z/OS

DSQ17496 SQL ステートメントを実行できません。

説明:

現行サーバーが、ストアード・プロシージャを呼び出したサーバーと異なるため、SQL ステートメントを実行できません。SQL ステートメントは、以下のステートメントにすることができます。

- ALLOCATE CURSOR
- DESCRIBE CURSOR
- FETCH (割り当てカーソルを使用)
- CLOSE (割り当てカーソルを使用)

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

失敗した SQL ステートメントを実行する前に、結果セットを作成したストアード・プロシージャを呼び出したサーバーに接続してください。

SQL code: -496

Database: DB2 for z/OS

DSQ17499 カーソル &V1 はすでに割り当て済みです。

説明:

SQL ステートメント ALLOCATE CURSOR を使用して、カーソルを結果セットに割り当てようとしていました。以下のいずれかが該当します。

- ALLOCATE CURSOR ステートメントに指定された結果セット・ロケータ変数は、以前にカーソルのカーソル名に割り当てられたものです。

- ALLOCATE CURSOR ステートメントに指定されたカーソル &V1 は、以前にストアード・プロシージャの procedure-name の結果セットに割り当てられたものです。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

ALLOCATE CURSOR ステートメントで指定されたターゲット結果セットが、以前にカーソルに割り当てられたものかどうか判別してください。

結果セットが以前にカーソル &V1 に割り当てられていた場合は、別のターゲット結果セットを選択するか、ストアード・プロシージャの procedure-name を再度呼び出して、ASSOCIATE LOCATOR および ALLOCATE CURSOR ステートメントを再発行してください。

結果セットが以前にカーソルに割り当てられていなかった場合、ALLOCATE CURSOR ステートメントに指定されたカーソル &V1 は、以前にストアード・プロシージャの procedure-name の結果セットに割り当てられたものです。カーソルのカーソル名は別の結果セットに割り当てることができないため、ALLOCATE CURSOR ステートメントに別のカーソル名を指定する必要があります。

ステートメントを訂正し、CALL ステートメントでプロシージャ名を指定するために使用される正確な構文が、ASSOCIATE LOCATOR および/または DESCRIBE PROCEDURE 上の構文と同じになります。手順の呼び出しに非修飾名が使用されている場合は、1 部分名が別のステートメントでも使用される必要があります。CALL ステートメントが 3 部構成名を使用して作成されていて、現行サーバーがその 3 部構成名内のロケーションと同じである場合、ASSOCIATE LOCATOR または DESCRIBE プロシージャはロケーションを省略できます。

SQL code: -499

Database: DB2 for z/OS

DSQ17504 カーソル名 &V1 は定義されていません。

説明:

カーソル &V1 が SQL ステートメントで参照されました。次のいずれかの状況が生じています。

- カーソル &V1 が、参照される前に、アプリケーション・プログラムで (DECLARE CURSOR ステートメントを使用して) 宣言されていないか、または (ALLOCATE CURSOR ステートメントを使用して) 割り当てられていません。

DSQ17512 • DSQ17528

- カーソル &V1 が、位置指定 UPDATE または DELETE ステートメントで参照されました。これは割り当てカーソルではサポートされない操作です。
- カーソル &V1 が割り当てられましたが、このカーソル参照の前に、cursor-name を指定する CLOSE カーソル・ステートメントが発行され、カーソルが割り当て解除されました。
- カーソル &V1 が割り当てられましたが、このカーソル参照の前に、ROLLBACK 操作が発生し、カーソルが割り当て解除されました。
- カーソル &V1 が割り当てられましたが、ストアード・プロシージャで宣言されたその関連カーソルが WITH HOLD を宣言されていません。このカーソル参照の前に COMMIT 操作が発生し、カーソルが割り当て解除されました。 COMMIT 操作は、明示的 (COMMIT ステートメント) または暗黙的 (このカーソル参照の前に呼び出される COMMIT_ON_RETURN = 「Y」として定義されるストアード・プロシージャ) のいずれかです。
- カーソル &V1 が割り当てられましたが、それに関連するストアード・プロシージャが再度呼び出されました。カーソルが割り振られたため、新しい結果セットが戻され、カーソルのカーソル名が割り振り解除されました。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

アプリケーション・プログラムが完了していることを確認し、カーソルの宣言または割り振りでスペルの誤りがないかを調べてください。カーソルの宣言または割り振りは、カーソルを参照する SQL ステートメントの前で、アプリケーション・プログラムに現れなければなりません。

&V1 が <UNKNOWN> の場合、カーソルの cursor-name が正常に宣言されていないか、または割り当てられていません。これは SQL(DB2) が使用され、プリコンパイル中に警告メッセージが発行された場合に発生する可能性があります。プリコンパイル出力を調べて、CURSOR ステートメントや ALLOCATE CURSOR ステートメントに関する警告メッセージを確認し、ステートメントを訂正してください。

割り当て済みカーソルの場合、カーソルが正常に割り当てられたあと、暗黙的または明示的な COMMIT、ROLLBACK、または CLOSE が実行された場合は、アプリケーション・プログラムのロジックを変更して以下のいずれかを実行してください。

- コミット、ロールバック、またはクローズ操作の後に、関連するストアード・プロシージャを再度呼び

出して、ASSOCIATE LOCATORS および ALLOCATE CURSOR ステートメントを再発行してください。

- COMMIT の場合は、ストアード・プロシージャにおける関連カーソルを WITH HOLD として宣言し、コミット操作でカーソルが割り振り解除されないようにします。

関連ストアード・プロシージャが再度呼び出されて新規結果セットが割り当て済みカーソルについて返された場合は、ASSOCIATE LOCATORS ステートメントおよび ALLOCATE CURSOR ステートメントを再発行してください。

SQL code: -504

Database: DB2 for z/OS

DSQ17512 照会内にリモート・オブジェクトへの無効な参照があります。

説明: 127 ページの『DSQ15512』を参照してください。

SQL code: -512

Database: DB2 for z/OS

DSQ17513 別名 &V1 は他のローカルリモートの別名として定義できません。

説明: 127 ページの『DSQ15513』を参照してください。

SQL code: -513

Database: DB2 for z/OS

DSQ17528 表 &V1 にはすでにユニーク制約がありません。

説明:

ユニーク制約を重複させることはできません。

CREATE TABLE ステートメントの場合、UNIQUE 文節では PRIMARY KEY 文節や他の UNIQUE 文節と同じ列リストが使用されます。

ALTER TABLE ステートメントの場合、UNIQUE 文節は同じ列リストを PRIMARY KEY、またはその表にすでに存在する UNIQUE 制約として使用します。

"&V2" は SQL ステートメント内の CONSTRAINT 名か、または 3 つのピリオドの続いている UNIQUE 文節の列リストに指定された最初の名前のいずれかです。

ユーザーの処置:

重複した UNIQUE 文節を除去するか、または列リスト

をユニーク制約の一部になっていない一連の列に変更してください。

SQL code: -528

Database: DB2 for z/OS

DSQ17530 外部キーの値が無効です。

説明: 51 ページの『DSQ10930』を参照してください。

SQL code: -530

Database: DB2 for z/OS

DSQ17531 親行の主キー &V1 は更新できません。

説明: 127 ページの『DSQ15531』を参照してください。

SQL code: -531

Database: DB2 for z/OS

DSQ17532 **RESTRICT** 削除規則のため、行は削除できません。

説明: 128 ページの『DSQ15532』を参照してください。

SQL code: -532

Database: DB2 for z/OS

DSQ17533 自己参照表には複数行を挿入できません。

説明:

副選択での挿入操作で、自己参照表に複数の行を挿入しようとした。挿入操作の副選択から返されるデータ行は 1 行のみでなければなりません。

ユーザーの処置:

副選択の探索条件が、データ行を 1 行だけ返していることを確認してください。

SQL code: -533

Database: DB2 for z/OS

DSQ17534 複数行の主キーまたはユニーク制約を更新できません。(Cannot update a primary key or unique constraint in multiple rows.)

説明: 82 ページの『DSQ12734』を参照してください。

SQL code: -534

Database: DB2 for z/OS

DSQ17536 **DELETE** ステートメントは、表 &V1 が影響を受ける可能性があるため無効です。

説明:

DELETE 操作が表 &V1 に対し試みられましたが、この表は副照会で参照されています。ただし、この表は削除操作のオブジェクト表の下位表であり、RESTRICT の削除ルールによる変更から保護されていないため、削除は行えません。

ユーザーの処置:

表がそのステートメントによって影響を受ける可能性がある場合は、DELETE ステートメントの副照会で指定されている表を参照しないでください。

SQL code: -536

Database: DB2 for z/OS

DSQ17537 列名 &V1 を複数回使用しました。

説明:

主キー、外部キー、またはユニーク制約に、重複する列名を組み込むことはできません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

固有の列名を指定するように、ステートメントを修正してください。

SQL code: -537

Database: DB2 for z/OS

DSQ17538 外部キー &V1 は、表 &V2. の主キーの記述と一致しません。

説明:

示された外部キーの定義は、以下のいずれかの理由で、示された表の親キーの記述に準拠していません。

- 参照された親キーが、主キーまたは固有キーとして定義されていない。
- &V1 によって識別される外部キーに、表 &V2 の主キーと同じ数の列がない。
- これらのキーの記述が同一でない。記述が同一であるためには、データ・タイプ、長さ属性、およびフィールド・プロシージャが一致していなければなりません。

ユーザーの処置:

外部キーの記述が指定された表の主キーの記述と一致するように、FOREIGN KEY 文節を訂正してください。

SQL code: -538

DSQ17539 • DSQ17546

Database: DB2 for z/OS

DSQ17539 表 &V1 には主キーがありません。

説明:

指定された表に基本キーがないため、DB2 は CREATE または ALTER TABLE ステートメントを実行できません。このため、主キーは除去できませんし、表は参照制約で親として定義できません。

ユーザーの処置:

ステートメントを、主キーのある表を参照するように修正するか、FOREIGN KEY 文節内の表を参照する前に ALTER TABLE ADD PRIMARY KEY により主キーを定義してください。

SQL code: -539

Database: DB2 for z/OS

DSQ17540 表 &V1 には、主キーまたは ROWID の基本索引がありません。

説明: 128 ページの『DSQ15540』を参照してください。

SQL code: -540

Database: DB2 for z/OS

DSQ17541 外部キー &V1 は重複した参照制約であるため、無効です。

説明: 83 ページの『DSQ12741』を参照してください。

SQL code: -541

Database: DB2 for z/OS

DSQ17542 &V1 は主キーまたは固有制約の列にはできません。

説明: 83 ページの『DSQ12742』を参照してください。

SQL code: -542

Database: DB2 for z/OS

DSQ17544 検査制約を追加できません。

説明:

チェック制約を追加できません。この制約に違反する行が表に含まれているためです。表に含まれる少なくとも 1 つの既存行が、ALTER TABLE ステートメントで追加されようとしているチェック制約に違反しています。

ユーザーの処置:

ALTER TABLE ステートメントに指定されている検査制約定義と表のデータを調べて、ALTER TABLE ステートメントが拒否された理由を判別してください。

SQL code: -544

Database: DB2 for z/OS

DSQ17545 行が検査制約 &V1 に合っていないので、演算子は許可されません。

説明:

検査制約違反が、INSERT または UPDATE ステートメントで起きました。結果の行が、表のチェック制約定義に違反しました。

ユーザーの処置:

データおよび検査制約定義を調べて、INSERT または UPDATE ステートメントが拒否された理由を判別してください。検査制約に合うように、データを変更してください。検査制約定義は、SYSIBM.SYSCHECKS カタログ表に含まれています。

SQL code: -545

Database: DB2 for z/OS

DSQ17546 &V1 という名前のチェック制約は無効です。

説明:

CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメント内の &V1 という名前の表チェック制約が無効です。次のいずれか 1 つ以上の理由で、制約定義が無効である可能性があります。

- フィールド・プロシージャが定義されている列を参照している。
- 数値データ・タイプの階層において他のいずれのオペランドのデータ・タイプよりも低いデータ・タイプを持つ列が参照されている。階層は次のようになります: 短精度整数 < 長精度整数 < Big Integer < 10 進数 < 単精度浮動小数点 < 倍精度浮動小数点。
- 他の列オペランドと同じ数値タイプではない数値データ・タイプを持つ列を参照している。
- 他のオペランドよりも幅が狭い列を参照している (その列および他のオペランドが文字ストリング・データ・タイプではない場合)。
- XML データを含む列を参照している。
- 10 進浮動小数点データを含む列を参照している。
- XMLQUERY または XMLEXISTS 式を含んでいる。
- 副照会が含まれている。

- 列関数を参照している。
- 特殊レジスターを参照している。
- 同じ表にない列を参照している。
- 大域変数を参照している。
- 制約定義で EBCDIC 表のバイナリー・ユニコード列が参照されている。

チェック制約定義には、追加の制約が存在する可能性があります。CREATE TABLE ステートメントについて、およびチェック制約の定義について詳しくは、「DB2 SQL 解説書」を参照してください。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

チェック制約定義を訂正して、照会を再実行してください。

SQL code: -546

Database: DB2 for z/OS

DSQ17548 チェック制約が無効です。

説明:

&V1 で定義されている CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントのチェック制約は、以下のうち 1 つ以上の理由で無効です。

- フィールド・プロシージャが定義されている列を参照している。
- 数値データ・タイプの階層において他のいずれのオペランドのデータ・タイプよりも低いデータ・タイプを持つ列が参照されている。階層は次のようになります: 短精度整数 < 長精度整数 < Big Integer < 10 進数 < 単精度浮動小数点 < 倍精度浮動小数点。
- 他の列オペランドと同じ数値タイプではない数値データ・タイプを持つ列を参照している。
- 他のオペランドよりも幅が狭い列を参照している (その列および他のオペランドが文字ストリング・データ・タイプではない場合)。
- XML データを含む列を参照している。
- 10 進浮動小数点データを含む列を参照している。
- XMLQUERY または XMLEXISTS 式を含んでいる。
- 副照会が含まれている。
- 列関数を参照している。
- 特殊レジスターを参照している。
- 同じ表にない列を参照している。
- 大域変数を参照している。
- 制約定義で EBCDIC 表のバイナリー・ユニコード列が参照されている。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

チェック制約定義を訂正して、照会を再実行してください。

SQL code: -548

Database: DB2 for z/OS

DSQ17551 &V3 が存在しないか、または必要な権限がありません。

説明:

この問題は以下の場合に発生する可能性があります。

- &V3 が存在しないか、読み取り専用である。
- XML タイプ修飾子に XML スキーマが 2 度以上指定されている。
- ユーザー ID (&V1) に、指定のオブジェクトに対して発行したコマンドを使用するのに必要な &V2 特権がない。ユーザーが所有していないオブジェクトに対してさまざまな操作を行うには、以下のようにさまざまな権限または特権が必要です。
 - ユーザーが所有していない表または視点に対して SELECT ステートメントを発行するには、SELECT 特権が必要です。
 - ユーザーが所有していない表または視点に対して挿入、更新、削除、または変更操作を行うには、INSERT、UPDATE、DELETE、または ALTER 特権が必要です。索引を作成するには、INDEX 特権が必要です。
 - ユーザーが所有していない表または視点に対して特権を付与するには、(WITH GRANT OPTION 節を使用して発行された) GRANT 権限が必要です。
 - 外部キー操作を行うか、または DROP FOREIGN KEY、DROP PRIMARY KEY、または DROP UNIQUE ステートメントを発行するには、表または視点に ALTER 特権が必要です。この場合、&V3 は、作成または変更される表の名前であり、&V1 が ALTER 特権を持たない表の名前ではないことに注意してください。
 - データベースで表を作成、データを保存、またはスペースを予約するには、特定の権限が必要です。
- CREATE ステートメントが OR REPLACE 文節とともに指定される場合、ユーザーは置換対象オブジェクトの所有者でなければなりません。SECADM 権限を持つユーザー ID であれば、TRANSFER OWNERSHIP ステートメントを発行して、オブジェクトの所有権を譲渡できます。

DSQ17552 • DSQ17558

ユーザーの処置:

コマンドが正しいオブジェクト名を参照していることを確認してください。作業中の表に XML 列が含まれている場合は、XML 列を変更して、そのタイプ修飾子から XML スキーマを削除してください。 &V1 ユーザー ID に、必要な権限または特権がない場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -551

Database: DB2 for z/OS

DSQ17552 指定されたオブジェクトが存在しないか、必要な権限がありません。

説明: 84 ページの『DSQ12751』を参照してください。

SQL code: -552

Database: DB2 for z/OS

DSQ17553 &V1 は、有効な許可 ID ではありません。

説明:

SET CURRENT SQLID に指定された許可 ID は、1 次許可 ID でもなく、2 次許可 ID のいずれでもありません。

ユーザーの処置:

ステートメントに指定された許可 ID を訂正するか、または QMF 管理者に連絡し指定された許可 ID をユーザー用に定義するように依頼してください。

SQL code: -553

Database: DB2 for z/OS

DSQ17554 自分自身に対して特権を付与することはできません。

説明:

特権は、所定の権限を持つユーザーが別のユーザーに対してのみ付与できます。ただし、SQLRULES(STD) が有効であるか、または CURRENT RULES に STD が含まれている場合は、自分自身への GRANT が可能です。

ユーザーの処置:

特権の追加付与を受けたい場合は、QMF 管理者に連絡してください。

SQL code: -554

Database: DB2 for z/OS

DSQ17555 自分自身が保有している特権を取り消すことはできません。

説明: 84 ページの『DSQ12755』を参照してください。

SQL code: -555

Database: DB2 for z/OS

DSQ17556 この特権を &V1 から取り消すことはできません。

説明: 85 ページの『DSQ12756』を参照してください。

SQL code: -556

Database: DB2 for z/OS

DSQ17557 キーワード &V3&V1 はこの用法では無効です。

説明:

エラーの原因は、次のいずれかが考えられます。

1. スペルの誤りがあるか、キーワードの順序に誤りがある。
2. 指定した特権の混用は許されない。特権はすべて同じタイプのものでなければなりません。
3. REVOKE UPDATE (列リスト) が指定された。列リストが指定できるのは、GRANT UPDATE だけで REVOKE は許されません。

次の行には、ここまでの文脈から見て、&V3 の代わりに使用できそうなキーワードをいくつか示してあります。 &V4

ユーザーの処置:

照会を訂正し再実行してください。

SQL code: -557

Database: DB2 for z/OS

DSQ17558 GRANT または REVOKE での "AT ALL LOCATIONS" 指定は無効です。

説明:

GRANT または REVOKE で指定されたロケーション修飾子は無効です。表に対する特権 (SELECT、INSERT、UPDATE など) で ALTER と INDEX を除いたものだけが、ほかのサブシステムのユーザー ID に対して付与できます。

ユーザーの処置:

GRANT、REVOKE ステートメントの有効なキーワード

の詳細は DB2 SQL REFERENCE を参照してください。

SQL code: -558

Database: DB2 for z/OS

DSQ17559 この時点では **GRANT** および **REVOKE** の実行はできません。

説明:

システムの許可部分が一時的に使用不可になっています。 **GRANT** および **REVOKE** 照会の実行はできません。

ユーザーの処置:

システムの許可部分を実行されている時点で、照会を再実行してください。詳細は QMF 管理者に問い合わせてください。

SQL code: -559

Database: DB2 for z/OS

DSQ17571 **READ-ONLY** の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: 34 ページの『DSQ10425』を参照してください。

SQL code: -571

Database: DB2 for z/OS

DSQ17574 デフォルト値が列定義と対立しています。

説明:

USER、**CURRENT SQLID**、または定数値が列のデフォルト値として指定されましたが、ターゲット列の長さが短すぎるか、またはそのデータ・タイプが互換性がないかのいずれかです。

ユーザーの処置:

ステートメントを変更して、デフォルト値が列定義に合うようにしてください。

SQL code: -574

Database: DB2 for z/OS

DSQ17577 関数/プロシージャの定義で **&V1** と **&V2** の変更が指定されませんでした。

説明:

現行環境は、データを変更する SQL ステートメントを許可していません。

次のいずれかの状態が発生しました。

- ユーザー定義の関数またはストアド・プロシージャ **&V2** が呼び出され、データの変更または実行を試みましたが、その関数またはプロシージャは **MODIFIES SQL** オプションを指定せずに定義されたものです。
- **READS SQL DATA**、**CONTAINS SQL**、または **NO SQL** を指定して定義された関数または手順が、**MODIFIES SQL DATA** を指定して定義された別の関数または手順を呼び出そうとしました。

ネストされた関数および手順の環境では、SQL オプションが、指定された中で最も限定的なオプションです。SQL データ・アクセス・オプションはデータの変更を許可していません。

SQL ステートメントが失敗しました。

次の **SQLSTATE** が返されました: **&DSQSQLST**。

ユーザーの処置:

ALTER ステートメントを使用して関数または手順の定義を変更し、データを変更するステートメントを許可するか、外部関数または手順から障害のある SQL ステートメントを削除してください。

SQL code: -577

Database: DB2 for z/OS

DSQ17579 関数/プロシージャの定義で **&V1** と **&V2** のデータ読み取りが指定されませんでした。

説明:

現行環境は、データを読み取る SQL ステートメントを許可していません。

次のいずれかの状態が発生しました。

- ユーザー定義関数またはストアド・プロシージャ **&V2** が呼び出されました。その関数またはプロシージャは、データを読み取ろうとしましたが、**READS SQL DATA** または **MODIFIES SQL DATA** オプションなしで定義されていました。
- **CONTAINS SQL** または **NO SQL** を指定して定義された関数またはプロシージャが、**READS SQL DATA** を指定して定義された別の関数またはプロシージャを呼び出そうとしました。

ネストされた関数および手順の環境では、SQL オプションが、指定された中で最も限定的なオプションです。SQL データ・アクセス・オプションはデータの読み取りを許可していません。

SQL ステートメントが失敗しました。

DSQ17580 • DSQ17592

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

ALTER ステートメントを使用して関数または手順の定義を変更し、データを読み取るステートメントを許可するか、外部関数または手順から障害のある SQL ステートメントを削除してください。

SQL code: -579

Database: DB2 for z/OS

DSQ17580 CASE 式の結果式をすべて NULL にすることはできません。

説明:

すべての結果式にキーワード NULL を持つ CASE 式がステートメントにあります。

ユーザーの処置:

CASE 式を変更して、NULL 以外のキーワードを持つ少なくとも 1 つの結果式を含めて、照会を再度実行してください。

SQL code: -580

Database: DB2 for z/OS

DSQ17581 CASE 式の結果式のデータ・タイプが互換性がありません。

説明:

互換性のない結果式を持つ CASE 式がステートメントにあります。それらの結果式は、CASE 条件における結果データ・タイプがすべて以下のタイプではないために、互換性がない可能性があります。

- 文字
- 図形
- 数値
- 日付
- 時刻
- タイム・スタンプ
- バイナリー・ストリング
- ユーザー定義タイプ

CASE 式にある結果式のデータ・タイプは一致している必要があります。例えば、1 つのインスタンスで文字データを使用する場合、すべてのデータ・タイプが文字でなければなりません。

ただし、ユニコードでエンコードが行われる場合、文字データ・タイプと図形データ・タイプは互換です。

ユーザー定義配列タイプの配列値は、同じユーザー定義配列タイプとして定義されている配列変数にのみ割り当てることができます。ユーザー定義配列タイプではない配列値を配列変数に割り当てるためのルールは、その割り当てを指定するステートメントによって異なります。ユニコードおよびユーザー定義の配列タイプについては、「DB2 SQL 解説書」を参照してください。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

結果式を訂正して互換性を持つようにし、照会を再実行してください。

SQL code: -581

Database: DB2 for z/OS

DSQ17582 SEARCH-WHEN-CLAUSE の検索条件が無効です。

説明:

SEARCH-WHEN-CLAUSE の検索条件で、許可されていない比較述部、IN 述部、または EXISTS 述部が指定されています。

ユーザーの処置:

検索条件を訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -582

Database: DB2 for z/OS

DSQ17592 WLM 環境 &V1 で関数/プロシージャの作成が許可されていません。

説明:

このメッセージは以下の場合に発行されます。

- &V1 トークンの値が「NO WLM ENVIRONMENT」であり、DB2 管理ストアード・プロシージャのアドレス・スペースに対する権限検査に失敗しました。これは CREATE PROCEDURE または ALTER PROCEDURE ステートメントで NO WLM ENVIRONMENT 文節が指定されていたためです。
- DB2 管理ストアード・プロシージャ・アドレス・スペースがありません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

エラーを訂正するには、以下のいずれかを行ってください。

- &V1 トークンの値が「NO WLM ENVIRONMENT」の場合は、WLM

ENVIRONMENT キーワードに別の値を選択するか、指定された WLM ENVIRONMENT にオブジェクトを作成する許可をシステム管理者に要求します。

- DB2 管理のストアード・プロシージャ・アドレス・スペースがない場合は、作成するように要求し、このリソースへのアクセスが可能になるように RACF PERMIT の完了を要求します。

SQL ステートメントを再発行してください。

SQL code: -592

Database: DB2 for z/OS

DSQ17593 NOT NULL を列 &V1 に指定する必要があります。

説明:

ソース・タイプが ROWID である ROWID 列および特殊タイプ列は、行変更タイム・スタンプ列と同様に、NULL 値をサポートしていません。ROWID 列 (またはソース・タイプが ROWID である特殊タイプ) が CREATE TABLE、ALTER TABLE、または DECLARE TABLE ステートメントで定義される時は、その列に NOT NULL 文節が指定されなければなりません。行変更タイム・スタンプ列が CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントに定義されている場合、その列に NOT NULL 文節を指定する必要があります。

ユーザーの処置:

ステートメントを変更して、列 &V1 に NOT NULL を指定してください。

SQL code: -593

Database: DB2 for z/OS

DSQ17601 &V1 は既存の &V2. の名前です。

説明:

&V1 という名前のオブジェクトを作成またはリネームしようとしたが、その名前の &V2 がすでに存在します。

- オブジェクト・タイプが CONSTRAINT で、CREATE か ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節、CHECK 文節、PRIMARY KEY 文節、または UNIQUE 文節で &V1 が指定されている場合、表で定義されているすべての参照整合性および検査定数は固有である必要があります。
- オブジェクト・タイプが表 / 視点の場合、別名作成ステートメントで指定されている別名は、指定されている表名 / 視点名と同一です。表名 / ビューは、DB2 サブシステム内にはない場合があります。

ユーザーの処置:

照会の実行前に &V2 &V1 を除去するかまたは &V1 に別の名前を指定してください。

SQL code: -601

Database: DB2 for z/OS

DSQ17602 CREATE INDEX または PRIMARY KEY ステートメントに指定された列が多すぎます。

説明: 88 ページの『DSQ12817』を参照してください。

SQL code: -602

Database: DB2 for z/OS

DSQ17603 固有索引列に重複する値が含まれています。

説明:

固有索引の作成を指定した列に、重複する値を持った行がすでにあるため、固有索引を作成することができません。VARCHAR または VARGRAPHIC のタイプの列であれば 2 つの列の違いは後ろのブランクの数だけで、重複することになります。

ユーザーの処置:

重複値を含む列が参照されることがないように、CREATE ステートメントを変更するか、または表から重複値が含まれている行を削除してください。

SQL code: -603

Database: DB2 for z/OS

DSQ17604 列定義が無効です。

説明: 86 ページの『DSQ12804』を参照してください。

SQL code: -604

Database: DB2 for z/OS

DSQ17607 操作またはオプション &V1 はこのオブジェクトに対して定義されていません。

説明: 128 ページの『DSQ15607』を参照してください。

SQL code: -607

Database: DB2 for z/OS

DSQ17612 • DSQ17622

DSQ17612 列名 &V1 が 2 回使われています。

説明: 87 ページの『DSQ12812』を参照してください。

SQL code: -612

Database: DB2 for z/OS

DSQ17613 主キーまたはユニーク制約が長すぎるか、列が多すぎます。

説明:

QMF は、データベースから -613 SQL コードが発行されると、このエラー・メッセージを表示します。

ユーザーの処置:

この問題の詳細については、SQL コード -613 の情報を参照してください。この情報は IBM Knowledge Center にあります。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

SQL code: -613

Database: DB2 for z/OS

DSQ17614 選択された列に索引を付けることができません。

説明: 87 ページの『DSQ12814』を参照してください。

SQL code: -614

Database: DB2 for z/OS

DSQ17616 &V2 は除去できません。依存している他のオブジェクトがあります。

説明:

&V2 は除去できません。&V3 が &V4 という名前です。それを参照しているからです。

ユーザーの処置:

&V2 を除去したいのであれば、それに依存しているすべてのオブジェクトを先に除去してください。

SQL code: -616

Database: DB2 for z/OS

DSQ17617 表 &V1 ではタイプ 1 索引を作成できません。

説明:

次の表には、タイプ 1 索引を作成できません。

- 大容量表スペース内の表
- LOCKSIZE ROW を持つ表スペース内の表
- 補助表

また、表の ROWID 列には、タイプ 1 索引を作成できません。

ユーザーの処置:

タイプ 2 として索引を作成するか、または LOCKSIZE ROW が使用されている場合は、表を含む表スペースの LOCKSIZE を ROW 以外の値に更新してください。

SQL code: -617

Database: DB2 for z/OS

DSQ17618 システム・データベースに対しては &V1 はできません。

説明: 129 ページの『DSQ15618』を参照してください。

SQL code: -618

Database: DB2 for z/OS

DSQ17621 DBID &V1 は、以前に &V2 に割り当てられました。

説明:

作成するデータベースに DBID &V1 が割り当てられましたが、この DBID はデータベース &V2 に割り当てられたものと同じです。DB2 カタログと登録簿が整合していません。

ユーザーの処置:

システム・プログラマーに通知してください。非整合を訂正しないと、CREATE DATABASE は正常に機能しません。

SQL code: -621

Database: DB2 for z/OS

DSQ17622 MIXED DATA インストール・オプションが NO であるため、FOR MIXED DATA は無効です。

説明:

FOR MIXED DATA が、列、変数、または SQL パラメーター宣言に指定されていますが、MIXED DATA インストール・オプションは NO に設定されています。FOR MIXED DATA は、MIXED DATA インストール・オプションが YES に設定されている場合にのみ有効です。

ユーザーの処置:

インストール・オプションまたは FOR 文節のいずれかを変更してください。インストール・オプションが正しく NO にセットされている場合、使用できる FOR 文節オプションは、BIT および SBCS です。

SQL code: -622

Database: DB2 for z/OS

DSQ17623 表 &V1 はクラスタ索引を 1 つだけ持つことができます。

説明:

この CREATE INDEX ステートメントを実行すると、表 &V1. の 2 番目のクラスタ索引が作成されます。1 つの表に複数のクラスタ索引があってはなりません。

ユーザーの処置:

既存のクラスタ索引の同一性と妥当性を判別してください。新たな索引を作るのであれば、クラスタ定義のない索引にしてください。

SQL code: -623

Database: DB2 for z/OS

DSQ17624 表 &V1 には、すでに主キーまたは固有キー制約があります。

説明:

表 &V1 にはすでに主キーまたは新しいキーと同じ定義を持つ既存の固有制約があるので、この表に対して主キーまたは固有キー制約を定義できません。

ユーザーの処置:

表を複数の主キーで定義しようとしたり、既存のユニーク制約の定義を複製したユニーク制約を定義しようとしたりしないでください。

SQL code: -624

Database: DB2 for z/OS

DSQ17625 表 &V1 には、主キーまたは固有キーを一意にするための索引がありません。

説明:

ALTER TABLE を使用して表に主キーまたは固有キーを追加する場合、指定された索引に一致する固有な索引が、PRIMARY KEY 文節または UNIQUE KEY 文節にすでに定義されていなければなりません。表 &V1 は、指定された主キーまたは固有キーに対する固有な索引を持っていません。

ユーザーの処置:

ALTER TABLE ステートメントに指定されたキー・リストが、表にすでに定義されている固有な索引を識別していることを確認してください。

SQL code: -625

Database: DB2 for z/OS

DSQ17626 ALTER ステートメントは、ページ・セットが停止していないため、実行できません。

説明:

ALTER ステートメントで BUFFERPOOL、USING、PRIQTY または GBPCACHE 文節を指定しましたが、ページ・セットが停止していません。

ユーザーの処置:

ページ・セットを停止して、再び実行してください。

SQL code: -626

Database: DB2 for z/OS

DSQ17627 索引または表スペースにユーザー管理データ・セットがあるため、ALTER ステートメントは無効です。

説明:

変更しようとしている索引または表スペースにユーザー管理データ・セットがありますが、ALTER ステートメントに PRIQTY、SECQTY、または ERASE 文節が指定されています。これらの文節は、DB2 管理データ・セットにだけ有効です。ユーザー管理データ・セットの 1 次および 2 次スペース割り振りは、ALTER ステートメントでは変更できません。

ユーザーの処置:

正しい索引または表スペースが指定されているかどうか確認してください。

SQL code: -627

Database: DB2 for z/OS

DSQ17628 文節は相互に排他的です。

説明:

相互に排他的な文節が、以下のように指定されました。

- CREATE TABLESPACE ステートメントが、SEGSIZE 文節と NUMPARTS 文節の両方、または SEGSIZE 文節と LARGE 文節の両方、または SEGSIZE 文節と MEMBER CLUSTER 文節の両方を含んでいた。

- CREATE ステートメントまたは ALTER TABLESPACE ステートメントが、LOCKPART YES 文節と LOCKSIZE TABLESPACE 文節の両方を含んでいた。
- SQL ステートメントの列定義部分が、NOT NULL 文節と DEFAULT NULL 文節の両方、または FIELDPROC 文節と DEFAULT 文節の両方を含んでいた。
- SELECT ステートメントが、UPDATE 文節と FOR FETCH ONLY 文節の両方を含んでいた。
- CREATE TRIGGER ステートメントが、OLD、NEW、OLD_TABLE、または NEW_TABLE に複数の相関名を指定した。これらの相関指定は、それぞれ 1 回だけ CREATE TRIGGER ステートメントに指定できます。
- CREATE FUNCTION ステートメントが、CAST FROM 文節と SOURCE 文節の両方、SOURCE 文節と RETURNS TABLE 文節の両方、または SOURCE 文節と、外部関数の定義に使用される文節 (EXTERNAL、LANGUAGE、NO SQL など) の両方を含んでいた。
- CREATE FUNCTION または ALTER FUNCTION ステートメントが SCRATCHPAD または FINAL CALL オプションを指定した。これらのオプションは、関数に LANGUAGE JAVA または PARAMETER STYLE JAVA も指定されている場合は指定してはなりません。
- CREATE FUNCTION、ALTER FUNCTION、CREATE PROCEDURE、または ALTER PROCEDURE ステートメントが、LANGUAGE JAVA、LANGUAGE COMPJAVA、または PARAMETER STYLE JAVA オプションを DBINFO 文節または RUN OPTIONS 文節で指定した。DBINFO 文節または RUN OPTIONS 文節は、これらの場合には指定してはなりません。
- CREATE FUNCTION または ALTER FUNCTION ステートメントが、PARAMETER STYLE JAVA オプションを指定したが、LANGUAGE JAVA オプションが指定されていない。
- CREATE FUNCTION、ALTER FUNCTION、CREATE PROCEDURE、または ALTER PROCEDURE ステートメントが、LANGUAGE JAVA オプションを指定したが、PARAMETER STYLE JAVA オプションが指定されていない。
- CREATE PROCEDURE または ALTER PROCEDURE ステートメントが、PARAMETER STYLE JAVA オプションを指定したが、LANGUAGE COMPJAVA または LANGUAGE JAVA オプションが指定されていない。
- CREATE PROCEDURE または ALTER PROCEDURE ステートメントが、LANGUAGE JAVA オプションを NO WLM ENVIRONMENT と共に指定した。NO WLM ENVIRONMENT は、LANGUAGE JAVA または LANGUAGE COMPJAVA オプションがプロシージャーに指定されている場合は指定してはなりません。
- CREATE PROCEDURE または ALTER PROCEDURE ステートメントが、NO WLM ENVIRONMENT オプションおよび PROGRAM TYPE SUB オプションを指定した。NO WLM ENVIRONMENT が使用される場合、SECURITY も使用されなければなりません。
- CREATE PROCEDURE または ALTER PROCEDURE ステートメントが、NO WLM ENVIRONMENT と、SECURITY に対する USER または DEFINER のいずれかとの両方を指定した。NO WLM ENVIRONMENT を使用する場合は、SECURITY DB2 も使用する必要があります。
- CREATE PROCEDURE または ALTER PROCEDURE ステートメントが、LANGUAGE REXX 文節のほかに、PARAMETER STYLE DB2SQL 文節または PARAMETER STYLE JAVA 文節を含んでいた。
- CREATE PROCEDURE または CREATE FUNCTION ステートメントが、LANGUAGE C オプションなしで PARAMETER VARCHAR 文節を指定した。
- ALTER TABLE ステートメントが、DROP CONSTRAINT 文節と、DROP FOREIGN KEY、DROP CHECK、DROP PRIMARY KEY、または DROP UNIQUE 文節のいずれかとの両方を含んでいた。
- ALTER TABLE ステートメントが、ALTER COLUMN 文節と VALIDPROC 文節の両方、または ALTER COLUMN 文節と、チェック制約以外の文節の両方を含んでいた。
- ALTER TABLE ステートメントが、ADD MATERIALIZED QUERY 文節または DROP MATERIALIZED QUERY 文節のいずれかと、それ以外の文節を含んでいた。
- ALTER TABLE ステートメントが、別の文節と一緒に DROP COLUMN 文節を含んでいた。DROP COLUMN 文節は他の文節と一緒に使用できません。
- ALTER TABLE ステートメントが、ADD COLUMN 文節と、システム期間一時表のデータ・タイプの LONG VARCHAR (または LONG VARGRAPHIC) 構文の両方を含んでいた。

- DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントの AS (副選択) 文節が、INCLUDING COLUMN DEFAULTS 文節と USING TYPE DEFAULTS 文節の両方を含んでいた。
- CREATE DATABASE ステートメントが、AS WORKFILE 文節と AS TEMP 文節の両方を含んでいた。
- INSENSITIVE または SENSITIVE が、SCROLL なしで DECLARE CURSOR ステートメントに指定されたか、または PREPARE ステートメントの ATTRIBUTES 文節とともに指定された。
- SCROLL が、INSENSITIVE または SENSITIVE STATIC なしで DECLARE CURSOR ステートメントに指定されたか、または PREPARE ステートメントの ATTRIBUTES 文節とともに指定された。
- PREPARE ステートメントの ATTRIBUTES 文節の属性ストリングが、競合するオプションを指定していた。
- LANGUAGE JAVA オプションが表関数に指定された。
- UNIQUE または UNIQUE WHERE NOT NULL キーワードが CREATE INDEX ステートメントの PARTITIONED オプションで指定された。
- EXTERNAL NAME オプションが SQL プロシージャに対する ALTER TABLE ステートメントで指定された。同じアクションは、プロシージャに対する DROP ステートメントを発行し、それを CREATE PROCEDURE ステートメントで再作成することで実行できます。
- CREATE INDEX または ALTER INDEX ステートメントが、XML 索引または拡張索引に対して、CLUSTER、PARTITION BY、または両方のキーワードを指定した。
- CREATE INDEX ステートメントが、GENERATE KEY USING 文節と、ASC または DESC として指定された列との両方を含んでいた。
- CREATE INDEX ステートメントが、XMLPATTERN と PARTITIONED の両方の文節を含んでいた。
- CREATE TABLE ステートメントが、EBCDIC 表の VARCHAR 列に CCSID 1208 文節を含んでいるか、または VARGRAPHIC 列に CCSID 1200 文節を含んでいる。
- CREATE TABLE ステートメントが、CCSID 1208 と CCSID 1200 のどちらかの文節と FIELDPROC 文節の両方を含んでいる。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

ステートメントに指定されたオプションを変更し、再実行してください。

SQL code: -628

Database: DB2 for z/OS

DSQ17629 外部キー &V1 には SET NULL を指定できません。

説明: 88 ページの『DSQ12829』を参照してください。

SQL code: -629

Database: DB2 for z/OS

DSQ17630 WHERE NOT NULL は、タイプ 1 索引では無効です。

説明:

タイプ 1 索引を WHERE NOT NULL 指定と一緒に作成することはできません。

ユーザーの処置:

WHERE NOT NULL 指定を除去するか、または索引をタイプ 2 索引として作成してください。

SQL code: -630

Database: DB2 for z/OS

DSQ17631 外部キー &V1 が長すぎるか、または列が多すぎます。

説明:

&V1 の FOREIGN KEY 文節に指定された列の長さ属性の合計が 254 バイトを超えているか、または指定された列の数がデータベースの制限を超えています。

ユーザーの処置:

表の定義を修正し、FOREIGN KEY 文節に指定された列の長さ属性の合計の制限値に一致するようにしてください。

SQL code: -631

Database: DB2 for z/OS

DSQ17632 削除規則の制限があるため、表は &V1 の従属表として定義できません。

説明:

表を、表 &V1 の従属表として定義できません。その関係が、既存のものと矛盾します。例えば、この関係が存在するため、表は自分自身に連結削除されます。

ユーザーの処置:

DSQ17633 • DSQ17638

ステートメントから FOREIGN KEY 文節を削除してください。

SQL code: -632

Database: DB2 for z/OS

DSQ17633 削除規則は &V1 でなければなりません。

説明:

ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節では、以下の理由の内のどちらかで &V1 の削除規則を指定しなければなりません。

1. 外部キーによって表は自分自身の従属表になりません。この場合、削除規則は CASCADE でなければなりません。
2. 外部キーによって表は多重経路を介して別の表に連結削除されます。このような関係では、同じ削除規則が必要です。

ユーザーの処置:

FOREIGN KEY 文節の削除規則を変更してください。

SQL code: -633

Database: DB2 for z/OS

DSQ17634 削除規則に CASCADE を指定できません。

説明:

FOREIGN KEY 文節に指定された CASCADE 削除規則は、以下のどちらかの理由で有効ではありません。

1. 外部キーによって表は循環して自分自身に連結削除されます。
2. 外部キーによって別の表が別の削除規則または SET NULL 削除規則で、複数の経路を介して 1 つの表に連結削除されます。

ユーザーの処置:

FOREIGN KEY 文節の削除規則を変更してください。

SQL code: -634

Database: DB2 for z/OS

DSQ17635 削除規則と異なるものまたは SET NULL にはできません。

説明:

CREATE TABLE ステートメントの 2 つの FOREIGN KEY 文節で指定されている削除ルールが無効です。これらの外部キーでは、別の削除規則または SET NULL 削除規則によって、表が複数の経路を介して 1 つの表に連結削除されます。

ユーザーの処置:

FOREIGN KEY 文節の一方または両方で削除ルールを変更してください。表が複数経路を介して 1 つの表に連結削除される場合は、関係では同じ、削除規則 (CASCADE または RESTRICT) を使用しなければなりません。

SQL code: -635

Database: DB2 for z/OS

DSQ17636 区分 &V1 用の区分キーは、昇順または降順の指定になっていません。

説明:

この照会は、区分化表 (区分化表スペースの中の表) に対してクラスター索引を作成します。限界キー値指定の中のキー値は、昇順または降順のどちらかで指定する必要があります。

ユーザーの処置:

連続した区分の値が正しく昇順または降順になるように、限界キー値指定を訂正してください。

SQL code: -636

Database: DB2 for z/OS

DSQ17637 &V3&V1 が二度指定されています。

説明:

この照会では、キーワード &3 を 1 回だけ使用できません。2 回以上出てきました。

ユーザーの処置:

照会を訂正して、再実行してください。

SQL code: -637

Database: DB2 for z/OS

DSQ17638 列の定義がないため、表 &V1 は作成できません。

説明:

CREATE TABLE ステートメントには、列定義が指定されていません。

ユーザーの処置:

ステートメントに、少なくとも 1 つの列定義を加えてください。

SQL code: -638

Database: DB2 for z/OS

DSQ17639 NULL の設定の削除規則がある外部キーの NULL 可能列は、区分化キーの列にはできません。

説明:

クラスター索引の部分キーは更新できません。したがって、SET NULL の削除ルールを持つ外部キー列は、その列が NULL 可能である場合は区分キーの列にはできません。ALTER TABLE 操作でエラーが起こった場合、外部キーは作成されません。CREATE INDEX 操作でエラーが起こった場合、索引は作成できません。

ユーザーの処置:

エラーが CREATE INDEX だった場合は、索引区分キーの定義を変更するか、または異なる削除ルールで参照制約を除去して定義し直してください。エラーが ALTER TABLE の場合、参照削除規則を変更するか、区分索引キーの削除と再定義を行い、外部キーに NULL になる可能性のある索引キーがまったくなくなるようにしてください。

SQL code: -639

Database: DB2 for z/OS

DSQ17640 LOCKSIZE ROW を指定できません。

説明:

この表スペースはタイプ 1 索引を含むので、LOCKSIZE ROW を指定することはできません。LOCKSIZE ROW を表スペースに指定する場合は、表スペースの表のすべての索引がタイプ 2 索引である必要があります。

ユーザーの処置:

ALTER INDEX ステートメントを使用してタイプ 1 索引をすべてタイプ 2 索引に変換するか、または他の LOCKSIZE オプションを使用してください。

SQL code: -640

Database: DB2 for z/OS

DSQ17642 固有キーに指定された桁が多過ぎます。

説明: 129 ページの『DSQ15642』を参照してください。

SQL code: -642

Database: DB2 for z/OS

DSQ17644 &V2 の照会の中の &V1 の値が無効です。

説明:

&V2 照会で &V1 に指定されている値が有効な値ではありません。

ユーザーの処置:

&V2 照会の &V1 に使用できる値は SQL ヘルプを参照してください。

SQL code: -644

Database: DB2 for z/OS

DSQ17646 表スペース &V2 にすでに表が入っています。

説明:

CREATE TABLE 照会指定されている表スペース &V2 は既存の表が入っている区分化表スペースかデフォルトの表です。1 つの区分化表スペースまたはデフォルト表スペースに含めることができる表は 1 つのみです。

ユーザーの処置:

照会の中で正しい表スペースを使用していることを確かめてください。1 つの区分化表スペースまたはデフォルト表スペースに複数の表を作成しようとししないでください。

SQL code: -646

Database: DB2 for z/OS

DSQ17647 バッファースペース &V1 はアクティブになっていなければなりません。

説明:

表スペースまたは索引スペースに対する CREATE または ALTER 照会の中で指定されているバッファースペース &V1 が、アクティブになっていません。バッファースペースは Numpages = 0 になっています。

表スペースまたは索引スペースは、現在アクティブであるバッファースペースに対してのみ割り当て (または再割り当て) することができます。

ユーザーの処置:

正しいバッファースペースを作成ステートメントまたは変更ステートメントで指定したことを確認してください。正しく指定されている場合は、バッファースペースをアクティブにして、ステートメントを再実行してください。

SQL code: -647

DSQ17650

Database: DB2 for z/OS

DSQ17650 ALTER ステートメントは処理できません。

説明:

次のリスト中の理由番号 &V1 が原因で、ALTER ステートメントを実行できません。

- 1 関連表スペースに ROW の LOCKSIZE 指定がある場合は、索引をタイプ 1 に変更することはできません。
- 2 UNIQUE WHERE NOT NULL を指定して定義されている場合は、索引をタイプ 1 に変更することはできません。
- 3 関連する表スペースが LARGE 表スペースとして定義されている場合、索引をタイプ 1 に変更することはできません。
- 4 ASCII 表では、索引をタイプ 1 に変更することはできません。
- 5 区分化索引の PIECESIZE を変更することはできません。
- 6 非 LARGE 表の非区分化索引の PIECESIZE 4G を変更することはできません。
- 7 DSSIZE 文節を持つ ALTER ステートメントは、LOB およびユニバーサル表スペースに対してのみ許可されます。
- 8 SEGSIZE 文節を持つ ALTER ステートメントは、表制御パーティションを使用するユニバーサル表スペースとパーティション化表スペースに対して許可されます。
- 9 異なるページ・サイズが指定されている BUFFERPOOL 文節を持つ ALTER ステートメントは、LOB およびユニバーサル表スペースに対してのみ許可されます (XML 表スペースを除く)。
- 10 MAXPARTITIONS 文節を持つ ALTER ステートメントは、以下の表スペースに対してのみ許可されます。
 - 単一表 SIMPLE 表スペース
 - 単一表セグメント化表スペース
 - partition-by-growth 編成を使用するユニバーサル表スペース
- 11 ENDING AT 文節をもつ ALTER ステートメントは、LOB 列または表自体のパーティション化された基本表上の索引に対して許可されていません。

- 12 SQL ステートメントが保留状態の場合、ALTER INDEX は使用できません。
- 13 SQL ステートメントが保留状態の場合、ALTER TABLE は使用できません。
- 14 表の制御によるパーティションの使用時、ENDING AT 文節をもつ ALTER INDEX ステートメントは許可されていません。
- 15 LOB 列または表自体のパーティション基本表上の索引については、ALTER を使用してパーティションの属性を変更することはできません。
- 16 ALTER TABLE DATA CAPTURE CHANGES は、REORG ペンディング通知状況 (AREO) では表スペースに使用できません。
- 17 ALTER TABLE DROP CLONE は、表自体がクローンの場合にクローンのドロップに使用できません。
- 18 ALTER INDEX は、表に定義済みのクローンがある場合には使用できません。
- 19 ALTER TABLESPACE は、表スペースに、定義済みのクローンがある表が含まれている場合は使用できません。
- 20 ALTER TABLE DROP CLONE は、表に定義済みのクローンがない場合にクローンのドロップには使用できません。
- 21 次のすべての条件に該当する場合、ALTER TABLE SET DEFAULT は許可されません。
 - 現在 DEFINE YES 属性が適用されている表スペースに表が存在する。
 - ALTER TABLE ステートメントが、元の表定義の一部でなかった列を参照している。
 - 参照されている列が追加されてから、表が再編成されていない。
- 22 ALTER TABLE SET DEFAULT と DROP DEFAULT は、マテリアライズ照会表またはビューから参照される表には使用できません。
- 24 保留中のオプションが指定された ALTER TABLE ステートメントは、ユニバーサル表スペースに対してのみ許可されます。
- 25 次のすべての条件に該当する場合、ALTER TABLE DROP DEFAULT は許可されません。
 - 表スペースが、REORG ペンディング通知 (AREO*) 状況または REORG ペンディング (REORP) 状況である。
 - ALTER TABLE ステートメントが、元の表定義の一部でなかった列を参照している。

- 参照されている列が追加されてから、表が再編成されていない。
- この場合、AREO* 状態をクリアするために大量更新を使用できます。
- 26 REGENERATE 文節が指定された ALTER VIEW ステートメントは、マテリアライズ照会表からビューが参照される場合は許可されません。
- 27 マテリアライズ照会表を指定している ALTER TABLE ステートメントの場合、変更は、次のいずれかの状態に制限されています。
- マテリアライズ照会表の属性の変更
 - マテリアライズ照会表の基本表への変更
 - 以下の節の指定:
 - ADD RESTRICT ON DROP
 - ALTER MATERIALIZED QUERY
 - AUDIT
 - DATA CAPTURE
 - DROP MATERIALIZED QUERY
 - DROP RESTRICT ON DROP
- 28 相対ページ番号を使用する表スペースに表が存在する場合は、ハッシュ編成の追加に ALTER TABLE は使用できません。
- 29 ALTER TABLESPACE は、表スペースにアクセラレーター専用表が含まれている場合には使用できません。
- 30 表スペースに対して保留中の定義変更がある場合は、ALTER TABLESPACE ステートメントを使用して区分レベルで DSSIZE を変更することはできません。
- 32 ADD PARTITION 文節が指定された ALTER ステートメントが、ユニバーサル表スペースではない表に対して発行されました。これは、以下のいずれかの理由により許可されません。
- 表が範囲区分化ユニバーサル表スペースに存在しない。
 - 区分番号が無効である。
 - 影響を受ける区分に対して制限キー値が無効である。
 - LOB データ・タイプに基づく LOB 列または特殊タイプ列が表に含まれている。
- 34 関連基本表スペースがユニバーサル表スペースでない場合、LOB 表スペースに対して ALTER TABLESPACE COMPRESS は許可されません。
- 35 ALTER TABLESPACE PAGENUM は、表スペースが範囲区分化ユニバーサル表スペースではないため失敗しました。
- 36 ALTER TABLESPACE PAGENUM は、表スペースが DEFINE NO であるにもかかわらずその表スペースの索引が 1 つ以上 DEFINE YES であるため失敗しました。
- 37 ALTER TABLESPACE PAGENUM は、無効なキーワードが指定されたため失敗しました。PAGENUM にはキーワード「RELATIVE」が続いていなければなりません。
- 38 ALTER TABLESPACE PAGENUM は、表スペースでハッシュ編成が使用されているため失敗しました。または、相対ページ番号を使用する表スペースに表が存在する場合は、ハッシュ編成の追加に ALTER TABLE は使用できません。
- ユーザーの処置:
- 上記の理由番号 &V1V1 で示されている状況を訂正し、ステートメントを再実行してください。
- SQL code:** -650
- Database:** DB2 for z/OS
-
- DSQ17652** プロシージャ &V1 が結果を拒否しました。
- 説明: 129 ページの『DSQ15652』を参照してください。
- SQL code:** -652
- Database:** DB2 for z/OS
-
- DSQ17653** 表 &V1 に区分化索引がありません。
- 説明:
- 区分化表 (区分化表スペースの中の表) は、その表に対するクラスター索引が作成されていないかぎり、参照することができません。表 &V1 に対するクラスター索引がありません。
- ユーザーの処置:
- ステートメントに正しい表の指定があることを確かめてください。正しい場合、その表に対するクラスター索引を作成し、ステートメントを再実行してください。
- SQL code:** -653
- Database:** DB2 for z/OS
-

DSQ17659 表オブジェクトの最大サイズを超えました。

説明: 129 ページの『DSQ15659』を参照してください。

SQL code: -659

Database: DB2 for z/OS

DSQ17662 &V1 は区分化表スペースではありません。

説明:

CREATE INDEX 照会に PART 指定が含まれていますが表スペース &V1 は区分化表スペースではありません。

ユーザーの処置:

ステートメントに正しい表の指定があることを確かめてください。正しい場合、表を区分化してから区分化索引の作成をしてください。

SQL code: -662

Database: DB2 for z/OS

DSQ17663 &V1. の限界キー値の数に誤りがあります。

説明:

少なくとも 1 つの PART 指定の中の限界キー値の数が、ゼロであるか、または索引キー内の列数を超過しています。

ユーザーの処置:

限界キー値の値を変更し、操作を続けてください。

SQL code: -663

Database: DB2 for z/OS

DSQ17664 索引 &V1 の限界キー・フィールドが長すぎます。

説明:

区分化索引のためのキーの合計長は、内部的に 40 バイトを超えることはできません。

ユーザーの処置:

索引のキー・フィールドの中で使用する列の合計数を減らしてください。

SQL code: -664

Database: DB2 for z/OS

DSQ17665 ALTER ステートメントの PART 文節がないか、無効です。

説明:

ALTER ステートメントは次のいずれかの理由で無効です。

1. 表スペース、または索引の区分化が行われていないのに、PART 文節が指定されている。
2. 表スペース、または索引の区分化が行われているのに、PART 文節が指定されていない。
3. PART 文節に指定された整数で、表のスペースの区分や、索引の区分が識別されない。
4. 装置の移行に関して、USING、PRIQTY、SECQTY、または ERASE 文節が使用されていて、区分が指定されていない。
5. グループ・バッファー・プール・キャッシュ属性を変更するのに GBPCACHE 文節が使用されているのに、区分が指定されていない。

ユーザーの処置:

変更したい表スペースまたは索引が区分化されているかどうかを調べてください。区分化されていれば、変更したい区分を識別する PART 文節を指定してください。区分化されていない場合は、PART 文節を使用しないでください。

SQL code: -665

Database: DB2 for z/OS

DSQ17666 ユーティリティ、リソース限定機能、または分散データ機能が実行中です。

説明: 130 ページの『DSQ15666』を参照してください。

SQL code: -666

Database: DB2 for z/OS

DSQ17667 索引は DROP INDEX ステートメントでは除去できません。

説明:

DROP INDEX ステートメントが、次のいずれかの索引を除去しようとした。

- 区分化表スペースに常駐する表のクラスター索引。
- GENERATED BY DEFAULT 属性のある ROWID 列に定義されている固有の索引。

これらのいずれも、明示的に除去することはできません。別のオブジェクトを除去することにより、暗黙的に除去することしかできません。

ユーザーの処置:

区分化表スペース内の表のクラスター索引を除去するには、関連する区分化表スペースを除去してください。

GENERATED BY DEFAULT 属性のある ROWID 列に定義されている固有の索引を除去するには、関連する表を除去してください。

SQL code: -667

Database: DB2 for z/OS

DSQ17668 この表には編集プロシージャが付随しているため変更はできません。

説明:

編集プロシージャの付随している表には列を追加することはできません。ALTER ステートメントは実行されませんでした。

ユーザーの処置:

ALTER ステートメントに正しい表を指定してあることを確かめてください。インストール先で定義した編集プロシージャの付随している表の定義を変更してはなりません。

SQL code: -668

Database: DB2 for z/OS

DSQ17669 オブジェクトは明示的に除去できません。

説明:

DROP ステートメントは、理由コード &V1 で示される理由で失敗しました。以下のとおりです。

- 0001- DROP TABLE ステートメントは区分表スペースにある表を除去しようとした。
- 0002- DROP INDEX ステートメントが、表の主キー、固有キー、または参照制約を施行するために必要となる索引をドロップしようとした。

ユーザーの処置:

ステートメントが DROP TABLE ステートメントの場合、区分テーブル・スペースの表は、表スペース自体が除去される場合のみ、暗黙的に除去されます。

ステートメントが DROP INDEX ステートメントで、主キー、固有キー、または参照制約を保持する必要がある場合は、ALTER TABLE ステートメントの DROP CONSTRAINT 文節を使用して、制約を除去してください。その後、索引を除去してください。

SQL code: -669

Database: DB2 for z/OS

DSQ17670 行の長さが表スペースのページ・サイズを超えています。

説明:

表の行の長さは、その表が含まれる表スペースのページ・サイズを超えることはできません。DB2 は、サイズが 4KB、8KB、16KB、または 32KB のページ内にレコードを保管します。レコードの最大サイズがページ・サイズより大きい表を作成することはできません。

ユーザーの処置:

この問題の SQL ステートメントが CREATE TABLE の場合、この問題は以下のいずれかの方法で解決できます。

1. 列をいくつか除去する。
2. 1 つまたはいくつかの列の幅を短くする。
3. 32K のバッファ・プールを持つ表スペースに表を割り当てる。

ALTER TABLE の場合には、新しい列の幅を短くしてください。行の幅がすでに最大限に達している場合には、新たな列を追加することはできません。

SQL code: -670

Database: DB2 for z/OS

DSQ17671 ALTER TABLESPACE によるページ・サイズの変更はできません。

説明:

バッファ・プール値の変更が試みられましたが、これが行われると表スペースのページ・サイズが 4K から 32K に、または 32K から 4K に変更されます。

ユーザーの処置:

表スペースが、4K のバッファ・プールの 1 つ (BP0、BP1、または BP2) を使用している場合には、ほかの 4K バッファ・プールの 1 つに再割り当てができます。(BP32K に割り当てられている場合には、変更することはできません。)

SQL code: -671

Database: DB2 for z/OS

DSQ17672 DROP は表 &V1 では許可されていません。

説明:

DROP 操作は、下記のいずれかの理由により、失敗しました。

- 除去されている表に、RESTRICT ON DROP 属性があった。

DSQ17673 • DSQ17681

- 除去されている表スペースまたはデータベースに、RESTRICT ON DROP 属性を持つ指定表が含まれている。

ユーザーの処置:

表を除去する前に、DROP RESTRICT ON DROP を指定している表を更新してください。

SQL code: -672

Database: DB2 for z/OS

DSQ17673 1 次索引を作成できません。

説明:

識別された主キー列の値に関して重複する行が表に含まれているため、主キーは作成できません。更新中の表に、PRIMARY KEY 文節の列の値と重複する行がすでに含まれているため、主キーの定義が失敗しました。

ユーザーの処置:

エラーのある行を表から除去して、主キーを再度定義してください。

SQL code: -672

Database: DB2 for z/OS

DSQ17676 32K のバッファースペースは索引に使用できません。

説明:

CREATE INDEX 照会でページ・サイズ 32K のバッファースペースが指定されました。索引に使用できるのは、4K バッファースペース BP0、BP1、および BP2 のみです。

ユーザーの処置:

別のバッファースペースを指定してください。

SQL code: -676

Database: DB2 for z/OS

DSQ17677 バッファースペースを拡張するのに十分な記憶域がありません。

説明:

このメッセージの原因として、次のいずれかが考えられます。

1. . 表スペースまたは索引スペースのオープンを行っているときにバッファースペースを作成しようとした。
2. . バッファースペースを、その最大サイズ (MAXPAGES) まで拡張しようとした。

3. . バッファースペースを、ALTER BUFFERPOOL 照会で指定されている新規最小サイズ (NUMPAGES) まで拡張しようとした。

ユーザーの処置:

QMF 管理者にお問い合わせください。

SQL code: -677

Database: DB2 for z/OS

DSQ17678 限界キーの値が列 &V3. に適合しません。

説明:

列 &V3 に対して指定した限界キーの値が、その列と同じデータ・タイプのものではありません。

ユーザーの処置:

文字データ・タイプの値の場合には、それを一重引用符で囲んでください。

SQL code: -678

Database: DB2 for z/OS

DSQ17680 表またはビューに含まれる列が多すぎます。(Your table or view contains too many columns.)

説明:

照会で作成される表またはビューに含まれる列は列の最大許可数を超過してしまいます。

ユーザーの処置:

照会を変更して、作成しようとしている表の列数または視点がデータベースの制限を超えないようにしてください。

SQL code: -680

Database: DB2 for z/OS

DSQ17681 列 &V1 が、インストール先で定義したフィールド・プロシージャに違反しました。 **RT:** &V2、**RS:** &V3、**MSG:** &V4。

説明: 130 ページの『DSQ15681』を参照してください。

SQL code: -681

Database: DB2 for z/OS

DSQ17683 &V1 に非互換文節が含まれています。

説明:

CREATE または ALTER ステートメントのデータ項目指定にエラーがあります。「INTEGER」や「FOR BIT DATA」など、非互換の指定が存在します。エラーのロケーションは &V1 によって、以下のように示されます。

- CREATE または ALTER TABLE ステートメントの場合、&V1 はエラーを含む列の名前を示します。エラーは、列 &V1 に対する、FOR BIT DATA、FOR SBCS DATA、FOR MIXED DATA、または FIELDPROC の無効な指定であると考えられます。
- CREATE FUNCTION または CREATE PROCEDURE ステートメントの場合は、&V1 は、ステートメント中の問題領域を識別するトークンです。例えば、"PARAMETER 3"、"RETURNS"、または "CAST FROM" です。
- CREATE DISTINCT TYPE ステートメントの場合、&V1 は定義されるタイプの名前を指定します。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

SQL ステートメントを訂正して、照会を再実行してください。

SQL code: -683

Database: DB2 for z/OS

DSQ17684 &V1 で始まるパラメーター・リストが長すぎます。

説明:

FIELDPROC program-name (parameter list)

FIELDPROC では、パラメーター・リストの指定はオプションです。パラメーターの数、および各パラメーターのデータ・タイプは、フィールド・プロシージャによって決定されます。パラメーター・リストの長さは、最大 254 バイトです。ただし、コンマは長さに数えますが、意味のないブランクと区切りの括弧は、長さには数えません。

ユーザーの処置:

SQL ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQL code: -684

Database: DB2 for z/OS

DSQ17686 互いに異なるフィールド・プロシージャを使用して定義された 2 つの列を比較することはできません。(A column defined with a field procedure cannot be compared to another column with a different field procedure.)

説明: 130 ページの『DSQ15686』を参照してください。

SQL code: -686

Database: DB2 for z/OS

DSQ17687 列のフィールド・タイプが適合しません。

説明: 130 ページの『DSQ15687』を参照してください。

SQL code: -687

Database: DB2 for z/OS

DSQ17689 従属表に定義された列の数が最大値を超えています。

説明:

従属表に対して許可される列の最大値は 749 です。

このエラーの考えられる原因は次のとおりです。

- 従属表に対する CREATE TABLE ステートメントが 750 個の列を含む。
- ALTER TABLE ステートメントが、749 列を持つ従属表に列を追加しようとしているか、または 750 列を持つ表に、表を従属にする外部キーを追加しようとしています。

ユーザーの処置:

SQL ステートメントを訂正して、従属表に定義されている列数を 749 以下にしてください。

SQL code: -689

Database: DB2 for z/OS

DSQ17690 SQL ステートメントは、DB2 のデータ定義制御サポートにより拒否されました。

説明:

DB2 データ定義制御サポート (DDCS) は、理由コード &V1. で SQL ステートメントを拒否しました。このエラーの詳細な説明については、使用中のデータベース管理システムのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

ユーザーの処置:

DSQ17691 • DSQ17713

正しいオブジェクト名が指定されていることを確認してください。QMF 管理者に連絡し、DDL 登録インストール・オプションが適切に設定されていることを確認してください。また、必要なデータ定義制御サポート・モードが実行されているかを確認してください。その後、アプリケーション登録表とオブジェクト登録表を検査して、入力が正しいかを判別してください。正しくない場合は、必要に応じて登録表を更新してください。

SQL code: -690

Database: DB2 for z/OS

DSQ17691 必要な登録表 &V1 が見つかりません。

説明:

DB2 データ定義制御サポートは、アプリケーション登録表またはオブジェクト登録表、あるいはその両方を見つけれませんでした。これらの表が正しく定義されるまで照会は行われません。

ユーザーの処置:

データベース管理者に連絡して、登録表が正しく作成されていること、および表名が正しいことを確認してください。

SQL code: -691

Database: DB2 for z/OS

DSQ17696 トリガー定義での &V2 の使用法は無効です。

説明:

&V1 の CREATE TRIGGER ステートメントに、関連名または REFERENCING 文節内の一時表 ID として使用されている &V2 が含まれていますが、これは無効です。

次のリスト中の理由番号 &V3. を参照してください。

- DELETE トリガーは、以下を REFERENCING 文節で使用できません。
 - NEW 関連名
 - NEW_TABLE ID
- INSERT トリガーは、以下を REFERENCING 文節で使用できません。
 - OLD 関連名
 - OLD_TABLE ID
- BEFORE トリガーは、以下を REFERENCING 文節で使用できません。
 - OLD_TABLE ID
 - NEW_TABLE ID

ユーザーの処置:

CREATE TRIGGER ステートメントの REFERENCING 文節を訂正してから、ステートメントを再実行してください。

SQL code: -696

Database: DB2 for z/OS

DSQ17697 無効な REFERENCING 文節がトリガー定義にあります。

説明:

CREATE TRIGGER ステートメントに、次の無効な組み合わせのいずれかを含む REFERENCING 文節があります。

- 次の関連名のいずれか、または両方とともに使用されている、FOR EACH STATEMENT 文節:
 - OLD 関連名
 - NEW 関連名
- 次の一時表 ID のいずれか、または両方とともに使用されている、FOR EACH ROW 文節:
 - OLD_TABLE ID
 - NEW_TABLE ID

ユーザーの処置:

無効な関連名または一時表 ID を REFERENCING 文節から除去するか、またはトリガーの細分性を変更してから、ステートメントを再実行してください。

SQL code: -697

Database: DB2 for z/OS

DSQ17713 &V1 レジスターの値が無効です。

説明:

照会内の SET ステートメントが、&V1 特殊レジスターに対して無効な値を指定しました。

ユーザーの処置:

&V1 特殊レジスターの有効な値については、ご使用のデータベースの SQL 参照情報を参照してください。&V1 特殊レジスターの値を修正して、照会を再実行してください。

SQL code: -713

Database: DB2 for z/OS

DSQ17724 オブジェクトの活動化が SQL カスケードの最大レベルを超えました。

説明:

トリガー、ユーザー定義関数、またはストアド・プロシージャが、別のトリガー、ユーザー定義関数、またはストアド・プロシージャを呼び出し、さらにそれが別のものを呼び出すと、間接 SQL のカスケードが発生します。このチェーンに含まれるいくつかのトリガーがアクティブになったのは、参照制約削除ルールが実施されたことが原因と考えられます。このカスケードの深さは 16 までに限定されています。

トリガーがトリガー SQL ステートメントを含む再帰的状态は、同じトリガーが活動化される直接または間接的な原因となり、このエラーの原因になることがよくあります。このエラーを防ぐために、トリガーは終了条件を検査するためのロジックを含む必要があります。

&V1

呼び出されるオブジェクト・タイプを示します。オブジェクト・タイプは TRIGGER、FUNCTION、または PROCEDURE です。

&V2 - カスケードの 17 番目のレベルで活動化されたトリガー、ユーザー定義関数、またはストアド・プロシージャの名前を指定します。

オリジナル・ステートメントは実行できませんでした。カスケード・チェーン内のすべてのトリガー、ユーザー定義関数、およびストアド・プロシージャによって実行される SQL ステートメントはすべてロールバックされます。ネットワーク・メッセージの送信など、間接 SQL によって実行される外部処置がすでに実行された可能性があります。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

オリジナル SQL 操作で活動化される間接 SQL から始めてください。呼び出されたユーザー定義関数内、または更新操作のサブジェクトで定義されたトリガー内の再帰的パターンを検査してください。チェーンが再帰的ではない場合は、含まれるトリガー、ユーザー定義関数、またはストアド・プロシージャを変更することによって、カスケード・チェーンを単純化する必要があります。

SQL code: -724

Database: DB2 for z/OS

DSQ17729 ストアド・プロシージャはネストされた call ステートメントのターゲットにすることはできません。

説明:

COMMIT ON RETURN 属性を使用して定義されたストアド・プロシージャが、ストアド・プロシージャ、ユーザー定義関数、またはトリガーから呼び出されました。COMMIT ON RETURN で定義されたストアド・プロシージャは、この方法ではネストできません。

SQL ステートメントは実行されません。CALL ステートメントが遠隔サーバーを参照する場合、作業単位は必須ロールバック状態に置かれます。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

COMMIT ON RETURN 属性で定義されたストアド・プロシージャの呼び出しを除去してください。

SQL code: -729

Database: DB2 for z/OS

DSQ17730 親表は読み取り専用共有データベース中になければなりません。

説明:

作成または代替している表は、読み取り専用共有データベース中にあります。CREATE ステートメントまたは ALTER ステートメントの外部キーは、読み取り専用共有データベースにない親の表を参照します。読み取り専用共有データベースにある表の親は読み取り専用共有データベースになければなりません。共有データベースにある表の親は共有データベースになければなりません。

ユーザーの処置:

FOREIGN KEY 文節が正しい親の表を参照していることを確認してください。

SQL code: -730

Database: DB2 for z/OS

DSQ17731 &V1 は SHAREOPTIONS(1,3) と一緒に定義しなければなりません。

説明:

ユーザー定義データ・セット &V1 の VSAM SHAREOPTIONS は共有データベースにあるすべての索引と表スペースに対して (1,3) でなければなりません。

ユーザーの処置:

DSQ17732 • DSQ17746

VSAM コマンド LISTC を使ってデータ・セット &V1 の SHAREOPTIONS を表示してください。

SQL code: -731

Database: DB2 for z/OS

DSQ17732 表スペースまたは索引スペースが所有サブシステムに定義されていません。

説明:

CREATE ステートメントで指定されたデータベースは ROSHARE READ 属性を持つサブシステムに定義されています。表スペースや索引は、所有サブシステムで定義しなければデータベースに作成できません。

ユーザーの処置:

表スペースまたは索引が、共有データベースを所有する所有サブシステムに定義されているか確認してください。

SQL code: -732

Database: DB2 for z/OS

DSQ17733 表スペース、索引または表が所有サブシステムと整合していません。

説明:

ROSHARE READ として定義されている ROSHARE READ データベースの表スペース、索引または表の定義は、所有サブシステムの記述と整合していなければなりません。

ユーザーの処置:

表スペース、索引または表の定義が所有サブシステムのそれと整合しているか確認してください。

SQL code: -733

Database: DB2 for z/OS

DSQ17734 データベースの ROSHARE 属性は変更できません。

説明:

データベースを ROSHARE READ から ROSHARE OWNER または ROSHARE NONE に変更することはできません。

ユーザーの処置:

ALTER DATABASE ステートメントに正しいデータベースが指定されていることを確認してください。読み取り専用共有データベースの ROSHARE 属性を変更するには、データベースを削除して、作成し直してください。

198 DB2 QMF メッセージおよびコード

SQL code: -734

Database: DB2 for z/OS

DSQ17735 データベース &V1 は所有サブシステムの共有データベースではありません。

説明: 130 ページの『DSQ15735』を参照してください。

SQL code: -735

Database: DB2 for z/OS

DSQ17736 CREATE ステートメントに無効な OBID &V1 が含まれています。

説明:

OBID &V1 が受け入れ可能範囲 (1 から 65535) 外であるか、または &V1 が特定のデータベースに対してすでに使用中です。

ユーザーの処置:

与えられた OBID が有効であることを確認してください。既存のオブジェクトにエラーがある場合は、正しい OBID 値を使用してオブジェクトの削除と作成を行ってください。

SQL code: -736

Database: DB2 for z/OS

DSQ17737 読み取り専用共有データベースで暗黙の表スペースは使用できません。

説明:

CREATE TABLE ステートメントに表を作成するデータベースを指定する IN DATABASE 文節が使用されています。これにより、データベースに表スペースが暗黙に作成されます。読み取り専用共有データベースには表スペースを暗黙作成することはできません。

ユーザーの処置:

所有サブシステム上の同じ名前を使用して、表の表スペースを作成してください。そして、データベースと表スペースの名前を指定して、CREATE TABLE ステートメントを再実行してください。

SQL code: -737

Database: DB2 for z/OS

DSQ17746 SQL ステートメントがネスト SQL 制限に違反しています。

説明:

表が (INSERT、DELETE または UPDATE によって)

変更されている場合、より低いレベルのネスト SQL ステートメントを使用してその表にアクセスすることはできません。

表が SELECT ステートメントによってアクセスされている場合は、より低いレベルのネスト SQL ステートメント内で (INSERT、DELETE または UPDATE によって) その表を変更できます。

SELECT、INSERT、DELETE または UPDATE SQL ステートメントが失敗しました。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST。

ユーザーの処置:

名前付き外部関数、トリガー、またはストアード・プロシージャから、障害のあるステートメントを除去してください。

SQL code: -746

Database: DB2 for z/OS

DSQ17747 表の定義が不完全です。

説明:

1 つ、または複数の LOB 列をもつ表をアクセスまたは参照しようとしたが、以下のいずれかの状態になっています。

- LOB 列を保管するための補助表が未作成である。
- 補助表に対する索引が未作成である。
- 表スペースの各区分ごとの補助表がない。

ユーザーの処置:

以下にリストしたステップで、必要なステップを行ってください。

1. CREATE TABLESPACE を使用して LOB 表スペースを作成する。
2. CREATE TABLE を使用して、列を保管するための補助表を作成する。
3. CREATE INDEX を使用して、補助表の索引を作成する。

その後照会を実行してください。

SQL code: -747

Database: DB2 for z/OS

DSQ17748 補助表は索引を 1 つしか持てません。

説明:

指定された補助表には既に索引があります。CREATE INDEX ステートメントを実行すると、2 番目の索引が生成されます。

ユーザーの処置:

指定した補助表に対して、2 番目の索引の作成を試みてはなりません。

SQL code: -748

Database: DB2 for z/OS

DSQ17751 &V1 &V2 (&V3) は許可されていない SQL &V4 の実行を試行しました

説明:

ストアード・プロシージャまたはユーザー定義関数が、許可されていない SQL ステートメントを実行しようとした。

ストアード・プロシージャが、DB2 スレッドに対して作業単位のロールバックを強制する SQL ステートメントを発行しました。スレッドを MUST_ROLLBACK 状態にする SQL ステートメントは、COMMIT または ROLLBACK のいずれかです。

これ以降の SQL ステートメントはすべて、SQL CALL ステートメントを発行した SQL アプリケーションが作業単位をロールバックするまで拒否されます。制御が SQL CALL ステートメントを発行した SQL アプリケーションに戻るとき、SQL アプリケーションは作業単位をロールバックする必要があります。これは、SQL ROLLBACK ステートメントを発行するか、同等の IMS または CICS 操作によって実行できます。

ユーザーの処置:

ストアード・プロシージャまたはユーザー定義関数から、サポートされないステートメントを除去してください。

SQL code: -751

Database: DB2 for z/OS

DSQ17763 表スペースが無効です。

説明:

表スペースは以下のいずれかの理由により無効です。

- 表スペースは LOB 表スペースなので、作業ファイルのデータベースに常駐させることはできない。
- 表スペースは LOB 表スペースなので、補助表以外の表を含めることができない。
- 表スペースは LOB 表スペースでないため、補助表を含むことができない。

ユーザーの処置:

次のいずれかを行ってください。

DSQ17764 • DSQ17771

- 作業ファイル以外のデータベースにその LOB 表スペースを作成する。
- LOB 以外の表スペースに表を作成する。
- LOB 表スペースに補助表を作成する。

SQL code: -763

Database: DB2 for z/OS

DSQ17764 LOB 表スペースと基本表スペースは、同一のデータベースになければなりません。

説明:

補助表を LOB 表スペースに作成しようとしたが、その LOB 表スペースは関連する基本表スペースと同一のデータベースにありません。

ユーザーの処置:

関連する基本表スペースと同一のデータベースの LOB 表スペースを指定して、照会を再実行してください。

SQL code: -764

Database: DB2 for z/OS

DSQ17766 DB2 補助表は、直接参照することはできません。

説明: 131 ページの『DSQ15766』を参照してください。

SQL code: -766

Database: DB2 for z/OS

DSQ17767 索引 &V1 に対する列の指定が欠落しているか、無効です。

説明:

CREATE INDEX ステートメントは、以下のいずれかの理由により失敗しました。

- 補助表以外の表に基づく索引は、その索引が定義される列を指定する必要がある。
- 補助表に基づく索引は、列を指定できない。

ユーザーの処置:

CREATE INDEX ステートメントの構文を訂正してください。

- 補助表以外の表に索引を作成する場合は、その索引が定義される列を指定する。
- 補助表に索引を作成する場合は、列名を指定しない。

SQL code: -767

Database: DB2 for z/OS

DSQ17768 指定された列または区分に、すでに補助表が存在しています。

説明:

補助表の作成が試みられましたが、指定された列または区分の補助表は既に存在しています。基本表が区分表以外の表スペースに属している場合、表の LOB 列ごとに補助表は 1 つだけ存在できます。基本表が区分表スペースに属している場合、どの LOB 列でも、特定の区分の LOB 列のすべての値が独自の補助表に保管されます。基本表スペースの区分ごとに 1 つの補助表が必要です。

ユーザーの処置:

正しい表名および列名が指定されていること、および区分番号がある場合は正しい区分番号が指定されていることを確認してください。既存の補助表に対し別の名前が必要な場合には、RENAME TABLE ステートメントを使用して補助表を名前変更することができます。

SQL code: -768

Database: DB2 for z/OS

DSQ17770 列の従属関係を持つ表を作成しようとした。

説明:

同じ表の別タイプの列に従属する列を持つ表の作成が試みられました。このエラーは、次のような場合に起こることがあります。

- LOB 列を伴う表 &V1 を作成しようとしたか、または表に LOB 列を追加しようとしたが、表には ROWID 列がありません。LOB 列を持つ表には ROWID 列も必要です。
- XML 列を持つ表 &V1 を作成しようとしたか、または表に XML 列を追加しようとしたが、表には DOCID 列がありません。XML 列を持つ表には、DOCID 列もなければなりません。

ユーザーの処置:

LOB 列を持つ表を作成する場合は、表に ROWID 列を含めてください。XML 列を持つ表を作成する場合は、表に DOCID 列を含めてください。

SQL code: -770

Database: DB2 for z/OS

DSQ17771 ROWID 列の指定が無効です。

説明:

ALTER TABLE または CREATE TABLE ステートメン

トの場合、ROWID 列の指定は次のいずれかの理由で無効な場合があります。

- ROWID 列は一時表に追加できない。
- ROWID 列は、参照制約の文節に外部キーの列として指定することはできません。
- ROWID 列は、主キーの列にもユニーク・キーの列にもなれない。
- ROWID 列を、行属性センシティブティイーを使用して定義されている編集プロシージャーを含む表の列にすることはできない。
- ROWID 列は、CREATE TABLE または DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントの as-result-table 文節の全選択用の暗黙的もしくは明示的な列リストに入れることはできません。
- 非表示の ROWID 列はドロップできません。
- GENERATED BY DEFAULT として定義された ROWID 列は、表に非表示の ROWID 列が含まれている場合はドロップできません。
- ROWID 列は、表に ROWID 列に依存している LOB 列が含まれている場合は、ドロップできません。

ユーザーの処置:

構文を訂正し、ステートメントを再実行依頼してください。

SQL code: -771

Database: DB2 for z/OS

DSQ17797 トリガー定義に無効なトリガー SQL ステートメントがあります。

説明:

&V1 のトリガー定義に、サポートされていないトリガー SQL ステートメントが含まれています。トリガー SQL ステートメントとしてサポートされる SQL ステートメントは、トリガーのタイプによって異なります。

- BEFORE トリガーは、次のトリガー SQL ステートメントを組み込めます。
 - 全選択または VALUES SQL ステートメント。
 - SET 変換変数 SQL ステートメント。
- AFTER トリガーは、次のトリガー SQL ステートメントを組み込めます。
 - INSERT SQL ステートメント。
 - 検索 UPDATE SQL ステートメント。
 - 検索 DELETE SQL ステートメント。
 - 全選択または VALUES SQL ステートメント。

一部の DB2 サーバーは、次の SQL ステートメントを両方のタイプのトリガーでサポートします。

- a SIGNAL SQLSTATE statement.
- a CALL SQL statement.

ユーザーの処置:

上記のリストと一致しないトリガー SQL ステートメントがあるかどうかトリガー定義を検査して、あれば除去してください。

CREATE TRIGGER ステートメントおよびサポートされているトリガー SQL ステートメントの詳細については、「SQL 解説書」を参照してください。

SQL code: -797

Database: DB2 for z/OS

DSQ17798 GENERATED ALWAYS と定義されている列に値を指定することはできません。

説明: 131 ページの『DSQ15798』を参照してください。

SQL code: -798

Database: DB2 for z/OS

DSQ17801 ゼロによる除算が試みられました。

説明: 131 ページの『DSQ15801』を参照してください。

SQL code: -800

Database: DB2 for z/OS

DSQ17802 SQL コマンドにおける算術演算の結果、例外エラーが発生しました。(An arithmetic operation in the SQL command has resulted in an exception error.)

説明: 54 ページの『DSQ11202』を参照してください。

SQL code: -802

Database: DB2 for z/OS

DSQ17803 固有索引列の中に重複値があります。

説明: 54 ページの『DSQ11203』を参照してください。

SQL code: -803

Database: DB2 for z/OS

DSQ17804 SQL ステートメント用のアプリケーション・プログラム入力パラメーターにエラーが見つかりました。理由 &V1。

説明:

CALL パラメーター・リストまたは SQLDA が無効です。このエラーの考えられる原因は次のとおりです。

- プリコンパイラーによって作成された CALL パラメーター・リストは、アプリケーション・プログラマーがプリコンパイラーの出力を変更したり、アプリケーション・プログラム内で 'SQL' で始まる変数名を使用したり、または、他の何らかの方法で CALL パラメーター・リストを上書きした場合、無効になることがある。
- アプリケーション・プログラムによって作成された SQLDA に、無効なデータ・タイプまたはデータ長がある。
- SQLDABC の値が SQLD の値と整合していない。

このエラーに対して発行される可能性のある SQL コードのリストを以下に示します。

- (01) 非カーソルにオープンが発行された。
- (02) 非カーソルにクローズが発行された。
- (03) EXECUTE IMMEDIATE の準備。
- (04) ステートメントが認識されない。
- (05) ステートメント・ストリングがない。
- (06) パラメーター・リストの SQLDA 形式が正しくない。
- (07) SQLDA 長さが無効。
- (08) 認識されない入力データ・タイプ。
- (09) 入力変数に対する長さが無効。
- (10) 出力変数に対するデータ長が無効。
- (11) SQLDABC の値が SQLD の値と整合していない。
- (12) 無効な入力データ・ポインター。
- (13) 無効な出力データ・ポインター。
- (14) SQLN にある SQLDABC の項目が多すぎる。
- (15) 入力 RDI ポインターが無効。
- (16) 認識されない出力データ・タイプ。
- (17) SQLDAID の 7 番目のバイトの値が、SQLDA に含まれるデータ・タイプと不整合。SQLDA には LOB タイプ・ホスト変数が含まれているが、SQLDAID の第 7 バイトは、拡張 SQLVAR が割り当て済みであることを示す '2' 以上に設定されていない。
- (18) SQLDA で ARRAY SQLTYPE が指定された。
- (19) プログラム名が無効。

202 DB2 QMF メッセージおよびコード

ステートメントは完了できません。

ユーザーの処置:

上記の誤りがないかアプリケーション・プログラムを調べてください。プリコンパイラーの出力を変更しようとしないでください。

SQLSTATE: &DSQSQLST

SQL code: -804

Database: DB2 for z/OS

DSQ17805 使用したコマンドには、見つからなかった適用業務パッケージが必要です。

説明: 131 ページの『DSQ15805』を参照してください。

SQL code: -805

Database: DB2 for z/OS

DSQ17811 複数の値を生成する副照会があります。

説明: 93 ページの『DSQ13010』を参照してください。

SQL code: -811

Database: DB2 for z/OS

DSQ17815 GROUP BY または HAVING 文節を使用する副照会には、ALL、ANY、EXISTS、または IN が必要です。

説明: 82 ページの『DSQ12716』を参照してください。

SQL code: -815

Database: DB2 for z/OS

DSQ17817 READ-ONLY の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: 34 ページの『DSQ10425』を参照してください。

SQL code: -817

Database: DB2 for z/OS

DSQ17836 DRDA プロトコルを使用して現行ステートメントを実行できません。

説明: 94 ページの『DSQ13036』を参照してください。

SQL code: -836

Database: DB2 for z/OS

DSQ17840 ユーザーの照会で使用している列の数が多すぎます。

説明: 132 ページの『DSQ15840』を参照してください。

SQL code: -840

Database: DB2 for z/OS

DSQ17857 矛盾するオプションが指定されました。

説明:

矛盾するオプションが指定されました。例えば、ある列の定義に `HIDDEN` キーワードが指定され、データ・タイプが `TIMESTAMP` ではない場合、エラーが発行されます。`HIDDEN` キーワードは、その列に対して `ROW CHANGE TIMESTAMP` も指定されている場合にのみ許可されます。

次の `SQLSTATE` が返されました: `&DSQSQLST`。

ユーザーの処置:

構文を訂正して、矛盾するオプションのうちの 1 つを除去し、ステートメントを再発行してください。

SQL code: -857

Database: DB2 for z/OS

DSQ17872 システムで有効な `CCSID` が指定されていません。

説明:

インストール・パネル `DSNTIPF` の `ASCII CODED CHARACTER SET` または `EBCDIC CODED CHARACTER SET` サブシステム・パラメーターのいずれかで、有効な `CCSID` が指定されていません。

ユーザーの処置:

システム管理者に連絡して、システムに定義するのに必要な `CCSID` を尋ねてください。

SQL code: -872

Database: DB2 for z/OS

DSQ17873 異なる `CCSID` でエンコードされたデータを、同じ `SQL` ステートメントで参照することはできません。

説明:

`SQL` ステートメントが別のコード化スキームの表で定義される別の列を持つ場合、`SQL` ステートメント内で

コード化スキームに対する表に定義された列を参照できません。

この状態は、`ASCII`、`EBCDIC`、または `UNICODE` コード化スキームで作成された表が、同じコード化スキームでない表を持つステートメントで参照された場合に生じます。

ユーザーの処置:

`SQL` ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQL code: -873

Database: DB2 for z/OS

DSQ17874 表のエンコード・スキームが、表スペースのエンコード・スキームと矛盾しています。

説明:

`CCSID ASCII` が指定された場合、含まれる表スペースは `EBCDIC` または `UNICODE` です。`CCSID EBCDIC` が指定された場合、含まれる表スペースは `ASCII` または `UNICODE` です。`CCSID UNICODE` が指定された場合、含まれる表スペースは `ASCII` または `EBCDIC` です。

表のエンコード・スキームは、表を含んでいる表スペースと同じである必要があります。

ユーザーの処置:

`SQL` ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

SQL code: -874

Database: DB2 for z/OS

DSQ17875 `&V1` を `ASCII` データ参照エンコード・スキームと一緒に使用することはできません。

説明:

`ASCII` データは、次のいずれかの状態で参照されました。

- `LIKE` 述部が `ASCII` 表の混合データ列を参照している。
- `VARGRAPHIC` 関数が `ASCII` 表の列で指定された。`VARGRAPHIC` 関数は `ASCII` データではサポートされていません。

ユーザーの処置:

`SQL` ステートメントを訂正して、もう一度、照会を実行してください。

DSQ17876 • DSQ17879

SQL code: -875

Database: DB2 for z/OS

DSQ17876 タイプ 1 索引を ASCII として定義された表で作成することはできません。

説明:

CREATE TYPE 1 INDEX ステートメントが ASCII 表で指定されました。タイプ 2 索引のみが、ASCII 表でサポートされています。

ユーザーの処置:

作成する索引にタイプ 2 索引を指定するよう SQL ステートメントを訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -876

Database: DB2 for z/OS

DSQ17877 CCSID ASCII または CCSID UNICODE は、このデータベースまたは表スペースでは許可されていません。

説明:

指定されたデータベースまたは表スペースでは、EBCDIC にする必要があります。

ユーザーの処置:

ステートメントから CCSID ASCII または CCSID UNICODE 文節を除去し、照会を再実行してください。

SQL code: -877

Database: DB2 for z/OS

DSQ17878 EXPLAIN で使用されている PLAN_TABLE では、ASCII または EBCDIC を使用することはできません。

説明:

EXPLAIN を使用する場合は、PLAN_TABLE を UNICODE でエンコードする必要があります。

ユーザーの処置:

既存の PLAN_TABLE を除去して、UNICODE エンコード・スキームで再作成してください。

SQL code: -878

Database: DB2 for z/OS

DSQ17879 CREATE/ALTER ステートメントを定義できません。

説明:

システムで適切な CCSID が定義されていないときに、CREATE または ALTER TABLE ステートメントあるいは SQL 変数定義が、列、特殊タイプ、またはユーザー定義関数あるいはストアド・プロシージャのパラメーターを、混合データまたは図形として定義しようとしました。

- MIXED DATA インストール・オプションが NO に設定されている場合、CREATE TYPE ステートメントは、EBCDIC または ASCII データ上では、特殊タイプを FOR MIXED DATA 文字、あるいは GRAPHIC、VARGRAPHIC、DBCLOB のソース・タイプを用いて定義することはできません。
- MIXED DATA インストール・オプションが NO に設定されている場合、配列型の CREATE TYPE ステートメントは、EBCDIC または ASCII データ、および FOR MIXED DATA 文字、GRAPHIC、VARGRAPHIC、あるいは DBCLOB である配列エレメントのデータ・タイプを用いて定義することはできません。MIXED DATA インストール・オプションが NO に設定されている場合、連想配列型は、EBCDIC または ASCII データ、および FOR MIXED DATA 文字である配列索引のデータ・タイプを用いて定義することはできません。
- MIXED DATA インストール・オプションが NO に設定されている場合、CREATE FUNCTION または CREATE PROCEDURE ステートメントは、パラメーターを定義したり、ASCII または EBCDIC データの RETURNS データ・タイプに CHAR FOR MIXED DATA、GRAPHIC、VARGRAPHIC、DBCLOB を指定したりすることはできません。

このエラーは、使用中のコード化スキームが EBCDIC または ASCII の場合に起こります。MIXED DATA インストール・オプションは、Unicode データには影響しません。

このエラーは、列、変数、またはパラメーターが FOR MIXED DATA で明示的に定義されていない場合に起こる可能性があります。この状態は、アプリケーション・デフォルト・モジュール内の MIXED の値が YES の場合に起こります。この場合、文字タイプのデフォルトのサブタイプは FOR MIXED DATA です。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

システム管理者に連絡して、導入オプション、あるいは

CREATE または ALTER ステートメント内の列要素のデータ・タイプの変更を依頼してください。

SQL code: -879

Database: DB2 for z/OS

DSQ17900 QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 132 ページの『DSQ15900』を参照してください。

SQL code: -900

Database: DB2 for z/OS

DSQ17904 リソースを使用できなかったため、実行が失敗しました。(理由コード: &V1、リソースのタイプ: &V2、およびリソース名: &V3)。

説明: 133 ページの『DSQ15904』を参照してください。

SQL code: -904

Database: DB2 for z/OS

DSQ17905 DB2 のリソース限界を超えたので、実行が失敗しました。リソース名 = &V1、限界 = &V2。

説明: 133 ページの『DSQ15905』を参照してください。

SQL code: -905

Database: DB2 for z/OS

DSQ17907 リモート・ロケーションで実行された更新が成功したかどうかを判断できません。

説明: 133 ページの『DSQ15907』を参照してください。

SQL code: -907

Database: DB2 for z/OS

DSQ17911 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 55 ページの『DSQ11311』を参照してください。

SQL code: -911

Database: DB2 for z/OS

DSQ17913 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 55 ページの『DSQ11311』を参照してください。

SQL code: -913

Database: DB2 for z/OS

DSQ17918 QMF の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 132 ページの『DSQ15900』を参照してください。

SQL code: -918

Database: DB2 for z/OS

DSQ17930 ステートメントを処理するのに使用できる記憶域が十分にありません。

説明: 134 ページの『DSQ15930』を参照してください。

SQL code: -930

Database: DB2 for z/OS

DSQ17948 DDF がアクティブでない場合には、リモート・データへはアクセスできません。

説明: 134 ページの『DSQ15948』を参照してください。

SQL code: -948

Database: DB2 for z/OS

DSQ17950 ロケーション名はローカル DB2 サブシステムに認知されていません。

説明:

SQL ステートメントを発行しましたが、そのロケーション名は、ローカル DB2 サブシステムを指定しておらず、DB2 コミュニケーション・データベース中にリストされてもいません。

ロケーション名がローカル DB2 サブシステム名でない場合は、ロケーション名を DB2 SYSIBM.LOCATIONS 表に定義する必要があります。

ユーザーの処置:

指定したロケーション名が正しいか検査してください。正しくない場合は、修正し、再度試みてください。

それでも SQL ステートメントを発行できない場合には、QMF 管理者にお問い合わせください。

SQL code: -950

Database: DB2 for z/OS

DSQ18104 &V3 またはその前で SQL エラーが発生しました。

説明:

指定されたトークンで、構文エラーが検出されました。テキスト "&V4" は、エラーの前にあったステートメントの 20 文字までを示しています。

このメッセージは、通常以下の原因によります。

- 無効文字、または下線で始まる名前がある。
- 句読点の欠落または余分な句読点。
- 定数または名前にキーワードが必要である。
- 数値が必要な場所に非数値がある。
- 照会の最後が指定されていない。
- 最初の単語が SQL コマンドでない。
- DB2 では無効なキーワードがある。
- CREATE DATABASE ステートメントが AS TEMP 文節を指定している。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST。

ユーザーの処置:

照会を訂正して、再実行してください。

DSQ18440 名前 &V2 では、互換性がある引数を持つ &V1 は見つかりませんでした。

説明:

これは、参照を実装するための関数またはストアド・プロシージャを、DB2 が検出できないときに、ルーチン (ストアド・プロシージャまたは関数) &V2 への参照の中で起きます。

これには以下の理由が考えられます。

- &V2 が正しく指定されていないか、またはデータベースにありません。
- 修飾参照が行われたが、修飾子のスペルが正しくない。
- ユーザーの現行パスに、必要な関数が属するスキーマが含まれていなく、非修飾参照が使用された。
- 組み込まれた引数の数が正しくありません。
- 引数の 1 つ以上のデータ・タイプが関数に対して誤っている。
- ルーチン起動側がルーチンの実行を許可されていない。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST。

ユーザーの処置:

ステートメントを訂正し、再実行してください。

DSQ18557 指定された組み合わせで特権を付与または取り消すことができません。

説明:

次のいずれかが起こりました。

- GRANT または REVOKE ステートメントに別のクラスの特権の組み合わせが含まれています。特権はすべて 1 つのクラスである必要があります。例えば、DATABASE、PLAN、TABLE などです。
- GRANT ステートメントが、許可されていない視点に特権を付与しようとしました。ALTER、INDEX および REFERENCES を視点に付与することはできません。

ユーザーの処置:

ステートメントを訂正し、再実行してください。

DSQ18632 FOREIGN KEY &V1 は無効です。

説明:

FOREIGN KEY &V1 は無効です。削除規則制限 (理由コード =&V3) のため、表を表 &V2 の従属表として定義することはできません。

CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントのオブジェクト表を、以下のいずれかの理由コードで、表 &V2 の従属表として定義できないので、参照制約を定義することができません。

- (01) 関連自己参照が、SET NULL 削除規則と一緒に存在します。
- (02) 関連は、複数の表のサイクルを形成し、結果として連結削除により該当の表自身が削除されます (サイクル内の他のすべての削除規則は CASCADE です)。
- (03) 複数の関連を経由し、既存の関連の削除規則が SET NULL であることで、関連により、指示された表まで連結削除する結果になります。

既存関連の削除規則は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された削除規則ではなく、エラーを引き起こします。

&V1 は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された制約名です。

ユーザーの処置:

CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの特定の FOREIGN KEY 文節を除去して、ステート

メントを再度実行してください。

DSQ18633 FOREIGN KEY &V1 の削除規則は &V2 でなければなりません。

説明:

CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された削除規則が無効です。理由コードは &V3 です。指示された削除規則は、以下のいずれかの理由コードで要求されています。

- (01) 参照制約は自己参照であり、既存の自己参照制約には指示された削除規則 (NO ACTION、RESTRICT または CASCADE) が含まれています。
- (02) 参照制約は自己参照です。表は CASCADE の削除ルールとの関係において従属的です。
- (03) 当該関係において、表は複数の関係を通して同じ表に連結削除されます。そのような関係の削除ルール (NO ACTION、RESTRICT または CASCADE) は同じでなければなりません。

&V1 は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で指定された制約名です。

ユーザーの処置:

削除規則を変更し、ステートメントを再度実行してください。

DSQ19104 &V3 またはその前で SQL エラーが発生しました。

説明: 206 ページの『DSQ18104』を参照してください。

DSQ19440 名前 &V2 では、互換性がある引数を持つ &V1 は見つかりませんでした。

説明: 206 ページの『DSQ18440』を参照してください。

DSQ19441 DISTINCT または **ALL** を &V1. とともに使用することは無効です。

説明:

キーワード DISTINCT または ALL が、関数 &V1. への参照の括弧内で検出されました。この関数はスカラー関数として認識されました。

ユーザーの処置:

スカラー関数が使用されている場合は、キーワード DISTINCT または ALL を除去してください。これは

スカラー関数には無効です。

列関数が使用されている場合、関数解決に問題があります。特殊レジスター CURRENT FUNCTION PATH の値を調べてください。また関数名のスペル、および照会とシステム・カタログの両方にあるパラメーターの数とタイプも検査してください。

DSQ19557 指定された組み合わせで特権を付与または取り消すことができません。

説明: 206 ページの『DSQ18557』を参照してください。

DSQ19632 FOREIGN KEY &V1 は無効です。

説明: 206 ページの『DSQ18632』を参照してください。

DSQ19633 FOREIGN KEY &V1 の削除規則は &V2 でなければなりません。

説明: 『DSQ18633』を参照してください。

第 5 章 DSQ20005 - DSQ23738

これらの標準 QMF メッセージは、QMFの実行中に発生するエラーに対するものです。メッセージには、ソリューションを提供したり、エラーを診断したりするのに役立つ情報が含まれています。

DSQ20001 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20002 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20003 &V2 が見つかりません。

説明:

コマンドに「&V2」が指定されていますが、データベースにその名前を持つものがありません。別名を使用している場合は、その別名が参照する表がありません。

ユーザーの処置:

スペルの誤りがないかどうかを検査してください。別名を使用している場合は、関連する表があるか調べてください。LIST コマンドを使用すれば、オブジェクトのリストが見られます。「LIST ?」コマンドは、LIST オプションを指示します。

DSQ20004 &V2 が見つかりません。

説明:

名前「&V2」が &V1 コマンドで、または &V1 コマンドの処理の結果で見つかりましたが、データベース中にその名前の付いたものは見つかりません。

このエラーは、以下の場合に発生する可能性があります。

- オブジェクト名のいずれかの部分 (データベースのロケーション名、所有者名、またはオブジェクト名自体を含む) が誤って記述されている。
- オブジェクトが別のユーザーによって所有されているため、所有者のユーザー ID でオブジェクトを修飾する必要がある。
- コマンドが参照するオブジェクトが、リモート・データベースには存在しているが、現在接続しているデータベースには存在していない。

現在接続しているデータベースの名前は、QMF ホーム・パネルに表示されます。

- QMF プロファイルで指定されている表スペースが存在しない。

ユーザーの処置:

- オブジェクト名全体にスペル誤りがないことを確認します。ロケーション名および所有者名を指定した場合は、それらのスペルも確認します。
- 以下のいずれかの LIST コマンドを使用して、ユーザーが使用する権限がある QMF およびデータベース・オブジェクトのリストを表示します。

```
LIST FORMS (OWNER=ALL
LIST PROCS (OWNER=ALL
LIST QUERIES (OWNER=ALL
LIST TABLES (OWNER=ALL
LIST ANALYTICS (OWNER=ALL
LIST ALL (OWNER=ALL
```

オブジェクトがリストに表示されていても、別のユーザーに所有されている場合は、オブジェクト名の先頭に所有者名、その後にピリオドを追加して、コマンドを再発行してください。例えば、ユーザー KRISTI によって所有されている TEST という名前の表を表示するには、以下のコマンドを発行します。

```
DISPLAY KRISTI.TEST
```

- 接続しているデータベースの名前を確認するには、SHOW HOME コマンドを使用します。コマンドで参照されるオブジェクト名がデータベースに存在することを確認してください。存在しない場合は、CONNECT コマンドを使用し、オブジェクトが保管されているデータベースに接続して、コマンドを再試行してください。
- &V2 が表スペースの名前である場合は、SHOW PROFILE コマンドを発行して SPACE オプションの値を確認してください。この表スペースが存在し、スペルが正しいこと、およびこの表スペースを使用する権限があることを QMF 管理者に確認してください。

QMF コマンドの詳細については、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ20005 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ20006 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20007 &V2 は RUN PROC では使用できません。**説明:**

オプション &V2 は、プロシージャの実行には使用できません。

ユーザーの処置:

&V2 およびその後の値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ20008 QMF オブジェクト名にロケーションを使用することはできません。

説明: 15 ページの『DSQ10131』を参照してください。

DSQ20009 このタイプのオブジェクトで名前 &V2 のものはありません。**説明:**

タイプ "&V1" のデータベースのオブジェクトに、名前 "&V2" のオブジェクトがありません。オブジェクトは存在しますが、別のタイプのオブジェクトです。

ユーザーの処置:

オブジェクト・タイプまたはオブジェクト名を変更するか、またはオブジェクト・タイプをブランクにしてください。コマンド LIST ALL を使用し、アクセスできるすべてのオブジェクトのリストを表示してください。

DSQ20010 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。**説明:**

SYSTEM PROBLEM IN THE FP FUNCTION.

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ20011 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20012 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20013 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20014 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20015 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ20010』を参照してください。

DSQ20016 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ20010』を参照してください。

DSQ20017 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ20019 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20020 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20021 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20022 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20023 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20024 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20025 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20035 **OK、&V1** コマンドは正常に実行されました。

DSQ20037 カーソルが **&V1** に適した位置にあります。

説明:

SPECIFY を使用する場合には、カーソルが表示されている列の画面移動可能域にあるか、列情報の行が表示されていないかならなりません。

ユーザーの処置:

指定したい列にカーソルを移動して SPECIFY 機能キーを押してください (SPECIFY 機能キーが使用可能な場合)。または、コマンド行で SPECIFY と入力してカーソルを適切な列に移動し、Enter キーを押してください。

DSQ20038 **&V1** コマンドは現在使用できません。

説明:

当該パネルからは無効であるコマンドが発行されました。または、当該操作環境 (CICS など) では無効であるコマンドが発行されました。

ユーザーの処置:

他のコマンドを選択してください。

DSQ20039 **&V1** コマンドは現在使用できません。

説明: 『DSQ20038』を参照してください。

DSQ20040 **SPECIFY** コマンドに指定された名前は無効です。

説明:

&V2 は有効な名前ではありません。

SPECIFY コマンドの形式は次のとおりです。

SPECIFY name

「name」は、指示照会関数、または FORM.COLUMNS 関数です。

有効な指示照会関数は、Tables、Columns、Rows、Sort、Duplicates、または Timeperiod です。

有効な FORM.COLUMNS 関数は、Alignment または Definition です。

ユーザーの処置:

指示照会または FORM.COLUMNS パネルから、SPECIFY コマンドを、有効な name を続けて、または name を指定せずに再発行してください。SPECIFY コマンドについて詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ20041 **SPECIFY** コマンドに指定できる名前は 1 つだけです。

説明:

SPECIFY コマンドの形式は、「SPECIFY 名前」です。ここで、「名前」には指示照会の機能、または

DSQ20042 • DSQ20055

FORM.COLUMNS オブジェクトを指定します。

指示照会では、有効な指示照会の機能は、TABLES、COLUMNS、ROWS、SORT、DUPLICATES、および TIMEPERIOD です。

FORM.COLUMNS パネルでは、有効なオブジェクトは ALIGNMENT と DEFINITION です。

名前を指定しなくてもかまいません。指定しないと、「指定」ダイアログ・パネルが表示されます。

ユーザーの処置:

名前を 1 つ指定するかまたは名前を指定しないで SPECIFY コマンドを再入力してください。

DSQ20042 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明:

コマンド「&V1 (something)」が入力されました。QMF は、&V1 がある場合は括弧の後のオプションを処理できません。コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置:

左括弧およびそれ以降のすべてを取り除いてください。

DSQ20043 ER 指示照会では SPECIFY の後には VIEW と指定しなければなりません。

説明:

SPECIFY コマンドの形式は SPECIFY name です。「name」は指示照会機能です。有効な ER 指示照会機能は VIEW だけで、必須です。

ユーザーの処置:

SPECIFY VIEW コマンドを、再度入力してください。

DSQ20045 OK、&V1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ20046 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明:

次のコマンドの後には名前やオプションの指定はできません。

BOTTOM DELETE CHANGE	ENLARGE INSERT PREVIOUS	REDUCE TOP NEXT	CHECK STATE
----------------------------	-------------------------------	-----------------------	----------------

表編集プログラム、または大域変数リストで FORWARD または BACKWARD コマンドの後に、名前やオプションは使用できません。

PF キーを押して、コマンドを与える場合には、そのさいにコマンド行になにもないことを確認してください。

ユーザーの処置:

&V1 の後にあるものをすべて除去した上で、コマンドを再入力してください。

DSQ20047 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明: 『DSQ20042』を参照してください。

DSQ20048 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ20049 LIST がアクティブの間は、&V1 コマンドを発行することはできません。

説明:

LIST が表示されている間は、このコマンドをリスト・パネル、および QMF コマンド・パネルの入力フィールドで使用することはできません。

ユーザーの処置:

ファンクション・キーを使用して、このコマンドを実行してください。

DSQ20051 OK、コマンドは取り消されました。

DSQ20054 フォルダー名が最大長の &V1 文字を超えています。

DSQ20055 DSQEC_CURR_FOLDER がフォルダー名であれば、FOLDER はブランクにできません。

説明:

DSQEC_CURR_FOLDER 大域変数にフォルダー名が設定されている場合、FOLDER キーワードはブランクに設定できません。DSQEC_CURR_FOLDER 大域変数によって指定されているフォルダー名をオーバーライドする有効なフォルダー名を FOLDER キーワード・フィールドに使用してください。フォルダー名のオーバーライドにブランクは使用できません。フォルダーの処理が &V1 コマンドに必要な場合は、DSQEC_CURR_FOLDER 大域変数からフォルダー名を除去します。

ユーザーの処置:

以下のいずれかのステップを実行して、&V1 コマンドを再実行してください。

- 引き続き、大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER からデフォルト・フォルダー名を使用して &V1 コマンドを実行します。
- フォルダー名を、&V1 コマンドで使用するフォルダー名に変更します。
- &V1 コマンドの処理を終了し、SHOW GLOBALS コマンドを使用して DSQEC_CURR_FOLDER 大域変数にブランクを設定します。

DSQ20056 QMF フォルダー・オブジェクトがサポートされていない場合、**FOLDER** キーワードは無効です。

説明:

DB2 Server for VM and VSE データベースに接続している場合、QMF フォルダー・オブジェクトはサポートされません。

ユーザーの処置:

FOLDER キーワードをコマンドから除去し、コマンドを再実行してください。

DSQ20057 FOLDER キーワードは、現在の &V1 コマンドでは無効です。

説明:

QMF フォルダー・オブジェクトには、DB2 の表やビューではなく、QMF オブジェクトのみが含まれます。

FOLDER キーワードは、以下のリストにあるコマンドで有効です。

```
SAVE  QUERY, PROC or FORM
LIST  QUERIES, PROCS, FORMS, ANALYTICS, FOLDERS, QMF, or ALL
ERASE QUERY, PROC, FORM, or ANALYTICS
```

ユーザーの処置:

キーワードを変更または除去してから、コマンドを再実行してください。

DSQ20058 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明:

&V1 コマンドのプロンプト・パネルのメッセージは、エラー・メッセージではありません。 &V1 コマンドを完了し実行するため、プロンプト・パネルの指示にしたがうように通知しています。

ユーザーの処置:

パネルのフィールド (単数または複数) に入力し、ENTER キーを押してコマンドを実行してください。 必

須フィールドがすでに指定されている場合は、ENTER キーを押してください。

DSQ20059 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20060 OK, &V1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ20061 OK, &V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20062 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20063 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20064 &V2 は **LIST** コマンドのオブジェクト・タイプには無効です。

説明:

新しいデータベース・オブジェクト・リストを組み立てるためには、LIST コマンドで次のオブジェクト・タイプのうちの 1 つを指定する必要があります。

```
QUERIES - Lists Queries
PROCS   - Lists Procs
FORMS   - Lists Forms
ANALYTICS - Lists Analytics
FOLDERS - Lists Folders
QMF     - Lists Queries, Procs, Forms, Analytics, and Folders
TABLES  - Lists Tables
ALL     - Lists Queries, Procs, Forms, Analytics, Folders, and Tables
```

ユーザーの処置:

有効なオブジェクト・タイプを指定して、LIST コマンドを入力し直してください。

DSQ20065 LIST コマンドに指定されたタイプが多すぎます。

説明:

LIST コマンドの形式は以下のとおりです。

```
LIST "type" (options
```

「type」には ALL、QUERIES、PROCS、FORMS、ANALYTICS、FOLDERS、QMF、または TABLES

DSQ20066 • DSQ20071

を指定でき、その後にオプション・キーワード NAME、OWNER、および LOCATION を続けることができます。

ユーザーの処置:

単一のタイプを指定するように LIST コマンドを変更し、コマンドを再発行してください。

DSQ20066 LIST コマンドの OWNER の値が脱落しています。

説明:

LIST コマンドの OWNER キーワードを指定する場合、このキーワードには値を与えなくてはなりません。この値は &LA. 文字以下でなければならず、先頭を空白にすることはできません。

ユーザーの処置:

OWNER の値を指定して、LIST コマンドを入力し直してください。

DSQ20067 LIST コマンドの OWNER 値が無効です。

説明:

指定した場合、LIST コマンドの OWNER キーワードには値が必要です。この値は最大 &LA. 文字まで指定でき、先頭を空白にすることはできません。

ユーザーの処置:

OWNER キーワードの値を訂正し、LIST コマンドを入力し直してください。

DSQ20068 LIST コマンドの NAME の値が指定されていません (The NAME value of the LIST command is missing.)

説明:

LIST コマンドの NAME キーワードを指定している場合は、値を指定する必要があります。 &LS. への現行データベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト名は &LN. 文字まで指定できません。
- データベース・オブジェクト名は <. 文字まで指定できます。

先頭に空白を指定することはできません。

ユーザーの処置:

NAME の値を指定して、LIST コマンドを入力し直してください。

DSQ20069 LIST コマンドにおける NAME 値が無効です。(The NAME value in the LIST command is invalid.)

説明:

LIST コマンドの NAME キーワードを指定している場合は、値を指定する必要があります。 &LS. への現行データベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト名は &LN. 文字まで指定できません。
- データベース・オブジェクト名は <. 文字まで指定できます。

先頭に空白を指定することはできません。

ユーザーの処置:

NAME キーワードの値を訂正し、LIST コマンドを入力し直してください。

DSQ20070 &V2 は LIST コマンドに対しては無効です。

説明:

オプション &V2 は LIST コマンドでは使用できません。以下にリストされているオプションのみを使用します。

```
OWNER
NAME
FOLDER          (not valid for LIST TABLES)
```

ユーザーの処置:

オプションを変更または除去してから、コマンドを再実行してください。

DSQ20071 LIST コマンドのオプションにオブジェクト・タイプを指定しなければなりません。

説明:

LIST コマンドにオプションまたはオブジェクト・タイプを指定しないと、現在のデータベース・オブジェクト・リストが表示されます。オプションが指定されている LIST コマンドには、新しいオブジェクト・リストを作成するために以下のオブジェクト・タイプのいずれかを指定する必要があります。

```
QUERIES - Lists Queries
PROCS   - Lists Procs
FORMS   - Lists Forms
ANALYTICS - Lists Analytics
FOLDERS - Lists Folders
QMF     - Lists Queries, Procs, Forms, Analytics, and Folders
TABLES  - Lists Tables
ALL     - Lists Queries, Procs, Forms, Analytics, Folders, and Tables
```

ユーザーの処置:

現在のオブジェクト・リストを表示する場合は LIST コマンドのオプションを削除し、新しいリストを作成する

場合はオブジェクト・タイプを指定して、LIST コマンドを再発行してください。

DSQ20072 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20073 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20074 このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明: 10 ページの『DSQ10013』を参照してください。

DSQ20075 現行リストが存在しません。

説明:

名前付きオブジェクト・タイプを付けて LIST コマンドを最初に使用してください。例えば、次のようになります。

```
LIST QUERIES
```

ユーザーの処置:

オブジェクト・タイプとオプションを付けて LIST コマンドを入力するか、または LIST ? と入力して、指示を受けてください。

DSQ20076 LIST コマンドに合致するオブジェクトが見つかりません。

説明:

LIST コマンドで指定されたタイプまたはオプションが、データベースにあるいずれのオブジェクトにも適合しませんでした。または、オブジェクト所有者が SHARE=YES を指定しませんでした。

ユーザーの処置:

LIST TYPE または LIST オプションを変更して、コマンドを再実行してください。

DSQ20077 OK、コマンドは取り消されました。

DSQ20079 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20080 LIST コマンドの LOCATION 値が欠落しています。

説明:

LIST コマンドの LOCATION キーワードを指定する場合は、キーワードに値を指定しなければなりません。値は 16 文字までで、ブランクで始めてはなりません。

ユーザーの処置:

LOCATION に値を指定してから LIST コマンドをもう一度出してください。

DSQ20081 LIST コマンドの LOCATION 値が無効です。

説明:

LIST コマンドの LOCATION キーワードを指定する場合は、キーワードに値を指定しなければなりません。値は 16 文字までで、ブランクで始めてはなりません。

ユーザーの処置:

LOCATION キーワードの値を訂正してから LIST コマンドをもう一度出してください。

DSQ20082 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

機能コードの指定がないか、または誤っています。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ20083 ダイアログ・パネルを表示しているとき、LIST の後になにも指定しないでください。

説明:

ダイアログ・パネルが表示されているときには、LIST コマンドの後には名前もオプションも指定できません。

DSQ20084 • DSQ20089

ダイアログの文脈に従って LIST はダイアログ・パネルに該当する項目リストを表示します。

ユーザーの処置:

LIST の後をすべて削除し、コマンドをふたたび入力してください。

DSQ20084 ダイアログ・パネルを表示しているとき、**LIST** の後になにも指定しないでください。

説明: 215 ページの『DSQ20083』を参照してください。

DSQ20085 **OK**、**&V1** コマンドは正常に実行されました。

DSQ20086 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20087 **FOLDER** キーワードに値が必要です。

説明:

&V1 コマンドの **FOLDER** キーワードにはフォルダー名が必要です。

例えば、次のコマンドは、保存済みの照会 (**ORDERS**) を、**FOLDER** キーワードで識別されるフォルダー (**SALES**) に追加します。

```
SAVE QUERY AS ORDERS (FOLDER = SALES)
```

次の **LIST** コマンドは、**SALES** という名前のフォルダーに含まれるすべての **QMF** 照会オブジェクトをリストします。

```
LIST QUERIES (FOLDER = SALES)
```

次の **ERASE** コマンドは、**SALES** という名前のフォルダーから、**ORDERS** という名前の照会オブジェクトを除去します。 **ORDERS** 照会オブジェクトはデータベースからは消去されません。

```
ERASE QUERY ORDERS (FOLDER = SALES)
```

使用上の注意:

1. **FOLDER** キーワードで入力された有効なフォルダー名は、大域変数 **DSQEC_CURR_FOLDER** で指定されたフォルダー名をオーバーライドします。
2. コマンドで **FOLDER** キーワードが使用されず、フォルダー名が大域変数 **DSQEC_CURR_FOLDER** に

よって指定されている場合、オブジェクトは、大域変数によって指定されているフォルダーに関連付けられません。

3. **FOLDER** キーワードが使用されず、大域変数 **DSQEC_CURR_FOLDER** がブランクである場合、コマンドはオブジェクトをフォルダー・オブジェクトに関連付けることなく完了します。

ユーザーの処置:

上記の例で示したように **FOLDER=** の後にフォルダー名を追加するか、またはコマンドから **FOLDER** キーワードを除去してから、**&V1** コマンドを再実行してください。

DSQ20088 **FOLDER** キーワードまたは **DSQEC_CURR_FOLDER** の修飾フォルダー名が無効です。

DSQ20089 **&V1** コマンドの **FOLDER** キーワードには、有効なフォルダー名が必要です。
(The **FOLDER** keyword on the **&V1** command requires a valid folder name.)

説明:

FOLDER キーワードで指定されるフォルダー名は、有効な **QMF** オブジェクト名でなければなりません。そのフォルダーは、コマンドの実行時にデータベース内に存在していなくてもかまいません。このフォルダー名は **QMF** オブジェクト・タイプ (**QUERY**、**PROC**、**FORM**、**ANALYTIC**、**FOLDER** など) にはできません。

「**&V2**」は無効な名前です。

次の例では、有効なフォルダー名が **SAVE** コマンドで指定されています。この例で、照会は **ORDERS** というオブジェクトとして保存され、そのオブジェクトは **SALES** というフォルダーに追加されます。

```
SAVE QUERY AS ORDERS (FOLDER = SALES)
```

次の **LIST** コマンドの例では、**SALES** という名前のフォルダーに対して識別されるすべての **QMF** 照会オブジェクトがリストされます。

```
LIST QUERIES (FOLDER = SALES)
```

次の **ERASE** コマンドは、**SALES** という名前のフォルダーから、**ORDERS** という名前の照会オブジェクトを除去します。 **ORDERS** 照会オブジェクトはデータベースからは消去されません。

```
ERASE QUERY ORDERS (FOLDER = SALES)
```

使用上の注意:

1. FOLDER キーワードとフォルダー名が &V1 コマンドで指定された場合、そのフォルダー名は、大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER によって指定されているフォルダー名をオーバーライドします。
2. &V1 コマンドで FOLDER キーワードが指定されず、フォルダー名が大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER によって指定されている場合、オブジェクトは、大域変数によって指定されているフォルダーに関連付けられます。
3. FOLDER キーワードが &V1 コマンドで使用されず、大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER がブランクの場合、&V1 コマンドはオブジェクトをいずれのフォルダー・オブジェクトにも関連付けることなく完了します。

ユーザーの処置:

以下のいずれかのステップを実行して、&V1 コマンドを再実行してください。

- 有効なフォルダー名を大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER に対して、または &V1 コマンドの FOLDER キーワードに対して指定します。
- フォルダー名を大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER から、および &V1 コマンドの FOLDER キーワードから除去します。

DSQ20090 &V1 コマンドのフォルダー名が存在しません。(The folder name for the &V1 command does not exist.)

説明:

&V1 コマンドのフォルダー名 (&V2) はデータベース内のフォルダー・オブジェクトではありません。フォルダー名は、大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER を使用して、または &V1 コマンドに FOLDER キーワードを使用して設定できます。フォルダー名には、ワイルドカード文字である「%」も「_」も使用できません。

使用上の注意:

1. FOLDER キーワードで入力された有効なフォルダー名は、大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER で指定されたフォルダー名をオーバーライドします。
2. コマンドで FOLDER キーワードが使用されず、フォルダー名が大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER によって指定されている場合、&V1 コマンドは、大域変数で指定されているフォルダー名を使用して実行されます。
3. FOLDER キーワードが使用されず、大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER がブランクである場合、コマンドはフォルダー・オブジェクトを使用せずに完了します。

ユーザーの処置:

以下のいずれかのステップを実行して、&V1 コマンドを再実行してください。

- 有効なフォルダー名を大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER に対して、または &V1 コマンドの FOLDER キーワードに対して指定します。
- フォルダー名を大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER から、および &V1 コマンドの FOLDER キーワードから除去します。

DSQ20091 FOLDER キーワードが指定されている場合、ワイルドカードは許可されません。

説明:

FOLDER キーワードが SAVE コマンドおよび LIST コマンドに組み込まれている場合、ワイルドカード文字は許可されません。SAVE コマンドまたは LIST コマンドでフォルダーを設定するには、DSQEC_CURR_FOLDER 大域変数を設定するか、または FOLDER キーワードをコマンドに組み込みます。

SAVE コマンドを実行するときは、FOLDER キーワードに対して指定するフォルダー名にワイルドカードを含めることはできません。

LIST コマンドを実行してフォルダーの内容を表示するときに、FOLDER、OWNER、および NAME キーワードに対して指定する名前にワイルドカードを含めることはできません。

使用上の注意:

1. FOLDER キーワードで指定された有効なフォルダー名は、大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER で設定されたフォルダー名をオーバーライドします。
2. コマンドで FOLDER キーワードが使用されず、大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER にフォルダー名が設定された場合、そのコマンドは、大域変数によって指定されたフォルダー名を使用して実行されません。
3. FOLDER キーワードが使用されず、大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER がブランクである場合、コマンドはフォルダー・オブジェクトを使用せずに完了します。

ユーザーの処置:

以下のいずれかのステップを実行して、&V1 コマンドを再実行してください。

- 大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER 内のフォルダー名から、または &V1 コマンドの FOLDER キーワード内のフォルダー名からワイルドカード文字「%」または「_」を除去します。また、LIST コマンドで

DSQ20092 • DSQ20114

OWNER キーワードと NAME キーワードの一方または両方が使用されている場合も、キーワードから同様にワイルドカード文字「%」および「_」を除去します。

- FOLDER キーワードを使用しません。大域変数 DSQEC_CURR_FOLDER からフォルダー名を除去するか、または &V1 コマンドから FOLDER キーワードを除去します。

DSQ20092 OK。データベース・オブジェクト・リストが表示されています。

DSQ20093 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20094 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20095 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20100 DSQEC_CURR_FOLDER がフォルダー名であれば、FOLDER はブランクにできません。

説明: 212 ページの『DSQ20055』を参照してください。

DSQ20101 QMF フォルダー・オブジェクトがサポートされていない場合、FOLDER キーワードは無効です。

説明: 213 ページの『DSQ20056』を参照してください。

DSQ20102 FOLDER キーワードは、現在の &V1 コマンドでは無効です。

説明: 213 ページの『DSQ20057』を参照してください。

DSQ20103 FOLDER キーワードに値が必要です。

説明: 216 ページの『DSQ20087』を参照してください。

DSQ20104 FOLDER キーワードまたは DSQEC_CURR_FOLDER の修飾フォルダー名が無効です。

DSQ20105 &V1 コマンドの FOLDER キーワードには、有効なフォルダー名が必要です。
(The FOLDER keyword on the &V1 command requires a valid folder name.)

説明: 216 ページの『DSQ20089』を参照してください。

DSQ20106 &V1 コマンドのフォルダー名が存在しません。(The folder name for the &V1 command does not exist.)

説明: 217 ページの『DSQ20090』を参照してください。

DSQ20107 &V1 がフォルダー・オブジェクトで見つかりません。(&V1 cannot be found in the folder object.)

説明:

名前「&V1」がコマンド内に見つかりましたが、&V1 はフォルダー &V3 内の &V2 オブジェクトとして見つかりません。

ユーザーの処置:

スペルの誤りがないかどうかを検査してください。 フォルダー内のオブジェクトをリストで参照するには、LIST コマンドを使用できます。「LIST ?」コマンドは、LIST オプションを指示します。

DSQ20108 OK。&V1 がフォルダー &V2 から除去されました。

DSQ20109 フォルダー名が最大長の &V1 文字を超えています。

DSQ20110 ワイルドカード「%」および「_」はフォルダー名の一部として使用できません。

DSQ20114 &V1 はコマンドではありません。

説明:

このエラーは、QMF コマンド行に入力された内容が以下の場合に発生します。

- 有効な QMF コマンドでない

- 有効な QMF コマンドであるが、QMF コマンド行から発行できないコマンドである
- 有効なコマンド同義語でない
- 有効なコマンド同義語であるが、QMF セッションに使用される同義語表に定義されていない

ユーザーの処置:

- コマンドまたは同義語が正しく入力されていることを確認してください。コマンドを省略した場合は、有効な最小の省略形を使用したことを確認してください。コマンド省略形は、「DB2 QMF 解説書」に示されています。
- QMF プロファイルの CASE オプションが MIXED に設定されている場合は、コマンドを大文字で入力したことを確認してください。CASE 値を変更する必要がある場合、SET PROFILE コマンドの構文については、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。
- エラー・メッセージに示されているコマンドが「/*」かどうかを確認します。「/*」である場合は、エラーを受け取る直前に実行されていたロジックを持つプロシージャに、1 行以上の空白行が開始コメントの前に含まれているかどうかを確認してください。含まれている場合は、これらの行を削除してください。ロジック付きのプロシージャの開始コメントは、プロシージャの先頭行になければなりません。そうでなければ、プロシージャは線形プロシージャとして認識され、「/*」はコマンドとして認識されます。
- 発行したコマンドが START コマンドであるかどうかを確認してください。START コマンドは、QMF アプリケーション内からのみ発行できます。QMF アプリケーションの作成方法について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。
- 発行したコマンドが TRACE コマンドであるかどうかを確認してください。TRACE コマンドは、QMF 拡張構文をサポートする QMF 呼び出し可能インターフェース・アプリケーション内からのみ発行できません。QMF アプリケーションの作成方法について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。
- 発行しようとしているコマンドがコマンド同義語であるかどうかを確認するには、QMF 管理者に問い合わせてください。そうであった場合は、以下のようになります。
 - コマンドの先頭に「QMF」を入力していないことを確認してください。
 - QMF 管理者に問い合わせ、コマンド同義語が、QMF セッションに使用される同義語表に正しく定義されていることを確認してください。
 SHOW GLOBALS コマンドを発行し、

DSQAP_SYNONYM_TBL 変数の値を調べることで、この表の名前を表示することができます。

QMF 管理者は、Q.PROFILES コントロール表の SYNONYMS フィールドを直接確認することもできます。「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」に、コマンド同義語の定義方法についての説明があります。

デフォルト QMF コマンド同義語

(DPRE、BATCH、LAYOUT、ISPF、RUNTSO、および RU) は、Q.COMMAND_SYNONYMS コントロール表で定義されています (または Q.COMMAND_SYNONYM_n で定義されています。n は、英語以外の言語で QMF を使用している場合の各国語 ID です)。それらのコマンド同義語を機能させるには、QMF 管理者がその定義を、QMF セッションで使用される表に、それらがまだなければコピーする必要があります。

有効な QMF コマンドの詳細については、コマンド SHOW HOME を発行して QMF ホーム・パネルを表示し、ヘルプ・キーを押してトピックのリストを表示してください。

DSQ20115 &V1 はコマンドではありません。

説明: 218 ページの『DSQ20114』を参照してください。

DSQ20116 &V1 はコマンドではありません。

説明: 218 ページの『DSQ20114』を参照してください。

DSQ20117 &V1 はコマンドではありません。

説明: 218 ページの『DSQ20114』を参照してください。

DSQ20118 &V1 はコマンドではありません。

説明:

指定したコマンド &V1 は、QMF コマンドであるか、またはコマンド同義語である必要があります。次のいずれかの状態によってエラーが引き起こされた可能性があります。

- コマンドのスペルが誤っているか、省略形が短すぎる。
- コマンドが小文字であり、CASE オプションが MIXED である。
- 「QMF」コマンドに続くコマンド同義語である。

- これは有効なコマンド同義語です。ただし、QMF セッションに使用される同義語表には定義されていません。

ユーザーの処置:

正しいコマンドを見つけて使用してください。場合によっては、以下を行う必要があります。

- QMF ホーム・パネルからヘルプ・キーを押してメインメニューを表示する。メインメニューから QMF コマンドのリストにアクセスできます。
- 大文字を使うか、または PROFILE の CASE オプションを UPPER または STRING に変更する。
- 発行しようとしているコマンドがコマンド同義語であるかどうかを確認するには、QMF 管理者に問い合わせてください。そうであった場合は、以下のようになります。

- コマンドの先頭に「QMF」を入力していないことを確認してください。
- QMF 管理者に問い合わせ、コマンド同義語が、QMF セッションに使用される同義語表に正しく定義されていることを確認してください。

SHOW GLOBALS コマンドを発行し、DSQAP_SYNONYM_TBL 変数の値を調べること、この表の名前を表示することができます。QMF 管理者は、Q.PROFILES コントロール表の SYNONYMS フィールドを直接確認することもできます。「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」に、コマンド同義語の定義方法についての説明があります。

デフォルト QMF コマンド同義語 (DPRE、BATCH、LAYOUT、ISPF、RUNTSO、および RU) は、Q.COMMAND_SYNONYMS コントロール表で定義されています (または Q.COMMAND_SYNONYM_n で定義されています。n は、英語以外の言語で QMF を使用している場合の各国語 ID です)。それらのコマンド同義語を機能させるには、QMF 管理者がその定義を、QMF セッションで使用される表に、それらがまだなければコピーする必要があります。

DSQ20119 &V1 はコマンドではありません。

説明: 219 ページの『DSQ20118』を参照してください。

DSQ20120 &V1 はコマンドではありません。

説明: 219 ページの『DSQ20118』を参照してください。

DSQ20121 &V1 はコマンドではありません。

説明: 219 ページの『DSQ20118』を参照してください。

DSQ20122 QMF コマンドを QMF の後に続けなければなりません。

説明:

QMF コマンドを QMF の後に続けなければなりません。例えば、次のようになります。

```
QMF DISPLAY Q.STAFF
```

QMF コマンドの反復は無効です。例えば、次のコマンドは無効です。

```
QMF QMF DISPLAY Q.STAFF
```

ユーザーの処置:

QMF の後に有効な QMF を使用してください。

DSQ20124 インストール先で定義されたコマンドを QMF に続けることはできません。

説明:

QMF の後に、インストール先で定義されたコマンドが使用されました。QMF の後に指定できるのは QMF コマンドのみです。例えば、次のようになります。

```
QMF DISPLAY Q.STAFF
```

ユーザーの処置:

コマンドから QMF を除去するか、QMF の後に QMF コマンドを使用してください。

DSQ20125 &V1 の後にオブジェクト名を続けなくてはなりません。

説明:

&V1 は、インストール先で定義した、動詞とオブジェクトの両方を含むコマンドの動詞部分です。オブジェクト名のスペルが誤っているか、またはオブジェクト名がありません。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境で定義されている表を参照して、完全なコマンド名を見つけてください。そのうえで、その完全な名前をコマンド域に入れてください。このコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。データベース・オブジェクト・リストから QMF コマンドを入力する場合の詳細については、LIST コマンドのヘルプを参照してください。

DSQ20126 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20127 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20128 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20129 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20130 インストール先で定義したコマンドが長過ぎます。

説明:

&ALL 変数を含む定義が使われています。この変数は、コマンド行から入力された情報によって置き換えられます。&ALL が単一引用符に囲まれている場合、コマンド行の置き換え情報の中に含まれる引用符は 2 つの引用符になります。その結果、コマンド定義が上限の 510 文字を超えます。

ユーザーの処置:

置き換え情報を短くするか、またはコマンド定義を短くする必要があります。QMF 管理者、またはそれと同等の知識を持つ人に援助を求めてください。

DSQ20131 インストール先で定義したコマンドが長過ぎます。

説明: 『DSQ20130』を参照してください。

DSQ20132 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20133 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20139 LIST がアクティブの間は、&V1 コマンドを発行することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20049』を参照してください。

DSQ20140 OK、&V1 &V2 は正常に実行されました。

DSQ20141 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ20142 SWITCH の後の名前が多すぎます。

説明:

SWITCH コマンドの使用可能な形式は、SWITCH COMMENTS です。ファンクション・キーで SWITCH コマンドを出す場合は、キーを押す時にコマンド行に何も入力されていないことを確認してください。

ユーザーの処置:

SWITCH コマンドを上記形式に変更して、もう一度実行してください。

DSQ20143 &V2 は &V1 と一緒に使用できません。

説明:

&V2 は &V1 コマンドと一緒に使用することは許されません。

ユーザーの処置:

&V1 コマンドには、COMMENTS のみが使用できません。

DSQ20144 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20042』を参照してください。

DSQ20145 &V1 の後に COMMENTS を使用してください。

説明:

COMMENTS は &V1 コマンドに続けなければなりません。使用可能な形式は SWITCH COMMENTS です。

ユーザーの処置:

DSQ20146 • DSQ20161

&V1 コマンドの後に、COMMENTS を使用してください。

DSQ20146 SWITCH コマンドの使い方が正しくありません。

説明:

このパネルでは無効なコマンドを出しました。 HELP コマンドと関連する SWITCH オプションを使用する場合は、次の形式にしてください。 HELP SWITCH

ユーザーの処置:

SWITCH オプションを使って HELP コマンドを使用する場合は、コマンドを HELP SWITCH に変更するか、または他のコマンドを選択してください。

DSQ20147 OK、SORT パネルが表示されました。項目を選択して ENTER キーを押してください。

DSQ20148 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してください。

DSQ20149 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20042』を参照してください。

DSQ20150 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ20151 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20152 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20153 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20154 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20155 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20156 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20157 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20158 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20159 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20160 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20161 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20162 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20163 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20164 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20165 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20166 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20167 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20168 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20169 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20170 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20171 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20184 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20185 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 209 ページの『DSQ20005』を参照してください。

DSQ20186 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

最後のコマンド &V1 からメッセージは生成されませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ20200 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20201 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20202 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20203 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20204 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20206 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20207 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20208 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20210 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20211 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20212 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20213 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20215 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DM 機能コマンド・バッファが小さすぎます。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。 QMF の使用を続けることができません。

DSQ20216 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20217 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20218 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ20215』を参照してください。

DSQ20219 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ハードウェアから無効な PFK コードが戻されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ20220 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 224 ページの『DSQ20215』を参照してください。

DSQ20222 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20223 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20224 F&V1 はこのパネルでは使用できません。

説明:

F&V1 を押しましたが、現在のパネルではそれに対応する処置がありません。

ユーザーの処置:

現在のパネル上でラベルが付けられているファンクション・キーだけを使用してください。

DSQ20225 F&V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 『DSQ20224』を参照してください。

DSQ20226 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20227 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20228 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20229 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20230 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ20240 OK。前のコマンド(BACK &V1)が検索されました。

DSQ20241 検索可能なコマンドが入力されていません。

説明:

RETRIEVE コマンドは、コマンド行に既に入力されたテキストを再び呼び出して置き換えます。現在のセッション中には、コマンド行になにも入力されていません。以前にコマンド行にコマンドを入力した場合は、最後のコマンドが新しい QMF セッションを起動したためそのコマンドを取得できないと考えられます。

ユーザーの処置:

コマンド行を使ってコマンドを実行するまでは、RETRIEVE コマンドを使用しないでください。

DSQ20243 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20244 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20245 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ20246 **DSQEC_SAV_ACCELNM** がブランクの場合は、**&V1** または **&V2** が必要です。
(**&V1 or &V2 is required when DSQEC_SAV_ACCELNM is blank.**)

説明:

DSQEC_SAV_ALLOWED 大域変数は **&V3** です。
DSQEC_SAV_ACCELNM 大域変数にアクセラレーター名が指定されませんでした。 DSQEC_SAV_ALLOWED に 4 が設定されているときに

DSQEC_SAV_ACCELNM がブランクである場合は、**&V1** キーワードまたは **&V2** キーワードを指定する必要があります。

ユーザーの処置:

&V1 キーワード、**&V2** キーワード、または DSQEC_SAV_ACCELNM 大域変数にアクセラレーター名を設定し、コマンドを再発行してください。

DSQ20247 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20248 **DSQEC_SAV_ACCELNM** がブランクの場合、**&V1** は必須です。(**&V1 is required when DSQEC_SAV_ACCELNM is blank.**)

説明:

DSQEC_SAV_ALLOWED 大域変数は **&V2** です。
DSQEC_SAV_ACCELNM 大域変数にアクセラレーター名が指定されませんでした。 DSQEC_SAV_ALLOWED に 2 が設定されているときに

DSQEC_SAV_ACCELNM 大域変数がブランクである場合は、**&V1** キーワードを指定する必要があります。

ユーザーの処置:

DSQEC_SAV_ACCELNM 大域変数または **&V1** キーワードにアクセラレーター名を設定して、コマンドを再発行してください。

DSQ20249 完全な **&V1** キーワードを入力してください。

説明:

&V1 の後に値が必要です。大域変数 DSQEC_SAV_ALLOWED の設定によっては、**&V1** キーワードのデフォルト値を DSQEC_SAV_ACCELNM 大域変数から取得できます。

ユーザーの処置:

&V1 キーワードの値を入力するか、またはこのキーワードを削除して、コマンドを再発行してください。

DSQ20250 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20251 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20252 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20253 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20254 **&V1** キーワード値が長すぎます。(**The &V1 keyword value is too long.**)

説明:

入力された **&V1** の名前 **&V2** が長すぎます。長さは **&V5** 文字です。**&V1** キーワードに指定される名前は 128 文字に制限されます。また、その名前は、データベースに対して定義されている有効な照会アクセラレーター名でなければなりません。

ユーザーの処置:

&V1 キーワードの値を訂正して、QMF **&V3** **&V4** コマンドを再発行してください。

DSQ20255 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20256 **DSQEC_SAV_ALLOWED=0** の場合、
&V1 &V2 コマンドは使用できません。
(&V1 &V2 command cannot be used
when DSQEC_SAV_ALLOWED=0.)

説明:

大域変数 **DSQEC_SAV_ALLOWED** に 0 を設定した場合は、Save Data、インポート Table、または Run Query を Table キーワード・コマンドで実行することはできません。

ユーザーの処置:

&V1 &V2 コマンドを使用したい場合は、**DSQEC_SAV_ALLOWED** 大域変数に 1 から 4 までの値を設定してください。その後で **&V1 &V2** コマンドを再発行してください。

DSQ20257 **&V2** は **SAVE QUERY** では使用できません。

説明:

オプション **&V2** は **SAVE QUERY** コマンドでは使用できません。**SAVE QUERY** コマンドでは、オプションとして **CONFIRM**、**SHARE**、**COMMENT**、または **FOLDER** のみを使用してください。

ユーザーの処置:

&V2 をその後の値とともに除去するか有効なオプションで置換して、コマンドを再発行してください。

DSQ20258 **&V2** は **SAVE FORM** では使用できません。

説明:

オプション **&V2** は **SAVE FORM** コマンドでは使用できません。**SAVE FORM** コマンドでは、オプションとして **CONFIRM**、**SHARE**、**COMMENT**、**FOLDER**、または **LANGUAGE** のみを使用してください。

ユーザーの処置:

&V2 をその後の値とともに除去するか有効なオプションで置換して、コマンドを再発行してください。

DSQ20259 **&V2** は **SAVE PROC** では使用できません。

説明:

オプション **&V2** は **SAVE PROC** コマンドでは使用できません。**SAVE PROC** コマンドでは、オプションとして **CONFIRM**、**SHARE**、**COMMENT**、または **FOLDER** のみを使用してください。

ユーザーの処置:

&V2 をその後の値とともに除去するか有効なオプションで置換して、コマンドを再発行してください。

DSQ20260 **SPACE** オプションを完成させてください。

説明:

SPACE の後に値が必要です。次の値を指定できます。

1. ' '
2. name1.name2
3. 'DATABASE name1'

name1 must be the name of an existing database

name2 must be the name of an existing table space

ユーザーの処置:

有効な値を **SPACE** 後に追加するか、または **SPACE** を削除してください。

DSQ20261 **SPACE** オプションを完成させてください。

説明:

SPACE の後に値が必要です。この値は次のいずれかです。

1. ' ' (コマンド行から)
2. spacename
3. id spacename

spacename must be the name of an existing database space, of 18 characters or less.

id must be an authorization identifier, of 8 characters or less.

プロンプト・パネルを使用してこのオプションを消去することはできません。

ユーザーの処置:

SPACE の後に正しい値を追加するか、または **SPACE** を削除してください。

DSQ20262 SPACE オプションを完成させてください。

説明:

SPACE の後に値が必要です。この値は次のいずれかです。

1. ' ' (コマンド行から)
2. spacename

Spacename must be the name of an existing table space and <. characters or less in length. The name cannot begin with SYS.

プロンプト・パネルを使用してこのオプションを消去することはできません。

ユーザーの処置:

SPACE の後に正しい値を追加するか、または SPACE を削除してください。

DSQ20263 DSQEC_SPAC_OVERRIDE が 0 であれば、SPACE キーワードは使用できません。

説明:

大域変数 DSQEC_SPAC_OVERRIDE に 0 が設定されている場合は、SPACE キーワードを使用して QMF プロファイルの SPACE オプションの値を変更することはできません。

ユーザーの処置:

SPACE オプションの値を変更したい場合は、DSQEC_SPAC_OVERRIDE 大域変数に 1 を設定して、コマンドを再発行してください。

DSQ20264 SPACE 値は 50 文字以下でなければなりません。

説明:

次の値が SPACE オプションに使用されました。

&V2

この値は、許容最大長の 50 を超えています。

ユーザーの処置:

SPACE 値を 50 文字以下に変更してください。

DSQ20265 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20266 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20267 QMF フォルダー・オブジェクトがサポートされていない場合、FOLDER キーワードは無効です。

説明: 213 ページの『DSQ20056』を参照してください。

DSQ20268 &V1 は &V2 &V3 コマンドで許可されていません。(&V1 is not allowed in the &V2 &V3 command.)

説明:

大域変数 DSQEC_SAV_ALLOWED に &V4 が設定されている場合は、&V1 キーワードを &V2 &V3 コマンドに指定できません。

ユーザーの処置:

&V1 キーワードを &V2 &V3 コマンドで使用したい場合は、適切な値を DSQEC_SAV_ALLOWED 大域変数に設定してください。その後で &V2 &V3 コマンドを再発行してください。

DSQ20269 &V1 は &V2 &V3 コマンドで許可されていません。(&V1 is not allowed in the &V2 &V3 command.)

説明: 『DSQ20268』を参照してください。

DSQ20270 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20271 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20272 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20273 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20274 &V2 は **SAVE QUERY** では使用できません。

説明: 227 ページの『DSQ20257』を参照してください。

DSQ20275 &V2 は **SAVE FORM** では使用できません。

説明: 227 ページの『DSQ20258』を参照してください。

DSQ20276 画面移動フィールドでは &V1 を用いることはできません。

説明:

画面移動フィールドは、コマンド行に移動量が入力されていない場合に画面移動量を制御します。このフィールドには、次の項目の 1 つを入れることができます。

1. 1 から 9999 の数。
2. PAGE - 1 パネル単位で画面移動したい場合
3. HALF - 半パネル単位で画面移動したい場合
4. MAX - 境界に達するまで画面移動したい場合
5. CSR - カーソルが境界に達するまで画面移動したい場合

例: 移動 ==> HALF

ユーザーの処置:

画面移動フィールドの内容を変更し、処理を続けてください。

DSQ20277 画面移動フィールドでは &V1 を用いることはできません。

説明: 『DSQ20276』を参照してください。

DSQ20278 画面移動フィールドでは &V1 を用いることはできません。

説明: 『DSQ20276』を参照してください。

DSQ20279 画面移動フィールドでは &V1 を用いることはできません。

説明: 『DSQ20276』を参照してください。

DSQ20280 画面移動値が必要です。

説明:

SCROLL ==> に続く有効な入力、以下のとおりです。

1. 1 から 9999 の数。これは移動の行数を制御します。
2. PAGE - 一度に 1 ページずつ画面移動したい場合。
3. HALF - 一度に半ページずつ画面移動したい場合。
4. MAX - 選択した方向の最終位置に達するまで画面移動したい場合。
5. CSR - カーソルの位置が画面の境界に達するまで画面移動したい場合。

ユーザーの処置:

画面移動値を入力した上で、コマンドを再実行してください。

DSQ20281 画面移動フィールドでは &V1 を用いることはできません。

説明: 『DSQ20276』を参照してください。

DSQ20282 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20283 &V2 は **SAVE PROC** では使用できません。

説明: 227 ページの『DSQ20259』を参照してください。

DSQ20284 同じコマンドに **SPACE** と **ACCELERATOR** の両方を指定することはできません。

説明:

&V1 &V2 コマンドで Space と アクセラレーター の両方が指定されました。2 つのキーワードのどちらか一方のみを指定できます。

ユーザーの処置:

どちらかのキーワードを除去し、&V1 &V2 コマンドを再発行してください。

DSQ20285 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20286 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20287 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20288 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20289 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20290 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20291 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20292 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20293 プロシージャは実行されましたが、警告付きで完了しました。

説明:

プロシージャは完了しましたが、正の SQL コードをデータベースから受け取りました。

この SQL コードは、プロシージャが発行したコマンドうちの 1 つに問題がある可能性があることを示しています。正の SQL コードは、コマンドが完了したが警告があることを示します。

ユーザーの処置:

エラーの原因となったコマンドは、以下の方法で判断できます。

230 DB2 QMF メッセージおよびコード

- 問題をトレースするためのトレース機能を設定します。

次のコマンドを使用して、メッセージとコマンドの詳細を最高レベルでログに記録するトレース機能を設定してください。

```
SET PROFILE (TRACE=L2
```

トレース機能の設定後に、プロシージャを再実行します。QMF 管理者にこの問題を報告して、トレース出力の調査と問題の診断を依頼してください。

結果のトレース出力には、この警告が表示される原因となった SQL コードが含まれます。この SQL コードの詳細について参照する場合は、ユーザー自身または QMF 管理者が、IBM Knowledge Center でコードを検索することができます。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

- INTERACT コマンドを使用して問題を判断します。プロシージャに INTERACT コマンドを追加して、プロシージャ内のどのコマンドがこの警告メッセージの原因となっているかのメモを取ることができます。エラーを受け取った場合は、ヘルプ・キーを押して SQL コード情報を参照できます。INTERACT コマンドの詳細は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

QMF がこのメッセージを発行するのは、DSQDC_POS_SQLCODE 大域変数が 2 に設定されている場合です。データベースが正の SQL コードを戻した際に QMF からこのメッセージを発行しないようにするには、この大域変数を 0 に設定します。QMF から、画面にはなく DSQDEBUG データ・セットに警告メッセージを発行するようにするには、この大域変数を 1 に設定します。

すべての QMF 大域変数とその値の説明のリストについては、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ20294 ストアード・プロシージャが完了しました。警告メッセージについては、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20295 これは **REPORT** です。警告メッセージについては、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20296 データベースが変更されました。警告メッセージについては、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20297 データベースが変更されました。警告メッセージについては、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20298 データベースが変更されました。警告メッセージについては、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20299 行数が変更されました: **&V2**。警告メッセージについては、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20300 行数が変更されました: **&V2**。警告メッセージについては、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20301 照会は実行されました。警告メッセージについては、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20302 ストアード・プロシージャが完了しました。警告メッセージについては、ヘルプ・キーを押してください。

DSQ20303 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20304 **&V1** キーワードはこのデータベース・タイプ/レベルでは無効です。(The **&V1 keyword is not valid at this database type or level.**)

説明:

&V2 **&V3** コマンドで **&V1** キーワードが入力されましたが、現在、このキーワードをサポートしないデータベース・タイプ/レベルで作業を行っています。データベースのタイプは **&V4** です。レベルは **&V5** です。**&V1** キーワードは **&V2** **&V3** コマンドで指定します。データベース・タイプ情報については、DSQAO_DB_MANAGER 大域変数を参照してください。

ユーザーの処置:

&V1 キーワードを **&V2** **&V3** コマンドで使用する場合は、照会アクセラレーターを使用して DB2 for z/OS バージョン 10.1 NFM 以上のデータベースに接続し、**&V2** **&V3** コマンドを発行してください。

DSQ20306 このコマンドの後には、有効なオブジェクト名が必要です。

説明:

&V1 **&V2** コマンドは、データベース内の既存の **&V2** オブジェクトとともに使用されます。したがって、コマンドに **&V2** 名を指定しなければなりません。

ユーザーの処置:

オブジェクト名を組み込み、コマンドを再試行してください。

DSQ20307 **&V3** はこのオブジェクト・タイプの後に続けられません。

説明:

オブジェクト **&V2** は、データベースではなく、一時記憶域にあります。このオブジェクトには名前が付けられていません。

ユーザーの処置:

&V3 を削除し、コマンドを再試行してください。

DSQ20308 **&V3** はこのオブジェクト・タイプの後に続けられません。

説明: 『DSQ20307』を参照してください。

DSQ20309 **&V2** は無効なオブジェクト・タイプです。

説明:

Display コマンドに使用できる形式は次のとおりです。

1. Display objecttype

Objecttype can be Query, Proc, Form, Profile, Chart, Report, 分析, or the name of a specific form panel.

2. Displayobjectname

Objectname is the name of an object in the database.

3. Display objecttype objectname

Objecttype can be Query, Proc, Form, 分析, or Table. Objectname is the name of an object in the database.

ユーザーの処置:

"**&V2**" を有効なオブジェクト・タイプに変更し、コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法

DSQ20310 • DSQ20316

については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ20310 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20311 このタイプのオブジェクトで名前 &V2 のものはありません。

説明: 210 ページの『DSQ20009』を参照してください。

DSQ20312 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20313 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明:

表またはビューの有効な名前は修飾できます (LOC.OWNER.NAME または OWNER.NAME)。QMF オブジェクトの有効な名前は、修飾できます (OWNER.NAME)。表、ビュー、または QMF オブジェクトの名前は非修飾にすることもできます (NAME)。非修飾の名前は、現在のロケーションと所有者の名前が使用されていることを前提とします。

&LS. への現在のデータベース接続では、以下がサポートされます。

- QMF オブジェクト所有者名は &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクトのオブジェクト名は &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・ロケーション名は 16 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト所有者名は &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名は <. 文字まで指定できます。

修飾子および名前は、二重引用符で囲んでも引用符なしのままにしてもかまいません。名前を引用符で囲まない場合、名前には、英数字のほか、「DB2 QMF 解説書」に定義されている文字を使用できます。名前を引用符で囲む場合、名前には、二重引用符以外の任意の文字を使

用できます。QMF オブジェクト・タイプの名前は、引用符で囲んだとしてもオブジェクト名としては使用できません。

ユーザーの処置:

&V3 を有効な名前に置き換えて、コマンドを再発行してください。このコマンドを LIST パネルから入力した場合は、LIST パネルのヘルプで、コマンドの形式が正しいかどうかを確認してください。

DSQ20314 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20315 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20316 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明:

「報告書ミニ・セッション」で報告書を表示していません。ミニ・セッション中では使用できないコマンドが出されました。報告書ミニ・セッション中は、次の処理だけが実行できます。

- QMF ヘルプ・パネルの使用
- 報告書の画面移動または印刷
- 図表の表示または印刷
- SET コマンドによるプロファイル・オプションまたは大域変数の設定
- QMF、ISPF、TSO、または CICS コマンドの発行
- コマンド行に「?」を入力して、コマンド行の以前のコマンドを取得
- END コマンドによるミニ・セッションの終了

報告書ミニ・セッション中に、アプリケーション (QMF プロシージャか、ユーザー作成のプログラムまたは exec) が実行できることは、次のとおりです。

- GET GLOBAL コマンドの発行
- INTERACT コマンドの実行
- MESSAGE コマンドの実行
- 対話式 QMF セッションから作業を行っている場合を除き SAVE コマンドでデータを保存

ユーザーの処置:

他のコマンドを選択するか、または END を出してください。

DSQ20317 &V2 が見つかりません。

説明: 209 ページの『DSQ20003』を参照してください。

DSQ20318 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20319 &V1 コマンドの処理エラーです。詳しくはヘルプ・キーを押してください。

DSQ20320 ICUFORM の後に値が必要です。

説明:

ICUFORM の値が欠落しています。この値は、GDDM ICU 図表フォーマットの名前か、図表タイプ BAR、LINE、PIE、SURFACE、HISTOGRAM、SCATTER、POLAR、TOWER、TABLE のいずれか、または、ICU デフォルト図表を許可する ICUCHART でなければなりません。

図表形式は、データをどのように図表化するかを記述するものです。図表形式は、ICU で作業している間にあらかじめ保存しておく必要があります。図表形式名の長さは 8 文字を超えてはなりません。

ICUFORM オプションを指定しないと、デフォルトの名前 DSQCFORM が使われます。

ユーザーの処置:

有効な ICUFORM 値を入れてください。それでも問題が解決しなければ、操作担当者またはシステム・プログラマーに連絡を取ってさらに援助を得てください。

DSQ20321 &V2 は有効な ICUFORM 値ではありません。

説明:

この ICUFORM 値は無効でした。この値は、GDDM ICU 図表形式の名前であるか、図表タイプ BAR、LINE、PIE、SURFACE、HISTOGRAM、SCATTER、POLAR、TOWER、または TABLE のいずれかであるか、または ICUCHART (ICU デフォルト図表を許可する) でなければなりません。

図表形式は、データをどのように図表化するかを記述するものです。図表形式は、ICU で作業している間にあらかじめ保存しておく必要があります。図表形式名の長さは 8 文字を超えてはなりません。

ICUFORM オプションを指定しないと、デフォルトの名前 DSQCFORM が使われます。

ユーザーの処置:

有効な ICUFORM 値を入れてください。それでも問題が解決しなければ、操作担当者またはシステム・プログラマーに連絡を取ってさらに援助を得てください。

DSQ20322 &V2 は有効な ICUFORM 値ではありません。

説明: 『DSQ20321』を参照してください。

DSQ20323 &V2 は有効な ICUFORM 値ではありません。

説明: 『DSQ20321』を参照してください。

DSQ20326 指定したオプションはこのタイプの DISPLAY コマンドでは使用できません。

説明:

このメッセージは、DISPLAY CHART コマンドに CONFIRM オプションを使用したか、または DISPLAY TABLE コマンドに ICUFORM オプションを使用した場合に発生します。

CONFIRM オプションは DISPLAY TABLE コマンドのみで有効です。ICUFORM オプションは DISPLAY CHART コマンドのみで有効です。

QMF コマンドについて詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

ユーザーの処置:

上記に説明したように、適切なオプションを指定してコマンドを再発行してください。

DSQ20328 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20329 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20330 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20335 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20336 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20337 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20338 &V1 コマンドには、処置を行う名前が必要です。

説明:

コマンドが不完全です。 &V1 は、名前が指定されたものに対して処置を行います。

ユーザーの処置:

コマンドにその処置を行う名前を追加した上で、コマンドを再実行してください。 このコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。データベース・オブジェクト・リストから QMF コマンドを入力する場合の詳細については、LIST コマンドのヘルプを参照してください。

DSQ20339 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明:

"&V1.&V2" は修飾名です。ユーザー ID &V1 は名前 &V2 を修飾していますが、ただし、以下の名前は修飾できません。

QUERY	DATA
FORM	REPORT
PROC	CHART
TABLE	PROFILE
ANALYTIC	FOLDER

ユーザーの処置:

有効な名前または修飾名になるように修飾名を変更し、コマンドを再実行してください。このコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。データベース・オブジェクト・リストから QMF コマンドを入力する場合の詳細については、LIST コマンドのヘルプを参照してください。

DSQ20340 &V2 は無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 231 ページの『DSQ20309』を参照してください。

DSQ20341 &V3 はオブジェクト名の後に続けられません。

説明:

DISPLAY &V1 &V2 &V3 と入力しました。

DISPLAY コマンドの形式は次のとおりです。

DISPLAY objecttype objectname (options

ユーザーの処置:

&V3 がオプションでない場合は、それを除去してコマンドを再試行してください。それがオプションである場合は、「&V2」と「&V3」の間に左括弧を追加してください。コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ20342 &V2 は DISPLAY コマンドでは使用できません。

説明:

オプション &V2 は DISPLAY コマンドでは使用できません。

有効なオプションは以下のとおりです。

- ICUFORM: DISPLAY CHART コマンドの発行時に有効です。
- CONFIRM: DISPLAY TABLE コマンドの発行時に有効です。

ユーザーの処置:

&V2 およびその後の値を削除して、コマンドの実行を再試行してください。

DSQ20343 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明:

現行の &V2 オブジェクトがなければ &V1 を実行できません。次のどちらかの理由によって一時記憶域に入っていないと思われます。

1. システム・エラーによって削除された。

2. もともと一時記憶域に入っていなかった。例えば、QMF にサインオンしたときに、DATA、FORM、REPORT、および CHART が空だった。

3. DATA がリセットされたために、REPORT と CHART が消失している。

ユーザーの処置:

現行の &V2 オブジェクトがあると考えられる場合には、システム・エラーが起きた可能性があります。そのオブジェクトを作成したステップを検査して、必要であればそのステップを繰り返してください。

DSQ20344 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ20345 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ20346 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ20347 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ20348 &V2 が見つかりません。

説明: 209 ページの『DSQ20004』を参照してください。

DSQ20349 OK、&V1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ20350 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20351 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20352 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ20353 &V1 ANALYTICS の DATA オブジェクトが存在しません。

説明:

DATA オブジェクトは QMF Analytics for TSO を使用するために必要です。DATA オブジェクトは、分析対象のデータを作成する照会の実行、表の表示、またはデータのインポートによって作成されます。DATA オブジェクトが存在しない、いくつかの考えられる理由は以下のとおりです。

- DATA オブジェクトが一時記憶域に置かれていない。例えば、QMF にサインオンする時点で、DATA オブジェクトが空である場合がこれに該当します。
- DATA オブジェクトが RESET DATA コマンドによってリセットされている。
- QMF が DATA オブジェクトを作成しようとしたときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

分析対象のデータを作成する照会の実行、表の表示、またはデータのインポートによって、DATA オブジェクトを作成してください。DATA オブジェクトが作成されない場合、オブジェクトを作成するために従ったステップにエラーがないかどうかを調べてください。エラーがあればそれを訂正して、データを再作成してください。

DSQ20354 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20355 &V2.&V3 を使用する権限はありません。

説明:

&V1 しようとしているオブジェクトは &V2 によって所有されており、そのオブジェクトの SHARE 値は NO に設定されています。

別のユーザーがオブジェクトを SHARE=YES オプショ

ンを指定して保管またはインポートしているか、または適切な権限がない限り、別のユーザーが所有しているオブジェクトには何の処置も実行できません。

ユーザーの処置:

コマンドから &V2 を除外してください。ユーザーのユーザー ID は、データベースに &V1 するものすべての名前に、自動的に付けられます。オブジェクトを別のユーザーに対して &V1 したいがその権限がない場合、適切な権限について QMF 管理者を参照してください。

DSQ20356 &V2 は無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 231 ページの『DSQ20309』を参照してください。

DSQ20357 &V3 という名前のパネルはオブジェクト &V2 内にありません。

説明:

無効なパネル名を指定したか、形式パネルの名前をテキスト"FORM"で限定しませんでした。有効なパネル名は次のとおりです。

FORM.BREAK1	FORM.CALC
FORM.BREAK2	FORM.COLUMNS
FORM.BREAK3	FORM.DETAIL
FORM.BREAK4	FORM.FINAL
FORM.BREAK5	FORM.MAIN
FORM.BREAK6	FORM.OPTIONS
	FORM.PAGE

ユーザーの処置:

&V1 コマンドに有効なパネル名を指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ20358 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

パネル ID '&V1' が DXEPCB チェーンに見つかりませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してく

ださい。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ20359 表示された指示照会はエラーを含んでいません。

説明:

エラーはデータベースの無効な参照が原因であると考えられます。例えば、照会の表名は使用不可能である可能性があります。

2 つまたはそれより多い表を命名している指示照会は、表が使用可能でない場合、異なった表示をします。

ユーザーの処置:

照会が作動するようにデータベースを変更するかまたは、不良な照会を破棄してください。

自分自身の責任で照会を修正することができます。

データベースにない表示された照会で表を削除する場合、表の列参照は自動的に削除されません。

DSQ20360 OK、&V1 はすでに表示されています。

DSQ20361 OK、&V1 は表示されています。

DSQ20362 OK、これがユーザーの **REPORT** です。**FORM** を **DISPLAY** し、それを **CHECK** して警告メッセージを調べてください。

DSQ20363 OK、&V1 は表示されています。

DSQ20364 OK、&V1 は表示されています。

DSQ20365 OK、&V1 は表示されています。

DSQ20366 OK、&V1 は表示されています。

DSQ20367 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20368 OK、**CHART** が表示されました。**FORM** を **DISPLAY** し、それを **CHECK** して警告メッセージを調べてください。

DSQ20369 OK、CHART が表示されました。

DSQ20370 CONFIRM の後には YES または NO を使用してください。

説明:

CONFIRM オプションは、QMF で確認パネルを表示するかどうかを指定します。確認パネルでは、コマンドの処理を実行するか、または完了前にキャンセルするかを指示できます。

オプションの値が YES の場合、QMF で確認パネルが表示されます。オプションの値が NO の場合、コマンドの処理前に確認パネルは表示されません。

CONFIRM オプションを省略した場合には、QMF プロファイル内の値が使用されます。

ユーザーの処置:

CONFIRM オプションには、YES または NO を指定してください。

DSQ20377 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20378 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20388 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ20389 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明:

画面移動コマンド (FORWARD、BACKWARD、LEFT、RIGHT、TOP、BOTTOM) は、表示されていたパネルでは使用できません。このパネルに関する情報は、すべて今の画面に示されています。

プロシージャの中で画面移動が指定されている場合には、現行オブジェクト・パネルは、手順内のコマンドをプロシージャに現れるとおりの順序でコマンド行に入力していた場合に表示されるパネルと同じものです。

ユーザーの処置:

今見ていたパネルでは、画面移動コマンド (FORWARD、BACKWARD、LEFT、RIGHT、

TOP、BOTTOM) を使用することはできません。別の操作を続行してください。

DSQ20390 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20391 &V1 は SQL 照会では無効です。

説明:

入力したコマンドは、SQL 照会パネルでは無効です。

入力したコマンドが、ENLARGE または REDUCE の場合、これらは、QBE 照会が表示されているときだけ有効です。代わりに INSERT または DELETE を使用してください。

ユーザーの処置:

SQL 照会パネルで有効なコマンドに変更してください。

DSQ20392 PROC の画面移動として指定できるのは BACKWARD または FORWARD だけです。

説明:

PROC パネル内の情報は、画面に見えている情報の左または右には拡張していません。PROC パネルの画面移動は次のキーによってのみ、可能です。

PF key 7 (BACKWARD) or PF key 8 (FORWARD)

または TOP および BOTTOM のコマンドを用いて行います。

ユーザーの処置:

左または右への画面移動は、しないでください。別の操作を続行してください。

DSQ20393 この FORM オブジェクト・パネルでは、LEFT または RIGHT の画面移動はできません。

説明:

この FORM オブジェクト・パネルの情報は、画面に見えている情報の左または右には拡張していません。

プロシージャの中で LEFT または RIGHT の移動が指定されている場合には、現行オブジェクト・パネルは、プロシージャ内のコマンドを、プロシージャに現れるとおりの順序でコマンド行に入力していた場合に表示されるパネルと同じものです。

ユーザーの処置:

DSQ20394 • DSQ20406

左または右に画面移動をしないでください。別の操作を続行してください。

DSQ20394 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 237 ページの『DSQ20389』を参照してください。

DSQ20395 移動する画面がなにもありません。

説明:

一時記憶域が空のときに SCROLL コマンドを出すことはできません。これは、以下の 2 つの理由のいずれかのために空である可能性があります。

1. 何も入れられていない。
2. システム・エラーによって削除された。

画面移動できるのは次の 4 つだけです: QUERY、FORM、PROC および REPORT

ユーザーの処置:

一時記憶域が空でない場合には、システム・エラーが起きたことも考えられます。記憶域に書き込んだときのステップを検査して、必要ならそのステップを繰り返してください。

DSQ20396 ここがパネルの境界です。

説明:

&V1 による画面の変更は行われませんでした。なぜなら、コマンドを出した時点で、すでにパネルの境界に達していたからです。

ユーザーの処置:

別の操作を続行してください。

DSQ20397 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ20398 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してください。

DSQ20399 &V1 で &V2 を使用しないでください。

説明:

画面移動コマンド &V1 の後に続くものはすべて、移動の量として使用されます。移動量として指定できるのは、1 から 9999 までの数値か、または

HALF、PAGE、CSR、または MAX です。&V2 は有効な量ではありません。

(&V2 は、PF キーを用いてコマンドを入力した場合に、コマンド行に入っていることがあります。)

ユーザーの処置:

画面移動量を変更し、処理を続けてください。

DSQ20400 &V1 で &V2 を使用しないでください。

説明: 『DSQ20399』を参照してください。

DSQ20401 &V1 で &V2 を使用しないでください。

説明: 『DSQ20399』を参照してください。

DSQ20402 &V1 で &V2 を使用しないでください。

説明: 『DSQ20399』を参照してください。

DSQ20403 &V1 で &V2 を使用しないでください。

説明: 『DSQ20399』を参照してください。

DSQ20404 &V1 で &V2 を使用しないでください。

説明: 『DSQ20399』を参照してください。

DSQ20405 &V1 に指定されている量が多すぎます。

説明:

&V1 コマンドの形式は次のとおりです。

&V1 amount

ここで "amount" は、HALF、PAGE、CSR、MAX、または 1 から 9999 までの数字です。

&V1 コマンドを PF キーで入力する場合には、キーを押すときに、コマンド行にあるものが必要な項目だけであることを確認してください。

ユーザーの処置:

&V1 コマンドに指定した量を訂正し、コマンドを再入力してください。

DSQ20406 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20042』を参照してください。

DSQ20407 このパネル、またはウィンドウは、後方が前方にだけ画面移動できます。

説明:

指示照会パネルの情報は、画面に表示されている情報の左側または右側には拡張できません。指示照会パネルは、コマンド BACKWARD、FORWARD、TOP および BOTTOM で画面移動できます。

ユーザーの処置:

左または右への画面移動は、しないでください。別の操作を続行してください。

DSQ20410 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20411 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20412 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20413 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20414 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DSQDSHIF の入力パラメーターが無効です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してく

ださい。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ20415 SET ステートメントを処理できません。

説明:

DB2 大域変数を設定する前に、QMF 大域変数 DSQEC_KEEP_THREAD を 1 に設定する必要があります。DB2 大域変数値は、現行のスレッドがアクティブである間のみ保持され、デフォルトではスレッドは SET ステートメントが処理された後に削除されます。DSQEC_KEEP_THREAD を 1 に設定すると、QMF セッションの終わりまで、または DSQEC_KEEP_THREAD が 0 に設定されるまで、スレッドはアクティブな状態が維持されます。

ユーザーの処置:

QMF 大域変数 DSQEC_KEEP_THREAD を 1 に設定し、照会を再実行してください。

DSQ20416 照会オブジェクトに含まれている SQL SELECT ステートメントが多すぎます。

説明:

SQL 照会オブジェクトに含めることができるのは、1 つの SQL SELECT ステートメントのみです。

ユーザーの処置:

照会オブジェクトの中の SQL SELECT を 1 つだけ残して他をすべて除去し、照会を再実行してください。

DSQ20418 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20419 &V1 は、SQL 照会内で単独で使用される必要があります。

説明:

SQL 照会オブジェクトには、&V1 ステートメントと他の SQL ステートメントを共に含めることはできません。

ユーザーの処置:

SQL 照会内では &V1 ステートメントを単独で実行してください。

DSQ20420 COMMIT ステートメントを照会で使用できません。

説明:

COMMIT ステートメントは、SQL 照会内の最初のまたは唯一のステートメントにすることはできません。

COMMIT ステートメントは、作業単位を完了し、データベース内での変更を永続的にするために使用します。

ユーザーの処置:

COMMIT ステートメントを除去するか、またはそれを作業単位を完了する SQL ステートメントの後に置きます。COMMIT ステートメントは、作業単位を COMMIT するために必須というわけではありません。QMF は、照会が完了すると COMMIT を自動的に発行します。

DSQ20421 1 つ以上の SQL ステートメントが説明されていますが実行されていません。

説明:

大域変数 DSQEC_EXPL_MODE が EXPLAIN に設定されている場合、適格な動的 SQL ステートメントについて EXPLAIN 情報が収集されますが、それらのステートメントは実行されません。

ユーザーの処置:

動的 SQL ステートメントを実行するには、大域変数 DSQEC_EXPL_MODE を YES または NO に変更してください。

DSQ20422 1 つ以上の SQL ステートメントが説明されていますが実行されていません。

説明: 『DSQ20421』を参照してください。

DSQ20423 SPACE オプションを完成させてください。

説明: 227 ページの『DSQ20260』を参照してください。

DSQ20424 SPACE オプションを完成させてください。

説明: 227 ページの『DSQ20261』を参照してください。

DSQ20425 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20426 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20427 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20428 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20429 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20430 OK、&V2 はデータベースから消去されました。

DSQ20431 &V3 はオブジェクト名の後に続けられません。

説明:

ERASE コマンドの形式は次のとおりです。

```
ERASE objecttype objectname ( options
```

ユーザーの処置:

1. &V3 がオプションでない場合は除去して、コマンドを再実行してください。
2. &V3 の前に左括弧を挿入して、コマンドを再実行してください。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ20432 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ20433 &V2 は無効なオブジェクト・タイプです。

説明:

&V1 コマンドは、以下のいずれかの形式で始める必要があります。

1. &V1 objectname ...
2. &V1 QUERY objectname ...
3. &V1 FORM objectname ...
4. &V1 PROC objectname ...
5. &V1 TABLE objectname ...
6. &V1 分析 objectname ...
7. &V1 FOLDER objectname ...

objectname はデータベース内のオブジェクトの名前です。

ユーザーの処置:

上記の形式の 1 つになるように &V1 コマンドを変更し、再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ20434 &V1 コマンドには、処置を行う名前が必要です。

説明: 234 ページの『DSQ20338』を参照してください。

DSQ20435 &V2 は無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 240 ページの『DSQ20433』を参照してください。

DSQ20436 ERASE とともに &V2 を使用することはできません。

説明:

ERASE コマンドに &V2 オプションを使用することはできません。以下にリストされているオプションのみを使用します。

```
CONFIRM
FOLDER      (not valid for ERASE TABLE)
```

ユーザーの処置:

オプションを変更または除去してから、コマンドを再発行してください。このコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。データベース・オブジェクト・リストから QMF コマンドを入力する場合の詳細については、LIST コマンドのヘルプを参照してください。

DSQ20437 CONFIRM の後には YES または NO を使用してください。

説明:

CONFIRM オプションは、&V1 コマンドが行う変更を中止したい場合に、そのコマンドをその完了前に一時停止させることができるようにするかどうかを指示します。

このオプションが YES の場合、変更を中止する機会がユーザーに与えられ、NO の場合には、その機会是与えられません。

CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置:

CONFIRM の後に YES または NO を指定してください。

DSQ20438 CONFIRM の後には &V2 ではなく YES か NO を使用してください。

説明:

CONFIRM オプションは、&V1 コマンドが行う変更を中止したい場合に、そのコマンドをその完了前に一時停止させることができるようにするかどうかを指示します。

このオプションが YES の場合、変更を中止する機会がユーザーに与えられ、NO の場合には、その機会是与えられません。

CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置:

CONFIRM の後には YES または NO を使用してください。

DSQ20439 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20440 &V2 が見つかりません。

説明: 209 ページの『DSQ20004』を参照してください。

DSQ20441 &V2 は無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 240 ページの『DSQ20433』を参照してください。

DSQ20442 &V2.&V3 を使用する権限はありません。

説明: 235 ページの『DSQ20355』を参照してください。

DSQ20443 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20444 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20445 &V2 は無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 240 ページの『DSQ20433』を参照してください。

DSQ20446 このコマンドの後には、有効なオブジェクト名が必要です。

説明: 231 ページの『DSQ20306』を参照してください。

DSQ20447 このタイプのオブジェクトで名前 &V2 のものはありません。

説明: 210 ページの『DSQ20009』を参照してください。

DSQ20448 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ20449 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20450 &V2 が見つかりません。

DSQ20451 &V2 が見つかりません。

説明: 209 ページの『DSQ20003』を参照してください。

DSQ20452 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20453 リモートのオブジェクトを参照するコマンドは無効です。

説明:

ユーザーの入力した &V1 コマンドはリモートのオブジェクトを参照しています。リモートの参照は別名を使用した結果である場合があります。以下の条件のいずれかが存在します。

- 現在のロケーション以外のロケーションにある表を消去しようとした。
- 現在のロケーション以外のロケーションにある表を作成しようとした。例えば、リモート表は保管もインポートもできませんが、SAVE コマンドや IMPORT コマンドを使用して置換することはできます。
- 正しく定義されていない別名を参照しました。

ユーザーの処置:

1. ローカルの表を作成または消去したい場合、指定した名前を検査してつづりが正しいことを確かめてください。
 2. リモートの表を作成または消去したい場合で、CONNECT コマンドがサポートされている場合は、そのリモート・ロケーションに接続して、その表を作成または消去できます。CONNECT コマンドがサポートされていない場合は、QMF 管理者に連絡してください。
 3. 使用したコマンドのリモートの参照が、別名を使用した結果の場合、別名が正しく定義されているかを確認するか、QMF 管理者に連絡してください。
-

DSQ20454 &V2 は RUN PROC では使用できません。

説明: 210 ページの『DSQ20007』を参照してください。

DSQ20455 &V3 は &V2 と一緒の場合にのみ使用できます。(&V3 can only be used with &V2.)

説明:

&V2 オプションがコマンドに指定されていなければ、&V3 オプションは指定できません。

ユーザーの処置:

&V3 オプションを使用したい場合は、&V2 オプションを組み込んで、コマンドを再実行してください。

DSQ20456 &V2 は &V3 と一緒に使用できません。
(You cannot use &V2 with &V3.)

説明:

FORM、ROWLIMIT、分析オプションは
TABLE、ACTION、COMMENT のいずれのオプション
とも併用できません。

ユーザーの処置:

&V3 オプションを使用したい場合は、&V2 を除去して
コマンドを再実行してください。

DSQ20457 DSQEC_SPAC_OVRIDE が 0 であ
れば、SPACE キーワードは使用できませ
ん。

説明: 228 ページの『DSQ20263』を参照してくださ
い。

DSQ20458 SPACE 値は 50 文字以下でなければなり
ません。

説明: 228 ページの『DSQ20264』を参照してくださ
い。

DSQ20459 システム・エラーが発生しました。 コマ
ンドは完了していない可能性があります。

説明:

DVR タイプ (&V1) が予期されました。 &V2 を受け取
りました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレー
ス・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップし
たパラメーターによっては、このエラーについての情報
が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・
データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを
報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび
QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈について
は、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2
QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してく
ださい。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確
認してください。QMF の使用を続けることができま
す。

DSQ20460 カーソルが &V1 に適した位置にありませ
ん。

説明:

文字 A、B、C で示された位置の 1 つにカーソルを置

いて、コマンド ENLARGE または REDUCE を入力し
てください。

A tablename	B	B	With the cursor in A--ENLARGE widens this area; REDUCE narrows it. B--ENLARGE adds a new column to the table; REDUCE deletes this column. C--ENLARGE adds a new row below this position; REDUCE deletes this row.
A-----	A	A	
C			
	A COMMENTS (or CONDITIONS)		
C-----	A		

ユーザーの処置:

&V1 で処理したい区域にカーソルを移し、コマンドを
再入力してください。

DSQ20461 カーソルが &V1 に適した位置にありませ
ん。

説明:

行または変数を削除するためには、スクロール可能域に
カーソルを移動させなければなりません。

ユーザーの処置:

削除したい行にカーソルを移動して DELETE PF キー
を押してください (DELETE PF キーが使用可能な場
合)。または、コマンド行で DELETE と入力してカー
ソルを適切な行に移動し、Enter キーを押してください。

DSQ20462 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明:

DELETE が使用できるのは、プロシージャー、SQL 照
会、QBE 照会、指示照会、または FORM.OPTIONS を
除いた形式パネルだけです。

INSERT が使用できるのは、プロシージャー、SQL 照
会、指示照会、または FORM.OPTIONS を除いた形式
パネルだけです。

ENLARGE および REDUCE は、QBE 照会だけで使用
できます。

上記のコマンドの 1 つがプロシージャーの中で使用さ
れている場合、現在のオブジェクト・パネルは、プロシ
ージャー内のコマンドをプロシージャーに指定されてい
るとおりの順序でコマンド行に入力した場合に表示され
るパネルと同じパネルです。

ユーザーの処置:

別の操作を続行してください。

DSQ20463 &V1 には PROC または QUERY が必要
です。

説明:

&V1 コマンドがその機能を果たすのは、PROC または
QUERY が表示されているときだけです。システム・エ

DSQ20464 • DSQ20476

ラーのために、このどちらかがなくなっていると思われる
ます。

ユーザーの処置:

当然現れる画面があるはずなのに現れない場合には、そ
の画面を作成したステップを検査し、必要ならそのステ
ップをもう一度繰り返してください。

DSQ20464 システム・エラーが発生しました。 コマ
ンドは完了していない可能性があります。

説明:

作業域オブジェクトの無効なオブジェクト・タイプ。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレー
ス・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップし
たパラメーターによっては、このエラーについての情報
が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・
データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを
報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび
QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈について
は、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2
QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してく
ださい。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確
認してください。QMF の使用を続けることができま
す。

DSQ20465 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してくださ
い。

DSQ20466 &V1 の後には何も使用しないでくださ
い。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してくださ
い。

DSQ20467 &V1 と共にオプションを使用することは
できません。

説明: 212 ページの『DSQ20042』を参照してくださ
い。

DSQ20468 &V1 は SQL 照会では無効です。

説明: 237 ページの『DSQ20391』を参照してくださ
い。

DSQ20469 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 243 ページの『DSQ20462』を参照してくださ
い。

DSQ20470 カーソルが、DELETE のための位置にあ
りません。

説明:

DELETE コマンドは、カーソルが次のどちらかの位置に
あるときに出すことができます。

1. 表の中 (この表が削除されます)
2. 条件ボックスまたはコメント・ボックスの中 (この
ボックスが削除されます)
3. メッセージのテキストの中 (このメッセージが削除
されます)

ユーザーの処置:

カーソルを適切な位置に置き、DELETE コマンドを再
度、実行してください。

DSQ20471 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 243 ページの『DSQ20462』を参照してくださ
い。

DSQ20472 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 243 ページの『DSQ20462』を参照してくださ
い。

DSQ20473 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 243 ページの『DSQ20462』を参照してくださ
い。

DSQ20474 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 243 ページの『DSQ20462』を参照してくださ
い。

DSQ20475 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してくださ
い。

DSQ20476 システム・エラーが発生しました。 コマ
ンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してくださ
い。

DSQ20477 DSQEC_SAV_ACCELNM がブランクの場合は、&V1 または &V2 が必要です。
(**&V1 or &V2 is required when DSQEC_SAV_ACCELNM is blank.**)

説明: 226 ページの『DSQ20246』を参照してください。

DSQ20478 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ20479 &V3 は &V2 と一緒の場合のみ使用できます。**(&V3 can only be used with &V2.)**

説明: 242 ページの『DSQ20455』を参照してください。

DSQ20480 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 243 ページの『DSQ20462』を参照してください。

DSQ20481 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 243 ページの『DSQ20461』を参照してください。

DSQ20482 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明:

行を挿入する場合、カーソルは表示装置のスクロール可能域に表示されていなければなりません。

ユーザーの処置:

挿入する行の前に位置する行にカーソルを移動して INSERT 機能キーを押してください (INSERT 機能キーが使用可能な場合)。または、コマンド行で INSERT と入力してカーソルを適切な行に移動し、Enter キーを押してください。

DSQ20483 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明:

この問題は、変更する指示照会仕様にカーソルを置く前に CHANGE コマンドを発行すると発生します。

ユーザーの処置:

指示照会で仕様を変更するには、以下のようになります。

1. 変更する仕様の左に表示されている下線文字の上にカーソルを置きます。
2. 「変更」キーを押します。

あるいは、以下のようすることもできます。

1. CHANGE を「指示照会」パネルのコマンド行に入力します。Enter キーは押さないでください。
2. 変更する仕様の左に表示されている下線文字の上にカーソルを置きます。
3. Enter キーを押してください。

DSQ20484 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ20485 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 『DSQ20482』を参照してください。

DSQ20486 &V2 は RUN PROC では使用できません。

説明: 210 ページの『DSQ20007』を参照してください。

DSQ20487 &V2 は &V3 と一緒に使用できません。
(**You cannot use &V2 with &V3.**)

説明: 243 ページの『DSQ20456』を参照してください。

DSQ20488 &V2 オプションの後には表名を指定する必要があります。**(The &V2 option must be followed by a table name.)**

説明:

&V2 オプションは、照会結果が書き込まれるデータベースの名前を含みます。その表はデータベースにまだ存在していない場合は作成されます。その表が存在する場合は、その表に追加するのか、その表を置換するのかわを ACTION キーワードで指定します。ACTION のデフォルト値は REPLACE です。

ユーザーの処置:

TABLE オプションで表名を指定し、照会を再実行してください。

DSQ20489 &V2 オプションには有効な表名を含める必要があります。**(The &V2 option must include a valid table name.)**

説明:

&V3 は、&V2 オプションで使用する有効な表名ではありません。QMF や DB2 の予約語はデータベース表名には使用できません。

ユーザーの処置:

&V2 オプションを変更してコマンドを再実行してください。

DSQ20490 &V2 は **RUN PROC** では使用できません。

説明: 210 ページの『DSQ20007』を参照してください。

DSQ20491 &V2 は &V3 と一緒に使用できません。**(You cannot use &V2 with &V3.)**

説明: 243 ページの『DSQ20456』を参照してください。

DSQ20492 &V3 は &V2 と一緒の場合にのみ使用できます。**(&V3 can only be used with &V2.)**

説明: 242 ページの『DSQ20455』を参照してください。

DSQ20493 **ACTION** オプションに指定された値が正しくありません。

説明:

ACTION オプションの有効な値は **APPEND** (既存の表にデータを追加する) または **REPLACE** (既存の表を置換する) です。デフォルトは **REPLACE** です。

ユーザーの処置:

ACTION オプションに対して **APPEND** または **REPLACE** を指定して、コマンドを再実行してください。

DSQ20494 &V2 は **RUN PROC** では使用できません。

説明: 210 ページの『DSQ20007』を参照してください。

DSQ20495 &V3 は &V2 と一緒の場合にのみ使用できます。**(&V3 can only be used with &V2.)**

説明: 242 ページの『DSQ20455』を参照してください。

DSQ20496 &V2 は &V3 と一緒に使用できません。**(You cannot use &V2 with &V3.)**

説明: 243 ページの『DSQ20456』を参照してください。

DSQ20497 **COMMENT** オプションには値が必要です。

説明:

コメントは、オブジェクトの保存またはインポート時にユーザーが作成する注釈または注記です。コメントは、オブジェクトについての記述情報を提供するために作成します。オブジェクトを共有するユーザーは、オブジェクト名がリストに表示されているときにコメント・キーを押すと、この情報を表示できます。

コメントには、コメント・オプションを含むコマンドを発行する **QMF** パネルに応じて、57 から 78 文字を含めることができます。コメント・テキストにブランク文字が含まれる場合は、テキストを区切り文字で囲みます。注釈値のための有効な区切り文字は単一引用符、括弧、および二重引用符です。

次は、**QMF** にインポートされるオブジェクト用にコメントを作成するコマンドの例です。

```
IMPORT DATA AS TAXES (COMMENT='Year 2007 only')
```

コメント自体に区切り文字 (単一引用符、二重引用符、または括弧) が含まれている場合は、コメント値全体を別のタイプの区切り文字で囲んで、**QMF** でコメント全体が保存されるようにします。例えば、以下のコマンドは、データとともにコメント「Smith's report」を保存します。コメント内に単一引用符が使用されているため、単一引用符以外の区切り文字を使用してコメント値全体を囲む必要があります。

```
IMPORT DATA AS MARCHSALES (COMMENT="Smith's report")
```

ユーザーの処置:

上記の例で示したように、**COMMENT=** の後にコメント・テキストを追加するか、またはコマンドから **COMMENT** オプションを削除してください。

DSQ20498 COMMENT テキストが 78 文字を超えています。

説明:

COMMENT= に続くテキストは、78 文字を超えることはできません。コメントにブランク、ピリオド、または右括弧が含まれている場合には、コメント全体を単一引用符で囲んでください。コメントに単一引用符またはアポストロフィが含まれている場合には、引用符またはアポストロフィを二重にしてください。区切り文字を括弧で代替した場合は、コメント中の引用符を二重にする必要はありません。

以下は有効なコメントの例です。

```
COMMENT='Smith''s report.'
```

```
COMMENT=(Smith's report.)
```

```
COMMENT='March Tax'
```

```
COMMENT=(March Tax)
```

```
COMMENT='12/21/98'
```

```
COMMENT=(12/21/98)
```

```
COMMENT=12/21/98
```

```
COMMENT='XYZ')
```

ユーザーの処置:

コメント・テキストが 78 文字を超えないように書き直し、コマンドを再入力してください。

DSQ20499 「照会」パネルに無効な SQL ステートメントが入力されました。

説明:

RUN コマンドの TABLE オプションが指定されているときに使用できるステートメントは SELECT ステートメントのみです。

ユーザーの処置:

照会を SELECT ステートメントに変更するか、または TABLE オプションを除去して、照会を再実行してください。

DSQ20500 照会に含まれる SQL ステートメントが多すぎます。

説明:

RUN コマンドの TABLE オプションが指定されているときは、SQL 照会に含めることができる SQL ステートメントは 1 つのみです。この場合に有効となる SQL ステートメントは SELECT ステートメントのみです。

ユーザーの処置:

照会を単一の SELECT ステートメントに変更して再実行してください。

DSQ20501 表内の対応する列とデータとに互換性がありません。

説明:

既存の表 (&V2) の置換または既存の表への追加を試行していますが、保存するデータ内の 1 つ以上の列が、異なる仕方で定義されているか、または既存の表内の対応する列と位置が異なっているため、QMF はコマンドを完了できませんでした。

この問題は、以下の理由で発生する場合があります。

- 既存の表と、保存するデータの列数が同じでない。
- 既存の表と、保存するデータの XML 列数が同じでない。
- 表内の XML 列と、保存するデータの位置が異なっている。
- 対応する 2 つの XML 列の一方では NULL 値が許可されているが、他方では許可されていない。

ユーザーの処置:

この問題は、以下のいずれかの方法で修正できます。

- ACTION=REPLACE パラメーターを指定したコマンドを発行した場合は、ERASE TABLE コマンドを使用して既存の表を消去してください。その上で、コマンドを再発行します。
- ACTION=APPEND パラメーターを指定したコマンドを発行した場合は、既存の表と保存する列とが次の状態になるように、列定義の不一致を修正してください。
 - 列の数が同じである。
 - 同じ列位置に同じ数の XML 列がある。対応する XML 列が同じ NULL 特性で定義されていることを確認してください。

列定義または位置の不一致を訂正した後に、コマンドを再発行してください。

DSQ20502 表内の対応する列とデータとに互換性がありません。

説明: 『DSQ20501』を参照してください。

DSQ20503 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 243 ページの『DSQ20460』を参照してください。

DSQ20504 カーソルが、**DELETE** のための位置にありません。

説明: 244 ページの『DSQ20470』を参照してください。

DSQ20505 カーソルが、**DELETE** のための位置にありません。

説明: 244 ページの『DSQ20470』を参照してください。

DSQ20506 **RUN** コマンドの **TABLE** オプションは、**QBE QUERY** または **PROMPTED QUERY** では無効です。

説明:

RUN コマンドの **TABLE** オプションは **QBE QUERY** および **PROMPTED QUERY** に対して無効です。

ユーザーの処置:

RUN コマンドの **TABLE** オプションを使用したい場合は、**SQL QUERY** を使用してください。

DSQ20507 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20508 カーソルが **&V1** に適した位置にありません。

説明: 243 ページの『DSQ20460』を参照してください。

DSQ20509 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20510 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20511 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20512 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20513 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20514 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20515 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20516 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20517 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20518 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20519 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20520 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20521 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20522 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20523 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20524 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20525 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20526 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20527 &V1 キーワードはこのデータベース・タイプレベルでは無効です。(The &V1 keyword is not valid at this database type or level.)

説明: 231 ページの『DSQ20304』を参照してください。

DSQ20528 同じコマンドに **SPACE** と **ACCELERATOR** の両方を指定することはできません。

説明: 229 ページの『DSQ20284』を参照してください。

DSQ20529 完全な &V1 キーワードを入力してください。

説明: 226 ページの『DSQ20249』を参照してください。

DSQ20530 &V1 は &V2 &V3 コマンドで許可されていません。(The &V1 is not allowed in the &V2 &V3 command.)

説明: 228 ページの『DSQ20268』を参照してください。

DSQ20531 &V1 キーワード値が長すぎます。(The &V1 keyword value is too long.)

説明: 226 ページの『DSQ20254』を参照してください。

DSQ20532 &V1 は &V2 &V3 コマンドで許可されていません。(The &V1 is not allowed in the &V2 &V3 command.)

説明: 228 ページの『DSQ20268』を参照してください。

DSQ20533 DSQEC_SAV_ALLOWED=0 の場合、&V1 &V2 コマンドは使用できません。(The &V1 &V2 command cannot be used when DSQEC_SAV_ALLOWED=0.)

説明: 227 ページの『DSQ20256』を参照してください。

DSQ20535 &V2 は **RUN PROC** では使用できません。

説明: 210 ページの『DSQ20007』を参照してください。

DSQ20536 DSQEC_SAV_ACCELNM がブランクの場合、&V1 は必須です。(The &V1 is required when DSQEC_SAV_ACCELNM is blank.)

説明: 226 ページの『DSQ20248』を参照してください。

DSQ20537 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20538 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20539 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20540 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20541 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20542 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20543 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20544 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20545 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20546 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20547 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20548 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20549 OK、表が縮小されました。

DSQ20550 OK、表が縮小されました。

DSQ20551 OK。条件ボックスを削除しました。

DSQ20552 OK、表が縮小されました。

DSQ20553 OK、例示表が削除されました。

DSQ20554 10 文字以下の列を縮小することはできません。

説明:

REDUCE は、10 文字単位で列を縮小します。列が 11 文字よりも短い場合には、その列を縮小することはできません。

ユーザーの処置:

列を完全に削除したい場合には、カーソルを列名の位置に移動させ、PF 5 (縮小) キーを押してください。

DSQ20555 この REDUCE は、最終行を除去します。

説明:

表は縮小されませんでした。なぜなら、この表には、表の最小行数である 1 行だけしか残っていないからです。

ユーザーの処置:

表全体を削除したい場合には次のようにしてください。

1. コマンド行に DELETE コマンドを指定する。
2. 表の中の任意の場所にカーソルを置く。
3. ENTER キーを押します。

DSQ20556 OK、条件ボックスの幅を狭くしました。

DSQ20557 この **REDUCE** は、条件ボックス幅を 24 文字未満に狭くします。

説明:

条件ボックスは縮小されませんでした。なぜなら、この条件ボックスの幅が、最小幅である 24 文字分しかないからです。

ユーザーの処置:

条件ボックスを現在の幅のままにしてください。余分なブランクが出て、照会を実行する上で障害にはなりません。ボックス全体を削除したい場合には次のようになります。

1. コマンド行に **DELETE** コマンドを指定する。
 2. **CONDITIONS** という語の入っている区域にカーソルを置く。
 3. **ENTER** キーを押します。
-

DSQ20558 OK、条件ボックスから 1 つの行が削除されました。

DSQ20559 この **REDUCE** は、最終行を除去します。

説明:

条件ボックスは縮小されませんでした。なぜなら、この条件ボックスには、最小行数である 1 行だけしか残っていないからです。

ユーザーの処置:

ボックス全体を削除したい場合には次のようになります。

1. コマンド行に **DELETE** コマンドを指定する。
 2. **CONDITIONS** という語の入っている区域にカーソルを置く。
 3. **ENTER** キーを押します。
-

DSQ20560 OK、&V1 が既存の照会メッセージに対して実行されました。

DSQ20561 この **REDUCE** は、最終行を除去します。

説明:

コメント・ボックスの唯一の行を除去することはできません。 **DELETE** コマンドを用いれば、ボックス全体を除去できます。

1. コマンド行に **DELETE** と入力します。
-

2. 削除したいボックスのどこかにカーソルを置きます。

3. **ENTER** キーを押します。

ユーザーの処置:

上記の方法でコメント・ボックスを削除するか、または別の操作によって処理を続けてください。

DSQ20562 OK、コメント・ボックスから 1 行削除されました。

DSQ20563 コメント・ボックスをこれ以上狭くすることはできません。

説明:

コメント・ボックスはすでに最小限の幅になっています。 **DELETE** コマンドを用いれば、ボックス全体を除去できます。

1. コマンド行に **DELETE** と入力します。
2. 削除したいボックスのどこかにカーソルを置きます。
3. **ENTER** キーを押します。

ユーザーの処置:

別の操作を続行してください。

DSQ20564 OK、コメント・ボックスの幅を狭くしました。

DSQ20565 OK。注釈ボックスを削除しました。

DSQ20566 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20567 メッセージの削除には &V1 ではなく **DELETE** を使用してください。

説明:

&V1 コマンドを用いて **QBE** メッセージを削除することはできません。 この目的には **DELETE** コマンドを使用してください。

ユーザーの処置:

1. コマンド行に **DELETE** と入力します。
 2. 削除したい行にカーソルを移してください。
 3. **ENTER** キーを押します。
-

DSQ20568 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明:

空の照会またはコメントだけを含む照会には、処置を指示する命令が入っていないため、実行することはできません。

照会が指示照会の場合、SQL へ変換することはできません。また、"SHOW SQL" コマンドを使用しても、同等の SQL 文は表示されません。

ユーザーの処置:

別の照会を作成してください。

DSQ20569 照会が長すぎるか、または複雑すぎます。

説明:

ステートメントが長すぎるか、または複雑すぎて、解釈することができません。副照会および相関照会のネ스팅が複雑すぎて、SQL 処理ができないことも考えられます。並列処理を使用可能にすると、ステートメントがより複雑になります。

ユーザーの処置:

照会を短くするか、または 2 つ以上の照会として書き直してください。並列処理が可能にされている場合は、CURRENT DEGREE 特殊レジスターを「1」に設定してみてください。この問題が続く場合、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ20570 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20571 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20572 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20573 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20574 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20575 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20576 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20577 OK、照会は実行されました。処理を続行してください。

DSQ20578 照会が実行されませんでした。詳しくはヘルプ・キーを押してください。

DSQ20579 照会が実行されませんでした。詳しくはヘルプ・キーを押してください。

DSQ20580 OK、&V1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ20581 CANCEL は、ポップアップ・ウィンドウが表示されている場合にのみ有効です。
(CANCEL is only valid when pop-up windows are displayed.)

説明:

CANCEL コマンドが実行されると、QMF パネルに表示されているポップアップ・ウィンドウが除去されません。CANCEL は、ポップアップ・ウィンドウ・ダイアログが行われていないときは無効です。

ユーザーの処置:

ポップアップ・ウィンドウが表示されていない場合には、CANCEL コマンドを出してはなりません。

DSQ20582 CANCEL は、ポップアップ・ウィンドウが表示されている場合にのみ有効です。
(CANCEL is only valid when pop-up windows are displayed.)

説明: 『DSQ20581』を参照してください。

DSQ20583 この名前ですでに存在していますが、オブジェクトのタイプが違います。

説明:

「SAVE FORM AS PDS9」というコマンドを例にとれば、データベース内の既存の項目に PDS9 という名前のものがある場合は、それを置き換えることができます。ただし、これは、その既存の項目がフォームの場合に限られます。同様に、照会は QUERY だけ、プロシージャは PROC だけ、そして表や、視点は DATA だけ置き換えることができます。

ユーザーの処置:

置き換えようとするオブジェクトと保管しようとするオブジェクトのタイプが同じになるようにコマンドを変更するか、保管するオブジェクトに用いる新しい名前を選択するか、または、&V2 を保管の前に消去してください。

DSQ20584 QMF オブジェクト名にロケーションを使用することはできません。

説明: 15 ページの『DSQ10131』を参照してください。

DSQ20585 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20586 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20587 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20588 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20589 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20590 OK、&V1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ20591 OK、&V1 コマンドはまだ完了していません。

DSQ20592 OK、&V1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ20593 OK、&V1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ20594 OK。 新しい行がデータベースに追加されました。処理を続行してください。

DSQ20595 OK。 行がデータベースで変更されました。処理を続行してください。

DSQ20596 OK。 行がデータベースから削除されました。処理を続行してください。

DSQ20597 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20598 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20599 &V1 の値が無効です。

説明:

大域変数 &V1 を、指定した値に設定することができません。

&V1 の有効な値は以下のとおりです。

TDYx TDMx TDDx TDL TDYAx TDMAx TDDAx TD

ユーザーの処置:

変数を有効な &V1 値に変更してください。

DSQ20600 &V1 の値が無効です。

説明:

大域変数 &V1 を、指定した値に設定することができません。

&V1 の有効な値は以下のとおりです。

DSQ20601 • DSQ20611

TTSx TTCx TTAx TTAN TTUX TTL TT

ユーザーの処置:

変数を有効な &V1 値に変更してください。

DSQ20601 &V1 の値が無効です。

説明: 253 ページの『DSQ20599』を参照してください。

DSQ20602 &V1 の値が無効です。

説明: 253 ページの『DSQ20600』を参照してください。

DSQ20603 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 243 ページの『DSQ20460』を参照してください。

DSQ20604 値 '&V2' は &V1 には無効です。

説明:

大域変数 &V1 を、指定した値に設定することができません。

大域変数は、QMF セッション中に発行されたすべての RUN QUERY ステートメントに影響を与えます。

サーバーが DB2 for z/OS バージョン 10 New Function Mode (またはそれ以上)、あるいは DB2 for Linux, UNIX, and Windows である場合、&V1 の有効な値は以下のとおりです。

NO EXPLAIN 機能は使用不可であり、EXPLAIN 可能動的ステートメントの実行中に EXPLAIN 情報は収集されません。NO がデフォルトです。

YES EXPLAIN 機能が使用可能であり、ステートメントが準備され実行された後に、適格な動的 SQL ステートメントについて EXPLAIN 情報が EXPLAIN 表に挿入されます。すべての動的 SQL ステートメントがコンパイルされ、実行されます。

EXPLAIN

EXPLAIN 機能が使用可能であり、ステートメントが準備された後に、適格な動的 SQL ステートメントについて EXPLAIN 情報が EXPLAIN 表に挿入されます。SET ステートメントを除き、動的ステートメントは実行されません。

他のすべてのサーバーには、NO が唯一の有効な値です。

ユーザーの処置:

'&V2' を有効な &V1 値に変更してください。

DSQ20605 値 '&V2' は &V1 には無効です。

説明: 『DSQ20604』を参照してください。

DSQ20606 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20607 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20608 &V1 の値が無効です。

説明:

大域変数を、指定した値に設定することができません。この変数は、長さが 1 から &V2 バイトのストリングにのみ設定できます。DBCS 環境では、この変数は、SBCS と DBCS 文字の混合ストリングで設定できます。シフトアウト文字とシフトイン文字を含む混合ストリングの合計の長さは、&V2 バイトを超えることはできません。

ユーザーの処置:

可変値フィールドのテキストを、有効な値に変更してください。

DSQ20609 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 243 ページの『DSQ20460』を参照してください。

DSQ20610 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20611 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20612 値 '&V2' は &V1 には無効です。

説明:

大域変数 &V1 を、指定した値に設定することはできません。

この大域変数を設定して、スクロール・コマンドの FORWARD、BACKWARD、LEFT および RIGHT のデフォルトのスクロール量を変更できます。さらに、スクロール・コマンドの使用できる画面の右下端の移動の後に示される量も変更できます。

&V1 の有効なスクロール移動量の値は、次のとおりです。

1. 1 から 9999 の数。
2. PAGE
3. HALF
4. CSR

スクロール移動量 MAX を &V1 と共に使用することはできません。

ユーザーの処置:

値を有効なスクロール移動量に変更してください。

DSQ20613 &V1 の値が無効です。

説明: 254 ページの『DSQ20608』を参照してください。

DSQ20614 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20615 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20616 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20617 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20618 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20619 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20620 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20621 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20622 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20623 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20624 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20625 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20626 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20627 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20628 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20629 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20630 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20631 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20632 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20633 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20634 このフィールドのデータはオーバーフローしています。

説明:

DBCS 文字ストリングが入力フィールドの末尾に予期されましたが、入力フィールドを超えたため、このフィールドでデータがオーバーフローしました。

ユーザーの処置:

入力フィールドの最後に DBCS 文字ストリングを入力してください。

DSQ20635 このフィールドのデータはオーバーフローしています。

説明:

DBCS 文字ストリングの一部が重ね書きされ、このフィールドのデータのオーバーフローが起きました。

ユーザーの処置:

文字ストリングの終わりからデータを削除して、データがフィールド内に収まるようにしてください。

DSQ20636 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20637 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20638 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20639 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20640 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20641 &V1 の値が無効です。

説明:

&V1 は、以下の文字ペアのいずれかでなければなりません。1A -デフォルト値 昇順 1D -デフォルト値 降順 2A -所有者 昇順 2D -所有者 降順 3A -名前 昇順 3D -名前 降順 4A -タイプ 昇順 4D -タイプ 降順 5A -修正済み 昇順 5D -修正済み 降順 6A -最終使用日 昇順 6D -最終使用日 降順 例えば、3A は名前で昇順にソートすることを意味します。

ユーザーの処置:

変数を文字ペアの 1 つに変更してください。

DSQ20642 &V1 の値が無効です。

説明:

設定しようとしている大域変数を、指定した値に設定することができません。この変数は、長さが 1 のストリングにのみ設定できます。

ユーザーの処置:

可変値フィールドのテキストを、有効な値に変更してください。

DSQ20643 &V1 の値が無効です。

説明:

設定しようとしている大域変数を、指定した値に設定することができません。この変数は、シフトイン、シフトアウト文字を含む長さが 4 のストリングにのみ設定できます。

ユーザーの処置:

可変値フィールドのテキストを、有効な値に変更してください。

DSQ20644 &V1 の値が無効です。

説明: 254 ページの『DSQ20608』を参照してください。

DSQ20645 &V1 の値が無効です。

説明: 256 ページの『DSQ20641』を参照してください。

DSQ20646 &V1 の値が無効です。

説明: 『DSQ20642』を参照してください。

DSQ20647 &V1 の値が無効です。

説明: 『DSQ20643』を参照してください。

DSQ20648 &V1 の値が無効です。

説明: 254 ページの『DSQ20608』を参照してください。

DSQ20649 値 '&V2' は &V1 には無効です。

説明: 255 ページの『DSQ20612』を参照してください。

DSQ20650 OK、例示表は拡大されました。

DSQ20651 OK、条件ボックスが拡大されました。

DSQ20652 OK、例示表は拡大されました。

DSQ20653 OK、例示表は拡大されました。

DSQ20654 この ENLARGE は、表を 1022 行以上にするため実行できません。

説明:

表は拡大されませんでした。なぜなら、拡大すると、表の最大行数である 1022 行を超えてしまうからです。

ユーザーの処置:

行数を少なくして、照会を作成し直してください。

DSQ20655 この ENLARGE は、列の幅を 1020 文字以上にするため実行されませんでした。

説明:

表は拡大されませんでした。なぜなら、最大列幅である 1020 文字を超えてしまうからです。

ユーザーの処置:

列幅がもっと狭くなるように、照会を書き直してください。もう 1 つの同名の列を追加することを検討してください。

DSQ20656 ENLARGE で条件ボックスを 1020 文字より広くできません。

説明:

条件ボックスは拡大されませんでした。なぜなら、最大幅である 1020 文字に、すでに達しているからです。

ユーザーの処置:

もっと短い例示エレメントを使用し、条件から不要なブランクを削除してください。AND で連結した条件は、別個の条件として別の行に書くことができます。

DSQ20657 この ENLARGE を行うと、条件ボックスが 1022 行を超えます。

説明:

条件ボックスは、すでに最大行数である 1022 行に達しているため、拡張されませんでした。1 つの条件リストを収めるのに、複数の条件ボックスを使用することもできます。DRAW COND コマンドを用いれば、第 2 の条件ボックスの作成ができます。

DSQ20658 • DSQ20672

ユーザーの処置:

照会に、さらに多くの条件を含めたい場合には、第 2 の条件ボックスを作成してください。

DSQ20658 この ENLARGE を行うと、コメント・ボックスの幅が 1020 文字を越します。

説明:

コメント・ボックスは、すでに最大幅である 1020 文字に達しています。さらにスペースが必要な場合には、行の 1 つにカーソルを置いて、ENLARGE コマンドを出すことによって、コメント・ボックスに行を追加ができます。また、DRAW COMM コマンドによって新たなコメント・ボックスを作成することもできます。

ユーザーの処置:

上記どちらかの方法でスペースを増やすか、または別の操作に移ってください。

DSQ20659 この ENLARGE を行うと、コメント・ボックスが 1022 行を超えます。

説明:

コメント・ボックスは、すでに最大行数である 1022 行に達しています。さらにスペースが必要な場合には、ボックス上部の "コメント" という文字のところにカーソルを置いて、ENLARGE コマンドを出すことによって、コメント・ボックスの幅を広げることができます。また、DRAW COMM コマンドによって、新たなコメント・ボックスを作成することもできます。

ユーザーの処置:

上記どちらかの方法でスペースを増やすか、または別の操作に移ってください。

DSQ20660 OK。&V1 が実行されました。コメント・ボックスは拡張されました。

DSQ20661 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20662 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20663 これ以上拡大することはできません。

説明:

QMF ストレージの制限のため、表、コメント・ボックス、または条件ボックスをこれ以上拡大することができません。

ユーザーの処置:

照会を作成し直してください。注釈ボックスまたは条件ボックスは複数使用できます。

DSQ20664 これ以上拡大することはできません。

説明: 『DSQ20663』を参照してください。

DSQ20665 これ以上拡大することはできません。

説明: 『DSQ20663』を参照してください。

DSQ20666 これ以上拡大することはできません。

説明: 『DSQ20663』を参照してください。

DSQ20667 これ以上拡大することはできません。

説明: 『DSQ20663』を参照してください。

DSQ20668 これ以上拡大することはできません。

説明: 『DSQ20663』を参照してください。

DSQ20669 これ以上拡大することはできません。

説明: 『DSQ20663』を参照してください。

DSQ20670 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 243 ページの『DSQ20460』を参照してください。

DSQ20671 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 243 ページの『DSQ20462』を参照してください。

DSQ20672 &V1 には PROC または QUERY が必要です。

説明: 243 ページの『DSQ20463』を参照してください。

DSQ20673 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 244 ページの『DSQ20464』を参照してください。

DSQ20674 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20675 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してください。

DSQ20676 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20042』を参照してください。

DSQ20677 &V1 は SQL 照会では無効です。

説明: 237 ページの『DSQ20391』を参照してください。

DSQ20678 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 243 ページの『DSQ20462』を参照してください。

DSQ20679 QBE 照会では INSERT は無効です。

説明:

INSERT コマンドが使用できるのは、プロシージャ、SQL の場合の照会または FORM.OPTIONS を除く任意の形式パネルだけです。

ユーザーの処置:

QBE 照会になにかを付け加えるには、次のどちらかの形式の DRAW コマンドを使用してください。

1. DRAW
2. DRAW tablename
3. DRAW COMM
4. DRAW COND

また、既存の表またはボックスに行を追加するには、ENLARGE を使用してください。

DSQ20680 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 243 ページの『DSQ20462』を参照してください。

DSQ20681 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 243 ページの『DSQ20462』を参照してください。

DSQ20682 &V1 はこのパネルでは使用できません。

説明: 243 ページの『DSQ20462』を参照してください。

DSQ20684 メッセージ &V2 の定義が無効であるか、または欠落しています。

説明:

指定した ISPF メッセージが存在していないか、またはメッセージ構文に誤りがあります。また、メッセージ構文で定義される ISPF ヘルプ・パネルにエラーが含まれている可能性もあります。

ユーザーの処置:

既存の ISPF メッセージ名をタイプするか、ISPF メッセージ・ライブラリーでの定義を訂正するかしてください。メッセージ構文は、該当の ISPF 資料を参照してください。

DSQ20685 MESSAGE は &V2 ではなく、有効な ISPF メッセージ名を必要とします。

説明:

MESSAGE コマンドの後に続くどのような指定も、ISPF メッセージ名として使用されます。ISPF メッセージ名は、ISPF メッセージ・ライブラリーのメッセージを識別する 8 文字の名前でなければなりません。

ユーザーの処置:

&V2 を有効な ISPF メッセージ名に置き換えて、コマンドを入力し直してください。

DSQ20686 ISPF メッセージ名を 2 つ以上指定することはできません。

説明:

MESSAGE コマンドは、プロシージャからのメッセージまたはコマンド・インターフェースからのメッセージを定義するために使用します。

次のコマンドを実行してください。

```
MESSAGE <ISPF message name> (options...
```

ここで、ISPF message name は ISPF メッセージ・ライブラリーのメッセージの ID です。また、options は以下の任意のパラメーターのうちのいずれかです。

```
TEXT
HELP
STOPPROC
```

ユーザーの処置:

MESSAGE コマンドのための有効なオプションを使用してコマンドを入力し直してください。コマンドとそのパラメーターの詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ20687 MESSAGE コマンドの **TEXT** オプションが不完全です。

説明:

TEXT の後に値が必要です。この値には、単一引用符で区切った任意の文字ストリングを指定できます。テキスト中の引用符を表すためには、単一引用符を 2 つ使ってください。

ユーザーの処置:

TEXT の後に正しい値を追加するか、またはこのオプションを省略してください。

DSQ20688 メッセージの **TEXT** オプションの長さが &V2 を超えています。

説明:

MESSAGE コマンドの TEXT キーワードの値は、任意の文字ストリングにすることができます。テキストの値で有効な区切り文字は、単一引用符、括弧、および二重引用符です。区切り文字が二重引用符のとき、二重引用符はメッセージ・テキストの一部として組み込まれます。メッセージ・テキストの最大長は &V2 です。

ユーザーの処置:

テキスト・ストリングを訂正してコマンドを入力し直してください。

DSQ20689 MESSAGE コマンドの **HELP** オプションが不完全です。

説明:

HELP の後に値が必要です。この値には、ISPF パネル・ライブラリーから選んだ任意の 8 文字のヘルプ・パネル名を指定できます。

ユーザーの処置:

HELP の後に正しい値を追加するか、またはこのオプションを省略してください。

DSQ20690 &V2 は **HELP** に対しては無効です。

説明:

HELP の値は、ISPF パネル・ライブラリー内のヘルプ・パネルを識別するための 8 文字の名前を指定してください。

ユーザーの処置:

HELP 値を訂正してコマンドを入力し直してください。

DSQ20691 MESSAGE コマンドの **STOPPROC** オプションが不完全です。

説明:

STOPPROC のあとに YES または NO の値が必要です。

ユーザーの処置:

STOPPROC の後に正しい値を追加するか、またはこのオプションを省略してください。

DSQ20692 &V2 は **STOPPROC** には無効です。
YES または **NO** を使用してください。

説明:

STOPPROC オプションは、メッセージが表示されたあとで手順の実行を停止するかどうかを判別します。STOPPROC=YES を指定した場合、メッセージが表示されたあとで、現在の手順およびより高レベルのプロシージャは停止されます。STOPPROC オプションを省略すると、デフォルトの値 "NO" が使われます。

ユーザーの処置:

STOPPROC の後に YES または NO を追加するか、またはこのオプションを省略してください。

DSQ20693 &V2 は **MESSAGE** コマンドに対しては無効です。

説明:

オプション &V2 は MESSAGE コマンドでは使用できません。以下にリストされているオプションのみを使用します。

```
TEXT
HELP
STOPPROC
```

ユーザーの処置:

オプションを変更または除去して、コマンドを入力し直してください。

DSQ20694 MESSAGE コマンドが不完全です。

説明:

MESSAGE は、プロシージャーからの、またはコマンド・インターフェースを介してのメッセージを定義するために使用されます。MESSAGE < ISPF メッセージ名> (オプションと入力してください。MESSAGE に対する有効なオプションは次のとおりです。

```
TEXT
HELP
STOPPROC
```

ISPF メッセージ名または TEXT オプションのどちらかを必ず指定しなければなりません。

ユーザーの処置:

MESSAGE コマンドに少なくとも ISPF メッセージ名または TEXT メッセージを追加して、入力し直してください。

DSQ20695 ヘルプ・パネル &V2 がパネル・ライブラリーにありません。

説明:

指定されたヘルプ・パネルは現行 ISPF パネル・ライブラリーのメンバーではありません。

ユーザーの処置:

MESSAGE コマンドの HELP キーワードまたは出口提供のパネル名を訂正するか、パネル・ライブラリーを訂正するかしてください。

DSQ20697 &V1 コマンドに対して ISPF サービスが使用できませんでした。

説明:

&V1 コマンドを使用したとき、&V1 コマンドが要求する ISPF サービスが使用できませんでした。ISPF サービスは、アプリケーションが ISPF の下で実行されているときに限り、そのアプリケーションから使用できません。ISPF サービスでコマンドを使用できるようにするには、そのコマンドを使用するアプリケーションを開始するために ISPSTART コマンドを使用しなくてはなりません。

ユーザーの処置:

ISPF コマンドでアプリケーションを実行してください。

DSQ20698 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20699 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20700 &V1 はコマンド行でしか使用できません。

説明:

&V1 コマンドは、端末から対話式で出さなければなりません。プロシージャーで使用することや、コマンド・インターフェースから入力することはできません。

ユーザーの処置:

&V1 は、端末から対話式に使用してください。

DSQ20701 &V1 は、コマンド・インターフェースまたはプロシージャーからのみ使用してください。

説明:

コマンド・インターフェースまたはプロシージャーからのみ発行できる QMF コマンドがいくつかあります。そのようなコマンドの完全なリストについては、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

ユーザーの処置:

&V1 コマンドは、コマンド・インターフェースまたはプロシージャーからのみ発行してください。

DSQ20702 QMF コマンドを QMF の後に続けなければなりません。

説明: 220 ページの『DSQ20122』を参照してください。

DSQ20703 コマンド行から入力した MESSAGE コマンドは無効です。

説明:

MESSAGE は、プロシージャーからの、またはコマンド・インターフェースを介してのメッセージを定義するために使用されます。

ユーザーの処置:

プロシージャーから、またはコマンド・インターフェー

DSQ20704 • DSQ20715

スを介してアプリケーションから、MESSAGE コマンドを入力してください。

DSQ20704 &V1 コマンドは、対話式 QMF セッションを必要とします。

説明:

&V1 コマンドを実行するためにはパネルの表示が必要であり、そのためには対話式 QMF セッションが必要です。バッチで発行されたコマンド、または INTERACT を使わずに QMF コマンド・インターフェースを介して発行されたコマンドによって、ユーザー対話または表示を行ってはいけません。

ユーザーの処置:

対話式で、または、INTERACT コマンドを使用して QMF コマンド・インターフェース経由で、&V1 コマンドを再入力してください。バッチ・プロシージャでこのコマンドを使用している場合には、パネルの表示を行うすべてのコマンドをプロシージャから除去してください。

DSQ20705 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20706 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20707 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20708 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20709 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20710 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20711 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20712 DSQSMTHD はこの環境では無効です。

DSQ20713 この表は QBE で作成するには大きすぎます。

説明:

QMF には QBE 照会に対してストレージ限度があり、この表はその最大値を超えています。

ユーザーの処置:

SQL または指示照会を試してください。あるいは、少ない行が入っている視点を使って、QBE 照会のサイズを小さくするように試みてください。

DSQ20714 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20715 表 &V2&V3&V4.&V5 が見つかりません。

説明:

DRAW コマンドを SQL 照会を使用する場合には、データベースに入っている表の名前を指定しなければなりません。データベースに、&V2&V3&V4.&V5 という名前の表はありません。

別名を使用している場合は、その別名が参照する表がありません。

ユーザーの処置:

スペルの誤りがないかどうかを検査してください。別名を使用している場合は、関連する表があるか調べてください。LIST コマンドを使用すれば、表のリストが見られます。「LIST ?」コマンドは、LIST オプションを指示します。

DSQ20716 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20717 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20718 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20719 TYPE オプションを完成してください。

説明:

TYPE オプションには値を指定しなければなりません。データを返す照会を作成するには SELECT を使用します。表に新しい行を追加する照会を組み立てたい場合には INSERT を使用してください。表の中の既存のデータを変更する照会を組み立てたい場合には、UPDATE を使用してください。TYPE オプションをコマンドからまったく除いてしまうこともできます。この場合には、SELECT を指定したものと見なされます。

ユーザーの処置:

TYPE オプションの後に SELECT、INSERT、または UPDATE を入力し、実行キーを押してください。

DSQ20720 TYPE の後には &V3 でなく SELECT、INSERT、または UPDATE を使用してください。

説明:

データを返す照会を作成するには SELECT を使用します。表に新しい行を追加する照会を組み立てたい場合には INSERT を使用してください。表の中の既存のデータを変更する照会を組み立てたい場合には、UPDATE を使用してください。

ユーザーの処置:

TYPE の後の値を訂正し、再入力してください。

DSQ20721 表 &V2&V3&V4.&V5 が見つかりません。

説明:

DRAW コマンドを SQL 照会を使用する場合には、デ

ータベースに入っている表の名前を指定しなければなりません。データベースに、&V2&V3&V4.&V5 という名前の表はありません。

ユーザーの処置:

既存の表の名前を指定してください。

DSQ20722 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ20723 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ20724 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ20725 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20726 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20727 &V1 の有効な値は、&V2 から &V3 までです。

説明:

大域変数 &V1 は、&V2 と &V3 の範囲の整数値にのみ設定できます。

ユーザーの処置:

指定された範囲内の整数に値を変更してください。

値に、プラス符号、小数点または先行ゼロを含まないようにしてください。

入力パネルに値を入力するときは、引用符付きストリングを使用しないでください。例えば、'1' ではなく 1 という値を使用してください。

DSQ20728 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20729 変数名をタイプしてから **ENTER** キーを押してください。

説明:

新しい大域変数を追加するには、有効な変数名を指定しなければなりません。

ユーザーの処置:

適当な入力フィールドに有効な変数名をタイプしてください。

DSQ20730 &V1 は有効な変数名ではありません。

説明:

設定しようとした大域変数の名前は有効ではありません。

ユーザーの処置:

変数名フィールドのテキストを正しい値に変更してください。正しい大域変数名は次のものです。

- 文字長は 18 まで指定できます。
- 数字で開始することはできません。
- 次の文字を含めることはできません。
- . , ; : () | + - * / = & ' " ' "
- 組み込みブランクを含めることはできません。
- 一般に、「DSQ」という文字で始めることはできません。

DSQ20731 &V1 はすでに存在します。

説明:

追加しようとした大域変数はすでに存在します。

ユーザーの処置:

変数名フィールドのテキストを、まだ使用されていない名前に変更してください。

DSQ20732 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20733 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20734 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20735 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20736 &V1 の有効な値は、&V2 から &V3 までです。

説明: 263 ページの『DSQ20727』を参照してください。

DSQ20737 OK。変数&V1 が追加されました。

DSQ20738 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20739 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20740 変数値をタイプして、**ENTER** キーを押してください。

説明:

新しい大域変数を追加するには、変数値を指定しなければなりません。

ユーザーの処置:

適当な入力フィールドで有効な変数名をタイプし、**ENTER** キーを押してください。

DSQ20741 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20742 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ20743 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ20744 &V1 は有効な変数名ではありません。

説明: 264 ページの『DSQ20730』を参照してください。

DSQ20745 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20746 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ20747 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20748 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20749 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20750 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ20751 カーソルが、フィールドの位置にあります。

説明:

フィールド・キーを使用するには、カーソルが表示装置の画面移動可能域になければなりません。

ユーザーの処置:

表示したい変数の名前がある行にカーソルを移動して、フィールド・キーを押してください。

DSQ20752 &V1 は削除できません。

説明:

削除しようとした大域変数は削除することができません。 QMF 大域変数 (名前が「DSQ」で始まるもの) のすべてが削除できるとはかぎりません。

ユーザーの処置:

大域変数リストから削除しようとした変数名を調べ、操作を再試行してください。

DSQ20753 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 243 ページの『DSQ20461』を参照してください。

DSQ20754 OK。&V1 変数パネルが表示されました。

DSQ20755 OK。&V1 変数パネルが表示されました。

DSQ20756 CANCEL は、ポップアップ・ウィンドウが表示されている場合にのみ有効です。
(CANCEL is only valid when pop-up windows are displayed.)

説明: 252 ページの『DSQ20581』を参照してください。

DSQ20757 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ20758 OK。変数 &V1 が削除されました。

DSQ20759 OK。カーソルが位置付けられました。

DSQ20760 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ20761 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ20762 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20763 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20764 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20765 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20766 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20767 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20768 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20769 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20770 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20771 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20772 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20773 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20774 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20775 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20776 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20777 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20778 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20779 &V2 は QBE 照会の DRAW には指定できません。

説明:

QBE 照会の DRAW では、オプションは指定できません。

ユーザーの処置:

&V2 およびその後の値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ20780 OK。注釈ボックスが照会に追加されました。

DSQ20781 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20782 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20783 OK。例示表が **DRAW** によって作成されました。

DSQ20784 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20785 **DRAW** の後に指定されている名前が多すぎます。

説明:

SQL 照会の **DRAW** コマンドの形式は次のとおりです。

```
DRAW name (option-list
```

ここで、**name** は、データベースの表または視点の名前です。

名前にブランクが含まれている場合には、その名前全体を二重引用符で囲まなければなりません。例: **DRAW "MY TABLE"**

DRAW とともにオプションを指定する場合には、左括弧を忘れないように注意してください。例: **DRAW Q.STAFF (TYPE = SELECT**

DRAW コマンドを PF キーで入力する場合には、キーを押すときに、コマンド行にあるものが、必要とするものだけであることを確認してください。

ユーザーの処置:

DRAW コマンドを上記の形式に訂正し、再入力してください。

DSQ20786 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20787 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20788 OK。例示表が **DRAW** によって作成されました。

DSQ20789 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20790 OK。例示表が **DRAW** によって作成されました。

DSQ20791 **DRAW** の後に指定されている名前が多すぎます。

説明:

QBE 照会の **DRAW** コマンドに許される形式は次のとおりです。

```
DRAW DRAW TABLE DRAW COND DRAW COMM DRAW name
```

ここで、**name** は、データベース内の表または視点の名前、またはまだ作成されていない表または視点の名前です。名前にブランクが含まれている場合は、その名前全体を二重引用符で囲まなければなりません。例: **DRAW "MY TABLE"**

DRAW コマンドを PF キーで入力する場合には、キーを押すときに、コマンド行にあるものが、必要とするものだけであることを確認してください。

ユーザーの処置:

DRAW コマンドを上記の形式のどちらかに訂正し、再入力してください。

DSQ20792 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ20793 &V2 は表または視点ではありません。

説明:

「**DRAW name1**」というコマンドを出すことはできま

DSQ20794 • DSQ20804

せん。なぜなら、「name1」（つまり &V2）が次のいずれかに該当するからです。

1. DATA、FORM、QUERY、PROC、PROFILE、または REPORT
 2. 既存の形式、照会、またはプロシージャの名前
- ユーザーの処置:

既存の表をドローしたいわけではない場合は、「name1」以外の受け入れ可能な別の名前を見つけてください。既存の表をドローしたい場合は、最初に同名の照会、フォーム、またはプロシージャを削除します。そのオブジェクトを削除前に表示して、可能であれば別の名前で保存します。こうしておけば、重要なオブジェクトを失わなくてすみます。

DSQ20794 DRAW とともに &V2 を使用することはできません。

説明:

DRAW コマンドとともに &V2 を使用することはできません。使用できるのは次のオプションだけです。

TYPE (valid for SQL query only)

ユーザーの処置:

有効なオプションを使用してください。&V2 とその後の値を除去してください。

DSQ20795 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20796 DRAW コマンドは SQL および QBE 照会パネルだけで作動します。

説明:

DRAW コマンドは、新しいコメント・ボックス、条件ボックス、または例示表を QBE 照会に追加します。または、SELECT、INSERT、または UPDATE ステートメントを、SQL 照会に追加します。DRAW を使用するときには、SQL または QBE 照会パネルが表示されていなければなりません。DRAW は指示照会上では作動しません。

プロシージャの中で DRAW を使用する場合には、現オブジェクト・パネルは、プロシージャ内のコマンドをそのプロシージャ内での順序どおりにコマンド行に入力した場合に表示されるものと同じです。

ユーザーの処置:

QBE 照会を書きたい場合には、RESET QUERY (LANGUAGE=QBE というコマンドを出せば、空の QBE パネルが得られます。また、SQL 照会を書きた

い場合には、RESET QUERY (LANGUAGE=SQL というコマンドを出せば、空の SQL パネルが得られます。

DSQ20797 DRAW コマンドは SQL および QBE 照会パネルだけで作動します。

説明: 『DSQ20796』を参照してください。

DSQ20798 データベース内の表または視点の名前を指定してください。

説明:

DRAW コマンドを SQL 照会で使用する場合には、データベースに入っている表または視点の名前を指定しなければなりません。

ユーザーの処置:

現に存在している表または視点の名前を指定してください。

DSQ20799 OK. 条件ボックスが DRAW によって作成されました。

DSQ20800 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20801 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20802 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20803 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20804 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20805 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20806 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20807 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20811 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20812 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20813 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20814 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20815 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20816 &V1 の値が無効です。

説明:

大域変数 &V1 を、指定した値に設定することができません。

&V1 の有効な値は以下のとおりです。

C CW CT CDx B BW X XW M Uxxxx Vxxxx

xxxx は、ゼロから 4 個の文字、数字、または特殊文字です。

ユーザーの処置:

変数を有効な &V1 値に変更してください。

DSQ20817 &V1 の値が無効です。

説明:

大域変数 &V1 を、指定した値に設定することができません。

&V1 の有効な値は以下のとおりです。

E EZ D DC DZ DZC I IZ J JZ K KZ L LZ P PZ M
Uxxxx Vxxxx

xxxx は、ゼロから 4 個の文字、数字、または特殊文字です。

ユーザーの処置:

変数を有効な &V1 値に変更してください。

DSQ20818 &V1 の値が無効です。

説明:

大域変数 &V1 を、指定した値に設定することができません。

&V1 の有効な値は以下のとおりです。

E EZ D DC DZ DZC I IZ J JZ K KZ L LZ P PZ M
Uxxxx Vxxxx L*

D、DC、DZ、DZC、I、IZ、J、JZ、K、KZ、L、LZ、P および PZ の各コードの後には数字 (0 から 99 まで) を指定できます。

xxxx は、ゼロから 4 個の文字、数字、または特殊文字です。

大域変数設定 L* が使用される場合は、表示される小数点以下の桁数はデフォルトでデータベース内の 10 進列の定義に設定されます。例えば、列が DECIMAL(6,4) として定義されていた場合、数値は小数第 4 位まで表示されます。

ユーザーの処置:

変数を有効な &V1 値に変更してください。

DSQ20819 &V1 の値が無効です。

説明: 『DSQ20816』を参照してください。

DSQ20820 &V1 の値が無効です。

説明: 269 ページの『DSQ20817』を参照してください。

DSQ20821 &V1 の値が無効です。

説明: 269 ページの『DSQ20818』を参照してください。

DSQ20825 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ISPF エラー・コードは &V2 です。 ISPF インターフェース・モジュールからの理由コードは &V1 です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ20826 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ20827 &V1 コマンドに対して ISPF サービスが使用できませんでした。

説明: 261 ページの『DSQ20697』を参照してください。

DSQ20828 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ20825』を参照してください。

DSQ20829 ヘルプ・パネルの表示には、対話式 QMF セッションが必要です。

説明:

バッチのプロシージャまたはアプリケーションに HELP コマンドが含まれています。対話式セッションで

このようなことが行われると QMF ヘルプ・パネルが表示されますが、非対話式の QMF の実行中は表示できません。バッチによって入力されたコマンド、または対話によらないコマンド・インターフェースを介して入力されたコマンドによって、ユーザー対話または表示を行ってはなりません。

ユーザーの処置:

ユーザー対話または表示を行うコマンドを、バッチ・プロシージャまたはアプリケーションから除去してください。

DSQ20830 DRAW コマンドの IDENTIFIER の値が欠落しています。

説明:

指定する場合は、DRAW コマンドの IDENTIFIER キーワードに値がある必要があります。この値は最大長が 18 文字であり、またブランクで始めてはなりません。

ユーザーの処置:

値を指定するか、IDENTIFIER キーワードを除去して、DRAW コマンドを再発行してください。

DSQ20831 DRAW コマンドの IDENTIFIER の値 &V1 が無効です。

説明:

DRAW コマンドの IDENTIFIER キーワードに指定された値 &V1 が無効です。この値は最大長が 18 文字であり、またブランクで始めてはなりません。

ユーザーの処置:

IDENTIFIER キーワードの値を訂正して、DRAW コマンドを再発行してください。

DSQ20832 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20833 &V1 はコマンドではありません。

説明: 218 ページの『DSQ20114』を参照してください。

DSQ20834 フォルダー名が最大長の &V1 文字を超えています。

DSQ20835 **FOLDER** キーワードが指定されている場合、ワイルドカードは許可されません。

説明: 217 ページの『DSQ20091』を参照してください。

DSQ20836 **DSQEC_CURR_FOLDER** がフォルダー名であれば、**FOLDER** はブランクにできません。

説明: 212 ページの『DSQ20055』を参照してください。

DSQ20837 **&V1** コマンドの **FOLDER** キーワードには、有効なフォルダー名が必要です。
(The **FOLDER** keyword on the **&V1** command requires a valid folder name.)

説明: 216 ページの『DSQ20089』を参照してください。

DSQ20838 **FOLDER** キーワードまたは **DSQEC_CURR_FOLDER** の修飾フォルダー名が無効です。

DSQ20839 **FOLDER** キーワードに値が必要です。

説明: 216 ページの『DSQ20087』を参照してください。

DSQ20840 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20841 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20842 警告メッセージが生成されました。

説明: 26 ページの『DSQ10310』を参照してください。

DSQ20843 **&V1** コマンドは **DSQEC_LOB_RETRV=2** の場合は使用できません。

説明:

大域変数 **DSQEC_LOB_RETRV** が 2 に設定されている

場合、LOB データが含まれている表を照会できますが、LOB データを検索することはできません。LOB メタデータは、LOB 列データの代わりに検索されません。LOB データが検索されないので、**&V1** コマンドは LOB 列を含む表には使用できません。

ユーザーの処置:

LOB 列を含む表をエクスポートするには、大域変数 **DSQEC_LOB_RETRV** を 1 または 3 のいずれかに設定する必要があります。

DSQEC_LOB_RETRV の有効な値は次のとおりです。

1 - LOB データ検索を使用可能にする。ユーザーは LOB データを含む表を照会できます。結果のデータは、LOB データを含む列が含まれるすべての列について返されます。ただし、LOB メタデータは、照会結果に LOB データの代わりに表示されます。ユーザーは編集コードを変更して照会結果に LOB データを表示できます。これはデフォルト値です。

2 - LOB データ検索を使用不可にする。ユーザーは LOB データを含む表を照会できます。しかし、LOB データは検索できません。照会結果データは表内の他のすべての列について返され、LOB メタデータは LOB データを含む列に対して表示されます。ユーザーは編集コードを変更して、照会結果に LOB データを表示することはできません。

3 - LOB データを自動的に検索する。ユーザーは LOB データを含む表を照会できます。結果のデータは、LOB データを含む列が含まれるすべての列について返されます。すべての結果データが、照会結果に自動的に表示されます。このオプションを選択すると、多くのリソースが消費され、非常に時間がかかる可能性があります。

DSQ20844 **DATA** オブジェクトを保存できません。
DSQSPILL ファイルが使用できません。

説明:

SAVE DATA コマンドを発行すると、QMF はデータを仮想記憶域に読み込みます。DATA オブジェクトが大きすぎて、使用可能な記憶域に収まらない場合、データは QMF 予備ファイルにオーバーフローします。この場合、予備ファイルがマルチボリューム・データ・セットとしてボリューム **&V1** および **&V2** へ割り振られたため、予備ファイルを使用できません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者にこの問題を報告してください。管理者は、ユーザーが一般的に作業する結果セットのサイズに適したスペースを持つ単一ボリューム・データ・セットとして **DSQSPILL** データ・セットを割り振ることができます。「DB2 QMF インストールおよび管理の手引

DSQ20845 • DSQ20855

き」では、スピル・ファイルを割り振る方法について記載されています。

DSQ20845 データ・タイプ **&V1** は現行サーバーではサポートされません。

説明:

参照した表の列、または DATA オブジェクトに、データ・タイプ **&V1** があります。このデータ・タイプはサーバー **&LS** でサポートされていません。この理由は、このタイプのサーバーが、問題となっているデータ・タイプをサポートしていないか、またはサーバーのリリース・レベル (**&V3**) がこのタイプのデータ・タイプをサポートしていないかのいずれかです。

ユーザーの処置:

&V2 を実行しようとしたデータが別のシステムからのデータである場合、現在接続中のデータベースでサポートされるタイプの列のみを使用して、その別のシステム上でデータを再作成してください。その後、もう一度 **&V2** 操作を行ってください。

DSQ20846 **&V1** コマンドを **10** 進浮動小数点データと共に使用することはできません。

説明:

表に 1 つ以上の **10** 進浮動小数点列が含まれていて、**QMF** が実行されているプロセッサが **10** 進浮動小数点命令をサポートしていないため、**&V1** コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置:

コマンドが **10** 進浮動小数点データの保存もエクスポートもインポートも試みないようにコマンドを変更してください。

DSQ20847 **DSQSMTHD** はこの環境では無効です。

DSQ20848 列名 '**&V1**' が長すぎます。

説明: 13 ページの『DSQ10093』を参照してください。

DSQ20849 **&V1** コマンドは **DSQEC_LOB_SAVE=0** の場合は使用できません。

説明:

大域変数 **DSQEC_LOB_SAVE** が **0** に設定されている場合、LOB 列を含む表または視点はデータベースに保存できません。

ユーザーの処置:

LOB データを含む表または視点に **&V1** コマンドを使用したい場合は、**DSQEC_LOB_SAVE** 大域変数を **1** に設定します。その後、**QMF &V1** コマンドを再発行します。

DSQ20850 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20851 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20852 この名前ですでに存在していますが、オブジェクトのタイプが違います。

説明: 253 ページの『DSQ20583』を参照してください。

DSQ20853 **QMF** オブジェクト名にロケーションを使用することはできません。

説明: 15 ページの『DSQ10131』を参照してください。

DSQ20854 この名前ですでに存在していますが、オブジェクトのタイプが違います。

説明: 253 ページの『DSQ20583』を参照してください。

DSQ20855 現行の **DATA** オブジェクトが大きすぎます。

説明:

SAVE DATA コマンドを発行するかまたは **QMF Analytics for TSO** にオブジェクト仕様を保存すると、**QMF** はデータを仮想記憶域に読み込みます。この場合、現行の報告書に関連付けられているデータが大きすぎて、割り振られた仮想記憶域スペースに収まりません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者にこの問題を報告してください。管理者は以下の方法でこのエラーを解決できます。

- **QMF for TSO** では、**QMF** 報告書用に動的に割り振られる仮想記憶域の量を増やします。報告書用の仮想記憶域の動的割り振りは、**DSQSRSTG** プログラム・パラメーターの値を変更するか、または

DSQSBSTG プログラム・パラメーターのパーセンテージを指定することで調整できます。

- QMF 報告書に使用可能な固定記憶域の量を増やします。QMF for TSO または QMF for CICS での報告書に使用可能な記憶域の固定量を増やすには、DSQSBSTG プログラム・パラメーターを変更します。
- QMF 予備ファイルのサイズを増やします。

「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」では、QMF プログラム・パラメーターについて、および報告書のパフォーマンスの改善方法および予備記憶域の実装方法について説明しています。

DSQ20856 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ20857 **COMMENT** オプションには値が必要です。

説明: 246 ページの『DSQ20497』を参照してください。

DSQ20858 **COMMENT** の値は単一引用符で囲まなければならない。

説明:

COMMENT オプションを使用する場合には、コメントの前後に単一引用符を付けてください。コメント自体の中に単一引用符またはアポストロフィを含める場合には、それを二重にしてください。以下は有効なコメントの例です。

```
COMMENT='Smith's report.'
COMMENT='March Tax'
COMMENT='12/21/83'
```

ユーザーの処置:

COMMENT= の後に有効な値を指定するか、または **COMMENT=** をコメントから除去してください。

DSQ20859 **CONFIRM** の後には &V2 ではなく **YES** か **NO** を使用してください。

説明: 241 ページの『DSQ20438』を参照してください。

DSQ20860 **CONFIRM** の後には **YES** または **NO** を使用してください。

説明: 241 ページの『DSQ20437』を参照してください。

DSQ20861 **SAVE** とともに &V2 を使用することはできません。

説明:

オプション &V2 は、**SAVE** コマンドでは許されません。以下にリストされているオプションのみを使用します。

```
SHARE      (not valid for DATA or PROFILE)
COMMENT    (not valid for PROFILE)
CONFIRM    (not valid for PROFILE)
ACTION     (valid for DATA only)
FOLDER     (not valid for DATA or PROFILE)
```

ユーザーの処置:

有効なオプションを使用してください。&V2 とその後の値を除去してください。

DSQ20862 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ20863 **AS** の次に名前を指定してください。

説明:

SAVE コマンドの正しい形式は次のとおりです。

```
SAVE name1 AS name2
```

「名前 2」は、データベース内で名前 1 に与えられる新しい名前、または置き換えたいオブジェクトの名前です。

ユーザーの処置:

上記の形式に合うように、**SAVE** コマンドを訂正してください。

DSQ20864 &V2 はデータベース内のオブジェクトの名前にすることはできません。(&V2 **cannot be the name of an object in the database.**)

説明:

SAVE コマンドの正しい形式は次のとおりです。

```
SAVE name1 AS name2
```

name2 は、データベース内で **name1** に与えられる新しい名前、または置き換えたいオブジェクトの名前です。これは、**ANALYTIC**、**DATA**、**FORM**、**PROC**、**PROFILE**、**QUERY**、**REPORT**、**TABLE**、**FOLDER**、パネル名 (**FORM.COLUMNS** など) にすることはできません。また、これは、**FORM** によって修飾されたもの (**FORM.MYNAME** など) にすることもできません。

ユーザーの処置:

DSQ20865 • DSQ20874

「name2」に別の名前を選択し、コマンドを再実行してください。

DSQ20865 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ20866 SAVE コマンドでは AS が予期されません。(AS is expected on the SAVE command.)

説明:

SAVE コマンドの正しい形式は次のとおりです。

```
SAVE &V2 AS name2
```

name2 は、&V2 がデータベースに持つ新規の名前、または置換対象のオブジェクトの名前です。

ユーザーの処置:

上記の形式に合うように、SAVE コマンドを変更してください。

DSQ20867 SAVE コマンドでは AS が予期されません。(AS is expected on the SAVE command.)

説明: 『DSQ20866』を参照してください。

DSQ20868 &V2 は SAVE には無効なオブジェクト・タイプです。

説明:

SAVE コマンドの使用できる形式は次のとおりです。

```
SAVE PROFILE
SAVE objecttype AS objectname
Objecttype can be QUERY, PROC, FORM, or DATA.
Objectname is the name the saved object will have in the database.
```

ユーザーの処置:

&V2 を有効なオブジェクト・タイプに変更し、コマンドを再実行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ20869 オブジェクト・タイプに無効な値が入力されました。

説明:

コマンドで、オブジェクト・タイプに無効な値を入力しました。このパネルから、オブジェクト・タイプを入力

しなければなりません。有効な値は、QUERY、FORM、PROC、PROFILE、または DATA です。

ユーザーの処置:

オブジェクト・タイプをコマンドに追加してください。

DSQ20870 SAVE に指定されている名前が多すぎます。

説明:

SAVE コマンドに許される形式は次のとおりです。

1. SAVE PROFILE
2. SAVE name1 AS name2

「name1」は DATA、FORM、QUERY、または PROC です。「name2」は、オブジェクトがデータベース内に所有することになる名前です。

「name2」にブランクが含まれている場合は、SAVE DATA AS "MY TABLE" のように名前全体を二重引用符で囲まなければなりません。

SAVE とともにオプションを指定する場合には、左括弧を忘れないように注意してください。例: SAVE 名前 1 AS 名前 2 (CONFIRM = YES

ユーザーの処置:

SAVE コマンドを上記の形式のどちらかに訂正し、再入力してください。

DSQ20871 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20872 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20873 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20874 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20875 SAVE に指定されている名前が多すぎます。

説明: 274 ページの『DSQ20870』を参照してください。

DSQ20876 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20877 &V2 は SAVE には無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 274 ページの『DSQ20868』を参照してください。

DSQ20878 この名前ですでに存在していますが、オブジェクトのタイプが違います。

説明: 253 ページの『DSQ20583』を参照してください。

DSQ20879 表内の対応する列とデータとに互換性がありません。

説明: 247 ページの『DSQ20501』を参照してください。

DSQ20880 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20881 &V2 は、ユーザーのユーザー ID ではありません。

説明:

SAVE QUERY AS TOM.NEWTAB のようなコマンドが発行されましたが、ご使用のユーザー ID は TOM ではありません。オブジェクトは、自分のユーザー ID を使用した場合にのみ保存できます。

適切な許可がある場合に限り、自分以外のユーザー ID を使用してオブジェクトを保管できます。

ユーザーの処置:

コマンドから &V2 を除外し、コマンドを再発行してください。ご使用のユーザー ID が、データベースに保存するオブジェクトの名前に自動的に付加されます。オブジェクトを別のユーザーに対して保管したいがその権限がない場合、適切な権限について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ20882 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 232 ページの『DSQ20316』を参照してください。

DSQ20883 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20884 OK、&V1 は &V2 としてデータベースに保存されました。

DSQ20885 OK、&V1 は、データベースで &V2 に置き換えられました。

DSQ20886 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20887 この名前ですでに存在していますが、オブジェクトのタイプが違います。

説明: 253 ページの『DSQ20583』を参照してください。

DSQ20888 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20889 OK。プロファイルはデータベースに保管されました。

DSQ20890 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ20891 OK、&V1 で &V2 を置き換えます (コメントは無視)。

DSQ20892 表内の対応する列とデータとに互換性がありません。

説明: 247 ページの『DSQ20501』を参照してください。

DSQ20893 **&V1** コマンドの処理エラーです。詳しくはヘルプ・キーを押してください。

DSQ20894 **OK、&V1** コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20895 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20896 **SAVE** に指定されている名前が多すぎます。

説明: 274 ページの『DSQ20870』を参照してください。

DSQ20897 このオブジェクト・タイプに **LANGUAGE** オプションは提供されていません。

説明:

LANGUAGE オプションは、オブジェクト・タイプが **FORM** のときにだけ提供されます。オブジェクト・タイプが **&V1** のときには言語を変更することはできません。

ユーザーの処置:

コマンドから **LANGUAGE** オプションを取り除くか、またはオブジェクト・タイプを **FORM** に変更してください。

DSQ20898 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20899 **&V2** は **SAVE** には無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 274 ページの『DSQ20868』を参照してください。

DSQ20900 **COMMENT** テキストが **78** 文字を超えています。

説明: 247 ページの『DSQ20498』を参照してください。

DSQ20901 **SHARE** のあとには **YES** または **NO** を使用してください。

説明:

SHARE オプションは、フォーム、照会、またはプロシージャを他のすべての **QMF** ユーザーと共有するかどうかを決定します。このオプションの値は、**YES** (共用) または **NO** (非共用) のどちらかです。オブジェクトの置き換えの際に、オプションを省略した場合には、現在の **SHARE** の値がそのまま使われます。また、新たなオブジェクトの作成の際に、オプションを省略した場合には、**NO** を指定したものと見なされます。しかし、コマンドにこのオプションを含めた場合には、必ず **YES** または **NO** のどちらかの値を与えなければなりません。

ユーザーの処置:

SHARE = の後に **YES** または **NO** を入力するか、またはこのオプションを削除してください。

DSQ20902 **SHARE** の後には **&V2** ではなく、**YES** か **NO** を使用してください。

説明:

SHARE オプションは、フォーム、照会、またはプロシージャを他のすべての **QMF** ユーザーと共有するかどうかを決定します。このオプションの値は、**YES** (オブジェクトは共有される) または **NO** (オブジェクトは共有されない) のみにすることができます。使用された値は、**&V2** でした。

ユーザーの処置:

SHARE のあとには **YES** または **NO** だけを入力してください。

DSQ20903 **&V2** は **SAVE** には無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 274 ページの『DSQ20868』を参照してください。

DSQ20904 **&V2** はデータベース内のオブジェクトの名前にすることはできません。(**&V2 cannot be the name of an object in the database.**)

説明: 273 ページの『DSQ20864』を参照してください。

DSQ20905 &V2 は **SAVE PROFILE** では使用できません。

説明:

SAVE PROFILE コマンドでは、オプションを使うことができません。

ユーザーの処置:

&V2 およびその後の値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ20906 &V2 は **SAVE PROFILE** では使用できません。

説明: 『DSQ20905』を参照してください。

DSQ20907 &V2 は **SAVE PROFILE** では使用できません。

説明: 『DSQ20905』を参照してください。

DSQ20908 &V2 は **SAVE DATA** では使用できません。

説明:

オプション &V2 は **SAVE DATA** コマンドでは使用できません。 **COMMENT** および **CONFIRM** オプションだけを使ってください。

ユーザーの処置:

&V2 およびその後の値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ20909 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20910 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20911 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20912 **COMMENT** テキストが 78 文字を超えています。

説明: 247 ページの『DSQ20498』を参照してください。

DSQ20913 値が **LANGUAGE** オプションから欠落しています。

説明:

コマンドによって **LANGUAGE** オプションを受け取りましたが、値が欠けていました。 オプションを使用する場合は、値を入れてください。 有効な値は以下のとおりです。

ENGLISH

この結果、形式は英語となります。

SESSION

この結果、形式はセッション言語となります。

ユーザーの処置:

コマンドを再試行してください。 **LANGUAGE** オプションに値を入れるか、コマンドから **LANGUAGE** オプションを除去してください。

DSQ20914 **LANGUAGE** オプションでは **ENGLISH** または **SESSION** を使用してください。

説明:

LANGUAGE オプションで認識できない値が使用されています。 有効な値は以下のとおりです。

ENGLISH

この結果、形式は英語となります。

SESSION

この結果、形式はセッション言語となります。

ユーザーの処置:

LANGUAGE オプションを **ENGLISH** または **SESSION** にしてコマンドを再試行してください。

DSQ20915 **ACTION** オプションは、このオブジェクト・タイプで提供されていません。

説明:

ACTION オプションは、オブジェクト・タイプが **DATA** の場合だけ提供されます。

ユーザーの処置:

コマンドから **ACTION** オプションを取るか、オブジェクト・タイプを **DATA** に変更してください。

DSQ20916 ACTION オプションには、**APPEND** または **REPLACE** を使用してください。

説明:

ACTION オプションに認識できない値を使用しました。有効な値は以下のとおりです。

1. APPEND - 既存の表がある場合には、保管されたデータがそこに追加され、表がない場合には新しい表が作成されます。
2. REPLACE - 保管されたデータは既存の表に置き換わります。

ユーザーの処置:

ACTION オプションを APPEND または REPLACE に変更し、コマンドを再実行してください。

DSQ20917 保管データの列カウントが、許可された最大値を超えました。

説明:

データの中の列の数が &V2 の最大許容列を超える &V1 の列カウントを含んでいます。データは保管されません。

ユーザーの処置:

データを保管したい場合は、データの中の列の数を &V2 の最大許可値内になるように変更してください。

DSQ20918 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ20919 OK、ストアード・プロシージャが正常に完了しました。

DSQ20920 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20921 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ20922 照会が長すぎるか、または複雑すぎます。

説明: 252 ページの『DSQ20569』を参照してください。

DSQ20923 照会が長すぎます。

説明:

QBE 照会は、実行の前に SQL に変換されます。この照会の場合、変換後の SQL 照会が長すぎて内部記憶域に収容しきれず、したがって実行できません。

ユーザーの処置:

もっと短い複数の照会に分けて実行してください。

DSQ20924 &V2 は **RUN PROC** では使用できません。

説明: 210 ページの『DSQ20007』を参照してください。

DSQ20925 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20926 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20927 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20928 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20929 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20930 &V1 コマンドには、処置を行う名前が必要です。

説明: 234 ページの『DSQ20338』を参照してください。

DSQ20931 &V2 は **RUN PROC** では使用できません。

説明: 210 ページの『DSQ20007』を参照してください。

DSQ20932 &V3 はオブジェクト名の後に続けられません。

説明:

入力は次のとおりでした: **RUN &V1 &V2 &V3**

しかし、**RUN** コマンドの形式は次のとおりです。

```
RUN objecttype objectname ( options
```

ユーザーの処置:

&V3 がオプションでない場合は、それを除去してコマンドを再試行してください。オプションの場合は、&V2 と &V3 の間に左括弧を加え、コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで **QMF** コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ20933 先頭に &V2 を使用するオプションは、**RUN** では無効です。

説明:

先頭に &V2 が指定されたオプションは、**RUN** コマンドでは許可されません。以下のオプションのみを使用してください。

```
CONFIRM    &VARIABLE
FORM       ROWLIMIT
```

ユーザーの処置:

先頭に &V2 が指定されているオプションを変更または除去してください。大域変数を置換変数として使用する場合、大域変数の名前は、先頭のアンパーサンド (&) を除く 17 文字に制限されます。このコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。データベース・オブジェクト・リストから **QMF** コマンドを入力する場合の詳細については、**LIST** コマンドのヘルプを参照してください。

DSQ20934 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ20935 &V1 は **RUN** には無効なオブジェクト・タイプです。

説明:

RUN コマンドに許される形式は次のとおりです。

```
RUN objecttype
RUN objectname
RUN objecttype objectname
```

objecttype は、**QUERY** または **PROC** のいずれかです。objectname は、データベース内の照会またはプロシージャの名前です。

ユーザーの処置:

&V1 を **QUERY** か **PROC** に変更し、コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで **QMF** コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ20936 **OK**、照会は実行されました。 **FORM** を **DISPLAY** し、それを **CHECK** して警告メッセージを調べてください。

DSQ20937 **OK**、照会は実行されました。 **QUERY** および **FORM** には警告メッセージがあります。

DSQ20938 **OK**、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20939 **OK**。手順が実行されました。

DSQ20940 &V1 は **RUN** には無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 『DSQ20935』を参照してください。

DSQ20941 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20942 このタイプのオブジェクトで名前 &V2 のものはありません。

説明: 210 ページの『DSQ20009』を参照してください。

DSQ20943 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ20944 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ20945 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ20946 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ20947 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20948 &V1 ステートメントは照会では使用できません。

説明:

QMF で実行する SQL 照会からは &V1 SQL ステートメントを発行できません。

ユーザーの処置:

SQL 照会では &V1 SQL ステートメントを発行しないでください。

DSQ20949 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ20950 &V1 は RUN には無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 279 ページの『DSQ20935』を参照してください。

DSQ20951 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20952 &V1 は RUN には無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 279 ページの『DSQ20935』を参照してください。

DSQ20953 照会が実行されませんでした。 詳しくはヘルプ・キーを押してください。

DSQ20954 OK、これは RUN コマンドからの報告書です。

DSQ20955 OK、照会を実行した結果、データベースが変更されました。

DSQ20956 照会が実行されませんでした。 詳しくはヘルプ・キーを押してください。

DSQ20957 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20958 OK、いくつかの行がデータベース内で変更されました: &V2。

DSQ20959 OK、いくつかの行がデータベース内で変更されました: &V2。

DSQ20960 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20961 OK、照会を実行した結果、データベースが変更されました。

DSQ20962 FORM の後には、FORM または形式名を指定してください。

説明:

FORM オプションは、次のどちらかの形式で指定します。

1. (FORM=FORM -- FORM 中の現在の形式が使用されます。

2. (FORM=formname -- データベース内の、formname で指定された名前の付いた形式が使用されます。

ユーザーの処置:

FORM オプションを訂正し、コマンドを再実行してください。

DSQ20963 FORM の後には &V3 ではなく FORM または形式名を指定してください。

説明:

FORM オプションは、以下のいずれかの形式で指定できます。

1. (FORM=FORM -- FORM 中の現在の形式が使用されます。
2. (FORM=formname -- データベース内の、formname で指定された名前の付いた形式が使用されます。

オブジェクト・パネル名 (つまり、FORM.COLUMNS) は、FORM オプションでは指定できません。

ユーザーの処置:

FORM オプションを訂正し、コマンドを再実行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ20964 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ20965 FORM の後には &V3 ではなく FORM または形式名を指定してください。

説明: 『DSQ20963』を参照してください。

DSQ20966 CONFIRM の後には YES または NO を使用してください。

説明:

CONFIRM オプションは、データベース変更のための照会またはプロシーチャーを処理完了の前に一時停止させて、必要に応じて変更を中止できるようにするかどうかを決めるためのものです。

オプションが YES の場合は、変換を取り消す機会があ

ります。NO の場合には、その機会は与えられません。

CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置:

CONFIRM の後に YES または NO を追加するか、またはオプションを省いてください。

DSQ20967 CONFIRM の後には &V3 ではなく YES か NO を使用してください。

説明:

CONFIRM オプションは、データベースを変更する照会またはコマンドをその完了の前に一時停止させて、必要に応じてその変更の取り消しができるようにするかどうかを指示します。

オプションが YES の場合は、変換を取り消す機会があります。NO の場合には、その機会は与えられません。

CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置:

CONFIRM の後には YES または NO を使用してください。

DSQ20968 OK、照会を実行した結果、データベースが変更されました。

DSQ20969 OK、照会は実行されました。処理を続行してください。

DSQ20970 &V2 は RUN QUERY コマンドで使用できません。

説明:

ARG オプションは、RUN PROC コマンドのみで使用できます。

FORM オプションは、CALL または SELECT ステートメントを含む照会を実行する場合のみに有効です。これは、これらのステートメントのみが、形式設定されるデータを返すためです。

ユーザーの処置:

&V2 およびその後の値を削除して、コマンドを再発行してください。

DSQ20971 ARG の後に値を指定してください。

説明:

ARG オプションには値が必須です: ARG = 値

ユーザーの処置:

ARG オプションの後に値を追加して、コマンドをもう一度出してください。

DSQ20972 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20973 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明: 252 ページの『DSQ20568』を参照してください。

DSQ20974 OK、これがユーザーの **REPORT** です。**QUERY** を **DISPLAY** して警告メッセージを見ます。

DSQ20975 FORM の後には &V3 ではなく **FORM** または形式名を指定してください。

説明: 281 ページの『DSQ20963』を参照してください。

DSQ20976 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ20977 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20978 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ20979 ENTER キーを押してコマンドを実行してください。

説明:

次のように入力して &V1 コマンドのプロンプト・パネルが要求されました。

&V1 &V2 ?

&V1 &V2 にはキーワード・オプションはありません。

ユーザーの処置:

ENTER キーを押してコマンドを実行してください。

DSQ20980 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ20981 QMF オブジェクト名にロケーションを使用することはできません。

説明: 15 ページの『DSQ10131』を参照してください。

DSQ20982 ARG オプションが長すぎます。

説明:

プロシージャーから RUN コマンドを実行する場合、引数値の最大長は 256 文字です。コマンド・プロンプト・パネルで引数を入力する場合、引数値の最大長は 55 文字です。

ユーザーの処置:

ARG の値を短くし、RUN コマンドを再度出してください。

DSQ20983 OK。コマンドを入力してください。

DSQ20984 &V2 は **RUN PROC** では使用できません。

説明: 210 ページの『DSQ20007』を参照してください。

DSQ20985 ROWLIMIT には &V3 ではなく **1** から **99999999** までの数字を使用してください。

説明:

ROWLIMIT オプションは照会から戻される行の最大数です。ROWLIMIT オプションを省略すると、すべての行が戻されます。

ユーザーの処置:

ROWLIMIT 値を 1 から 99999999 までの数字に変更してください。

DSQ20986 ROWLIMIT には、1 から 99999999 までの数字を使用してください。

説明:

RUN コマンドの ROWLIMIT オプションの値は必須です。形式は ROWLIMIT = n です。ここで n は数字の 1 から 99999999 で、照会から戻される行の最大数です。ROWLIMIT オプションを省略すると、すべての行が戻されます。

ユーザーの処置:

ROWLIMIT に 1 から 99999999 までの値を入力するか、またはコマンドから ROWLIMIT を除去してください。

DSQ20987 ROWLIMIT には &V3 ではなく 1 から 99999999 までの数字を使用してください。

説明: 282 ページの『DSQ20985』を参照してください。

DSQ20988 ROWLIMIT オプションは、現行の照会で有効ではありません。

説明:

RUN コマンドと一緒に使用する ROWLIMIT は、SELECT ステートメントを含む照会オブジェクトでのみ使用できます。

ユーザーの処置:

ROWLIMIT およびその後続くすべての値を取り除いてから、コマンドを実行し直してください。

DSQ20989 DB2 特殊レジスター &V1 を設定できません。

説明:

QMF は、DB2 特殊レジスター &V1 の変更をサポートしていません。

ユーザーの処置:

照会から以下の SQL ステートメントを変更または除去してください。

SET &V1

DSQ20990 &V1 で開始する SQL ステートメントは処理できません。

説明:

QMF &V2 は、現行データベース・ロケーション &V4

でこの SQL ステートメントの処理をサポートしません。

ユーザーの処置:

照会から以下の SQL ステートメントを変更または除去してください。

&V3

DSQ20991 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20992 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20993 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ20994 OK。これはストアード・プロシージャから戻された報告書です。

DSQ20995 OK、これがユーザーの REPORT です。QUERY を DISPLAY して警告メッセージを見ます。

DSQ20996 OK、照会は実行されました。FORM を DISPLAY し、それを CHECK して警告メッセージを調べてください。

DSQ20997 OK、照会は実行されました。QUERY および FORM には警告メッセージがあります。

DSQ20998 &V2 が見つかりません。

説明: 209 ページの『DSQ20003』を参照してください。

DSQ20999 &V2 が見つかりません。

説明: 209 ページの『DSQ20003』を参照してください。

DSQ21000 &V1 ではなく YES または NO を入力してください。

説明:

&V1 をプロンプト・パネルに入力しましたが、ここでは YES または NO の応答だけしか許されません。

ユーザーの処置:

END キーを押してプロンプト・パネルに戻り、入力を訂正してください。

DSQ21001 &V1 ではなく **YES** または **NO** を入力してください。

説明: 283 ページの『DSQ21000』を参照してください。

DSQ21002 プロンプト・パネルの表示には、対話式 **QMF** セッションが必要です。

説明:

次のいずれかの原因により、プロンプト・パネルが要求されました。

1. プロファイルの **CONFIRM** 値が **YES** に設定されており、&V1 コマンドが、**CONFIRM=NO** オプションを指定して **YES** の指定を変更する処置を、まだ取っていない。
2. バッチ・モードで実行中か、**INTERACT** なしのコマンド・インターフェースでバッチ・プロシージャの &V1 コマンドに **CONFIRM=YES** を指定してある。
3. データ不完全状態が生じていて、**DATA** をリセットするかどうかを決めるためにプロンプト・パネルを要求している。

ユーザーの処置:

&V1 コマンドの指定時には **CONFIRM = NO** を指定し、非対話式 **QMF** の実行時には **SET PROFILE (CONFIRM = NO)** を指定してください。データ不完全状況の起きる前にプロシージャの中で **RESET DATA** コマンドを用いれば、データ不完全指示が出ないようにできます。

DSQ21003 確認プロンプト・パネルの指示に従ってください。

説明:

確認プロンプト・パネルは、コマンドの完了についてユーザーの意志を確認しようとしています。実行を継続する場合と中止する場合に何が起きるかについて説明しています。

ユーザーの処置:

継続するなら 1 を選択して **ENTER** を、中止するなら 2 を選択し、取り消しを押してください。

DSQ21004 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ21005 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ21030 報告書を終了するための十分なスペースがありません。

説明:

照会を実行したり表やビューを表示したりすると、**QMF** は、報告書の先頭ページを表示するだけの十分な行のみをデータベースから取得します。**QMF** は、こうすることで可能な限り高速に報告書を表示できるようになります。**QMF** は、報告書を完了するために、行をさらに取り出す必要があります。

QMF は、データベースに影響する次のコマンドを実行する前に、報告書を完了しておく必要があります。**&V1** コマンドが発行され、**QMF** は報告書を完了しようとした。ただし、**QMF** の報告書記憶域がフルになっているか、報告書にラージ・オブジェクトが含まれる場合、報告書は完了しません。報告書を消去するか、コマンドを取り消すかを決定しなければなりません。

ユーザーの処置:

プロンプト・パネルに応答してください。

1. **YES** を選択した場合、**QMF** は報告書を **QMF** 一時記憶から除去するため、報告書は使用できなくなります。報告書を終了する場合は、**YES** を選択してください。
2. **NO** を選択した場合、**QMF** はコマンドを取り消し、報告書をそのまま残します。

QMF 報告書を完了させるコマンドのリストについては、「**DB2 QMF 解説書**」を参照してください。

システム管理者: **QMF** プログラム・パラメーター **DSQSBSTG**、**DSQSRSTG**、および **DSQSPILL** が、報告書用の記憶域の使用法と使用量を決定します。これらのパラメーターについては、使用中のオペレーティング・システム用の「**DB2 QMF インストールおよび管理の手引き**」に説明されています。

DSQ21031 報告書が完了していません。

説明:

以下の状態が起きたため、データ・オブジェクト解決完了パネルが表示されました。

1. コミットまたはロールバックを必要とするコマンドを出した。
2. 報告書が完了しておらず、報告書で読み取り中のデータベース・オブジェクトにオープン・カーソルがある。
3. 大域変数 DSQEC_RESET_RPT が 1 に設定されている。

このパネルを表示したくない場合は、コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、DSQEC_RESET_RPT に「0」を設定します。

```
COMMAND ==> SET GLOBAL
(DSQEC_RESET_RPT = 0
```

ユーザーの処置:

プロンプト・パネルに応答してください。

1. YES を選択すると、QMF は次のコマンドを実行する前に報告書を完了します。現在の報告書を完了するには、長い時間がかかったり、一時記憶域スペースが不足したりすることがあります。
2. NO を選択すると、QMF は実行中の報告書をリセットし、継続して次のコマンドを実行します。
3. F12 (キャンセル) 機能キーを押すと、QMF はコマンドを取り消します。

DSQ21040 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

パネル &V1 の表示でエラーが発生しました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ21042 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 270 ページの『DSQ20825』を参照してください。

DSQ21043 &V1 ではなく ISPF コマンドのみ使用してください。

説明:

このパネルでコマンド行またはファンクション・キーを使用して入力できるのは、有効な ISPF コマンドだけです。

ユーザーの処置:

有効な ISPF コマンドを入力するかまたはコマンド行を消去し、ENTER キーを押してください。

DSQ21044 &V1 ではなく ISPF コマンドのみ使用してください。

説明: 『DSQ21043』を参照してください。

DSQ21061 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21062 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21063 &V1 はポップアップ・ウィンドウを表示中に使用できません。

説明:

ポップアップ・ウィンドウ・ダイアログがアクティブである場合は、特定のコマンドしか出せません。 入力した &V1 コマンドは使用できません。

ユーザーの処置:

ポップアップ・ウィンドウが表示されている場合には、&V1 コマンドは出せません。ウィンドウ・ダイアログを完了するか、またはポップアップ・ウィンドウを削除するために CANCEL コマンドを使用し、&V1 コマンドを再度、出してください。

DSQ21064 &V1 は追加モードでは実行できません。

説明:

表編集プログラムの追加モードでは無効なコマンドを実行しようとしてしました。有効なコマンドは以下のとおりです。

ADD	END	SET
BACKWARD	FORWARD	SHOW
BOTTOM	GET	TOP
CANCEL	HELP	
CLEAR	PREVIOUS	

ユーザーの処置:

&V1 コマンドはここでは実行しないで次のどちらかを行ってください。

1. 変更モードまたは検索モードに切り替えて再度コマンドを実行する。
2. END コマンドまたは CANCEL コマンドを使って編集セッションを終了し、再度コマンドを実行する。

DSQ21065 &V1 は変更モードでは実行できません。

説明:

表エディターの変更モードでは無効であるコマンドを実行しようとしてしました。有効なコマンドは以下のとおりです。

BACKWARD	END	REFRESH
BOTTOM	FORWARD	SET
CANCEL	GET	SHOW
CHANGE	HELP	TOP
DELETE	NEXT	

ユーザーの処置:

&V1 コマンドはここでは実行しないで次のどちらかを行ってください。

1. 追加モードまたは検索モードに切り替えて、再度コマンドを実行する。
2. END コマンドまたは CANCEL コマンドを使って編集セッションを終了し、再度コマンドを実行する。

DSQ21066 &V1 はポップアップ・ウィンドウを表示中に使用できません。

説明: 285 ページの『DSQ21063』を参照してください。

DSQ21067 &V1 は検索モードでは実行できません。

説明:

表編集プログラムの検索モードでは無効なコマンドを実行しようとしてしました。有効なコマンドは以下のとおりです。

BACKWARD	FORWARD	SET
BOTTOM	GET	SHOW
CANCEL	HELP	TOP
CLEAR	PREVIOUS	
END	SEARCH	

ユーザーの処置:

&V1 コマンドはここでは実行しないで次のどちらかを行ってください。

1. 変更モードまたは追加モードに切り替えて、再度コマンドを実行する。
2. END コマンドまたは CANCEL コマンドを使って編集セッションを終了し、再度コマンドを実行する。

DSQ21068 コマンド &V1 の使用法が無効です。

説明:

&V1 コマンドは、コマンド行またはコマンド・インターフェースからは使用できません。&V1 コマンドは、パラメーターを指定して呼び出し可能インターフェースから出されるか、または REXX プロシージャ内だけで有効です。

ユーザーの処置:

入力したコマンドが希望の機能であった場合は、QMF の資料で呼び出し可能インターフェースまたは REXX プロシージャについて記述された情報を参照してください。

DSQ21069 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

システム検索の失敗 - バリエーションを見つけることができません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ21070 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ21071 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 232 ページの『DSQ20316』を参照してください。

DSQ21072 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ21073 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明:

クライアントまたはワークステーションから QMF 製品にアクセスしているときは、&V1 を使用できません。

ユーザーの処置:

他のコマンドを選択してください。

DSQ21074 &V1 コマンドの処理エラーです。詳しくはヘルプ・キーを押してください。

DSQ21081 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 285 ページの『DSQ21040』を参照してください。

DSQ21082 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21083 コマンド・プロンプトの表示には、対話式 QMF セッションが必要です。

説明:

バッチ・プロシージャまたはアプリケーションに次のコマンドが含まれています。

&V1 ?

このコマンドは、対話式セッションであれば &V1 コマンドのプロンプト・パネルを表示する結果になりますが、非対話式 QMF では、これはできません。

バッチによって入力されたコマンド、または対話によらないコマンド・インターフェースを介して入力されたコマンドによって、ユーザー対話または表示を行ってはありません。

ユーザーの処置:

プロンプト・パネルを呼び出すコマンドを、バッチ・プロシージャやアプリケーションから取り除いてください。

DSQ21100 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21101 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21102 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21103 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21104 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21105 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21106 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21107 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21108 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21109 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21115 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21120 &V2 が見つかりません。

説明: 209 ページの『DSQ20004』を参照してください。

DSQ21121 &V2 は実行できません。

説明:

&V2 は、既存の照会またはプロシージャの名前ではありません。 RUN コマンドに許される形式は次のとおりです。

1. RUN objecttype
2. RUN objectname
3. RUN objecttype objectname

objecttype は、QUERY または PROC のいずれかです。 objectname は、データベース内の照会またはプロシージャの名前です。

ユーザーの処置:

&V2 を実行可能なものに変更し、コマンドを再試行してください。照会またはプロシージャのリストを調べる場合は、コマンド LIST QUERIES または LIST PROCS を入力してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ21122 &V2 は形式ではありません。

説明:

コマンドで、データベースの形式の名前として &V2 を使用しています。この名前のオブジェクトはデータベース内に存在しますが、形式ではありません。

ユーザーの処置:

1. 必要な形式の正しい名前を使用してください。形式のリストを表示する場合は、LIST FORMS を使用してください。
 2. FORM オプションを指定しないでコマンドを実行し、作成されるデフォルト形式を変更してください。
-

DSQ21123 &V2.&V3 を使用する権限はありません。

説明: 235 ページの『DSQ20355』を参照してください。

DSQ21124 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ21125 &V1 を変換できません。 照会ではありません。

説明:

&V1 は既存の照会の名前ではありません。 CONVERT コマンドの形式は次のとおりです。

CONVERT QUERY objectname (options

ユーザーの処置:

&V1 を照会の名前に変更し、コマンドを再試行してください。照会のリストを表示する場合は、LIST QUERIES コマンドを入力してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ21126 QMF 初期化中に &V2 が見つかりません。

説明:

QMF 初期化中に、プロシージャ "&V2" がデータベースに見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡して支援を依頼することができません。

DSQ21127 OK。コマンドを入力してください。

DSQ21138 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21150 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21151 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21152 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21153 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21154 入力保持するだけ QBE 照会を拡張できません。入力の一部が失われました。

説明:

入力を受け入れるには、QBE 照会の一部の拡張が必要でした。しかし、QBE 照会はずでに最大サイズに達していたために、拡張することができませんでした。入力の一部は失われました。

ユーザーの処置:

QBE 照会の中のスケルトン、条件ボックス、およびコメント・ボックスに、照会を組み立てるために必要な行数より多くの行が含まれている場合は、REDUCE コマンドを用いて不要な行を除去した上で、再入力してください。QBE 照会の条件ボックスおよびコメント・ボックスが、照会の組み立てに必要な幅より広い場合、またはスケルトン内のいくつかの列が照会の組み立てに必要な幅より広い場合には、REDUCE コマンドを用いて幅を縮小してください。QBE 照会の中のスケルトンに

不要な列が含まれている場合には、REDUCE コマンドを用いて不要な列を除去してください。

DSQ21155 入力保持するだけ QBE 照会を拡張できません。入力の一部が失われました。

説明: 『DSQ21154』を参照してください。

DSQ21156 入力保持するだけ QBE 照会を拡張できません。入力の一部が失われました。

説明: 『DSQ21154』を参照してください。

DSQ21157 入力保持するだけ QBE 照会を拡張できません。入力の一部が失われました。

説明: 『DSQ21154』を参照してください。

DSQ21170 集約視点がりポジトリに見つかりません。

説明:

実行する ER 指示照会の視点として集約を指定しましたが、リポジトリ管理プログラムはその集約名を見つけることができません。この値に置換変数が使われている可能性があります。その場合、置換値で表される名前がスペルが間違えているか、長過ぎます。

ユーザーの処置:

集約名を訂正してください。

DSQ21171 エンティティ視点がりポジトリに見つかりません。

説明:

実行すべき ER 指示照会の視点としてエンティティが指定されましたが、リポジトリ管理プログラムは指定されたエンティティ名を見つけることができません。この値に置換変数が使われている可能性があります。その場合、置換値で表される名前がスペルが間違えているか、長過ぎます。

ユーザーの処置:

エンティティ名を訂正してください。

DSQ21172 関連の使用を許可されていません。

説明:

照会を実行するときに指定された関連はデータベースに存在しますが、その使用を許可されていません。この値に置換変数が使われている可能性があります。

ユーザーの処置:

指定した関連を変更するか、またはその照会を実行する権限を得てください。

DSQ21173 テンプレートの選択式が無効です。

説明:

照会中のあるテンプレートの選択式が無効です。照会を構成するテンプレートのリスト内で、関連するテンプレートの索引は &V1 です。テンプレートの選択式を構成する選択文節のリスト内で、関連する文節の索引は &V2 です。この値に置換変数が使われている可能性があります。

ユーザーの処置:

選択句を訂正し、照会を再実行してください。

DSQ21174 指定した属性の数が 999 を超えています。

説明:

照会で指定できる属性の最大数は 999 です。現在の照会はこの限界を超えています。

ユーザーの処置:

指定する属性の数を減らしてください。

DSQ21175 テンプレートの選択式が長過ぎます。

説明:

照会中の、あるテンプレートの選択式が長過ぎます。式の合計長の制限は 3300 文字です。照会を構成するテンプレートのリスト内で、関連するテンプレートの索引は &V1 です。テンプレートの選択式を構成する選択文節のリスト内で、関連する文節の索引は &V2 です。この値に置換変数が使われている可能性があります。

ユーザーの処置:

選択式を変更して、照会を再実行してください。

DSQ21176 照会で使われた式が無効です。

説明:

実行された照会の特定のテンプレートで使われた式は無効です。無効な値は、左側に指名された属性か、右側に指名されたテンプレートまたはフィールドにあります。この値に置換変数が使われている可能性があります。

ユーザーの処置:

式を変更して、照会を再実行してください。

DSQ21177 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ21178 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21190 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21191 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21192 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 232 ページの『DSQ20316』を参照してください。

DSQ21193 このコマンドの後には、有効なオブジェクト名が必要です。

説明: 231 ページの『DSQ20306』を参照してください。

DSQ21194 &V3 はこのオブジェクト・タイプの後には続けられません。

説明: 231 ページの『DSQ20307』を参照してください。

DSQ21195 &V1 は PRINT に無効なオブジェクト・タイプです。

説明:

PRINT コマンドに使用できる形式は次のとおりです。

1. PRINT objecttype

Objecttype can be QUERY, PROC, FORM, PROFILE, CHART, or REPORT.

2. PRINT objectname

Objectname is the name of an object in the database.

3. PRINT objecttype objectname

Objecttype can be QUERY, PROC, FORM, or TABLE. Objectname is the name of an object in the database.

ユーザーの処置:

有効なオブジェクト・タイプを指定して、コマンドを再

試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ21196 &V1 は **PRINT** に無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 290 ページの『DSQ21195』を参照してください。

DSQ21197 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21198 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21199 &V1 オプションは、**PRINT REPORT** のみ使用できます。

説明:

オプション &V1 は、**PRINT REPORT** コマンドでのみ使用できます。

ユーザーの処置:

コマンドを **PRINT REPORT** に変更するかまたは &V1 オプションとその値を削除し、コマンドを再試行してください。

DSQ21200 &V1 コマンドには、処置を行う名前が必要です。

説明: 234 ページの『DSQ20338』を参照してください。

DSQ21201 &V3 はオブジェクト名の後に続けられません。

説明:

次のように入力しました: **PRINT &V1 &V2 &V3**

しかし、**PRINT** コマンドの形式は次のとおりです。

```
PRINT objecttype objectname ( options
```

ユーザーの処置:

&V3 がオプションでない場合は、それを除去してコマンドを再試行してください。それがオプションである場

合は、「&V2」と「&V3」の間に左括弧を追加してください。コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ21202 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ21203 **FORM** の後には &V3 ではなく **FORM** または形式名を指定してください。

説明: 281 ページの『DSQ20963』を参照してください。

DSQ21204 **FORM** の後には、**FORM** または形式名を指定してください。

説明: 280 ページの『DSQ20962』を参照してください。

DSQ21205 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ21206 &V1 は **PRINT** に無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 290 ページの『DSQ21195』を参照してください。

DSQ21207 **OK**、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21208 **FORM** の後には &V3 ではなく **FORM** または形式名を指定してください。

説明: 281 ページの『DSQ20963』を参照してください。

DSQ21209 **FORM** の後には &V3 ではなく **FORM** または形式名を指定してください。

説明: 281 ページの『DSQ20963』を参照してください。

DSQ21210 &V2 が見つかりません。

説明: 209 ページの『DSQ20004』を参照してください。

DSQ21211 このタイプのオブジェクトで名前 &V2 のものはありません。

説明: 210 ページの『DSQ20009』を参照してください。

DSQ21212 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21213 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21214 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ21215 &V2 が見つかりません。

説明: 209 ページの『DSQ20003』を参照してください。

DSQ21216 このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明: 10 ページの『DSQ10013』を参照してください。

DSQ21217 QMF オブジェクト名にロケーションを使用することはできません。

説明: 15 ページの『DSQ10131』を参照してください。

DSQ21218 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21219 CC の後には YES または NO を指定してください。

説明:

NOを使用した場合、紙送り制御は表示されません。 YESを使用した場合、紙送り制御は列 1 にあります。何も入力しない場合、省略時値は大域変数DSQEC_CCの値になります。

ユーザーの処置:

CCにYESまたはNOを入力するか、またはコマンドからCCを除去してください。

DSQ21220 CC の後には &V2 ではなく YES か NO を使用してください。

説明:

NO を使用した場合、紙送り制御は表示されません。 YES を使用した場合、紙送り制御は列 1 にあります。何も入力されない場合、デフォルトは大域変数DSQEC_CCの値になります。

ユーザーの処置:

CC の値を YES か NO に変更するか、またはコマンドから CC を除去してください。

DSQ21225 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21226 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21229 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ21233 WIDTH には、&V2 ではなく 22 から 999 の数を使用してください。

説明:

WIDTH は、1 つの印刷行に印刷できる文字の数です。指定した幅より長い行は、右側の部分が切り捨てられます。 WIDTH の値は、印刷する用紙に十分な幅があることを保証するものではありません。要求したすべてのものが印刷されるようにしたい場合には、用紙より狭い幅を指定してください。

WIDTH オプションを省略すると、プロファイルにある WIDTH の値が使用されます。

ユーザーの処置:

WIDTH の値に 22 から 999 までの範囲内の数値を指定するか、コマンドまたはプロンプト・パネルから WIDTH の値を除去してください。

DSQ21234 WIDTH には 22 から 999 までの数値を使用してください。

説明:

PRINT コマンドの WIDTH オプションには値が必要です。形式は WIDTH = N で、N は 22 から 999 までの範囲内の数値です。WIDTH オプションを省略した場合には、プロファイルの中の WIDTH の値が使用されます。

ユーザーの処置:

WIDTH の値として 22 から 999 までの値を入力するか、またはコマンドから WIDTH を除去してください。

DSQ21235 WIDTH には、&V2 ではなく 22 から 999 の数を使用してください。

説明: 292 ページの『DSQ21233』を参照してください。

DSQ21236 LENGTH として 1 から 999 の数値または CONT を指定してください。

説明:

&V2 は、LENGTH の値として無効です。PRINT コマンドの LENGTH オプションに指定する値は、1 から 999 までの数値か、または CONT でなければなりません。CONT を指定すると、ページの切れ目のない連続印刷が行われます。LENGTH オプションを省略した場合には、プロファイルの中の LENGTH の値が使用されます。

ユーザーの処置:

LENGTH の値を、1 から 999 までの数値か CONT に変更するか、またはコマンドから LENGTH を除去してください。

DSQ21237 LENGTH として 1 から 999 の数値または CONT を指定してください。

説明:

PRINT コマンドの LENGTH オプションには値が必要です。形式は LENGTH = N であり、N は 1 から 999 までの数値または CONT です。CONT を指定す

ると、ページの切れ目のない連続印刷が行われます。LENGTH オプションを省略した場合には、プロファイルの中の LENGTH の値が使用されます。

ユーザーの処置:

LENGTH の値として 1 から 999 までの値か CONT を入力するか、またはコマンドから LENGTH を除去してください。

DSQ21238 LENGTH として 1 から 999 の数値または CONT を指定してください。

説明: 『DSQ21236』を参照してください。

DSQ21239 DATETIME の後には YES または NO を指定してください。

説明:

NO を指定すれば、日付と時刻は印刷されません。YES を指定するか、またはこのオプションを省略した場合には、各ページの末尾に日付と時刻が印刷されます。

ユーザーの処置:

DATETIME に YES または NO を入力するか、またはコマンドから DATETIME を除去してください。

DSQ21240 DATETIME の後には &V2 ではなく YES か NO を使用してください。

説明:

NO を指定すれば、日付と時刻は印刷されません。YES を指定するか、またはこのオプションを省略した場合には、各ページの末尾に日付と時刻が印刷されます。

ユーザーの処置:

DATETIME の値を YES か NO に変更するか、またはコマンドから DATETIME を除去してください。

DSQ21241 PAGENO の後には YES または NO を指定してください。

説明:

YES を指定するか、またはこのオプションを省略した場合には、各ページの末尾にページ番号が印刷されます。NO を指定すれば、ページ番号は印刷されません。

ユーザーの処置:

PAGENO に YES か NO を入力するか、またはコマンドから PAGENO を除去してください。

DSQ21242 PAGENO の後には &V2 ではなく YES か NO を使用してください。

説明:

YES を指定するか、またはこのオプションを省略した場合には、各ページの末尾にページ番号が印刷されます。NO を指定すれば、ページ番号は印刷されません。

ユーザーの処置:

PAGENO オプションを YES か NO に変更するか、または、コマンドから PAGENO を除去してください。

DSQ21243 PRINT とともに &V2 を使用することはできません。

説明:

PRINT コマンドとともに &V2 を使用することはできません。以下にリストされているオプションのみを使用します。

PRINTER	
DATETIME	(Invalid for PRINT CHART)
LENGTH	(Invalid for PRINT CHART)
WIDTH	(Invalid for PRINT CHART)
PAGENO	(Invalid for PRINT CHART)
ICUFORM	(Valid ONLY for PRINT CHART)
UNITS	(Valid ONLY for PRINT CHART)
VOFFSET	(Valid ONLY for PRINT CHART)
HOFFSET	(Valid ONLY for PRINT CHART)
CWIDTH	(Valid ONLY for PRINT CHART)
CLENGTH	(Valid ONLY for PRINT CHART)

ユーザーの処置:

&V2 およびその後の値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ21245 &V2 は PRINT CHART では使用できません。

説明:

オプション &V2 は PRINT CHART コマンドでは使用できません。PRINT CHART には以下のオプションだけを使用してください。

PRINTER	UNITS
VOFFSET	HOFFSET
CWIDTH	CLENGTH
ICUFORM	

ユーザーの処置:

&V2 およびその後の値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ21246 &V2 は PRINT CHART では使用できません。

説明: 『DSQ21245』を参照してください。

DSQ21247 &V2 は PRINT CHART では使用できません。

説明: 『DSQ21245』を参照してください。

DSQ21248 &V2 は PRINT CHART では使用できません。

説明: 『DSQ21245』を参照してください。

DSQ21249 &V2 は PRINT CHART でのみ使用できます。

説明:

オプション &V2 は PRINT CHART コマンドでのみ使用できます。以下のオプションだけを使用してください。

DATETIME	PRINTER
LENGTH	WIDTH
PAGENO	

ユーザーの処置:

&V2 およびその後の値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ21253 &V2 は PRINT CHART でのみ使用できます。

説明: 『DSQ21249』を参照してください。

DSQ21254 &V2 は PRINT CHART でのみ使用できます。

説明: 『DSQ21249』を参照してください。

DSQ21256 &V2 は PRINT CHART でのみ使用できます。

説明: 『DSQ21249』を参照してください。

DSQ21257 &V2 は PRINT CHART でのみ使用できます。

説明: 『DSQ21249』を参照してください。

DSQ21258 &V2 は PRINT CHART でのみ使用できます。

説明: 『DSQ21249』を参照してください。

DSQ21260 CLENGTH には 1 から 100 までの百分率を使います。

説明:

&V2 は有効な CLENGTH 値ではありません。

CLENGTH は、図形域の縦幅です。UNITS=PERCENT が使用されているので、この縦幅は、図形が印刷されるページの合計縦幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と VOFFSET (図形の上側余白) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

CLENGTH の数値として 0 よりも大きく、しかも VOFFSET 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21261 CLENGTH には &V2 ではなく、0 より大きな数を使用してください。

説明:

CLENGTH は、UNITS で指定した単位による図形域の縦幅です。

指定した値、およびその値と VOFFSET (図形の上側余白) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の縦幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

CLENGTH には 0 よりも大きい数値を使用し、VOFFSET の値との合計が印刷縦幅を超えないようにしてください。

DSQ21262 PRINTER キーワードの後に値を続ける必要があります。

説明:

値は次のいずれかにできます。

- 英字、数字、特殊文字からなる名前、またはこれら 3 種類の組み合わせ。先頭に数字は使用できません。また、8 文字の長さを超えてはなりません。プリンターのニックネームの定義について詳しくは、「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。
- コマンド行から PRINT コマンドを実行する場合はブランク。(PRINT コマンド・プロンプト・パネルでは印刷装置名にブランク値を指定できません。) ブランクのプリンター名を指定するには、次の例のように、コマンド発行時に 1 個のスペースを単一引用符で囲みます。

```
PRINT REPORT (PRINTER=' ')
```

PRINTER キーワードの後に指定する名前は、その名前に関連付けられた装置に出力を送信するために GDDM サービスで使用されます。ブランク値を指定すると、出力は QMF 標準出力装置に転送されます。

ユーザーの処置:

PRINTER キーワードの後に有効なプリンター名を追加してください。それでもまだ問題が残る場合は、QMF 管理者に支援を依頼してください。

DSQ21263 PRINTER の後の &V2 が無効です。

説明:

値は次のいずれかにできます。

- 英字、数字、特殊文字からなる名前、またはこれら 3 種類の組み合わせ。数字で始めることはできず、また 8 文字を超える長さにはできません。プリンターのニックネームの定義について詳しくは、「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。
- コマンド行から PRINT コマンドを実行する場合はブランク。(PRINT コマンド・プロンプト・パネルでは印刷装置名にブランク値を指定できません。) ブランクのプリンター名を指定するには、次の例のように、コマンド発行時に 1 個のスペースを単一引用符で囲みます。

```
PRINT REPORT (PRINTER=' ')
```

ユーザーの処置:

PRINTER 名の値を訂正してください。QMF 管理者に連絡してください。

DSQ21264 PRINTER の後の &V2 が無効です。

説明: 『DSQ21263』を参照してください。

DSQ21265 &V1 オプションは、PRINT REPORT でのみ使用できます。

説明: 291 ページの『DSQ21199』を参照してください。

DSQ21266 PRINTER の後の &V2 が無効です。

説明: 『DSQ21263』を参照してください。

DSQ21267 PRINTER の後の &V2 が無効です。

説明: 『DSQ21263』を参照してください。

DSQ21269 PRINTER の後の &V2 が無効です。

説明: 『DSQ21263』を参照してください。

DSQ21271 &V1 は PRINT に無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 290 ページの『DSQ21195』を参照してください。

DSQ21272 ICUFORM の後に値が必要です。

説明: 233 ページの『DSQ20320』を参照してください。

DSQ21273 &V2 は有効な ICUFORM 値ではありません。

説明: 233 ページの『DSQ20321』を参照してください。

DSQ21274 &V2 は有効な ICUFORM 値ではありません。

説明: 233 ページの『DSQ20321』を参照してください。

DSQ21275 &V2 は有効な ICUFORM 値ではありません。

説明: 233 ページの『DSQ20321』を参照してください。

DSQ21276 UNITS の値には PERCENT、CENTIMETERS、または INCHES が必要です。

説明:

UNITS に値を指定しなくてはなりません。このオプションでは、PRINT CHART コマンドのオプションとして指定する値、すなわち、CWIDTH (図形の横幅)、CLENGTH (図形の縦幅)、VOFFSET (図形の上側余白)、および HOFFSET (図形の左側余白) の度量単位を識別します。有効な値は次のとおりです。

PERCENT - Units are a percentage of the corresponding page width and length.
CENTIMETERS - Units are specified in centimeters.
INCHES - Units are specified in inches.

注: UNITS=PERCENT の場合は、図表がどのような次元で用紙に印刷されるのかを知る必要はありません。

ユーザーの処置:

PERCENT、CENTIMETERS、または INCHES を使って UNITS を完成させてください。

DSQ21277 UNITS の後の値 &V2 が無効です。

説明:

UNITS オプションでは、PRINT CHART コマンドのオプションとして指定する値、すなわち CWIDTH (図形の横幅)、CLENGTH (図形の縦幅)、VOFFSET (図形の上側余白)、および HOFFSET (図形の左側余白) の度量単位を識別します。有効な値は次のとおりです。

PERCENT - Units are a percentage of the corresponding page width and length.
CENTIMETERS - Units are specified in centimeters.
INCHES - Units are specified in inches.

注: UNITS=PERCENT の場合は、図表がどのような次元で用紙に印刷されるのかを知る必要はありません。

ユーザーの処置:

PERCENT、CENTIMETERS、または INCHES を使って UNITS を完成させてください。

DSQ21278 VOFFSET には &V2 ではなく 0 から 100 のパーセントを使用してください。

説明:

VOFFSET は、出力域の上端から図形域までの余白です。UNITS=PERCENT が使われていますので、この余白は、図形が印刷されるページの合計縦幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と CLENGTH (図形の縦幅) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

VOFFSET の数値として、0 以上でしかも CLENGTH 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21279 VOFFSET には &V2 ではなく、0 以上の数を使用してください。

説明:

VOFFSET は、UNITS で指定した単位による、出力域の上端から図形域までの余白です。

指定した値、およびその値と CLENGTH (図形の縦幅) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の縦幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

VOFFSET の数値 (0 以上) を使用してください。ただし、CLENGTH の値との合計が印刷縦幅を超えないようにしてください。

DSQ21280 VOFFSET の百分率は 0 から 100 まででなければなりません。

説明:

VOFFSET は、出力域の上端から図形域までの余白です。UNITS=PERCENT が使われていますので、この余白は、図形が印刷されるページの合計縦幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と CLENGTH (図形の縦幅)

値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

VOFFSET の数値として、0 以上でしかも CLENGTH 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21281 **VOFFSET** は 0 以上の数値でなければなりません。

説明:

VOFFSET は、UNITS で指定した単位による、出力域の上端から図形域までの余白です。

指定した値、およびその値と CLENGTH (図形の縦幅) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の縦幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

VOFFSET の数値 (0 以上) を使用してください。ただし、CLENGTH の値との合計が印刷縦幅を超えないようにしてください。

DSQ21282 **VOFFSET** には &V2 ではなく 0 から 100 のパーセントを使用してください。

説明: 296 ページの『DSQ21278』を参照してください。

DSQ21283 **VOFFSET** には &V2 ではなく、0 以上の数を使用してください。

説明: 296 ページの『DSQ21279』を参照してください。

DSQ21284 **HOFFSET** には &V2 ではなく 0 から 100 のパーセントを使用してください。

説明:

HOFFSET は、出力域の左端から図形域までの余白です。UNITS=PERCENT が使われていますので、この余白は、図形が印刷されるページの合計の横幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と CWIDTH (図形の横幅) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

HOFFSET の数値として、0 以上でしかも CWIDTH 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21285 **HOFFSET** には &V2 ではなく、0 以上の数を使用してください。

説明:

HOFFSET は、UNITS で指定した単位による、出力域の左端から図形域までの余白です。

指定した値、およびその値と CWIDTH (図形の横幅) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の横幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

HOFFSET の数値 (0 以上) を使用してください。ただし、CWIDTH の値との合計が印刷横幅を超えないようにしてください。

DSQ21286 **HOFFSET** の百分率は 0 から 100 まででなければなりません。

説明:

HOFFSET は、出力域の左端から測定した図形域までのオフセットです。コマンドには UNITS=PERCENT が指定されていて、図形の寸法が、印刷ページ・サイズ 100% に相対して測定されることを示しています。

UNITS パラメーターがこのように設定されている場合、水平オフセットは図形が印刷されるページの合計横幅の百分率であると予期されます。

指定した値、およびその値と CWIDTH (図形の横幅) 値の合計は、ともに、100 %パーセントを超えてはなりません。

ユーザーの処置:

0 以上の数値を HOFFSET に使用してください。HOFFSET 値と CWIDTH 値の合計が 100 (%) を超えないようにしてください。

DSQ21287 **HOFFSET** は 0 以上の数値でなければなりません。

説明:

HOFFSET は、UNITS で指定した単位による、出力域の左端から図形域までの余白です。

指定した値、およびその値と CWIDTH (図形の横幅) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の横幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

HOFFSET の数値 (0 以上) を使用してください。ただし、CWIDTH の値との合計が印刷横幅を超えないようにしてください。

DSQ21288 HOFFSET には &V2 ではなく 0 から 100 のパーセントを使用してください。

説明: 297 ページの『DSQ21284』を参照してください。

DSQ21289 HOFFSET には &V2 ではなく、0 以上の数を使用してください。

説明: 297 ページの『DSQ21285』を参照してください。

DSQ21290 CWIDTH には 0 から 100 までの百分率を使います。

説明:

&V2 は有効な CWIDTH の値ではありません。CWIDTH は、図形域の横幅です。UNITS=PERCENT が使用されているので、この横幅は、図形が印刷されるページの合計横幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と HOFFSET (図形の左側余白) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

CWIDTH の数値として、0 よりも大きく、しかも HOFFSET 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21291 CWIDTH には &V2 ではなく、0 より大きな数を使用してください。

説明:

CWIDTH は、UNITS で指定した単位による図形域の横幅です。

指定した値、およびその値と HOFFSET (図形の左側余白) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の横幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

CWIDTH の数値として、0 よりも大きくてしかも HOFFSET 値との合計が印刷横幅を超えないような値を指定してください。

DSQ21292 CWIDTH の百分率は 0 から 100 まででなければなりません。

説明:

CWIDTH は、図形域の横幅です。UNITS=PERCENT が使用されているので、この横幅は、図形が印刷されるページの合計横幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と HOFFSET (図形の左側余白) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

CWIDTH の数値として、0 よりも大きく、しかも HOFFSET 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21293 CWIDTH は 0 以上の数値でなければなりません。

説明:

CWIDTH は、UNITS で指定した単位による図形域の横幅です。

指定した値、およびその値と HOFFSET (図形の左側余白) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の横幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

CWIDTH の数値として、0 よりも大きくてしかも HOFFSET 値との合計が印刷横幅を超えないような値を指定してください。

DSQ21294 CWIDTH には 0 から 100 までの百分率を使います。

説明: 『DSQ21290』を参照してください。

DSQ21295 CWIDTH には &V2 ではなく、0 より大きな数を使用してください。

説明: 『DSQ21291』を参照してください。

DSQ21296 CLENGTH には 1 から 100 までの百分率を使います。

説明: 294 ページの『DSQ21260』を参照してください。

DSQ21297 CLENGTH には &V2 ではなく、0 より大きな数を使用してください。

説明: 295 ページの『DSQ21261』を参照してください。

DSQ21298 CLENGTH の百分率は 0 から 100 まででなければなりません。

説明:

CLENGTH は、図形域の縦幅です。UNITS=PERCENT が使用されているので、この縦幅は、図形が印刷されるページの合計縦幅の百分率で示します。

指定した値、およびその値と VOFFSET (図形の上側余白) 値の合計は、ともに、100 (パーセント) を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

CLENGTH の数値として 0 よりも大きく、しかも VOFFSET 値との合計が 100 (パーセント) を超えない値を指定してください。

DSQ21299 CLENGTH は 0 以上の数値でなければなりません。

説明:

CLENGTH は、UNITS で指定した単位による図形域の縦幅です。

指定した値、およびその値と VOFFSET (図形の上側余白) 値の合計は、ともに、図形が印刷される用紙の縦幅を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

CLENGTH には 0 よりも大きい数値を使用し、VOFFSET の値との合計が印刷縦幅を超えないようにしてください。

DSQ21300 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21305 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21306 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21326 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してください。

DSQ21327 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20042』を参照してください。

DSQ21328 CHECK が使用できるのは形式が表示される場合だけです。

説明:

CHECK を指定すると、形式に対するエラー検査および警告のための検査が行われます。CHECK は、形式パネルのうちの 1 つから入力しなければなりません。

CHECK がプロシージャの中で使用されている場合には、現オブジェクト・パネルはプロシージャ内のコマンドをプロシージャに現れるとおりの順序でコマンド域に入力していた場合に表示されるパネルと同じものです。

ユーザーの処置:

形式に対してエラー検査および警告のための検査を行いたい場合には、形式を表示し、CHECK コマンドを再入力してください。

DSQ21329 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ21350 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21351 CURRENT DEGREE に与えられた値が無効です。

説明:

エラーは以下のいずれかが原因で起こったと思われる。

1. CURRENT DEGREE に与えられた値がブランクである。
2. CURRENT DEGREE に与えられた文字の長さが 3 文字よりも長い。

ユーザーの処置:

CURRENT DEGREE の値を訂正してから続けてください。

DSQ21353 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21354 照会が長すぎます。

説明:

置き換え後の変数の値も含む SQL 照会のサイズは、QMF がすべてのコメントと大半の埋め込みブランクを削除した後は、&V1 バイトになります。QMF 大域変数 DSQEC_SQLQRYSZ_2M が 1 に設定されている場合、QMF は最大 2 MB の照会をデータベース・マネージャーに渡すことができます。

ユーザーの処置:

照会テキストから不要なブランクを取り除いてください。可能であれば照会をもっと短く書き直すか 2 つの短い照会に書き換えてください。照会が 2 MB 以内の大きさであり、データベース・マネージャーが最大で 2 MB の照会を処理できる場合は、QMF 大域変数 DSQEC_SQLQRYSZ_2M を 1 に設定してください。

DSQ21357 参照されている置換変数の数が 100 を超えています。

説明:

'&変数' の形式をした異なった名前が照会またはプロシージャーの中で 100 個を超えている場合、その照会またはプロシージャーは実行されず、また照会に変換もされません。

ユーザーの処置:

参照されている置換変数の数を 100 個以下に減らし、再試行してください。

DSQ21358 照会が長すぎます。

説明: 『DSQ21354』を参照してください。

DSQ21360 &V2 で始まる変数の長さが、18 文字を超えています。

説明:

変数名は 18 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置:

より短い変数名を選択してください。

DSQ21390 OK。カーソルが位置付けられました。

DSQ21400 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21402 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21403 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21404 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21405 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21415 CONNECT コマンドは完了しました。 DSQEC_CURR_FOLDER は DB2 for VSE/VM では使用されていません。

DSQ21416 &V2 は無効です。

説明:

引用符の内側の値はすべてブランクです。

ユーザーの処置:

コマンドを修正して、再び試みてください。

DSQ21417 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21418 この環境では、CONNECT コマンドに TO キーワードまたはロケーション名を使用できません。

説明:

QMF は、データベースへの接続時にロケーション名を許可しない環境で実行されています。現在の環境での CONNECT コマンドの有効な形式: CONNECT userid (PASSWORD = password この構文では、userid は接続する権限を持つデータベース・ユーザー ID、password は指定したユーザー ID のパスワードです。QMF for TSO を DB2 (z/OS 版)のストアード・プロシージャーとして開始した場合は、CONNECT コマン

ドを使用してリモート・サーバーに接続できません。

ユーザーの処置:

上記に示した形式を使用して CONNECT コマンドを再発行してください。

DSQ21419 ロケーション名がありません。

説明:

CONNECT コマンドの形式は、CONNECT userid TO location (PASSWORD = password です。

location は、接続したいロケーションの名前です。

ユーザーの処置:

"TO" を除去するか、またはロケーション名を追加し、コマンドを再度出してください。

DSQ21420 サーバー名とパスワードが入力されましたが、ユーザー ID がありません。

説明:

パスワードを入力した場合には、ユーザー ID も入力しなければなりません。このユーザー ID は接続を行う権限を持つユーザーを識別します。そのパスワードは指定しているユーザー ID の権限を使ってデータベースを接続させます。

ユーザーの処置:

ユーザー ID とパスワードの両方を入れてコマンドを再度出してください。

DSQ21421 CONNECT コマンドは、ユーザー ID またはパスワードを使用できません。

説明:

QMF は、データベースに接続するときにユーザー ID とパスワードを否認するような環境で実行しています。CONNECT コマンドの有効な形式は CONNECT TO location です。ロケーション名の前に「TO」が必要です。ロケーション名は接続したいロケーションの名前です。

ユーザーの処置:

CONNECT コマンドを変更し、再発行してください。

DSQ21422 ロケーション名が長すぎます。

説明:

ロケーション名の許される最大長は、二重引用符で名前を囲むか、囲まないかで決まります。

1. 二重引用符なしではロケーション名は &V1 にできません。

2. 二重引用符がある場合、ロケーション名に引用符を加えると &V2 になり、これによってロケーション名は &V3 にできます。

ユーザーの処置:

ロケーション名を短くし、コマンドを再び出してください。

DSQ21423 CONNECT に対して名前が多すぎます。

説明:

CONNECT コマンドの有効な形式は、CONNECT userid (PASSWORD = password です。

userid は、接続を行う権限を持つデータベース・ユーザー ID です。password は、指定されたユーザー ID の権限を使用してデータベースに接続するためのデータベース・パスワードです。

この "名前" にはブランクを入れることはできません。

必須 PASSWORD キーワード・オプションを使用する前に、CONNECT USER1 (PASSWORD = PW のように左括弧を忘れないでください。

ユーザーの処置:

CONNECT コマンドを上記の形式に変更して、再びコマンドを出してください。

DSQ21424 "CONNECT TO" コマンドにはロケーション名が必須です。

説明:

QMF は、データベースへの接続時にロケーション名を必要とする環境で実行されています。CONNECT コマンドの有効な形式は CONNECT TO location です。ロケーション名の前に「TO」が必要です。ロケーション名は接続したいロケーションの名前です。

ユーザーの処置:

CONNECT コマンドにロケーション名を指定して、再度コマンドを出してください。

CONNECT コマンド・プロンプト・パネルで LIST PF キーを押すと、ロケーション名のリストを見ることができます。

DSQ21425 &V2 は &V1 の後に予期されていません。

説明:

CONNECT コマンドの有効な形式は、CONNECT userid TO location (PASSWORD = password です。ロケーション名を指定する場合は、ユーザー ID とロケーション名の間に "TO" を使用する必要があります。

DSQ21426 • DSQ21434

ユーザーの処置:

CONNECT コマンドを変更し、再発行してください。

DSQ21426 OK. &V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ21427 "TO" の後に項目が多すぎます。

説明:

この環境での CONNECT コマンドの形式は次のとおりです。

```
CONNECT TO location
```

location は、接続したいロケーションの名前です。

ユーザーの処置:

CONNECT コマンドを変更し、再発行してください。

DSQ21428 左括弧に先行する項目が多すぎます。

説明:

CONNECT コマンドの形式は次のとおりです。

```
CONNECT userid TO location ( PASSWORD = password
```

userid は、接続を行う権限を持つデータベース・ユーザー ID です。「Location」は接続先のロケーション名です。左括弧 "(" を使用して、キーワード・オプションが続くことを示してください。password は、指定したユーザー ID の権限を使用してデータベースに接続するためのデータベース・パスワードです。

ユーザーの処置:

CONNECT コマンドを変更し、再発行してください。

DSQ21429 &V1 には有効な名前が必要です。&V2 は有効な名前ではありません。

説明:

&V1 の後の名前は、以下に従う必要があります。

- 有効な DB2 許可 ID の規則に準拠する必要があります。
- 単一引用符で囲むことはできません。
- 最大 &LA. 文字まで指定できます。

ユーザーの処置:

&V2 を有効な名前に置き換えて、コマンドを再発行してください。

DSQ21430 CONNECT コマンドは使用できません。

説明:

QMF は、新しいユーザー ID またはロケーションに接続することを許可しない環境で実行しています。

ユーザーの処置:

CONNECT コマンドについてオンライン・ヘルプを見るか、システムについて「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ21431 &V1 コマンドには、処置を行う名前が必要です。

説明: 234 ページの『DSQ20338』を参照してください。

DSQ21432 &V1 には有効な名前が必要です。&V2 は有効な名前ではありません。

説明: 『DSQ21429』を参照してください。

DSQ21433 CONNECT は **PASSWORD** キーワード・オプションが必要です。

説明:

CONNECT コマンドの形式は次のとおりです。

```
CONNECT userid TO location ( PASSWORD = password
```

ユーザー ID を指定した場合、このオプションを使用しなければなりません。パスワードの値によって、指定したユーザー ID の権限を使用してデータベースに接続できます。

ユーザーの処置:

PASSWORD オプションを追加し、CONNECT コマンドを再度出してください。

DSQ21434 PASSWORD の値が引用符がなく、8 文字を超えています。

説明:

PASSWORD オプションの値として、次の値を使用しています。

```
&V2
```

PASSWORD 値は、引用符を用いない場合は最大 8 文字まで、値を単一または二重の引用符で囲んだ場合は最大 10 文字まで指定できます。

ユーザーの処置:

PASSWORD 値を訂正してください。

DSQ21435 パスワードで &V2 オプションを完全にしてください。

説明:

オプション &V2 は、値がなければ不完全です。PASSWORD の値は、単一引用符または二重引用符で囲むことができ、有効なデータベース・パスワードの規則に準拠していなければなりません。

ユーザーの処置:

PASSWORD オプションを完全なものにして、CONNECT コマンドを再入力してください。

DSQ21436 PASSWORD の後に、有効なデータベース・パスワードを使用してください。

説明:

&V2 は、有効なデータベース・パスワードではありません。値は引用符に囲まない場合は最大 8 文字まで、単一または二重の引用符で囲めば最大 10 文字まで指定できます。有効なデータベース・パスワードの規則に従ってください。

ユーザーの処置:

有効なデータベース・パスワード値を指定し、コマンドを再発行してください。

DSQ21437 CONNECT とともに &V2 を使用することはできません。

説明:

CONNECT の唯一の有効なオプションは PASSWORD で、CONNECT コマンドの形式は次のとおりです。

```
CONNECT userid TO location ( PASSWORD = password
```

ユーザーの処置:

CONNECT コマンドを変更し、再発行してください。

DSQ21438 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21439 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DSQDCONN に内部エラーが検出されました。DXECVS データが無効です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・

データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ21440 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21441 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21442 CONNECT コマンドには、ロケーションまたはユーザー ID とパスワード、あるいはその両方が必要です。

説明:

CONNECT コマンドの形式は次のとおりです。CONNECT USERID TO LOCATION (PASSWORD = PASSWORD "USERID"は、接続を行う権限を持つデータベース・ユーザー ID です。location は、接続したいロケーションの名前です。"PASSWORD"は、指定したユーザー ID の権限を使用してデータベースに接続するためのデータベース・パスワードです。

ユーザーの処置:

CONNECT コマンドを変更し、再発行してください。

DSQ21443 "CONNECT TO" コマンドにはロケーション名が必須です。

説明: 301 ページの『DSQ21424』を参照してください。

DSQ21444 &V2 は &V1 の後に予期されていません。

説明:

CONNECT コマンドの有効な形式は次のとおりです。CONNECT TO ロケーション ロケーション名を指定する場合には、CONNECT とロケーション名の間に "TO" を使用する必要があります。

DSQ21445 • DSQ21461

ユーザーの処置:

CONNECT コマンドを変更し、再発行してください。

DSQ21445 CONNECT コマンドは、ユーザー ID またはパスワードを使用できません。

説明: 301 ページの『DSQ21421』を参照してください。

DSQ21446 "CONNECT TO" コマンドにはロケーション名が必須です。

説明: 301 ページの『DSQ21424』を参照してください。

DSQ21447 この環境では、CONNECT コマンドに TO キーワードまたはロケーション名を使用できません。

説明: 300 ページの『DSQ21418』を参照してください。

DSQ21448 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ21449 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ21450 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ21451 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21452 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21453 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21454 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ21455 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21456 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21457 SET に対し PROFILE または GLOBAL だけを使用してください。

説明:

SET コマンドの正しい形式は次のとおりです。

```
To set profile:  
SET PROFILE (option-list)  
SET (option-list)
```

```
At least one of these options is needed:  
CASE CONFIRM DECIMAL LANGUAGE LENGTH  
MODEL PRINTER SPACE TRACE WIDTH
```

```
To set global variables:  
SET GLOBAL (variables-list)
```

```
The variables-list must contain at least 1 variable  
but fewer than 10 variables.
```

ユーザーの処置:

SET コマンドを訂正し再度、入力してください。

DSQ21458 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ21459 SET に対し PROFILE または GLOBAL だけを使用してください。

説明: 『DSQ21457』を参照してください。

DSQ21460 SET に対し PROFILE または GLOBAL だけを使用してください。

説明: 『DSQ21457』を参照してください。

DSQ21461 SET の後に指定された名前が多すぎます。

説明:

SET コマンドに許されている形式は次のとおりです。

```
To set profile:  
SET PROFILE (option-list)  
SET (option-list)
```

```
To set global variables:  
SET GLOBAL (variables-list)
```


コマンドには、SET とオプション・リストの先頭との間に複数の語が指定されています。 始めの左括弧を忘れていないですか。

ユーザーの処置:

SET コマンドを変更し再度、入力してください。

DSQ21462 CASE の後には &V3 ではなく、**UPPER**、**STRING**、または **MIXED** を使用してください。

説明:

CASE に指定できる値およびその意味は次のとおりです。

UPPER - All keyboard entry is converted to uppercase.

STRING - Keyboard entry is converted to uppercase EXCEPT FOR comments, characters enclosed in quotes, and the following fields in the form:
-- Column headings
-- Page, detail, break, and final text

MIXED - Keyboard entry is unchanged. You must enter command keywords and SQL reserved words in uppercase.

ユーザーの処置:

CASE の値を UPPER、STRING、または MIXED のいずれかに変更し ENTER キーを押してください。

DSQ21463 CASE に **UPPER**、**STRING**、または **MIXED** を指定してください。

説明:

CASE に値を指定してください。 指定できる値およびその意味は次のとおりです。

UPPER - All keyboard entry is converted to uppercase.

STRING - Keyboard entry is converted to uppercase EXCEPT FOR comments, characters enclosed in quotes, and the following fields in the form:
-- Column heading
-- Page, detail, break, and final text

MIXED - Keyboard entry is unchanged. You must enter command keywords and SQL reserved words in uppercase.

ユーザーの処置:

CASE の後に UPPER、STRING、または MIXED を入力し、ENTER キーを押してください。

DSQ21464 CASE の後には &V3 ではなく、**UPPER**、**STRING**、または **MIXED** を使用してください。

説明: 『DSQ21462』を参照してください。

DSQ21465 DECIMAL の後には &V3 ではなく、**PERIOD**、**COMMA**、または **FRENCH** を使用してください。

説明:

DECIMAL の値は、編集コード D、I、J、K、または

L の列の形式設定にどの規則を適用するかを指示します。 指定できる値は、PERIOD、COMMA、または FRENCH のいずれかです。

If DECIMAL is: then the number 123456789/100 with code K displays as...
PERIOD 1,234,567.89 (standard in the U.S.A.)
COMMA 1.234.567,89 (standard in much of Europe)
FRENCH 1 234 567,89 (standard in France)

ユーザーの処置:

DECIMAL オプションを PERIOD、COMMA、または FRENCH に変更し、ENTER キーを押してください。

DSQ21466 DECIMAL に **PERIOD**、**COMMA**、または **FRENCH** を指定してください。

説明:

DECIMAL の値は、編集コード D、I、J、K、または L の列の形式設定に、どの規則を適用するかを指示します。 指定できる値は、PERIOD、COMMA、または FRENCH です。

If DECIMAL is: The number 123456789/100 with code K displays as...
PERIOD 1,234,567.89 (Standard in the U.S.A.)
COMMA 1.234.567,89 (Standard in much of Europe)
FRENCH 1 234 567,89 (Standard in France)

ユーザーの処置:

DECIMAL に PERIOD、COMMA、または FRENCH を入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ21467 DECIMAL の後には &V3 ではなく、**PERIOD**、**COMMA**、または **FRENCH** を使用してください。

説明: 『DSQ21465』を参照してください。

DSQ21468 CONFIRM の後には &V3 ではなく **YES** か **NO** を使用してください。

説明:

CONFIRM の値は、変更を中止したい場合、次の処理をその完了前に一時停止させることができるようにするかどうかを指示します。

1. データベースを変更することになる照会。
2. データベースを変更することになるコマンド。
3. ファイル / データ・セットの置き換えを行わせることになるコマンド。

値が YES の場合、各変更を中止する機会がユーザーに与えられ、NO の場合には、その機会は無くなります。

ユーザーの処置:

CONFIRM の値を YES または NO に変更し ENTER キーを押してください。

DSQ21469 CONFIRM に **YES** または **NO** を指定してください。

説明:

CONFIRM の値は、変更を中止したい場合、次の処理をその完了前に一時停止させることができるようにするかどうかを指示します。

1. データベースを変更することになる照会。
2. データベースを変更することになるコマンド。
3. ファイル / データ・セットの置き換えを行わせることになるコマンド。

値が **YES** の場合、各変更を中止する機会がユーザーに与えられ、**NO** の場合には、その機会は与えられません。

ユーザーの処置:

CONFIRM の後に **YES** または **NO** を入力し **ENTER** キーを押してください。

DSQ21470 CONFIRM の後には **&V3** ではなく **YES** か **NO** を使用してください。

説明: 305 ページの『DSQ21468』を参照してください。

DSQ21471 WIDTH には、**&V3** ではなく **22** から **999** の数を使用してください。

説明:

WIDTH は、1 つの印刷行に印刷できる文字の数です。指定した幅より長い行は、右側の部分が切り捨てられます。**WIDTH** の値は、印刷する用紙に十分な幅があることを保証するものではありません。要求したすべてのものが印刷されるようにしたい場合には、用紙より狭い幅を指定してください。

ユーザーの処置:

WIDTH の値を **22** から **999** までの範囲内の値に変更してください。

DSQ21472 WIDTH には **22** から **999** までの数値を使用してください。

説明:

WIDTH は、1 つの印刷行に印刷できる文字の数です。指定した幅より長い行は、右側の部分が切り捨てられます。**WIDTH** の値は、印刷する用紙に十分な幅があることを保証するものではありません。要求したすべてのものが印刷されるようにしたい場合には、用紙より狭い幅を指定してください。

ユーザーの処置:

WIDTH に **22** から **999** までの範囲内の数値を指定してください。

DSQ21473 WIDTH には、**&V3** ではなく **22** から **999** の数を使用してください。

説明: 『DSQ21471』を参照してください。

DSQ21474 LENGTH には、**&V3** ではなく **1** から **999** までの数、または **CONT** を使用してください。

説明:

LENGTH オプションに指定する値は、**1** から **999** までの範囲の数値、または **CONT** でなければなりません。**CONT** を指定すると、ページの切れ目のない連続印刷が行われます。

ユーザーの処置:

LENGTH の値を、**1** から **999** までの数値、または **CONT** に変更してください。

DSQ21475 LENGTH として **1** から **999** の数値または **CONT** を指定してください。

説明:

LENGTH オプションに指定する値は、**1** から **999** までの範囲の数値、または **CONT** でなければなりません。**CONT** を指定すると、ページの切れ目のない連続印刷が行われます。

ユーザーの処置:

LENGTH に、**1** から **999** までの値、または **CONT** を指定してください。

DSQ21476 LENGTH には、**&V3** ではなく **1** から **999** までの数、または **CONT** を使用してください。

説明: 『DSQ21474』を参照してください。

DSQ21477 SPACE オプションを完成させてください。

説明: 227 ページの『DSQ20261』を参照してください。

DSQ21478 TRACE オプションが不完全です。

説明:

TRACE に指定できる値は、**NONE**、**ALL**、または、機能 ID (**A**、**C**、**D**、**E**、**F**、**G**、**I**、**L**、**P**、**R**、または **U**)

とトレース・レベル (0、1、または 2) を対にして指定した一連の文字列です。例えば、C2D2E0F1I2 は有効な一連の文字列です。

ユーザーの処置:

TRACE の値を入力してください。

DSQ21479 トレース ID &V3 と共にレベルを使用する必要があります。

説明:

使用したトレース値の中で、機能 ID &V3 の後にレベルが指定されていませんでした。有効なレベルは次のとおりです。

- 0 - No tracing.
- 1 - Trace function's module entry point and input/output parameters.
- 2 - Same as (1), with additional internal data.

TRACE に指定できる値は、NONE、ALL、または、機能 ID (A、C、D、E、F、G、I、L、P、R、または U) とトレース・レベル (0、1、または 2) を対にして指定した一連の文字列です。例えば、C2D2E0F1I2 は有効な一連の文字列です。

ユーザーの処置:

&V3 と共に有効なトレース・レベルを使用してください。

DSQ21480 TRACE 値 &V3 の中に無効なレベルがあります。

説明:

&V3 のトレース・レベルに無効なレベルがあります。有効なレベルは次のとおりです。

- 0 - No tracing.
- 1 - Trace function's module entry point and input/output parameters.
- 2 - Same as (1), with additional internal data.
- 3 - Same as (1), with additional internal data for specific modules
- 4 - Trace entry point, input/output parameters, and other internal data for specific modules

TRACE に指定できる値は、NONE、ALL、または、機能 ID (A、C、D、E、F、G、I、L、P、R、または U) とトレース・レベル (0、1、2、3、または 4) を対にして指定した一連の文字列です。例えば、C2D2E0F1I2 は有効な一連の文字列です。

ユーザーの処置:

有効なトレース・レベル使用してください。

DSQ21481 TRACE 値 &V3 は無効です。

説明:

次の値が TRACE の後で有効です。

1. ALL (全構成要素をトレースする場合)

2. NONE (なにもトレースしない場合)
3. トレース・レベル (0、1、2、3 または 4) と機能 ID (A、C、D、E、F、G、I、L、P、R または U) を交互に指定した一連の文字列。例えば、C2D2E0F1I2 は有効な一連の文字列です。

TRACE 値にブランクを含むことはできません。

ユーザーの処置:

TRACE の後ろには、有効な値を使用してください。

DSQ21482 TRACE 値 &V3 に無効な関数 ID があります。

説明:

TRACE の値として指定できるのは、ALL または NONE、または、トレース・レベルを随所に配置した ID です。

有効な ID は A、C、D、E、F、G、I、L、P、R、または U です。トレース・レベルは 0、1、または 2 です。例えば、一連の C2D2E0F1I2 は有効です。

&V3 の ID の 1 つが正しくありません。

ユーザーの処置:

有効な関数 ID を使用してください。

DSQ21483 TRACE 値 &V3 は無効です。

説明: 『DSQ21481』を参照してください。

DSQ21484 LANGUAGE の後には、&V3 ではなく、QBE、SQL、または PROMPTED を指定してください。

説明:

&V3 は LANGUAGE オプションとして無効です。次のいずれかを使用してください。

1. SQL デフォルトの照会言語を SQL に設定する
2. QBE デフォルトの照会言語を QBE に設定する
3. PROMPTED デフォルトの照会言語を指示照会に設定する

ユーザーの処置:

LANGUAGE の値を SQL、QBE、または PROMPTED に変更し、操作を続けてください。

DSQ21485 LANGUAGE の後には QBE、SQL、または PROMPTED を使用してください。

説明:

LANGUAGE オプションは値が指定されていないため

不完全です。次のいずれかを使用してください。

1. SQL デフォルトの照会言語を SQL に設定する
2. QBE デフォルトの照会言語を QBE に設定する
3. PROMPTED デフォルトの照会言語を指示照会に設定する

ユーザーの処置:

LANGUAGE の後には QBE、SQL、または PROMPTED を使用してください。

DSQ21486 LANGUAGE の後には、&V3 ではなく、**QBE**、**SQL**、または **PROMPTED** を指定してください。

説明: 307 ページの『DSQ21484』を参照してください。

DSQ21487 SET PROFILE とともに &V2 を使用することはできません。

説明:

SET PROFILE コマンドとともに &V2 を使用できません。以下にリストされているオプションのみを使用します。

CASE	LENGTH	SPACE
CONFIRM	MODEL	TRACE
DECIMAL	PRINTER	WIDTH
LANGUAGE		

ユーザーの処置:

&V2 を変更するか、その値、およびそれ以降の値を除去してください。

DSQ21488 SET PROFILE には、少なくとも 1 つのオプションが必要です。

説明:

SET PROFILE は PROFILE 中の値を変更するために使用します。SET PROFILE (option=value option=value ... を入力します。SET PROFILE の有効なオプションは、以下のとおりです。

CASE	LANGUAGE	SPACE
CONFIRM	LENGTH	TRACE
DECIMAL	MODEL	WIDTH
	PRINTER	

ユーザーの処置:

SET PROFILE コマンドにオプションを少なくとも 1 つ追加し、その上で、このコマンドを再実行してください。

DSQ21489 変数 &V1 を設定できません。

説明:

コマンドで参照された大域変数は、QMF によってのみ設定可能です。

ユーザーの処置:

SHOW GLOBALS コマンドを発行して、QMF で提供されている大域変数のうち、ユーザーが設定できる大域変数を確認してください。設定可能な大域変数では、大域変数名の隣にデータ入力フィールドがあります。各大域変数の目的について詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

または、「DSQ」で始まらない変数名を指定してコマンドを再発行できます。

DSQ21490 変数 &V1 を設定できません。

説明: 『DSQ21489』を参照してください。

DSQ21491 SPACE 値は 50 文字以下でなければなりません。

説明: 228 ページの『DSQ20264』を参照してください。

DSQ21493 TRACE の値の長さが 18 を超えています。

説明:

TRACE オプションとして以下の値が使用されていません。

&V2

この値は、許容最大長の 18 文字を超えています。

ユーザーの処置:

TRACE の値を変更してください。

DSQ21494 TRACE 値 &V3 は無効です。

説明: 307 ページの『DSQ21481』を参照してください。

DSQ21495 SPACE オプションを完成させてください。

説明: 227 ページの『DSQ20260』を参照してください。

DSQ21496 **PRINTER** キーワードの後に値を続ける必要があります。

説明: 295 ページの『DSQ21262』を参照してください。

DSQ21497 **PRINTER** の後の &V2 が無効です。

説明: 295 ページの『DSQ21263』を参照してください。

DSQ21498 **PRINTER** の後の &V2 が無効です。

説明: 295 ページの『DSQ21263』を参照してください。

DSQ21499 **PRINTER** の後の &V2 が無効です。

説明: 295 ページの『DSQ21263』を参照してください。

DSQ21500 **PRINTER** の後の &V2 が無効です。

説明: 295 ページの『DSQ21263』を参照してください。

DSQ21501 **PRINTER** の後の &V2 が無効です。

説明: 295 ページの『DSQ21263』を参照してください。

DSQ21502 **PRINTER** の後の &V2 が無効です。

説明: 295 ページの『DSQ21263』を参照してください。

DSQ21503 **PRINTER** の後の &V2 が無効です。

説明: 295 ページの『DSQ21263』を参照してください。

DSQ21504 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21505 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21506 **SET** に対し **PROFILE** または **GLOBAL** だけを使用してください。

説明: 304 ページの『DSQ21457』を参照してください。

DSQ21507 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21508 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21509 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21510 設定する大域変数をリストしてください。

説明:

SET GLOBAL コマンドを入力しましたが、変数を入力していません。このコマンドの形式は次のとおりです。

SET GLOBAL (G1=V1, G2=V2, ...)

ここで Gn は大域変数の名前、Vn はその値です。最大 10 個の変数を指定できます。

ユーザーの処置:

最低 1 個の変数および値を指定してコマンドを再試行してください。

DSQ21511 使用されている大域変数の数が 10 個を超えています。

説明:

&V1 GLOBAL コマンドを出しましたが、変数の数が 10 個を超えています。最大 10 個を指定できます。

ユーザーの処置:

変数の数を 10 個以下に減らし、再試行してください。

DSQ21512 &V1 の値が 2000 文字を超えています。

説明:

&V1 の値が 2000 文字の制限を超えています。

ユーザーの処置:

2000 文字以下の値を使用し (引用符を含まない)、コマンドを再試行してください。

DSQ21513 先頭に &V1 を使用する変数は、無効な大域変数名です。

説明:

大域変数名は最大 18 文字にすることができます。先頭は文字または以下のいずれかの特殊文字でなければなりません。

```
&cent. $ ~ { } ? @ # % \
```

先頭文字以外の名前部分には、英数字のほか、「DB2 QMF 解説書」に定義されている文字を使用できます。

ユーザーの処置:

有効な大域変数名を使用して、コマンドを再実行してください。

DSQ21514 &V1 の値を指定します。

説明:

SET GLOBAL コマンドの形式は次のとおりです。

```
SET GLOBAL (G1=V1, G2=V2, ...
```

ここで Gn は大域変数の名前、Vn はその値です。変数 &V1 を指定しましたが、その値を指定していません。

ユーザーの処置:

&V1 に対して値を指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ21515 値に変数名を指定してください。

説明:

SET GLOBAL の形式は次のとおりです。

```
SET GLOBAL (G1=V1, G2=V2, ...
```

ここで、Gi は大域変数の名前、Vi はその値です。プロンプト・パネルに値を指定しましたが、対応する変数名を指定していません。

ユーザーの処置:

大域変数名を指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ21516 &V1 の値を指定します。

説明: 『DSQ21514』を参照してください。

DSQ21517 &V1 の値が 2000 文字を超えています。

説明: 『DSQ21512』を参照してください。

DSQ21518 先頭に &V1 を使用する変数は、無効な大域変数名です。

説明: 『DSQ21513』を参照してください。

DSQ21519 設定する大域変数をリストしてください。

説明: 309 ページの『DSQ21510』を参照してください。

DSQ21520 MODEL の後は、&V2 ではなく、REL を使用してください。

説明:

値 &V2 は MODEL オプションとして無効です。リレーショナル・データの照会には、REL を使用してください。

ユーザーの処置:

モデルの値を REL に変更して続けてください。プロファイルで設定されているモデルの値を使用するなら MODEL オプションを省略してください。

DSQ21521 REL の値でオプション &V2 を完全にしてください。

説明:

オプション &V2 は、値がなければ不完全です。RESET QUERY コマンドの MODEL キーワードで有効なのは REL の値のみです。

ユーザーの処置:

このコマンドの入力を完全にして続行してください。

DSQ21522 MODEL の後は、&V2 ではなく、REL を使用してください。

説明: 『DSQ21520』を参照してください。

DSQ21523 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21524 &V1 の有効な値は、&V2 から &V3 までです。

説明: 263 ページの『DSQ20727』を参照してください。

DSQ21525 INTERACT コマンドでは INTERACT というコマンドは指定できません。

説明:

コマンド・インターフェースを介して入力された INTERACT コマンドでは、あるコマンドを実行できるユーザー対話および表示を限定できます。INTERACT コマンドによって対話自体を実行させることはできません。

ユーザーの処置:

INTERACT を使う場合には、INTERACT をコマンドとして指定しないでください。

DSQ21526 変数 &V1 を設定できません。

説明: 308 ページの『DSQ21489』を参照してください。

DSQ21527 &V1 の値が無効です。

説明: 253 ページの『DSQ20599』を参照してください。

DSQ21528 &V1 の値が無効です。

説明: 253 ページの『DSQ20600』を参照してください。

DSQ21529 オブジェクト・パネルの表示には、対話式 QMF セッションが必要です。

説明:

アプリケーションが、INTERACT を指定して、新しい対話セッションを開始しようとしたが、INTERACT の後にコマンドが続いていません。通常、この結果として、現行 QMF オブジェクト・パネルが表示されるはずですが、セッションが対話式ではなかったため、表示を行うことができませんでした。

QMF がバッチ・モードで実行されていたか、または INTERACT コマンドを発行したアプリケーションが、セッションが対話式でないときに起動されたかのいずれかです。

ユーザーの処置:

QMF がバッチ・モードで実行しているか、または非対話式 QMF からアプリケーションが実行されている場合

は、オブジェクトの表示を要求する INTERACT コマンドを使用しないでください。

DSQ21530 &V1 の値が無効です。

説明: 269 ページの『DSQ20816』を参照してください。

DSQ21531 &V1 の値が無効です。

説明: 269 ページの『DSQ20817』を参照してください。

DSQ21532 &V1 の値が無効です。

説明: 269 ページの『DSQ20818』を参照してください。

DSQ21540 値 '&V2' は &V1 には無効です。

説明: 254 ページの『DSQ20604』を参照してください。

DSQ21541 この CICS 変数名を設定することはできません。

説明:

入力されたグローバル名 &V1 は、CICS 環境の外では無効です。現在の環境でのこの変数の設定値には、意味がありません。

ユーザーの処置:

他の大域変数を設定しようとしていた場合は、正しい大域変数名を指定して、再試行してください。

DSQ21542 指定した CICS 大域変数キュー名が長すぎます。

説明:

次のいずれかの理由で、入力されたキュー名 &V1 は無効です。

- 対応するキューのタイプが 'TS' の場合、キュー名が 8 文字より長い。
- 対応するキューのタイプが 'TD' の場合、キュー名が 4 文字より長い。

キューのタイプが 'TD' の場合、キュー名は 4 文字よりも長くすることはできません。キュー名およびキュー・タイプの両方を変更するときは、その両方に大域変数を設定する場合、キュー名を指定する前にキューのタイプを指定してください。

ユーザーの処置:

DSQ21543 • DSQ21560

指定したキュー名より短いキュー名を指定するか、キュー名を指定する前にキューのタイプを 'TS' に変更してください。キュー名は 8 文字より長くすることができない点に、注意してください。

DSQ21543 **SPACE** オプションを完成させてください。

説明: 228 ページの『DSQ20262』を参照してください。

DSQ21544 &V1 の値が無効です。

説明: 257 ページの『DSQ20642』を参照してください。

DSQ21545 &V1 の値が無効です。

説明: 257 ページの『DSQ20643』を参照してください。

DSQ21546 &V1 の値が無効です。

説明: 254 ページの『DSQ20608』を参照してください。

DSQ21547 &V1 の値が無効です。

説明: 256 ページの『DSQ20641』を参照してください。

DSQ21548 値 '&V2' は &V1 には無効です。

説明: 255 ページの『DSQ20612』を参照してください。

DSQ21549 &V1 の値が無効です。

説明: 254 ページの『DSQ20608』を参照してください。

DSQ21550 **DSQEC_SPAC_OVERRIDE** が 0 であれば、**SPACE** キーワードは使用できません。

説明: 228 ページの『DSQ20263』を参照してください。

DSQ21552 **SPACE** は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明:

SPACE オプションの値は次のとおりです。

1. blank

312 DB2 QMF メッセージおよびコード

2. spacename

spacename must be a legitimate table space name that does not begin with SYS.

(プロンプト・パネルではなく) コマンド行で空白値を入力する場合、空白を単一引用符で囲んでください(' ')。プロンプト・パネルを使用してこのオプションを消去することはできません。

ユーザーの処置:

SPACE オプションの値を修正して、再度コマンドを提供してください。

DSQ21553 **SPACE** は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 『DSQ21552』を参照してください。

DSQ21554 **SPACE** は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 『DSQ21552』を参照してください。

DSQ21555 **SPACE** は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 『DSQ21552』を参照してください。

DSQ21556 **SPACE** は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 『DSQ21552』を参照してください。

DSQ21557 **SPACE** は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 『DSQ21552』を参照してください。

DSQ21558 **SPACE** は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 『DSQ21552』を参照してください。

DSQ21559 **SPACE** は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 『DSQ21552』を参照してください。

DSQ21560 **SPACE** は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明:

SPACE オプションの値は次のとおりです。

1. blank

2. spacename
3. id.spacename

spacename must be a legitimate name for a DBSPACE.
id must be an authorization identifier.

(プロンプト・パネルではなく) コマンド行でブランク値を入力する場合、ブランクを単一引用符で囲んでください(' '). プロンプト・パネルを使用してこのオプションを消去することはできません。

ユーザーの処置:

SPACE オプションの値を修正して、再度コマンドを提供してください。

DSQ21561 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明:

SPACE オプションの値は次のとおりです。

1. blank
2. name1.name2
3. name2
4. DATABASE name1

name1 must be a legitimate database name.
name2 must be a legitimate table space name.

コマンド行 (プロンプト・パネルではなく) に、ブランクまたは DATABASE 名前 1 を入力するさいには、値を単一引用符で囲んでください。例: ' ' または 'DATABASE 名前 1'

ユーザーの処置:

SPACE オプションの値を修正して、再度コマンドを提供してください。

DSQ21562 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 312 ページの『DSQ21560』を参照してください。

DSQ21563 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 『DSQ21561』を参照してください。

DSQ21564 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 312 ページの『DSQ21560』を参照してください。

DSQ21565 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 『DSQ21561』を参照してください。

DSQ21566 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 312 ページの『DSQ21560』を参照してください。

DSQ21567 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 『DSQ21561』を参照してください。

DSQ21568 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 312 ページの『DSQ21560』を参照してください。

DSQ21569 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 『DSQ21561』を参照してください。

DSQ21570 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 312 ページの『DSQ21560』を参照してください。

DSQ21571 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 『DSQ21561』を参照してください。

DSQ21572 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 312 ページの『DSQ21560』を参照してください。

DSQ21573 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 『DSQ21561』を参照してください。

DSQ21574 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 312 ページの『DSQ21560』を参照してください。

DSQ21575 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 313 ページの『DSQ21561』を参照してください。

DSQ21576 SPACE は無効な値、&V3 を含んでいません。

説明: 312 ページの『DSQ21560』を参照してください。

DSQ21582 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21583 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21588 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21589 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21590 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21591 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21592 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21598 &V1 が長すぎます。

説明:

名前 &V1 は長すぎます。データ・セット名、パス名、およびファイル名には、次の制約事項が適用されます。

- 単一引用符で囲まれた修飾データ・セット名は、複数の部分で構成できます。各部分は最大 8 文字にすることができます。名前全体では、ピリオドも含めて 44 文字以下でなければなりません。以下に例を示します。

```
'part1.part2.part3. ...'
```

- 引用符で囲まれていないデータ・セット名は次のようにすることができます。各部分は最大 8 文字にすることができます。

```
part1.part2
```

- 引用符で囲まれた UNIX パスおよびファイル名の最大長は、(引用符を含めて) 250 文字です。
- オブジェクトを保存すると、QMF が、引用符で囲まれていない UNIX パスやファイル名に対して QMF オブジェクト・タイプおよび引用符を追加します。最大長である 250 文字には、付加された文字も含まれます。以下に例を示します。

```
/u/DEPTJ49/mystaff
```

これは次のようになります。

```
'/u/DEPTJ49/mystaff.REPORT'
```

ユーザーの処置:

上で説明されている制約事項に準拠するよう名前を変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ21599 &V1 が長すぎます。

説明: 『DSQ21598』を参照してください。

DSQ21601 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21602 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21605 表示された指示照会はエラーを含んでいません。

説明: 236 ページの『DSQ20359』を参照してください。

DSQ21606 データ・セット名は完全修飾しなければなりません。

説明:

指定したデータ・セット名は完全修飾されていません。CICS は、単一引用符で囲まれた z/OS 完全修飾データ・セット名を必要とします。

ユーザーの処置:

z/OS 完全修飾データ・セット名を単一引用符で囲んで指定してください (例: 'SMITH.MONDAY.TOTALS')。

DSQ21607 このデータ・セットを使用する権限がありません。

説明:

&V1 という名前のデータ・セット名の使用は、アクセス権限が不十分なので、リソース・アクセス制御機能 (RACF) によって拒否されました。

ユーザーの処置:

そのデータ・セットの所有者にデータ・セットのアクセスを許可してもらうか、または異なるデータ・セット名を使用してください。

DSQ21608 &V1 は空です。

説明:

&V2 &V3 コマンドで指定されたデータ・セット &V1 は空です。

ユーザーの処置:

コマンドで使用しているデータ・セット名を、&V3 があるデータ・セット名に変更して、コマンドを再試行してください。

DSQ21609 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21610 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21611 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21612 メンバー名で **MEMBER** を完成させてください。

説明:

MEMBER の後に、 QMF オブジェクトのインポート元として使用するメンバーの名前を指定してください。

ユーザーの処置:

メンバー名を入力して、コマンドを入力し直してください。

DSQ21613 レコード長は少なくとも &V2 でなければなりません。

説明:

インポートに関係するファイルのレコード長は &V1 です。必要とされる有効なデータを含むにはこの長さでは不足です。インポートしているオブジェクトのタイプでは、レコード長は最低 &V2 が必要です。

ユーザーの処置:

別のファイルを指定するようコマンドを修正するか、別のタイプのオブジェクトをインポートしてください。

DSQ21614 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21617 レコード長が &V2 を超えてはなりません。

説明:

インポートに関係するファイルのレコード長は &V1 です。必要な有効データを含めるには、この長さでは長すぎます。インポートしようとしているオブジェクトのタイプでは、レコード長は &V2 を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

別のファイルを指定するようコマンドを修正するか、別のタイプのオブジェクトをインポートしてください。

DSQ21620 レコード長は少なくとも &V2 でなければなりません。

説明: 『DSQ21613』を参照してください。

DSQ21621 レコード長は少なくとも &V2 でなければなりません。

説明: 315 ページの『DSQ21613』を参照してください。

DSQ21623 &V1 のレコード長は &V2 でなければなりません。

説明:

IMPORT または EXPORT コマンドは、コマンド内で参照されるファイルまたはデータ・セット &V3 のレコード長が &V1 であるため、完了できませんでした。コマンド内で参照されるオブジェクトのタイプで予期される長さは &V2 です。

ユーザーの処置:

別のファイルまたは別のタイプのオブジェクトを指定するようコマンドを修正してください。

DSQ21624 このキュー名からインポートすることはできません。

説明:

キュー &V1 を見つけることができません。理由を以下に示します。

- 要求したキューが存在しない。
- キュー名のスペルが誤っている。

ユーザーの処置:

キュー名を訂正してから、コマンドを再実行してください。

DSQ21625 インポートしようとしているデータは形式ではありません。

説明:

形式を含んでいないインポート元から、形式をインポートしようとしてしました。

ユーザーの処置:

FROM キーワードの後の名前を、形式オブジェクトが含まれているインポート元の名前に変更してください。

DSQ21627 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21628 表 &V1 は、ソース・データ &V2 と一致しません。

説明:

この表を、ソース・データで置き換えることはできません。データベース内の表 &V1 とキューからのソース・データ &V2 は一致しておらず、それは以下のいずれかの理由によります。

1. 列の数が同数でない。
2. 対応する列のデータ・タイプが異なっている。
3. 対応する列の一方が NULL 値を許容し、他方が許容しない。

ユーザーの処置:

上記に示された条件を検査してから問題を訂正するか、または表を消去してからコマンドを再実行してください。

DSQ21630 &V1 をインポートすることはできません。

説明:

IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. IMPORT objecttype FROM sourcename
2. IMPORT objecttype objectname FROM sourcename

インポートできるのは QUERY、FORM、PROC、TABLE または DATA だけです。

ユーザーの処置:

インポートするオブジェクトのタイプを変更し、コマンドを再入力してください。

DSQ21631 インポートするものを指定してください。

説明:

IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. IMPORT objecttype FROM sourcename
2. IMPORT objecttype objectname FROM sourcename

「objecttype」が欠落しています。一時記憶域にインポートする場合は、オブジェクト・タイプは QUERY、FORM、PROC、または DATA のどれかです。データベースにインポートする場合は、オブジェクト・タイプは QUERY、FORM、PROC、または TABLE のどれかです。

ユーザーの処置:

IMPORT コマンドに正しいオブジェクト・タイプを追

加しコマンドを再度、入力してください。

DSQ21633 **IMPORT** コマンドが不完全です。

説明:

IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. **IMPORT** objecttype **FROM** sourcename
2. **IMPORT** objecttype objectname **FROM** sourcename

IMPORT objecttype または IMPORT objecttype objectname の後に、FROM sourcename の指定がありません。

ユーザーの処置:

「FROM インポート元名」を指定し、コマンドを再試行してください。このコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。データベース・オブジェクト・リストから QMF コマンドを入力する場合の詳細については、LIST コマンドのヘルプを参照してください。

DSQ21634 **IMPORT** &V1 の後に **FROM** が続かなければなりません。

説明:

IMPORT &V1 コマンドの形式は次のとおりです。

IMPORT &V1 FROM sourcename

ここで、sourcename は、インポートするデータが入っているファイルの名前です。

コマンドには、&V1 の後に「FROM」という語がありません。

ユーザーの処置:

「&V1」と「インポート元」の間に「FROM」という語を入れ、コマンドを再度実行してください。

DSQ21639 &V1 がありません。

説明:

IMPORT コマンドの形式は、次のとおりです。

1. **IMPORT** objecttype **FROM** sourcename
2. **IMPORT** objecttype objectname **FROM** sourcename

ここで、sourcename は既存の TSO データ・セットの名前ですが、メッセージで示された名前のデータ・セットは見つかりません。次の原因が考えられます。

1. データ・セット名のスペルが違っている。
2. データ・セット自体が存在しない。

ユーザーの処置:

スペルに誤りがあればそれを訂正してください。スペルが正しい場合は、要求したデータ・セットが存在しているかどうか検査してください。

DSQ21643 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

不明の FSSTATE エラー - エラー・コード - &V1。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ21644 **IMPORT** &V1 に指定されている名前が多すぎます。

説明:

IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. **IMPORT** objecttype **FROM** xxxxx
2. **IMPORT** objecttype objectname **FROM** xxxxx

ここで、xxxxx は、インポートするものが含まれているデータ・セットの名前で、1 つまたは複数のオプションを指定することもできます。

QMF は「xxxxx」内の名前が多すぎることを確認しました。オプションを指定した場合は、オプションとファイル ID を区別している括弧を省略した可能性があります。例えば、以下のコマンドを実行しようとした可能性があります。

```
IMPORT QUERY FROM 'JONES.QUERY.A' (CONFIRM=YES
```

しかし、CONFIRM の前の括弧を省略しました。

ユーザーの処置:

IMPORT コマンドを変更し、再度実行してください。

DSQ21645 名前 &V1 は、キュー・タイプ &V2 を使っている場合、無効です。

説明:

キュー名 "&V1" がコマンド中に見つかりましたが、CICS キュー・タイプ &V2 を使用している場合は、これは有効な CICS キュー名ではありません。次の 1 つが、問題の原因である可能性があります。

- 対応するキューのタイプが 'TS' の場合、キュー名が 8 文字を超えている。
- 対応するキューのタイプが 'TD' の場合、キュー名が 4 文字を超えている。
- キュー名の先頭文字に、予約されている文字を使用した。先頭文字として x'FA' から x'FF' を使用しないでください。これらの文字は、CICS での使用のために予約されています。

ユーザーの処置:

正しい文字を入力し、再度コマンドを実行してください。

DSQ21646 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21647 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21648 OK、&V1 が &V2 からインポートされました。

DSQ21649 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21650 &V1 のレコード形式は &V2 でなければなりません。

説明:

IMPORT コマンドまたは EXPORT コマンドに関するファイルのレコード形式は &V1 です。この形式は、インポートまたはエクスポートしようとしているオブジェクトのタイプのレコード形式、すなわち &V2 と適合していません。

ユーザーの処置:

別のファイルまたは別のタイプのオブジェクトを指定す

るようコマンドを修正してください。

DSQ21651 &V1 がありません。

説明:

IMPORT コマンドの形式は、次のとおりです。

1. IMPORT objecttype FROM sourcename
2. IMPORT objecttype objectname FROM sourcename

「sourcename」は CICS キューの名前です。そのキューが見つかりません。次の原因が考えられます。

1. キュー名のスペルが誤っている。
2. キュー名が存在しない。

ユーザーの処置:

スペルが誤っていた場合はそれを変更し、またはキュー名を存在するものに変更してから、コマンドを再実行してください。

DSQ21652 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21653 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21654 インポートされる CICS キューにフォームが含まれていません。(The CICS queue to be imported does not contain a form.)

説明:

フォームを含まない CICS キューからフォームをインポートしようとしてしました。

ユーザーの処置:

FROM の後にある名前を、フォーム・オブジェクトを含む CICS キューの名前に変更してください。

DSQ21655 表 &V1 は、ソース・データ &V2 と一致しません。

説明: 316 ページの『DSQ21628』を参照してください。

DSQ21658 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21659 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21660 &V1 をインポートすることはできません。

説明: 316 ページの『DSQ21630』を参照してください。

DSQ21661 **IMPORT** &V1 に指定されている名前が多すぎます。

説明:

IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. **IMPORT** objecttype FROM xxxxx
2. **IMPORT** objecttype objectname FROM xxxxx

ここで、"xxxxx" はインポートしたいものが入っているキューの名前を識別します。また、ここに **QUEUE**TYPE オプションも指定しなければなりません。 **QMF** は「xxxxx」内の名前が多すぎることを確認しました。キューの識別からオプションを区切る括弧を付け忘れた可能性があります。例えば、以下のコマンドを実行しようとした可能性があります。

```
IMPORT QUERY FROM MYQUERY (QUEUETYPE=TS CONFIRM=YES)
```

しかし、**QUEUE**TYPE の前の括弧を付け忘れました。

ユーザーの処置:

IMPORT コマンドを変更し、再度実行してください。

DSQ21662 一部のデータで、80 文字め以降が切り捨てられたかもしれません。

説明:

インポートされたファイルに、長さが 79 文字を超えるレコードがありました。いずれのレコードにおいても、79 桁目を超える分のデータはインポートされませんでした。

QMF インストール検査手順 (**IVP**) をインポートした後にこのメッセージを受け取った場合は、無視してください。 **DSQ1ESQI** プロシージャは **IVP** をインポートするので、このメッセージは **DSQ1ESQI** の実行後に表示されることがあります。

ユーザーの処置:

QMF IVP 以外の任意のファイルのメッセージを受け取った場合、**QMF** 外での作業によって、すべてのレコードが 79 文字以下になるようにファイルを再編成してく

ださい。その上で、もう一度ファイルをインポートしてください。

DSQ21663 &V1 が長すぎます。

説明: 314 ページの『DSQ21598』を参照してください。

DSQ21664 &V1 が長すぎます。

説明: 314 ページの『DSQ21598』を参照してください。

DSQ21665 &V1 が長すぎます。

説明: 314 ページの『DSQ21598』を参照してください。

DSQ21667 **OK**、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21668 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21669 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21671 &V1 を **IMPORT** &V2 と共に使用することはできません。

説明:

オプション &V1 を **IMPORT** &V2 で使用することはできません。

IMPORT コマンドに指定できるオプションは次のとおりです。

```
MEMBER, CONFIRM, COMMENT, LANGUAGE, ACTION, and SHARE
```

MEMBER オプションを除いて、他のオプションはデータベース中にオブジェクトをインポートする場合だけ有効です。 **LANGUAGE** オプションは、**FORM** オブジェクトだけに有効です。 **ACTION** オプションは、**TABLE** オブジェクトだけに有効です。 **SHARE** オプションは **TABLE** オブジェクトには無効です。

ユーザーの処置:

オプションを変更し、コマンドを再入力してください。

DSQ21673 &V1 のレコード長は &V2 でなければなりません。

説明: 316 ページの『DSQ21623』を参照してください。

DSQ21675 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21676 プリンター名とキュー名の両方を指定することはできません。

説明:

PRINT コマンドの実行中に、プリンター名と CICS キュー名の両方が指定されました。プリンター名は、コマンド行またはコマンド・プロンプトで入力されたか、QMF プロファイルに含まれている可能性があります。印刷中の場合、これらの値の両方を非ブランクにすることはできません。オプションは、次のとおりです。

- GDDM 印刷を使用するには、プリンター名を入力します。フォーム、図表、または指示照会を印刷する場合は、プリンター名を指定する必要があります。指定のプリンターが常に使用されるように QMF プロファイルにプリンター名を設定できます。ただし、有効なキュー名とキュー・タイプを PRINT コマンドで指定した場合、プロファイルのプリンター名は使用されないことに注意してください。
- GDDM なしで QMF 印刷を使用するために CICS キュー名と CICS キュー・タイプを入力し、指定したキューに出力を送信します。これらの値を PRINT コマンドで入力した場合、プロファイルのプリンター名 (指定されている場合) は使用されません。
- 3 つのオプションをすべてブランクのままにします。この場合、デフォルトの CICS キュー名とキュー・タイプが使用されます。

ユーザーの処置:

PRINT コマンドが GDDM 印刷を使用するのか、CICS キューを使用するのかを決めてください。次に、プリンター名を指定するか、または、CICS キュー名とキュー・タイプを指定して、コマンドを再発行してください。3 つのオプションをすべて省略すると、デフォルトの CICS キュー名とキュー・タイプが使用されます。

有効なプリンター名のリストについては、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ21677 プリンター名とキュー・タイプの両方を指定することはできません。

説明:

PRINT コマンドの実行中に、プリンター名と CICS キュー・タイプの両方が指定されました。プリンター名は、コマンド行またはコマンド・プロンプトで入力されたか、QMF プロファイルに含まれている可能性があります。印刷中の場合、これらの値の両方を非ブランクにすることはできません。オプションは、次のとおりです。

- GDDM 印刷を使用するには、プリンター名を入力します。フォーム、図表、または指示照会を印刷する場合は、プリンター名を指定する必要があります。指定のプリンターが常に使用されるように QMF プロファイルにプリンター名を設定できます。ただし、有効なキュー名とキュー・タイプを PRINT コマンドで指定した場合、プロファイルのプリンター名は使用されないことに注意してください。
- GDDM なしで QMF 印刷を使用するために CICS キュー名と CICS キュー・タイプを入力し、指定したキューに出力を送信します。これらの値を PRINT コマンドで入力した場合、プロファイルのプリンター名 (指定されている場合) は使用されません。
- 3 つのオプションをすべてブランクのままにします。この場合、デフォルトの CICS キュー名とキュー・タイプが使用されます。

ユーザーの処置:

PRINT コマンドが GDDM 印刷を使用するのか、CICS キューを使用するのかを決めてください。次に、プリンター名を指定するか、または CICS キュー名と CICS キュー・タイプを指定して、コマンドを再発行してください。3 つのオプションをすべて省略すると、デフォルトの CICS キュー名とキュー・タイプが使用されます。

有効なプリンター名のリストについては、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ21678 プリンター名と **SUSPEND** キーワードの両方を指定することはできません。

説明:

PRINT コマンドの実行中に、プリンター名と CICS SUSPEND キーワードの両方が指定されました。プリンター名は、コマンド行またはコマンド・プロンプトで入力されたか、QMF プロファイルに含まれている可能性があります。印刷中の場合、これらの値の両方を非ブランクにすることはできません。オプションは、次のとおりです。

- GDDM 印刷を使用するには、プリンター名を入力します。フォーム、図表、または指示照会を印刷する場合は、プリンター名を指定する必要があります。指定のプリンターが常に使用されるように QMF プロファイルにプリンター名を設定できます。ただし、有効なキュー名とキュー・タイプを PRINT コマンドで指定した場合、プロファイルのプリンター名は使用されないことに注意してください。
- GDDM なしで QMF 印刷を使用するために CICS キュー名と CICS キュー・タイプを入力し、指定したキューに出力を送信します。これらの値を PRINT コマンドで入力した場合、プロファイルのプリンター名 (指定されている場合) は使用されません。SUSPEND オプションの値として YES または NO を選択します。
- 3 つのオプションをすべてブランクのままにします。この場合、デフォルトの CICS キュー名と CICS キュー・タイプが使用されます。SUSPEND オプションのデフォルト値は NO です。

ユーザーの処置:

PRINT コマンドが GDDM 印刷を使用するのか、CICS キューを使用するのかを決めてください。次に、プリンター名を指定するか、または CICS キュー名、CICS キュー・タイプ、および SUSPEND オプションを指定して、コマンドを再発行してください。4 つのオプションをすべて省略すると、デフォルトの CICS キュー名、キュー・タイプ、および SUSPEND オプションが使用されます。

有効なプリンター名のリストについては、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ21679 SUSPEND キーワードには、YES または NO を使用してください。

説明:

PRINT、EXPORT または IMPORT コマンドの実行中に、SUSPEND キーワードに有効な値が指定されませんでした。SUSPEND の有効な値は、次のとおりです。

- YES - CICS キューが使用可能になるのを待ってから、PRINT、EXPORT、または IMPORT コマンドを完了する。
- NO - CICS キューが使用中の場合、メッセージを出して PRINT、EXPORT、または IMPORT コマンドを強制終了する。
- SUSPEND オプションを省略する。NO のデフォルト値が使用される。

ユーザーの処置:

SUSPEND キーワードに有効な値を選択し、

PRINT、EXPORT または IMPORT コマンドを出し直してください。

DSQ21680 SUSPEND キーワードには、YES または NO を使用してください。

説明: 『DSQ21679』を参照してください。

DSQ21681 キュー・タイプ &V2 に対して、キュー名 &V1 が長すぎます。

説明:

タイプ &V2 の CICS キュー名には、&V3 の長さ制限があります。&V4 文字のキュー名が指定されました。

ユーザーの処置:

&V3 文字を超えない長さのキュー名を指定してください。

DSQ21682 キュー・タイプ &V2 に対して、キュー名 &V1 が長すぎます。

説明: 『DSQ21681』を参照してください。

DSQ21683 キュー・タイプのキーワードには、TS または TD を使用してください。

説明:

CICS キュー・タイプのキーワードに対して、有効な値の 1 つが指定されていません。有効な値は以下のとおりです。

- TS 一時記憶域に対する値
- TD 一時データに対する値

ユーザーの処置:

CICS キュー・タイプに有効な値の 1 つを指定して、コマンドを再実行してください。CICS キュー名を指定した場合、キュー・タイプも指定する必要があります。デフォルト値を使用する場合、両方のキーワードをブランクにしてください。

DSQ21684 キュー・タイプのキーワードには、TS または TD を使用してください。

説明: 『DSQ21683』を参照してください。

DSQ21685 キュー名およびキュー・タイプを両方とも指定する必要があります。

説明:

このコマンドに CICS キュー名または CICS キュー・

DSQ21686 • DSQ21693

タイプのいずれかが指定される場合、両方の値が指定されなければなりません。

両方の値を省略すると、デフォルト値が使用されます。

ユーザーの処置:

キュー名およびキュー・タイプを指定するか、または両方を省略して、デフォルト値を使用してください。

DSQ21686 キュー名およびキュー・タイプを両方とも指定する必要があります。

説明: 321 ページの『DSQ21685』を参照してください。

DSQ21687 キュー名の後に値が必要です。

説明:

CICS キュー名のキーワードが指定されましたが、キーワードに対する値が指定されていません。このキーワードを省略するとデフォルト値が使用されます。

ユーザーの処置:

キュー名に値を指定するか、またはデフォルト値を使用するならキーワードを省略してください。

DSQ21688 キュー名の後に値が必要です。

説明: 『DSQ21687』を参照してください。

DSQ21689 キュー名は、このタイプのオブジェクトには使用できません。

説明:

CICS キュー名のキーワードが、タイプがフォーム、図表または指示照会のオブジェクトと共に指定されました。この種類のオブジェクトでは、CICS キュー名は指定できません。有効なプリンター名を指定する必要があります。

ユーザーの処置:

CICS キュー名を省略し、有効なプリンター名を指定して、コマンドを繰り返してください。

DSQ21690 キュー・タイプは、このタイプのオブジェクトには使用できません。

説明:

CICS キュー・タイプのキーワードが、タイプがフォーム、図表または指示照会のオブジェクトと共に指定されました。この種類のオブジェクトでは、CICS キュー名は指定できません。有効なプリンター名を指定する必要があります。

ユーザーの処置:

CICS キュー・タイプを省略し、有効なプリンター名を指定して、コマンドを繰り返してください。有効なプリンター名のリストについては、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ21691 **SUSPEND** は、このタイプのオブジェクトには使用できません。

説明:

CICS **SUSPEND** キーワードが、タイプがフォーム、図表または指示照会のオブジェクトと共に指定されました。この種類のオブジェクトでは、CICS キュー名は指定できません。有効なプリンター名を指定する必要があります。

ユーザーの処置:

SUSPEND キーワードを省略し、有効なプリンター名を指定して、コマンドを繰り返してください。

有効なプリンター名のリストについては、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ21692 **PRINT** とともに **&V2** を使用することはできません。

説明:

PRINT コマンドとともに **&V2** を使用することはできません。以下にリストされているオプションのみを使用します。

```
PRINTER (Invalid for PRINT CHART)
DATETIME (Invalid for PRINT CHART)
LENGTH (Invalid for PRINT CHART)
WIDTH (Invalid for PRINT CHART)
PAGE NO (Invalid for PRINT CHART)
ICUFORM (Valid ONLY for PRINT CHART)
UNITS (Valid ONLY for PRINT CHART)
VOFFSET (Valid ONLY for PRINT CHART)
HOFFSET (Valid ONLY for PRINT CHART)
CWIDTH (Valid ONLY for PRINT CHART)
CLENGTH (Valid ONLY for PRINT CHART)
QUEUE NAME (Invalid for PRINT CHART, FORM or prompted QUERY)
QUEUE TYPE (Invalid for PRINT CHART, FORM or prompted QUERY)
SUSPEND (Invalid for PRINT CHART, FORM or prompted QUERY)
```

ユーザーの処置:

&V2 およびその後の値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ21693 プリンター名とキュー名の両方を指定することはできません。

説明: 320 ページの『DSQ21676』を参照してください。

DSQ21694 プリンター名とキュー・タイプの両方を指定することはできません。

説明: 320 ページの『DSQ21677』を参照してください。

DSQ21695 プリンター名と **SUSPEND** キーワードの両方を指定することはできません。

説明: 320 ページの『DSQ21678』を参照してください。

DSQ21696 **PRINTER** オプションに値が使用されている場合、この値を **LENGTH** オプションに使用しないでください。

説明:

LENGTH に &V2 を指定し、**PRINTER** に &V3 を指定していますが、**PRINTER** オプションに **GDDM** プリンター・ニックネームも指定されている場合は &V2 は指定できません。プロファイル・パネルに **PRINTER** 名がある場合は、**PRINTER** キーワードの後に空白 (' ' または ' ') を続けることによって、**PRINT** コマンド発行時にこの値をオーバーライドできます。

PRINT コマンド、プロファイル・パネル、または **PRINT** コマンド・プロンプト・パネルで、**LENGTH** オプションにこの値を指定できます。

ユーザーの処置:

LENGTH オプションに数値を入力するか、**PRINTER** 名が空白であることを確認してください。

DSQ21697 &V1 オプションは、**PRINT REPORT** でのみ使用できます。

説明: 291 ページの『DSQ21199』を参照してください。

DSQ21698 **CC** の後には **YES** または **NO** を指定してください。

説明: 292 ページの『DSQ21219』を参照してください。

DSQ21699 **CC** の後には &V2 ではなく **YES** か **NO** を使用してください。

説明: 292 ページの『DSQ21220』を参照してください。

DSQ21700 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 243 ページの『DSQ20461』を参照してください。

DSQ21701 **OK**。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ21702 &V1 へのラインがありません。

説明:

表示画面の本体の中の、削除可能な行にカーソルが置かれていなくてはなりません。

ユーザーの処置:

別のコマンドを使って作業を続行してください。

DSQ21710 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21711 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21712 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21713 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21714 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21715 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21716 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21717 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21718 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21719 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21720 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21730 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21731 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21733 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 209 ページの『DSQ20005』を参照してください。

DSQ21750 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21751 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21752 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21753 OK、これは空の **PROMPTED QUERY** パネルです。

DSQ21754 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21755 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21756 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21757 DATA が入っていないため、&V2 をリセットできません。

説明:

FORM をリセットする場合、DATA が必要です。DATA が空の場合 &V2 はリセットできません。

ユーザーの処置:

別のコマンドを使って作業を続行してください。

DSQ21758 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ21759 &V2 をリセットできません。

説明:

リセットできるオブジェクトは、DATA、FORM、PROFILE、PROC、QUERY、GLOBAL、および FORM.x のみです。x は COLUMNS、PAGE、DETAIL、CALC、FINAL、OPTIONS、CONDITIONS、または BREAK_n (n は 1 から 6 の整数) です。

RESET は、これらのどちらかをデフォルト値か、無設定の状態に復元します。

ユーザーの処置:

&V2 の代わりに、上記にリストしたタイプの 1 つを指定してください。データベースからオブジェクトを削除する場合は、ERASE コマンドを使用してください。

DSQ21760 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ21761 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21762 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21763 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21764 &V2 は &V1 の後に続けられません。

説明:

次のように入力しました。

```
RESET &V1 &V2
```

これは、以下の有効なコマンド形式のどれにも一致しません。

```
RESET GLOBAL ALL
RESET GLOBAL (list of variable names)
RESET objecttype (options)
```

ユーザーの処置:

上記の形式の内のどちらかを使用してください。変数名またはオプションを使用する場合は、必ず左括弧を前に付けてください。コマンドを再試行してください。

DSQ21765 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21766 &V2 は &V1 の後に続けられません。

説明: 『DSQ21764』を参照してください。

DSQ21767 先頭に &V1 を使用する変数は、無効な大域変数名です。

説明: 310 ページの『DSQ21513』を参照してください。

DSQ21768 使用されている大域変数の数が 10 個を超えています。

説明: 309 ページの『DSQ21511』を参照してください。

DSQ21769 ALL と変数リストの両方は指定できません。

説明:

次のように入力しました。

```
RESET GLOBAL ALL (list of variable names)
```

しかし、RESET GLOBAL コマンドの形式は次のとおりです。

```
RESET GLOBAL ALL
RESET GLOBAL (list of variable names)
```

ユーザーの処置:

これらの形式のどれかを指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ21770 ALL も変数リストも指定していません。

説明:

次のように入力しました。

```
RESET GLOBAL
```

しかし、RESET GLOBAL コマンドの形式は次のとおりです。

```
RESET GLOBAL ALL
RESET GLOBAL (list of variable names)
```

ユーザーの処置:

これらの形式のどれかを指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ21771 先頭に &V1 を使用する変数は、無効な大域変数名です。

説明: 310 ページの『DSQ21513』を参照してください。

DSQ21772 &V2 は **RESET QUERY** 以外では使用できません。

説明:

LANGUAGE オプションは **RESET** だけに有効であり、**RESET QUERY** にだけ適用されます。以下のコマンドが有効です。

```
RESET QUERY (LANGUAGE=SQL -- to get a QUERY panel for SQL.
RESET QUERY (LANGUAGE=QBE -- to get a QUERY panel for QBE.
RESET QUERY (LANGUAGE=PROMPTED -- to get a QUERY panel for
prompted query.
```

ユーザーの処置:

上記の 3 つのどれかのコマンドを使用するか、コマンドからオプションを除去してください。

DSQ21773 &V3 という名前のパネルはオブジェクト &V2 内にありません。

説明: 236 ページの『DSQ20357』を参照してください。

DSQ21774 パネル &V2 をリセットできません。

説明:

無効なパネル名を指定しました。 **RESET** コマンドに有効なパネルは次のとおりです。

```
FORM.BREAK1    FORM.CALC
FORM.BREAK2    FORM.COLUMNS
FORM.BREAK3    FORM.DETAIL
FORM.BREAK4    FORM.FINAL
FORM.BREAK5    FORM.OPTIONS
FORM.BREAK6    FORM.PAGE
FORM.CONDITIONS
```

ユーザーの処置:

RESET コマンドに有効なパネルを指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ21775 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21776 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21777 &V1 コマンドには、処置を行う名前が必要です。

説明: 234 ページの『DSQ20338』を参照してください。

DSQ21778 &V2 をリセットできません。

説明: 324 ページの『DSQ21759』を参照してください。

DSQ21779 **RESET** に指定されている名前が多すぎます。

説明:

RESET の有効なコマンド形式は次のとおりです。

1. **RESET objecttype (options)**
2. **RESET GLOBAL ALL**
3. **RESET GLOBAL (list of variable names)**

ユーザーの処置:

RESET コマンドを訂正し再度、入力してください。

DSQ21780 &V2 をリセットできません。

説明: 324 ページの『DSQ21759』を参照してください。

DSQ21781 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ21782 **RESET** とともに &V2 を使用することはできません。

説明:

RESET の有効なオプションは **LANGUAGE**、**VAR**s、および **USING** です。次のコマンドが有効です。

```
RESET QUERY (LANGUAGE=SQL -- to get a QUERY panel for SQL.
RESET QUERY (LANGUAGE=QBE -- to get a QUERY panel for QBE.
RESET QUERY (LANGUAGE=PROMPTED -- to get a PROMPTED QUERY panel.
```

```
RESET FORM.DETAIL (VAR = n where 1 <= n <= 99
RESET FORM.DETAIL (VAR = n USING = m where 1 <= m,n <= 99 & n ^= m
RESET FORM.DETAIL (VAR = ALL
```

ユーザーの処置:

上記 6 つのコマンドのどちらかを使用するか、または、コマンドからそのオプションを除去してください。

DSQ21783 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21784 LANGUAGE の後には、&V2 ではなく、**QBE**、**SQL**、または **PROMPTED** を指定してください。

説明:

LANGUAGE オプションの値として &V2 は無効です。次のいずれかを使用してください。

1. SQL 照会の空パネルを入手するには、SQL。
2. QBE 照会の空パネルを入手するには、QBE。
3. 指示照会セッションを開始するには、PROMPTED。

ユーザーの処置:

LANGUAGE の値を SQL、QBE、または PROMPTED に変更し、操作を続けてください。または、LANGUAGE オプションを省略し、プロファイル中の LANGUAGE の値が使用されるようにしてください。

DSQ21785 LANGUAGE の後には、&V2 ではなく、**QBE**、**SQL**、または **PROMPTED** を指定してください。

説明: 『DSQ21784』を参照してください。

DSQ21786 オプション &V2 に **QBE**、**SQL**、または **PROMPTED** を指定してください。

説明:

オプション &V2 は、値がなければ不完全です。次のいずれかを使用してください。

1. &V2=SQL SQL 照会の空パネルの入手。
2. &V2=QBE QBE 照会の空パネルの入手。
3. &V2=PROMPTED 指示照会セッションの開始。

ユーザーの処置:

上記の値でコマンドを完成させるか、&V2 を除去してプロファイル中の言語の値が使用されるようにしてください。

DSQ21787 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21788 大域変数 &V1 がありません。

説明:

大域変数 &V1 をリセットしようとしています。しかし、この変数は存在しないのでリセットできません。

ユーザーの処置:

&V1 を変更するかまたは削除し、コマンドを再試行してください。

DSQ21789 OK、これは空の **SQL QUERY** パネルです。

DSQ21790 OK。これは空の **QBE QUERY** パネルです。

DSQ21791 OK、これは空の **PROC** パネルです。

DSQ21792 OK、これは **DATA** のデフォルトの形式です。

DSQ21793 OK、これがユーザーの **PROFILE** です。

DSQ21794 OK、**RESET** が **DATA** を削除しました。

DSQ21795 OK、これは **DATA** のデフォルトの '&V2' パネルです。

DSQ21796 OK。大域変数はリセットによって削除されました。

DSQ21797 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21798 &V2 は **RESET QUERY** 以外では使用できません。

説明:

&V2 オプションは **RESET QUERY** コマンドでのみ有効です。

ユーザーの処置:

&V2 は **RESET QUERY** だけで使用してください。

DSQ21799 **MODEL** の後は、&V2 ではなく、**REL** を使用してください。

説明: 310 ページの『DSQ21520』を参照してください。

DSQ21800 REL の値でオプション &V2 を完全にしてください。

説明: 310 ページの『DSQ21521』を参照してください。

DSQ21801 MODEL の後は、&V2 ではなく、REL を使用してください。

説明: 310 ページの『DSQ21520』を参照してください。

DSQ21802 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21803 FORM.DETAIL パネルから FORM.DETAIL バリエーションをリセットしてください。

説明:

現在、作業域で定義される FORM.DETAIL パネルでは、2 つ以上のバリエーションが定義されています。一度に 1 つのバリエーションしかリセットできません。リセットしたいバリエーションを表示した FORM.DETAIL パネルから RESET FORM.DETAIL コマンドを入力してください。

ユーザーの処置:

以前に表示された最後の FORM.DETAIL パネルを表示するのに SHOW FORM.DETAIL を入力してください。それからリセットしたいバリエーション・パネルを操作して、コマンド行に RESET FORM.DETAIL を入力してください。

DSQ21804 変数 &V1 に対して RESET GLOBAL は実行できません。

説明:

文字列 DSQ は、QMF 用に予約されています。DSQ で始まる名前を持つ大域変数はリセットできません。

ユーザーの処置:

この変数が、選択された DSQ 変数のうちの 1 つで、設定するのに有効な大域変数であれば、変数を変えるための SET GLOBAL コマンドを使用して変数をリセットできます。

DSQ21805 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ21806 バリエーション番号として &V1 を指定しないでください。

説明:

コマンドに指定したバリエーション番号 &V1 は無効です。1 から 99 までのバリエーション番号か、1 からすでに定義してあるバリエーション番号までが指定できます。

ユーザーの処置:

すでになんらかのテキスト情報を入力している &V2 バリエーション・パネルをリセット、または表示したい場合は、このフィールドにそのパネルのバリエーション番号を入力してください。このフィールドには 1 から 99 の数字だけを入力し、数字はすでに定義してあるバリエーション番号より大きくしないでください。

DSQ21807 USING フィールドに &V1 を指定してはなりません。

説明:

USING フィールドで指定するバリエーション番号 &V1 は、次の条件をすべて満足しなければなりません。

1. 1 と 99 の間であること。
2. そのバリエーションが定義されていること。
3. VAR パラメーターで指定した数字と同番号にしないこと。
4. VARIATION = ALL を指定しないこと。
5. 新しいバリエーションのリセットに使用した場合には、すべての値をデフォルト値にしないこと。

ユーザーの処置:

1. すでに、あるテキスト情報を入力している &V2 バリエーション・パネルをリセットしたい場合は、このフィールドにそのパネルのバリエーション番号を入力してください。
2. 別のバリエーション値の情報をもとにして &V2 バリエーション・パネルをリセットしたい場合には、VARIATION フィールドと USING フィールドに違うバリエーション番号を入力してください。
3. すべての &V2 バリエーション・パネルをリセットしたい場合には、USING フィールドを指定しないで VARIATION = ALL を入力してください。

DSQ21808 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21809 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ21810 &V1 はポップアップ・ウィンドウを表示中に使用できません。

説明: 285 ページの『DSQ21063』を参照してください。

DSQ21826 OK、&V1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ21828 &V1 の後に何かを使用してください。

説明:

「&V1」の次に、&V1 コマンドまたは実行したい保管ずみの &V1 ルーチンの名前を続けて入力してください。

ユーザーの処置:

&V1 の後になにかを入力し、コマンドを再実行してください。

DSQ21829 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21830 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21831 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21832 &V1 の後に何かを使用してください。

説明: 『DSQ21828』を参照してください。

DSQ21833 &V1 コマンドに対して ISPF サービスが使用できませんでした。

説明: 261 ページの『DSQ20697』を参照してください。

DSQ21835 &V1 コマンドからの戻りコードは &V2 です。

説明:

この戻りコードは、コマンドの実行が正常に行われなか

ったことを示している可能性があり、その内容は実行しようとした処理によって異なります。インストール先定義のコマンドを出した場合には、コマンドによって行おうとした処理は正常に行われていません。

ユーザーの処置:

TSO コマンドを入力した場合には、戻りコードの意味を調べ、それに応じたコマンドを訂正してください。誤りがなければ、正常な実行に対して戻りコード 0 を戻す CLIST からこのコマンドの実行を試みてください。インストール先定義のコマンドを出した場合には、サポート担当員またはコマンドを定義した人に相談してください。

DSQ21836 &V1 コマンドは完了しませんでした。(RC = &V2)。

説明:

コマンドは完了しませんでした。カッコ内の戻りコード (&V2) は、&V1 より返されました。

ユーザーの処置:

TSO コマンドを入力した場合には、戻りコードの意味を調べ、それに応じたコマンドを訂正してください。インストール先定義コマンドを発行した場合、QMF 管理者またはコマンドを定義した担当者にお問い合わせください。

DSQ21840 CICS コマンドにパラメーターが多すぎます。

説明:

CICS コマンドの形式は次のとおりです。

CICS transid (FROM = 'cicsdata' TERMIID = termid

それぞれの意味は次のとおりです。

transid

実行するトランザクションのシンボリック ID。

cicsdata

データ、トランザクションに渡されるパラメーター・リスト (オプション)

termid トランザクションに関連づける端末のシンボリック ID。(オプション)

ユーザーの処置:

コマンドを再入力してください。「CICS ?」と入力してプロンプトを要求できます。

DSQ21841 &V1 は CICS コマンド・オプションではありません。

説明:

CICS コマンドで認識できないオプションが入力されました。正しい形式は下記のとおりです:

CICS transid (FROM = 'cicsdata' TERMIID = termid

それぞれの意味は次のとおりです。

transid

実行するトランザクションのシンボリック ID。

cicsdata

データ、トランザクションに渡されるパラメーター・リスト (オプション)

termid トランザクションに関連づける端末のシンボリック ID。(オプション)

ユーザーの処置:

コマンドを再入力してください。「CICS ?」と入力してプロンプトを要求できます。

DSQ21842 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21843 必要なトランザクション識別名が欠落しています。

説明:

CICS コマンドの形式は次のとおりです。

CICS transid (FROM = 'cicsdata' TERMIID = termid

それぞれの意味は次のとおりです。

transid

実行するトランザクションのシンボリック ID。

cicsdata

データ、トランザクションに渡されるパラメーター・リスト (オプション)

termid トランザクションに関連づける端末のシンボリック ID。(オプション)

ユーザーの処置:

コマンドを再入力してください。「CICS ?」と入力してプロンプトを要求できます。

DSQ21844 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ21845 CICS &V1 オプションには値が必要です。

説明:

&V1 キーワードに値が入力されていません。CICS コマンドの形式は次のとおりです。

CICS transid (FROM = 'cicsdata' TERMIID = termid

それぞれの意味は次のとおりです。

transid

実行するトランザクションのシンボリック ID。

cicsdata

データ、トランザクションに渡されるパラメーター・リスト (オプション)

termid トランザクションに関連づける端末のシンボリック ID。(オプション)

ユーザーの処置:

コマンドを再入力してください。「CICS ?」と入力してプロンプトを要求できます。

DSQ21846 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21847 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21848 OK、&V1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ21849 CICS &V1 オプションには値が必要です。

説明: 『DSQ21845』を参照してください。

DSQ21850 &V1 は CICS コマンドには無効です。

説明:

CICS コマンドで認識できないオプションが入力されました。正しい形式は下記のとおりです:

CICS transid (FROM = 'cicsdata' TERMIID = termid

それぞれの意味は次のとおりです。

transid

実行するトランザクションのシンボリック ID。(最大長 = 4)

cicsdata

データ、トランザクションに渡されるパラメーター・リスト (オプション、最大長 = 55)

termid トランザクションに関連づける端末のシンボリック ID。(オプション、最大長 = 4)

ユーザーの処置:

コマンドを再入力してください。「CICS ?」と入力してプロンプトを要求できます。

DSQ21851 FROM オプションの値が長すぎます。

説明:

FROM に続くテキストは、78 文字を超えることはできません。値にブランク、ピリオド、または右括弧が含まれている場合には、コメント全体を単一引用符で囲んでください。コメントに単一引用符またはアポストロフィが含まれている場合には、引用符またはアポストロフィを二重にしてください。区切り文字を括弧で代替した場合は、コメント中の引用符を二重にする必要はありません。

有効な構文の例を示します。

```
FROM = &DSQAP_CICS_PQNAME
FROM = (&DSQAP_CICS_PQNAME)
FROM = 'Smith's report.'
FROM = (Smith's report.)
FROM = 'March Tax'
FROM = (March Tax)
FROM = '12/21/98'
FROM = (12/21/98)
FROM = 12/21/98
```

ユーザーの処置:

FROM オプションの値を 78 文字か、それ以下に短縮して再度コマンドを実行してください。

DSQ21853 CICS トランザクションは開始されませんでした。戻りコードは &V2 です。

説明:

CICS トランザクションは開始されませんでした。CICS の資料を参照してください。戻りコード (&V2) は、CICS START コマンドから戻された「EIBRESP」です。

ユーザーの処置:

CICS コマンドを訂正してください。CICS 戻りコードの意味を判別するには、CICS の資料を参照してください。

DSQ21861 OK, &V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21865 OK, &V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ21868 初期 PROC が、ロケーションの違いのために再実行されませんでした。

説明:

開始ロケーションと現行ロケーションが異なるため、QMF は初期処理手順を再実行しませんでした。

- 開始ロケーション: &V2
- 現行ロケーション: &V3

ユーザーの処置:

アプリケーションが、QMF を開始する際に初期処理手順を使用する場合、開始ロケーションと終了ロケーションが同じであるようにしなければなりません。

DSQ21869 OK. END コマンドが正常に実行されました。

DSQ21870 OK. END コマンドが正常に実行されました。

DSQ21871 OK. &V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ21872 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してください。

DSQ21873 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してください。

DSQ21874 &V1 はコマンド・インターフェースから出してください。

説明:

&V1 コマンドは、QMF コマンド・インターフェースから発行しなければなりません。端末または QMF プロシージャからは発行できません。

ユーザーの処置:

DSQ21875 • DSQ21959

コマンドを QMF コマンド・インターフェースから発行してください。

DSQ21875 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21876 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21877 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21880 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21881 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ21882 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21900 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21901 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21951 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21952 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21953 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21954 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21955 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21956 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21957 参照されている置換変数の数が **100** を超えています。

説明: 300 ページの『DSQ21357』を参照してください。

DSQ21958 プロシージャが空か、コメントしか含まれていません。

説明:

空のプロシージャや、コメントしか含まれないプロシージャは、命令を含まないため、実行することはできません。

ユーザーの処置:

有効なコマンドをプロシージャに追加してください。

DSQ21959 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21960 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21961 &V2 で始まる変数の長さが、18 文字を超えています。

説明: 300 ページの『DSQ21360』を参照してください。

DSQ21963 行 &V2 のコマンドが長すぎます。

説明:

行 &V2 のコマンド・テキスト・ストリングが QMF の制限を超えています。プロシージャー・オブジェクト内の QMF コマンドの最大長は &V3 バイトです。この上限を超えるコマンドを入れると、プロシージャーの実行は停止します。

ユーザーの処置:

プロシージャーを書き直してコマンドを短くし、実行し直してください。

DSQ21964 OK、&V1 は実行されませんでした。プロシージャーは行 &V2 で取り消されました。

DSQ21965 OK、&V1 は実行されませんでした。手順は取り消されました。

DSQ21967 行 &V2 の継続行には被継続行が必要です。

説明:

行 &V2 の継続行は、このプロシージャーで検出された最初のコマンド行です。継続行の前には、必ず被継続行がなくてはなりません。

ユーザーの処置:

継続シンボル &V3 を除去するか、または、コマンド・ステートメントを開始させる被継続行を継続行の前に入れてください。

DSQ21969 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ21970 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ21971 プロシージャー内の引用符付きコマンドは、行をまたがることはできません。

説明:

プロシージャー内のコマンドが単一引用符で囲まれている場合は、1 行で終わらなければなりません。例えば、次のようになります。

```
'DISPLAY
+ Q.STAFF'
```

は無効なコマンドです。

ユーザーの処置:

次のどちらかの方法で、コマンドを訂正してください。

1. 引用符を削除する (引用符は任意指定)
2. コマンドが 1 行になるように変更する(つまり、'DISPLAY Q.STAFF')

DSQ21972 コマンド内の単一引用符の数が合いません。

説明:

QMF コマンドが引用符を含む場合、単一引用符の数は偶数でなければなりません。引用符を別の引用符で囲まれたストリング内で使用する場合、2 つの連続する引用符で示さなければなりません。例えば、次のようにします。

```
SAVE QUERY AS TESTORG (COMMENT='IT''S A TEST'
'SAVE QUERY AS TESTORG (COMMENT='''IT''''S A TEST''')
```

上記の引用符付きストリングでは、ストリングを区切っている最も外側の引用符を除き、すべての引用符は二重引用符です。

ユーザーの処置:

コマンドに含まれる単一引用符の数が偶数になり、引用符付きストリング内の単一引用符すべてが 2 つの連続した引用符として指定されるように、コマンドを訂正してください。

DSQ21973 &V1 はコマンドではありません。

説明: 218 ページの『DSQ20114』を参照してください。

DSQ22000 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22001 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22002 **MODEL** の後は、&V2 ではなく、**REL** を使用してください。

説明: 310 ページの『DSQ21520』を参照してください。

DSQ22003 **REL** の値でオプション &V2 を完全にしてください。

説明: 310 ページの『DSQ21521』を参照してください。

DSQ22025 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22026 **CASE** の後には &V3 ではなく、**UPPER**、**STRING**、または **MIXED** を使用してください。

説明: 305 ページの『DSQ21462』を参照してください。

DSQ22027 **DECIMAL** の後には &V3 ではなく、**PERIOD**、**COMMA**、または **FRENCH** を使用してください。

説明: 305 ページの『DSQ21465』を参照してください。

DSQ22028 **CONFIRM** の後には &V3 ではなく **YES** か **NO** を使用してください。

説明: 305 ページの『DSQ21468』を参照してください。

DSQ22029 **TRACE** 値 &V3 に無効な関数 **ID** があります。

説明: 307 ページの『DSQ21482』を参照してください。

DSQ22030 **TRACE** 値 &V3 の中に無効なレベルがあります。

説明: 307 ページの『DSQ21480』を参照してください。

DSQ22031 **CASE** に **UPPER**、**STRING**、または **MIXED** を指定してください。

説明: 305 ページの『DSQ21463』を参照してください。

DSQ22032 **DECIMAL** に **PERIOD**、**COMMA**、または **FRENCH** を指定してください。

説明: 305 ページの『DSQ21466』を参照してください。

DSQ22033 **CONFIRM** に **YES** または **NO** を指定してください。

説明: 306 ページの『DSQ21469』を参照してください。

DSQ22034 **TRACE** オプションが不完全です。

説明: 306 ページの『DSQ21478』を参照してください。

DSQ22035 トレース **ID** &V3 と共にレベルを使用する必要があります。

説明: 307 ページの『DSQ21479』を参照してください。

DSQ22036 **WIDTH** には、&V3 ではなく **22** から **999** の数を使用してください。

説明: 306 ページの『DSQ21471』を参照してください。

DSQ22037 **WIDTH** には、&V3 ではなく **22** から **999** の数を使用してください。

説明: 306 ページの『DSQ21471』を参照してください。

DSQ22038 **LENGTH** には、&V3 ではなく **1** から **999** までの数、または **CONT** を使用してください。

説明: 306 ページの『DSQ21474』を参照してください。

DSQ22039 **LENGTH** には、&V3 ではなく **1** から **999** までの数、または **CONT** を使用してください。

説明: 306 ページの『DSQ21474』を参照してください。

DSQ22040 **WIDTH** には **22** から **999** までの数値を使用してください。

説明: 306 ページの『DSQ21472』を参照してください。

DSQ22041 **LENGTH** として **1** から **999** の数値または **CONT** を指定してください。

説明: 306 ページの『DSQ21475』を参照してください。

DSQ22042 **WIDTH** には、&V3 ではなく **22** から **999** の数を使用してください。

説明: 306 ページの『DSQ21471』を参照してください。

DSQ22043 **LENGTH** には、&V3 ではなく **1** から **999** までの数、または **CONT** を使用してください。

説明: 306 ページの『DSQ21474』を参照してください。

DSQ22044 **WIDTH** には、&V3 ではなく **22** から **999** の数を使用してください。

説明: 306 ページの『DSQ21471』を参照してください。

DSQ22045 **LENGTH** には、&V3 ではなく **1** から **999** までの数、または **CONT** を使用してください。

説明: 306 ページの『DSQ21474』を参照してください。

DSQ22046 **LANGUAGE** の後には、&V3 ではなく、**QBE**、**SQL**、または **PROMPTED** を指定してください。

説明: 307 ページの『DSQ21484』を参照してください。

DSQ22047 **LANGUAGE** の後には **QBE**、**SQL**、または **PROMPTED** を使用してください。

説明: 307 ページの『DSQ21485』を参照してください。

DSQ22048 **TRACE** 値 &V3 は無効です。

説明: 307 ページの『DSQ21481』を参照してください。

DSQ22049 **TRACE** 値 &V3 は無効です。

説明: 307 ページの『DSQ21481』を参照してください。

DSQ22050 トレース設定は現在変更できません。

説明:

QMF は、結果セットでトレース・データが返されるように指定する設定で DB2 (z/OS 版) のストアード・プロシージャとして呼び出されました。このようにトレースが設定されていると、トレース設定は QMF が再始動されるまで変更できません。

ユーザーの処置:

QMF をストアード・プロシージャとして実行している際にトレース設定を変更できるようにする必要がある場合は、CALL コマンドを発行して QMF を開始するときに、L2-宛先パラメーターに値「DSQDEBUG」を指定してください。この値を指定すると、トレース出力は DSQDEBUG データ・セットに送信され、QMF の開始後にトレース設定を変更できるようになります。

DSQ22051 **TRACE** 値 &V3 は無効です。

説明: 307 ページの『DSQ21481』を参照してください。

DSQ22052 トレース設定は現在変更できません。

説明: 『DSQ22050』を参照してください。

DSQ22053 **DSQEC_SPAC_OVERRIDE** が **0** であれば、**SPACE** キーワードは使用できません。

説明: 228 ページの『DSQ20263』を参照してください。

DSQ22067 QBE 照会は使えません。

説明:

照会に QBE データが含まれていないため、QBE 照会を使おうとしても (インポート、実行、印刷、表示など) 使用不可能です。

ユーザーの処置:

照会がデータベースに保管されている場合、QMF はその照会を使用しないため削除する必要があります。照会をインポートしようとしている場合、ファイル (またはデータ・セット) に QBE 照会が含まれているかどうかを確認してください。

DSQ22068 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22069 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22070 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22071 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22072 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22073 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22074 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22075 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22076 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22077 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22078 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22079 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22080 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22081 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22082 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22083 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22084 テンポラル表をエクスポートすることはできません。

説明:

表 &V2 はテンポラル表です。EXPORT TABLE コマンドは非テンポラル表でのみ使用できます。

ユーザーの処置:

EXPORT TABLE コマンドを発行する前に、コマンドに指定した表名が非テンポラル表を参照していることを確認してください。テンポラル表と非テンポラル表の相違について詳しくは、以下にある IBM Knowledge Center を参照してください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

DSQ22085 このデータ・セットを使用する権限がありません。

説明: 315 ページの『DSQ21607』を参照してください。

DSQ22086 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22087 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22088 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22089 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22090 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22091 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22092 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22093 &V2.&V3 を使用する権限はありません。

説明: 235 ページの『DSQ20355』を参照してください。

DSQ22094 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明:

有効な名前は修飾されていても (userid.name) されていなくても (name) かまいません。修飾子または名前 (あるいはこの両方) は、二重引用符で囲むか、または囲まなくてもかまいません ("userid".name、userid."name"、"userid.name"、userid.name)。&LS. への現行データベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト許可 ID には、最大 &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

修飾子は有効なユーザー ID にすることができます。

しかし、形式パネルのタイプ (FORM.MAIN、FORM.OPTIONS、など) は無効です。

引用符で囲んでいない名前には、「DB2 QMF 解説書」に定義されているように、英字、数字、およびその他の文字を使用できます。引用符付き名前には、二重引用符を除いて、任意の文字を引用符の間で使用できます。

QMF オブジェクト・タイプは引用符で囲まれていても無効です。EXPORT TABLE の場合は、"TO" は引用符が付いている場合だけ有効です。IMPORT TABLE の場合は、"FROM" は引用符が付いている場合だけ有効です。

ユーザーの処置:

有効な名前を指定して、コマンドを再度サブミットしてください。このコマンドを LIST パネルから入力した

DSQ22095 • DSQ22104

場合は、LIST パネルのヘルプで、コマンドの形式が正しいかどうかを確認してください。

DSQ22095 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ22096 &V2 オブジェクトはデータベースからエクスポートできません。

説明:

EXPORT &V2 &V3 の指定は、タイプ &V2 名前 &V3 のオブジェクトをデータベースからエクスポートすることを意味します。しかし、&V2 がデータベースで有効なオブジェクト・タイプではありません。データベースからのエクスポートには次のタイプが有効です。

QUERY、PROC、FORM、および TABLE

ユーザーの処置:

&V2 を有効なオブジェクト・タイプに変えてから、コマンドを再入力してください。

DSQ22097 &V3 は、現在の文脈では無効です。

説明:

&V1 &V2 の後ろに有効な名前を指定するか、または「TO 目標」を指定する必要があります。 &LS. への現行データベース接続は、以下の長さをサポートします。

- データベース・ロケーション名には、最大 16 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト許可 ID には、最大 &LQ. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

修飾名は以下のように指定できます。

- 英字、数字、下線 @、#、および \$ を使用できます。
- 英字、@、#、または \$ で始まります。
- 上記のいずれかの規則に従っていない場合は、二重引用符で囲みます。

ユーザーの処置:

&V3 を有効な名前に置き換えるか、または「TO 目標」を指定して、コマンドを再試行してください。こ

のコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。QMF コマンドの入力について詳しくは、リスト・パネルからヘルプを参照してください。

DSQ22099 OK、&V1 が &V2 にエクスポートされました。

DSQ22100 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ22101 このオブジェクト名が見つかりません。

説明:

考えられる原因は次のとおりです。オブジェクト名 "&V2" のスペルが誤っているか、データベースにないか、または、指定されたオブジェクト・タイプ "&V1" が存在していません。

ユーザーの処置:

"&V2" をデータベース内に存在する正しいオブジェクト・タイプの名前に変更してください。データベースで使用できるオブジェクトを調べる場合は LIST コマンドを使用してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ22102 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ22103 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ22104 キーワード QUEUETYPE=TS または QUEUETYPE=TD を使用しなければなりません。

説明:

以下の QUEUETYPE キーワードのいずれかを使用してください。

- QUEUETYPE=TS 一時記憶域の場合
- QUEUETYPE=TD 一時データの場合

ユーザーの処置:

有効な CICS キュー・タイプを入力し、コマンドを再試行してください。

DSQ22105 メンバー名は許可されません。

説明:

メンバー名は、順次データ・セットまたは UNIX パス名では許可されません。

EDIT コマンドを使用している場合、順次データ・セットは編集転送データ・セットとして使用しなければなりません。メンバー名を指定することはできません。

EXPORT コマンドを使用している場合、順次データ・セットを使用するときの形式は次のとおりです。

```
EXPORT objecttype TO datasetname
```

UNIX パス名を使用している場合の EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

```
EXPORT objecttype TO pathname
```

ユーザーの処置:

EXPORT または EDIT コマンドからメンバー名を除去し、再試行してください。EXPORT コマンドと EDIT コマンドの完全な説明については、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ22106 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22107 このオブジェクトは &V3 ではありません。

説明:

EXPORT コマンドでデータベース内の &V3 の名前として &V2 を使用しています。この名前のオブジェクトはデータベース内に存在しますが、&V3 ではありません。

ユーザーの処置:

指定されたオブジェクトが、要求されているオブジェクトのタイプになるようにオブジェクト・タイプまたはオブジェクト名を変更し、コマンドを再入力してください。エクスポートできるすべてのオブジェクト (およびそのタイプ) のリストを表示する場合は、LIST コマンドを使用してください。

DSQ22108 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ22109 EXPORT &V2 に指定されている名前が多すぎます。

説明:

EXPORT &V2 コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO xxxxx
2. EXPORT objecttype objectname TO xxxxx

XXXXX はエクスポート先のファイル名 ID で必要なら 1 つ以上のオプションも指定できます。

QMF は「xxxxx」内の名前が多すぎることを確認しました。オプションを指定した場合は、オプションとファイル ID を区別している括弧を省略した可能性があります。例えば、以下のコマンドを実行しようとした可能性があります。

```
EXPORT QUERY TO 'JONES.QUERY.A' (CONFIRM=YES
```

しかし、CONFIRM の前の括弧を省略しました。

ユーザーの処置:

EXPORT コマンドを訂正し、再入力してください。

DSQ22110 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22111 各変数名に値を入力してください。

説明:

&V2 と、プロシージャまたは照会に使用されているその他の変数名に値を指定してください。

ユーザーの処置:

&V2 のプロンプト・パネルと、使用されているその他の変数名に値を入力してください。入力した後、ENTER キーを押してコマンドを完了してください。次の例のように、置換変数を使用することもできます。

```
RUN QUERY (&NAME = 'JASON SMITH', &YEARS=5
RUN PROC (&DNO = DEPARTMENT
CONVERT QUERY (&ID = 10
```

DSQ22113 &V2 の値 &V3 は無効です。

説明:

&V2 の値はメッセージ内で切り捨てられた可能性があります。無効な値の例は次のとおりです。

DSQ22114 • DSQ22120

```
Invalid      32A54   - Invalid integer value
values:      'JAMES'   - Missing closing apostrophe
            "Q"DEPT" - Invalid embedded quote
```

ユーザーの処置:

値を正しい形式で入力してください。

DSQ22114 データ・セット名に無効な文字がありません。

説明:

データ・セット名に 1 つ以上の無効な文字がありません。

名前の各部分は 1 から 8 文字で、英字 A から Z、数字 0 から 9、ハイフン (-)、英字特殊文字のドル (\$)、ポンド (#)、および単価記号 (@) で構成されます。最初の文字は英字か英字特殊文字でなければいけません。RACF で保護されているデータ・セット名にハイフンを使用してはなりません。

複数の名前部分はピリオドで結合できます。

ユーザーの処置:

無効な文字を訂正し、コマンドを再入力してください。

DSQ22115 区分データ・セットのメンバー名が欠落しています。

説明:

EDIT コマンドを使用している場合、編集転送データ・セットとして区分データ・セットを使用しようとした可能性があります。

EXPORT コマンドを使用している場合、コマンドにメンバー名が欠落している可能性があります。区分データ・セットを使用する場合の EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

- EXPORT name TO 'dataset' (MEMBER=member)
- EXPORT name TO 'dataset (member)'

ユーザーの処置:

EDIT コマンドを使用する場合、編集転送データ・セットとして区分データ・セットを使用しようとししないでください。問題が EXPORT コマンドで発生した場合は、メンバー名を EXPORT コマンドに追加し、再試行してください。

DSQ22116 このデータ・セットへのエクスポートはできません。

説明:

コマンドに必要なファイルのための割り振りに失敗しました。このエラーは、データ・セットを割り振るためのディスク・スペースが十分でない場合に発生すること

があります。また、XML 形式でデータをエクスポートする場合に、記憶域管理ソフトウェアが、拡張データ・セットの動的割り振りを処理するようにまだ構成されていない場合にも発生することがあります。QMF では、これらのデータ・セットを構成するときに、デフォルトの記憶クラスを指定する必要があります。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に確認して、データ・セットを割り振るために十分なディスク・スペースがあるかどうか、または記憶域管理ソフトウェアの構成に問題が発生しているかどうかを判別してください。

DSQ22117 &V1 コマンドは DSQEC_LOB_RETRV=2 の場合は使用できません。

説明: 271 ページの『DSQ20843』を参照してください。

DSQ22118 相対世代番号はサポートされていません。

説明:

世代データ・セットを指定する場合、'A.B.C(-1)' のような相対世代番号はサポートされていません。'A.B.C.G0001V00' のような絶対世代およびバージョン番号を使用しなければなりません。

ユーザーの処置:

絶対世代およびバージョン番号を使ってデータ・セットを再指定してください。

DSQ22119 メンバー名は許可されません。

説明: 339 ページの『DSQ22105』を参照してください。

DSQ22120 メンバー名に無効な文字がありました。

説明:

ファイルのメンバー名に 1 つ以上の無効な文字があります。

有効な文字は英字の A から Z、数字の 0 から 9、および英字特殊文字のドル (\$)、ポンド (#)、単位記号 (@) です。最初の文字は英字か英字特殊文字でなければいけません。

ユーザーの処置:

無効な文字を訂正し、コマンドを再入力してください。

DSQ22121 ファイル &V1 は使用できません。

説明:

そのファイルは、次の理由の 1 つで利用できません。

1. 共用データ・セットの排他使用要求が成功しなかった。
2. そのデータ・セットは別のジョブに割り振られており、その使用属性がこの要求に矛盾する。
3. 新しいデータ・セットの要求が、それがすでに存在するために失敗した。

ユーザーの処置:

後で再試行してください。

DSQ22122 レコード形式は固定長または可変長でなければなりません。

説明:

EXPORT、IMPORT、または PRINT で使用するファイルは、レコード形式が固定長または可変長でなければなりません。レコード形式の正しい属性に関する情報については、「DB2 QMF 解説書」の EXPORT、IMPORT、および PRINT コマンドに関する情報を参照してください。

ユーザーの処置:

QMF の外で操作を行い、使用したいファイルのレコード形式を変更してください。

DSQ22123 QBE 照会は使えません。

説明: 336 ページの『DSQ22067』を参照してください。

DSQ22124 名前 &V1 は、キュー・タイプ &V2 を使っている場合、無効です。

説明: 318 ページの『DSQ21645』を参照してください。

DSQ22125 このキュー名にエクスポートすることはできません。

説明:

記憶域が不十分なので、ファイル &V1 を通常通り保管することができません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ22126 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22127 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22128 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22129 &V2 は、DATAFORMAT パラメーターに有効な値ではありません。

説明:

EXPORT DATA コマンドまたは EXPORT TABLE コマンドの DATAFORMAT パラメーターに有効な値は、QMF、IXF、XML、または CSV です。EXPORT REPORT コマンドでは、DATAFORMAT パラメーターに有効な値は、QMF、HTML、または TEXT です。DATAFORMAT パラメーターを指定しないと、デフォルト値 QMF が使用されます。

ユーザーの処置:

DATAFORMAT パラメーターに有効な値を入力し、コマンドを再発行してください。それでもまだ問題が残る場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22130 &V2 キーワードは、現行コマンドで使用できません。

説明:

DATAFORMAT は EXPORT DATA、EXPORT REPORT、または EXPORT TABLE で使用してください。

DATAFORMAT=IXF が指定されている場合は、OUTPUTMODE を EXPORT DATA または EXPORT TABLE とともに使用してください。

DATAFORMAT=CSV が指定されている場合は、HEADER を EXPORT DATA または EXPORT TABLE とともに使用してください。

ユーザーの処置:

&V2 キーワードおよびその後の値を削除して、コマンドを再試行してください。

DSQ22131 &V2 は **EXPORT DATA** か **TABLE** だけで使用できます。

説明:

オプション &V2 は、**EXPORT DATA** または **EXPORT TABLE** だけで使用できます。現在のコマンドでは、**CONFIRM**、**LANGUAGE**、**MEMBER**、**ICUFORM** の各オプションだけを使用してください。 **ICUFORM** を使えるのは図表をエクスポートする場合だけで、**LANGUAGE** を使えるのはフォームをエクスポートする場合だけであることを注意してください。

ユーザーの処置:

&V2 およびその後の値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ22132 &V2 は **EXPORT DATA** か **TABLE** だけで使用できます。

説明: 『DSQ22131』を参照してください。

DSQ22133 **OUTPUTMODE** パラメーターは **DATAFORMAT** が **IXF** の場合にのみ有効です。

説明:

OUTPUTMODE は、**EXPORT** コマンドで **DATAFORMAT** パラメーターが **IXF** に設定されている場合にのみ有効なパラメーターです。 **OUTPUTMODE** パラメーターは、**QMF**、**XML**、または **CSV** データ形式では使用できません。

ユーザーの処置:

OUTPUTMODE 文節を削除し、コマンドを再試行してください。

DSQ22134 **DATAFORMAT** キーワードの後に **QMF**、**CSV**、**IXF**、または **XML** を使用してください。

説明:

DATAFORMAT キーワードの値が欠落しています。有効な値は、**QMF**、**CSV**、**IXF**、または **XML** です。 **DATAFORMAT** パラメーターを指定しないと、デフォルト値 (**QMF**) が想定されます。

ユーザーの処置:

DATAFORMAT パラメーターに有効な値を入力し、コマンドを再試行してください。 それでもまだ問題が残る場合は、**QMF** 管理者に相談してください。

DSQ22135 &V2 は、**DATAFORMAT** パラメーターに有効な値ではありません。

説明: 341 ページの『DSQ22129』を参照してください。

DSQ22136 **OUTPUTMODE** の後に **BINARY** または **CHARACTER** を指定してください。

説明:

出力モードの値が指定されていません。有効な値は、**BINARY** または **CHARACTER** です。出力モード・オプションを指定しないと、デフォルトの値である **BINARY** が採用されます。

ユーザーの処置:

有効な出力モードの値を入力してから、コマンドをやり直してください。 それでもまだ問題が残る場合は、**QMF** 管理者に相談してください。

DSQ22137 &V2 は、**OUTPUTMODE** の値には無効です。

説明:

出力モードの有効な値は、**BINARY** または **CHARACTER** です。出力モード・オプションを指定しないと、デフォルトの値である **BINARY** が採用されます。

ユーザーの処置:

有効な出力モードの値を入力してから、コマンドをやり直してください。 それでもまだ問題が残る場合は、**QMF** 管理者に相談してください。

DSQ22138 データ・セットのレコードの長さ &V3 が無効です。

説明:

データを **IXF** 形式でエクスポートするには、指定されたデータ・セットのレコード長が &V1 から &V2 の範囲内でなければなりません。

ユーザーの処置:

IXF 形式に有効なレコード長を持つデータ・セットを作成し、**EXPORT DATA** コマンドを再実行してください。 それでもまだ問題が残る場合は、**QMF** 管理者に相談してください。

DSQ22139 データ・セットのレコード形式は可変長でなければなりません。

説明:

EXPORT コマンドを IXF または CSV 形式で実行させる場合には、指定されたデータ・セットが、可変のレコード・フォーマットでなければなりません。

ユーザーの処置:

正しいレコード形式でデータ・セットを作成して、EXPORT コマンドを再実行してください。それでもまだ問題が残る場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22140 &V2 は EXPORT CHART では使用できません。

説明:

オプション &V2 は EXPORT CHART コマンドでは使用できません。オプション MEMBER と ICUFORM だけが有効です。EXPORT CHART の MEMBER オプションは、エクスポートされた図表 (GDF ファイル) が ICU によって保管される、GDDM ライブラリーまたはファイル内のメンバーを指示します。

ユーザーの処置:

&V2 とそれに関連する値すべてを取り除いて、MEMBER オプションを指定してから、コマンドを再実行してください。

DSQ22141 &V2 は EXPORT DATA か EXPORT TABLE だけで使用できます。

説明:

オプション &V2 が許されるのは、EXPORT DATA または EXPORT TABLE コマンドの場合だけです。現行のコマンドでは、QUEUE TYPE、SUSPEND、CONFIRM、LANGUAGE、MEMBER または ICUFORM オプション、あるいはそれらの複数の組み合わせを使用してください。ICUFORM および MEMBER は、図表をエクスポートする場合のみ有効です。図表をエクスポートする場合、QUEUE TYPE、SUSPEND および CONFIRM は有効ではありません。LANGUAGE が有効なのは、形式をエクスポートするときだけです。

ユーザーの処置:

&V2 とそれに関連する値をすべて取り除いてから、コマンドを再実行してください。

DSQ22142 メンバー名で MEMBER を完成させてください。

説明:

MEMBER の後に、QMF オブジェクトのエクスポート先メンバーを示す名前を指定しなければなりません。

ユーザーの処置:

メンバー名を入力して、コマンドを入力し直してください。

DSQ22143 OK、図表は &V1 にエクスポートされましたが、書式に警告があります。

DSQ22144 OK、CHART が &V1 にエクスポートされました。

DSQ22145 OK、報告書は &V2 にエクスポートされましたが、書式に警告があります。

DSQ22146 OK、&V1 が &V2 にエクスポートされました。

DSQ22147 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ22148 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ22149 エクスポートするオブジェクトを指定します。

説明:

EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO dataset
2. EXPORT objecttype objectname TO dataset
3. EXPORT CHART (MEMBER=member

「objecttype」が欠落しています。作業域のオブジェクトをエクスポートする場合は、objecttype は QUERY、FORM、PROC、DATA、REPORT または CHART のいずれかです。データベース・オブジェクトをエクスポートする場合は、objecttype は QUERY、FORM、PROC または TABLE のいずれかです。

DSQ22150 • DSQ22156

ユーザーの処置:

EXPORT コマンドに正しいオブジェクト・タイプを追加し、コマンドを再発行してください。

DSQ22150 &V2 をエクスポートすることはできません。

説明:

EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO targetname
2. EXPORT objecttype objectname TO targetname

QUERY、FORM、PROC、TABLE、DATA、REPORT、または CHART をエクスポートできます。

ユーザーの処置:

エクスポートするもののオブジェクトのタイプを訂正し、コマンドを再実行してください。

DSQ22151 **HEADER** キーワードには、**YES** または **NO** を使用してください。

説明:

HEADER の値が欠落しています。有効な値は YES または NO です。HEADER キーワード・オプションが指定されていない場合には、デフォルト値 YES が想定されます。

ユーザーの処置:

有効な HEADER 値を入力して、コマンドを再実行してください。それでもまだ問題が残る場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22152 &V1 が長すぎます。

説明: 314 ページの『DSQ21598』を参照してください。

DSQ22153 **EXPORT** コマンドが不完全です。

説明:

EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO targetname
2. EXPORT objecttype objectname TO targetname

「EXPORT objecttype」または「EXPORT objecttype objectname」の後に、「TO targetname」を指定していません。

ユーザーの処置:

「TO targetname」を指定し、コマンドを再実行してください。このコマンドをリスト・パネルから入力した

場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。データベース・オブジェクト・リストから QMF コマンドを入力する場合の詳細については、LIST コマンドのヘルプを参照してください。

DSQ22154 &V2 の後に **TO** が指定されなければなりません。

説明:

EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO targetname
2. EXPORT objecttype objectname TO targetname

「EXPORT objecttype」または「EXPORT objecttype objectname」の後に、「TO targetname」を指定していません。

ユーザーの処置:

「TO targetname」を指定し、コマンドを再実行してください。このコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。データベース・オブジェクト・リストから QMF コマンドを入力する場合の詳細については、LIST コマンドのヘルプを参照してください。

DSQ22155 &V2 のエクスポート先を指示してください。

説明:

EXPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO xxxxx
2. EXPORT objecttype objectname TO xxxxx

ただし "xxxxx" は、エクスポートの宛先を識別し、また、1 つまたは複数のオプションを指定することができます。コマンドでファイル名が指定されていませんでした。

ユーザーの処置:

EXPORT コマンドを訂正し、再入力してください。

DSQ22156 &V2 は有効な **HEADER** の値ではありません。

説明:

ヘッダーの有効な値は YES または NO です。HEADER キーワード・オプションが指定されていない場合には、デフォルト値 YES が想定されます。

ユーザーの処置:

有効な HEADER 値を入力して、コマンドを再実行して

ください。それでもまだ問題が残る場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ22157 &V2 キーワードは、現行コマンドで使用できません。

説明: 341 ページの『DSQ22130』を参照してください。

DSQ22159 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22163 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 317 ページの『DSQ21643』を参照してください。

DSQ22164 EXPORT &V2 に指定されている名前が多すぎます。

説明: 339 ページの『DSQ22109』を参照してください。

DSQ22165 &V1 が長すぎます。

説明: 314 ページの『DSQ21598』を参照してください。

DSQ22166 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22167 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22168 OK、&V1 が &V2 にエクスポートされました。

DSQ22169 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22170 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ22171 &V1 のレコード長は &V2 でなければなりません。

説明: 316 ページの『DSQ21623』を参照してください。

DSQ22172 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22173 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22174 DATAFORMAT 値 &V2 は無効です。

説明:

DATAFORMAT キーワードに値 &V2 を指定した &V1 &V3 コマンドを発行しました。

EXPORT DATA コマンドまたは EXPORT TABLE コマンドの DATAFORMAT パラメーターに有効な値は、QMF、IXF、XML、または CSV です。エクスポートされたデータまたは表に LOB データを持つ列が含まれる場合、DATAFORMAT パラメーターに有効な唯一の値は XML です。

EXPORT REPORT コマンドでは、DATAFORMAT パラメーターに有効な値は、QMF、HTML、または TEXT です。

UNIX パス名の場合、許可される組み合わせは以下のリストに示されるもののみです。

- EXPORT REPORT to pathname (DATAFORMAT = HTML)
- EXPORT DATA to pathname (DATAFORMAT = XML)
- EXPORT TABLE to pathname (DATAFORMAT = XML)
- EXPORT DATA to pathname (DATAFORMAT = CSV)
- EXPORT TABLE to pathname (DATAFORMAT = CSV)

UNIX パス名を使用するときに DATAFORMAT オプションを指定しないと、報告書に対してはデフォルト値「HTML」が想定され、データまたは表に対しては「XML」が想定されます。

ユーザーの処置:

DSQ22176 • DSQ22194

有効な DATAFORMAT 値を入力して、コマンドを再実行してください。

DSQ22176 &V1 が長すぎます。

説明: 314 ページの『DSQ21598』を参照してください。

DSQ22177 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ22179 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22180 &V2 をエクスポートすることはできません。

説明: 344 ページの『DSQ22150』を参照してください。

DSQ22182 CONFIRM の後には YES または NO を使用してください。

説明: 241 ページの『DSQ20437』を参照してください。

DSQ22183 CONFIRM の後には &V2 ではなく YES か NO を使用してください。

説明: 241 ページの『DSQ20438』を参照してください。

DSQ22184 &V1 のレコード長は &V2 でなければなりません。

説明: 316 ページの『DSQ21623』を参照してください。

DSQ22185 &V1 のレコード形式は &V2 でなければなりません。

説明: 318 ページの『DSQ21650』を参照してください。

DSQ22186 &V1 のレコード形式は &V2 でなければなりません。

説明: 318 ページの『DSQ21650』を参照してください。

DSQ22187 &V3 を EXPORT &V2 と共に使用することはできません。

説明:

オプション &V3 を EXPORT &V2 と共に使用することはできません。許可されているオプションは、次のとおりです。

CONFIRM	not valid for CHART
MEMBER	
ICUFORM	valid only for CHART
DATAFORMAT	valid only for DATA or TABLE or REPORT
OUTPUTMODE	valid only for DATA or TABLE
LANGUAGE	valid only for FORM
HEADER	valid only for DATA or TABLE

ユーザーの処置:

&V3 およびその後続くすべての値を取り除いてから、コマンドを再入力してください。

DSQ22189 ICUFORM の後に値が必要です。

説明: 233 ページの『DSQ20320』を参照してください。

DSQ22190 &V2 は有効な ICUFORM 値ではありません。

説明: 233 ページの『DSQ20321』を参照してください。

DSQ22191 &V2 は有効な ICUFORM 値ではありません。

説明: 233 ページの『DSQ20321』を参照してください。

DSQ22192 &V2 は有効な ICUFORM 値ではありません。

説明: 233 ページの『DSQ20321』を参照してください。

DSQ22193 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22194 &V2 は EXPORT CHART でしか使用できません。

説明:

オプション &V2 は EXPORT CHART コマンド以外では使用できません。現在のコマンドには CONFIRM または MEMBER、あるいはその両方のオプションだけを使用してください。

ユーザーの処置:

&V2 およびその後の値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ22196 EXPORT CHART には MEMBER オプションが必要です。

説明:

CHART をエクスポートする場合は、MEMBER に名前が必要です。EXPORT CHART の MEMBER オプションは、エクスポートされた図表 (GDF ファイル) が ICU によって保管される、GDDM ライブラリーまたはファイル内のメンバーを指示します。

ユーザーの処置:

MEMBER に名前を入力して、コマンドを入力し直してください。

DSQ22197 EXPORT CHART に指定した名前が多すぎます。

説明:

EXPORT CHART コマンドの形式は次のとおりです。

```
EXPORT CHART (xxxxx
```

「XXXXX」には MEMBER (必須オプション) および ICUFORM の 2 つのオプションのうちの 1 つまたは両方を指定します。

QMF は「xxxxx」内の名前が多すぎることを確認しました。エクスポート・メンバー名とオプションを区別するための括弧が必要である場合があります。例えば、以下のコマンドを実行しようとした可能性があります。

```
EXPORT CHART (MEMBER=CHART4 ICUFORM=PIE
```

括弧を入れ忘れた可能性があります。

ユーザーの処置:

EXPORT コマンドを訂正し、再入力してください。

DSQ22198 EXPORT CHART に指定した名前が多すぎます。

説明: 『DSQ22197』を参照してください。

DSQ22200 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22201 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22202 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22203 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22204 列 &V1 は長すぎてエクスポートできません。

説明:

最大許容幅が 255 を超える VARBINARY 列のある表をエクスポートすることはできません。

ユーザーの処置:

エクスポートしたいオブジェクトから列 &V1 を除去し、コマンドを再実行してください。

DSQ22205 DATA 行が長すぎます。

説明:

DATA の 1 行の長さが 7168 文字を超える場合には、EXPORT DATA を実行することはできません。

ユーザーの処置:

より小さく分割してデータを選択するための照会を作成し、実行してください。分割した各部分にそれを識別する列を組み込んでおき、QMF の外部で各部分を結合してください。

DSQ22206 &V1 のレコード長は &V2 でなければなりません。

説明: 316 ページの『DSQ21623』を参照してください。

DSQ22207 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22208 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22209 このオブジェクト・タイプに **LANGUAGE** オプションは提供されていません。

説明: 276 ページの『DSQ20897』を参照してください。

DSQ22210 値が **LANGUAGE** オプションから欠落しています。

説明: 277 ページの『DSQ20913』を参照してください。

DSQ22211 **LANGUAGE** オプションでは **ENGLISH** または **SESSION** を使用してください。

説明: 277 ページの『DSQ20914』を参照してください。

DSQ22212 データ・セット名は完全修飾しなければなりません。

説明: 315 ページの『DSQ21606』を参照してください。

DSQ22213 メンバー名 **&V1** が長すぎます。

説明:

メンバー名は 8 文字を超えることはできません。 指定した名前は **&V2** の文字の長さです。

ユーザーの処置:

メンバー名を変更し、コマンドを再実行してください。

DSQ22214 メンバー名 **&V1** が長すぎます。

説明: 『DSQ22213』を参照してください。

DSQ22215 メンバー名 **&V1** が長すぎます。

説明: 『DSQ22213』を参照してください。

DSQ22216 **DATAFORMAT** の後は、**「QMF」**、**「HTML」**、または **「TEXT」** を使用してください。

説明:

データ形式の値が指定されていません。 有効な値は、

「QMF」、**「HTML」**、または **「TEXT」** です。 データ形式オプションを指定しないと、デフォルトの値である **QMF** が採用されます。

ユーザーの処置:

有効な **DATAFORMAT** 値を入力して、コマンドを再発行してください。 それでもまだ問題が残る場合は、**QMF** 管理者に相談してください。

DSQ22217 データ・タイプ **&V1** はサポートされません。

説明:

参照した表の列の 1 つに、サポートされないデータ・タイプ **&V1** のものがあります。

ユーザーの処置:

データ・タイプ **&V1** は、以下の **QMF** コマンドではサポートされません。

- EXPORT
- IMPORT
- SAVE DATA

DSQ22218 **&V1** が長すぎます。

説明: 314 ページの『DSQ21598』を参照してください。

DSQ22219 **&V1** が長すぎます。

説明: 314 ページの『DSQ21598』を参照してください。

DSQ22220 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22221 **&V1** に無効な属性があります。

説明:

EXPORT REPORT に使用されるデータ・セットは、最小論理レコード長が **&V2** の可変長レコード形式でなければなりません。

ユーザーの処置:

十分な論理レコード長を持つ可変長レコード形式のデータ・セットに対して、報告書をエクスポートしてください。 または、まだ存在していないデータ・セットの名前を指定してください。 そうすると、**QMF** が自動的にそのデータ・セットを割り振ります。

DSQ22222 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22223 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22224 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22226 &V1 のレコード長は &V2 でなければなりません。

説明: 316 ページの『DSQ21623』を参照してください。

DSQ22227 データの行サイズが長すぎてエクスポートできません。

説明:

データを IXF または CSV 形式でエクスポートしようとしています。また、形式化されたデータに必要なレコードの長さは &V1 です。この長さは、許可された最大エクスポート長 &V2 を超えています。

ユーザーの処置:

選択するデータの列を少なくして、行サイズを減らしてください。その後、データのエクスポートを再試行してください。

DSQ22229 &V1 コマンドを 10 進浮動小数点データと共に使用することはできません。

説明: 272 ページの『DSQ20846』を参照してください。

DSQ22230 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22231 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22232 XML データ・タイプは、現行のデータ形式でエクスポートすることはできません。

説明:

XML データ・タイプで定義されたデータをエクスポートするには、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」の説明に従って、QMF XML データ形式を使用してください。

ユーザーの処置:

XML データをエクスポートするには、EXPORT コマンドで DATAFORMAT=XML 文節を使用してください。

DSQ22233 &V1 コマンドを 10 進浮動小数点データと共に使用することはできません。

説明: 272 ページの『DSQ20846』を参照してください。

DSQ22250 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22251 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22273 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ22274 OK。FORM.DETAIL バリエーション &V1 が表示されました。

DSQ22326 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22327 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22328 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22381 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22400 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22401 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22402 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22403 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22404 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22405 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22406 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22414 **FOLDER** キーワードまたは **DSQC_CURR_FOLDER** の修飾フォルダー名が無効です。

DSQ22415 **OK**、**&V1** コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22416 **&V2** はデータベース内のオブジェクトの名前にすることはできません。 (**&V2 cannot be the name of an object in the database.**)

説明: 273 ページの『DSQ20864』を参照してください。

DSQ22417 **FOLDER** キーワードが指定されている場合、ワイルドカードは許可されません。

説明: 217 ページの『DSQ20091』を参照してください。

DSQ22418 **&V1** コマンドの **FOLDER** キーワードには、有効なフォルダー名が必要です。 (**The FOLDER keyword on the &V1 command requires a valid folder name.**)

説明: 216 ページの『DSQ20089』を参照してください。

DSQ22420 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22421 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22422 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22423 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22424 **&V1** コマンドに対して **ISPF** サービスが使用できませんでした。

説明: 261 ページの『DSQ20697』を参照してください。

DSQ22425 OK。検索基準を入力し、PF2 を押して検索してください。

DSQ22426 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22427 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22428 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22429 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22430 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22431 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22432 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22433 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22434 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22435 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22436 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22437 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22438 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22439 &V1 は、EDIT には無効なオブジェクト・タイプです。

説明:

EDIT コマンドは以下のいずれかの形式にする必要があります。

```
EDIT QUERY
EDIT PROC
EDIT TABLE tablename
EDIT tablename
```

有効な表名の形式は、LOCATION.OWNER.NAME、OWNER.NAME、またはNAME のいずれかです。修飾子は二重引用符で囲んでも囲まなくてもかまいません。名前の各セクションは、"OWNER".NAME のように二重引用符で囲むことができます。ロケーションには 16 文字まで指定できます。&LS. への現行データベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト許可 ID は &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名は &LN. 文字まで指定できます。

- データベース・オブジェクト許可 ID は &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

引用符で囲んでいない名前には、「DB2 QMF 解説書」に定義されているように、英字、数字、およびその他の文字を使用できます。引用符で囲んだ名前には、二重引用符以外の任意の文字を使用できます。

ユーザーの処置:

QUERY、PROC、TABLE、または表名を指定しコマンドを再入力してください。データベースに保管されている照会、またはプロシーチャーを編集したい場合 DISPLAY コマンドを使用して、データベースからオブジェクトを検索してください。EDIT コマンドを再入力してください。

DSQ22440 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ22441 &V2 は表または視点ではありません。

説明:

&V2 は &V3 ではないので、編集できません。編集できるのはデータベースの表または更新可能な視点のみです。

ユーザーの処置:

既存の表を編集したい場合、まず似たような名前の照会、形式、プロシーチャーを削除してください。消去する前にそのオブジェクトを表示して、別の名前を付けて保管しておくといよいでしょう。こうしておけば、重要なオブジェクトを失わなくて済みます。

DSQ22442 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22443 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22444 このオブジェクトを編集できません。

説明:

&V2 が見つからなかったか、または表ではありません。

ユーザーの処置:

名前を変更しデータベースに存在する表の名前にしてください。LIST コマンドを使用して、データベース中のどの表が使用可能なかを参照できます。このコマンドをリスト・パネルから入力する場合は、表名のとりに EDIT コマンドを入力したか確認してください。

リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ22445 QBE または指示照会を編集することはできません。

説明:

SQL 照会または QMF プロシーチャーは編集できません。

ユーザーの処置:

SQL 照会を表示し、コマンドをふたたび入力してください。CONVERT コマンドを使用し、QBE または指示照会に関する変換済み SQL を取り出すことができます。取り出した後、SQL 照会を編集できます。

DSQ22446 &V1 はオブジェクト・タイプ &V2 には無効です。

説明:

有効なオブジェクト名を指定しませんでした。照会かプロシーチャーを編集しようとする場合は、一時記憶域の照会かプロシーチャーを編集するため、オブジェクト名はブランクにしなければなりません。

有効なオブジェクト名は、

LOCATION.OWNER.NAME、OWNER.NAME、または NAME の形式です。名前のセクションは二重引用符で "OWNER".NAME のように囲むことができます。ロケーションは 16 文字まで指定できます。&LS. への現在のデータベース接続では、以下がサポートされます。

- QMF オブジェクト許可 ID は &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名は &LN. 文字まで指定できません。
- データベース・オブジェクト許可 ID は &LA. 文字まで指定できます。

- データベース・オブジェクト名は <. 文字まで指定できます。

LIST パネルでオブジェクト名の隣に EDIT を入力すると LIST にオブジェクトのタイプと名前が自動的に追加されます。表を編集していない場合、またはオブジェクト・タイプだけを追加する EDIT /T を使用していない場合は、リスト・パネルで EDIT を使用しないでください。

ユーザーの処置:

有効なオブジェクト名を指定するか、またはブランクのままにしてください。

DSQ22447 編集プログラム "&V1" は戻りコード "&V2" で失敗しました。

説明:

指定した編集プログラム "&V1" は、ゼロ以外の戻りコード "&V2" を戻しました。この戻りコードは、エラーの原因を判別するために役立つかもしれません。

ユーザーの処置:

エラーの原因を解決して、コマンドを入力し直してください。

DSQ22448 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22449 警告: &V1 が &V2 レコードの後で切り捨てられました。

説明:

編集しようとしている &V1 は、現在使用可能な記憶域で QMF に入れるには大きすぎます。&V1 は &V2 レコードの後で切り捨てられました。切り捨てられなかった &V1 は、ファイルが消去されるか、または別の EDIT PROC または EDIT QUERY コマンドが発行されるまで、以下の名前前のファイル内に残ります。&V3

ユーザーの処置:

TSO コマンドを使用して、切り捨てられていない &V1 を含むファイルの名前を変更して、&V1 が失われないようにします。次に、RESET DATA コマンドを発行して、QMF が使用できる記憶域を大きくします。その後で IMPORT &V1 コマンドを発行して、QMF にオブジェクトを入れてください。現在、報告書がない場合は、セッションにさらに多くの記憶域が必要な可能性があります。QMF 管理者に連絡してください。管理者は、「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」の

ガイドラインに従って、ユーザーが使用可能な記憶域を調整することができます。

DSQ22450 EDIT に指定した名前が多すぎます。

説明:

EDIT コマンドは以下のいずれかの形式にする必要があります。

1. EDIT QUERY (options)
2. EDIT PROC (options)
3. EDIT TABLE tablename (options)
4. EDIT tablename (options)

有効な表名の形式は、

LOCATION.OWNER.NAME、OWNER.NAME、または NAME のいずれかです。名前前の各セクションは、"OWNER".NAME のように二重引用符で囲むことができます。ロケーションには 16 文字まで指定できます。&LS. への現行データベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト許可 ID には、最大 &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名には、最大 &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID には、最大 &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

オプションの前の左括弧を省略してしまったか、表名のピリオド区切り記号を付け忘れた可能性があります。

ユーザーの処置:

表名が正しい形式 ("." が省略されていない) か、オプションの前に左括弧があるかを確かめてください。

DSQ22451 MODE オプションを完成してください。

説明:

MODE オプションが欠落しています。MODE オプションをまったく指定しない場合、デフォルト値は CHANGE です。MODE オプションを入力する場合は、ADD または CHANGE のどちらかにする必要があります。

ユーザーの処置:

1. 表または視点の行を変更したい場合は、MODE オプションを指定しないか、MODE = CHANGE を入力してください。
2. 表または視点に行を追加したい場合は、MODE = ADD を入力してください。

DSQ22452 • DSQ22463

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ22452 SHARE のあとには **YES** または **NO** を使用してください。

説明: 276 ページの『DSQ20901』を参照してください。

DSQ22453 "&V1" は 8 文字以下でなければなりません。

説明:

編集プログラム名 "&V1" は 8 文字以下でなければなりません。編集プログラムの名前には、インストール先で使用可能な編集プログラムの名前を指定できます。この編集プログラムの名前がわからない場合には、サポート担当者に連絡してください。EDITOR オプションを入力しない場合、ISPF の PDF 編集プログラムが使われます。

ユーザーの処置:

編集プログラム名を入力するか、または EDITOR キーワードを除去して、コマンドを入力し直してください。

DSQ22454 編集データ・セットが使用できません。

説明:

QMF は、QMF とエディター間でデータを転送するために、TSO データ・セットを使用します。この編集データ・セットが使用できません。編集データ・セットは、TSO ALLOCATE コマンドを使うことによって使用可能となります。このコマンドの使い方がわからない場合には、サポート担当者に相談してください。QMF に対して TSO データ・セットを使用可能にするには、QMF コマンド行に次の TSO コマンドを入力します。

```
TSO ALLOCATE DDNAME(DSQEDIT) UNIT(SYSVIO) NEW  
TSO ALLOCATE DDNAME(DSQEDIT) UNIT(SYSDA) NEW
```

ユーザーの処置:

編集データ・セットを使用できるようにして、EDIT コマンドを実行し直してください。

DSQ22455 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ22456 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22457 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22458 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22459 OK。新しい行のデータを入力し、PF2 を押して追加してください。

DSQ22460 &V1 コマンドには、処置を行う名前が必要です。

説明: 234 ページの『DSQ20338』を参照してください。

DSQ22461 &V1 は、EDIT には無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 353 ページの『DSQ22439』を参照してください。

DSQ22462 &V1 は、EDIT には無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 353 ページの『DSQ22439』を参照してください。

DSQ22463 CICS で照会またはプロシージャーを編集することはできません。

説明:

CICS 環境で実行中の場合は、EDIT コマンドを使用して照会またはプロシージャーを編集することはできません。

ユーザーの処置:

DISPLAY コマンドを使用して照会またはプロシージャーを表示し、それを QMF 画面で変更できます。または、照会またはプロシージャーをエクスポートして、それを編集プログラムで編集してから QMF にインポートしてください。

DSQ22464 表編集プログラムはバッチ・モードでは実行されません。

説明:

QMF はバッチ・モードで開始されました。画面を表示し入力を得ようとしているので、今表編集プログラムは実行できません。バッチ・モードでは画面は表示されず、またユーザーが変更を入力することもできません。

ユーザーの処置:

表編集プログラムはバッチ・モードでは実行できません。

DSQ22465 &V1 を EDIT &V2 と共に使用することはできません。

説明:

1. 表を編集している場合、使用できるオプションは MODE、SAVE または CONFIRM だけです。
2. QUERY または PROC を編集している場合、使用できるオプションは EDITOR だけです。

ユーザーの処置:

&V1 を変更するか、その値、およびそれ以降の値を除去してください。

DSQ22466 &V1 を EDIT &V2 と共に使用することはできません。

説明: 『DSQ22465』を参照してください。

DSQ22467 &V1 を EDIT &V2 と共に使用することはできません。

説明: 『DSQ22465』を参照してください。

DSQ22468 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22469 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22470 QMF フォルダー・オブジェクトがサポートされていない場合、FOLDER キーワードは無効です。

説明: 213 ページの『DSQ20056』を参照してください。

DSQ22471 &V1 は編集セッション中に変更されていません。

説明:

編集するように指定した照会またはプロシージャは、編集セッション中に変更されませんでした。現在の照会またはプロシージャは変更されていません。

ユーザーの処置:

これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

DSQ22472 SHARE の後には &V2 ではなく、YES か NO を使用してください。

説明: 276 ページの『DSQ20902』を参照してください。

DSQ22473 編集プログラム名を指定して EDITOR オプションを完成させてください。

説明:

編集プログラム名が抜けています。これは、インストール先でサポートされる編集プログラムの名前でなければなりません。EDITOR オプションを省略すると、ISPF/PDF がデフォルトの編集プログラムになります。ISPF 編集プログラムは、編集プログラム名 "PDF" を使用して指定できます。例えば、

```
EDITOR = PDF
```

ユーザーの処置:

有効な編集プログラム名を入れてください。それでも問題が解決しなければ、操作担当者またはシステム・プログラマーに相談してください。

DSQ22474 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ22475 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ22476 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ22477 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ22478 &V1 を EDIT &V2 と共に使用することはできません。

説明: 357 ページの『DSQ22465』を参照してください。

DSQ22479 &V1 を EDIT &V2 と共に使用することはできません。

説明: 357 ページの『DSQ22465』を参照してください。

DSQ22480 &V1 を EDIT &V2 と共に使用することはできません。

説明: 357 ページの『DSQ22465』を参照してください。

DSQ22481 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22482 &V1 は MODE に有効ではありません。

説明:

&V1 は MODE キーワードに有効な値ではありません。MODE オプションをまったく指定しない場合、デフォルト値は CHANGE です。MODE オプションを入力する場合は、ADD または CHANGE のどちらかにする必要があります。

ユーザーの処置:

1. 表または視点の行を変更したい場合は、MODE オプションを指定しないか、(MODE = CHANGE を入力してください。
2. 表または視点に行を追加したい場合は、(MODE = ADD を入力してください。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ22483 表名を指定してください。

説明:

表名が欠落しています。データベース中の表またはビューを編集したい場合は、その名前を指定しなければなりません。例えば、

```
EDIT TABLE Q.STAFF
```

ユーザーの処置:

コマンドを訂正して再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ22484 &V1 はオブジェクト・タイプ &V2 には無効です。

説明: 354 ページの『DSQ22446』を参照してください。

DSQ22485 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22486 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22487 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22488 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22489 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22519 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22520 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22521 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 210 ページの『DSQ20010』を参照してください。

DSQ22551 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22553 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22554 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22555 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22556 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22557 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22558 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22560 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22561 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22562 リポジトリ管理プログラムは利用できません。

説明:

&V1 コマンドを実行するにはリポジトリ管理プログラムが利用可能でなければなりません。 リポジトリ管理プログラムがシステムにインストールされていないか、または現在、アクティブではありません。 &V1 コマンドは実行されません。

ユーザーの処置:

リポジトリ管理プログラムが存在することを確認し、再度コマンドを出してください。 リポジトリ管理プログラムがよくわからない場合、 QMF 管理者に連絡してください。

DSQ22571 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22572 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22573 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22574 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22575 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22578 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22600 OK、作成された表 **&V1** に対する照会を更新します。

DSQ22601 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22602 表は作成されません。 **QUERY** オブジェクトは、注釈を含んでいるか空でなければなりません。

説明:

DRAW コマンドは、事前に形式設定された **SQL** ステートメントを **SQL** 照会に追加します。 照会にコメント以外のものが含まれていると、**DRAW** コマンドは失敗します。

ユーザーの処置:

コマンド **RESET QUERY (LANGUAGE=SQL** を発行して空の **SQL** パネルを取得するか、または、コメント・シンボル ("--") を使用して照会の現在の内容をコメント化してください。

DSQ22603 表は作成されません。 **QUERY** オブジェクトは、注釈を含んでいるか空でなければなりません。

説明: 『DSQ22602』を参照してください。

DSQ22605 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22606 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22640 OK、作成された表 **&V1** に対する照会を挿入します。

DSQ22642 表は作成されません。 **QUERY** オブジェクトは、注釈を含んでいるか空でなければなりません。

説明: 『DSQ22602』を参照してください。

DSQ22643 表は作成されません。 **QUERY** オブジェクトは、注釈を含んでいるか空でなければなりません。

説明: 『DSQ22602』を参照してください。

DSQ22644 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22645 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22646 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22647 **RENAME** コマンドが不完全です。

説明:

以下のいずれかの形式を使用します。

- **RENAME objectname TO newname**
- **RENAME objecttype objectname TO newname**

RENAME コマンドでは、オブジェクト名、またはオブジェクト・タイプとオブジェクト名を指定し、その後 **TO** キーワードと新規名を指定する必要があります。

ユーザーの処置:

RENAME コマンドを正しい形式で指定し、コマンドを再発行してください。

「**RENAME ?**」を入力することにより、**RENAME** コマンドの指示画面を使用できます。

このコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。リスト・パネルで **QMF** コマンドを入力する場合の詳細について

DSQ22648 • DSQ22657

は、リスト・パネルでヘルプ・ファンクション・キーを押してください。

DSQ22648 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22649 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22650 &V2 は無効なオブジェクト・タイプです。

説明: 240 ページの『DSQ20433』を参照してください。

DSQ22651 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ22652 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22653 &V1 &V2 には有効な新しい名前が必要です。

説明:

表、ビュー、および QMF オブジェクトの新規名は、非修飾にする必要があります。新規名に LOC.OWNER.NAME や OWNER.NAME など、所有者またはロケーション名を指定することはできません。非修飾の名前は、現在のロケーションと所有者名を使用します。

&LS. への現在のデータベース接続では、以下がサポートされます。

- QMF オブジェクト名は &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名は <. 文字まで指定できます。

新規名は二重引用符で囲むことができます。二重引用符で囲まれた名前には、二重引用符以外の任意の文字を使用することができます。二重引用符で囲まれていない名前には、「DB2 QMF 解説書」に定義されているように、英字、数字、およびそれ以外の文字を使用できま

す。二重引用符で囲まれている場合でも、QMF オブジェクト・タイプの名前をオブジェクト名として使用することはできません。

ユーザーの処置:

&V3 を有効な名前に置き換えて、コマンドを再発行してください。

「&V1 ?」を入力することにより、&V1 コマンド・プロンプト・パネルを使用できます。

コマンドをリスト・パネルで入力した場合、そのパネルで QMF コマンドを入力する場合の詳細については、リスト・パネルで「ヘルプ」機能キーを押してください。

DSQ22654 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22655 OK、&V1 が &V2 に名前変更されました。

DSQ22656 &V1 の後の &V2 は無効です。

説明:

以下のいずれかの形式を使用します。

- RENAME objectname TO newname
- RENAME objecttype objectname TO newname

RENAME コマンドでは、オブジェクト名、またはオブジェクト・タイプとオブジェクト名を指定し、その後に TO キーワードと新規名を指定する必要があります。

ユーザーの処置:

RENAME コマンドを正しい形式で指定し、コマンドを再試行してください。

「RENAME ?」を入力することにより、RENAME コマンドの指示画面を使用できます。

このコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する場合の詳細については、リスト・パネルでヘルプ・ファンクション・キーを押してください。

DSQ22657 &V1 オブジェクトはすでに存在しています。

説明:

オブジェクトの名前を既存のオブジェクトの名前に変更することはできません。

ユーザーの処置:

&V1 以外の有効な固有の名前を使用し、コマンドを再発行してください。

「RENAME ?」を入力することにより、RENAME コマンドの指示画面を使用できます。

このコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する場合の詳細については、リスト・パネルでヘルプ・ファンクション・キーを押してください。

DSQ22658 &V2 が見つかりません。

説明: 209 ページの『DSQ20004』を参照してください。

DSQ22659 このタイプのオブジェクトで名前 &V2 のものはありません。

説明: 210 ページの『DSQ20009』を参照してください。

DSQ22660 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

QMF プロンプト・サービスからの予期しない結果です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ22661 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ22662 &V2.&V3 を使用する権限はありません。

説明: 235 ページの『DSQ20355』を参照してください。

DSQ22663 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22664 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22665 &V1 は &V2 環境では無効です。

DSQ22681 ページ行数が &V4 から 999 までの GDDM プリンターを使用してください。

説明:

GDDM プリンター &V2 はページ行数 &V3 で定義されていますが、これは &V1 を印刷するには小さすぎます。

ユーザーの処置:

ページ行数が &V4 から 999 の GDDM プリンターの名前を入力してください。GDDM プリンターの名前は、PRINT コマンドのオプションとして指定するか、プロファイル・パネルまたは PRINT コマンド・プロンプト・パネルで指定できます。

DSQ22700 OK、作成された表 &V2 に対する照会を選択します。

DSQ22701 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22702 表は作成されません。照会は SELECT に関係なくコメントを含むか、空の必要があります。

説明:

SQL 照会に対して DRAW コマンドを使用する際に、TYPE オプションを指定しないか、または TYPE を SELECT とする場合には、その SQL 照会は、コメント以外のものをなにも含まないものであるか、または、コメント以外の部分の最初の語が SELECT でなければなりません。

ユーザーの処置:

照会を修正して、コメント以外のものをなにも含まないものにするか、またはコメント以外の部分が SELECT で始まるようにしてください。そして、DRAW コマンドを再入力してください。

DSQ22703 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22704 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22725 プロファイル・パネルが正確に更新されなかった可能性があります。

説明:

プロファイルが再ロードされた後、QMF は SPACE オプションの説明を更新して、データベースの現行タイプである DB2 for VM/VSE または DB2 for z/OS のどちらかを反映させます。テキストは、作業用記憶域が十分でなかったために更新されなかった可能性があります。説明テキストに現行データベースが反映されていない可能性があります。しかし、プロファイル・オプションのすべての値は正確です。

ユーザーの処置:

RESET DATA コマンドを使用してください。これにより、記憶域スペースが追加されます。現在 DATA を使用していない場合、セッションでさらに記憶スペースが必要である可能性があります。このエラーが繰り返される場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ22730 このオブジェクトの印刷には、&V3 - 999 の LENGTH を指定してください。

説明:

LENGTH に指定する値は &V3 から 999 までの数値でなければなりません。この値は、PRINT コマンド、PROFILE パネル、または PRINT コマンドのプロンプト・パネルで、オプションとして指定できます。

ユーザーの処置:

&V2 オブジェクトに対する LENGTH として、&V3 から 999 までの値を入力してください。

DSQ22731 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22732 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22733 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22734 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22735 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22736 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22737 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22738 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22739 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22740 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22742 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22743 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22744 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22745 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22760 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22761 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22762 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22763 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22769 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22770 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22771 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22772 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22773 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22774 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22775 &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明:

ファイルまたはデータ・セット &V2 に、次のいずれかの問題があります。

- QMF 形式に必要なデータの一部が含まれていない。
- 新しい行が &V2 に挿入されたか、データが修正されている。

ユーザーの処置:

オブジェクトを再度エクスポートし、&V1 コマンドを再度入力してください。

DSQ22776 &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明:

&V2 によって所有されているデータベース・オブジェ

DSQ22777 • DSQ22838

クト &V3 が、その QMF 形式に必要なデータの一部を含んでいないか、データが変更されているか、Q.OBJECT_DATA に新しい行が挿入されています。(Q.OBJECT_DATA 表に保管されているオブジェクトに対して、行の変更、削除、または挿入してはなりません。)

ユーザーの処置:

オブジェクトを再度保管して、&V1 コマンドを再入力してください。

DSQ22777 &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明: 365 ページの『DSQ22775』を参照してください。

DSQ22778 &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明: 365 ページの『DSQ22776』を参照してください。

DSQ22779 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ディレクトリー・レベル &V1 が、ヘッダー・レコード・レベル &V2 と一致しません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ22800 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 270 ページの『DSQ20825』を参照してください。

DSQ22820 OK、&V2 が印刷されました。FORM を DISPLAY し、それを CHECK して警告メッセージを調べてください。

DSQ22821 OK、&V2 が &V3 で印刷されました。

DSQ22822 OK、データベースの &V2 は &V3 で印刷されました。

DSQ22823 QBE 照会は使えません。

説明: 336 ページの『DSQ22067』を参照してください。

DSQ22824 OK、&V2 が &V3 で印刷されました。

DSQ22825 OK、データベースの &V2 は &V3 で印刷されました。

DSQ22826 OK、&V2 が &V3 で印刷されました。

DSQ22827 OK、データベースの &V2 は &V3 で印刷されました。

DSQ22830 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ22831 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ22834 &V2.&V3 を使用する権限はありません。

説明: 235 ページの『DSQ20355』を参照してください。

DSQ22838 LENGTH には &V2 ではなく、&V3 から 999 までの数を指定してください。

説明:

形式または指示照会のオブジェクトを印刷する場合、LENGTH に指定する値は &V3 から 999 までの範囲の任意の数値でなければなりません。この値は、PRINT コマンド、PROFILE パネル、または PRINT コマンドのプロンプト・パネルで、オプションとして指定できます。

ユーザーの処置:

LENGTH に、&V3 から 999 までの範囲の値を入力してください。

DSQ22839 プリンターのニックネームを指定してください。

説明:

"&V2" のようなオブジェクトを印刷する場合は、PRINTER キーワードの後に値を指定する必要があります。この値は、PRINT コマンドのオプションとして指定するか、プロファイル・パネルまたは PRINT コマンド・プロンプト・パネルで指定できます。指定する名前は、ADMDEFS ファイル内の GDDM ニックネームの 1 つでなければなりません。QMF 管理者に問い合わせ、有効なニックネームを取得するか、新しいニックネームをセットアップしてください。

ユーザーの処置:

PRINTER キーワードに続けて、有効な GDDM プリンターのニックネームを入力してください。

DSQ22840 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22841 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22842 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22843 PRINTER には GDDM 図形プリンターのニックネームが必要です。

説明:

図表を印刷する場合、PRINTER にニックネームを指定する必要があります。この値は、PRINT コマンド、PROFILE パネル、または PRINT コマンドのプロンプト・パネルで、オプションとして指定できます。

ユーザーの処置:

PRINTER に対して、有効な GDDM 図形プリンターのニックネームを入力してください。

DSQ22844 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22845 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22846 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22848 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22850 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22851 OK。&V2 が印刷されました。

DSQ22852 OK。&V2 が印刷されました。

DSQ22853 OK。データベースの&V2 が印刷されました。

DSQ22854 OK。データベースの&V2 が印刷されました。

DSQ22855 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22856 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22858 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ22860 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ22861 &V2.&V3 を使用する権限はありません。

説明: 235 ページの『DSQ20355』を参照してください。

DSQ22862 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22864 レコード長 &V1 がデータに十分な長さではありません。

説明:

Export コマンドは、コマンド内で参照されるデータ・セットのレコード長が &V1 であるため、完了できませんでした。コマンド内で参照されるオブジェクトのタイプで予期される長さは、少なくとも &V2 である必要があります。

ユーザーの処置:

別のファイルまたは別のタイプのオブジェクトを指定するようコマンドを修正してください。Export コマンド処理中に QMF によって自動的に作成されたデータ・セットに対して、Export コマンドを実行したときにこのエラーが検出された場合は、QMF がデータ値を二重区切りにする必要があったことが原因を考えられます。

QMF は、1 セットの区切り文字を持つ最大列データ値に基づいて、データ・セット・レコード長を決定します。データ・オブジェクトに区切り文字が含まれている場合、QMF は QMF が予測できるよりも多くのスペースを占める二重区切りを行う必要があります。Export コマンドがこのデータ・オブジェクトに対して機能するようにするには、少なくとも &V2 のレコード長でデータ・セットを事前割り振りして、コマンドを再試行する必要があります。

DSQ22865 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22866 レコード長 &V1 がデータに十分な長さではありません。

説明: 『DSQ22864』を参照してください。

DSQ22867 レコード長 &V1 がデータに十分な長さではありません。

説明: 『DSQ22864』を参照してください。

DSQ22868 レコード長 &V1 がデータに十分な長さではありません。

説明: 『DSQ22864』を参照してください。

DSQ22870 **PRINTER** オプションに値が使用されている場合、この値を **LENGTH** オプションに使用しないでください。

説明: 323 ページの『DSQ21696』を参照してください。

DSQ22871 プリンターのレコード長が短すぎます。

説明:

使用している印刷装置のレコード長が短すぎて、QMF での最も短い行が取りません。

ユーザーの処置:

QMF の外部で何らかの操作を行って、印刷装置のレコード長を少なくとも 22 に変更し、そのレコード長を超えない行幅を使用してください。

DSQ22872 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22873 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22874 指定した **LENGTH**、&V1 は 1 ページに印刷するには短すぎます。

説明:

このオブジェクトの印刷には少なくとも &V2 のページ長が必要です。この値であれば、QMF はページ見出しと脚注を印刷できます。PROFILE 画面か、PRINT コマンド・プロンプト画面で PRINT コマンドのオプションとして、&V1 の長さを指定しました。

ユーザーの処置:

LENGTH 値を少なくとも &V2 に増やしてください。

DSQ22881 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22882 データの行サイズが長すぎてエクスポートできません。

説明: 349 ページの『DSQ22227』を参照してください。

DSQ22883 &V1 のレコード長は &V2 でなければなりません。

説明: 316 ページの『DSQ21623』を参照してください。

DSQ22884 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22885 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22886 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22887 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22888 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22889 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

&V2 データベース内で &V1 モジュールに対する DBRM が見つかりませんでした。 戻された SQLCODE は -805 です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ22890 警告メッセージが生成されました。

説明: 26 ページの『DSQ10310』を参照してください。

DSQ22891 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22892 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DSQIFSQL から予期しない戻りがありました。 Q.ERROR_LOG 表および QMF トレース・データをチェックしてください。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ22893 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22894 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22895 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22896 コマンドを定義する表の行 &V1 に **VERB** がありません。

説明:

VERB 列に項目が記入されていない場合には、同じ行の SYNONYM_DEFINITION 列で定義されたコマンドを使用することができません。

ユーザーの処置:

インストール先コマンドを定義する表に動詞名を入れるか、またはこの行を削除してください。

DSQ22897 コマンドを定義する表の行 &V1 の **VERB** が無効です。

説明:

インストール先コマンドを定義する表の VERB 列に入れる項目は、次のいずれかで始まらなければなりません。

1. A から Z までの英字
2. #
3. \$
4. @
5. _ (下線)

名前の残りの部分は、上記のいずれか、または 0 から 9 までの数字でなければなりません。列内の名前の後には、空白のみを指定できます。

ユーザーの処置:

上の規則に従って名前を訂正してください。

DSQ22898 コマンドを定義する表の行 &V1 の **VERB** が無効です。

説明: 『DSQ22897』を参照してください。

DSQ22899 コマンドを定義する表の行 &V1 に無効な **OBJECT** があります。

説明:

インストール先コマンドを定義する表の OBJECT 列に入れる項目は、データベースの表名の形式と同じでなければなりません。すなわち、次の内のどれかの形式でなければなりません。

1. OWNER_NAME.TABLE_NAME
2. TABLE_NAME
3. "TABLE_NAME"
4. "OWNER_NAME".TABLE_NAME
5. OWNER_NAME."TABLE_NAME"
6. "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

ピリオド (.) の前後に空白を置くことができます。それ以外のデータが列の中に入っていることはありません。

ユーザーの処置:

上の指針に従って名前を訂正するか、またはその行の項目を表から削除してください。

DSQ22900 コマンドを定義する表の行 &V1 に **SYNONYM_DEFINITION** がありません。

説明:

SYNONYM_DEFINITION がなければ、記入項目は無意味です。

ユーザーの処置:

SYNONYM_DEFINITION を入れるか、またはインストール先コマンドを定義する表からその行を除去してください。

DSQ22901 コマンドを定義している表の行 &V1 に、無効な **SYNONYM_DEFINITION** 項目があります。

説明:

SYNONYM_DEFINITION 列に表示される最初の項目は RUN または &V2 コマンドにしてください。

ユーザーの処置:

列の最初の項目として RUN または &V2 コマンドを入力するかまたはインストール先コマンドを定義する表から項目を除去してください。z/OS ユーザーである場合、コマンド同義語表をチェックし、CICS で実行している場合にコマンド同義語表に TSO コマンドが含まれていないこと (またはその逆) を確認してください。

DSQ22902 コマンドを定義している表の行 &V1 に、無効な **SYNONYM_DEFINITION** 項目があります。

説明: 370 ページの『DSQ22901』を参照してください。

DSQ22903 コマンドを定義する表の **VERB** 列は文字データでなければなりません。

説明:

インストール先コマンドを定義する表の **VERB** 列の定義が正しくありません。この表で定義したコマンドの同義語は使用できません。

ユーザーの処置:

VERB 列を文字データとして定義し、インストール先コマンドを定義する表を作成し直してください。

DSQ22904 コマンドを定義する表の **VERB** 列の長さは **18** でなければなりません。

説明:

インストール先コマンドを定義する表の **VERB** 列の長さが **18** 文字になっていません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置:

VERB 列の長さを **18** 文字として定義し、表を作成し直してください。

DSQ22905 コマンドを定義する表の **VERB** 列に **NULL** を許容してはなりません。

説明:

インストール先コマンドを定義する表が、**VERB** 列に **NULL** を入れることが許されるように定義されています。この表の定義では、**VERB** 列に **NULL** が許されないようにしなければなりません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置:

VERB 列に **NULL** を含めることができないように定義して、表を作成し直してください。

DSQ22906 コマンドを定義する表の **OBJECT** 列が正しく定義されていません。

説明:

インストール先コマンドへ定義する表の **OBJECT** 列は、可変長の文字データとして定義しなければなりません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置:

OBJECT 列を可変長文字データとして定義し、表を作成し直してください。

DSQ22907 コマンドを定義する表の **OBJECT** 列の長さは **31** でなければなりません。

説明:

インストール先コマンドを定義する表の **OBJECT** 列の長さが **31** 文字になっていません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置:

OBJECT 列の長さを **31** 文字として定義し、表を作成し直してください。

DSQ22908 コマンドを定義する表の **OBJECT** 列に **NULL** を許容しなければなりません。

説明:

インストール先コマンドを定義する表の **OBJECT** 列が、**NULL** を許容するように定義されていません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置:

OBJECT 列に **NULL** を含めることができるように定義して、表を作成し直してください。

DSQ22909 コマンドを定義する表の **SYNONYM_DEFINITION** 列が正しくありません。

説明:

インストール先コマンドを定義する表の **SYNONYM_DEFINITION** 列は、可変長の文字のデータとして定義されていなければなりません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置:

SYNONYM_DEFINITION 列を可変長文字データとして定義して、表を作成し直してください。

DSQ22910 コマンドを定義する表の **SYNONYM_DEFINITION** 列の長さが無効です。

説明:

インストール先コマンドを定義する表の **SYNONYM_DEFINITION** 列の長さは、**254** でなければなりません。この表で定義したコマンドは使用できません。

DSQ22911 • DSQ22921

ユーザーの処置:

SYNONYM_DEFINITION 列の長さを 254 文字として定義し、表を作成し直してください。

DSQ22911 コマンドを定義する表の SYNONYM_DEFINITION 列では、NULL は許されません。

説明:

インストール先コマンドを定義する表が、SYNONYM_DEFINITION 列で NULL が許容されるように定義されています。この表の定義では、この列に NULL が許されないようにしなければなりません。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置:

SYNONYM_DEFINITION 列に NULL を含めることができないように定義して、表を作成し直してください。

DSQ22912 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22913 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22914 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22915 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22916 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22917 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22918 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22919 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22920 Q.PROFILE 表の SYNONYMS 列に無効な項目が入っています。

説明:

Q.PROFILE 表の SYNONYMS 列に無効な表名が入っているため、インストール先で定義したコマンドは使用できません。表名は、次のいずれかの形式で指定しなければなりません。

1. OWNER_NAME.TABLE_NAME
2. TABLE_NAME
3. "TABLE_NAME"
4. "OWNER_NAME".TABLE_NAME
5. OWNER_NAME."TABLE_NAME"
6. "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

ドット (.) の前後にブランクを置くことができます。それ以外のデータが列の中に入っていることはありません。

ユーザーの処置:

上のガイドに従って名前を訂正してください。

DSQ22921 Q.PROFILE 表の SYNONYMS 列に無効な項目が入っています。

説明:

Q.PROFILE 表の SYNONYMS 列の中の所有者名または表名が長すぎるため、インストール先で定義したコマンドは使用できません。 &LS. への現在のデータベース接続では、以下がサポートされます。

- QMF オブジェクト許可 ID は &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名は &LN. 文字まで指定できません。
- データベース・オブジェクト許可 ID は &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名は <. 文字まで指定できます。

この項目は、次のいずれの形式で指定できます。

1. OWNER_NAME.TABLE_NAME
2. TABLE_NAME
3. "TABLE_NAME"
4. "OWNER_NAME".TABLE_NAME
5. OWNER_NAME."TABLE_NAME"
6. "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

ユーザーの処置:

上のガイドに従って名前を訂正してください。

DSQ22922 コマンドを定義する表の行 *&V1* の **OBJECT** 名が長すぎます。

説明:

行の対象名が許可された最大長を超えています。オブジェクト名は以下のいずれかの形式にすることができます。

1. OWNER_NAME.TABLE_NAME
2. TABLE_NAME
3. "TABLE_NAME"
4. "OWNER_NAME".TABLE_NAME
5. OWNER_NAME."TABLE_NAME"
6. "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

&LS. への現在のデータベース接続では、以下の長さがサポートされます。

- データベース・オブジェクト許可 ID は **&LA.** 文字まで指定できます。
- データベース表名は **<.** 文字まで指定できます。

ユーザーの処置:

オブジェクト名の長さを調整するか、またはインストール先コマンドを定義する表からその行を除去してください。

DSQ22923 コマンドを定義する表の使用許可が与えられていません。

説明:

Q.PROFILES の SYNONYMS 列で、インストール先コマンドを定義する表の名前が指定されています。ここで指定されている表を使用するための許可が与えられていません。この表で定義されたコマンドは使用できません。

ユーザーの処置:

Q.PROFILES 表の SYNONYMS 列で指定されている表を使用するための許可を得るか、または SYNONYMS

列からその表の名前を除去してください。

DSQ22924 コマンドを定義するために指定されている表が存在しません。

説明:

Q.PROFILES で指定された表が存在しません。おそらく、表の指定が誤っています。

ユーザーの処置:

Q.PROFILES 表の SYNONYMS 列の中で、インストール先コマンドを定義する表の名前を訂正してください。

DSQ22925 コマンドを定義する表の中で、必要な列が欠けています。

説明:

Q.PROFILES で指定した表には、VERB、OBJECT、および SYNONYM_DEFINITION の各列がなければなりません。これらの列のうちの 1 つまたは複数欠けているか、または誤った名前指定されています。この表で定義したコマンドは使用できません。

ユーザーの処置:

Q.PROFILES 表の SYNONYMS 列で指定したインストール先コマンドを定義する表を調べて、上にあげた列が含まれるようにしてください。

DSQ22926 **OK**、**&V1** コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ22927 コマンドを定義する表の行 *&V1* が重複しています。

説明:

行 *&V1* の VERB 列および OBJECT 列の値が、インストール先コマンドを定義する表の別の行に入っています。この行は無視されます。

ユーザーの処置:

重複項目を含む行の一方を除去するか、または列の値を変更して重複しないようにしてください。

DSQ22928 コマンドを定義する表の行 *&V1* の **SYNONYM_DEFINITION** 項目が無効です。

説明:

SYNONYM_DEFINITION 列には、**&ALL** 以外の置換変数を含めることはできません。また、**&ALL** は定義の中で 2 回以上指定することができません。 **&&var** の

DSQ22929 • DSQ22939

ように & を 2 つ含んでいる置換変数は、定義の中で使用できません。

ユーザーの処置:

&ALL はコマンド定義で 1 回だけしか使わないようにしてください。それ以外の置換変数名があれば、定義から除去してください。

DSQ22929 コマンドを定義する表の行 &V1 の **SYNONYM_DEFINITION** 項目が無効です。

説明: 373 ページの『DSQ22928』を参照してください。

DSQ22930 コマンドを定義する表の行 &V1 の **SYNONYM_DEFINITION** 項目が無効です。

説明: 373 ページの『DSQ22928』を参照してください。

DSQ22931 警告メッセージが生成されました。

説明: 27 ページの『DSQ10311』を参照してください。

DSQ22932 警告メッセージが生成されました。

説明: 27 ページの『DSQ10311』を参照してください。

DSQ22933 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22934 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 369 ページの『DSQ22892』を参照してください。

DSQ22935 警告メッセージが生成されました。

説明: 26 ページの『DSQ10310』を参照してください。

DSQ22936 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22937 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22938 **Q.PROFILES** 表の **PFKEYS** 列に無効な値が入っています。

説明:

Q.PROFILES 表の **PFKEYS** 列に無効な表の名前が入っているため、ファンクション・キー・カスタマイズは使用できません。表名は、次のいずれかの形式で指定しなければなりません。

1. OWNER_NAME.TABLE_NAME
2. TABLE_NAME
3. "TABLE_NAME"
4. "OWNER_NAME".TABLE_NAME
5. OWNER_NAME."TABLE_NAME"
6. "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

ピリオド (.) の前後にブランクを置くことができます。それ以外のデータが列の中に入っていることはありません。

ユーザーの処置:

上のガイドに従って名前を訂正してください。

DSQ22939 **Q.PROFILES** 表の **PFKEYS** 列に無効な値が入っています。

説明:

Q.PROFILES 表の **PFKEYS** 列に、ユーザーのサイトのカスタマイズ・ファンクション・キーの定義を保管する表の名前が含まれています。 **PFKEYS** 列内で見つかった表名は無効なため、カスタマイズ・ファンクション・キーの定義をロードできません。

この問題は、名前の 1 つ以上の部分が長すぎる場合に発生することがあります。

ユーザーの処置:

- 名前が以下のいずれかの形式になっていることを確認してください。
 - OWNER_NAME.TABLE_NAME
 - TABLE_NAME
 - "TABLE_NAME"
 - "OWNER_NAME".TABLE_NAME
 - OWNER_NAME."TABLE_NAME"
 - "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

- 名前の各部分が、使用しているデータベースのタイプでの長さ制限に準拠するようにしてください。これらの長さ制限は次のとおりです。

– OWNER_NAME

所有者名は、表を作成したユーザーのデータベース許可 ID、または QMF 許可 ID です。QMF 許可 ID は、Q.PROFILES 表の CREATOR 列に現れます。

現在接続しているデータベースは &LS. です。このデータベースでは、QMF 許可 ID に最大 &LQ. 文字、データベース許可 ID に最大 &LA. 文字を使用できます。

– TABLE_NAME

データベース &LS. では、表名に <. 文字まで許可されます。

DSQ22940 PF キー・カスタマイズ表を使うための許可が与えられていません。

説明:

Q.PROFILES 表の PFKEYS 列で、PF キー・カスタマイズ表の名前が指定されています。ここで指定されている表を使用するための許可が与えられていません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置:

Q.PROFILES 表の PFKEYS 列で指定された表を指定するための許可を得るか、または PFKEYS 列からこの表の名前を除去してください。

DSQ22941 この PF キー・カスタマイズ表は存在しません。

説明:

Q.PROFILES 表で指定された PF キー・カスタマイズ表は存在しません。おそらく、表の指定が誤っています。PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置:

Q.PROFILES 表の PFKEYS 列に、既存の PF キー・カスタマイズ表の名前を指定してください。

DSQ22942 PF キー・カスタマイズ表に必要な列が欠けています。

説明:

Q.PROFILES 表で指定する PF キー・カスタマイズ表には、PANEL、ENTRY_TYPE、NUMBER、および PF_SETTING の各列がなければなりません。これらの列のうちの 1 つまたは複数欠けているか、または誤

った名前指定されています。PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置:

Q.PROFILES 表の PFKEYS 列で指定された PF キー・カスタマイズ表を調べて、上記のすべての列が含まれるようにしてください。

DSQ22943 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22945 PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列は文字データでなければなりません。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列が誤って定義されています。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置:

PANEL 列を文字データとして定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22946 PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列の長さは 18 でなければなりません。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列の長さが 18 になっていません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置:

PANEL 列の長さを 18 文字として定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22947 PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列に NULL を許容してはなりません。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の定義で、PANEL 列が NULL にできるようになっています。PANEL 列では NULL が許容されないように定義しなければなりません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置:

PANEL 列を NULL にすることができないように定義して、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22948 PF キー・カスタマイズ表の **ENTRY_TYPE** 列は文字データでなければなりません。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の **ENTRY_TYPE** 列が誤って定義されています。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置:

ENTRY_TYPE 列を文字データとして定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22949 PF キー・カスタマイズ表の **ENTRY_TYPE** 列の長さは **1** でなければなりません。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の **ENTRY_TYPE** 列の長さが **1** になっていません。この表の PF キー・カスタマイズは使用できません。

ユーザーの処置:

ENTRY_TYPE 列の長さを **1** 文字として定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22950 PF キー・カスタマイズ表の **ENTRY_TYPE** 列で **NULL** を許容してはなりません。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の定義で、**ENTRY_TYPE** 列が **NULL** にできるようになっています。

ENTRY_TYPE 列では **NULL** が許容されないように定義しなければなりません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置:

ENTRY_TYPE 列を **NULL** にすることができないように定義して、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22951 PF キー・カスタマイズ表の **NUMBER** 列は **SMALLINT** でなければなりません。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の **NUMBER** 列が誤って定義されています。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置:

NUMBER 列を **SMALLINT** のデータとして定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22952 PF キー・カスタマイズ表の **NUMBER** 列で **NULL** を許容してはなりません。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の定義で、**NUMBER** 列が **NULL** にできるようになっています。**NUMBER** 列では **NULL** が許されないように定義しなければなりません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置:

NUMBER 列を **NULL** にすることができないように定義して、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22953 PF キー・カスタマイズ表の **PF_SETTING** 列の定義が誤っています。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の **PF_SETTING** 列は、可変長の文字データとして定義しなければなりません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置:

PF_SETTING 列を可変長の文字データとして定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22954 PF キー・カスタマイズ表の **PF_SETTING** 列の長さが無効です。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の **PF_SETTING** 列の長さは、**254** でなければなりません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置:

PF_SETTING 列の長さを **254** 文字として定義し、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22955 PF キー・カスタマイズ表の **PF_SETTING** 列では **NULL** を許容してはなりません。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の **PF_SETTING** 列が、**NULL** を許容するように定義されていません。この表を使って PF キーのカスタマイズを行うことはできません。

ユーザーの処置:

PF_SETTING 列を NULL にできるように定義して、PF キー・カスタマイズ表を作成し直してください。

DSQ22956 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22957 PF キー・カスタマイズ表に無効な PANEL の値があります。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列の中に、カスタマイズ可能な QMF パネルの名前以外の値が入っている項目があります。表の行データは以下のようになります。

```
PANEL
      &V1
ENTRY_TYPE
      &V2
NUMBER
      &V3
PF_SETTING
      &V4
```

有効な修飾パネル名は次のとおりです。

```
Proc
Profile
Report
Globals
Home
Sql query
Prompted query
Form.Calc
Form.Columns
Form.Conditions
Form.Detail
Form.Final
Form.Main
Form.Options
Form.Page
Form.Break1
Form.Break2
Form.Break3
Form.Break4
Form.Break5
Form.Break6
```

ユーザーの処置:

PF キー・カスタマイズ表の PANEL 列には、有効なパネルの名前だけを入れてください。

DSQ22958 PF キー・カスタマイズ表に無効な NUMBER 列の記入項目があります。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の NUMBER 列には、カスタマイズすべき PF キーを識別する 1 から 24 までの値を入れなければなりません。表の行データは以下のようになります。

```
PANEL
      &V1
ENTRY_TYPE
      &V2
NUMBER
      &V3
PF_SETTING
      &V4
```

ユーザーの処置:

カスタマイズしたい PF キーを識別する 1 から 24 までの整数値を入力してください。

DSQ22959 PF キー・カスタマイズ表に無効な NUMBER 列の記入項目があります。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の NUMBER 列には、値 1 または 2 を入れなければなりません。この値によって、PF キーの割り当てを指定するオブジェクト・パネルの 1 行目または 2 行目が識別されます。表の行データは以下のようになります。

```
PANEL
      &V1
ENTRY_TYPE
      &V2
NUMBER
      &V3
PF_SETTING
      &V4
```

ユーザーの処置:

カスタマイズしたい PF キーの番号を識別するために、整数値 1 または 2 を入れてください。

DSQ22960 PF キー・カスタマイズ表に無効な ENTRY_TYPE があります。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の ENTRY_TYPE 列の値は、'K' または 'L' でなければなりません。'K' は PF_SETTING 入力が PF キーであることを意味します。'L' は PF_SETTING 入力が (全画面のオブジェクト・パネルの) PF キーの記述ラベルであるか、または (ウィンドウ・パネルの) 単一キー・ラベルであることを意味します。表の行データは以下のようになります。

```
PANEL
      &V1
```

DSQ22961 • DSQ22972

ENTRY_TYPE

&V2

NUMBER

&V3

PF_SETTING

&V4

ユーザーの処置:

この行の PF_SETTING の値に対応する、
ENTRY_TYPE 値 ('K' か 'L') を使用してください。

DSQ22961 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22962 PF キー・カスタマイズ表の行が重複しています。

説明:

この行の PANEL、ENTRY_TYPE、および NUMBER 列の値は、PF キー・カスタマイズ表の別の行に入っています。この行は無視されます。表の行データは以下のようになります。

PANEL

&V1

ENTRY_TYPE

&V2

NUMBER

&V3

PF_SETTING

&V4

ユーザーの処置:

重複項目を含む行の一方を除去するか、または列の値を変更して重複しないようにしてください。

DSQ22963 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22964 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22965 PF キー・カスタマイズ表の行が重複しています。

説明: 『DSQ22962』を参照してください。

DSQ22966 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22967 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22968 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22969 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22970 PF キー・カスタマイズ表に無効な PANEL の値があります。

説明: 377 ページの『DSQ22957』を参照してください。

DSQ22971 PF キー・カスタマイズ表に無効な PANEL の値があります。

説明: 377 ページの『DSQ22957』を参照してください。

DSQ22972 PF キー・カスタマイズ表に無効な PF_SETTING 入力があります。

説明:

PF キー・カスタマイズ表の PF_SETTING 列への入力
が長すぎます。PANEL 列にウィンドウ・パネルの名
前があり、ENTRY_TYPE の値が 'L' の場合には、
PF_SETTING への入力の最大長は 30 です。表の行デ
ータは次のとおりです。

PANEL

&V1

ENTRY_TYPE

&V2

NUMBER

&V3

PF_SETTING

&V4

ユーザーの処置:

もっと短い PF_SETTING 入力を使用してください。

DSQ22973 &V1 コマンドを 10 進浮動小数点データと共に使用することはできません。

説明: 272 ページの『DSQ20846』を参照してください。

DSQ22974 XML データ・タイプは、現行のデータ形式でエクスポートすることはできません。

説明: 349 ページの『DSQ22232』を参照してください。

DSQ22975 データ・タイプ &V1 は現行のデータ形式でエクスポートすることはできません。

説明:

キーワード OUTPUTMODE を CHARACTER に設定して、DATA オブジェクトを CSV 形式または IXF 形式のいずれかでエクスポートしようとしていました。エクスポートしようとしたデータのデータ・タイプは BINARY または VARBINARY であり、これらはそのどちらの形式でもサポートされません。

ユーザーの処置:

エクスポートしようとしているデータを、現行のデータ形式と互換性を持つように変更してください。IXF 形式にエクスポートする場合は、EXPORT コマンドに OUTPUTMODE=BINARY を指定してください。

DSQ22976 &V1 コマンドを 10 進浮動小数点データと共に使用することはできません。

説明: 272 ページの『DSQ20846』を参照してください。

DSQ22977 XML データ・タイプは、現行のデータ形式でエクスポートすることはできません。

説明: 349 ページの『DSQ22232』を参照してください。

DSQ22978 データ・タイプ &V1 は現行のデータ形式でエクスポートすることはできません。

説明: 『DSQ22975』を参照してください。

DSQ22979 データ・タイプ &V1 はサポートされません。

説明: 348 ページの『DSQ22217』を参照してください。

DSQ22980 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22981 データの行サイズが長すぎてエクスポートできません。

説明: 349 ページの『DSQ22227』を参照してください。

DSQ22982 &V1 のレコード長は &V2 でなければなりません。

説明: 316 ページの『DSQ21623』を参照してください。

DSQ22983 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22984 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22985 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22986 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22987 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22988 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ22989 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22990 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22991 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ22992 **SAVE** オプションを完了させてください。

説明:

SAVE キーワードが見つかりましたが、値が入っていませんでした。SAVE キーワードを入力する場合、値は END または IMMEDIATE でなければなりません。SAVE オプションを省略した場合、デフォルトの値は SAVE=END となります。

ユーザーの処置:

1. 表編集プログラム・セッションが終了するまで、追加、変更、削除を保留したい場合 SAVE=END を入力するか、SAVE オプションを省略できます。
2. 表編集プログラム・セッションの実行時に、追加、変更、削除を永続させる場合は SAVE=IMMEDIATE と指定する必要があります。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ22993 &V1 は **SAVE** には有効ではありません。

説明:

&V1 は SAVE キーワードには有効ではありません。SAVE キーワードを使用する場合、値は END または IMMEDIATE でなければなりません。SAVE オプションを省略した場合は、デフォルトの値は SAVE=END となります。

ユーザーの処置:

1. 表編集プログラム・セッションが終了するまで、追加、変更、削除を保留したい場合 SAVE=END を入力するか、SAVE オプションを省略できます。
2. 表編集プログラム・セッションの実行時に、追加、変更、削除を永続させる場合は SAVE=IMMEDIATE と指定する必要があります。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ22994 **CONFIRM** オプションを完了させてください。

説明:

CONFIRM キーワードが見つかりましたが、値が入っていませんでした。CONFIRM キーワードを入力する場合、値は YES または NO でなければなりません。CONFIRM オプションの使用をやめる場合は、プロファイルからデフォルトの値が使用されます。

ユーザーの処置:

1. 確認パネルを表示する必要がない場合、CONFIRM=NO と入力してください。
2. セッションでデフォルトの確認パネルが必要な場合には、CONFIRM=YES と入力してください。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ22995 &V1 は **CONFIRM** には有効ではありません。

説明:

&V1 は CONFIRM キーワードには有効な値ではありません。CONFIRM キーワードを入力する場合、値は YES または NO でなければなりません。CONFIRM オプションの使用をやめる場合は、プロファイルからデフ

ォルトの値が使用されます。

ユーザーの処置:

1. 確認パネルを表示する必要がない場合、
CONFIRM=NO と入力してください。
2. セッションでデフォルトの確認パネルが必要な場合
には、CONFIRM=YES と入力してください。

リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ22996 EDIT コマンドのオプションが、データベース・マネージャーでは無効です。

説明:

MODE=CHANGE、および SAVE=IMMEDIATE が指定されましたが、現在のデータベース・マネージャーはこの組み合わせをサポートしていません。

ユーザーの処置:

代わりに SAVE=END を指定してください。変更や削除は、実行されたときにデータベース中に永続するのではなく、表編集プログラム・セッションが終了するまで保持されます。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ22997 &V1 を EDIT &V2 と共に使用することはできません。

説明: 357 ページの『DSQ22465』を参照してください。

DSQ22998 &V1 を EDIT &V2 と共に使用することはできません。

説明: 357 ページの『DSQ22465』を参照してください。

DSQ22999 データ・タイプ &V1 はサポートされません。

説明: 348 ページの『DSQ22217』を参照してください。

DSQ23000 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23001 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23002 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23003 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ23004 これは CONVERT のオブジェクト・タイプに無効です。代わりに QUERY を使用してください。

説明:

&V1 は QUERY でなければなりません。CONVERT コマンドの形式は次のとおりです。

CONVERT QUERY objectname (options

オブジェクト名はデータベース内の照会の名前です。

ユーザーの処置:

&V1 を QUERY に変更し、コマンドを再試行してください。照会のリストを表示する場合は、LIST QUERIES コマンドを入力してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ23005 これは CONVERT のオブジェクト・タイプに無効です。代わりに QUERY を使用してください。

説明: 『DSQ23004』を参照してください。

DSQ23006 これは CONVERT のオブジェクト・タイプに無効です。代わりに QUERY を使用してください。

説明: 『DSQ23004』を参照してください。

DSQ23007 &V1 コマンドには、処置を行う名前が必要です。

説明: 234 ページの『DSQ20338』を参照してください。

DSQ23008 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ23009 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ23010 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ23011 &V3 はオブジェクト名の後に続けられません。

説明:

CONVERT &V1 &V2 &V3 が入力されました。しかし、CONVERT コマンドの形式は次のとおりです。

```
CONVERT objectname ( options
CONVERT QUERY objectname ( options
```

&V3 は余分なパラメーターか、またはその前に左括弧が必要です。

ユーザーの処置:

&V3 がオプションでない場合は除去して、コマンドを再実行してください。オプションの場合は、この前に左括弧を挿入して、コマンドを再試行してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ23012 TARGET の後には QUERY または VARS を使用してください。

説明:

TARGET オプションは、変換された照会が現在の照会として表示されるか、または変数の更新に使用されません。TARGET = QUERY の場合には、現在の照会が変換された照会で置き換えられます。TARGET = VARS の場合には、QMF の大域変数プールは、変換された照会で更新されます。ISPF が使用できる場合には、変換

された照会は、ISPF ダイアログ管理プログラム変数プール内に書き出されます。TARGET オプションを省略した場合、値 QUERY がデフォルトで使用されます。

ユーザーの処置:

TARGET の後に QUERY または VARS を追加するか、またはオプションを省略してください。

DSQ23013 TARGET の後には &V3 ではなく QUERY または VARS を使用してください。

説明:

TARGET オプションは、変換された照会が現在の照会として表示されるか、または変数の更新に使用されません。TARGET = QUERY の場合には、現在の照会が変換された照会で置き換えられます。TARGET = VARS の場合には、QMF の大域変数プールは、変換された照会で更新されます。ISPF が使用できる場合には、変換された照会は、ISPF ダイアログ管理プログラム変数プール内に書き出されます。&V3 は無効な値で、TARGET の後には QUERY または VARS だけを指定できます。TARGET オプションを省略した場合、値 QUERY がデフォルトで使用されます。

ユーザーの処置:

TARGET の後には QUERY または VARS を使用してください。

DSQ23014 TARGET の後には &V3 ではなく QUERY または VARS を使用してください。

説明: 『DSQ23013』を参照してください。

DSQ23015 CONVERT コマンドでは &V2 は使用できません。

説明:

オプション &V2 は CONVERT コマンドでは使用できません。TARGET、CONFIRM、SUBSTITUTE、および &VARIABLE オプションだけを使用できます。

ユーザーの処置:

&V2 を変更するか、その値、およびそれ以降の値を除去してください。リスト・パネルでこのコマンドを入力した場合、形式が正しいかどうか確認してください。リスト・パネルで QMF コマンドを入力する方法については、リスト・パネルの表示中にヘルプ・キーを押してください。

DSQ23016 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ23017 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ23018 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ23019 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ23020 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ23021 CONVERT は SQL、QBE、または REL 指示照会にだけ作用します。

説明:

CONVERT コマンドは SQL、QBE、または REL の指示照会を SQL 言語に変換し、SQL 照会パネルに結果を表示します。REL モデルでの照会だけが SQL 言語に変換できますが、ER 指示照会を変換しようとしています。

ユーザーの処置:

REL 照会だけが変換できます。モデル情報のある照会のリストをみるには、LIST QUERIES コマンドを入力してください。

DSQ23022 CONVERT は SQL、QBE、または REL 指示照会にだけ作用します。

説明: 『DSQ23021』を参照してください。

DSQ23023 このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明: 10 ページの『DSQ10013』を参照してください。

DSQ23024 QMF オブジェクト名にロケーションを使用することはできません。

説明: 15 ページの『DSQ10131』を参照してください。

DSQ23025 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ23026 &V1 キーワードはこのデータベース・タイプ/レベルでは無効です。(The &V1 keyword is not valid at this database type or level.)

説明: 231 ページの『DSQ20304』を参照してください。

DSQ23027 同じコマンドに SPACE と ACCELERATOR の両方を指定することはできません。

説明: 229 ページの『DSQ20284』を参照してください。

DSQ23028 完全な &V1 キーワードを入力してください。

説明: 226 ページの『DSQ20249』を参照してください。

DSQ23029 &V1 は &V2 &V3 コマンドで許可されていません。(&V1 is not allowed in the &V2 &V3 command.)

説明: 228 ページの『DSQ20268』を参照してください。

DSQ23030 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明:

空の照会、またはコメントだけで構成される照会は、変換できません。

ユーザーの処置:

照会が空ではない場合、再試行してください。

CONVERT コマンドに指定した名前が間違っている場合があります。

DSQ23031 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23032 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23033 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ23034 &V1 キーワード値が長すぎます。(The &V1 keyword value is too long.)

説明: 226 ページの『DSQ20254』を参照してください。

DSQ23035 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23036 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23037 無効な数のトレース領域 (&V1) が TRACE コマンドに指定されています。

説明:

TRACE コマンドが、&V1 トレース域定義とともに指定されています。TRACE コマンドは、1 から 10 のトレース域定義を指定する必要があります。

ユーザーの処置:

アプリケーションで見つかった TRACE コマンドを訂正してください。アプリケーションを作成していない場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ23038 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ23039 &V1 はコマンドではありません。

説明: 218 ページの『DSQ20114』を参照してください。

DSQ23040 無効な数のトレース領域 (&V1) が TRACE コマンドに指定されています。

説明: 『DSQ23037』を参照してください。

DSQ23041 TRACE 項目 &V1 で、無効な追跡タイトル長 &V2 が指定されています。

説明:

トレース・タイトル長が 1 から 40 バイトの範囲内にある可能性があります。TRACE 項目 &V1 にトレース・タイトル長の &V2 が指定されています。

ユーザーの処置:

アプリケーションで見つかった TRACE コマンドを訂正してください。アプリケーションを作成していない場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ23042 TRACE 項目 &V1 で、無効な追跡タイトル長 &V2 が指定されています。

説明: 『DSQ23041』を参照してください。

DSQ23043 TRACE コマンドに無効な値タイプの &V1 が含まれています。

説明:

TRACE コマンドは、値タイプ「FINT」を必要とします。値タイプ &V1 が見つかりました。

ユーザーの処置:

アプリケーションで見つかった TRACE コマンドを訂正してください。アプリケーションを作成していない場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ23044 &V1 は &V2 &V3 コマンドで許可されていません。(&V1 is not allowed in the &V2 &V3 command.)

説明: 228 ページの『DSQ20268』を参照してください。

DSQ23045 照会が長すぎて変換できません。

説明:

変換を行うと、この照会の長さは &V1 バイトになります。TARGET=VARS オプションにより、変換された照会と関連情報は、ISPF および QMF 両方の大域変数

に置かれますが、どちらも 32,768 バイトを超える長さをサポートしません。 コマンドを続行できません。

ユーザーの処置:

照会を短くするか、または CONVERT コマンドで TARGET=QUERY オプションを指定して変換後の照会を確認してください。

DSQ23046 照会に変換されませんでした。 照会パネルでエラー・メッセージを確認してください。

DSQ23047 CONFIRM の後には YES または NO を使用してください。

説明:

CONFIRM オプションは、CONVERT コマンド実行時に照会を変換して SQL 照会パネルへ表示する前に、一度停止するかどうかを指定します。 変換された照会は保管またはエクスポートされないかぎり、元の形式では再表示できません。 オプションが YES の場合は、変換を取り消す機会があります。 NO の場合には、その機会は与えられません。 CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置:

CONFIRM の後に YES または NO を追加するか、またはオプションを省いてください。

DSQ23048 CONFIRM の後には &V3 ではなく YES か NO を使用してください。

説明:

CONFIRM オプションは、CONVERT コマンド実行時に照会を変換して SQL 照会パネルへ表示する前に、一度停止するかどうかを指定します。 変換された照会は保管またはエクスポートされないかぎり、元の形式では再表示できません。 オプションが YES の場合は、変換を取り消す機会があります。 NO の場合には、その機会は与えられません。 CONFIRM オプションを指定しなかった場合には、プロファイルの値が使用されます。

ユーザーの処置:

CONFIRM の後には YES または NO を使用してください。

DSQ23049 OK。変換した照会です。

DSQ23050 OK。変換された照会です。

DSQ23051 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ23052 SUBSTITUTE オプションから値が欠落しています。

説明:

SUBSTITUTE オプションが選択されましたが、値が与えられていませんでした。 オプションを使用する場合、値を入れてください。 有効な値は以下のとおりです。

YES 照会を変換する時に、変数を値で置換します。

NO 照会を変換する時に、変数を置換しません。

ユーザーの処置:

コマンドを再試行してください。 SUBSTITUTE オプションに値を指定するか、またはコマンドから SUBSTITUTE オプションを除去してください。

DSQ23053 SUBSTITUTE オプションを NO にすることはできません。

説明:

矛盾する命令を入力しました。 変数名と値を与えた場合、SUBSTITUTE オプションを NO にすることはできません。

ユーザーの処置:

コマンドを再試行してください。 変数名と値を削除するか、または SUBSTITUTE オプションを YES に変更してください。

DSQ23054 SUBSTITUTE オプションには YES または NO を使用してください。

説明:

SUBSTITUTE オプションに認識できない値が使用されました。 有効な値は以下のとおりです。

YES 照会を変換する時に、変数を値で置換します。

NO 照会を変換する時に、変数を置換しません。

ユーザーの処置:

SUBSTITUTE オプションを YES または NO に変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ23055 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23056 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23057 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23058 &V1 を **IMPORT** &V2 と共に使用することはできません。

説明:

オプション &V1 を **IMPORT** &V2 と共に使用することはできません。 **IMPORT** コマンドに指定できるオプションは次のとおりです。

- **QUEUETYPE** 必須指定
- **CONFIRM** オプション
- **SUSPEND** オプション
- **COMMENT** オプション
- **SHARE** オプション、**PROC**、**QUERY**、**FORM** に対してのみ有効
- **LANGUAGE** オプション、**FORM** に対してのみ有効
- **ACTION** オプション、**TABLE** に対してのみ有効

ユーザーの処置:

オプションを変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ23059 &V1 を **IMPORT** &V2 と共に使用することはできません。

説明: 『DSQ23058』を参照してください。

DSQ23060 このオブジェクト・タイプに **LANGUAGE** オプションは提供されていません。

説明: 276 ページの『DSQ20897』を参照してください。

DSQ23061 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 337 ページの『DSQ22094』を参照してください。

DSQ23062 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ23063 &V1 オブジェクトをデータベースにインポートできません。

説明:

IMPORT &V1 &V2 は、タイプが &V1 のオブジェクトをデータベースにインポートすることを示しています。しかし、&V1 は有効なオブジェクト・タイプではありません。データベースにインポートする場合、以下のタイプが有効です。

QUERY、**PROC**、**FORM**、および **TABLE**

ユーザーの処置:

&V1 を有効なオブジェクト・タイプに変えてから、コマンドを再入力してください。

IMPORT コマンドについて詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ23064 &V3 は、現在の文脈では無効です。

説明:

&V1 &V2 の後に有効な名前を指定するか、または **FROM sourcename** を指定しなければなりません。名前の形式は次のいずれかです。

objectname userid.objectname location.userid.objectname

&LS. への現在のデータベース接続では、以下の長さがサポートされます。

- **QMF** オブジェクト許可 ID は &LQ. 文字まで指定できます。
- **QMF** オブジェクト名は &LN. 文字まで指定できません。
- データベース・オブジェクト許可 ID は &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。

使用できる文字と引用符の使用について詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

ユーザーの処置:

&V3 を有効な名前に置き換えるか、FROM sourcename を指定し、コマンドを再試行してください。このコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。QMF コマンドの入力について詳しくは、リスト・パネルからヘルプを参照してください。

DSQ23065 現在の文脈では **FROM** の用法が不明です。

説明:

次のように入力しました。

```
&V1 &V2
FROM FROM ...
```

最初の FROM がオブジェクト名でその後にキーワード FROM が続くのか、または最初の FROM がキーワードでその後に FROM というソース名が続くのか判別できません。

ユーザーの処置:

最初の FROM がオブジェクト名である場合は、二重引用符で囲み ("FROM") コマンドを再試行してください。最初の FROM がキーワードの場合は、FROM 以外のソース名を指定し、コマンドを再試行してください。

DSQ23066 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ23067 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ23068 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23069 値が **LANGUAGE** オプションから欠落しています。

説明: 277 ページの『DSQ20913』を参照してください。

DSQ23070 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ23071 **CONFIRM** の後には **YES** または **NO** を使用してください。

説明: 241 ページの『DSQ20437』を参照してください。

DSQ23072 **CONFIRM** の後には &V2 ではなく **YES** か **NO** を使用してください。

説明: 241 ページの『DSQ20438』を参照してください。

DSQ23073 **LANGUAGE** オプションでは **ENGLISH** または **SESSION** を使用してください。

説明: 277 ページの『DSQ20914』を参照してください。

DSQ23074 &V2.&V3 をインポートする権限はありません。

説明:

&V1 を実行しようとしているオブジェクトは &V2 によって所有されています。

適切な権限がない限り、他のユーザーが所有しているオブジェクトをインポートすることはできません。

ユーザーの処置:

コマンドから &V2 を除いてください。あなたのユーザー ID は、データベースにインポートするものすべての名前に、自動的に付けられます。オブジェクトを別のユーザーに対してインポートしたいがその権限がない場合、適切な権限について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ23075 **SHARE** のあとには **YES** または **NO** を使用してください。

説明: 276 ページの『DSQ20901』を参照してください。

DSQ23076 **SHARE** の後には &V2 ではなく、**YES** か **NO** を使用してください。

説明: 276 ページの『DSQ20902』を参照してください。

DSQ23077 COMMENT オプションには値が必要です。

説明: 246 ページの『DSQ20497』を参照してください。

DSQ23078 COMMENT テキストが 78 文字を超えています。

説明: 247 ページの『DSQ20498』を参照してください。

DSQ23079 COMMENT テキストが 78 文字を超えています。

説明: 247 ページの『DSQ20498』を参照してください。

DSQ23080 COMMENT の値は単一引用符で囲まなければなりません。

説明: 273 ページの『DSQ20858』を参照してください。

DSQ23081 IMPORT コマンドが不完全です。

説明: 317 ページの『DSQ21633』を参照してください。

DSQ23082 一時記憶域にインポートする場合、&V1 は使用できません。

説明:

&V1 オプションは、オブジェクトをデータベースにインポートする場合にのみ有効です。オブジェクトを一時記憶域にインポートすることを指定したので、このオプションは無効です。

ユーザーの処置:

オプションを削除し、コマンドを再試行してください。

DSQ23083 一時記憶域にインポートする場合、&V1 は使用できません。

説明: 『DSQ23082』を参照してください。

DSQ23084 一時記憶域にインポートする場合、&V1 は使用できません。

説明: 『DSQ23082』を参照してください。

DSQ23085 DSQEC_SAV_ALLOWED=0 の場合、&V1 &V2 コマンドは使用できません。
(&V1 &V2 command cannot be used when DSQEC_SAV_ALLOWED=0.)

説明: 227 ページの『DSQ20256』を参照してください。

DSQ23086 &V1 を **IMPORT** &V2 と共に使用することはできません。

説明: 319 ページの『DSQ21671』を参照してください。

DSQ23087 インポート元のデータ・セットを指定してください。

説明:

IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

1. IMPORT objecttype FROM sourcename
2. IMPORT objecttype objectname FROM sourcename

ここで、sourcename はインポート元データ・セットの名前です。コマンドに sourcename が指定されていません。

ユーザーの処置:

IMPORT コマンドを変更し、再度実行してください。

DSQ23088 &V1 の後に **FROM** が続かなければなりません。

説明:

&V1 の後に FROM が続かなければなりません。

IMPORT コマンドの形式は次のとおりです。

```
IMPORT objecttype FROM sourcename
IMPORT objecttype objectname FROM sourcename
```

IMPORT objecttype または IMPORT objecttype objectname の後に、FROM sourcename の指定がありません。

ユーザーの処置:

FROM インポート元を指定してからコマンドを再試行します。このコマンドをリスト・パネルから入力した場合、コマンドの形式が正しいことを確認してください。データベース・オブジェクト・リストから QMF コマンドを入力する場合の詳細については、LIST コマンドのヘルプを参照してください。

DSQ23089 ACTION オプションは、このオブジェクト・タイプで提供されていません。

説明:

ACTION オプションは、オブジェクト・タイプが TABLE の場合だけ提供されます。

ユーザーの処置:

コマンドから ACTION オプションを取るか、オブジェクト・タイプを TABLE に変更してください。

DSQ23090 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ23091 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23092 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23093 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ23094 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ23095 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23096 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23097 &V1 オプションは、このオブジェクト・タイプでは無効です。

説明:

&V1 オプションは、オブジェクト・タイプが TABLE の場合にのみ有効です。

ユーザーの処置:

&V1 オプションを除去するか、オブジェクト・タイプを TABLE に変更してください。

DSQ23098 一時記憶域にインポートする場合、&V1 は使用できません。

説明: 388 ページの『DSQ23082』を参照してください。

DSQ23099 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23100 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23101 OK、&V1 で &V2 を置き換えます (コメントは無視)。

DSQ23102 OK、&V1 で &V2 を置き換えます (コメントは無視)。

DSQ23103 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ23104 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ23105 キーワード **QUEUETYPE=TS** または **QUEUETYPE=TD** を使用しなければなりません。

説明: 338 ページの『DSQ22104』を参照してください。

DSQ23106 表内の対応する列とデータとに互換性がありません。

説明:

既存の表 (&V1) の置換または既存の表への追加を試行していますが、インポート元のデータ・セット (&V2) 内の 1 つ以上の列が、異なる仕方定義されている

か、または既存の表内の対応する列と位置が異なっているため、QMF はコマンドを完了できませんでした。

この問題は、以下の理由で発生する場合があります。

- 既存の表およびインポートされるデータの列数が同じでない。
- 既存の表と、インポートするデータの XML 列数が同じでない。
- 表内の XML 列と、インポートするデータの位置が異なっている。
- 対応する 2 つの XML 列の一方では NULL 値が許可されているが、他方では許可されていない。

ユーザーの処置:

この問題は、以下のいずれかの方法で修正できます。

- **ACTION=REPLACE** パラメーターを指定したコマンドを発行した場合は、**ERASE TABLE** コマンドを使用して既存の表を消去してください。その上で、コマンドを再発行します。
- **ACTION=APPEND** パラメーターを指定したコマンドを発行した場合は、既存の表とインポートするデータとが次の状態になるように、列定義の不一致を修正してください。
 - 列の数が同じである。
 - 同じ列位置に同じ数の XML 列がある。
対応する XML 列が同じ NULL 特性で定義されていることを確認してください。

列定義または位置の不一致を訂正した後に、コマンドを再発行してください。

DSQ23107 表内の対応する列とデータとに互換性がありません。

説明: 389 ページの『DSQ23106』を参照してください。

DSQ23108 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23109 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23110 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23111 インポート元のキューを指定してください。

説明:

コマンドで **sourcename** を指定していませんでした。**IMPORT** コマンドの形式は、以下のとおりです。

- **IMPORT objecttype FROM sourcename**
- **IMPORT objecttype objectname FROM sourcename**

ここで、**sourcename** はインポート元のキューの名前です。

ユーザーの処置:

ソース名を指定して、コマンドを再実行してください。

DSQ23112 一時記憶域にインポートする場合、**&V1** は使用できません。

説明: 388 ページの『DSQ23082』を参照してください。

DSQ23113 **ACTION** オプションには、**APPEND** または **REPLACE** を使用してください。

説明:

ACTION オプションに認識できない値を使用しました。有効な値は以下のとおりです。

1. **APPEND** - 既存の表がある場合には、インポートされたデータがそこに追加され、表がない場合には新しい表が作成されます。
2. **REPLACE** - インポートされた表は既存の表に置き換わります。

ユーザーの処置:

ACTION オプションを **APPEND** または **REPLACE** に変更し、コマンドを再実行してください。

DSQ23114 バリエーション番号として **&V1** を指定しないでください。

説明: 328 ページの『DSQ21806』を参照してください。

DSQ23115 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 232 ページの『DSQ20316』を参照してください。

DSQ23116 **SHOW** コマンドに指定したパネル名が多すぎます。

説明:

SHOW コマンドの形式は次のとおりです。

SHOW panel-name

ここで、panel-name は、次のパネル名のいずれかにできます。

Home	Globals	Form.Options	Form.Break3
Query	CHART	Form.Final	Form.Break4
FOrm	Form.Main	Form.Detail	Form.Break5
PROFile	Form.COLumns	Form.CAlc	Form.Break6
PROC	Form.CONditions	Form.Break1	Analytics
Report	Form.Page	Form.Break2	Service.modulename

ユーザーの処置:

パネル名を選択し、コマンドを再発行してください。

DSQ23117 **SHOW** コマンドには &V2 は使用できません。

説明:

SHOW コマンドにはオプションを指定できません。

ユーザーの処置:

&V2 および後続の値を削除し、コマンドを再実行してください。

DSQ23118 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23119 &V2 に対して **SHOW** を実行することはできません。

説明:

SHOW コマンドの後には、以下のいずれかのキーワードが続かなければなりません。

- Home
- 照会
- FOrm
- PROFile
- PROC
- Report
- グローバル
- CHART

- Form.Main
- Form.COLumns
- Form.CONditions
- Form.Page
- Form.Options
- Form.Final
- Form.Detail
- Form.CAlc
- Form.Break1
- Form.Break2
- Form.Break3
- Form.Break4
- Form.Break5
- Form.Break6

- Name
- Analytics
- Service.modulename (モジュール名のサービス・レベルを表示)
- SQL (指示照会パネルで QMF コマンド行から発行)
- FIELD (特定の指示照会ダイアログまたは表エディター・ダイアログから Show Field ファンクション・キーを押して発行)
- CHANGE (特定の表エディター・ダイアログから Show Change ファンクション・キーを押して発行)
- SEARCH (特定の表エディター・ダイアログから Show Search ファンクション・キーを押して発行)

ユーザーの処置:

&V2 をこれらのキーワードのうちの 1 つに置換し、コマンドを再実行してください。

DSQ23120 &V3 という名前のパネルはオブジェクト &V2 内にありません。

説明: 236 ページの『DSQ20357』を参照してください。

DSQ23121 &V1 を &V2 と共に使用することはできません。

説明: 234 ページの『DSQ20339』を参照してください。

DSQ23122 &V2 に対して **SHOW** を実行することはできません。

説明: 『DSQ23119』を参照してください。

DSQ23123 • DSQ23143

DSQ23123 &V2 に対して **SHOW** を実行することはできません。

説明: 391 ページの『DSQ23119』を参照してください。

DSQ23124 &V2 に対して **SHOW** を実行することはできません。

説明: 391 ページの『DSQ23119』を参照してください。

DSQ23125 &V2 に対して **SHOW** を実行することはできません。

説明: 391 ページの『DSQ23119』を参照してください。

DSQ23126 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ23127 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ23128 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ23129 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ23130 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ23131 &V1 と共に使用するための現行の &V2 がありません。

説明: 234 ページの『DSQ20343』を参照してください。

DSQ23132 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23133 OK、&V1 はすでに表示されています。

DSQ23134 OK、これがユーザーの **REPORT** です。**FORM** を **DISPLAY** し、それを **CHECK** して警告メッセージを調べてください。

DSQ23135 OK、&V1 は表示されています。

DSQ23136 OK、図表が表示されました。 形式を表示し警告メッセージを確認します。

DSQ23137 OK、図表が表示されました。

DSQ23138 OK。 **FORM.DETAIL** バリエーション **&V1** が表示されました。

DSQ23139 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ23140 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ23141 コマンドのプロンプト・パネルの指示にしたがってください。

説明: 213 ページの『DSQ20058』を参照してください。

DSQ23142 &V2 に対して **SHOW** を実行することはできません。

説明: 391 ページの『DSQ23119』を参照してください。

DSQ23143 &V2 に対して **SHOW** を実行することはできません。

説明: 391 ページの『DSQ23119』を参照してください。

DSQ23144 &V2 に対して **SHOW** を実行することはできません。

説明: 391 ページの『DSQ23119』を参照してください。

DSQ23145 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ23146 データ・セット名に無効な文字があります。

説明: 340 ページの『DSQ22114』を参照してください。

DSQ23147 区分データ・セットのメンバー名が欠落しています。

説明:

区分データ・セットを使うときの **IMPORT** コマンドの形式は次のとおりです。

1. **IMPORT name FROM 'dataset'**
(MEMBER=member)
2. **IMPORT name FROM 'dataset(member)'**

入力したコマンドには、「member」が欠落しています。

ユーザーの処置:

IMPORT コマンドにメンバー名を追加して、入力し直してください。

DSQ23148 データ・セット &V1 からインポートできません。

説明:

データ・セット &V1 が見つかりません。 次の原因が考えられます。

1. 要求されたデータ・セットが存在しない。
2. 要求されたデータ・セットのスペルに誤りがある。

ユーザーの処置:

スペルに誤りがあればそれを訂正してください。 スペルが正しい場合は、要求したデータ・セットが存在しているかどうか検査してください。

DSQ23149 &V1 コマンドの処理エラーです。 詳しくはヘルプ・キーを押してください。

DSQ23150 相対世代番号はサポートされていません。

説明: 340 ページの『DSQ22118』を参照してください。

DSQ23151 メンバー名は許可されません。

説明:

メンバー名は、順次データ・セットまたは UNIX パス名では許可されません。 順次データ・セットを使用する場合の **IMPORT** コマンドの形式は次のとおりです。

IMPORT objecttype FROM datasetname

UNIX パス名を使用している場合の **IMPORT** コマンドの形式は次のとおりです。

IMPORT objecttype FROM pathname

ユーザーの処置:

IMPORT コマンドからメンバー名を除去し、再試行してください。 **IMPORT** コマンドの完全な構文とオプションについては、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ23152 メンバー名に無効な文字がありました。

説明: 340 ページの『DSQ22120』を参照してください。

DSQ23153 ファイル &V1 は使用できません。

説明: 341 ページの『DSQ22121』を参照してください。

DSQ23154 レコード形式は固定長または可変長でなければなりません。

説明: 341 ページの『DSQ22122』を参照してください。

DSQ23155 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23156 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23157 プロシージャーの実行中に記憶域エラーが発生しました。

説明:

プロシージャーで記憶域の獲得、または解放中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ23158 プロシージャーの処理に **REXX** は使用できません。

説明:

ロジックを持つプロシージャーには **REXX** が必要です。使用システムでは **REXX** が使えません。線形プロシージャーは実行できます。

ユーザーの処置:

プロシージャーについてオンライン・ヘルプを見るには、取り消しキーを押し、ヘルプ・キーをもう一度押し、メニューに従ってください。または、QMF 管理者に連絡して調べてもらってください。

DSQ23159 プロシージャーからの戻りコードが **&V1** でした。

説明:

&V1 の戻りコードが、プロシージャーの **RETURN** または **EXIT** ステートメントで指定されました。戻りコードは、なにを要求したかによりますが、プロシージャーが正しく実行されていないことを意味します。

ユーザーの処置:

インストール時定義のプロシージャーを実行した場合には、QMF 管理者かプロシージャー作成者に連絡してください。

DSQ23160 **OK**、**&V1** コマンドは正常に実行されました。

DSQ23161 **&V1** コマンドでは **UNIX** のパス名は無効です。

説明:

UNIX パス名は、**&V2** がオブジェクト・タイプである場合は **&V1** コマンドで使用できません。**UNIX** パス名は、以下の **EXPORT** コマンドでのみ使用できます。

- **EXPORT REPORT TO pathname (DATAFORMAT = HTML**

- **EXPORT DATA TO pathname (DATAFORMAT = XML**
- **EXPORT TABLE TABLENAME TO PATHNAME (DATAFORMAT = XML**
- **EXPORT DATA to pathname (DATAFORMAT = CSV**
- **EXPORT TABLE tablename TO pathname (DATAFORMAT = CSV**

プロシージャー、照会、書式、または図表を **UNIX** パス名に対してエクスポートすることはできません。

ユーザーの処置:

報告書、表、またはデータをエクスポートしようとしている場合は、上記に示した構文でコマンドを再試行してください。プロシージャー、照会、書式、または図表をエクスポートしようとしている場合は、**UNIX** パス名を **TSO** データ・セットの名前に変更して、コマンドを再試行してください。QMF コマンドの構文について詳しくは、「**DB2 QMF 解説書**」を参照してください。

DSQ23162 **&V2** で始まる変数の長さが、**18** 文字を超えています。

説明: 300 ページの『**DSQ21360**』を参照してください。

DSQ23163 参照されている置換変数の数が **100** を超えています。

説明: 300 ページの『**DSQ21357**』を参照してください。

DSQ23164 プロシージャー中のコマンドが、長すぎます。

説明:

プロシージャー中の **QMF** コマンドの最大長は **&V3** バイトです。

ユーザーの処置:

コマンドを短くするためにプロシージャーを書き直し、再実行してください。

DSQ23165 **&V1** コマンドでは **UNIX** のパス名は無効です。

説明: 『**DSQ23161**』を参照してください。

DSQ23166 メンバー名は許可されません。

説明: 393 ページの『DSQ23151』を参照してください。

DSQ23167 メンバー名 &V1 が長すぎます。

説明: 348 ページの『DSQ22213』を参照してください。

DSQ23168 キーワード **QUEUETYPE=TS** または **QUEUETYPE=TD** を使用しなければなりません。

説明: 338 ページの『DSQ22104』を参照してください。

DSQ23169 **SUSPEND** キーワードには、**YES** または **NO** を使用してください。

説明: 321 ページの『DSQ21679』を参照してください。

DSQ23170 **SUSPEND** キーワードには、**YES** または **NO** を使用してください。

説明: 321 ページの『DSQ21679』を参照してください。

DSQ23171 キーワード **QUEUETYPE=TS** または **QUEUETYPE=TD** を使用しなければなりません。

説明: 338 ページの『DSQ22104』を参照してください。

DSQ23172 **SUSPEND** キーワードには、**YES** または **NO** を使用してください。

説明: 321 ページの『DSQ21679』を参照してください。

DSQ23173 **SUSPEND** キーワードには、**YES** または **NO** を使用してください。

説明: 321 ページの『DSQ21679』を参照してください。

DSQ23174 &V3 を **EXPORT** &V2 と共に使用することはできません。

説明:

オプション &V3 を **EXPORT** &V2 と共に使用するこ

とはできません。許可されているオプションは、次のとおりです。

- **CONFIRM CHART** には無効
- **ICUFORM CHART** のみに有効
- **DATAFORMAT DATA**、**TABLE**、または **REPORT** のみに有効
- **OUTPUTMODE DATA** または **TABLE** のみに有効
- **LANGUAGE FORM** のみに有効

ユーザーの処置:

&V3 およびその後続くすべての値を取り除いてから、コマンドを再入力してください。

DSQ23175 **QUEUETYPE** キーワードの後に **TS** または **TD** を使用してください。

説明:

CICS キュー・タイプのキーワードに対して、有効な値の 1 つが指定されていません。有効な値は以下のとおりです。

- (**QUEUETYPE=TS** 一時記憶域の場合)
- (**QUEUETYPE=TD** 一時データの場合)

ユーザーの処置:

CICS キュー・タイプに有効な値の 1 つを指定して、コマンドを再試行してください。現行のコマンドには、CICS キュー名とキュー・タイプの両方を指定しなければなりません。

DSQ23176 **DATAFORMAT** 値 &V2 は無効です。

説明: 345 ページの『DSQ22174』を参照してください。

DSQ23177 &V2 は **EXPORT DATA** か **EXPORT TABLE** だけで使用できます。

説明: 343 ページの『DSQ22141』を参照してください。

DSQ23178 &V3 を **EXPORT** &V2 と共に使用することはできません。

説明:

オプション &V3 を **EXPORT** &V2 と共に使用することはできません。有効なオプションは以下のとおりです。

- **QUEUETYPE CHART** には無効
- **CONFIRM CHART** には無効
- **SUSPEND CHART** には無効

DSQ23179 • DSQ23188

- MEMBER CHART のみに有効
- ICUFORM CHART のみに有効
- DATAFORMAT DATA、TABLE、または REPORT のみに有効
- OUTPUTMODE DATA または TABLE のみに有効
- LANGUAGE FORM のみに有効

ユーザーの処置:

&V3 および関連する値を取り除いてから、コマンドを実行し直してください。

DSQ23179 EXPORT &V2 に指定されている名前が多すぎます。

説明:

EXPORT コマンドの形式は、以下のとおりです。

1. EXPORT objecttype TO xxxxx
2. EXPORT objecttype objectname TO xxxxx

ここで、"xxxxx" はエクスポートを受け取るキューの名前を示し、さらに 1 つまたは複数のオプションを指定することもできます。QMF は、「xxxxx」中の名前が多すぎることを識別しました。オプションを指定した場合は、キューの識別からオプションを区切る括弧を付け忘れた可能性があります。例えば、以下のコマンドを実行しようとした可能性があります。

```
EXPORT DATA TO MYQUEUE (QUEUE TYPE=TS
```

しかし、QUEUE TYPE の前の括弧を付け忘れました。

ユーザーの処置:

エラーを修正して、EXPORT コマンドを再実行してください。

DSQ23180 EXPORT にオブジェクト・タイプを指定してください。

説明:

EXPORT コマンドの形式は、以下のとおりです。

- EXPORT objecttype TO queue name (QUEUE TYPE=TS または TD)
- EXPORT objecttype objectname TO queue name (QUEUE TYPE=TS または TD)
- EXPORT CHART (MEMBER=member)

作業域オブジェクトをエクスポートする場合、objecttype には QUERY、FORM、PROC、DATA REPORT または CHART を指定することができます。データベース・オブジェクトをエクスポートする場合、objecttype には QUERY、FORM、PROC または TABLE を使用することができます。

ユーザーの処置:

正しいオブジェクト・タイプを指定して、コマンドを再実行してください。

DSQ23181 非大域変数の数が 10 を超えています。

説明:

グローバルな値を持たない '&VARIABLE' の形式の変数名が 10 を超えて照会またはプロシージャの中にある場合、その照会またはプロシージャは実行されず、照会も変更されません。

ユーザーの処置:

非大域変数の数を 10 以下に減らし、再試行してください。

DSQ23182 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23183 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23184 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23185 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23186 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23187 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23188 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23189 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23190 &V2 の値 &V3 は無効です。

説明: 339 ページの『DSQ22113』を参照してください。

DSQ23191 &V2 の値の長さが、55 文字を超えています。

説明:

次の形式の RUN オプションが使用されています。

```
&&V2 = value
```

この「値」が、55 文字の限度を超えています。(このオプションに別のオプションを続けて指定していた場合には、両者をコンマまたはブランクで区切ってください。)

ユーザーの処置:

別の値を指定し、照会を再実行してください。

DSQ23192 各変数名に値を入力してください。

説明: 339 ページの『DSQ22111』を参照してください。

DSQ23193 各変数名に値を入力してください。

説明: 339 ページの『DSQ22111』を参照してください。

DSQ23194 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

大域変数値の変換エラー。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認

してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23195 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

大域変数値が長すぎます。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23196 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23197 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23198 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23199 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23200 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23201 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23202 サービス・レベルは **&V1** です。

DSQ23203 モジュール **&V1** のサービス情報が見つかりません。

説明:

&V1 のサービス・レベルを取得できません。モジュール名の入力に誤りがあるか、またはモジュールのサービス・レベル情報を使用できません。

ユーザーの処置:

有効なモジュール名を入力したことを確認し、コマンドを再実行してください。

DSQ23204 **DSQEC_SAV_ACCELNM** がブランクの場合、**&V1** は必須です。(**&V1 is required when DSQEC_SAV_ACCELNM is blank.**)

説明: 226 ページの『DSQ20248』を参照してください。

DSQ23205 **DSQEC_SAV_ACCELNM** がブランクの場合は、**&V1** または **&V2** が必要です。(**&V1 or &V2 is required when DSQEC_SAV_ACCELNM is blank.**)

説明: 226 ページの『DSQ20246』を参照してください。

DSQ23206 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ23210 **OK**。 **&V1** が実行されました。処理を続行してください。

DSQ23211 **REXX** 名には関連する **QMF** 名が必要です。

説明:

各 **REXX** 変数名ごとに 1 つの **QMF** 変数名がなければなりません。実行するコマンドには、同じ数の名前が必要です。

ユーザーの処置:

コマンドを訂正し、再実行してください。 **GET GLOBAL** コマンドの線形構文は、次のとおりです。

`GET GLOBAL (REXXname = QMFname, REXXname=QMFname`

等号とコンマはオプションですが、1 つ、またはそれ以上のブランクで区切ってください。

DSQ23212 '**&V1**' は **&V2** 変数名には無効です。

説明:

少なくとも名前の中の文字の 1 つが無効です。

「**REXX** 解説書」または「**DB2 QMF** 解説書」に適切な変数名として定義されているように、変数名は、文字または国別文字で始め、その後文字、数字、その他の文字が続かなければなりません。エラーとなった変数名がメッセージに表示されます。長すぎる場合には、完全な **REXX** 名が表示されない場合があります。

ユーザーの処置:

エラーとなった名前を訂正し、コマンドを再実行してください。

DSQ23213 **&V2** 名の **&V1** の文字数が多すぎます。

説明:

QMF 大域変数名に使用できる文字の最大数は 18 です。**REXX** 名の文字の最大数は 250 です。**REXX** 名が長すぎる場合には、メッセージには最大 55 文字表示されるだけです。

ユーザーの処置:

長さが短くなるように名前を訂正してください。区切り文字がない場合は追加してください。 **GET GLOBAL** コマンドの線形構文は、次のとおりです。

`GET GLOBAL (REXXname = QMFname, REXXname=QMFname`

等号およびコンマは任意指定です。これらは、1 つ以上のブランクで区切ることができます。

DSQ23214 **QMF** 変数 **&V1** がありません。

説明:

要求された **QMF** 変数が **SET GLOBAL** コマンドで作成されていないか、それが **QMF DSQ** 変数の場合にはシステムによって設定されていません。

ユーザーの処置:

QMF 変数名を調べて、スペルと大/小文字が、その変数の設定時に使用されたものと一致しているかどうかを確認してください。 **SHOW GLOBAL** コマンドを使用して、既存の大域変数を調べることができます。 コマン

ドの構文を調べて、REXX 名ではなく QMF 名であることを確認してください。GET GLOBAL コマンドの線形構文は、次のとおりです。

```
GET GLOBAL ( REXXname = QMFname, REXXname=QMFname
```

等号とコンマはオプションですが、1 つ、またはそれ以上の空白で区切ってください。

DSQ23215 GET GLOBAL コマンドの構文が無効です。

説明:

GET GLOBAL コマンドの線形構文は、次のとおりです。

- 'GET GLOBAL (REXXname = QMFname, REXXname=QMFname'
- 'GET GLOBAL (REXXname = QMFname, REXXname=QMFname)'

REXX 名 /QMF 名の組み合わせは、いくつでも使用できます。コンマ、等号、右小括弧、および空白の数はオプションです。GET GLOBAL コマンドは大文字でなければなりません。

GET GLOBAL コマンドの拡張構文は、次のとおりです。

```
Command Length, Command, Number of Variables, Variable Name Lengths, Variable Names, Value Lengths, Values, Value Type
```

ユーザーの処置:

REXX を使用している場合には、線形構文を使い、そうでない場合には、拡張構文を使用してください。適当な構文を使用してコマンドを訂正し、再実行してください。

DSQ23220 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してください。

DSQ23221 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20042』を参照してください。

DSQ23222 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ23223 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ23232 &V1 ANALYTICS の DATA オブジェクトが存在しません。

説明: 235 ページの『DSQ20353』を参照してください。

DSQ23240 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ23241 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してください。

DSQ23242 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20042』を参照してください。

DSQ23243 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ23244 SPACE オプションを完成させてください。

説明: 227 ページの『DSQ20260』を参照してください。

DSQ23245 SPACE オプションを完成させてください。

説明: 227 ページの『DSQ20261』を参照してください。

DSQ23246 SPACE オプションを完成させてください。

説明: 228 ページの『DSQ20262』を参照してください。

DSQ23247 DSQEC_SPAC_OVERRIDE が 0 であれば、SPACE キーワードは使用できません。

DSQ23248 • DSQ23262

説明: 228 ページの『DSQ20263』を参照してください。

DSQ23248 SPACE 値は 50 文字以下でなければなりません。

説明: 228 ページの『DSQ20264』を参照してください。

DSQ23249 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23250 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23251 一時記憶域にインポートする場合、&V1 は使用できません。

説明: 388 ページの『DSQ23082』を参照してください。

DSQ23252 &V1 オプションは、このオブジェクト・タイプでは無効です。

説明: 389 ページの『DSQ23097』を参照してください。

DSQ23257 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23258 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

パネル &V1 は存在しません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2

QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23260 &V1 コマンドか構文が無効です。

説明:

SET または GET GLOBAL 機能に要求された大域変数の数が 0 以下でした。要求された大域変数の数と大域変数名の数は一致しなければなりません。コマンドのスペルを誤ったか、キーワードを多く指定しすぎました。構文は以下を注意してください。(コマンドの長さ、コマンド、変数の数、変数名の長さ、変数名、値の長さ、値、値のタイプ)

ユーザーの処置:

指定した変数の数が、入力した変数の数と一致すること、指定したキーワードのスペル、およびコマンドが正しいことを確認してください。

DSQ23261 変数名は 18 文字以内の長さでなければなりません。

説明:

大域変数名の最大の長さは 18 文字で、最小の長さは 1 文字です。名前が 18 文字より長い場合は、18 文字だけが下に表示されます。

&V1 に重大なエラーがあります。それは、項目番号 &V2 です。

The number of serious errors so far are &V3.
The number of warning errors so far are &V4.

ユーザーの処置:

大域変数の名前を 18 文字以下に変更してください。QMF トレース・データ内のすべてのメッセージを表示するには、トレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23262 &V1 の長さが計算された長さとは一致しません。

説明:

変数名 &V1 にブランク、または大域変数名に使用できない文字があります。

&V1 に重大なエラーがあります。それは、項目番号 &V2 です。

The number of serious errors so far are &V3.
The number of warning errors so far are &V4.

ユーザーの処置:

名前の中に正しくない文字またはブランクがないかどうか見てください。QMF の資料を参照して命名規則を確認してください。QMF トレース・データ内のすべてのメッセージを表示するには、トレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23263 &V1 の整数の長さは 4 でなければなりません。

説明:

整数値の長さはすべて 4 でなければなりません。

&V1 に重大なエラーがあります。それは、項目番号 &V2 です。

The number of serious errors so far are &V3.
The number of warning errors so far are &V4.

ユーザーの処置:

値が整数の場合、整数値の長さを 4 に変更してください。値が文字の場合、変数タイプを「CHAR」に変更してください。QMF トレース・データ内のすべてのメッセージを表示するには、トレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23264 変数 &V1 を設定できません。

説明:

コマンドで参照された大域変数は、QMF によってのみ設定可能です。

&V1 に重大なエラーがあります。それは、項目番号 &V2 です。

The number of serious errors so far are &V3.
The number of warning errors so far are &V4.

ユーザーの処置:

SHOW GLOBALS コマンドを発行して、QMF で提供されている大域変数のうち、ユーザーが設定できる大域変数を確認してください。設定可能な大域変数では、大域変数名の隣にデータ入力フィールドがあります。各大域変数の目的について詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

または、「DSQ」で始まらない変数名を指定してコマンドを再発行できます。

QMF トレース・データ内のすべてのメッセージを表示するには、トレースをオンにしてください。以下のコマンドのいずれかを使用します。

SET PROFILE (TRACE=L1 (to trace messages only)
SET PROFILE (TRACE=L2 (to trace messages and commands)

DSQ23265 &V1 がありません。

説明:

GET GLOBAL コマンドで使われた大域変数名は現在ありません。

&V1 に重大なエラーがあります。それは、項目番号 &V2 です。

The number of serious errors so far are &V3.
The number of warning errors so far are &V4.

ユーザーの処置:

GET または SET GLOBAL コマンドのどちらかで使用した名前のスペルや置き換えエラーを検査してください。QMF トレース・データ内のすべてのメッセージを表示するには、トレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23266 警告: &V1 の長さがゼロです。

説明:

大域変数 &V1 の長さがゼロです。

&V1 に重大なエラーがあります。それは、項目番号 &V2 です。

The number of serious errors so far are &V3.
The number of warning errors so far are &V4.

ユーザーの処置:

大域変数 &V1 を使う前に値を入力してください。SET GLOBAL コマンドを使って新しい値を入力してください。QMF トレース・データ内のすべてのメッセージを表示するには、トレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23267 &V1 は整数に変換できません。

説明:

保管した (または保管される) 値は整数に変換できない文字値です。

&V1 に重大なエラーがあります。それは、項目番号 &V2 です。

The number of serious errors so far are &V3.
The number of warning errors so far are &V4.

ユーザーの処置:

変数の値にタイプを合わせてください。コマンドが GET で、整数の値を予想していた場合は、使った変数名または前の SET で元の値が置き換えられていないかを検査してください。QMF トレース・データ内のすべてのメッセージを表示するには、トレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET

PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE
(TRACE=L2

DSQ23268 警告: &V1 の値が置き換えられました。

説明:

大域変数の値を SET コマンドで使った同じ名前でも置き換えました。

&V1 に警告エラーがあります。それは、項目番号 &V2 です。

The number of serious errors so far are &V3.
The number of warning errors so far are &V4.

ユーザーの処置:

値を置き換えたい場合は処置は必要ありません。そうでない場合は設定した大域変数 (または設定する大域変数) の名前を見てください。QMF トレース・データ内のすべてのメッセージを表示するには、トレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23269 警告: &V1 の値は、切り捨てられました。

説明:

大域変数 &V1 の値が指定された長さより長いので、&V1 の値は不完全になります。

&V1 に警告エラーがあります。それは、項目番号 &V2 です。

The number of serious errors so far are &V3.
The number of warning errors so far are &V4.

ユーザーの処置:

この結果が予想されていた場合は処置は必要ありません。そうでない場合は、変数の完全な内容を確認するために、値に対して、より大きな長さを指定してください。QMF トレース・データ内のすべてのメッセージを表示するには、トレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23270 OK. &V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ23271 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23272 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23274 &V1 の値が無効です。

説明:

大域変数 &V1 を、入力した値に設定することができません。無効な値は '&V5' で始まります。

&V1 に重大なエラーがあります。それは、項目番号 &V2 です。

The number of serious errors so far are &V3.
The number of warning errors so far are &V4.

ユーザーの処置:

大域変数 &V1 に対して入力した値をチェックしてください。「DB2 QMF 解説書」を調べて、この大域変数に有効な値を判別してください。QMF トレース・データ内のすべてのメッセージを表示するには、トレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23275 &V1 の有効な値は、&V2 から &V3 までです。

説明:

このキーワードに有効な値は、&V2 (を含む) から &V3 (を含む) のみです。&V1 に重大なエラーがあります。それは項目番号 &V4 です。

The number of serious errors so far are &V5.
The number of warning errors so far are &V6.

ユーザーの処置:

指定の範囲内で値を入力してください。可能な値とその結果について詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。QMF トレース・データ内のすべてのメッセージを表示するには、トレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23276 "&V1" は有効な変数名ではありません。

説明:

変数名 "&V1" 中の大域変数名には許されていない文字である可能性があります。または、すべてがブランクである可能性があります。

&V1 に重大なエラーがあります。それは、項目番号 &V2 です。

The number of serious errors so far are &V3.
The number of warning errors so far are &V4.

ユーザーの処置:

名前の中の文字が誤った文字であるか検討してください。QMF の資料を参照して命名規則を確認してください。QMF トレース・データ内のすべてのメッセージを表示するには、トレースをオンにしてください。次のコマンドのどちらかを使用します。SET PROFILE (TRACE=L1 または SET PROFILE (TRACE=L2

DSQ23277 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効な理由コードが、メッセージ・モジュールに入力されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23278 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

メッセージ・モジュールに、未定義のメッセージ番号が見つかりました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認

認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23281 新しいバリエーションの入力には &V3 ではなく &V2 を使用します。

説明:

新規の &V3 のパネル・バリエーションの表示が要求されました。要求したバリエーション番号 &V1 は、使用中の現行のバリエーションの数 &V2 より大きい値です。通常、新しいバリエーションは順次に追加できません。しかし、バリエーション番号 &V2 に関する情報がまだ入力されていません。パネル・バリエーションを使って、新しい &V3 の情報を入力できます。

ユーザーの処置:

新しい &V3 パネルの情報を入力したい場合、表示されたバリエーション番号 &V2 のパネルで行ってください。すでに、テキスト情報を入力してある別のパネル・バリエーションを表示したい場合、&V3 パネル最上部のパネル・フィールドにそのパネルのバリエーション番号を入力してください。

DSQ23282 新しい &V3 バリエーション &V2 を使用してください。

説明:

新規の &V3 のパネル・バリエーションの表示が要求されました。要求したバリエーション番号 &V1 は、次に大きいバリエーション番号 &V2 より大きい値です。バリエーションは順番にしか追加できないので、まずバリエーション &V2 を使用し、新しい &V3 の情報を入力しなければなりません。

ユーザーの処置:

新しい &V3 パネルの情報を入力したい場合、表示されたバリエーション番号 &V2 のパネルで行えます。すでに、テキスト情報を入力してある別のパネル・バリエーションを表示したい場合、&V3 パネル最上部のパネル・フィールドにそのパネルのバリエーション番号を入力してください。

DSQ23286 バリエーション番号のフィールドには &V1 は使用できません。

説明:

バリエーション番号は、別の &V2 パネル・バリエーションを表示するために使用します。このフィールドでは、1 から 99 までの番号しか使用できません。

ユーザーの処置:

すでにテキスト情報を入力してある別の &V2 パネル・

DSQ23287 • DSQ23310

バリエーションを表示したい場合、このフィールドにそのパネルのバリエーション番号を入力してください。新しい &V2 パネルの情報を入力したい場合、&V3 (&V2 に対する現行のバリエーションの番号) より大きい番号をこのフィールドに入力してください。このフィールドには、1 から 99 までの番号しか入力できません。

DSQ23287 バリエーション番号のフィールドには &V1 は使用できません。

説明: 403 ページの『DSQ23286』を参照してください。

DSQ23295 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ23301 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してください。

DSQ23302 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20042』を参照してください。

DSQ23303 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ23304 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ23305 LIST がアクティブの間は、&V1 コマンドを発行することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20049』を参照してください。

DSQ23306 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

機能を実行するためにはセクションを表示する必要があります。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレー

404 DB2 QMF メッセージおよびコード

ス・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23307 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

オブジェクト・ライン ID が見つかりません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23308 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ23306』を参照してください。

DSQ23309 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ23307』を参照してください。

DSQ23310 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ23306』を参照してください。

DSQ23311 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

照会機能の値が提供されていません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23312 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

オブジェクトの調整に、無効な行番号が使われました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23313 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 404 ページの『DSQ23307』を参照してください。

DSQ23314 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

行 ID または行番号のいずれかが必要です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23315 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23316 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23317 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23318 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23319 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23320 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23321 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23322 QMF オブジェクト名にロケーションを使用することはできません。

説明: 15 ページの『DSQ10131』を参照してください。

DSQ23323 このオブジェクト名はデータベース内にあり、&V2 ではありません。

説明:

IMPORT コマンドで &V2 オブジェクトを &V1 という名前のデータベースにインポートしようとした。この名前のオブジェクトはデータベース内に既に存在しますが、&V2 ではありません。

ユーザーの処置:

一致するようにオブジェクト・タイプまたはオブジェクト名を変更し、コマンドを再実行してください。

DSQ23324 このオブジェクト名はデータベース内にあり、&V2 ではありません。

説明: 『DSQ23323』を参照してください。

DSQ23325 &V2 は EXPORT CHART でしか使用できません。

説明:

オプション &V2 は EXPORT CHART コマンド以外では使用できません。現行のコマンドでは、CONFIRM オプションおよび SUSPEND オプションだけを使用してください。

ユーザーの処置:

&V2 およびその後の値を取り除いて、コマンドを入力し直してください。

DSQ23326 &V2 は EXPORT CHART では使用できません。

説明: 343 ページの『DSQ22140』を参照してください。

DSQ23327 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23328 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23329 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23330 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23331 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23332 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23333 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23334 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23335 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ23336 &V2 は EXPORT CHART では使用できません。

説明: 343 ページの『DSQ22140』を参照してください。

DSQ23337 NEXT の後に名前が多過ぎます。

説明:

NEXT コマンドの形式は、次のとおりです。

- NEXT
NEXT は、FORM.DETAIL パネルで使用されます。
- NEXT COLUMN
NEXT COLUMN は、FORM.COLUMNS のアライメント・パネルと定義パネルに使用されます。
- NEXT DEFINITION
NEXT DEFINITION は、FORM.COLUMNS の定義パネルで使用されます。

PF キーによって NEXT コマンドを発行した場合には、キーを押したときに、コマンド行に何もなかったことを確かめてください。

ユーザーの処置:

NEXT コマンドを表示されている形式の 1 つに変更し、もう一度コマンドを出してください。

DSQ23338 &V1 の後に、COLUMN または DEFINITION を使用してください。

説明:

&V1 コマンドの後に COLUMN または DEFINITION が続かなければなりません。FORM.ALIGNMENT パネルには、COLUMN だけが使用できます。

ユーザーの処置:

&V1 コマンドの後には、COLUMN または DEFINITION を使用してください。
FORM.ALIGNMENT パネルには、コマンドの後に COLUMN を使用してください。

DSQ23339 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してください。

DSQ23340 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ23341 &V2 は &V1 と一緒に使用できません。

説明:

&V2 は &V1 コマンドと一緒に使用することは許されません。&V1 コマンドと、COLUMN、または

DEFINITION だけを使用してください。

ユーザーの処置:

&V1 コマンドには COLUMN または DEFINITION だけを使用するか、または &V2 とその後の値を取り除き、コマンドを再試行してください。

DSQ23342 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20042』を参照してください。

DSQ23343 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ23344 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 286 ページの『DSQ21069』を参照してください。

DSQ23345 OK。FORM.DETAIL バリエーション &V1 が表示されました。

DSQ23346 最初、または最後のバリエーション番号に到達しました。

説明:

前の、または次の &V2 バリエーション・パネルの表示を要求中に、最初の、または最後のバリエーション・パネルに到達しました。

ユーザーの処置:

最後の &V2 バリエーション・パネルを表示しているときは、NEXT コマンドを出すことはできません。最初の &V2 バリエーション・パネルを表示しているときは、PREVIOUS コマンドを出すことはできません。

DSQ23347 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ23350 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

大域変数サービスからの予期しない RC=&V1。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報

が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23351 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DSQSLTT は予期しない RC=&V1 を戻しました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23356 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ23357 PREVIOUS の後に名前が多過ぎます。

説明:

PREVIOUS コマンドの形式は、次のとおりです。

- PREVIOUS
PREVIOUS は、FORM.DETAIL パネルで 使用されます。
- PREVIOUS COLUMN
PREVIOUS COLUMN は、FORM.COLUMNS のアラインメント・パネルと定義パネルで使用されます。
- PREVIOUS DEFINITION

PREVIOUS DEFINITION は、FORM.COLUMNS の定義パネルで使用されます。

PF キーによって PREVIOUS コマンドを発行した場合には、キーを押したときに、コマンド行に何もなかったことを確かめてください。

ユーザーの処置:

PREVIOUS コマンドを表示されている形式の 1 つに変更し、もう一度コマンドを出してください。

DSQ23358 &V1 の後に、COLUMN または DEFINITION を使用してください。

説明: 407 ページの『DSQ23338』を参照してください。

DSQ23359 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してください。

DSQ23360 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ23361 &V2 は &V1 と一緒に使用できません。

説明: 407 ページの『DSQ23341』を参照してください。

DSQ23362 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20042』を参照してください。

DSQ23363 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ23364 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 286 ページの『DSQ21069』を参照してください。

DSQ23365 OK。FORM.DETAIL パリエーション &V1 が表示されました。

DSQ23366 最初、または最後のバリエーション番号に到達しました。

説明: 407 ページの『DSQ23346』を参照してください。

DSQ23367 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ23368 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23369 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23370 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23371 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23372 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23374 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ23375 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ23376 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ23381 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してください。

DSQ23382 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20042』を参照してください。

DSQ23383 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ23384 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ23385 LIST がアクティブの間は、&V1 コマンドを発行することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20049』を参照してください。

DSQ23401 &V1 の後には何も使用しないでください。

説明: 212 ページの『DSQ20046』を参照してください。

DSQ23402 &V1 と共にオプションを使用することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20042』を参照してください。

DSQ23403 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ23404 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ23421 &V1 のヘルプ・パネルを表示できません。

説明:

&V1 にはヘルプ・パネルがありません。

- いくつかのメッセージにはヘルプ・パネルがありません。例えば、"OK,...." メッセージにはヘルプ・パネルがありません。
- メッセージ番号が無効な場合があります。メッセージ番号が無効である理由は、次のとおりです。
 - メッセージ番号が長すぎるか、または短すぎます。
 - メッセージ番号に無効な文字が含まれています。
 - QMF では使用されていないメッセージ番号です。

ユーザーの処置:

HELP コマンドに、有効なメッセージ番号を指定してください。有効なメッセージ番号は、"DSQ" で始まり 5 桁の数字からなります。例としては、"HELP DSQ20114" が有効なコマンドです。正しくメッセージ番号を入力したのであれば、このメッセージ番号に対するヘルプ・パネルは存在しないこととなります。

DSQ23422 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ23423 &V1 のヘルプ・パネルを表示できません。

説明: 『DSQ23421』を参照してください。

DSQ23424 &V1 のヘルプ・パネルを表示できません。

説明: 『DSQ23421』を参照してください。

DSQ23425 &V1 のヘルプ・パネルを表示できません。

説明: 『DSQ23421』を参照してください。

DSQ23426 &V1 のヘルプ・パネルを表示できません。

説明: 『DSQ23421』を参照してください。

DSQ23427 データベース・マネージャーは仮想記憶域を使い果たしました。

説明:

データベース・マネージャーにはユーザーの &V1 コマンドを実行するには十分な仮想記憶域がありません。

ユーザーの処置:

後で、QMF のアクティビティーが少なくなった時点で、再試行してください。同じ状態が続く場合には、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ23428 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23429 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ23430 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ23434 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ23435 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23436 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23437 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23438 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23439 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

(&V1) IXF レコード・タイプが予期されていますが、(&V2) が見つかりました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23440 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

IXF データ・レコードに到達する前に、予期しないデータの終わりになりました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23441 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 407 ページの『DSQ23350』を参照してください。

DSQ23442 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 397 ページの『DSQ23194』を参照してください。

DSQ23443 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 397 ページの『DSQ23195』を参照してください。

DSQ23451 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ23452 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23457 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なパネル ID &V1 がモジュールに渡されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23458 • DSQ23476

DSQ23458 OK、ユーザーのリストは **&V1** によって **&V2** の順で分類されました。

DSQ23462 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23463 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23464 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なオブジェクト・タイプ **&V1** が LIST または DESCRIBE サービスに要求されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23469 OK。データベースから **DATES** フィールドが表示されます。

DSQ23470 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 411 ページの『DSQ23457』を参照してください。

DSQ23471 カーソルが **DESCRIBE** が有効な場所がありません。

説明:

カーソルを記述したいオブジェクトがある行に置いてください。

ユーザーの処置:

記述したいオブジェクトがある行にカーソルを移動して、DESCRIBE をもう一度要求してください。

DSQ23472 カーソルが **DESCRIBE** が有効な場所がありません。

説明: 『DSQ23471』を参照してください。

DSQ23473 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

パネル処理エラー: パネル=**&V1**、コード=**&V2**。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23474 このパネルでは **ENTER** キーはアクティブではありません。

説明:

このパネルは通知パネルです。項目の選択や値の入力を行う必要はありません。

ユーザーの処置:

パネルの内容を見終わったら、取り消しキーを押してください。

DSQ23475 **&V1** コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ23476 **&V1** コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ23477 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ23478 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23479 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 412 ページの『DSQ23464』を参照してください。

DSQ23480 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 412 ページの『DSQ23464』を参照してください。

DSQ23481 リストから 1 つまたは複数の項目を選択してください。

説明:

リストから必要な項目を選択しませんでした。リストから複数の項目を選択できます。

ユーザーの処置:

各項目の前のスペースに文字を入力し、1 つまたはそれ以上の項目を選択した後、次に Enter を押してください。

DSQ23482 リストから &V1 項目より多くの選択はできません。

説明:

許可された項目より多い項目が選択されました。

ユーザーの処置:

&V1 項目またはそれ以下の項目を選択して、次に Enter を押してください。

DSQ23483 &V1 は有効な選択番号ではありません。

説明:

入力した値は数値でないか、リストで選択できる番号ではありません。

ユーザーの処置:

リスト内の有効な選択の前には、番号が前に付いています。この番号を選択し、リストの上部の入力域に入力

して、次に Enter を押してください。

DSQ23484 &V1 は、選択できません。

説明:

入力した値は、リスト内で現在選択できる番号ではありません。

ユーザーの処置:

リスト内の有効な選択の前には、番号が前に付いていません。この番号を選択し、リストの上部の入力域に入力して、次に Enter を押してください。

DSQ23485 リストから項目を選択してください。

説明:

リストから必要な項目を選択しませんでした。

ユーザーの処置:

リストの選択可能な項目には番号が付けられています。リストの最上位のスペースにこれらの番号のいずれかを入力して項目を選択してください。次に Enter を押してください。

DSQ23486 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23487 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23488 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23489 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23490 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ23491 LIST がアクティブの間は、&V1 コマンドを発行することはできません。

説明: 212 ページの『DSQ20049』を参照してください。

DSQ23492 OK。データベースからの注釈フィールドが表示されました。

DSQ23493 OK。データベース・オブジェクト・リストが注釈なしで表示されています。

DSQ23494 &V1 は有効な選択番号ではありません。

説明: 413 ページの『DSQ23483』を参照してください。

DSQ23495 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ23496 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23497 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23498 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

オブジェクト・リストに無効なコマンド・ストリングが見つかりました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してく

ださい。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23499 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23500 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23501 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 209 ページの『DSQ20005』を参照してください。

DSQ23502 リストから発行したため、コマンドを完了できませんでした。

説明:

入力したコマンドは、リストから発行できないコマンドであるため、失敗しました。このコマンドで検出された具体的な問題は次のとおりです。

&V1

コマンドが失敗した原因として、次のことが考えられます。

- データベース・オブジェクトのタイプと名前がこのコマンドに属していない。
- コマンドまたはいずれかのキーワードの指定が正しくない。

ユーザーの処置:

スラッシュ (/) を使用して、データベース・オブジェクト・タイプと名前を挿入したいコマンド内の個所をマークしてください (またはオブジェクト・タイプには /T を、オブジェクト名には /N を使用してください)。プレースホルダーの前にはスペースを置くように注意してください。このコマンドを、CHART、DATA、FORM、QUERY、PROC、または REPORT の一時記憶域内のオブジェクトを指定して使用したい場合は、該当する QMF オブジェクト・パネルに戻り、そこでコマンドを発行してください。

DSQ23503 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23504 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23505 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23506 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23507 コマンドを実行できません。 ロケーションが変更されています。

説明:

QMF が、オブジェクト・リストが作成されたのとは異なるデータベース・ロケーションに接続されています。 オブジェクト・リストにあるオブジェクトが、意図に反して、新しいロケーションにある同じ名前のオブジェクトを指す場合があるので、QMF は、リストを再表示するか、リストが作成されたロケーションに接続し直すまでは、コマンドの実行を許可しません。

ユーザーの処置:

「再表示」ファンクション・キーを押して現行ロケーションでリストを再表示するか、QMF コマンド行に適切な LIST コマンドを入力して新しいリストを定義してください。

DSQ23513 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ23514 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23515 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23516 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23517 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23518 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23519 LIST コマンドに合致するオブジェクトが見つかりません。

説明: 215 ページの『DSQ20076』を参照してください。

DSQ23520 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23521 すべてのリスト・オブジェクトが削除済みです。 再表示は実施されません。

説明:

現在のデータベース・オブジェクト・リストの表示を試みましたが、すべてのオブジェクトが削除されていました。

ユーザーの処置:

新しいデータベース・オブジェクト・リストを作成したい場合には、新しい基準を指定して LIST コマンドを入れ直してください。

DSQ23522 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23523 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23524 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23525 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23526 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23527 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23536 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

INVALID ANCHOR POINTER PASSED TO MODULE.

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23537 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ23538 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23539 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23540 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 411 ページの『DSQ23457』を参照してください。

DSQ23541 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 411 ページの『DSQ23457』を参照してください。

DSQ23542 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 411 ページの『DSQ23457』を参照してください。

DSQ23543 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

レコードの削除で RP 障害が起きました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23544 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 416 ページの『DSQ23543』を参照してください。

DSQ23545 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23546 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なキーがいくつかモジュールに渡されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23547 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なタイプ・コードがモジュールに渡されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23548 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なキー・データ・ポインターがモジュールに渡されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23549 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ23548』を参照してください。

DSQ23550 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なキー番号がモジュールに渡されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23551 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なキー・データ長がモジュールに渡されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23552 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 417 ページの『DSQ23547』を参照してください。

DSQ23553 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

検索における RP 障害です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23560 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23561 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23562 OK、QMF は終了しました。 データベースへの接続は失われました。

DSQ23582 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23583 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23584 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明: 383 ページの『DSQ23030』を参照してください。

DSQ23585 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23586 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23590 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ23591 &V2 が見つかりません。

説明: 209 ページの『DSQ20004』を参照してください。

DSQ23592 これを行う権限がありません。

説明:

行う内容によって次の権限が必要です。

1. 追加モードでは表または視点の編集に SELECT および INSERT の権限が必須です。
2. 検索モードでは表または視点の編集の SELECT 権限が必須です。
3. 変更モードでは表またはビューに SELECT 権限および以下の権限が必要です。
 - 表の少なくとも 1 つの列に対する UPDATE 権限 (行の変更のため)
 - DELETE 権限 (行の削除のため)
4. 読み取り専用の視点では行の追加、変更または削除はできません。しかし、行の探索、または表示ができます。

ユーザーの処置:

必要な権限を得るには QMF 管理者に相談してください。

DSQ23595 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ23596 LIST コマンドに合致するオブジェクトが見つかりません。

説明: 215 ページの『DSQ20076』を参照してください。

DSQ23601 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なパラメーターがモジュール &V1 に渡されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してく

ださい。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23602 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23603 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23604 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23605 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23606 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23607 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23608 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23609 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23610 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

モジュール &V1 に予期せぬ結果が戻されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ23611 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23612 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23610』を参照してください。

DSQ23613 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23610』を参照してください。

DSQ23614 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23615 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23610』を参照してください。

DSQ23621 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23622 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23623 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23624 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23625 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23626 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23627 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23628 ロケーションのリストは利用できません。

説明:

ロケーション・リストを表示できません。有効なりモート・データベース定義が現行ロケーションに存在しないか、以前のエラーによって QMF が有効な定義の読み取りを妨げられているからです。

ユーザーの処置:

現行ロケーションに有効なりモート・データベース定義がない場合、リモート QMF セッションを確立するために CONNECT コマンドを使用できません。以前のエラーによってリモート・データベース定義の読み取りが妨げられている場合、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ23629 ロケーションのリストは利用できません。

説明: 『DSQ23628』を参照してください。

DSQ23630 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23610』を参照してください。

DSQ23631 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23610』を参照してください。

DSQ23632 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23633 **OK**、**LIST** が表示されました。 項目を選択して **ENTER** キーを押してください。

DSQ23634 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23610』を参照してください。

DSQ23635 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23610』を参照してください。

DSQ23641 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23642 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23643 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23644 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23645 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23646 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23647 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ23648 **ENTER** キーを押す前に値をタイプしてください。

説明:

このパネルには入力が必要です。 **ENTER** キーを押す前に、テキスト項目に割り振られているスペースに値をタイプしなければなりません。

ユーザーの処置:

値をタイプし、次に **Enter** を押してください。

DSQ23649 **OK**、**&V1** コマンドは正常に実行されました。

DSQ23650 **&V1** は有効な選択番号ではありません。

説明: 413 ページの『DSQ23483』を参照してください。

DSQ23651 **&V1** は、選択できません。

説明: 413 ページの『DSQ23484』を参照してください。

DSQ23652 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23610』を参照してください。

DSQ23653 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23610』を参照してください。

DSQ23654 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 96 ページの『DSQ14020』を参照してください。

DSQ23655 **OK、&V1** コマンドは正常に実行されました。

DSQ23656 **OK、&V1** コマンドは正常に実行されました。

DSQ23661 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23662 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23700 ストアド・プロシージャ **&V1.&V2** が見つかりませんでした。

説明:

ユーザーが入力したストアド・プロシージャが見つかりませんでした。これには以下の理由が考えられません。

1. **&V1.&V2** が正しく指定されていないか、またはデータベースに存在しない。
2. 修飾参照が行われたが、修飾子のスペルが正しくない。
3. 非修飾参照が使用され、ストアド・プロシージャのスキーマがユーザーの現在の SQLID でない場合は、ストアド・プロシージャ名を修飾するようにする。 QMF は、CURRENT PATH 内で非修飾のストアド・プロシージャ名を検索しません。非修飾名は、CURRENT SQLID で修飾されません。
4. ストアド・プロシージャ名が区切り文字で正しく区切られていなかった。

ユーザーの処置:

問題を修正し、再試行してください。修正には、SQL ステートメントの変更、新規ルーチンの追加、またはストアド・プロシージャ名への適切な修飾が含まれません。

DSQ23701 **CALL** ステートメントで指定されたパラメーターの数が正しくありません。

説明:

CALL ステートメントで入力されたパラメーターの数が、ストアド・プロシージャで期待された数と一致しません。**&V1** パラメーターが入力されましたが、ストアド・プロシージャは **&V2** パラメーターを期待していました。パラメーターの数が一致しない場合、ストアド・プロシージャは実行されません。

ユーザーの処置:

正しい数のパラメーターを入力して、CALL ステートメントを再実行してください。

DSQ23702 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23703 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23704 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ23705 **DSQEC_SP_RS_NUM** に無効な値が指定されました。

説明:

DSQEC_SP_RS_NUM の値に、ストアド・プロシージャから戻された、対応する結果セットがありません。**&V1** が入力されましたが、ストアド・プロシージャは **&V2** 結果セットのみを返しました。

ユーザーの処置:

DSQEC_SP_RS_NUM の値を変更し、ストアド・プロシージャを再度実行してください。

DSQ23711 このデータベースへの接続中は、**CALL** ステートメントを発行できません。

説明:

CALL ステートメントがサポートされるのは、**QMF** が **DB2 (z/OS 版)** データベースに接続している場合のみです。 &LS. は **DB2 for z/OS** データベースではありません。

ユーザーの処置:

DB2 (z/OS 版) データベースへ接続してから、ストアード・プロシージャの実行を試行してください。**QMF** 管理者に連絡して、ユーザーが使用する権限のある **DB2 (z/OS 版)** データベースの名前を確認してください。

DSQ23712 **DECIMAL** パラメーター長が無効です。

説明:

ストアード・プロシージャのパラメーター番号 **&V1** の長さが無効です。この **DECIMAL** パラメーターは **DECIMAL(&V2,&V3)** として定義されました。パラメーターの精度の長さ (**INTEGRAL PART** および **SCALE** の長さを結合したもの) は、定義された精度の最大長以下である必要があります。パラメーター **&V1** が大域変数の **OUT** パラメーターの場合は、パラメーターが既に、ユーザーが呼び出しているストアード・プロシージャと非互換の値に初期化済みであった可能性があります。

入力されたパラメーターの長さは **&V4** でした。許可される最大長は **&V2** です。

入力されたパラメーターの **INTEGRAL PART** (小数でない部分) の長さは **&V5** でした。許可される最大長は **&V6** です。

DB2 CALL ステートメントの形式については、使用するデータベース管理システムのアプリケーション・プログラミング情報を参照してください。

ユーザーの処置:

パラメーター番号 **&V1** の長さを修正するか、またはパラメーター番号 **&V1** で使用される大域変数をリセットして、**CALL** ステートメントを再発行してください。

DSQ23713 **CALL** ステートメントで指定されたパラメーターの数が正しくありません。

説明: 422 ページの『**DSQ23701**』を参照してください。

DSQ23715 ストアード・プロシージャ名が **CALL** ステートメントにありません。

説明:

ストアード・プロシージャに対して **DB2 CALL** ステートメントを実行するには、ストアード・プロシージャ名が必要です。

DB2 CALL ステートメントの形式については、使用するデータベース管理システムのアプリケーション・プログラミング情報を参照してください。

ユーザーの処置:

ストアード・プロシージャ名を入力して、再試行してください。

DSQ23716 入力されたストアード・プロシージャ名に無効な特殊文字 '**&V1**' が含まれています。

説明:

修飾または非修飾ストアード・プロシージャ名に特殊文字は使用できません。特殊文字 '**&V1**' が見つかりました。

ストアード・プロシージャ名が区切り文字で正しく区切られていることを確認してください。

DB2 CALL ステートメントの形式については、使用するデータベース管理システムのアプリケーション・プログラミング情報を参照してください。

ユーザーの処置:

問題を修正し、再試行してください。

DSQ23717 指定された非修飾ストアード・プロシージャ名が、データベースで許可されている最大長を超えています。

説明:

現在ご使用の、&LS. へのデータベース接続は、以下をサポートします。

- ストアード・プロシージャ名は <. 文字まで指定できます。

DB2 CALL ステートメントの形式については、使用するデータベース管理システムのアプリケーション・プログラミング情報を参照してください。

ユーザーの処置:

問題を修正し、再試行してください。

DSQ23718 2つの部分が修飾されたストアード・プロシージャー名が最大長を超えています。

説明:

示された2つの部分が修飾されたストアード・プロシージャー名が最大の文字長を超えています。 &LS. への現行データベース接続は以下をサポートします: 最大 <. 文字のスキーマまたは手順名。

DB2 CALL ステートメントの形式については、データベースの情報を参照してください。

ユーザーの処置:

問題を修正し、再試行してください。

DSQ23719 異なるデータベースに対する3部構成のストアード・プロシージャー名は、QMFからは無効です。

説明:

現行データベース・ロケーションではないデータベース・ロケーションを指定する、3部構成の修飾ストアード・プロシージャー名は、QMFからは無効です。

CALL ステートメント処理はすべて、現行データベース・ロケーションから行われます。

QMF がサポートする DB2 CALL ステートメントの構文は、現行データベース・ロケーションおよびスキーマを使用する非修飾プロシージャー名か、現行データベース・ロケーションを使用する2部構成の修飾プロシージャー名か、または現行データベース・ロケーションを指定する3部構成の修飾プロシージャー名を使用する構文です。

DB2 CALL ステートメントの形式については、使用するデータベース管理システムのアプリケーション・プログラミング情報を参照してください。

ユーザーの処置:

問題を修正し、再試行してください。

DSQ23720 CALL パラメーター・リストで引用符または括弧が欠落しています。

説明:

このエラーは、ユーザーが発行した CALL ステートメントの構文内のどこかに無効または予期しない文字が含まれていたために発生しました。

ユーザーの処置:

発行した CALL ステートメントを調べて、以下の点を確認してください。

- ストアード・プロシージャーのパラメーター・リストは、左括弧で開始し、右括弧で終了している。

- 引用符が必要なパラメーターはすべて単一引用符または二重引用符で囲まれている。パラメーターは単一引用符または二重引用符のどちらでも囲めますが、両方のタイプを混合させることはできません。

- ストアード・プロシージャー名が区切り文字で正しく区切られている。

- ストアード・プロシージャーのパラメーター・リスト内の文字がすべて有効である。

DB2 CALL ステートメントの適切な構文については、使用するデータベース管理システムのアプリケーション・プログラミングに関する情報を参照してください。

見つかったエラーをすべて修正して、CALL ステートメントを再発行してください。

DSQ23721 CALL ステートメント構文が無効です。

説明:

CALL ステートメントは、以下のいずれかの理由により失敗しました。

- CALL ステートメントに、パラメーター・リストの外まで情報が含まれています。右括弧の後にデータを指定することはできません。
- CALL ステートメントが式をサポートしていません。
- CALL ステートメントが組み込み関数をサポートしていません。
- CALL ステートメントがユーザー定義関数をサポートしていません。

ユーザーの処置:

問題を修正し、再試行してください。QMF でサポートされる CALL ステートメントの構文の詳細については、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ23722 ストアード・プロシージャー・パラメーターの数が、許可された最大数を超えています。

説明:

ストアード・プロシージャーの DB2 CALL ステートメントに63個を超えるパラメーターが含まれています。許可されるパラメーターの最大数は63です。

QMF パラメーターの制限について詳しくは、「QMF 解説書」を参照してください。

ユーザーの処置:

問題を修正し、再試行してください。

DSQ23723 番号 *&V1* のパラメーターが、許可された最大文字長を超えています。

説明:

指定された番号 *&V1* のパラメーターが、1 つのパラメーターに許可された最大文字数を超えています。DB2 CALL ステートメントのパラメーターに許可される最大文字数は 256 です。

DB2 CALL ステートメントの形式については、使用するデータベース管理システムのアプリケーション・プログラミング情報を参照してください。

ユーザーの処置:

問題を修正し、再試行してください。

DSQ23724 必要な CALL ステートメントがありません。DSQDCPAR 構文解析は終了します。

DSQ23725 ストアード・プロシージャ名に終了引用符がありません。

説明:

終了引用符がないため、ストアード・プロシージャ名が無効です。

ユーザーの処置:

問題を修正し、再試行してください。

DSQ23726 NULL 引用符付きストリングを指定したストアード・プロシージャ名は無効です。

説明:

NULL 引用符付きストリングがストアード・プロシージャ名で許可されていないため、ストアード・プロシージャ名は無効です。

ユーザーの処置:

問題を修正し、再試行してください。

DSQ23727 パラメーター・データ・タイプが予想されたデータ・タイプと異なります。

説明:

番号 *'&V1'* のパラメーターは、データ・タイプ *'&V2'* です。このパラメーターに期待されるデータ・タイプは *'&V3'* です。パラメーターのデータ・タイプはストアード・プロシージャが期待するものと一致する必要があります。一致しない場合、DB2 CALL ステートメントは失敗します。

DB2 CALL ステートメントの形式については、使用するデータベース管理システムのアプリケーション・プログラミング情報を参照してください。

ユーザーの処置:

問題を修正し、再試行してください。

DSQ23728 パラメーター長が無効です。

説明:

ストアード・プロシージャのパラメーター番号 *'&V1'* の長さが無効です。このパラメーターは、データ・タイプ *'&V2'* で定義されています。CALL ステートメントは失敗しました。これは、渡されたパラメーターの長さ (*&V3*) が、そのデータ・タイプに許可された最大長 (*&V4*) を超えているためです。

ユーザーの処置:

CALL ステートメントを発行する場合は、各パラメーターの長さが、そのデータ・タイプに許可された最大長を超えないようにしてください。ストアード・プロシージャのパラメーターの最大長について詳しくは、IBM Knowledge Center でストアード・プロシージャの実装に関する情報を参照してください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

DSQ23729 ストアード・プロシージャ OUT パラメーターが正しく初期化されていません。

説明:

パラメーター番号 *'&V1'* が正しく初期化されていません。この OUT パラメーターは、*'&V2'* データ・タイプで定義されています。

OUT タイプ・パラメーターとして定義されたストアード・プロシージャ・パラメーターには、特別な初期化要件があります。数値データ・タイプの OUT パラメーターは、0 に初期化される必要があります。データ・タイプが CHAR の OUT パラメーターは、ブランクまたは NULL に初期化される必要があります。OUT パラメーターが大域変数である場合、パラメーターは既に初期化済みの可能性があり、リセットする必要があります。大域変数のリセット方法について詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。OUT パラメーターが正しく初期化されないと、CALL ステートメントは失敗します。

ユーザーの処置:

CALL ステートメントを発行する前に、各 OUT パラメーターが、そのデータ・タイプに従って正しく初期化されるようにしてください。OUT パラメーターの初期化要件について詳しくは、IBM Knowledge Center で

DSQ23730 • DSQ23734

ストアード・プロシージャの実装に関する情報を参照してください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

DSQ23730 NULL パラメーターはこのストアード・プロシージャでは無効です。

説明:

パラメーター番号 '&V1' が NULL に初期化されました。このストアード・プロシージャでは、IN タイプ・パラメーターに空白を使用できません。

DB2 CALL ステートメントの形式については、使用するデータベース管理システムのアプリケーション・プログラミング情報を参照してください。

ユーザーの処置:

問題を修正し、再試行してください。

DSQ23731 &V1 は、無効な置換変数名です。

説明:

CALL ステートメントに入力される場合、置換変数名は、「DB2 QMF 解説書」に定義されているように、英字または国別文字で始まり、その後に英字、数字、その他の文字が続いていなければなりません。名前は最大 17 文字の長さで指定できます。先頭のアンパーサンド (&) は文字数に入りません。

置換変数名の先頭に数値を使用することはできません。

ユーザーの処置:

&V1 を有効な名前に替えてコマンドを再実行してください。

DSQ23732 &V1 パラメーターを使用して QMF からストアード・プロシージャを呼び出すことはできません。

説明:

QMF は、&V1 データ・タイプの IN、OUT、または INOUT パラメーターで定義されたストアード・プロシージャをサポートしていません。

呼び出されたストアード・プロシージャのパラメーター番号 &V2 は、&V1 と定義されているため、このストアード・プロシージャを QMF から呼び出すことはできません。

QMF からはサポートされていない、IN、OUT、または INOUT パラメーターのデータ・タイプは、以下のとおりです。

- GRAPHIC

- VARGRAPHIC
- LONG VARGRAPHIC
- CLOB
- BLOB
- DBCLOB
- ROWID
- BINARY
- VARBINARY
- XML
- DECFLOAT

DECFLOAT データを含むストアード・プロシージャを呼び出せるのは、10 進浮動小数点の命令をサポートするプロセッサで QMF を実行している場合です。

ユーザーの処置:

QMF による DB2 CALL コマンドのサポートについて詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ23733 &V1 パラメーターを使用して QMF からストアード・プロシージャを呼び出すことはできません。

説明: 『DSQ23732』を参照してください。

DSQ23734 パラメーター値が無効です。

説明:

ストアード・プロシージャのパラメーター番号 '&V1' の値が無効です。このパラメーターは、データ・タイプ '&V2' で定義されています。CALL ステートメントは、渡されたパラメーターの値がデータ・タイプに許可される範囲内でないため、失敗しました。

- SMALLINT の場合、有効な値は -32768 から 32767 です。
- INTEGER の場合、有効な値は -2147483648 から 2147483647 です。

ユーザーの処置:

CALL ステートメントを発行する場合は、各パラメーターの値が、そのデータ・タイプに許可された範囲内にあるようにしてください。ストアード・プロシージャのパラメーターの有効な範囲について詳しくは、IBM Knowledge Center でストアード・プロシージャの実装に関する情報を参照してください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

DSQ23736 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23737 パラメーター変換エラー。

説明:

ストアード・プロシージャ・パラメーター番号 &V1 を表示に使用される CHAR データ・タイプ表記から、このパラメーターに必要な実際の &V2 数値に変換中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

ストアード・プロシージャ・パラメーターを訂正し、再試行してください。成功しない場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ23738 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23739 &V1 表の &V2 列に正しくないデータ長が入っています。

説明:

大域変数表 &V1 の &V2 列には長さ &V3 が入っていますが、長さ &V4 が入ってなければなりません。

この表から大域変数は使用できません。

ユーザーの処置:

&V1 表を再作成して、&V2 列を長さ &V4 で定義してください。

DSQ23740 &V1 表の &V2 列には NULL 値を入れることはできません。

説明:

大域変数表 &V1 には、&V2 列に NULL 値がありません。この列には NULL 値は許可されません。

この表から大域変数は使用できません。

ユーザーの処置:

&V1 表を再作成して、&V2 列を NULL 値を許可しないように定義してください。

DSQ23741 &V1 表の &V2 列に正しくないデータ・タイプが入っています。

説明:

大域変数表 &V1 の &V2 列には、データ・タイプ &V3 が入ってなければなりません。

この表から大域変数は使用できません。

ユーザーの処置:

大域変数を含む &V1 表を再作成し、&V2 列をデータ・タイプ &V3 で定義します。

DSQ23742 &V1 表の &V2 列に正しくないデータ長が入っています。

説明: 『DSQ23739』を参照してください。

DSQ23743 &V1 表の &V2 列には NULL 値を入れることはできません。

説明: 『DSQ23740』を参照してください。

DSQ23744 &V1 表の &V2 列に正しくないデータ・タイプが入っています。

説明: 『DSQ23741』を参照してください。

DSQ23745 &V1 表の &V2 列に正しくないデータ・タイプが入っています。

説明: 『DSQ23741』を参照してください。

DSQ23746 &V1 表の &V2 列には NULL 値を入れることはできません。

説明: 『DSQ23740』を参照してください。

DSQ23747 &V1 表には列定義エラーがあります。

説明:

大域変数表 &V1 に列定義エラーがあります。

この表から大域変数は使用できません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に問い合わせ、表 &V1 の列定義を訂正してください。

DSQ23748 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 215 ページの『DSQ20082』を参照してください。

DSQ23749 &V1 表へのアクセス権限がありません。

説明:

大域変数表 &V1 へのアクセス権限がありません。

この表から大域変数は使用できません。

ユーザーの処置:

&V1 表へのアクセス権限については、QMF 管理者に問い合わせてください。

DSQ23750 &V1 表が存在しません。

説明:

大域変数 &V1 が存在しないか、または見つかりません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に問い合わせ、大域変数表 &V1 を作成してください。大域変数表の構造について詳しくは、「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ23751 必要な列が表 &V1 から欠落しています。

説明:

&V1 表には、列 &V2 が定義されている必要があります。これらの列のうちの 1 つまたは複数欠けているか、または誤った名前前で指定されています。

この表から大域変数は使用できません。

ユーザーの処置:

大域変数表 &V1 に正しく定義された列 &V2 が含まれていることを確認してください。

DSQ23752 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 369 ページの『DSQ22889』を参照してください。

DSQ23753 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 369 ページの『DSQ22892』を参照してください。

DSQ23754 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23755 &V1 大域変数を設定できません。

説明:

QMF の初期化中に、大域変数表 &V2 に &V1 大域変数を設定できませんでした。理由コード: &V3。

理由コードの値:

1. 大域変数が作成されました。
2. 大域変数がありません。
3. 大域変数値が切り捨てられました。
4. 大域変数値がバッファーに対して大きすぎました。
5. 大域変数値の長さがゼロです。
6. 大域変数値が整数ではありません。
7. 大域変数値がテスト範囲外です。
8. 要求されたりストが存在しません。
9. 大域変数値が無効です。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡して、エラーを診断し、表 &V2 の大域変数を訂正してください。

DSQ23756 &V1 大域変数を設定できません。

説明: 『DSQ23755』を参照してください。

DSQ23757 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23758 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 215 ページの『DSQ20082』を参照してください。

DSQ23759 &V1 は有効な表名ではありません。

説明:

表名が無効であるため、大域変数を使用できません。&V1 表名は、以下のいずれかの形式に従う必要があります。

- OWNER_NAME.TABLE_NAME
- TABLE_NAME
- "TABLE_NAME"
- "OWNER_NAME".TABLE_NAME
- OWNER_NAME."TABLE_NAME"
- "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

ピリオド (.) の前後にブランクを置くことができます。
それ以外のデータが列の中に入っているはなりません。

ユーザーの処置:

上記のガイドラインに従って、表名を訂正してください。詳しくは、DB2 資料を参照してください。

DSQ23760 &V1 の表名または所有者名が長すぎます。

説明:

ご使用のシステムによって定義された大域変数は、所有者名または表名のいずれかが長すぎるため使用できません。 &LS. への現行データベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト所有者名は &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名は &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト所有者名は &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名は <. 文字まで指定できます。

&V1 表名は、以下のいずれかの形式に従う必要があります。

- OWNER_NAME.TABLE_NAME
- TABLE_NAME
- "TABLE_NAME"
- "OWNER_NAME".TABLE_NAME
- OWNER_NAME."TABLE_NAME"
- "OWNER_NAME"."TABLE_NAME"

ユーザーの処置:

上記のガイドラインに従って、表名を訂正してください。詳しくは、DB2 資料を参照してください。

DSQ23762 一部の表変数は処理されませんでした。

説明:

QMF 初期化中に、&V1 大域変数行が表 &V3 から読み取られました。&V2 変数のみが処理されました。

ユーザーの処置:

メッセージ DSQ23756 が、設定できなかった各大域変数に対して出されます。そのメッセージのエラー・コードから問題の原因を判別し、大域変数表で大域変数を訂正してください。

DSQ23763 &V2 変数の更新可能値は 0 または 1 でなければなりません。

説明:

大域変数表 &V1 の変数 &V2 の更新可能フィールドの値は &V3 です。更新可能フィールドに指定できるのは 0 または 1 のみです。

ユーザーの処置:

大域変数表 &V1 の変数 &V2 の更新可能フィールドの値を 0 または 1 に変更してください。

DSQ23764 変数 "&V2" に無効な文字が含まれていません。

説明:

大域変数表 &V1 の大域変数「&V2」が、すべてブランクであるか、または無効な ID 文字が含まれています。大域変数名は、先頭が以下のいずれかの文字でなければなりません。

- A から Z までの英字
- #
- \$
- @
- _ (下線)

変数名の残りの文字は、上記のいずれかの文字と、0 から 9 までの数字で構成する必要があります。列内の名前の後には、ブランクのみを指定できます。

ユーザーの処置:

上の規則に従って変数名を訂正してください。

DSQ23765 変数 "&V2" に無効な文字が含まれていません。

説明: 『DSQ23764』を参照してください。

DSQ23766 次の行のフェッチ中にエラー &V1 が発生しました。

説明:

大域変数表 &V2 の次の行をフェッチしようとしていたときに、エラーが発生しました。理由コード: &V1。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に問い合わせ、エラーを診断し、表 &V2 を訂正してください。SQLCA には、SQL エラー情報が含まれています。

DSQ23767 一部の大量変数で保存エラーが発生しました。

説明:

QMF の終了時に、&V1 大量変数が見つかりました。
&V2 変数が表 &V3 に保存されました。

ユーザーの処置:

メッセージ DSQ23774 が、保存できなかった各大量変数に対して出されます。メッセージ DSQ23783 が、切り捨てられた値で保存された大量変数に対して出されず。この場合、大量変数値の長さが、表 &V3 の VARVALUE 列の長さを超えています。

そのメッセージのエラー・コードから問題の原因を判別し、大量変数表で大量変数を訂正してください。

DSQ23768 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 215 ページの『DSQ20082』を参照してください。

DSQ23769 大量変数の削除中にエラー &V1 が発生しました。

説明:

&V2 表から 1 つ以上のユーザー大量変数またはセッション大量変数を削除しようとしていたときに、エラーが発生しました。理由コード: &V1。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に問い合わせ、エラーを診断し、表 &V2 を訂正してください。SQLCA には、SQL エラー情報が含まれています。

DSQ23770 大量変数の削除中にエラー &V1 が発生しました。

説明: 『DSQ23769』を参照してください。

DSQ23771 大量変数 &V1 が見つかりません。

説明:

指定された大量変数は、QMF 大量変数であり、存在しているはずですが、見つかりません。理由コード &V2。

ユーザーの処置:

IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

DSQ23772 大量変数の削除中にエラー &V1 が発生しました。

説明: 『DSQ23769』を参照してください。

DSQ23773 大量変数リストの検索中にエラー &V1 が発生しました。

説明:

大量変数プールからのユーザーのすべての大量変数の検索を試行中に、エラーが発生しました。理由コード: &V1。

ユーザーの処置:

IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

DSQ23774 大量変数 &V2 の挿入中にエラー &V1 が発生しました。

説明:

大量変数 &V2 を大量変数表 &V3 に挿入しようとしていたときに、エラーが発生しました。理由コード: &V1。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に問い合わせ、エラーを診断し、表 &V3 を訂正してください。

DSQ23775 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ23776 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ23777 記憶域プール &V1 に使用可能なスペースがありません。

説明:

SQL ステートメントが、新しいページまたはシャドウ・ページを要求していますが、記憶域プール &V1 には十分なスペースがありません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡して、記憶域プール &V1 のサイズを増やしてください。SQL ステートメントが REORGANIZE INDEX である場合、索引に無効の印が付いているかどうかを判別するように QMF 管理者に頼

んでください。索引が無効の場合は、索引を除去して再作成するか、記憶域の問題が訂正された後で、もう一度索引を再編成してください。

DSQ23778 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効な記憶域プール ID: &V1。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ23780 &V1 表の &V2 列に正しくないデータ・タイプが入っています。

説明: 427 ページの『DSQ23741』を参照してください。

DSQ23781 &V1 表の &V2 列に正しくないデータ長が入っています。

説明: 427 ページの『DSQ23739』を参照してください。

DSQ23782 &V1 表の &V2 列には NULL 値を入れることはできません。

説明: 427 ページの『DSQ23740』を参照してください。

DSQ23783 変数 &V3 は値の長さが正しくないため保存されませんでした。

説明:

ユーザー大域変数を大域変数表 &V4 に保存中に、正しくない値の長さが検出されました。大域変数「&V3」には、長さ &V1 の文字列値が含まれています。ただし、大域変数表 &V4 の VARVALUE 列の最大長は

&V2 です。大域変数「&V3」は、大域変数表には保存されません。

ユーザーの処置:

以下のすべてのステップを実行してください。

1. 大域変数表 &V4 を、最大大域変数値のサイズ (上限は 32767) に設定された VARVALUE 列を使用して再定義してください。
2. すべての大域変数値の長さが、VARVALUE 列のサイズ内に収まっていることを確認してください。

第 6 章 DSQ30101 - DSQ36999

これらの標準 QMF メッセージは、QMFの実行中に発生するエラーに対するものです。メッセージには、ソリューションを提供したり、エラーを診断したりするのに役立つ情報が含まれています。

DSQ30101 指示照会がデータベースにとって複雑すぎます。

説明:

指示照会を作成または実行するために必要な内部 QMF 照会が失敗しました。以下の場合にこのような状況が発生します。

1. 内部照会が長すぎるか、または複雑すぎる。
2. 使用されたすべての表の列の総数が、データベースの限界を超えている。

指示照会を使用した照会は、完了または実行できません。

ユーザーの処置:

照会を短くするか、または 2 つ以上の照会として書き直してください。

SQL code: -101

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30102 データが最大長を超えています。引用符を検査してください。

説明: 67 ページの『DSQ12302』を参照してください。

SQL code: -102

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30103 &V1 は数字で始まっていますが、有効な数値ではありません。

説明: 41 ページの『DSQ10503』を参照してください。

SQL code: -103

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30104 &V1 またはその近くにあるものが無効です。

説明: 67 ページの『DSQ12304』を参照してください。

SQL code: -104

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30105 &V1 または &V2. が間違っていて使われています。

説明:

次のことが考えられます。

1. + または * などの演算子がありません (例えば、SALARY COMM 間の +)。
2. 2 つの演算子を連続して指定しています。(例えば、SALARY +* COMM)
3. 予約語を間違っていて使っています。
4. 左右の括弧の数が対応していません。
5. 演算子が識別できません。
6. 他のデータベース・システムに有効なキーワードを使用しましたが、DB2 には無効です。

ユーザーの処置:

訂正して操作を続けてください。

SQL code: -105

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30106 式に指定された単一引用符の対応が取れていません。

説明:

式に単一引用符を挿入しましたが、対応する終わりの引用符がありません。

ユーザーの処置:

対応する引用符を正しい場所に挿入してください。

SQL code: -106

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30107 名前 &V1 が長すぎます。使用できる最大長は &V2 です。

説明:

DSQ30108 • DSQ30118

最大長を超える長さの名前が照会に含まれています。
この名前の長さを決める場合は、EBCDIC 文字は 1 バイトで、DBCS 文字は 2 バイトです。表名または視点名の修飾子は 8 バイトの長さを超えることができません。式の中の二重引用符の不整合が原因である場合もあります。

ユーザーの処置:

名前を短くするか、欠落している引用符を補ってください。

SQL code: -107

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30108 名前 &V1 が長すぎます。使用できる最大長は &V2 です。

説明: 433 ページの『DSQ30107』を参照してください。

SQL code: -108

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30110 &V1 は関数名ではありません。

説明:

関数には、AVG、MAX、MIN、SUM、COUNT、DATE、TIME、TIMESTAMP、YEAR、MONTH、DAY、HOUR、MINUTE、SECOND、MICROSECOND、CHAR、DAYS などがあります。&V1 が有効な関数である場合は、使用されている句読点が正しいことを確認してください。例えば、次のようになります。

```
MIN(PRICE), MAX(PRICE) is correct.  
DATE('1996-10-01') -10102433. is correct.
```

ユーザーの処置:

「DB2 QMF 解説書」を参照して、有効な関数を正しく使用していることを確認してください。

SQL code: -110

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30111 合計機能には、列名を指定しなければなりません。

説明:

列名を持たない式を含む合計機能を指定しました。合計機能は、列名を参照しなければなりません。例:

```
AVG(COMM + SALARY) is correct.  
AVG(1200 + 3498) is not correct.
```

ユーザーの処置:

合計機能の式を訂正してください。

SQL code: -111

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30112 合計機能に無効な式が含まれています。

説明:

合計機能は AVG、COUNT、MAX、MIN、および SUM です。合計機能に使用されている式の中に合計機能を使用することはできません。

```
Correct: AVG(UNITS * PRICE)  
Incorrect: AVG(UNITS * MAX(PRICE))
```

ユーザーの処置:

合計機能に正しい式が指定されるように照会を変更してください。

SQL code: -112

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30115 &V1 の使用法に誤りがあります。

説明: 69 ページの『DSQ12315』を参照してください。

SQL code: -115

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30116 データベースのラベルが長すぎます。

説明: 69 ページの『DSQ12316』を参照してください。

SQL code: -116

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30117 値の数と列の数が一致しません。

説明: 69 ページの『DSQ12317』を参照してください。

SQL code: -117

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30118 副照会の中で使用される表を変更することはできません。

説明: 69 ページの『DSQ12318』を参照してください。

SQL code: -118

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30119 グループ化に矛盾があります。

説明: 69 ページの『DSQ12319』を参照してください。

SQL code: -119

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30120 組み込み関数またはグループ化列の使用法に誤りがあります。

説明: 70 ページの『DSQ12320』を参照してください。

SQL code: -120

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30121 同一の照会で同じ列を二度変更することはできません。

説明: 70 ページの『DSQ12321』を参照してください。

SQL code: -121

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30124 **ORDER BY** の後に指定できるのは最大 16 列までです。

説明: 70 ページの『DSQ12324』を参照してください。

SQL code: -124

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30125 列 &V1. は **ORDER BY** に指定できません。

説明: 70 ページの『DSQ12325』を参照してください。

SQL code: -125

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30127 照会では、**DISTINCT** を重複して指定できません。

説明:

照会で、**DISTINCT** を複数回使用していました。選択した行の単一コピーを保存すると、**DISTINCT** が暗黙のうちに指定されます。保存した後に関数でも **DISTINCT** を指定した可能性があります。

ユーザーの処置:

照会では、**DISTINCT** を複数回使用しないでください。

SQL code: -127

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30128 **NULL** は、**IS** または **IS NOT** とともに使用してください。

説明: 71 ページの『DSQ12328』を参照してください。

SQL code: -128

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30129 照会で使用している表または列の数が多すぎます。

説明: 43 ページの『DSQ10529』を参照してください。

SQL code: -129

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30130 **SELECT** を 2 回使用する場合には、括弧が必要です。

説明: 71 ページの『DSQ12330』を参照してください。

SQL code: -130

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30132 **LIKE** の使用法に誤りがあります。

説明:

LIKE を用いて書いた条件が無効です。 **LIKE** の後には文字定数を続けてください。記号 % および _ も使用できます。以下に例を示します。

Write NAME LIKE 'J0%', where NAME is a column name.

ユーザーの処置:

LIKE を用いる条件を訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -132

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30133 **HAVING** または **WHERE** 文節の後の式の使用法に誤りがあります。

説明: 72 ページの『DSQ12333』を参照してください。

SQL code: -133

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30134 **LONG VARCHAR** 列が誤って使われています。

説明:

データ・タイプ **LONG VARCHAR** または **LONG VARCHAR** の列を使用するにはいくつかの制限があります。そういった列を照会の列セクションで選択することは、重複行セクションが各行の単一コピーの保持を指示している場合はできません。また、演算子「Starting With (次の指定で始まる)」、「Ending With (次の指定で終る)」、「Containing (次の指定を含む)」と共に行条件で使うことは、リレーショナル・データベース・マネージャーのいくつかのリリースでは許可されていません。

ユーザーの処置:

データ・タイプ **LONG VARCHAR** または **LONG VARCHAR** の列の用法を変えるか、単一コピーの行の保持を照会から除去します。

SQL code: -134

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30135 **LONG VARCHAR** 列が誤って使われています。

説明: 43 ページの『DSQ10534』を参照してください。

SQL code: -135

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30137 &V1 の結果の長さが、&V2. を超えています。

説明: 72 ページの『DSQ12337』を参照してください。

SQL code: -137

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30150 この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: 73 ページの『DSQ12350』を参照してください。

SQL code: -150

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30151 この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: 73 ページの『DSQ12350』を参照してください。

SQL code: -151

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30152 組み込み関数によって定義された列を条件に使用しています。

説明: 73 ページの『DSQ12352』を参照してください。

SQL code: -152

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30153 式または関数によって定義されたビューの列には名前が必要です。**(View columns defined by expressions or functions need names.)**

説明: 73 ページの『DSQ12353』を参照してください。

SQL code: -153

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30154 視点の定義または使用法が無効です。

説明: 73 ページの『DSQ12354』を参照してください。

SQL code: -154

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30155 **GROUP BY** または **HAVING** で定義されたビューが **FROM** の後に指定されています。**(A view defined by GROUP BY or HAVING is named after FROM.)**

説明: 74 ページの『DSQ12355』を参照してください。

SQL code: -155

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30156 視点の定義または使用法が無効です。

説明: 44 ページの『DSQ10556』を参照してください。

SQL code: -156

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30158 CREATE VIEW と SELECT の両リストには、同数の列が必要です。

説明: 74 ページの『DSQ12358』を参照してください。

SQL code: -158

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30163 コロン (:) の使用は無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10712』を参照してください。

SQL code: -163

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30164 DBCS 定数が無効です。

説明: 74 ページの『DSQ12364』を参照してください。

SQL code: -164

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30165 二重引用符で囲まれたデータの先頭にブランクは指定できません。

説明:

式の中に、二重引用符の次にブランクで始まるデータが続いています。これは許可されません。引用符で囲まなければならない有効な名前は、先頭にブランクを指定できません。

ユーザーの処置:

二重引用符で囲まれた名前が正しくなるように、式を訂正してください。

SQL code: -165

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30166 DBCS 定数が無効です。

説明: 74 ページの『DSQ12364』を参照してください。

SQL code: -166

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30167 16 進数リテラルが無効です。

説明: 75 ページの『DSQ12367』を参照してください。

SQL code: -167

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30169 DBCS 定数が無効です。

説明: 74 ページの『DSQ12364』を参照してください。

SQL code: -169

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30170 DBCS 定数が無効です。

説明: 74 ページの『DSQ12364』を参照してください。

SQL code: -170

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30171 スカラー関数 '&V2' の引数 '&V1' が無効です。

説明: 75 ページの『DSQ12371』を参照してください。

SQL code: -171

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30172 スカラー関数 '&V1' に指定した引数の数が無効です。

説明: 75 ページの『DSQ12372』を参照してください。

SQL code: -172

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30180 日時値の形式が無効です。

説明: 45 ページの『DSQ10580』を参照してください。

SQL code: -180

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30181 日時の値が無効です。

説明: 45 ページの『DSQ10581』を参照してください。

SQL code: -181

DSQ30182 • DSQ30204

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30182 日付時刻の値を使っている算術式が無効です。

説明: 76 ページの『DSQ12382』を参照してください。

SQL code: -182

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30183 日付、またはタイム・スタンプに関する算術演算で、無効な結果が出ました。

説明: 46 ページの『DSQ10583』を参照してください。

SQL code: -183

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30184 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -184

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30185 日付または時刻の値を形式設定できません。

説明: 46 ページの『DSQ10585』を参照してください。

SQL code: -185

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30187 単純期間が、日付 / 時刻算術式にありません。

説明: 76 ページの『DSQ12387』を参照してください。

SQL code: -187

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30191 混合データに、不適切な **DBCS** データ値が含まれています。

説明: 46 ページの『DSQ10591』を参照してください。

SQL code: -191

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30192 スカラー関数 *&V1* の最初の引数はサブタイプを **MIXED** にできません。

説明: 46 ページの『DSQ10592』を参照してください。

SQL code: -192

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30201 *&V1* はこの照会では有効な表名ではありません。

説明:

表名 **ID &V1** が、この式で誤って使われています。式のなかの表名は列名の修飾子としてしか使えません。例えば、次のようになります。

```
Q.STAFF.SALARY
```

ユーザーの処置:

表名が正しく使われるように式を訂正するか、式から表名を除去してください。

SQL code: -201

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30202 **SELECT**、**UPDATE**、**INSERT**、または **DELETE** ステートメントで指定されているいずれの表にも列 *&V1* は存在しません。(Column *&V1* is not in any table named in the **SELECT**, **UPDATE**, **INSERT**, or **DELETE** statement.)

説明: 77 ページの『DSQ12402』を参照してください。

SQL code: -202

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30203 列 *&V1* が複数の表にあります。

説明: 77 ページの『DSQ12403』を参照してください。

SQL code: -203

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30204 *&V1.&V2* は、システム・カタログにありません。

説明: 46 ページの『DSQ10604』を参照してください。

SQL code: -204

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30205 &V1 は、選択された表に定義された列ではありません。

説明:

&V1 が列として指定されていますが、選択した表のいずれにもありません。スペルを間違えた可能性があります。&V1 を文字定数として使用する場合は、単一引用符で囲んでください。

ユーザーの処置:

DISPLAY Q.COLUMN_LIST コマンドを使用して、使用許可を受けている表のすべての列に関する情報を表として表示できます。列名のスペルを確認した後、列名を訂正するかまたは列 &V1 が入っている表を照会に追加してください。

SQL code: -205

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30207 ORDER BY の後には、列名ではなく列番号を使用してください。

説明: 78 ページの『DSQ12407』を参照してください。

SQL code: -207

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30208 SELECT リストに &V1 がなければなりません。

説明: 78 ページの『DSQ12408』を参照してください。

SQL code: -208

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30209 ORDER BY の後に列 &V1 が指定されていますが、この列は、SELECT の後に 2 回出てきています。

説明: 78 ページの『DSQ12409』を参照してください。

SQL code: -209

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30211 表名 &V1 が不明です。

説明:

表名 &V1 が照会に複数個あります。表名が固有でないので、代替 ID を使う必要があります。例えば、

A.SALARY

ユーザーの処置:

代替 ID を使って、式の列名を修飾してください。

SQL code: -211

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30312 コロン (:) の使用は無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10712』を参照してください。

SQL code: -312

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30313 "?" の使用が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -313

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30330 1 つまたは複数の文字が現行サーバーによって使用可能なコードに変換されませんでした。

説明: 47 ページの『DSQ10730』を参照してください。

SQL code: -330

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30332 互換性のない CCSID によって文字ストリングは変換されませんでした。

説明: 47 ページの『DSQ10732』を参照してください。

SQL code: -332

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30351 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: 48 ページの『DSQ10751』を参照してください。

SQL code: -351

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30401 式が、異なるデータ・タイプを持つ複数の列を参照しています。

説明:

このエラーは、式が以下の場合に発生する可能性があります。

- 数値データと非数値データの両方を参照する。
- 文字データを図形データと比較する。
- XML 文書を別のデータ・タイプと比較する。

例えば、以下の指示照会の条件は、SALARY が数値列で、NAME が非数値列のため無効です。

```
If "NAME" Is Equal To SALARY
```

ユーザーの処置:

同じタイプのデータを参照または比較するように、式を変更してください。例えば、上記の無効な指示照会の条件は、次のように変更すると有効になります。

```
If "NAME" Is Equal To 'SANDERS'
```

SQL code: -401

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30402 数字データが必要です。

説明:

数字演算子または関数に数字データ以外のデータを使用しました。2つの例を示します。

```
NAME  
AVG(NAME)
```

ここで、NAME は数字として定義されていない列名です。

ユーザーの処置:

演算式または関数では数字データだけが使用されるように、照会を変更してください。

SQL code: -402

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30404 文字値が、それに対応する列または索引キーには長すぎます。

説明: 49 ページの『DSQ10804』を参照してください。

SQL code: -404

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30405 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 49 ページの『DSQ10805』を参照してください。

SQL code: -405

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30406 数値が、列に使用できる値の範囲外にあります。

説明: 49 ページの『DSQ10805』を参照してください。

SQL code: -406

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30407 NOT NULL の列を NULL 値で更新することはできません。

説明: 80 ページの『DSQ12607』を参照してください。

SQL code: -407

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30408 副照会から、適合性のないタイプのデータが返されました。

説明: 80 ページの『DSQ12608』を参照してください。

SQL code: -408

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30409 DISTINCT は COUNT 合計機能の式で使用しなければなりません。

説明:

指示照会では、合計機能 COUNT に指定できるのは DISTINCT と列名だけです。使用例を示します。

```
COUNT(DISTINCT column name)
```

上の例は、列内の異なった値の数を表示します。

ユーザーの処置:

COUNT の使用方法を変更してください。

SQL code: -409

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30410 値 '&V1' の長さが、許容される文字数を超えています。

説明: 50 ページの『DSQ10810』を参照してください。

SQL code: -410

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30411 **CURRENT SQLID** は、指定されているようには使用できません。

説明: 168 ページの『DSQ17411』を参照してください。

SQL code: -411

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30412 副照会の **SELECT** の後には列を **1** つしか使用できません。

説明: 80 ページの『DSQ12612』を参照してください。

SQL code: -412

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30413 データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 50 ページの『DSQ10813』を参照してください。

SQL code: -413

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30414 **LIKE** は文字データ、バイナリー・データ、またはグラフィック・データを必要としますが、列に含まれているのは数値データまたは日付/時刻データです。

説明: 81 ページの『DSQ12614』を参照してください。

SQL code: -414

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30415 **SELECT** リストの列属性が統一されていません。

説明: 81 ページの『DSQ12615』を参照してください。

SQL code: -415

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30416 長ストリング列を **UNION** で使用することはできません。

説明: 81 ページの『DSQ12616』を参照してください。

SQL code: -416

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30417 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -417

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30418 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -418

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30419 使用されている値を用いた **10** 進除算はできません。

説明: 51 ページの『DSQ10819』を参照してください。

SQL code: -419

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30421 偶数個の **16** 進文字が必要です。

説明: 82 ページの『DSQ12621』を参照してください。

SQL code: -421

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30422 各 **SELECT** リストの列数が一致していません。

説明: 82 ページの『DSQ12622』を参照してください。

SQL code: -422

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30423 IN の後の 16 進数リテラルは無効です。

説明: 82 ページの『DSQ12623』を参照してください。

SQL code: -423

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30516 GROUP BY または HAVING 文節を使用する副照会には、ALL、ANY、EXISTS、または IN が必要です。

説明: 82 ページの『DSQ12716』を参照してください。

SQL code: -516

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30550 所有者を "SYSTEM" とする &V1 の作成はできません。

説明: 84 ページの『DSQ12750』を参照してください。

SQL code: -550

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30551 指定されたオブジェクトが存在しないか、必要な権限がありません。

説明: 84 ページの『DSQ12751』を参照してください。

SQL code: -551

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30552 指定されたオブジェクトが存在しないか、必要な権限がありません。

説明: 84 ページの『DSQ12751』を参照してください。

SQL code: -552

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30554 自分自身に対して特権を付与することはできません。

説明: 84 ページの『DSQ12754』を参照してください。

SQL code: -554

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30555 自分自身が保有している特権を取り消すことはできません。

説明: 84 ページの『DSQ12755』を参照してください。

SQL code: -555

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30556 この特権を &V1. から取り消すことはできません。

説明: 85 ページの『DSQ12756』を参照してください。

SQL code: -556

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30557 この組み合わせの特権を付与または取り消すことはできません。

説明: 85 ページの『DSQ12757』を参照してください。

SQL code: -557

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30558 DBA から「特殊」特権を取り消すことはできません。

説明: 85 ページの『DSQ12758』を参照してください。

SQL code: -558

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30561 CONNECT 権限がなければデータベースを使用できません。

説明: 52 ページの『DSQ10961』を参照してください。

SQL code: -561

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30564 ステートメントが無効なユーザー ID を参照しています。

説明: 85 ページの『DSQ12764』を参照してください。

SQL code: -564

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30601 作成しようとしているオブジェクトの名前がすでに存在しています。

説明: 85 ページの『DSQ12801』を参照してください。

SQL code: -601

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30602 表または視点の中の列が多すぎるか、キー式の指定が正しくありません。

説明: 85 ページの『DSQ12802』を参照してください。

SQL code: -602

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30603 &V1 の列に重複値が含まれています。

説明: 86 ページの『DSQ12803』を参照してください。

SQL code: -603

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30604 許容最大幅を超えている定数を使用しました。

説明:

定数を使用しましたが、その幅が次のいずれかを超えています。エラーの原因は次のとおりです。

- DECIMAL 定数の幅が 15 を超えているか、または小数点桁数がその幅を超えています。
- CHAR、FLOAT、GRAPHIC、VARCHAR、または VARGRAPHIC 定数の長さがデータ・タイプの限界を超えています。

ユーザーの処置:

定数指定を変更し、データ・タイプの限界を調整して、照会をもう一度実行してください。データ・タイプの制限についての詳細な説明は、使用しているデータベース管理システム用の SQL 解説書を参照してください。

SQL code: -604

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30606 指定の表または列が存在しないか、他のユーザーが所有しています。

説明: 86 ページの『DSQ12806』を参照してください。

SQL code: -606

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30607 この DBSPACE にはこれ以上表を追加できません。

説明: 86 ページの『DSQ12807』を参照してください。

SQL code: -607

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30608 DBSPACE が見つかりません。

説明: 87 ページの『DSQ12808』を参照してください。

SQL code: -608

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30609 システム DBSPACE を変更することはできません。

説明: 87 ページの『DSQ12809』を参照してください。

SQL code: -609

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30610 指定した DBSPACE に表を作成することはできません。

説明: 87 ページの『DSQ12810』を参照してください。

SQL code: -610

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30611 ALTER TABLE とともに NOT NULL を使用することはできません。

説明: 87 ページの『DSQ12811』を参照してください。

SQL code: -611

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30612 列名 &V1 が 2 回使われています。

説明: 87 ページの『DSQ12812』を参照してください。

SQL code: -612

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30614 • DSQ30708

DSQ30614 選択された列に索引を付けることができません。

説明: 87 ページの『DSQ12814』を参照してください。

SQL code: -614

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30617 **CREATE INDEX** または **PRIMARY KEY** ステートメントに指定された列が多すぎます。

説明: 88 ページの『DSQ12817』を参照してください。

SQL code: -617

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30620 私用の回復可能 **DBSPACE** が使用できません。

説明: 88 ページの『DSQ12820』を参照してください。

SQL code: -620

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30640 図形と混合データ・タイプは現行サーバーによってサポートされていません。

説明: 52 ページの『DSQ11040』を参照してください。

SQL code: -640

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30657 **UPDATE STATISTICS** はビューと一緒に使用できません。(UPDATE STATISTICS does not work with a view.)

説明: 89 ページの『DSQ12857』を参照してください。

SQL code: -657

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30687 フィールド・プロシージャで定義された列との比較が無効です。(Invalid comparison with a column defined with a field procedure.)

説明: 52 ページの『DSQ11087』を参照してください。

444 DB2 QMF メッセージおよびコード

SQL code: -687

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30701 **DBSPACE** のデータのために割り振られているスペースがいっぱいです。

説明: 53 ページの『DSQ11101』を参照してください。

SQL code: -701

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30702 **DBSPACE** で索引用に割り当てられているスペースがいっぱいです。

説明: 53 ページの『DSQ11102』を参照してください。

SQL code: -702

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30703 **DBSPACE** のヘッダー情報用のスペースがいっぱいです。

説明: 53 ページの『DSQ11103』を参照してください。

SQL code: -703

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30704 要求されたサイズとタイプの使用可能な **DBSPACE** がありません。

説明: 92 ページの『DSQ12904』を参照してください。

SQL code: -704

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30705 &V1 に指定された値が無効です。

説明: 92 ページの『DSQ12905』を参照してください。

SQL code: -705

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30708 公用 **DBSPACE** の除去、ロック、または変更はできません。

説明: 92 ページの『DSQ12908』を参照してください。

SQL code: -708

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30709 この **DBSPACE** にはシステム・カタログ表が入っています。

説明: 92 ページの『DSQ12909』を参照してください。

SQL code: -709

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30710 この照会に必要な私用 **DBSPACE** は使用中です。

説明: 53 ページの『DSQ11110』を参照してください。

SQL code: -710

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30712 **INTERNAL DBSPACE** に照合を実行するだけの余地がありません。

説明: 53 ページの『DSQ11112』を参照してください。

SQL code: -712

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30801 **SQL** ステートメントの算術演算が、エラーに終わりました。

説明: 53 ページの『DSQ11201』を参照してください。

SQL code: -801

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30802 **SQL** コマンドにおける算術演算の結果、例外エラーが発生しました。(An arithmetic operation in the SQL command has resulted in an exception error.)

説明: 54 ページの『DSQ11202』を参照してください。

SQL code: -802

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30803 固有索引列の中に重複値があります。

説明: 54 ページの『DSQ11203』を参照してください。

SQL code: -803

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30805 パッケージ **&V1** が、カタログ表に見つかりません。

説明: 54 ページの『DSQ11205』を参照してください。

SQL code: -805

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30808 システム・カタログを変更する権限がありません。

説明: 55 ページの『DSQ11208』を参照してください。

SQL code: -808

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30809 行が長すぎます。

説明: 93 ページの『DSQ13009』を参照してください。

SQL code: -809

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30810 複数の値を生成する副照会があります。

説明: 93 ページの『DSQ13010』を参照してください。

SQL code: -810

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30813 視点のロックはできません。

説明: 93 ページの『DSQ13013』を参照してください。

SQL code: -813

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30814 システム・カタログ表やシステム **DBSPACE** はロックできません。

説明: 93 ページの『DSQ13014』を参照してください。

SQL code: -814

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30815 • DSQ30942

DSQ30815 アカウンティング・ユーザー出口ルーチンによって接続が拒否されました。

説明: 94 ページの『DSQ13015』を参照してください。

SQL code: -815

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30823 システム・カタログに対しこの操作は実行できません。

説明: 55 ページの『DSQ11223』を参照してください。

SQL code: -823

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30911 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 55 ページの『DSQ11311』を参照してください。

SQL code: -911

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30912 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 55 ページの『DSQ11311』を参照してください。

SQL code: -912

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30914 取り消し要求が出されました。

説明: 55 ページの『DSQ11314』を参照してください。

SQL code: -914

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30915 システム作業負荷が原因で照会は処理されませんでした。

説明: 55 ページの『DSQ11315』を参照してください。

SQL code: -915

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30916 オペレーターの処置が原因で照会は処理されませんでした。

説明: 55 ページの『DSQ11316』を参照してください。

SQL code: -916

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30930 データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明: 56 ページの『DSQ11330』を参照してください。

SQL code: -930

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30933 &V1 への通信パスが使用可能ではありません。

説明: 56 ページの『DSQ11333』を参照してください。

SQL code: -933

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30939 データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明: 56 ページの『DSQ11330』を参照してください。

SQL code: -939

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30940 データベース &V1 が作動可能でないか、または見つかりません。

説明: 56 ページの『DSQ11340』を参照してください。

SQL code: -940

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30942 データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明: 56 ページの『DSQ11330』を参照してください。

SQL code: -942

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30943 QMF 仮想計算機 &V2 は、データベース &V1 にアクセスできません。

説明: 56 ページの『DSQ11343』を参照してください。

SQL code: -943

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ30948 データベースへの接続は、オペレーター操作によって切断されました。

説明: 57 ページの『DSQ11348』を参照してください。

SQL code: -948

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31101 検索要求に含まれる列または値が多過ぎます。

説明:

次の理由で検索要求を完了できませんでした。

1. 編集している表または視点に含まれる列が多すぎる。
2. または、検索する値の指定が多すぎる。

ユーザーの処置:

更新が必要な列だけを含む視点を作成するか、または検索基準としてより少ない値を指定してください。

SQL code: -101

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31102 文字値が、それに対応する列または索引キーには長すぎます。

説明: 49 ページの『DSQ10804』を参照してください。

SQL code: -102

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31103 &V1 は数字で始まっていますが、有効な数値ではありません。

説明: 41 ページの『DSQ10503』を参照してください。

SQL code: -103

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31104 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明:

コンピューターは内部的な SQL エラーを検出しました。パネルの下部にエラー・コードが表示されます。

ユーザーの処置:

インストール先の手続きに従ってエラーを報告し、コマンドが正しく実行されているか検査してください。QMF は引き続き使用できます。

DSQ31105 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31106 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31107 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31108 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31109 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31110 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31111 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31112 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31113 • DSQ31129

DSQ31113 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31114 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31115 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31116 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31117 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31118 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31119 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31120 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31121 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31122 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31123 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31124 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31125 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31126 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31127 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31128 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31129 照会で使用している表または列の数が多すぎます。

説明: 43 ページの『DSQ10529』を参照してください。

SQL code: -129

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31130 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31131 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31132 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31133 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31134 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31135 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31136 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31137 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31138 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31139 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31140 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31141 挿入または更新の値がビュー定義を満たしません。**(Insert or update value does not satisfy view definition.)**

説明: 58 ページの『DSQ11441』を参照してください。

SQL code: -141

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31142 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31143 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31144 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31145 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31146 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31147 • DSQ31161

DSQ31147 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31148 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31149 指定されたオブジェクトを変更することができません。

説明: 73 ページの『DSQ12349』を参照してください。

SQL code: -149

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31150 この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: 73 ページの『DSQ12350』を参照してください。

SQL code: -150

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31151 この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: 73 ページの『DSQ12350』を参照してください。

SQL code: -151

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31152 視点の定義または使用法が無効です。

説明: 73 ページの『DSQ12354』を参照してください。

SQL code: -152

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31153 視点の定義または使用法が無効です。

説明: 73 ページの『DSQ12354』を参照してください。

SQL code: -153

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31154 視点の定義または使用法が無効です。

説明: 73 ページの『DSQ12354』を参照してください。

SQL code: -154

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31155 視点の定義または使用法が無効です。

説明: 73 ページの『DSQ12354』を参照してください。

SQL code: -155

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31156 視点の定義または使用法が無効です。

説明: 73 ページの『DSQ12354』を参照してください。

SQL code: -156

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31157 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31158 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31159 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31160 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31161 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31162 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31163 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31164 **DBCS** 定数が無効です。

説明: 74 ページの『DSQ12364』を参照してください。

SQL code: -164

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31165 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31166 **DBCS** 定数が無効です。

説明: 74 ページの『DSQ12364』を参照してください。

SQL code: -166

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31167 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31168 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31169 **DBCS** 定数が無効です。

説明: 74 ページの『DSQ12364』を参照してください。

SQL code: -169

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31170 **DBCS** 定数が無効です。

説明: 74 ページの『DSQ12364』を参照してください。

SQL code: -170

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31171 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31172 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31173 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31174 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31175 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31176 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31177 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31178 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31179 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31180 日時値の形式が無効です。

説明: 45 ページの『DSQ10580』を参照してください。

SQL code: -180

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31181 日時の値が無効です。

説明: 45 ページの『DSQ10581』を参照してください。

SQL code: -181

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31182 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31183 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31184 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31185 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31186 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31187 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31188 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31189 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31190 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31191 混合データに、不適切な **DBCS** データ値
が含まれています。

説明: 46 ページの『DSQ10591』を参照してください。

SQL code: -191

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31192 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31193 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31194 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31195 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31196 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31197 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31198 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31199 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31200 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31201 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31202 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31203 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31204 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31205 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31206 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31207 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31208 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31209 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31210 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31211 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31284 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31285 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31286 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31287 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31288 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31289 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31290 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31291 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31292 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31293 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31294 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31295 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31296 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31297 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31298 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31299 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31300 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31301 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31320 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31321 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31322 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31323 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31324 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31325 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31326 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31327 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31328 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31329 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31330 1 つまたは複数の文字が現行サーバーによ
って使用可能なコードに変換されませんでした。

説明: 47 ページの『DSQ10730』を参照してください。

SQL code: -330

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31331 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31332 互換性のない **CCSID** によって文字スト
リングは変換されませんでした。

説明: 47 ページの『DSQ10732』を参照してください。

SQL code: -332

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31333 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31334 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31335 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31336 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31337 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31338 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31339 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31340 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31341 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31342 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31343 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31344 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31345 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31346 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31347 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31348 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31349 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31350 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31351 位置 &V1. のデータ・タイプが無効で
す。

説明: 48 ページの『DSQ10751』を参照してください。

SQL code: -351

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31352 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31353 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31354 • DSQ31371

DSQ31354 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31355 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31356 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31357 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31358 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31359 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31360 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31361 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31362 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31363 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31364 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31365 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31366 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31367 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31368 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31369 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31370 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31371 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31390 • DSQ31406

DSQ31390 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31391 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31392 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31393 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31394 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31395 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31396 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31397 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31398 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31399 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31400 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31401 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31402 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31403 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31404 文字値が、それに対応する列または索引キ
ーには長すぎます。

説明: 49 ページの『DSQ10804』を参照してください。

SQL code: -404

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31405 数値が、列に使用できる値の範囲外にあり
ます。

説明: 49 ページの『DSQ10805』を参照してください。

SQL code: -405

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31406 数値が、列に使用できる値の範囲外にあり
ます。

説明: 49 ページの『DSQ10805』を参照してください。

SQL code: -406

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31407 NOT NULL の列を NULL 値で更新することはできません。

説明: 80 ページの『DSQ12607』を参照してください。

SQL code: -407

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31408 副照会から、適合性のないタイプのデータが返されました。

説明: 80 ページの『DSQ12608』を参照してください。

SQL code: -408

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31409 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31410 値 '&V1' の長さが、許容される文字数を超えています。

説明: 50 ページの『DSQ10810』を参照してください。

SQL code: -410

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31411 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31412 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31413 データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 50 ページの『DSQ10813』を参照してください。

SQL code: -413

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31414 LIKE は文字データ、バイナリー・データ、またはグラフィック・データを必要としますが、列に含まれているのは数値データまたは日付/時刻データです。

説明: 81 ページの『DSQ12614』を参照してください。

SQL code: -414

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31415 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31416 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31417 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31418 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31419 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31420 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31421 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31458 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31459 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31460 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31461 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31462 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31463 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31464 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31465 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31466 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31467 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31468 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31469 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31470 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31471 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31472 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31473 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31474 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31475 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31494 • DSQ31511

DSQ31494 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31495 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31496 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31497 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31498 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31499 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31500 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31501 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31502 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31503 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31504 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31505 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31506 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31507 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31508 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31509 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31510 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31511 この視点の中のデータを変更することはありません。

説明: 73 ページの『DSQ12350』を参照してください。

SQL code: -511

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31512 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31513 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31514 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31515 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31516 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31517 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31518 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31519 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31520 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31521 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31522 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31523 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31524 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31525 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31526 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31527 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31528 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31529 • DSQ31545

DSQ31529 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31530 外部キーの値が無効です。

説明: 51 ページの『DSQ10930』を参照してください。

SQL code: -530

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31531 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31532 従属行のため、行の更新または削除はできません。

説明: 51 ページの『DSQ10932』を参照してください。

SQL code: -532

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31533 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31534 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31535 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31536 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31537 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31538 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31539 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31540 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31541 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31542 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31543 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31544 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31545 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31546 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31547 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31548 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31549 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31550 所有者を **"SYSTEM"** とする **&V1** の作成はできません。

説明: 84 ページの『DSQ12750』を参照してください。

SQL code: -550

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31551 これを行う権限がありません。

説明:

行う内容によって次の権限が必要です。

1. 追加モードでは表または視点の編集に **SELECT** および **INSERT** の権限が必須です。
2. 検索モードでは表または視点の編集の **SELECT** 権限が必須です。
3. 変更モードでは表またはビューに **SELECT** 権限および以下の権限が必要です。
 - 表の少なくとも 1 つの列に対する **UPDATE** 権限 (行の変更のため)
 - **DELETE** 権限 (行の削除のため)
4. 読み取り専用の視点では行の追加、変更または削除はできません。しかし、行の探索、または表示ができます。

ユーザーの処置:

必要な権限を得るには **QMF** 管理者に相談してください。

SQL code: -551

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31552 指定されたオブジェクトが存在しないか、必要な権限がありません。

説明: 84 ページの『DSQ12751』を参照してください。

SQL code: -552

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31553 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31554 自分自身に対して特権を付与することはできません。

説明: 84 ページの『DSQ12754』を参照してください。

SQL code: -554

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31555 自分自身が保有している特権を取り消すことはできません。

説明: 84 ページの『DSQ12755』を参照してください。

SQL code: -555

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31556 この特権を **&V1.** から取り消すことはできません。

説明: 85 ページの『DSQ12756』を参照してください。

SQL code: -556

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31557 この組み合わせの特権を付与または取り消すことはできません。

説明: 85 ページの『DSQ12757』を参照してください。

SQL code: -557

DSQ31558 • DSQ31573

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31558 DBA から「特殊」特権を取り消すことはできません。

説明: 85 ページの『DSQ12758』を参照してください。

SQL code: -558

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31559 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31560 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31561 **CONNECT** 権限がなければデータベースを使用できません。

説明: 52 ページの『DSQ10961』を参照してください。

SQL code: -561

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31562 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31563 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31564 ステートメントが無効なユーザー **ID** を参照しています。

説明: 85 ページの『DSQ12764』を参照してください。

SQL code: -564

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31565 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31566 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31567 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31568 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31569 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31570 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31571 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31572 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31573 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31592 • DSQ31607

DSQ31592 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31593 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31594 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31595 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31596 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31597 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31598 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31599 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31600 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31601 作成しようとしているオブジェクトの名前がすでに存在しています。

説明: 85 ページの『DSQ12801』を参照してください。

SQL code: -601

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31602 表または視点の中の列が多すぎるか、キー式の指定が正しくありません。

説明: 85 ページの『DSQ12802』を参照してください。

SQL code: -602

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31603 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31604 許容最大幅を超えている定数を使用しました。

説明: 443 ページの『DSQ30604』を参照してください。

SQL code: -604

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31605 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31606 指定の表または列が存在しないか、他のユーザーが所有しています。

説明: 86 ページの『DSQ12806』を参照してください。

SQL code: -606

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31607 この **DBSPACE** にはこれ以上表を追加できません。

説明: 86 ページの『DSQ12807』を参照してください。

SQL code: -607

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31608 DBSPACE が見つかりません。

説明: 87 ページの『DSQ12808』を参照してください。

SQL code: -608

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31609 システム DBSPACE を変更することはできません。

説明: 87 ページの『DSQ12809』を参照してください。

SQL code: -609

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31610 指定した DBSPACE に表を作成することはできません。

説明: 87 ページの『DSQ12810』を参照してください。

SQL code: -610

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31611 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31612 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31613 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31614 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31615 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31616 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31617 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31618 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31619 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31620 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31621 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31622 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31623 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31624 • DSQ31640

DSQ31624 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31625 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31626 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31627 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31628 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31629 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31630 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31631 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31632 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31633 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31634 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31635 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31636 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31637 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31638 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31639 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31640 図形と混合データ・タイプは現行サーバー
によってサポートされていません。

説明: 52 ページの『DSQ11040』を参照してください。

SQL code: -640

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31695 • DSQ31710

DSQ31695 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31696 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31697 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31698 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31699 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31700 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31701 **DBSPACE** のデータのために割り振られて
いるスペースがいっぱいです。

説明: 53 ページの『DSQ11101』を参照してください。

SQL code: -701

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31702 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31703 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31704 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31705 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31706 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31707 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31708 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31709 この **DBSPACE** にはシステム・カタログ
表が入っています。

説明: 92 ページの『DSQ12909』を参照してください。

SQL code: -709

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31710 この照会に必要な私用 **DBSPACE** は使用中
です。

説明: 53 ページの『DSQ11110』を参照してください。

SQL code: -710

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31711 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31712 **INTERNAL DBSPACE** に照合を実行するだけの余地がありません。

説明: 53 ページの『DSQ11112』を参照してください。

SQL code: -712

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31713 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31714 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31715 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31716 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31717 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31718 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31719 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31720 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31721 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31722 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31723 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31724 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31725 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31726 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31727 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31800 • DSQ31814

DSQ31800 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31801 **SQL** ステートメントの算術演算が、エラーに終わりました。

説明: 53 ページの『DSQ11201』を参照してください。

SQL code: -801

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31802 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31803 固有索引列の中に重複値があります。

説明: 54 ページの『DSQ11203』を参照してください。

SQL code: -803

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31804 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31805 パッケージ **&V1** が、カタログ表に見つかりません。

説明: 54 ページの『DSQ11205』を参照してください。

SQL code: -805

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31806 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31807 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31808 システム・カタログを変更する権限がありません。

説明: 55 ページの『DSQ11208』を参照してください。

SQL code: -808

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31809 行が長すぎます。

説明: 93 ページの『DSQ13009』を参照してください。

SQL code: -809

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31810 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31811 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31812 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31813 視点のロックはできません。

説明: 93 ページの『DSQ13013』を参照してください。

SQL code: -813

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31814 システム・カタログ表やシステム **DBSPACE** はロックできません。

説明: 93 ページの『DSQ13014』を参照してください。

SQL code: -814

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31815 アカウンティング・ユーザー出口ルーチンによって接続が拒否されました。

説明: 94 ページの『DSQ13015』を参照してください。

SQL code: -815

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31816 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31817 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31818 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31819 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31820 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31821 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31822 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31823 システム・カタログに対しこの操作は実行できません。

説明: 55 ページの『DSQ11223』を参照してください。

SQL code: -823

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31824 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31825 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31826 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31827 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31828 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31829 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31830 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31867 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31868 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31869 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31870 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31871 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31872 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31873 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31874 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31875 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31876 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31877 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31878 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31879 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31880 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31881 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31882 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31883 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31884 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31885 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31886 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31887 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31888 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31889 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31890 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31891 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31892 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31893 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31894 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31895 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31896 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31897 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31898 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31899 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31900 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31901 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31902 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31903 • DSQ31915

DSQ31903 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31904 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31905 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31906 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31907 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31908 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31909 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31910 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31911 データベースに行った変更は失われました。

説明:

過度のロック、またはロックの競合によって、データベース・マネージャーはデータベースの更新を取り消しま

した。編集していた表の追加、更新または削除は失効されました。

ユーザーの処置:

表編集セッションを終了し、最後の変更を再度行ってください。

SQL code: -911

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31912 データベースに行った変更は失われました。

説明: 『DSQ31911』を参照してください。

SQL code: -912

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31913 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31914 データベースに行った変更は失われました。

説明:

取り消し要求が出されました。CANCEL は、ユーザーあるいはシステムによって出された可能性があります。システムによって出された CANCEL はロック要求プログラムの限界に達したためです。

ユーザーの処置:

必要であれば変更をやり直してください。CANCEL 要求を出していないのに **SQLCODE -914** を受け取り続ける場合は、システム・プログラマーに連絡して、アプリケーション・サーバーが開始するときの **NLRBU** または **NLRBS** パラメーターを大きくするようにしてください。

SQL code: -914

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31915 データベースに行った変更は失われました。

説明: 『DSQ31911』を参照してください。

SQL code: -915

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31916 オペレーターの処置が原因で照会は処理されませんでした。

説明: 55 ページの『DSQ11316』を参照してください。

SQL code: -916

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31917 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31918 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31919 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31920 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31921 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31922 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31923 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31924 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31925 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31926 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31927 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31928 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31929 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31930 データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明: 56 ページの『DSQ11330』を参照してください。

SQL code: -930

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31931 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31932 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31933 &V1 への通信パスが使用可能ではありません。

説明: 56 ページの『DSQ11333』を参照してください。

SQL code: -933

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31934 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31935 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31936 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31937 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31938 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31939 データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明: 56 ページの『DSQ11330』を参照してください。

SQL code: -939

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31940 データベース &V1 が作動可能でないか、または見つかりません。

説明: 56 ページの『DSQ11340』を参照してください。

SQL code: -940

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31941 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31942 データベース・マネージャーは記憶域を使い果たしました。

説明: 56 ページの『DSQ11330』を参照してください。

SQL code: -942

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31943 **QMF** 仮想計算機 &V2 は、データベース &V1 にアクセスできません。

説明: 56 ページの『DSQ11343』を参照してください。

SQL code: -943

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31944 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31945 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31946 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31948 データベースへの接続は、オペレーター操作によって切斷されました。

説明: 57 ページの『DSQ11348』を参照してください。

SQL code: -948

Database: DB2 Server for VSE & VM

DSQ31949 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31950 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31951 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31952 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31953 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31954 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31955 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31956 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31957 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31958 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31959 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31960 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31961 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31962 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31963 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31964 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31965 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31966 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31967 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31968 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31969 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31970 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31971 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31972 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31973 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31974 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31975 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31976 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31977 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31978 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31979 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31980 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31981 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31982 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31983 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31984 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31985 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31986 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31987 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31988 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31989 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31990 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31991 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31992 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31993 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31994 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31995 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31996 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31997 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31998 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ31999 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ32001 **SQL** エラーが検出されました。

説明:

このエラーの詳細な説明については、ご使用のデータベース管理システムのメッセージおよびコードに関する情報を参照してください。

DSQ32002 • DSQ32007

SQLCA: .br &V1

ユーザーの処置:

SQLCODE エラーを解決して、再試行してください。

DSQ32002 関数の引数が長すぎます。

説明:

MIN または MAX 関数、あるいは COUNT 関数の引数が長すぎます。MIN 列または MAX 列関数、あるいはスカラー関数の引数は 256 バイトを超えることができません。引数が図形の場合、128 DBCS 文字を超えることはできません。DISTINCT の指定がある場合、COUNT 関数の引数は 2000 バイトを超えることはできません。引数が図形の場合、DBCS の 1000 文字を超えることはできません。

ユーザーの処置:

長さが最大値を超えないように関数の引数を変更してください。要求を再試行してください。

DSQ32003 ORDER BY または GROUP BY 列が長すぎます。

説明:

ORDER BY リストのエレメントの最大数は 10000 です。ORDER BY エレメントの全体の合計の長さは 10000 バイトを超えることはできません。GROUP BY リストの列の最大数は 120 です。GROUP BY 列の全体の合計の長さは 2000 バイトを超えることはできません。ORDER BY リスト、または GROUP BY リストに NULL 値使用可能な列を含む場合、その各列ごとに 1 バイトの追加が必要になります。ORDER BY リスト、または GROUP BY リストが可変長文字の列を含む場合、さらに 2 バイトを全体の長さに組み込みます。

ユーザーの処置:

ORDER BY または GROUP BY の値が制限を超えないようにステートメントを変更してください。そのためには、該当の文節から 1 つまたは複数の列名を除去する必要があります。要求を再試行してください。

DSQ32004 &V2 の制約 &V1 に対する制約タイプが無効です。

説明:

ALTER TABLE ステートメントを使用して、&V2 の制約 &V1 を除去しようとしてください。

UNIQUE、PRIMARY、または FOREIGN KEY として制約が指定されましたが、検出された制約と一致しません。

ユーザーの処置:

除去しようとしている制約の名前とタイプを検証してください。要求を再試行してください。

DSQ32005 FOREIGN KEY 文節では &V2 の &V1 は有効ではありません。

説明:

&V2 の視点または表 &V1 が、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントにおける FOREIGN KEY 参照制約の定義の REFERENCES 文節で指定されました。視点および表は FOREIGN KEY 文節では指定することはできません。

ユーザーの処置:

FOREIGN KEY 文節に、親キーを含む基礎表を指定してください。要求を再試行してください。

DSQ32006 ORDER BY 式が無効です。

説明:

ORDER BY 文節の位置 &V1 の式が、理由コード &V3. により無効です。

- SELECT ステートメントが UNION を含む。
- SELECT 文節に DISTINCT が指定され、その式が選択リストの式と正確に一致していない。
- 選択リストで列関数を使用しているか、あるいは GROUP BY 文節があるが、式が列関数でないか、または選択リストの式と正確に一致していない。
- ORDER BY 文節の列関数をグループ化する必要がある。

ユーザーの処置:

理由 &V3 に対してリストされた変更を行って、要求を再試行してください。

- ORDER BY 文節から式を除去してください。
- SELECT 文節から DISTINCT を除去するか、あるいは数値列 ID または列名を使用して選択リスト項目を参照するように ORDER BY 式を変更してください。
- ORDER BY 文節の式を列関数に変更するか、数値列 ID または列名を使用するように変更してください。
- GROUP BY 文節を追加するか、ORDER BY 文節から列関数を除去してください。

DSQ32007 SQL エラーが検出されました。

説明: 499 ページの『DSQ32001』を参照してください。

DSQ32008 SQL エラーが検出されました。

説明: 499 ページの『DSQ32001』を参照してください。

DSQ32009 SELECT リストの列属性が統一されていません。

説明:

UNION か UNION ALL で複数の照会を結合しました。その場合、各照会の SELECT リストには、同数の列がなければなりません。各 SELECT リストの対応する列はすべて、後続の SELECT のデータ定義と比較可能でなければなりません。対応する列にフィールド・プロシージャがあれば、両者は同じフィールド・プロシージャおよび CCSID 値をもたなければなりません。

ユーザーの処置:

照会を比較が可能な列の SELECT リストで書き直して、照会を再実行してください。

DSQ32010 SQL エラーが検出されました。

説明: 499 ページの『DSQ32001』を参照してください。

DSQ32011 SQL エラーが検出されました。

説明: 499 ページの『DSQ32001』を参照してください。

DSQ32012 SQL エラーが検出されました。

説明: 499 ページの『DSQ32001』を参照してください。

DSQ32013 SQL エラーが検出されました。

説明: 499 ページの『DSQ32001』を参照してください。

DSQ32014 SQL エラーが検出されました。

説明: 499 ページの『DSQ32001』を参照してください。

DSQ32015 参照制約 &V1. (&V2. 内) によって更新ができませんでした。

説明:

&V2 の制約 &V1 は、更新対象の表を、従属表 &V3 (&V4 内) との関連で親表として識別し、その際に更新

規則 RESTRICT または NO ACTION を使用します。従属表に一致する値をもつ行が存在する場合、親キーの更新は防止されます。

ユーザーの処置:

更新を行うには、制約を除去するか、またはこの行に従属する従属表の行を削除してください。

DSQ32016 制約 &V1 の FOREIGN キーは、親キーとは同じではありません。

説明:

&V2 の制約 &V1 の FOREIGN キーが、&V4 の表 &V3 の親キーと一致しません。FOREIGN キーは親キーと同じ数の列をもつ必要があり、しかも FOREIGN のデータ・タイプと属性は、親キーの対応する列のデータ・タイプおよび属性と同一である必要があります。

ユーザーの処置:

FOREIGN キーの記述が指定された表の親キーの記述と一致するようにステートメントを訂正してください。

DSQ32017 表 &V1.&V2 には、主キーがありません。

説明:

FOREIGN KEY 文節で親表として表 &V1.&V2 を指定しましたが、この表は主キーがないため、親表は定義できません。

ユーザーの処置:

ALTER TABLE を使用し表に主キーを定義してください。

DSQ32018 コマンドの実行に必要な権限がありません。

説明:

&V2 のオブジェクト &V1 に対して操作を試みましたが、必要な権限がない場合、この操作は実行することができません。

ユーザーの処置:

セキュリティ担当者またはオブジェクト所有者から必要な権限を入手してください。操作を再試行してください。

DSQ32019 特権は、表または視点 &V1 (&V2 内) に対して有効ではありません。

説明:

指定された特権は、次のいずれかの理由で無効です。

- INDEX 特権は表と物理ファイルに対して有効であるが、視点に対しては無効である。視点には索引を作成できない。
- &V2 の表または視点 &V1 に該当する機能がないため、指定された特権は無効である。例えば、DELETE、INSERT、および UPDATE 特権は読み取り専用のビューに対して無効である。

ユーザーの処置:

適切な機能を持つ表またはビューを指定するか、または SQL ステートメントから無効な特権を除去してください。

DSQ32020 タイプ &V3 の、&V2 内の &V1 は、すでに存在しています。

説明:

&V2 に &V1 を作成しようとしたか、または表、視点、または索引の名前を &V1 に変更しようとしたが、&V1 は既に存在しています。同じライブラリーにある表、ビュー、索引、SQL パッケージ、および制約はすべて固有の名前をもつ必要があります。ライブラリー名が *N である場合、このエラーは CREATE COLLECTION ステートメントであり、これが CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントで、しかもタイプが *N の場合は、&V1 は制約です。

ユーザーの処置:

&V1 を存在しない名前に変更するか、該当の既存のオブジェクトを削除、移動、またはリネームしてください。要求を再試行してください。

DSQ32021 &V2 のシステム・テーブル &V1 に対する操作が許可されていません。

説明:

&V2 の表または視点 &V1 はカタログまたはシステム・テーブルです。カタログおよびシステム・テーブルは、ユーザーによる変更またはロックを行うことはできません。

ユーザーの処置:

システム・テーブルではない表を参照するように SQL ステートメントを変更してください。要求を再試行してください。

DSQ32022 タイプ &V3 の、&V2 の &V1 を **RESTRICT** で除去することはできません。

説明:

RESTRICT オプションを使用して &V2 の &V1 を除去しようとした。&V1 は、視点、制約または索引が従属しているため、除去できません。

ユーザーの処置:

&V1 および従属している視点、制約、または索引を除去するには、ALTER TABLE ステートメントに CASCADE を指定してください。要求を再試行してください。

DSQ32023 &V2 の表 &V1 にはすでに主キーがあります。

説明:

&V2 の表 &V1 に主キーまたは固有キーを追加しようとした。主キーがすでにこの表に対して定義済みであるか、または追加しようとしているキーと一致しないアクセス・パスがあります。表は主キーを 1 つだけ持つことができます。制約を追加できません。

ユーザーの処置:

表に現在定義されている主キーを除去するか、または UNIQUE 制約を追加してください。表のアクセス・パスが一致しない場合、制約の列の数とアクセス・パスの列の数がかどうかを確認してください。要求を再試行してください。

DSQ32024 SET NULL は参照制約 &V1. に対して使用できません。

説明:

REFERENCES 文節で、参照制約 &V1. に対して SET NULL が指定されました。外部キーの列に NULL 値可能な列がありません。

ユーザーの処置:

外部キーの列の少なくとも 1 つの列が NULL 値を許可するように表を作成するか、または ON DELETE 文節で別のデフォルト・アクションを指定してください。要求を再試行してください。

DSQ32025 &V2 の参照制約 &V1 の外部キーが長すぎます。

説明:

&V2 の制約 &V1 の FOREIGN キーは作成できません。FOREIGN KEY 文節に 120 を超える列を指定したか、またはキーに指定された列の長さの合計が最大値の 2000 バイトを超えました。リストに NULL 値使用可能な列が含まれる場合、その各列ごとに長さとして 1 バイトの追加が必要になります。リストに可変長の列

が含まれる場合、さらに 2 バイトを全体の長さに組み込みます。

ユーザーの処置:

FOREIGN KEY 文節からいくつかの列を除去してください。要求を再試行してください。

DSQ32026 見積りの照会処理時間 &V1 は制限 &V2 を超えています。

説明:

見積りの照会処理時間は、制限を超えています。制限値は &V2 秒です。SQL 照会を開始しようとしたが、稼働に必要な経過時間として見積もられた時間は、照会の時間制限属性により許可された時間を超えています。見積経過時間は &V1 秒でした。

ユーザーの処置:

照会に対して以下の変更を行うことにより、見積経過時間を削減して照会時間制限内に収めることができます。

- 照会を変更して、より限定したレコード選択の指定を行うことにより、戻されるレコードの数を減らすようにする。
- 照会のレコード選択を変更し、既存のアクセス・パスを使用してレコードをより早く処理できるようにする。
- SQL CREATE INDEX ステートメントを使用して、照会のレコード選択に合ったキーを用いてアクセス・パスを作成する。
- 順序付け指定を変更して、一時的なアクセス・パスを構築する必要も、ソートを実行することもないようにする。
- フィールド指定のグループ化を変更して、左端のキー・フィールドが既存のアクセス・パスと一致するようにする。
- OPTIMIZE FOR NN ROWS 文節を指定する。ここで NN は照会が終了するまでに検索する実際のレコード数を表す。この文節により照会最適化プログラムは、照会が最後まで実行されない可能性を想定し、その結果として時間見積もりが削減されます。
- 照会の出力タイプを変更して、結果をディスプレイに表示する。
- ジョブ・ログに含まれる照会デバッグ・メッセージにより、パフォーマンス情報や推奨事項を調べる。これらのメッセージはジョブ・ログ中でこのエラー・メッセージに先行し、追加情報や推奨事項を示していません。

DSQ32027 SQL エラーが検出されました。

説明: 499 ページの『DSQ32001』を参照してください。

DSQ32028 SQL エラーが検出されました。

説明: 499 ページの『DSQ32001』を参照してください。

DSQ32029 コマンドが現行のプランに見つからないプログラムを呼び出しました。

説明:

リモート要求が、&V2 の SQL パッケージ &V1 に対して &V3 を試みました。該当の SQL パッケージは検出されませんでした。

ユーザーの処置:

呼び出しプロシージャを調査してください。PLANID のスペルを間違えて指定したものと思われる。

DSQ32030 リソースの限界を超えました。

説明:

リソース限界タイプ &V1 を超えました。以下に限界タイプをリストします。

- タイプ 1: ユーザー・プロファイル記憶域、またはマシン記憶域の限界を超えた。
- タイプ 2: マシン・ロック限界を超えた。
- タイプ 3: 照会リソース限界を超えた。
- タイプ 4: ジャーナル・エラーが発生した。
- タイプ 5: コミット・ロック限界を超えた。
- タイプ 6: 表の最大サイズに達した。

ユーザーの処置:

下記の 1 つを行ってください。

- エラー・タイプ 1 の場合、QMF 管理者に連絡して、ユーザー・プロファイル記憶域の限界を増やすか、またはいくつかのオブジェクトを削除して記憶域を解放して、要求を再試行する。
- エラー・タイプ 2 の場合、マシン・ロック保留の数が減ってから操作を試みる。
- エラー・タイプ 3、4、または 5 の場合、QMF 管理者に連絡して、リソース限界を増やす。
- エラー・タイプ 6 の場合、この表からいくつかの行を他の表に移動する必要がある。

DSQ32031 タイプ &V3 の、&V2 内の行またはオブジェクト &V1 は使用中です。

説明:

タイプ &V3 の、&V2 内の要求されたオブジェクト &V1 は、別のアプリケーション・プロセスにより使用中であるか、オブジェクト内の 1 行が別のアプリケーション・プロセスにより使用中です。

ユーザーの処置:

後で再試行してください。

DSQ32032 このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明: 10 ページの『DSQ10013』を参照してください。

DSQ32033 オブジェクト &V2 のスキーマ &V1 が無効です。

説明:

オブジェクト &V1 はスキーマ &V2 で修飾できません。一時表は SESSION または QTEMP で修飾しなければなりません。一時表の索引および視点は、スキーマ SESSION または QTEMP で作成する必要があります。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

スキーマ名としてセッションを指定してください。要求を再試行してください。

DSQ32034 ID 列の値は使用できません。

説明:

IDENTITY 列のすべての値がすでに割り当てられていたため、INSERT または UPDATE ステートメントを実行できません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

より広範囲の値を IDENTITY 列に許可するように、または IDENTITY 値の循環を許可するように列を変更してください。

DSQ32035 DEFAULT は列 &V1 には指定できません。

説明:

次のいずれかの状況が起きています。

- DEFAULT 文節が CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの IDENTITY 列または ROWID 列に指定されている。
- SET ステートメントが、GENERATED BY DEFAULT として定義された IDENTITY 列または ROWID 列に DEFAULT を割り当てる SQL トリガーの中で指定されている。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

列の定義から DEFAULT 文節を除去するか、DEFAULT の値を割り当てないように SET ステートメントを変更してください。要求を再試行してください。

DSQ32036 &V2 での関数 &V1 の使用は無効です。

説明:

次のいずれかの状況が起きています。

- 表関数が FROM 文節以外の文節に指定された。
- 関数が FROM 文節に指定されたが、その関数が表関数ではない。
- 表関数がソース関数として CREATE FUNCTION ステートメントに指定された。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

文節から関数を除去するか、別の関数が見つかるように、関数名の引数またはパスを変更してください。要求を再試行してください。

DSQ32037 ROWID 列 &V1 の値が無効です。

説明:

ROWID 列 &V1 に指定された値が無効なため、INSERT または UPDATE ステートメントを実行できません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST.

ユーザーの処置:

列 &V1 を列リストから除去するか、有効な ROWID の値または DEFAULT を列 &V1 に指定してください。

DSQ32038 ステートメントは &V1 TEMPORARY TABLE に対して無効です。

説明:

&V1 TEMPORARY TABLE は ALTER

TABLE、COMMENT ON、CREATE TRIGGER、GRANT、LABEL ON、LOCK TABLE、RENAME、または REVOKE ステートメントでは指定できません。 &V1 TEMPORARY TABLE には制約を指定できません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST。

ユーザーの処置:

ステートメントに有効な表を指定するか、制約を除去してください。要求を再試行してください。

DSQ32039 ROWID 列のある表は QTEMP では許可されていません。

説明:

ROWID 列のある表を QTEMP 内に作成することはできません。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST。

ユーザーの処置:

ROWID 列を除去するか、QTEMP 以外のスキーマに表を作成します。要求を再試行してください。

DSQ32040 行の長さが 3.5 ギガバイトを超えます。

説明:

INSERT または UPDATE ステートメントへの入力に使用する値の長さのために、行の長さが最大長の 3.5 ギガバイトを超えます。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST。

ユーザーの処置:

すべてのフィールド長の合計が 3.5 ギガバイトより小さい行の長さになるように、ステートメントを変更してください。

DSQ32041 属性が IDENTITY 列には無効です。

説明:

問題のいくつかの原因は、次のとおりです。

- IDENTITY 列のデータ・タイプが、INTEGER、BIGINT、SMALLINT、または位取りがゼロの DECIMAL あるいは NUMERIC ではない。
- START WITH、INCREMENT BY、MINVALUE、または MAXVALUE に指定された値が、IDENTITY 列に指定されたデータ・タイプの範囲外にある。
- MINVALUE に指定された値が MAXVALUE に指定された値より大きい。
- CACHE に指定された値が無効。CACHE の最小値は 2 です。

次の SQLSTATE が返されました: &DSQSQLST。

ユーザーの処置:

IDENTITY 列に有効な属性を指定してください。要求を再試行してください。

DSQ33104 &V1. の使用法に誤りがあります。

説明:

次のことが考えられます。

1. + または * などの演算子がありません (例えば、SALARY COMM 間の +)。
2. 2 つの演算子を連続して指定しています。(例えば、SALARY +* COMM)
3. 予約語を間違って使っています。
4. 左右の括弧の数が対応していません。
5. 演算子が識別できません。
6. DB2 以外のデータベース・システムでは有効であるが、DB2 では有効でないキーワードを使用している。

ユーザーの処置:

訂正して操作を続けてください。

DSQ33440 名前 &V2 では、互換性がある引数を持つ &V1 は見つかりませんでした。

説明: 206 ページの『DSQ18440』を参照してください。

DSQ33557 指定された組み合わせで特権を付与または取り消すことができません。

説明: 206 ページの『DSQ18557』を参照してください。

DSQ33632 FOREIGN KEY &V1 は無効です。

説明: 206 ページの『DSQ18632』を参照してください。

DSQ33633 FOREIGN KEY &V1 の削除規則は &V2 でなければなりません。

説明: 207 ページの『DSQ18633』を参照してください。

DSQ34104 &V1. の使用法に誤りがあります。

説明: 『DSQ33104』を参照してください。

DSQ34440 • DSQ35104

DSQ34440 名前 &V2 では、互換性がある引数を持つ &V1 は見つかりませんでした。

説明: 206 ページの『DSQ18440』を参照してください。

DSQ34557 指定された組み合わせで特権を付与または取り消すことができません。

説明: 206 ページの『DSQ18557』を参照してください。

DSQ34632 FOREIGN KEY &V1 は無効です。

説明: 206 ページの『DSQ18632』を参照してください。

DSQ34633 FOREIGN KEY &V1 の削除規則は &V2 でなければなりません。

説明: 207 ページの『DSQ18633』を参照してください。

DSQ35007 照会の中の文字 "&V1" は無効です。

説明: 148 ページの『DSQ17007』を参照してください。

SQL code: -007

Database: DB2 for z/OS

DSQ35010 値の終わりには引用符が必要です。

説明:

文字定数は単一引用符で囲む必要があります (例: 'SANDERS')。データベースのオブジェクト (表や列など) の名前は二重引用符で囲みます (例: "MYTABLE")。最後の引用符がないと、定数または名前がどこで終わっているか判断できません。引用符を別の引用符で囲まれたストリング内で使用する場合、2 つの連続する引用符で示さなければなりません。例えば、次のようになります。

```
Correct:    ... WHERE NAME = 'O''CONNOR'  
Incorrect: ... WHERE NAME = 'O'CONNOR'
```

ユーザーの処置:

値が文字定数であるか、または二重引用符で囲まれた名前であることを意図している場合は、最終引用符を追加するか、引用符の内側にある引用符を二重にしてください。または、最初の引用符の除去をしてください。

SQL code: -010

Database: DB2 for z/OS

DSQ35060 &V2 の値 &V1 は無効です。

説明: 148 ページの『DSQ17060』を参照してください。

SQL code: -060

Database: DB2 for z/OS

DSQ35084 このデータベース・マネージャーではそのステートメントは無効です。

説明: 149 ページの『DSQ17084』を参照してください。

SQL code: -084

Database: DB2 for z/OS

DSQ35101 照会が長すぎるか、または複雑すぎます。

説明: 149 ページの『DSQ17101』を参照してください。

SQL code: -101

Database: DB2 for z/OS

DSQ35102 '&V3' &V1 で始まる定数は長過ぎます。

説明: 149 ページの『DSQ17102』を参照してください。

SQL code: -102

Database: DB2 for z/OS

DSQ35103 &V1 は無効な数値です。

説明:

&V1 は数字で始まっていますが、有効な整数、10 進数、浮動小数点数、または 10 進浮動小数点数ではありません。これが文字定数のつもりである場合は、単一引用符で囲んでください。これが名前のもりである場合は、数字で始めることはできません。

ユーザーの処置:

&V1 を訂正し、照会を再実行してください。

SQL code: -103

Database: DB2 for z/OS

DSQ35104 &V1 または &V2. が間違っていて使われています。

説明: 433 ページの『DSQ30105』を参照してください。

SQL code: -104

Database: DB2 for z/OS

DSQ35105 ステートメントに無効なストリングが指定されています。

説明: 149 ページの『DSQ17105』を参照してください。

SQL code: -105

Database: DB2 for z/OS

DSQ35107 '&V1' で始まる名前が &V2 文字を超えています。

説明:

この名前がロケーションを指定する場合は、16 文字を超えないようにしてください。 . &LS. への現行データベース接続は、以下の長さをサポートします。

- QMF オブジェクト名は &LN. 文字まで指定できます。
- 記憶域グループ、バッファ・プール、データベース、表スペース、表、索引、視点、別名、および同義語のデータベース名には、最大 <. 文字まで指定できます。
- データベース列名は &LC. 文字まで指定できます。
- データベース集合 ID 名は &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・チェック制約は &LC. 文字まで指定できます。

ユーザーの処置:

名前を短くして、QMF の使用を続けてください。

SQL code: -107

Database: DB2 for z/OS

DSQ35109 &V1 文節は許可されていません

説明: 150 ページの『DSQ17109』を参照してください。

SQL code: -109

Database: DB2 for z/OS

DSQ35110 &V3&V1 で始まる値に、正しくない 16 進データが見つかりました。

説明: 150 ページの『DSQ17110』を参照してください。

SQL code: -110

Database: DB2 for z/OS

DSQ35111 合計機能には、列名を指定しなければなりません。

説明: 434 ページの『DSQ30111』を参照してください。

SQL code: -111

Database: DB2 for z/OS

DSQ35112 合計機能に無効な式が含まれています。

説明: 434 ページの『DSQ30112』を参照してください。

SQL code: -112

Database: DB2 for z/OS

DSQ35113 ストリングで無効文字が検出されました: &V3

説明: 151 ページの『DSQ17113』を参照してください。

SQL code: -113

Database: DB2 for z/OS

DSQ35115 &V3&V1 の使用法に誤りがあります。

説明: 151 ページの『DSQ17115』を参照してください。

SQL code: -115

Database: DB2 for z/OS

DSQ35117 値の数と列の数が一致しません。

説明: 69 ページの『DSQ12317』を参照してください。

SQL code: -117

Database: DB2 for z/OS

DSQ35118 副照会の中で使用される表を変更することはできません。

説明: 69 ページの『DSQ12318』を参照してください。

SQL code: -118

Database: DB2 for z/OS

DSQ35119 • DSQ35133

DSQ35119 グループ化に矛盾があります。

説明: 69 ページの『DSQ12319』を参照してください。

SQL code: -119

Database: DB2 for z/OS

DSQ35120 組み込み関数またはグループ化列の使用法に誤りがあります。

説明: 70 ページの『DSQ12320』を参照してください。

SQL code: -120

Database: DB2 for z/OS

DSQ35121 同一の照会で同じ列を二度変更することはできません。

説明: 70 ページの『DSQ12321』を参照してください。

SQL code: -121

Database: DB2 for z/OS

DSQ35122 グループ化に矛盾があります。

説明: 69 ページの『DSQ12319』を参照してください。

SQL code: -122

Database: DB2 for z/OS

DSQ35123 &V1 の位置のパラメーターは、定数またはキーワードである必要があります。

説明: 117 ページの『DSQ15123』を参照してください。

SQL code: -123

Database: DB2 for z/OS

DSQ35125 **SELECT** リストの番号が列を識別していません。

説明: 152 ページの『DSQ17125』を参照してください。

SQL code: -125

Database: DB2 for z/OS

DSQ35127 照会では、**DISTINCT** を重複して指定できません。

説明: 435 ページの『DSQ30127』を参照してください。

SQL code: -127

Database: DB2 for z/OS

DSQ35128 **NULL** は、**IS** または **IS NOT** とともに使用してください。

説明: 71 ページの『DSQ12328』を参照してください。

SQL code: -128

Database: DB2 for z/OS

DSQ35129 照会で **15** を超える表参照が用いられています。

説明: 117 ページの『DSQ15129』を参照してください。

SQL code: -129

Database: DB2 for z/OS

DSQ35131 **LIKE** 使用のステートメントに不適切なデータ・タイプがあります。

説明: 152 ページの『DSQ17131』を参照してください。

SQL code: -131

Database: DB2 for z/OS

DSQ35132 **LIKE** の使用法に誤りがあります。

説明: 435 ページの『DSQ30132』を参照してください。

SQL code: -132

Database: DB2 for z/OS

DSQ35133 **HAVING** または **WHERE** 文節の後の式の使用法に誤りがあります。

説明: 72 ページの『DSQ12333』を参照してください。

SQL code: -133

Database: DB2 for z/OS

DSQ35134 LONG ストリング列は正しく使用されませんでした。

説明:

QMF は、データベースから -134 SQL コードが発行されると、このエラー・メッセージを表示します。

ユーザーの処置:

この問題の詳細については、SQL コード -134 の情報を参照してください。この情報は IBM Knowledge Center にあります。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

SQL code: -134

Database: DB2 for z/OS

DSQ35136 ソート・キーの長さが 4000 バイトを超えることはできません。

説明: 153 ページの『DSQ17136』を参照してください。

SQL code: -136

Database: DB2 for z/OS

DSQ35137 連結の結果が長すぎます。

説明: 153 ページの『DSQ17137』を参照してください。

SQL code: -137

Database: DB2 for z/OS

DSQ35138 関数 SUBSTR の 2 番目が 3 番目の引数が、範囲外にあります。

説明: 153 ページの『DSQ17138』を参照してください。

SQL code: -138

Database: DB2 for z/OS

DSQ35150 この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: 73 ページの『DSQ12350』を参照してください。

SQL code: -150

Database: DB2 for z/OS

DSQ35151 列 &V1 は変更できません。

説明: 118 ページの『DSQ15151』を参照してください。

SQL code: -151

Database: DB2 for z/OS

DSQ35153 式または関数によって定義されたビューの列には名前が必要です。(View columns defined by expressions or functions need names.)

説明: 73 ページの『DSQ12353』を参照してください。

SQL code: -153

Database: DB2 for z/OS

DSQ35154 UNION が使用されていたりリモート・オブジェクトが含まれていたりするビューは作成できません。(You cannot create a view that uses UNION or contains a remote object.)

説明: 156 ページの『DSQ17154』を参照してください。

SQL code: -154

Database: DB2 for z/OS

DSQ35155 GROUP BY または HAVING で定義されたビューが FROM の後に指定されています。(A view defined by GROUP BY or HAVING is named after FROM.)

説明: 74 ページの『DSQ12355』を参照してください。

SQL code: -155

Database: DB2 for z/OS

DSQ35156 照会に、表が指定されていません。

説明: 156 ページの『DSQ17156』を参照してください。

SQL code: -156

Database: DB2 for z/OS

DSQ35158 • DSQ35184

DSQ35158 CREATE VIEW と SELECT の両リストには、同数の列が必要です。

説明: 74 ページの『DSQ12358』を参照してください。

SQL code: -158

Database: DB2 for z/OS

DSQ35159 使用されている名前は視点または別名でなく表です。

説明: 156 ページの『DSQ17159』を参照してください。

SQL code: -159

Database: DB2 for z/OS

DSQ35160 このビューには WITH CHECK OPTION 文節は使用できません。

説明: 72 ページの『DSQ12340』を参照してください。

SQL code: -160

Database: DB2 for z/OS

DSQ35161 挿入または更新の値が視点定義の条件を満たしていません。

説明: 43 ページの『DSQ10541』を参照してください。

SQL code: -161

Database: DB2 for z/OS

DSQ35164 他のユーザーの名前でビューを作成することはできません。(You cannot create a view in another user's name.)

説明: 157 ページの『DSQ17164』を参照してください。

SQL code: -164

Database: DB2 for z/OS

DSQ35170 スカラー関数 '&V1' に指定した引数の数が無効です。

説明: 157 ページの『DSQ17170』を参照してください。

SQL code: -170

Database: DB2 for z/OS

DSQ35171 スカラー関数 '&V2' の引数 '&V1' が無効です。

説明: 75 ページの『DSQ12371』を参照してください。

SQL code: -171

Database: DB2 for z/OS

DSQ35180 日時の値 &V1 が無効です。

説明: 119 ページの『DSQ15180』を参照してください。

SQL code: -180

Database: DB2 for z/OS

DSQ35181 日時の値が無効です。

説明: 45 ページの『DSQ10581』を参照してください。

SQL code: -181

Database: DB2 for z/OS

DSQ35182 日付時刻の値を使っている算術式が無効です。

説明: 76 ページの『DSQ12382』を参照してください。

SQL code: -182

Database: DB2 for z/OS

DSQ35183 日付、またはタイム・スタンプに関する算術演算で、無効な結果が出ました。

説明: 46 ページの『DSQ10583』を参照してください。

SQL code: -183

Database: DB2 for z/OS

DSQ35184 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -184

Database: DB2 for z/OS

DSQ35185 日付または時刻の値を形式設定できません。

説明: 46 ページの『DSQ10585』を参照してください。

SQL code: -185

Database: DB2 for z/OS

DSQ35197 修飾列名を **ORDER BY** に使用しないでください。

説明: 159 ページの『DSQ17197』を参照してください。

SQL code: -197

Database: DB2 for z/OS

DSQ35198 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明: 160 ページの『DSQ17198』を参照してください。

SQL code: -198

Database: DB2 for z/OS

DSQ35199 &V1. またはその前で **SQL** エラーが起きました。

説明:

このメッセージは、通常以下の原因によります。

1. 副照会で **DISTINCT** という語を複数使用。
2. 句読点の欠落または余分な句読点。
3. 必須キーワードの省略または不適切な使用。
4. **SELECT** 後の括弧なしの副照会。

ユーザーの処置:

照会を訂正して、再実行してください。

SQL code: -199

Database: DB2 for z/OS

DSQ35203 列 &V1 が複数の表にあります。

説明: 77 ページの『DSQ12403』を参照してください。

SQL code: -203

Database: DB2 for z/OS

DSQ35204 &V1 が見つかりません。

説明: 119 ページの『DSQ15204』を参照してください。

SQL code: -204

Database: DB2 for z/OS

DSQ35205 &V1 は、選択された表に定義された列ではありません。

説明: 439 ページの『DSQ30205』を参照してください。

SQL code: -205

Database: DB2 for z/OS

DSQ35206 **SELECT**、**UPDATE**、**INSERT**、または **DELETE** ステートメントで指定されているいずれの表にも列 &V1 は存在しません。(Column &V1 is not in any table named in the **SELECT**, **UPDATE**, **INSERT**, or **DELETE** statement.)

説明: 77 ページの『DSQ12402』を参照してください。

SQL code: -206

Database: DB2 for z/OS

DSQ35207 **ORDER BY** の後には、列名ではなく列番号を使用してください。

説明: 78 ページの『DSQ12407』を参照してください。

SQL code: -207

Database: DB2 for z/OS

DSQ35208 **SELECT** リストに &V1 がなければなりません。

説明: 78 ページの『DSQ12408』を参照してください。

SQL code: -208

Database: DB2 for z/OS

DSQ35250 ロケーション修飾子は使用できません。

説明: 120 ページの『DSQ15250』を参照してください。

SQL code: -250

Database: DB2 for z/OS

DSQ35251 • DSQ35407

DSQ35251 &V1 は、無効なロケーション名です。

説明: 120 ページの『DSQ15251』を参照してください。

SQL code: -251

Database: DB2 for z/OS

DSQ35270 関数はサポートされていません。

説明: 120 ページの『DSQ15270』を参照してください。

SQL code: -270

Database: DB2 for z/OS

DSQ35312 コロン (:) の使用は無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10712』を参照してください。

SQL code: -312

Database: DB2 for z/OS

DSQ35313 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -313

Database: DB2 for z/OS

DSQ35332 文字ストリングが CCSID の未定義によって変換されませんでした。

説明: 122 ページの『DSQ15332』を参照してください。

SQL code: -332

Database: DB2 for z/OS

DSQ35338 ON 文節の使用が無効です。

説明: 122 ページの『DSQ15338』を参照してください。

SQL code: -338

Database: DB2 for z/OS

DSQ35351 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: 48 ページの『DSQ10751』を参照してください。

SQL code: -351

512 DB2 QMF メッセージおよびコード

Database: DB2 for z/OS

DSQ35401 式が、異なるデータ・タイプを持つ複数の列を参照しています。

説明: 440 ページの『DSQ30401』を参照してください。

SQL code: -401

Database: DB2 for z/OS

DSQ35402 数字データが必要です。

説明: 440 ページの『DSQ30402』を参照してください。

SQL code: -402

Database: DB2 for z/OS

DSQ35404 指定された値はターゲット列または索引キーには長すぎます。

説明: 123 ページの『DSQ15404』を参照してください。

SQL code: -404

Database: DB2 for z/OS

DSQ35405 数値 &V3 &V1 は、列の許容範囲外です。

説明: 123 ページの『DSQ15405』を参照してください。

SQL code: -405

Database: DB2 for z/OS

DSQ35406 計算された数値、または派生した数値が、データ・タイプに許可された範囲外です。

説明: 123 ページの『DSQ15406』を参照してください。

SQL code: -406

Database: DB2 for z/OS

DSQ35407 列 &V1 に NULL 値を含めることはできません。

説明: 168 ページの『DSQ17407』を参照してください。

SQL code: -407

Database: DB2 for z/OS

DSQ35408 新しい値のデータ・タイプは、列 *&V1* に適合しません。

説明: 168 ページの『DSQ17408』を参照してください。

SQL code: -408

Database: DB2 for z/OS

DSQ35409 **DISTINCT** は **COUNT** 合計機能の式で使用しなければなりません。

説明: 440 ページの『DSQ30409』を参照してください。

SQL code: -409

Database: DB2 for z/OS

DSQ35410 値 '*&V1*' の長さが、許容される文字数を超えています。

説明: 50 ページの『DSQ10810』を参照してください。

SQL code: -410

Database: DB2 for z/OS

DSQ35411 **CURRENT SQLID** は、指定されているようには使用できません。

説明: 168 ページの『DSQ17411』を参照してください。

SQL code: -411

Database: DB2 for z/OS

DSQ35412 副照会の **SELECT** の後には列を 1 つしか使用できません。

説明: 80 ページの『DSQ12612』を参照してください。

SQL code: -412

Database: DB2 for z/OS

DSQ35413 データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 50 ページの『DSQ10813』を参照してください。

SQL code: -413

Database: DB2 for z/OS

DSQ35414 **LIKE** は文字データ、バイナリー・データ、またはグラフィック・データを必要としますが、列に含まれているのは数値データまたは日付/時刻データです。

説明: 81 ページの『DSQ12614』を参照してください。

SQL code: -414

Database: DB2 for z/OS

DSQ35415 **SELECT** リストの列属性が統一されていません。

説明: 81 ページの『DSQ12615』を参照してください。

SQL code: -415

Database: DB2 for z/OS

DSQ35416 長ストリング列を **UNION** で使用することはできません。

説明: 81 ページの『DSQ12616』を参照してください。

SQL code: -416

Database: DB2 for z/OS

DSQ35417 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -417

Database: DB2 for z/OS

DSQ35418 "?" の使用法が無効です。

説明: 47 ページの『DSQ10713』を参照してください。

SQL code: -418

Database: DB2 for z/OS

DSQ35419 使用されている値を用いた 10 進除算はできません。

説明: 51 ページの『DSQ10819』を参照してください。

SQL code: -419

Database: DB2 for z/OS

DSQ35420 • DSQ35513

DSQ35420 無効な文字ストリング引数が、&V1 関数で使用されました。

説明: 125 ページの『DSQ15420』を参照してください。

SQL code: -420

Database: DB2 for z/OS

DSQ35421 各 **SELECT** リストの列数が一致していません。

説明: 82 ページの『DSQ12622』を参照してください。

SQL code: -421

Database: DB2 for z/OS

DSQ35423 位置「&V1」に指定されたロケーターが無効です。

説明: 125 ページの『DSQ15423』を参照してください。

SQL code: -423

Database: DB2 for z/OS

DSQ35430 &V1 &V2 が異常終了しました。

説明: 125 ページの『DSQ15430』を参照してください。

SQL code: -430

Database: DB2 for z/OS

DSQ35440 名前 &V2 では、互換性がある引数を持つ &V1 は見つかりませんでした。

説明: 138 ページの『DSQ16440』を参照してください。

SQL code: -440

Database: DB2 for z/OS

DSQ35441 **DISTINCT** または **ALL** を &V1. とともに使用することは無効です。

説明: 125 ページの『DSQ15441』を参照してください。

SQL code: -441

Database: DB2 for z/OS

DSQ35442 ルーチン &V1 の参照中にエラーが発生しました。

説明: 126 ページの『DSQ15442』を参照してください。

SQL code: -442

Database: DB2 for z/OS

DSQ35443 外部関数 &V1 からエラーが返されました。

説明: 126 ページの『DSQ15443』を参照してください。

SQL code: -443

Database: DB2 for z/OS

DSQ35471 理由 &V2 により、関数またはプロシージャ &V1 の呼び出しに失敗しました。

説明: 126 ページの『DSQ15471』を参照してください。

SQL code: -471

Database: DB2 for z/OS

DSQ35495 この照会を行うと、**DB2** のコストの見積もりの制限を超えます。

説明: 126 ページの『DSQ15495』を参照してください。

SQL code: -495

Database: DB2 for z/OS

DSQ35512 照会内にリモート・オブジェクトへの無効な参照があります。

説明: 127 ページの『DSQ15512』を参照してください。

SQL code: -512

Database: DB2 for z/OS

DSQ35513 別名 &V1 は他のローカルカリモートの別名として定義できません。

説明: 127 ページの『DSQ15513』を参照してください。

SQL code: -513

Database: DB2 for z/OS

DSQ35540 表 &V1 には、主キーまたは **ROWID** の基本索引がありません。

説明: 128 ページの『DSQ15540』を参照してください。

SQL code: -540

Database: DB2 for z/OS

DSQ35551 &V3 が存在しないか、または必要な権限がありません。

説明: 179 ページの『DSQ17551』を参照してください。

SQL code: -551

Database: DB2 for z/OS

DSQ35552 指定されたオブジェクトが存在しないか、必要な権限がありません。

説明: 84 ページの『DSQ12751』を参照してください。

SQL code: -552

Database: DB2 for z/OS

DSQ35554 自分自身に対して特権を付与することはできません。

説明: 180 ページの『DSQ17554』を参照してください。

SQL code: -554

Database: DB2 for z/OS

DSQ35555 自分自身が保有している特権を取り消すことはできません。

説明: 84 ページの『DSQ12755』を参照してください。

SQL code: -555

Database: DB2 for z/OS

DSQ35556 この特権を &V1 から取り消すことはできません。

説明: 85 ページの『DSQ12756』を参照してください。

SQL code: -556

Database: DB2 for z/OS

DSQ35559 この時点では **GRANT** および **REVOKE** の実行はできません。

説明: 181 ページの『DSQ17559』を参照してください。

SQL code: -559

Database: DB2 for z/OS

DSQ35601 &V1 は既存の &V2 の名前です。

説明: 183 ページの『DSQ17601』を参照してください。

SQL code: -601

Database: DB2 for z/OS

DSQ35602 **CREATE INDEX** または **PRIMARY KEY** ステートメントに指定された列が多すぎます。

説明: 88 ページの『DSQ12817』を参照してください。

SQL code: -602

Database: DB2 for z/OS

DSQ35603 固有索引列に重複する値が含まれています。

説明: 183 ページの『DSQ17603』を参照してください。

SQL code: -603

Database: DB2 for z/OS

DSQ35604 許容最大幅を超えている定数を使用しました。

説明: 443 ページの『DSQ30604』を参照してください。

SQL code: -604

Database: DB2 for z/OS

DSQ35607 操作またはオプション &V1 はこのオブジェクトに対して定義されていません。

説明: 128 ページの『DSQ15607』を参照してください。

SQL code: -607

Database: DB2 for z/OS

DSQ35612 • DSQ35659

DSQ35612 列名 &V1 が 2 回使われています。

説明: 87 ページの『DSQ12812』を参照してください。

SQL code: -612

Database: DB2 for z/OS

DSQ35614 選択された列に索引を付けることができません。

説明: 87 ページの『DSQ12814』を参照してください。

SQL code: -614

Database: DB2 for z/OS

DSQ35616 &V2 は除去できません。依存している他のオブジェクトがあります。

説明: 184 ページの『DSQ17616』を参照してください。

SQL code: -616

Database: DB2 for z/OS

DSQ35618 システム・データベースに対しては &V1 はできません。

説明: 129 ページの『DSQ15618』を参照してください。

SQL code: -618

Database: DB2 for z/OS

DSQ35623 表 &V1 はクラスター索引を 1 つだけ持つことができます。

説明: 185 ページの『DSQ17623』を参照してください。

SQL code: -623

Database: DB2 for z/OS

DSQ35636 区分 &V1 用の区分キーは、昇順または降順の指定になっていません。

説明: 188 ページの『DSQ17636』を参照してください。

SQL code: -636

Database: DB2 for z/OS

DSQ35644 &V2 の照会の中の &V1 の値が無効です。

説明: 189 ページの『DSQ17644』を参照してください。

SQL code: -644

Database: DB2 for z/OS

DSQ35646 表スペース &V2 にすでに表が入っています。

説明: 189 ページの『DSQ17646』を参照してください。

SQL code: -646

Database: DB2 for z/OS

DSQ35647 バッファーク・プール &V1 はアクティブになっていなければなりません。

説明: 189 ページの『DSQ17647』を参照してください。

SQL code: -647

Database: DB2 for z/OS

DSQ35652 プロシージャ &V1 が結果を拒否しました。

説明: 129 ページの『DSQ15652』を参照してください。

SQL code: -652

Database: DB2 for z/OS

DSQ35653 表 &V1 に区分化索引がありません。

説明: 191 ページの『DSQ17653』を参照してください。

SQL code: -653

Database: DB2 for z/OS

DSQ35659 表オブジェクトの最大サイズを超えました。

説明: 129 ページの『DSQ15659』を参照してください。

SQL code: -659

Database: DB2 for z/OS

DSQ35662 &V1 は区分化表スペースではありません。

説明: 192 ページの『DSQ17662』を参照してください。

SQL code: -662

Database: DB2 for z/OS

DSQ35663 &V1. の限界キー値の数に誤りがあります。

説明: 192 ページの『DSQ17663』を参照してください。

SQL code: -663

Database: DB2 for z/OS

DSQ35664 索引 &V1 の限界キー・フィールドが長すぎます。

説明: 192 ページの『DSQ17664』を参照してください。

SQL code: -664

Database: DB2 for z/OS

DSQ35665 ALTER ステートメントの PART 文節がないか、無効です。

説明: 192 ページの『DSQ17665』を参照してください。

SQL code: -665

Database: DB2 for z/OS

DSQ35666 ユーティリティ、リソース限定機能、または分散データ機能が実行中です。

説明: 130 ページの『DSQ15666』を参照してください。

SQL code: -666

Database: DB2 for z/OS

DSQ35667 索引は DROP INDEX ステートメントでは除去できません。

説明: 192 ページの『DSQ17667』を参照してください。

SQL code: -667

Database: DB2 for z/OS

DSQ35668 この表には編集プロシージャが付随しているため変更はできません。

説明: 193 ページの『DSQ17668』を参照してください。

SQL code: -668

Database: DB2 for z/OS

DSQ35669 オブジェクトは明示的に除去できません。

説明: 193 ページの『DSQ17669』を参照してください。

SQL code: -669

Database: DB2 for z/OS

DSQ35670 行の長さが表スペースのページ・サイズを超えています。

説明: 193 ページの『DSQ17670』を参照してください。

SQL code: -670

Database: DB2 for z/OS

DSQ35671 ALTER TABLESPACE によるページ・サイズの変更はできません。

説明: 193 ページの『DSQ17671』を参照してください。

SQL code: -671

Database: DB2 for z/OS

DSQ35676 32K のバッファ・プールは索引に使用できません。

説明: 194 ページの『DSQ17676』を参照してください。

SQL code: -676

Database: DB2 for z/OS

DSQ35677 バッファ・プールを拡張するのに十分な記憶域がありません。

説明: 194 ページの『DSQ17677』を参照してください。

SQL code: -677

Database: DB2 for z/OS

DSQ35678 • DSQ35802

DSQ35678 限界キーの値が列 &V3. に適合しません。

説明: 194 ページの『DSQ17678』を参照してください。

SQL code: -678

Database: DB2 for z/OS

DSQ35680 表またはビューに含まれる列が多すぎます。 (**Your table or view contains too many columns.**)

説明: 194 ページの『DSQ17680』を参照してください。

SQL code: -680

Database: DB2 for z/OS

DSQ35681 列 &V1 が、インストール先で定義したフィールド・プロシージャに違反しました。 **RT:** &V2、**RS:** &V3、**MSG:** &V4。

説明: 130 ページの『DSQ15681』を参照してください。

SQL code: -681

Database: DB2 for z/OS

DSQ35683 &V1 に非互換文節が含まれています。

説明: 195 ページの『DSQ17683』を参照してください。

SQL code: -683

Database: DB2 for z/OS

DSQ35684 &V1 で始まるパラメーター・リストが長すぎます。

説明: 195 ページの『DSQ17684』を参照してください。

SQL code: -684

Database: DB2 for z/OS

DSQ35686 互いに異なるフィールド・プロシージャを使用して定義された 2 つの列を比較することはできません。 (**A column defined with a field procedure cannot be compared to another column with a different field procedure.**)

説明: 130 ページの『DSQ15686』を参照してください。

518 DB2 QMF メッセージおよびコード

SQL code: -686

Database: DB2 for z/OS

DSQ35687 列のフィールド・タイプが適合しません。

説明: 130 ページの『DSQ15687』を参照してください。

SQL code: -687

Database: DB2 for z/OS

DSQ35735 データベース &V1 は所有サブシステムの共有データベースではありません。

説明: 130 ページの『DSQ15735』を参照してください。

SQL code: -735

Database: DB2 for z/OS

DSQ35747 表の定義が不完全です。

説明: 199 ページの『DSQ17747』を参照してください。

SQL code: -747

Database: DB2 for z/OS

DSQ35766 DB2 補助表は、直接参照することはできません。

説明: 131 ページの『DSQ15766』を参照してください。

SQL code: -766

Database: DB2 for z/OS

DSQ35801 ゼロによる除算が試みられました。

説明: 131 ページの『DSQ15801』を参照してください。

SQL code: -801

Database: DB2 for z/OS

DSQ35802 SQL コマンドにおける算術演算の結果、例外エラーが発生しました。 (**An arithmetic operation in the SQL command has resulted in an exception error.**)

説明: 54 ページの『DSQ11202』を参照してください。

SQL code: -802

Database: DB2 for z/OS

DSQ35803 固有索引列の中に重複値があります。

説明: 54 ページの『DSQ11203』を参照してください。

SQL code: -803

Database: DB2 for z/OS

DSQ35805 使用したコマンドには、見つからなかった適用業務パッケージが必要です。

説明: 131 ページの『DSQ15805』を参照してください。

SQL code: -805

Database: DB2 for z/OS

DSQ35811 複数の値を生成する副照会があります。

説明: 93 ページの『DSQ13010』を参照してください。

SQL code: -811

Database: DB2 for z/OS

DSQ35815 **GROUP BY** または **HAVING** 文節を使用する副照会には、**ALL**、**ANY**、**EXISTS**、または **IN** が必要です。

説明: 82 ページの『DSQ12716』を参照してください。

SQL code: -815

Database: DB2 for z/OS

DSQ35840 指示照会データベースにとって複雑すぎます。

説明: 433 ページの『DSQ30101』を参照してください。

SQL code: -840

Database: DB2 for z/OS

DSQ35900 **QMF** の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 132 ページの『DSQ15900』を参照してください。

SQL code: -900

Database: DB2 for z/OS

DSQ35904 リソースを使用できなかったため、実行が失敗しました。(理由コード: &V1、リソースのタイプ: &V2、およびリソース名: &V3)。

説明: 133 ページの『DSQ15904』を参照してください。

SQL code: -904

Database: DB2 for z/OS

DSQ35905 **DB2** のリソース限界を超えたので、実行が失敗しました。リソース名 = &V1、限界 = &V2。

説明: 133 ページの『DSQ15905』を参照してください。

SQL code: -905

Database: DB2 for z/OS

DSQ35911 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 55 ページの『DSQ11311』を参照してください。

SQL code: -911

Database: DB2 for z/OS

DSQ35913 データベースの必要な部分が使用中です。

説明: 55 ページの『DSQ11311』を参照してください。

SQL code: -913

Database: DB2 for z/OS

DSQ35918 **QMF** の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 132 ページの『DSQ15900』を参照してください。

SQL code: -918

Database: DB2 for z/OS

DSQ35930 ステートメントを処理するのに使用できる記憶域が十分にありません。

説明: 134 ページの『DSQ15930』を参照してください。

SQL code: -930

Database: DB2 for z/OS

DSQ35948 DDF がアクティブでない場合には、リモート・データへはアクセスできません。

説明: 134 ページの『DSQ15948』を参照してください。

SQL code: -948

Database: DB2 for z/OS

DSQ35949 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ35950 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ35951 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ35952 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ35953 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ35954 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36007 照会の中の文字 "&V1" は無効です。

説明: 148 ページの『DSQ17007』を参照してください。

SQL code: -007

Database: DB2 for z/OS

DSQ36008 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36009 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36010 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36011 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36012 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36013 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36014 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36015 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36016 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36035 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36036 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36037 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36038 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36039 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36040 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36041 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36042 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36043 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36044 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36045 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36046 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36047 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36048 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36049 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36050 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36051 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36052 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36071 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36072 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36073 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36074 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36075 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36076 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36077 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36078 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36079 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36080 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36081 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36082 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36083 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36084 このデータベース・マネージャーではその
ステートメントは無効です。

説明: 149 ページの『DSQ17084』を参照してください。

SQL code: -084

Database: DB2 for z/OS

DSQ36085 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36086 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36087 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36088 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36089 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36090 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36091 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36092 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36093 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36094 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36095 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36096 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36097 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36098 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36099 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36100 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36101 検索要求に含まれる列または値が多過ぎます。

説明: 447 ページの『DSQ31101』を参照してください。

SQL code: -101

Database: DB2 for z/OS

DSQ36102 '&V3' &V1 で始まる定数は長過ぎます。

説明: 149 ページの『DSQ17102』を参照してください。

SQL code: -102

Database: DB2 for z/OS

DSQ36103 &V3&V1 は無効な数値です。

説明: 149 ページの『DSQ17103』を参照してください。

SQL code: -103

Database: DB2 for z/OS

DSQ36104 &V1 または &V2. が間違って使われています。

説明: 433 ページの『DSQ30105』を参照してください。

DSQ36105 • DSQ36119

SQL code: -104

Database: DB2 for z/OS

DSQ36105 ステートメントに無効なストリングが指定されています。

説明: 149 ページの『DSQ17105』を参照してください。

SQL code: -105

Database: DB2 for z/OS

DSQ36106 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36107 名前 &V3 は長すぎます。最大サイズは &V4 です。

説明: 150 ページの『DSQ17107』を参照してください。

SQL code: -107

Database: DB2 for z/OS

DSQ36108 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36109 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36110 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36111 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36112 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36113 ストリングで無効文字が検出されました:
&V3

説明: 151 ページの『DSQ17113』を参照してください。

SQL code: -113

Database: DB2 for z/OS

DSQ36114 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36115 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36116 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36117 値の数と列の数が一致しません。

説明: 69 ページの『DSQ12317』を参照してください。

SQL code: -117

Database: DB2 for z/OS

DSQ36118 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36119 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36138 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36139 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36140 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36141 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36142 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36143 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36144 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36145 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36146 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36147 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36148 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36149 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36150 この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: 73 ページの『DSQ12350』を参照してください。

SQL code: -150

Database: DB2 for z/OS

DSQ36151 列 &V1 は変更できません。

説明: 118 ページの『DSQ15151』を参照してください。

SQL code: -151

Database: DB2 for z/OS

DSQ36152 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36153 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36154 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36155 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36156 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36157 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36158 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36159 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36160 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36161 挿入または更新の値が視点定義の条件を満たしていません。

説明: 43 ページの『DSQ10541』を参照してください。

SQL code: -161

Database: DB2 for z/OS

DSQ36162 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36163 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36164 他のユーザーの名前でビューを作成することはできません。
(You cannot create a view in another user's name.)

説明: 157 ページの『DSQ17164』を参照してください。

SQL code: -164

Database: DB2 for z/OS

DSQ36165 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36166 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36167 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36168 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36169 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36170 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36171 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36172 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36173 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36174 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36175 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36176 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36177 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36178 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36179 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36180 日時の値 &V1 が無効です。

説明: 119 ページの『DSQ15180』を参照してください。

SQL code: -180

Database: DB2 for z/OS

DSQ36181 日時の値が無効です。

説明: 45 ページの『DSQ10581』を参照してください。

SQL code: -181

Database: DB2 for z/OS

DSQ36182 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36183 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36184 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36185 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36186 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36187 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36188 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36189 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36190 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36191 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36192 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36193 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36194 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36195 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36196 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36197 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36198 照会が空であるか、またはコメントしか入
っていません。

説明: 160 ページの『DSQ17198』を参照してください。

SQL code: -198

Database: DB2 for z/OS

DSQ36199 &V3 &V1 またはその前で **SQL** エラー
が起きました。

説明: 160 ページの『DSQ17199』を参照してください。

SQL code: -199

Database: DB2 for z/OS

DSQ36200 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36201 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36202 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36203 列 &V1 が複数の表にあります。

説明: 77 ページの『DSQ12403』を参照してください。

SQL code: -203

Database: DB2 for z/OS

DSQ36204 &V1 が見つかりません。

説明: 119 ページの『DSQ15204』を参照してください。

SQL code: -204

Database: DB2 for z/OS

DSQ36205 &V1 は、選択された表に定義された列ではありません。

説明: 439 ページの『DSQ30205』を参照してください。

SQL code: -205

Database: DB2 for z/OS

DSQ36206 SELECT、UPDATE、INSERT、または DELETE ステートメントで指定されているいずれの表にも列 &V1 は存在しません。(Column &V1 is not in any table named in the SELECT, UPDATE, INSERT, or DELETE statement.)

説明: 77 ページの『DSQ12402』を参照してください。

SQL code: -206

Database: DB2 for z/OS

DSQ36207 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36208 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36209 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36210 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36211 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36212 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36213 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36214 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36215 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36216 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36217 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36218 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36219 非エンド・ユーザー SQLCODE が DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36238 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36239 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36240 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36241 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36242 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36243 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36244 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36245 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36246 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36247 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36248 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36249 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36250 ロケーション修飾子は使用できません。

説明: 120 ページの『DSQ15250』を参照してください。

SQL code: -250

Database: DB2 for z/OS

DSQ36251 &V2 は無効なロケーション名です。

説明: 136 ページの『DSQ16251』を参照してください。

SQL code: -251

Database: DB2 for z/OS

DSQ36270 関数はサポートされていません。

説明: 120 ページの『DSQ15270』を参照してください。

SQL code: -270

Database: DB2 for z/OS

DSQ36332 文字ストリングが **CCSID** の未定義によ
って変換されませんでした。

説明: 122 ページの『DSQ15332』を参照してください。

SQL code: -332

Database: DB2 for z/OS

DSQ36351 位置 &V1. のデータ・タイプが無効です。

説明: 48 ページの『DSQ10751』を参照してください。

SQL code: -351

Database: DB2 for z/OS

DSQ36352 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36353 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36354 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36355 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36356 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36357 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36358 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36359 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36360 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36361 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36362 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36363 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36364 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36365 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36366 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36367 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36386 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36387 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36388 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36389 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36390 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36391 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36392 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36393 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36394 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36395 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36396 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36397 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36398 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36399 **ROWID** 列に無効な値があります。

説明: 122 ページの『DSQ15399』を参照してください。

SQL code: -399

Database: DB2 for z/OS

DSQ36400 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36401 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36402 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36403 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36404 指定された値はターゲット列または索引キーには長すぎます。

説明: 123 ページの『DSQ15404』を参照してください。

SQL code: -404

Database: DB2 for z/OS

DSQ36405 数値 **&V3** **&V1** は、列の許容範囲外です。

説明: 167 ページの『DSQ17405』を参照してください。

SQL code: -405

Database: DB2 for z/OS

DSQ36406 計算された数値、または派生した数値が、データ・タイプに許可された範囲外です。

説明: 123 ページの『DSQ15406』を参照してください。

SQL code: -406

Database: DB2 for z/OS

DSQ36407 列 **&V1** に **NULL** 値を含めることはできません。

説明: 168 ページの『DSQ17407』を参照してください。

SQL code: -407

Database: DB2 for z/OS

DSQ36408 新しい値のデータ・タイプは、列 **&V1** に適合しません。

説明: 168 ページの『DSQ17408』を参照してください。

SQL code: -408

Database: DB2 for z/OS

DSQ36409 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36410 値 '**&V1**' の長さが、許容される文字数を超えています。

説明: 50 ページの『DSQ10810』を参照してください。

SQL code: -410

Database: DB2 for z/OS

DSQ36411 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36412 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36413 データ・タイプの変換中に算術オーバーフローが生じました。

説明: 50 ページの『DSQ10813』を参照してください。

SQL code: -413

Database: DB2 for z/OS

DSQ36414 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36415 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36416 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36417 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36418 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36419 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36420 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36421 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36422 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36423 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36424 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36425 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36426 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36427 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36428 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36429 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36430 &V1 &V2 が異常終了しました。

説明: 125 ページの『DSQ15430』を参照してください。

SQL code: -430

Database: DB2 for z/OS

DSQ36431 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36432 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36433 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36434 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36435 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36436 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36437 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36438 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36439 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36440 名前 &V2 では、互換性がある引数を持つ
&V1 は見つかりませんでした。

説明: 138 ページの『DSQ16440』を参照してください。

SQL code: -440

Database: DB2 for z/OS

DSQ36441 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36442 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36443 外部関数 &V1 からエラーが返されました。

説明: 126 ページの『DSQ15443』を参照してください。

SQL code: -443

Database: DB2 for z/OS

DSQ36444 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36445 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36446 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36447 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36448 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36449 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36450 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36451 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36452 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36453 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36454 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36455 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36456 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36457 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36458 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36459 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36460 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36461 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36462 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36463 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36464 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36465 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36466 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36467 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36468 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36469 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36470 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36471 理由 &V2 により、関数またはプロシージャ
&V1 の呼び出しに失敗しました。

説明: 126 ページの『DSQ15471』を参照してください。

SQL code: -471

Database: DB2 for z/OS

DSQ36472 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36473 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36474 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36475 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36476 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36477 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36478 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36479 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36480 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36481 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36482 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36483 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36484 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36485 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36486 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36487 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36488 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36489 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36490 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36491 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36492 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36493 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36494 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36495 この照会を行うと、**DB2** のコストの見積
もりの制限を超えます。

説明: 126 ページの『DSQ15495』を参照してください。

SQL code: -495

Database: DB2 for z/OS

DSQ36496 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36497 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36498 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36499 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36500 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36501 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36502 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36503 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36504 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36505 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36506 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36507 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36508 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36509 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36510 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36511 この視点の中のデータを変更することはできません。

説明: 73 ページの『DSQ12350』を参照してください。

SQL code: -511

Database: DB2 for z/OS

DSQ36512 照会内にリモート・オブジェクトへの無効な参照があります。

説明: 127 ページの『DSQ15512』を参照してください。

SQL code: -512

Database: DB2 for z/OS

DSQ36513 別名 **&V1** は他のローカルかリモートの別名として定義できません。

説明: 127 ページの『DSQ15513』を参照してください。

SQL code: -513

Database: DB2 for z/OS

DSQ36514 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36515 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36516 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36517 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36518 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36519 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36520 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36521 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36522 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36523 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36524 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36525 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36526 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36527 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36528 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36529 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36530 外部キーの値が無効です。

説明: 51 ページの『DSQ10930』を参照してください。

SQL code: -530

Database: DB2 for z/OS

DSQ36531 親行の主キー &V1 は更新できません。

説明: 127 ページの『DSQ15531』を参照してください。

SQL code: -531

Database: DB2 for z/OS

DSQ36532 **RESTRICT** 削除規則のため、行は削除できません。

説明: 128 ページの『DSQ15532』を参照してください。

SQL code: -532

Database: DB2 for z/OS

DSQ36533 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36534 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36535 その表の主キーは更新できません。

説明:

編集しようとしている表は主キーを含んでいます。主キーの一部である列は表編集プログラムを使って更新または削除できません。

ユーザーの処置:

更新の必要がある列だけを含むビューを作成、または使用してください。主キーの一部である列は含めてはなりません。主キーの更新をしたい場合、主キーが依存する行を持たないなら SQL または QBE を使ってそれを行うことができます。

SQL code: -535

Database: DB2 for z/OS

DSQ36536 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36537 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36538 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36539 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36540 表 &V1 には、主キーまたは **ROWID** の基本索引がありません。

説明: 128 ページの『DSQ15540』を参照してください。

SQL code: -540

Database: DB2 for z/OS

DSQ36541 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36542 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36543 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36544 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36545 行が検査制約 &V1 に合っていないので、演算子は許可されません。

説明: 178 ページの『DSQ17545』を参照してください。

SQL code: -545

Database: DB2 for z/OS

DSQ36546 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36547 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36548 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36549 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36550 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36551 これを行う権限がありません。

説明: 473 ページの『DSQ31551』を参照してください。

SQL code: -551

Database: DB2 for z/OS

DSQ36552 指定されたオブジェクトが存在しないか、必要な権限がありません。

説明: 84 ページの『DSQ12751』を参照してください。

SQL code: -552

Database: DB2 for z/OS

DSQ36553 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36554 自分自身に対して特権を付与することはできません。

説明: 180 ページの『DSQ17554』を参照してください。

SQL code: -554

Database: DB2 for z/OS

DSQ36555 自分自身が保有している特権を取り消すことはできません。

説明: 84 ページの『DSQ12755』を参照してください。

SQL code: -555

Database: DB2 for z/OS

DSQ36556 この特権を &V1. から取り消すことはできません。

説明: 85 ページの『DSQ12756』を参照してください。

SQL code: -556

Database: DB2 for z/OS

DSQ36557 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36558 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36559 この時点では **GRANT** および **REVOKE** の実行はできません。

説明: 181 ページの『DSQ17559』を参照してください。

SQL code: -559

Database: DB2 for z/OS

DSQ36560 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36561 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36562 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36563 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36564 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36565 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36566 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36567 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36568 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36569 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36570 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36571 **READ-ONLY** の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: 34 ページの『DSQ10425』を参照してください。

SQL code: -571

Database: DB2 for z/OS

DSQ36572 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36573 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36574 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36575 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36576 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36577 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36578 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36579 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36580 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36581 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36582 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36583 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36584 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36585 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36586 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36587 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36588 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36589 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36590 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36591 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36592 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36593 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36594 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36595 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36596 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36597 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36598 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36599 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36600 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36601 &V1 は既存の &V2. の名前です。

説明: 183 ページの『DSQ17601』を参照してください。

SQL code: -601

Database: DB2 for z/OS

DSQ36602 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36603 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36604 許容最大幅を超えている定数を使用しました。

説明: 443 ページの『DSQ30604』を参照してください。

SQL code: -604

Database: DB2 for z/OS

DSQ36605 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36606 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36607 操作またはオプション &V1 はこのオブジ
ェクトに対して定義されていません。

説明: 128 ページの『DSQ15607』を参照してください。

SQL code: -607

Database: DB2 for z/OS

DSQ36608 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36609 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36610 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36611 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36612 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36613 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36614 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36615 • DSQ36631

DSQ36615 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36616 &V2 は除去できません。依存している他のオブジェクトがあります。

説明: 184 ページの『DSQ17616』を参照してください。

SQL code: -616

Database: DB2 for z/OS

DSQ36617 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36618 システム・データベースに対しては &V1 はできません。

説明: 129 ページの『DSQ15618』を参照してください。

SQL code: -618

Database: DB2 for z/OS

DSQ36619 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36620 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36621 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36622 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36623 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36624 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36625 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36626 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36627 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36628 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36629 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36630 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36631 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36632 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36633 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36634 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36635 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36636 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36637 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36638 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36639 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36640 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36641 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36642 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36643 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36644 &V2 の照会の中の &V1 の値が無効で
す。

説明: 189 ページの『DSQ17644』を参照してください。

SQL code: -644

Database: DB2 for z/OS

DSQ36645 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36646 表スペース &V2 にすでに表が入っていま
す。

説明: 189 ページの『DSQ17646』を参照してください。

SQL code: -646

Database: DB2 for z/OS

DSQ36647 バッファ・プール &V1 はアクティブに
なっていない必要があります。

説明: 189 ページの『DSQ17647』を参照してください。

SQL code: -647

Database: DB2 for z/OS

DSQ36648 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36649 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36650 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36651 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36652 プロシージャ **&V1** が結果を拒否しました。

説明: 129 ページの『DSQ15652』を参照してください。

SQL code: -652

Database: DB2 for z/OS

DSQ36653 表 **&V1** に区分化索引がありません。

説明: 191 ページの『DSQ17653』を参照してください。

SQL code: -653

Database: DB2 for z/OS

DSQ36654 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36655 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36656 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36657 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36658 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36659 表オブジェクトの最大サイズを超えました。

説明: 129 ページの『DSQ15659』を参照してください。

SQL code: -659

Database: DB2 for z/OS

DSQ36660 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36661 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36662 **&V1** は区分化表スペースではありません。

説明: 192 ページの『DSQ17662』を参照してください。

SQL code: -662

Database: DB2 for z/OS

DSQ36663 **&V1** の限界キー値の数に誤りがあります。

説明: 192 ページの『DSQ17663』を参照してください。

SQL code: -663

Database: DB2 for z/OS

DSQ36664 索引 &V1 の限界キー・フィールドが長すぎます。

説明: 192 ページの『DSQ17664』を参照してください。

SQL code: -664

Database: DB2 for z/OS

DSQ36665 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36666 ユーティリティー、リソース限定機能、または分散データ機能が実行中です。

説明: 130 ページの『DSQ15666』を参照してください。

SQL code: -666

Database: DB2 for z/OS

DSQ36667 索引は **DROP INDEX** ステートメントでは除去できません。

説明: 192 ページの『DSQ17667』を参照してください。

SQL code: -667

Database: DB2 for z/OS

DSQ36668 この表には編集プロシージャが付随しているため変更はできません。

説明: 193 ページの『DSQ17668』を参照してください。

SQL code: -668

Database: DB2 for z/OS

DSQ36669 オブジェクトは明示的に除去できません。

説明: 193 ページの『DSQ17669』を参照してください。

SQL code: -669

Database: DB2 for z/OS

DSQ36670 行の長さが表スペースのページ・サイズを超えています。

説明: 193 ページの『DSQ17670』を参照してください。

SQL code: -670

Database: DB2 for z/OS

DSQ36671 **ALTER TABLESPACE** によるページ・サイズの変更はできません。

説明: 193 ページの『DSQ17671』を参照してください。

SQL code: -671

Database: DB2 for z/OS

DSQ36672 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36673 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36674 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36675 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36676 **32K** のバッファ・プールは索引に使用できません。

説明: 194 ページの『DSQ17676』を参照してください。

SQL code: -676

Database: DB2 for z/OS

DSQ36677 • DSQ36690

DSQ36677 バッファ・プールを拡張するのに十分な記憶域がありません。

説明: 194 ページの『DSQ17677』を参照してください。

SQL code: -677

Database: DB2 for z/OS

DSQ36678 限界キーの値が列 &V3. に適合しません。

説明: 194 ページの『DSQ17678』を参照してください。

SQL code: -678

Database: DB2 for z/OS

DSQ36679 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36680 表またはビューに含まれる列が多すぎます。(Your table or view contains too many columns.)

説明: 194 ページの『DSQ17680』を参照してください。

SQL code: -680

Database: DB2 for z/OS

DSQ36681 列 &V1 が、インストール先で定義したフィールド・プロシージャに違反しました。 **RT:** &V2、**RS:** &V3、**MSG:** &V4。

説明: 130 ページの『DSQ15681』を参照してください。

SQL code: -681

Database: DB2 for z/OS

DSQ36682 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36683 &V1 に非互換文節が含まれています。

説明: 195 ページの『DSQ17683』を参照してください。

SQL code: -683

Database: DB2 for z/OS

DSQ36684 &V1 で始まるパラメーター・リストが長すぎます。

説明: 195 ページの『DSQ17684』を参照してください。

SQL code: -684

Database: DB2 for z/OS

DSQ36685 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36686 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36687 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36688 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36689 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36690 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36691 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36692 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36693 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36694 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36695 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36696 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36697 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36698 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36699 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36700 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36701 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36702 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36703 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36704 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36705 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36706 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36707 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36708 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36709 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36710 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36711 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36712 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36713 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36714 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36715 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36716 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36717 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36718 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36719 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36720 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36721 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36722 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36723 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36724 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36725 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36726 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36727 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36728 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36729 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36730 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36731 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36732 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36733 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36734 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36735 データベース &V1 は所有サブシステムの
共有データベースではありません。

説明: 130 ページの『DSQ15735』を参照してください。

SQL code: -735

Database: DB2 for z/OS

DSQ36736 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36737 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36738 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36739 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36740 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36741 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36742 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36743 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36744 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36745 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36746 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36747 表の定義が不完全です。

説明: 199 ページの『DSQ17747』を参照してください。

SQL code: -747

Database: DB2 for z/OS

DSQ36748 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36749 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36750 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36751 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36752 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36753 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36754 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36755 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36756 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36757 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36758 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36759 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36760 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36761 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36762 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36763 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36764 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36765 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36766 **DB2** 補助表は、直接参照することはできません。

説明: 131 ページの『DSQ15766』を参照してください。

SQL code: -766

Database: DB2 for z/OS

DSQ36798 **GENERATED ALWAYS** と定義されている列に値を指定することはできません。

説明: 131 ページの『DSQ15798』を参照してください。

SQL code: -798

Database: DB2 for z/OS

DSQ36799 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36800 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36801 ゼロによる除算が試みられました。

説明: 131 ページの『DSQ15801』を参照してください。

SQL code: -801

Database: DB2 for z/OS

DSQ36802 **SQL** コマンドにおける算術演算の結果、例外エラーが発生しました。(An arithmetic operation in the SQL command has resulted in an exception error.)

説明: 54 ページの『DSQ11202』を参照してください。

SQL code: -802

Database: DB2 for z/OS

DSQ36803 固有索引列の中に重複値があります。

説明: 54 ページの『DSQ11203』を参照してください。

SQL code: -803

Database: DB2 for z/OS

DSQ36804 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36805 使用したコマンドには、見つからなかった適用業務パッケージが必要です。

説明: 131 ページの『DSQ15805』を参照してください。

SQL code: -805

Database: DB2 for z/OS

DSQ36806 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36807 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36808 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36809 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36810 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36811 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36812 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36813 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36814 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36815 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36816 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36817 **READ-ONLY** の環境においては、リモート更新は許可されません。

説明: 34 ページの『DSQ10425』を参照してください。

SQL code: -817

Database: DB2 for z/OS

DSQ36818 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36819 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36820 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36821 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36822 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36823 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36824 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36825 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36826 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36827 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36828 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36829 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36830 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36831 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36832 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36833 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36834 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36835 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36836 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36837 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36838 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36839 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36840 ユーザーの照会で使用している列の数が多すぎます。

説明: 132 ページの『DSQ15840』を参照してください。

SQL code: -840

Database: DB2 for z/OS

DSQ36841 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36842 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36843 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36844 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36845 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36846 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36847 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36848 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36849 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36850 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36851 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36852 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36853 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36854 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36855 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36856 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36857 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36858 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36877 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36878 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36879 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36880 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36881 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36882 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36883 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36884 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36885 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36886 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36887 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36888 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36889 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36890 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36891 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36892 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36893 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36894 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36895 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36896 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36897 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36898 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36899 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36900 **QMF** の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 132 ページの『DSQ15900』を参照してください。

SQL code: -900

Database: DB2 for z/OS

DSQ36901 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36902 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36903 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36904 リソースを使用できなかったため、実行が失敗しました。(理由コード: &V1、リソースのタイプ: &V2、およびリソース名: &V3)。

説明: 133 ページの『DSQ15904』を参照してください。

SQL code: -904

Database: DB2 for z/OS

DSQ36905 **DB2** のリソース限界を超えたので、実行が失敗しました。リソース名 = &V1、限界 = &V2。

説明: 133 ページの『DSQ15905』を参照してください。

SQL code: -905

Database: DB2 for z/OS

DSQ36906 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36907 リモート・ロケーションで実行された更新が成功したかどうかを判断できません。

説明: 133 ページの『DSQ15907』を参照してください。

SQL code: -907

Database: DB2 for z/OS

DSQ36908 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36909 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36910 • DSQ36925

DSQ36910 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36911 データベースに行った変更は失われました。

説明: 494 ページの『DSQ31911』を参照してください。

SQL code: -911

Database: DB2 for z/OS

DSQ36912 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36913 データベースに行った変更は失われました。

説明: 494 ページの『DSQ31911』を参照してください。

SQL code: -913

Database: DB2 for z/OS

DSQ36914 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36915 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36916 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36917 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36918 **QMF** の使用を続行するにはロケーションに接続する必要があります。

説明: 132 ページの『DSQ15900』を参照してください。

SQL code: -918

Database: DB2 for z/OS

DSQ36919 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36920 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36921 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36922 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36923 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36924 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36925 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が **DBM** から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36926 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36927 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36928 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36929 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36930 ステートメントを処理するのに使用できる
記憶域が十分にありません。

説明: 134 ページの『DSQ15930』を参照してください。

SQL code: -930

Database: DB2 for z/OS

DSQ36931 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36932 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36933 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36934 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36935 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36936 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36937 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36938 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36939 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36940 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36941 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36942 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36943 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36944 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36945 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36946 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36947 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36948 **DDF** がアクティブでない場合には、リポート・データへはアクセスできません。

説明: 134 ページの『DSQ15948』を参照してください。

SQL code: -948

Database: DB2 for z/OS

DSQ36949 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36950 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36951 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36952 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36953 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36954 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36955 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36956 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36957 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36958 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36959 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36978 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36979 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36980 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36981 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36982 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36983 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36984 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36985 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36986 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36987 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36988 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36989 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36990 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36991 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36992 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36993 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36994 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36995 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36996 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36997 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36998 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

DSQ36999 非エンド・ユーザー **SQLCODE** が
DBM から戻されました。

説明: 447 ページの『DSQ31104』を参照してください。

第 7 章 DSQ40001 - DSQ40594

これらの標準 QMF メッセージは、QMFの実行中に発生するエラーに対するものです。メッセージには、ソリューションを提供したり、エラーを診断したりするのに役立つ情報が含まれています。

DSQ40001 プリンターのレコード長が短すぎます。

説明: 368 ページの『DSQ22871』を参照してください。

DSQ40002 ページ行数が &V4 から 999 までの
GDDM プリンターを使用してください。

説明: 363 ページの『DSQ22681』を参照してください。

DSQ40013 インポートしようとしているファイルが不完全です。

説明:

IMPORT コマンドの中で指名されている外部データ・セットには、QMF 形式に必要なレコードの一部が含まれていません。そのファイルは、エクスポートされたときに外部スペース不足のために短く切り捨てられたか、または QMF の外側で編集された可能性があります (フォームまたは QBE 照会を QMF の外側で編集しないでください)。

ユーザーの処置:

ファイルを再度エクスポートして、インポートしなおしてください。

DSQ40014 インポートしようとしているファイルが空です。

説明:

なにも入っていない QBE 照会または形式をインポートしようとしています。

ユーザーの処置:

インポートするフォームまたは QBE 照会は、まず QMF のもとで作成され、その後でエクスポートされたものでなければなりません。ファイルを再度エクスポートして、インポートしなおしてください。それを QMF の外側で変更しないでください。

DSQ40051 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

GDDM エラー &V1。 重大度 &V2。 関数 &V3。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ40052 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40053 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40054 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40055 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40056 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40081 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40082 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40083 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40084 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40085 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40101 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40102 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40103 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40104 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40105 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40106 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40107 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40108 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40109 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40110 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40111 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40112 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40113 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40114 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40115 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40116 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40117 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40118 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40119 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40120 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40121 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40122 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40123 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40124 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40125 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40126 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40127 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40128 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40129 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40130 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40131 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40132 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ウィンドウ・マネージャーは無効なパラメーター・データを渡されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ40151 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40152 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40153 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40154 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40155 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40156 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40157 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40158 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40159 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40160 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40161 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40201 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40202 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40203 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40421 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40422 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40423 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40424 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40425 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40426 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40427 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40428 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40429 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40430 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 575 ページの『DSQ40051』を参照してください。

DSQ40431 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:
モジュール &V1 は無効なパラメーター・データを渡されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ40432 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ40431』を参照してください。

DSQ40433 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:
PANEL MANAGER WAS RETURNED AN INVALID RESULT CODE.

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認

認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ40434 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 584 ページの『DSQ40433』を参照してください。

DSQ40435 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 584 ページの『DSQ40433』を参照してください。

DSQ40436 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

モジュール &V1 がエラーを検出しました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ40437 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

パネル・マネージャーはパネル推移を決定できません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2

QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ40438 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ40436』を参照してください。

DSQ40439 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ40436』を参照してください。

DSQ40441 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40442 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40443 FROM の後の表名 &V1 は表ラベルを必要とします。

説明:

FROM の後に 2 回以上出てくる表名が、修飾子として SQL コマンドに含まれています。 その表名は固有のものではないので、FROM の後の各表名は、列名を修飾するための固有の表ラベルを必要とします。

ユーザーの処置:

FROM の後の表名にそれぞれ固有の表ラベルを付加して、照会を再実行してください。

DSQ40444 FROM の後の表名 &V1 は表ラベルを必要とします。

説明: 『DSQ40443』を参照してください。

DSQ40445 FROM の後の表名 &V1 は表ラベルを必要とします。

説明: 『DSQ40443』を参照してください。

DSQ40446 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40447 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ40451 &V1 は有効なスクロールの値ではありません。

説明:

入力されたスクロールの値は数値でないか、またはリストに対応する数値がありません。

ユーザーの処置:

スクロール先の項目の番号を入力し、次に Enter を押してください。

DSQ40452 スクロールの値とスクロール・キーが対応しません。

説明:

ある方向へリストをスクロールさせるスクロールの値を入力しましたが、リストをそれとは逆方向にスクロールさせるキーが押されました。

ユーザーの処置:

スクロールの値を入力して ENTER キーを押すか、スクロール・キーのどちらかを押してください。

DSQ40453 スクロールの値とスクロール・キーが対応しません。

説明: 『DSQ40452』を参照してください。

DSQ40454 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ40455 ここがパネルの境界です。

説明: 238 ページの『DSQ20396』を参照してください。

DSQ40456 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ40461 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ40462 &V1 は有効な選択番号ではありません。

説明: 413 ページの『DSQ23483』を参照してください。

DSQ40463 &V1 は、選択できません。

説明: 413 ページの『DSQ23484』を参照してください。

DSQ40464 リストから項目を選択してください。

説明: 413 ページの『DSQ23485』を参照してください。

DSQ40465 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40466 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

TOC または索引に対してオブジェクト・タイプは SQL でも QBE でもありません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ40467 &V1 は、文字、または有効なトピック番号ではありません。

説明:

入力した値は、文字、またはリスト内の選択番号ではありません。

ユーザーの処置:

各索引項目には、番号が付いています。番号を選択するか、索引の他の部分に移動する索引文字を入力して

ださい。次に Enter を押してください。

DSQ40468 入力された文字 &V1 の索引にトピックがありません。

説明:

索引に項目がないのに文字が入力されました。

ユーザーの処置:

各索引項目には、番号が付いています。番号を選択するか、索引の他の部分に移動する索引文字を入力してください。次に Enter を押してください。

DSQ40469 入力された文字 &V1 の索引にトピックがありません。

説明: 『DSQ40468』を参照してください。

DSQ40470 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40471 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 586 ページの『DSQ40466』を参照してください。

DSQ40472 &V1 は、固有のトピック・ワードではありません。

説明:

入力されたトピック・ワード &V1 が、無効、または不完全です。

ユーザーの処置:

目次の各項目の前には番号が、後ろにはキーワードが付いています。トピックを見るには、そのトピックの番号、またはキーワードのどちらかを入力してください。キーワードの一部だけを入力した場合、適合するキーワードが 2 つ以上ある可能性があります。必要とする項目のキーワードを完全に入力して、ENTER キーを押してください。

DSQ40473 &V1 は、トピック・ワード、または番号として有効ではありません。

説明:

入力した値 &V1 は、キーワード、または選択番号として無効です。

ユーザーの処置:

目次の各項目の前には番号が、後ろにはキーワードが付いています。トピックを見るには、そのトピックの番号、またはキーワードのどちらかを入力してください。

DSQ40474 &V1 は、トピック・ワード、または番号として有効ではありません。

説明: 『DSQ40473』を参照してください。

DSQ40475 &V1 は、トピック・ワード、または番号として有効ではありません。

説明: 『DSQ40473』を参照してください。

DSQ40476 &V1 は、トピック・ワード、または番号として有効ではありません。

説明: 『DSQ40473』を参照してください。

DSQ40477 リストから項目を選択してください。

説明: 413 ページの『DSQ23485』を参照してください。

DSQ40478 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 586 ページの『DSQ40466』を参照してください。

DSQ40479 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ヘルプ・パネルで誤った形式が検出されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ40480 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ40481 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40482 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40483 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40484 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40485 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40486 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ヘルプ・パネルの置換変数の値が見つかりませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2

QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ40487 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ヘルプ・パネルの置換変数の値が長すぎます。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ40488 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ40486』を参照してください。

DSQ40489 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40490 特別な QMF メッセージ・ヘルプ変数。

説明:

このセッションの特別なメッセージ・ヘルプ変数は、以下のとおりです。

- QMF 許可 ID の最大長: &LQ.
- QMF オブジェクト名の最大長: &LN.
- データベース許可 ID の最大長: &LA.
- データベース表名の最大長: <.
- データベース列名の最大長: &LC.
- 指示照会式の最大長: &LE.
- 現行データベース・サーバー名: &LS.

ユーザーの処置:

ありません。このパネルは診断専用です。

DSQ40492 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 588 ページの『DSQ40487』を参照してください。

DSQ40493 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40494 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40495 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40496 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40497 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 587 ページの『DSQ40479』を参照してください。

DSQ40498 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 588 ページの『DSQ40486』を参照してください。

DSQ40501 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 587 ページの『DSQ40479』を参照してください。

DSQ40502 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40503 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40504 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40505 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40506 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40507 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40508 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40509 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40510 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 587 ページの『DSQ40479』を参照してください。

DSQ40511 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40512 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40513 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 588 ページの『DSQ40487』を参照してください。

DSQ40514 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 588 ページの『DSQ40487』を参照してください。

DSQ40515 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40516 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

プロンプト・パネル・タイトルが長すぎて表示されません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ40517 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40518 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40519 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40520 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40521 &V1 がリストできないか、&V2 コマンドに対して無効です。

説明:

オブジェクト・タイプ &V1 を入力し、リストファンクション・キーを使用しましたが、次のいずれかの理由で無効です。

1. オブジェクト・タイプが &V2 コマンドでは無効。
2. リストに対して、有効なオブジェクトではない。

コマンドのプロンプト・パネルで有効なオブジェクト・タイプのリストを調べてください。以下の少なくとも1つは有効です。

QUERY FORM PROC TABLE

ユーザーの処置:

入力したオブジェクト・タイプを調べて、それが有効か確認してください。すべてのオブジェクト・タイプを見るには、このフィールドをブランクのままにして、LIST ファンクション・キーを押してください。

DSQ40522 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40523 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 587 ページの『DSQ40479』を参照してください。

DSQ40524 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 400 ページの『DSQ23258』を参照してください。

DSQ40525 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40526 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40527 &V1 は有効な選択番号ではありません。

説明: 413 ページの『DSQ23483』を参照してください。

DSQ40528 &V1 は、選択できません。

説明: 413 ページの『DSQ23484』を参照してください。

DSQ40529 リストから項目を選択してください。

説明: 413 ページの『DSQ23485』を参照してください。

DSQ40530 リストから項目を選択してください。

説明: 413 ページの『DSQ23485』を参照してください。

DSQ40531 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40532 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40533 このデータベースは 3 部分名をサポートしていません。

説明: 10 ページの『DSQ10013』を参照してください。

DSQ40534 このフィールドは、LIST 機能をサポートしていません。

説明:

LIST 機能は、フィールドの右に &plus. があるものだけを使用できます。

ユーザーの処置:

カーソルを適切なフィールドに移動して、再度 LIST を要求してください。

DSQ40535 ロケーションが指定されている場合、**QMF** オブジェクトをリストすることはできません。

説明: 31 ページの『DSQ10354』を参照してください。

DSQ40540 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40541 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40542 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40543 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40544 • DSQ40561

DSQ40544 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40545 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40546 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40547 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40548 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40549 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40550 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 587 ページの『DSQ40479』を参照してください。

DSQ40551 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40552 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40553 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40554 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40555 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40556 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40557 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40558 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40559 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40560 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40561 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ40562 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40563 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40570 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40571 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40572 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40574 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ40575 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40576 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40577 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40578 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ40579 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 587 ページの『DSQ40479』を参照してください。

DSQ40588 **OK。END** コマンドが正常に実行されました。

DSQ40589 **OK。HELP** が実行されました。 処理を続行してください。

DSQ40590 **OK。HELP** が実行されました。 処理を続行してください。

DSQ40591 **OK。HELP** が実行されました。 処理を続行してください。

DSQ40592 **OK。HELP** が実行されました。 処理を続行してください。

DSQ40593 **OK。HELP** が実行されました。 処理を続行してください。

DSQ40594 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 400 ページの『DSQ23258』を参照してください。

第 8 章 DSQ50001 - DSQ51305

これらの標準 QMF メッセージは、QMFの実行中に発生するエラーに対するものです。メッセージには、ソリューションを提供したり、エラーを診断したりするのに役立つ情報が含まれています。

DSQ50001 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ50002 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ50003 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ50004 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ50005 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ50006 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ50007 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ50008 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ50009 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ50010 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ50011 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ50015 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50016 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50017 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50018 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50019 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50021 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

BLDL エラー。 戻りコード &V1。 理由コード &V2。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50022 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50023 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50024 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50025 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50026 入出力エラー &V1

説明:

入出力エラーが検出されました。 システム・メッセー

ジまたは他のオペレーティング・システム情報は次のとおりです: &V1

ユーザーの処置:

システム・メッセージの資料がある場合は、エラーに関する詳細を調べてください。エラーを修正して作業を続行してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50027 &V1 をオープンできません。

説明:

&V2

データ・セット (または、UNIX の場合はパス名に指定されたファイル) を正常にオープンできなかった理由として、いくつかの原因が考えられます。システム・エラー、ハードウェア障害、空または存在しないデータ・セットまたは UNIX ファイル、不十分なシステム・リソース、または区分化されていないデータ・セットに対してメンバー名を指定したことなどが考えられます。

ユーザーの処置:

区分化されていないデータ・セットに対してメンバー名を指定した場合、メンバー名を除去してからコマンドを再試行してください。これが UNIX パス名の場合は、パス名全体のスペルをチェックしてください。QMF プロファイル内の CASE オプションの設定もチェックする必要があります。問題が解決しない場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50028 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50029 ファイル &V1 が &V2 をクローズしませんでした。

説明:

ファイルが正常にクローズされなかった理由として、以下が考えられます。システム・エラーが生じたか、またはハードウェアに関する問題が生じたか、あるいは要求を満たすシステム・リソースが十分でないことが考えられます。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡を取り、ファイル &V1 をクローズしようとし、また、メッセージに付加されたデータを組み込もうとしたときの詳細を説明してください。

DSQ50030 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50031 入出力エラー &V1

説明: 596 ページの『DSQ50026』を参照してください。

DSQ50033 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DD 名 &V1 で自由プールに障害が起きました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50035 DYNALLOC エラー: 戻りコード &V1; 理由コード &V2

説明:

コマンドに必要なファイルの動的割り振りが失敗したため、DYNALLOC システム・サービスがエラーを発行しました。このエラーに関する以下の情報が QMF に戻されました。

Return code = &V1
Reason code = &V2
Information reason code = &V3
Function = &V4

このエラーは、XML 形式でデータをエクスポートする場合に、記憶域管理ソフトウェアが、拡張データ・セットの動的割り振りを処理するようにまだ構成されていない場合に発生することがあります。QMF では、これらのデータ・セットを構成するときに、デフォルトの記憶クラスを指定する必要があります。

ユーザーの処置:

拡張データ・セットの動的割り振りを構成する方法につ

いて詳しくは、記憶域管理ソフトウェアで提供されている情報を参照してください。上記の戻りコードおよび理由コードは、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」に説明があります。

DSQ50036 DYNALLOC エラー: 戻りコード &V1; 理由コード &V2

説明: 『DSQ50035』を参照してください。

DSQ50039 DYNALLOC エラー: 戻りコード &V1; 理由コード &V2

説明: 『DSQ50035』を参照してください。

DSQ50041 DYNALLOC エラー: 戻りコード &V1; 理由コード &V2

説明: 『DSQ50035』を参照してください。

DSQ50042 データ・セット編成は、順次または区分化されている必要があります。

説明:

QMF の Export コマンドまたは インポート コマンドで参照されるデータ・セットは、区分データ・セット (データ・セット編成 (すなわち DSORG) の値が PO) または物理順次データ・セット (DSORG=PS) でなければなりません。QMF で Export コマンドまたは インポート コマンドを発行すると、データ・セット編成属性が 16 進値として返されます。コマンドで参照されたデータ・セット &V2 について QMF に戻された 16 進数値は &V1 です。

ユーザーの処置:

「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」で DALRTORG 関数に関する情報を参照して、値 &V1 に対応する DSORG 属性を判断してください。可能な場合は、コマンドで参照されるデータ・セットの DSORG 属性を PS または PO に変更してください。変更が可能でない場合は、DSORG 属性が PS または PO のいずれかであるデータ・セットを参照するようにコマンドを作成しなおします。

DSQ50043 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50044 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50045 インポートするレコードはデータベースには大きすぎます。

説明:

データベースに直接インポートする指示照会レコードの長さは 3592 文字を超えることはできません。したがって、インポートするファイルの論理レコード長は 3592 を超えてはなりません。

ユーザーの処置:

3592 文字を超えるレコードがある場合、そのサイズを小さくする必要があります。 3592 を超える長さの論理レコードを持つ入力ファイルがある場合、小さくしてください。

DSQ50046 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50047 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50048 エクスポートされるレコードが出力ファイルに対して大きすぎます。

説明:

データベースからエクスポートされる照会内のいくつかのレコードが、作成中の出力ファイルの最大レコード長を超えています。

ユーザーの処置:

出力ファイルの論理レコード長が、エクスポートされる照会内の最大レコードと少なくとも同じ大きさであることを確認してください。データベース内の照会レコードの最大長は 3200 です。HTML レコードの最大長は、CICS の場合は 32752 バイト、TSO の場合は 32756 バイトです。

DSQ50050 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

バッファが小さすぎて、引用符の二重化と一重化を行えません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50051 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ50050』を参照してください。

DSQ50052 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50053 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50054 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50055 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ50056 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50057 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50058 一時データ・キュー &V1 が空です。

説明:

コマンドに一時データ・キュー "&V1" の指定がありましたが、それは空です。

ユーザーの処置:

正しいキュー名を入力するか、またはデータが確実に一時データ・キューに書き込まれることを確認してください。その後、コマンドを再実行してください。

DSQ50059 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50060 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50061 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50062 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50063 キュー &V1 に対する &V2 の実行中に入出力エラー

説明:

CICS キュー "&V1" が、CICS ステートメント "&V2" によって処理されている間に、入出力エラーを受け取りました。

ユーザーの処置:

入出力エラーを訂正するか、または正しいキュー名を使用していることを確認してください。一時データ・キューが CICS DCT に正しく記述されていることを確認してください。OUTPUT として記述されている一時データ・キューからインポートすることはできません。同様に、INPUT として記述されている一時データ・キュー

ーにエクスポートすることはできません。入出力エラーを訂正して、コマンドを再実行してください。

DSQ50064 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50065 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ50066 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ50067 &V1 は、有効な CICS キュー・タイプではありません。

説明:

キュー・タイプ "&V1" が、コマンドで見つかりましたが、サポートされているキュー・タイプではありません。有効なキュー・タイプは、次のとおりです。

- TD: 一時データ (CICS を使用している場合)
- TS: 一時 (補助) 記憶 (CICS を使用している場合)

ユーザーの処置:

正しいキュー・タイプを入力し、再度コマンドを実行してください。

DSQ50068 &V1 は、有効な CICS キュー・タイプではありません。

説明: 『DSQ50067』を参照してください。

DSQ50069 名前 &V1 は、キュー・タイプ &V2 を使っている場合、無効です。

説明: 318 ページの『DSQ21645』を参照してください。

DSQ50070 名前 &V1 は、キュー・タイプ &V2 を使っている場合、無効です。

説明: 318 ページの『DSQ21645』を参照してください。

DSQ50071 名前 &V1 は、キュー・タイプ &V2 を使っている場合、無効です。

説明: 318 ページの『DSQ21645』を参照してください。

DSQ50072 名前 &V1 は、キュー・タイプ &V2 を使っている場合、無効です。

説明: 318 ページの『DSQ21645』を参照してください。

DSQ50073 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

一時データを削除することはできません。 &V1 は一時データです。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50074 CICS キュー &V1 を使用する権限がありません。

説明:

コマンドまたは大域変数が CICS キューを、名前 "&V1" で使用しようとしています、使用する権限がありません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡して、適切な許可を得てください。

DSQ50075 &V1 が見つかりません。

説明:

コマンド内の CICS キュー名 "&V1" が見つかりません。

ユーザーの処置:

スペルの誤りがないかチェックするか、このキュー名を CICS 環境に定義してください。 QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50076 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

キュー名 &V1 を処理できません。

&V2、EIBRESP=&V3、 EIBRESP2=&V4 からのエラーです。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50077 CICS リソース名 &V1 が使用可能ではありません。

説明:

CICS キュー名 "&V1" は、他のユーザーまたは他のプロセスによって使用されています。

ユーザーの処置:

リソースが使用可能になるまで待つか、または QMF 管理者に連絡してヘルプを得てください。

DSQ50078 CICS リソース &V1 に使用可能なスペースが不十分です。

説明:

CICS キュー名 "&V1" には、データを入れるのに十分なスペースがありません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡して追加スペースを得るか、またはデータのサイズを縮小してください。

DSQ50079 CICS リソース名 *&V1* が使用可能ではありません。

説明:

CICS キュー名 "*&V1*" は、"DISABLED" または "NOT OPEN" のいずれかです。

ユーザーの処置:

リソースが使用可能になるまで待つか、または QMF 管理者に連絡してヘルプを得てください。

DSQ50080 CICS リソース名 *&V1* が使用可能ではありません。

説明: 『DSQ50079』を参照してください。

DSQ50081 *&V2* のレコード長は、CICS キュー *&V1* には無効です。

説明:

キュー名 "*&V1*" がコマンド中に見つかりましたが、"*&V2*" のレコード長は、CICS キューの定義に対して無効です。次の 1 つが、問題の原因である可能性があります。

1. キューの CICS 定義が、QMF 項目のレコード・サイズと一致していない。例えば、印刷しようとしている QMF オブジェクトのレコード・サイズが、CICS キューの定義より大きい場合などが考えられます。プリンターの印刷幅は、PRINT コマンドのオプションとして指定されるか、または QMF プロファイル・オブジェクトで指定されます。
2. CICS から z/OS リソースへの一時データ・キュー・マッピングが正しくない。

ユーザーの処置:

QMF リソース長または CICS 定義を訂正し、コマンドを再発行してください。

注: CICS 定義の変更が必要な場合、CICS を再始動しなければならないことがあります (リソース変更のタイプによります)。

DSQ50082 QMF オブジェクトが CICS キュー *&V1* に対して大きすぎます。

説明:

QMF オブジェクトに 32,767 個を超えるレコードが含まれています。これは、CICS 一時記憶キューに書き込めるレコードの最大数です。

ユーザーの処置:

QMF オブジェクトのサイズを小さくするか、オブジェ

クトを一時データ・キューに書き込むことが可能な場合は一時データ・キューの使用を試すことができます。一時データ・キューの定義、またはオブジェクト内のレコード数の削減については、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50086 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ERROR RETURN FROM ISPF INTERFACE
MODULE.

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50087 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ50086』を参照してください。

DSQ50088 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ50086』を参照してください。

DSQ50089 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ50086』を参照してください。

DSQ50090 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ50086』を参照してください。

DSQ50095 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ50086』を参照してください。

DSQ50096 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50105 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 215 ページの『DSQ20082』を参照してください。

DSQ50106 ID の最初の文字として、"." は指定できません。

説明:

"." (ピリオド) 文字は引用符なしの名前の先頭文字として使用できません。

ユーザーの処置:

最初の文字として使用されている "." を削除するか、または ".ABC" のように名前全体を二重引用符で囲んでください。次に Enter を押してください。

DSQ50107 ID のすべてまたは一部が欠落しています。

説明:

必須の ID を入力していないか、不完全な ID を入力しています。不完全な ID は必要な部分が欠落しています。例えば、

SMITH.

これは、 "." の後に名前が予期されるので不完全です。この ID を完全な名前として使用したい場合は、次のように二重引用符で囲んでください。例えば、次のようになります。

"SMITH."

ユーザーの処置:

ID を完全な形にするか、または二重引用符で囲み、ENTER キーを押してください。

DSQ50108 ID のすべてまたは一部が欠落しています。

説明: 『DSQ50107』を参照してください。

DSQ50109 ID に対になっていない二重引用符が含まれています。

説明:

名前の先頭、または末尾に二重引用符を使用しました

が、末尾と先頭の二重引用符の数が対応していません。例えば次のようにします。

"MY*TABLE

これは、末尾の二重引用符がないので無効です。

ユーザーの処置:

対応する二重引用符を入力して、次に Enter を押してください。

DSQ50110 ID のすべてまたは一部が欠落しています。

説明: 『DSQ50107』を参照してください。

DSQ50111 ID の中に二重引用符が含まれています。

説明:

ID の中に二重引用符は指定できません。例えば、ABC"XYZ は無効です。二重引用符は名前を囲むために使用できます。例えば、表の名前、"MY*TABLE*" は有効です。

ユーザーの処置:

途中の二重引用符を削除し、次に Enter を押してください。

DSQ50112 &V1 が長すぎます。

説明:

有効な ID としては長すぎる名前を入力しました。&LS. への現在のデータベース接続では、以下の長さがサポートされます。

- QMF オブジェクト許可 ID は &LQ. 文字まで指定できます。
- QMF オブジェクト名は &LN. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト許可 ID は &LA. 文字まで指定できます。
- データベース・オブジェクト名には、最大 <. 文字まで指定できます。
- データベース列名は &LC. 文字まで指定できます。

ユーザーの処置:

短い名前を入力して、ENTER を押してください。

DSQ50114 ID に対になっていない二重引用符が含まれています。

説明: 『DSQ50109』を参照してください。

DSQ50115 ID の中に二重引用符が含まれています。

説明: 602 ページの『DSQ50111』を参照してください。

DSQ50116 ID の中に二重引用符が含まれています。

説明: 602 ページの『DSQ50111』を参照してください。

DSQ50117 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50118 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50119 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

大域変数 DSQDO_DATA_OBJECT がありません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50120 大域変数用の DATA がありません。

説明:

現行 QMF DATA オブジェクトが空であるか、存在しないため、大域変数用の情報がありません。このエラーの理由として考えられるのは、以下のとおりです。

1. DATA オブジェクトが QMF の開始後に空である。
2. DATA オブジェクトがリセットされている。

3. システム・エラーにより DATA オブジェクトが削除された。

ユーザーの処置:

DATA オブジェクトは、データベースからデータを正常に取得する照会の実行時、または QMF IMPORT DATA コマンドを使用したファイルからのデータのインポート時に作成されます。

現行 DATA オブジェクトがあると考えていた場合、エラーは照会の実行またはデータのインポートによって発生した可能性があります。オブジェクトを作成したステップにエラーがないかを調べてください。

DSQ50121 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

変数 &V1 の設定が失敗しました。理由コード &V2。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50127 スtringまたは定数が長すぎて、コマンドで処理できません。

説明:

コマンドに、32,767 バイトより長いStringまたは定数が含まれています。 QMF はコマンドを実行できません。

ユーザーの処置:

長いStringまたは定数のサイズを減らして、コマンドを再試行してください。

DSQ50128 比較演算子の使用法が誤っています。

説明:

有効な演算子は、<、>、<>、=、<=、および >= です。さらに、一部のコード・ページでは、「^」、

DSQ50129 • DSQ50155

「!」、またはその両方を NOT 記号としてサポートしています。コード・ページによっては、 \wedge 、 \wedge <、 \wedge >、!=、!<、および !> は有効な演算子の組み合わせになります。演算子の間にはスペースを入れないでください。

ユーザーの処置:

演算子を訂正して、コマンドを再発行してください。

DSQ50129 比較演算子の使用法が誤っています。

説明: 603 ページの『DSQ50128』を参照してください。

DSQ50130 比較演算子の使用法が誤っています。

説明: 603 ページの『DSQ50128』を参照してください。

DSQ50134 比較演算子の使用法が誤っています。

説明: 603 ページの『DSQ50128』を参照してください。

DSQ50135 比較演算子の使用法が誤っています。

説明: 603 ページの『DSQ50128』を参照してください。

DSQ50136 比較演算子の使用法が誤っています。

説明: 603 ページの『DSQ50128』を参照してください。

DSQ50143 比較演算子の使用法が誤っています。

説明: 603 ページの『DSQ50128』を参照してください。

DSQ50144 比較演算子の使用法が誤っています。

説明: 603 ページの『DSQ50128』を参照してください。

DSQ50150 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 215 ページの『DSQ20082』を参照してください。

DSQ50151 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50152 レコード形式は固定長または可変長でなければなりません。

説明: 341 ページの『DSQ22122』を参照してください。

DSQ50153 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

誤った DDNAME コード。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50154 ファイル &V1 は &V2 をオープンしませんでした。

説明:

ファイルが正常にオープンされない理由として、以下が考えられます。システム・エラーが生じたか、またはハードウェアに関する問題が生じたか、あるいは要求を満たすシステム・リソースが十分でないことが考えられます。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡を取り、ファイル &V1 をオープンしようとし、また、メッセージに付加されたデータを組み込もうとしたときの詳細を説明してください。

DSQ50155 入出力エラー &V1

説明: 596 ページの『DSQ50026』を参照してください。

DSQ50160 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50161 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50162 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50163 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50164 ファイル &V1 が &V2 をクローズしました。

説明: 596 ページの『DSQ50029』を参照してください。

DSQ50165 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50167 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50168 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50169 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ50170 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50171 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50172 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50173 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 411 ページの『DSQ23439』を参照してください。

DSQ50174 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 411 ページの『DSQ23440』を参照してください。

DSQ50176 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

OBTAIN エラー。 戻りコード &V1。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50177 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DEVTYPE エラー。 戻りコード &V1。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50179 データ・レコード &V1 の列 &V2 のデータの長さが無効です。

説明:

インポートしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1、列 &V2 内の可変長データの長さフィールドには、無効な値 &V3 が入っています。 この列のデータ・タイプの場合、長さは &V4 から &V5 までの範囲でなければなりません。 このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトの変更または作成を行うアプリケーションを開発している場合、可変長データ・タイプの形式について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。 または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50180 データ・レコード &V1 の列 &V2 の NULL 標識が無効です。

説明:

インポートしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1、列 &V2 内の NULL 標識は &V3 ですが、これは無効な値です。 列 &V2 の値を NULL にできる場合には、NULL 標識は以下のいずれかにすることができます。

&V4 &V5 &V6 &V7

列 &V2 に NULL データを入れることができない場合は、NULL 標識は &V4 でなければなりません。 このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトの変更または作成を行うアプリケーションを開発している場合、NULL 標識について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50181 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、無効な浮動小数点データまたは 10 進浮動小数点データを含んでいるため、インポートされませんでした。 データは、正規化されたときにアンダーフローするため無効です。

ユーザーの処置:

式を変更して、アンダーフローしない数値になるようにしてください。 QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50182 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、無効な 10 進データを含んでいるためインポートされませんでした。 ファイルまたはデータ・セットのレコード &V1 の列 &V2 の値には、10 進数および + または - 符号のみが含まれている必要があります。

ユーザーの処置:

10 進数の正しい形式、精度、および位取りについては、ご使用のデータベースの情報を参照してください。無効な 10 進数をすべて修正して、IMPORT コマンドを再実行してください。

QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50183 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 606 ページの『DSQ50181』を参照してください。

DSQ50184 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、レコード &V1、列 &V2 に無効な図形 (DBCS) 値を含んでいるため、インポートされませんでした。値には、有効な図形コードのみが含まれている必要があります。この値には図形フィールド区切り文字が含まれてはなりません。ただし、QMF 形式または IXF 文字形式の列全体を区切る区切り文字は含まれていてもかまいません。

ユーザーの処置:

図形データの無効な値を修正して、IMPORT コマンドを再試行してください。QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50185 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 『DSQ50184』を参照してください。

DSQ50186 データ・レコード &V1 の列 &V2 のデータの長さが無効です。

説明: 606 ページの『DSQ50179』を参照してください。

DSQ50187 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 『DSQ50184』を参照してください。

DSQ50188 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 『DSQ50184』を参照してください。

DSQ50189 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明:

インポートしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1、列 &V2 内の文字データ値は無効です。

この値には、文字、およびグラフィック・フィールド区切り文字間の有効なグラフィック (DBCS) コードのみが含まれていなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトの変更または作成を行うアプリケーションを開発している場合、文字データとグラフィック (DBCS) データの結合について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50190 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 『DSQ50189』を参照してください。

DSQ50191 データ・レコード &V1 の列 &V2 のデータの長さが無効です。

説明: 606 ページの『DSQ50179』を参照してください。

DSQ50192 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 『DSQ50189』を参照してください。

DSQ50193 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 『DSQ50189』を参照してください。

DSQ50194 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、レコード &V1、列 &V2 の単精度浮動小数点データが無効なため、インポートされませんでした。データ・レコードのバイト位置 5 から 8 は現在使用されています。単精度浮動小数点データをインポートする場合、これらのバイト位置はクリアされている必要があります。

ユーザーの処置:

データの位置 5 から 8 が使用されないようにデータを修正して、IMPORT コマンドを再試行してください。QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50195 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、レコード &V1、列 &V2 に無効な日付、時刻、タイム・スタンプ、または時間帯を持つタイム・スタンプを含んでいるため、インポートされませんでした。

日付、時刻、タイム・スタンプ、および時間帯を持つタイム・スタンプのデータ形式は次のとおりです。

```
Date data          yyyy-mo-dd
Time data          hh.mm.ss
Timestamp data     yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.nnnnnnnnnnn
Timestamp with
time zone data     yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.nnnnnnnnnnnzth:tm
```

上記の形式の内容は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は時刻形式で分を表す 2 桁の値で、タイム・スタンプおよび時間帯付きタイム・スタンプ形式の末尾 2 桁です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- nnnnnnnnnnnnn は秒数の小数部分を表す 0 桁から 12 桁の値です。
- z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号です。
- th は時間帯の時を表す 2 桁の値です。
- tm は時間帯の分を表す 2 桁の値です。

時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

上記に示した形式に従って日付、時刻、タイム・スタンプ、および時間帯を持つタイム・スタンプの値を修正して、IMPORT コマンドを再試行してください。QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50196 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 『DSQ50195』を参照してください。

DSQ50197 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 『DSQ50195』を参照してください。

DSQ50198 データ・レコード &V1 の列 &V2 の NULL 標識が無効です。

説明: 606 ページの『DSQ50180』を参照してください。

DSQ50199 データ・レコード &V1 の列 &V2 のデータの長さが無効です。

説明: 606 ページの『DSQ50179』を参照してください。

DSQ50200 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

時刻システム・サービスで障害が生じました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50201 時間枠の指定はこのシステムではサポートされていません。

説明:

保存しようとしていた指示照会には、1 つ以上の時間枠指定が含まれています。SAVE コマンドが送信されたシステムは、指示照会での時間枠指定をサポートしていません。

指示照会は保存されませんでした。

ユーザーの処置:

この指示照会を保存するには、以下の点を確認してください。

1. QMF バージョン 11 (またはそれ以降) に接続している。
2. QMF が稼働しているデータベースが DB2 10 for z/OS (またはそれ以降) である。

その上で、コマンドを再発行します。

接続先のシステム上で実行している QMF と DB2 のリリースがはっきり分からない場合は、QMF 管理者に問い合わせてください。

DSQ50202 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 215 ページの『DSQ20082』を参照してください。

DSQ50203 検索された照会のレコード &V1 にフィールドがありません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。 T レコード (レコード &V1) で始まる表には、フィールド &V2 が含まれていなければなりません。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、示されたフィールドを追加してください。フィールド番号の完全なリストとそれらの説明については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50204 データベース・オブジェクトを使用しようとしたときに、エラーが検出されました。

説明:

データベースからのフォームまたは指示照会を使用しようとしていますが、エラーが発生しました。オブジェクトのロードは完了していません。オブジェクトはそのままでは使用できません。データベースに保存されているフォームまたは指示照会は修正しないでください。

ユーザーの処置:

オブジェクトを再度取り出すかまたは再作成し、データベースに保管してください。保管した後、それを使用してください。それでもエラーが発生する場合は、作業の進め方について QMF 管理者に相談してください。

DSQ50205 検索した照会のレコード &V1 の列のカウントが無効です。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。 検索された照会のレコード &V1 は T レコードであり、位置 &V2 に列カウント・フィールド値 &V3 が含まれています。 この値は &V4 でなければなりません。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、列カウント値を訂正します。指示照会の外部形式について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50206 検索した照会のレコード &V1 の列の長さが無効です。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。 検索された照会のレコード &V1 は T レコードであり、位置 &V2 に無効な列の長さ値 &V3 が含まれています。この値は &V4 でなければなりません。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、列の長さ値を訂正してください。指示照会の外部形式について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50207 検索する照会のレコード &V1 の列位置は無効です。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。 T レコード (レコード &V1) 内の列 &V3 の R レコード列位置を判別できません。

ユーザーの処置:

照会の作成または変更を行うアプリケーションを作成している場合、T レコードのフィールド値について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50208 検索した照会のレコード &V1 のデータ値が欠落しています。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。 レコ

DSQ50209 • DSQ50218

ード &V1 の位置 &V2 に R レコードの列フィールド値が予期されましたが、見つかりません。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、示された場所に必要なフィールド値を追加して R レコードを訂正してください。R レコードのフィールド値について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50209 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50210 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50211 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50212 REXX は計算の評価に使えません。

説明:

QMF 報告書の計算には REXX が必要です。使用システムでは REXX が使えません。FORM で計算式を作成することはできますが、FORM はエラーになり、報告書を表示することはできません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50213 式に構文エラーがあります: &V1.

説明:

REXX は、式に関し次のエラー・メッセージを返しました。

&V3

以下を行ってください。

ユーザーの処置:

式を訂正し ENTER キーを押してください。エラーが FORM.CALC で検出された場合で、QMF の外 (TSO、または ISPF) で訂正を行う必要がある場合は、訂正後に、F.CALC を表示し必要な修正を行うことによって、QMF に処置を知らせる必要があります。必要な変更が

これ以上ない (例えば式が正しく表示された) 場合は、式の中の文字の 1 つを再入力してください。これにより、QMF は、フォームが正しく作成されたかを確認するために必要な妥当性検査を再度行います。この形式の修正を行わないと、予期しない結果を招く可能性があります。

DSQ50214 式を評価できません: &V1

説明:

REXX は次のエラー・メッセージを返しました。

&V3

これは、次の式を評価中に発生しました。

&V2 &V4

注: 式の後に '>>>' が続く場合、式は長すぎて右側から切り捨てられます。

ユーザーの処置:

式または置き換える値を訂正し、コマンドを再試行してください。

DSQ50215 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50216 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50217 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50218 QMF REXX プログラム DSQCXPR をロードできません。

説明:

QMF 報告書の計算には QMF REXX プログラム DSQCXPR が必要です。プログラムがロードできません。計算式、列定義、または形式の条件を作成できますが形式にエラーがあり、報告書は表示できません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50219 レコード &V1 内に予期しないレコード・コード &V2 が見つかりました。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索した照会のレコード &V1 には &V2 のレコード・コードが含まれています。このレコード・コードは、検索対象の照会のこの場所で使用することはできません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更するアプリケーションを作成している場合は、レコード・コードを訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50220 レコード &V1 内に予期しないレコード・コード &V2 が見つかりました。

説明: 『DSQ50219』を参照してください。

DSQ50221 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50222 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

REXX PROGRAM DID NOT EXECUTE.

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50223 REXX プログラムの処理は中断されました。

説明:

システムは REXX プログラムの実行を中断しました。

通常は出した HI (解釈停止) 即時コマンドによるものです。あるユーティリティー・モジュールは、重大なエラー状態を検出した場合、この状態を強制する場合があります。

ユーザーの処置:

ユーザーが HI コマンドを出した場合は、ユーザーの対処を継続してください。あるいは、exec または macro から呼び出されたユーティリティー・モジュールに問題がないか調べてください。

DSQ50224 式 &V1 により、REXX 構文エラーになる可能性があります。

説明:

REXX 式への PASS NULLS が YES に設定されている場合は、離散データ値に基づいた実行時間に構文エラーが発生するのかを判別するため、NULL データの状態がシミュレートされます。しかし、実行時間のエラーはデータ値が原因である場合がほとんどなので、式は現状のままとなる可能性があります。

ユーザーの処置:

式、PASS NULLS の使用、ターゲット・データを評価してください。次のいずれかを、検討してください。

- この式の PASS NULLS を NO に設定する。
- PASS NULLS 値でデータを処理するために @IF 関数を使用する。
- 現状のままの式を使用する。

DSQ50225 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

CS 機能が無効な入力パラメーターを受け取りました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50226 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 611 ページの『DSQ50225』を参照してください。

DSQ50227 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 611 ページの『DSQ50225』を参照してください。

DSQ50228 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 611 ページの『DSQ50225』を参照してください。

DSQ50229 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 611 ページの『DSQ50225』を参照してください。

DSQ50230 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 611 ページの『DSQ50225』を参照してください。

DSQ50232 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50233 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50234 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50235 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50236 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50237 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ50238 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50239 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50240 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50245 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50246 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なデータベース機能コード '&V1' がモジュールに渡されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確

認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50247 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

2 か国語変換モジュール &V1 は、ロードできませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50249 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50250 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 611 ページの『DSQ50225』を参照してください。

DSQ50275 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 611 ページの『DSQ50225』を参照してください。

DSQ50288 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50289 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23601』を参照してください。

DSQ50301 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 403 ページの『DSQ23277』を参照してください。

DSQ50302 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なタイプの置換変数です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50303 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

メッセージ・バッファーとして使用可能な記憶域がありません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50304 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

置換変数シンボルの数が置換変数の数を上回っています。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50305 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なメッセージが見つかりました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50306 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効な置換変数の数がメッセージ・モジュールに入力されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップし

たパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50307 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効な置換変数の長さがメッセージ・モジュールに入力されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50308 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 403 ページの『DSQ23278』を参照してください。

DSQ50309 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

メッセージの置換情報が多すぎます。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50310 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 403 ページの『DSQ23277』を参照してください。

DSQ50311 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 613 ページの『DSQ50302』を参照してください。

DSQ50312 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 614 ページの『DSQ50305』を参照してください。

DSQ50313 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

メッセージ・バッファを解放することができませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50314 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 614 ページの『DSQ50309』を参照してください。

DSQ50315 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 614 ページの『DSQ50309』を参照してください。

DSQ50316 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 614 ページの『DSQ50309』を参照してください。

DSQ50318 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なメッセージ送信元がメッセージ処理プログラムに入力されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50323 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50324 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

大域変数 &V1. のヘッダー・セクションが見つかりません。

DSQ50325 • DSQ50340

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50325 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50326 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50327 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50328 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50331 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50332 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50333 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50334 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50336 警告メッセージが生成されました。

説明: 26 ページの『DSQ10310』を参照してください。

DSQ50337 ガバナナー出口の取り消しが戻りコード &V1 で発生しました。

説明:

QMF ガバナナー出口ルーチンの実行中に取り消し要求が発生しました。この取り消し要求に関連する戻りコードは &V1 です。

ユーザーの処置:

この特定条件についての詳細は、QMF 管理者に問い合わせてください。

DSQ50338 OK、コマンドは取り消されました。

DSQ50339 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

管理プログラムの終了によって、セッションが終了されました。メッセージ・ログを参照してください。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50340 警告メッセージが生成されました。

説明: 27 ページの『DSQ10311』を参照してください。

DSQ50341 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50342 メッセージ &V2 の定義が無効であるか、または欠落しています。

説明: 259 ページの『DSQ20684』を参照してください。

DSQ50343 ヘルプ・パネル &V2 がパネル・ライブラリーにありません。

説明: 261 ページの『DSQ20695』を参照してください。

DSQ50345 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50346 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50351 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DDNAME DSQPILL が割り当てられませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50352 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

RDJFCF SYNAD エラー。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50353 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50356 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DSS サーバー機能 (&V2) からのエラー戻りコード (&V1)。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50357 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 617 ページの『DSQ50356』を参照してください。

DSQ50358 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50364 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 31 ページの『DSQ10381』を参照してください。

DSQ50365 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

コマンド・ステートメントを入れるにはバッファが小さすぎます。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50374 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 611 ページの『DSQ50225』を参照してください。

DSQ50380 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50381 プログラム・パラメーターに入力された値が無効です。&V1 には &V2 を入れることはできません。

DSQ50382 プログラム・パラメーター &V1 は 2GB を超える記憶域は指定できません。

DSQ50383 プログラム・パラメーターに入力された値が無効です。&V1 には &V2 を入れることはできません。

DSQ50384 プログラム・パラメーター &V1 は 2048MB を超える記憶域は指定できません。

DSQ50385 プログラム・パラメーターに入力された値が無効です。&V1 には &V2 を入れることはできません。

DSQ50386 プログラム・パラメーター &V1 は 2097152KB を超える記憶域は指定できません。

DSQ50387 DSQSMTHD はこの環境では無効です。

DSQ50391 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50392 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50394 プログラム・パラメーター &V1 は 2147483647 バイトを超える記憶域は指定できません。

DSQ50395 プログラム・パラメーター &V1 は先行番号なしで % 記号を含むことはできません。

DSQ50396 プログラム・パラメーター &V1 には、% 記号に数値が続く値を含めることはできません。

DSQ50397 プログラム・パラメーター **&V1** のパーセント値は、**&V2** ではなく、**1** から **100** の範囲内でなければなりません。

DSQ50398 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50399 **CALL** ステートメントで渡されたプロシージャが生成する結果セットが多すぎます。

説明:

このエラーは、**CALL** ステートメントを使用して **QMF for TSO** を **DB2 for z/OS** のストアード・プロシージャとして開始すると発生します。 **QMF** は **CALL** ステートメントの最初のパラメーターに指定されたプロシージャを実行しようとしたが、プロシージャは合計 **&V1** 個の結果セットを生成することになるため不完全なまま終了しました。 **QMF** が **DB2 (z/OS 版)** のストアード・プロシージャとして開始される場合に許可される結果セットの最大数は **&V2** です。結果セットは、以下のコマンドが発行されるたびに生成されます。

PRINT REPORT (PRINTER=' ')

このコマンドの **PRINTER** パラメーターの値は、**CALL** ステートメントを発行した **QMF** ユーザーのプロファイルから継承することが可能です。この場合は、パラメーターが指定されていない **PRINT REPORT** コマンドも結果セットを生成します。

ユーザーの処置:

QMF for TSO を開始した **CALL** ステートメントの最初のパラメーターとして渡された **QMF** プロシージャ、およびこの手順によって呼び出されたすべてのプロシージャやアプリケーションを調べてください。このプロシージャの完了時に、結果セットを生成するために発行された **PRINT REPORT** コマンドが **&V2** を超えていないことを確認してください。

DSQ50400 プログラム・パラメーター **&V1** が誤っています。

DSQ50401 プログラム・パラメーター **&V1** の値が欠落しています。

DSQ50402 プログラム・パラメーター **&V2** の値 **&V1** が正しくありません。

DSQ50403 プログラム・パラメーターの値 **&V1** は **&V2** 文字以下でなければなりません。

DSQ50404 プログラム・パラメーターの値 **&V1** は、**&V2** ではなく、数値でなければなりません。

DSQ50405 戻された **REXX** プログラム・パラメーター数は **&V1** で、**&V2** ではありません。

DSQ50406 **K** オプションのセッション値は、'**&V1**' ではなく、**YES** または **NO** でなければなりません。

DSQ50407 **M** オプションのセッション値は、'**&V1**' ではなく、**I** または **B** でなければなりません。

DSQ50408 **QMF** がバッチ・モードで起動されるときには、初期処理手順が使用される必要があります。

DSQ50409 **QMF** セッションに関連付けられた端末装置がない場合、**DSQSSPQN** が必要です。

DSQ50410 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50411 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

すでに割り当てられているファイルを割り当てようとしてしました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して **QMF** 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が **Q.ERROR_LOG** テーブルおよび **QMF** トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを

報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50412 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

割り当てられていないファイルをオープンしようとしてしました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50413 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

すでにオープンされているファイルをオープンしようとしてしました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50414 インポートするデータの幅が、レコード長と一致しません。

説明:

インポートしているデータの列の幅がファイルまたはデータ・セットの論理レコード長 (LRECL) と一致していません。 QMF 形式のデータでは、LRECL は、列幅の合計であるデータ幅と等しくなければなりません。 IXF データでは、LRECL はデータ幅に等しくなければなりません、それはこのデータの最小許容幅です。データ幅は &V1 です。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、データ・タイプ幅について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50415 インポートされるデータが不完全です。

説明:

必要なすべてのヘッダー・レコードを読み取る前に、インポートするファイル、またはデータ・セットがキューの終わりに達しました。

CICS において、一時データ・キューからデータをインポートしていて、インポートされるデータを入れるのに十分な仮想記憶がない場合、この条件が起ることがあります。

読み取られた最後のレコードは、レコード &V1 でした。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、データ・ヘッダー・レコードの形式および数について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

CICS において、一時データ・キューからデータをインポートしているときに、ヘッダー・レコードが正しい場合は、データ用に使用される仮想記憶域を増やす必要があります。データおよび報告書用に使用される記憶域を増やすには、QMF プログラム・パラメーター DSQSBSTG を参照してください。このパラメーターは、QMF の開始時に指定されます。ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」または「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ50416 データの列カウントが許容範囲内にありません。

説明:

インポートしているデータのヘッダーに列カウント &V1 が含まれていますが、この値は許容範囲である &V2 から &V3 までの範囲に入っていません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、ヘッダー・レコードのデータ列および形式について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50417 データのヘッダー・レコード・カウントが無効です。

説明:

インポートしているデータのヘッダーには、ヘッダー・レコード・カウント &V1 が含まれています。ファイルの論理レコード長およびデータの列の数に基づいて計算すると、ヘッダー・レコード・カウントは &V2 でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトの修正または作成を行うアプリケーションを開発している場合、ヘッダー・レコードの形式および数について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50418 インポートされるデータが不完全です。

説明: 620 ページの『DSQ50415』を参照してください。

DSQ50419 インポートされるデータが不完全です。

説明: 620 ページの『DSQ50415』を参照してください。

DSQ50420 データ列 &V1 のデータ・タイプ・コードが無効です。

説明:

インポートしているデータのヘッダーに、列 &V1 のデータ・タイプ・コードとして認識されない値 "&V2" が含まれています。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、有効なデータ・タイプ・コードのリストについて、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50421 データ列 &V1 の幅が無効です。

説明:

インポートしているデータのヘッダーに、列 &V2 の幅として無効な値 &V1 が含まれています。この列のデータ・タイプの場合、幅は &V3 でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、データ・タイプおよび列幅について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50422 データ列 &V1 の幅が無効です。

説明: 『DSQ50421』を参照してください。

DSQ50423 データ列 &V1 の幅が無効です。

説明:

インポートするデータの見出しレコードで、浮動小数点タイプまたは 10 進浮動小数点タイプの列である列 &V1 に無効な幅 &V2 が含まれているため、ファイルまたはデータ・セットはインポートされませんでした。

有効な幅は次のとおりです。

- 単精度浮動小数点: 4
- 倍精度浮動小数点: 8
- 長形式 10 進浮動小数点: 8
- 拡張形式 10 進浮動小数点: 16

ユーザーの処置:

QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50424 データ列 &V1 の幅が無効です。

説明:

インポートしているデータのヘッダーに、10 進タイプの列 &V1 には無効な精度または位取りの値が含まれています。精度は &V5、位取りは &V6、幅は &V2 で

DSQ50425 • DSQ50432

す。位取りの値は精度よりも大きくすることはできず、幅は &V3 から &V4 までの範囲でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、データ・オブジェクト・ヘッダー・レコード形式および 10 進データ・タイプについて「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50425 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明:

インポートしているデータのヘッダーに、列 &V1 の幅として無効な値 "&V2" が含まれています。この列のデータ・タイプの場合、幅は &V3 から &V4 までの範囲でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、データ・タイプおよび列幅について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50426 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50427 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50428 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50429 インポートされるデータ列 &V1 に対する "NULLS ALLOWED" は無効です。

説明:

インポートしているデータのヘッダーに、列 &V1 の「NULL の許可」標識の値として認識することのできない値、"&V2" が含まれています。この値は "Y" または "N" でなければなりません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトの変更または作成を行うアプリケーションを開発している場合、NULL 標識について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50430 インポートされるデータが不完全です。

説明: 620 ページの『DSQ50415』を参照してください。

DSQ50431 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

割り当てられていないファイルを読み込もうとしました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50432 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

オープンされていないファイルを読み込もうとしました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2

QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50433 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

割り当てられていないファイルをクローズしようとした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50434 オブジェクトのタイプまたはレベルが認識できません。

説明:

インポートに関与しているファイルのオブジェクト・タイプまたはレベルが認識できません。インポートしようとするファイルの内容を判別するには、この情報が必要です。

ユーザーの処置:

データまたはフォームをインポートする場合は、これらのオブジェクトのエクスポート形式のヘッダー・レコードに関する仕様について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。IMPORT コマンドの詳細については、「DB2 QMF 解説書」も参照してください。それでも問題が続く場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50435 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50436 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50437 FORM、REPORT、または QUERY オブジェクトを DATA としてインポートできません。

説明:

IMPORT DATA コマンドを出しましたが、指定されたソースには FORM、REPORT または QUERY が含まれていました。

ユーザーの処置:

データをインポートする場合は、DATA オブジェクトが含まれているソースを指定して、コマンドを再実行してください。別のタイプのオブジェクトをインポートする場合は、IMPORT コマンドを正しい形式で使用してください。

DSQ50438 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50439 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50440 データ列 &V1 の幅が無効です。

説明:

ヘッダー・レコードに列 &V1 (TIMESTAMP タイプの列) の無効な幅 &V2 が含まれているため、データはインポートされませんでした。

TIMESTAMP 列の有効な幅は次のとおりです。

- TIMESTAMP(0) 19
- TIMESTAMP(1) 21
- TIMESTAMP(2) 22
- TIMESTAMP(3) 23
- TIMESTAMP(4) 24
- TIMESTAMP(5) 25
- TIMESTAMP(6) 26
- TIMESTAMP(7) 27
- TIMESTAMP(8) 28

DSQ50441 • DSQ50449

- TIMESTAMP(9) 29
- TIMESTAMP(10) 30
- TIMESTAMP(11) 31
- TIMESTAMP(12) 32

TIMESTAMP の幅は、TIMESTAMP(6) に示した幅と同じです。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトの変更または作成を行うアプリケーションを開発している場合、期待されるデータのインポート形式について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50441 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 620 ページの『DSQ50412』を参照してください。

DSQ50442 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ファイル・ポインターはすでにデータの始めを過ぎていきます (ファイル・レコード番号 = &V1)。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50443 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

インポートされるデータ・ファイルの読み取り中にバッファがオーバーフローしました (ファイル・レコード番号 = &V1)。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップし

たパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50444 &V1 のレコード形式は &V2 でなければなりません。

説明: 318 ページの『DSQ21650』を参照してください。

DSQ50445 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50446 FORM、REPORT、または QUERY オブジェクトを DATA としてインポートできません。

説明: 623 ページの『DSQ50437』を参照してください。

DSQ50447 FORM、REPORT、または QUERY オブジェクトを DATA としてインポートできません。

説明: 623 ページの『DSQ50437』を参照してください。

DSQ50448 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50449 &V1 のレコード形式は &V2 でなければなりません。

説明: 318 ページの『DSQ21650』を参照してください。

DSQ50450 レコード長は少なくとも &V2 でなければなりません。

説明: 315 ページの『DSQ21613』を参照してください。

DSQ50451 ファイルのヘッダー・レコードのレコード・カウントが無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、IXF ヘッダー・レコード (&V1) のバイト 35 から 39 に無効な値 '&V2' があるため、インポートされませんでした。これらのバイトは、インポートされるデータ・レコードまたはキュー内の最初のデータ・レコードに先行するレコードの数を保管するために使用されます。この値は正の整数でなければなりません。

ユーザーの処置:

ヘッダー・レコード内の無効な値を修正して、IMPORT コマンドを再試行してください。QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50452 インポートされるデータが不完全です。

説明: 620 ページの『DSQ50415』を参照してください。

DSQ50453 データ・レコード &V1 のレコード・タイプ・コードが無効です。

説明:

インポートしている IXF 形式データのレコード &V1 に、予期していたタイプ・コード "&V3" の代わりにレコード・タイプ・コード "&V2" が入っています。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

IXF 定様式データ・オブジェクトを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、IXF レコード・タイプおよび必要なレコード順序について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50454 データ規則コードが無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、データに無効な値 '&V1' があるため、インポートされませんでした。こ

の値は、インポートしようとしている IXF データの表レコード (T レコード) のバイト 42 にあります。このバイト位置でサポートされる値は &V2 のみです。この値は、データが縦欄形式であることを示します。

ユーザーの処置:

値を &V2 に変更して、IMPORT コマンドを再試行してください。QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50455 データ形式コードが無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、データに無効な値 "&V1" があるため、インポートされませんでした。この値は、インポートしようとしている IXF データの表レコード (T レコード) のバイト 43 にあります。このバイト位置でサポートされる値は &V2 または &V3 のみです。インポートされるデータが文字形式の場合は &V2 が使用され、バイナリー形式の場合は &V3 が使用されます。

ユーザーの処置:

データ形式コードを &V2 または &V3 に変更して、IMPORT コマンドを再試行してください。QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50456 データ・ロケーション・コードが無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、データに無効な値 "&V1" があるため、インポートされませんでした。この値は、インポートしようとしている IXF データの表レコード (T レコード) のバイト 44 にあります。このバイト位置でサポートされる値は &V2 のみです。

ユーザーの処置:

値を &V2 に変更して、IMPORT コマンドを再試行してください。QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50457 データ列 &V1 のデータ・タイプはサポートされません。

説明:

インポートしているデータ・オブジェクトの列 &V1 のデータ・タイプは単精度浮動小数点ですが、このタイプは現在使用中のデータベース・マネージャーのリリース・レベルではサポートされていません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

インポートしているデータが別のシステムからのものである場合は、現在ご使用のデータベース・マネージャーでサポートされるタイプの列のみを使用して、もう一方のシステムでデータをエクスポートまたは再作成してみてください。その後、再度インポート操作を行ってください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50458 データの列カウントが許容範囲内にありません。

説明: 621 ページの『DSQ50416』を参照してください。

DSQ50459 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50460 インポートされるデータが不完全です。

説明: 620 ページの『DSQ50415』を参照してください。

DSQ50461 インポートされるデータが不完全です。

説明: 620 ページの『DSQ50415』を参照してください。

DSQ50462 データ・レコード &V1 のレコード・タイプ・コードが無効です。

説明: 625 ページの『DSQ50453』を参照してください。

DSQ50463 データ列 &V1 のデータ・タイプはサポートされません。

説明:

インポートしているデータ・オブジェクトの列 &V1 のデータ・タイプ・コードは &V2 ですが、これは、データ・タイプ DATE、TIME、または TIMESTAMP のいずれかです。これらのデータ・タイプは、ご使用のデ

ータベース・マネージャーのリリース・レベルではサポートされていません。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

インポートしているデータが別のシステムからのものである場合は、現在ご使用のデータベース・マネージャーでサポートされるタイプの列のみを使用して、もう一方のシステムでデータをエクスポートまたは再作成してみてください。その後、再度、インポート操作を行ってください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50464 データ列 &V1 のデータ・タイプはサポートされません。

説明: 『DSQ50463』を参照してください。

DSQ50466 データ列 &V1 のデータ・タイプはサポートされません。

説明: 『DSQ50463』を参照してください。

DSQ50467 データ・レコード &V1 のレコード・タイプ・コードが無効です。

説明: 625 ページの『DSQ50453』を参照してください。

DSQ50468 列 &V1 のデータ・クラスの値が無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、列のデータ・クラスを示す列レコード (&V1) 内の値が無効なため、インポートされませんでした。データ・クラスの現行値は &V2 です。IXF データの列レコード内のこの位置で QMF によりサポートされる値は &V3 のみです。

ユーザーの処置:

データ・クラスの無効な値を修正して、IMPORT コマンドを再試行してください。QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50469 列 &V1 のコード・ページ値が無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、データのコード・ページを示す列レコード (&V1) 内の値が無効なため、インポートされませんでした。現行のコード・ページ値

は &V2 です。IXF データの列レコード内のこの位置で QMF によりサポートされる値は &V3 のみです。

ユーザーの処置:

列レコード内の無効な値を修正して、IMPORT コマンドを再実行してください。QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50470 データ列 &V1 のデータ・タイプ・コードが無効です。

説明: 621 ページの『DSQ50420』を参照してください。

DSQ50471 列 &V1 のデータの開始位置の値が無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、列 &V1 のデータの開始位置を示す値が無効なため、インポートされませんでした。開始位置の現行値は &V2 です。ファイル内のこの位置の値は、&V3 より大きな正整数でなければなりません。

ユーザーの処置:

列レコード内の無効な値を修正して、IMPORT コマンドを再実行してください。QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50472 列 &V1 のデータの開始位置の値が無効です。

説明: 『DSQ50471』を参照してください。

DSQ50473 インポートされるデータ列 &V1 に対する "NULLS ALLOWED" は無効です。

説明: 622 ページの『DSQ50429』を参照してください。

DSQ50474 データ列 &V1 のデータ・タイプはサポートされません。

説明: 626 ページの『DSQ50457』を参照してください。

DSQ50475 データ列 &V1 の幅が無効です。

説明: 621 ページの『DSQ50424』を参照してください。

DSQ50476 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50477 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50478 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50479 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50480 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50481 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50482 データ列 &V1 のデータ・タイプはサポートされません。

説明: 626 ページの『DSQ50463』を参照してください。

DSQ50483 データ列 &V1 のデータ・タイプはサポートされません。

説明: 626 ページの『DSQ50463』を参照してください。

DSQ50484 データ列 &V1 のデータ・タイプはサポートされません。

説明: 626 ページの『DSQ50463』を参照してください。

DSQ50485 データ列 &V1 のデータ・タイプ・コードが無効です。

説明: 621 ページの『DSQ50420』を参照してください。

DSQ50486 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50487 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 624 ページの『DSQ50443』を参照してください。

DSQ50488 データ・レコード &V1 のレコード・タイプ・コードが無効です。

説明: 625 ページの『DSQ50453』を参照してください。

DSQ50489 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50490 インポートするデータの幅が、レコード長と一致しません。

説明: 620 ページの『DSQ50414』を参照してください。

DSQ50491 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50492 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50493 FORM、REPORT、または QUERY オブジェクトを DATA としてインポートできません。

説明: 623 ページの『DSQ50437』を参照してください。

DSQ50494 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50495 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50496 データの列カウントが許容範囲内にありません。

説明: 621 ページの『DSQ50416』を参照してください。

DSQ50497 データ列 &V1 の幅が無効です。

説明: 621 ページの『DSQ50421』を参照してください。

DSQ50498 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50499 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50500 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50501 オブジェクトのタイプまたはレベルが認識できません。

説明: 623 ページの『DSQ50434』を参照してください。

DSQ50502 &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明: 365 ページの『DSQ22775』を参照してください。

DSQ50503 オブジェクトのタイプまたはレベルが認識できません。

説明: 623 ページの『DSQ50434』を参照してください。

DSQ50504 オブジェクトのタイプまたはレベルが認識できません。

説明: 623 ページの『DSQ50434』を参照してください。

DSQ50505 オブジェクトのタイプまたはレベルが認識できません。

説明: 623 ページの『DSQ50434』を参照してください。

DSQ50506 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50507 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50508 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50509 XML 文書をインポートできません。タグ &V1 が無効であるか、または欠落しています。

説明:

QMF は、XML 文書内に &V1 タグ (列情報を指定するために使用される) を検出できなかったため、この文書をインポートできませんでした。インポートされる XML ファイルは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」に説明されている QMF XML 形式に準拠していなければなりません。

ユーザーの処置:

文書を訂正し、再試行してください。

DSQ50510 XML 文書をインポートできません。タグ &V1 が欠落しているか、または無効です。

説明:

QMF は、データを指定するために使用される &V1 タグを見つけられなかったため、XML 文書をインポートできませんでした。XML ファイルをインポートする場合、その文書が、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」に説明されている QMF XML データ形式に準拠していることを確認する必要があります。

ユーザーの処置:

文書を訂正し、再試行してください。

DSQ50511 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ISPF サービス &V1 が失敗しました。ISPF エラー・コードは &V2 です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50512 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50513 &V1 コマンドを 10 進浮動小数点データと共に使用することはできません。

説明: 272 ページの『DSQ20846』を参照してください。

DSQ50514 &V1 コマンドを 10 進浮動小数点データと共に使用することはできません。

説明: 272 ページの『DSQ20846』を参照してください。

DSQ50515 &V1 コマンドを 10 進浮動小数点データと共に使用することはできません。

説明: 272 ページの『DSQ20846』を参照してください。

DSQ50516 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50520 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50521 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50522 QMF CICS は 64 ビットをサポートしません。DSQSPTYP には代わりに FILE を使用してください。

DSQ50523 行 &V1、列 &V2 に無効な XML データが見つかりました。

説明:

XML データをインポートする場合、QMF は z/OS XML 構文解析サービスを使用します。XML パーサーは構文解析中に、インポートしようとしている表の行 &V1 および列 &V2 で無効なデータが見つかったことを示すエラーを返しました。結果として、データはインポートされませんでした。

データ内の < または & などの文字がこのエラーの原因となることがあります。これらの文字をデータ内に残す必要がある場合は、以下の値を使用してこれらの文字を表してください。

Character	Value to use
<	<
&	&

ユーザーの処置:

インポートしようとしているデータが、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」に説明されている XML の仕様に従っていることを確認してください。

XML 構文解析サービスについて詳しくは、z/OS の情報と共に提供されている XML の資料を参照してください。これらの情報は、問題のトラブルシューティングに役立つ場合があります。

DSQ50524 データ列 &V1 の幅が無効です。

説明: 621 ページの『DSQ50423』を参照してください。

DSQ50525 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50526 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50527 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

PCB ID、MDL ID、ADS フィールド ID、またはインスタンス・カウントは、ゼロでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50528 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ50527』を参照してください。

DSQ50529 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 630 ページの『DSQ50527』を参照してください。

DSQ50530 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 630 ページの『DSQ50527』を参照してください。

DSQ50531 &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明: 365 ページの『DSQ22775』を参照してください。

DSQ50532 &V1 コマンドに指定されたオブジェクトは処理できません。

説明: 365 ページの『DSQ22776』を参照してください。

DSQ50533 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50534 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50535 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50536 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50537 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50538 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50539 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50540 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 629 ページの『DSQ50511』を参照してください。

DSQ50541 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50542 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50543 データ列 &V1 の幅が無効です。

説明:

インポートしようとしているデータのヘッダー・レコードに、TIMESTAMP WITH TIME ZONE タイプ列である列 &V1 の無効な幅 &V2 が含まれているため、ファイルまたはデータ・セットはインポートされませんでした。

有効な幅は次のとおりです。

- TIMESTAMP(0) WITH TIME ZONE: 147
- TIMESTAMP(1) WITH TIME ZONE: 149
- TIMESTAMP(2) WITH TIME ZONE: 150
- TIMESTAMP(3) WITH TIME ZONE: 151
- TIMESTAMP(4) WITH TIME ZONE: 152
- TIMESTAMP(5) WITH TIME ZONE: 153
- TIMESTAMP(6) WITH TIME ZONE: 154
- TIMESTAMP(7) WITH TIME ZONE: 155
- TIMESTAMP(8) WITH TIME ZONE: 156
- TIMESTAMP(9) WITH TIME ZONE: 157
- TIMESTAMP(10) WITH TIME ZONE: 158

DSQ50544 • DSQ50582

- TIMESTAMP(11) WITH TIME ZONE: 159
- TIMESTAMP(12) WITH TIME ZONE: 160

TIMESTAMP WITH TIME ZONE の幅は、TIMESTAMP(6) WITH TIME ZONE に示した幅と同じです。

ユーザーの処置:

QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50544 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50545 &V1 コマンドは **DSQEC_LOB_SAVE=0** の場合は使用できません。

説明: 272 ページの『DSQ20849』を参照してください。

DSQ50571 入力の処理に必要な記憶域が十分ではありません。

説明:

入力の処理に必要な記憶域が十分ではありません。

ユーザーの処置:

現在一時記憶域にあるデータが不要になった場合は、RESET DATA コマンドを試してください。この方法がうまくいかない場合は、SAVE コマンドまたは EXPORT コマンドを発行して作成したフォームを保存し、QMF を終了し、もっと大きなストレージを定義してください。この状態が続く場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50572 入力の処理に必要な記憶域が十分ではありません。

説明: 『DSQ50571』を参照してください。

DSQ50573 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50576 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

予期しない理由コード &V1 が DSQCISPM から戻されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50578 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

EOF が検出されましたが、トークンが予期されていました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50582 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50583 CREATE PROCEDURE は SQL 照会内で単独で使用される必要があります。

説明:

SQL 照会オブジェクトには、CREATE PROCEDURE ステートメントと他の SQL ステートメントを共に含めることはできません。

ユーザーの処置:

SQL 照会で CREATE PROCEDURE ステートメントを発行する必要がある場合は、以下の手順を完了してから照会を実行してください。

1. DSQEC_RUN_MQ 大域変数を 0 に設定する。
2. CREATE PROCEDURE ステートメントが、照会内の唯一の SQL ステートメントであるようにする。

照会で複数の SQL ステートメントを発行する必要がある場合は、以下の手順を完了してから照会を実行してください。

1. DSQEC_RUN_MQ 大域変数を 1 に設定する。
2. 照会で CREATE PROCEDURE ステートメントを使用しないようにする。

DSQ50584 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 584 ページの『DSQ40431』を参照してください。

DSQ50588 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50589 データ列 &V1 の幅が許容範囲内にありません。

説明: 622 ページの『DSQ50425』を参照してください。

DSQ50590 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 611 ページの『DSQ50225』を参照してください。

DSQ50591 OK、コマンドは取り消されました。

DSQ50592 大域変数用の DATA がありません。

説明: 603 ページの『DSQ50120』を参照してください。

DSQ50593 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50594 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50595 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50596 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50597 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50598 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50599 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50600 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50601 データ・タイプ &V1 は現行サーバーではサポートされません。

説明: 272 ページの『DSQ20845』を参照してください。

DSQ50602 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10001』を参照してください。

DSQ50607 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 629 ページの『DSQ50511』を参照してください。

DSQ50608 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50609 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50610 &V2.&V3 を使用する権限はありません。

説明: 235 ページの『DSQ20355』を参照してください。

DSQ50611 &V2 はデータベース内のオブジェクトの名前にすることはできません。(&V2 cannot be the name of an object in the database.)

説明: 273 ページの『DSQ20864』を参照してください。

DSQ50612 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ50613 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50614 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50615 QMF Analytics for TSO を使用できません。

説明:

QMF Analytics for TSO には QMF for z/OS が必要です。QMF Analytics for TSO モジュール &V1 をロードできません。

ユーザーの処置:

QMF for z/OS を使用していることを確認してください。

QMF for z/OS を使用している場合は、パーツ &V1 のインストールが成功したことを確認してください。

DSQ50616 QMF Analytics for TSO から予期しない RC &V1 が出されました。

説明:

QMF for z/OS が適切にインストールされている場合、この戻りコードが出されることになる条件は予期できません。QMF Analytics for TSO には QMF for z/OS が必要です。QMF for z/OS を実行していない場合は、QMF Analytics for TSO を使用しないでください。

戻り情報:

- 戻りコード: &V2
- メッセージ番号: &V3
- メッセージ: &V4

次の戻りコードが戻されます。

- 04 - QMF Analytics for TSO が警告とともに終了しました。
- 08 - QMF Analytics for TSO がアクティブではありません。
- 12 - QMF Analytics for TSO は要求を受け入れていません。
- 16 - QMF Analytics for TSO の終了は以前に処理されています。
- 20 - QMF Analytics for TSO の終了は以前に処理されています。
- 24 - QMF Analytics for TSO インターフェース・モジュールをロードできません。
- 32 - QMF Analytics for TSO 処理モジュールをロードできません。

- 36 - QMF Analytics for TSO 処理モジュールをロードできません。
- 40 - QMF Analytics for TSO が正しいタスクで実行されていません。
- 48 - QMF Analytics for TSO の初期化が失敗しました。
- 64 - QMF Analytics for TSO 名前ファイルを読み取ることができません。
- 68 - QMF Analytics for TSO の開始コマンド・タグが無効です。
- 88 - QMF Analytics for TSO の使用権限がユーザーにありません。

ユーザーの処置:

ご使用のシステムの手順に従って、このエラーを報告してください。QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システム用の「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50617 QMF Analytics for TSO は、CICS では使用できません。

説明:

QMF Analytics for TSO は、CICS ではなく、TSO または ISPF で実行するように設計されています。

ユーザーの処置:

QMF Analytics for TSO は、TSO または ISPF で使用できます。

DSQ50618 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50619 この名前ですでに存在していますが、オブジェクトのタイプが違います。

説明: 253 ページの『DSQ20583』を参照してください。

DSQ50620 現行の DATA オブジェクトが大き過ぎます。

説明: 272 ページの『DSQ20855』を参照してください。

DSQ50621 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 215 ページの『DSQ20082』を参照してください。

DSQ50622 &V1 を使用中に GDDM エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明:

GDDM によって戻されたエラー・メッセージ: &V2

QMF が実行していた GDDM 機能: &V4

GDDM 重大度: &V3

ユーザーの処置:

- 正しいニックネームを使用しているかを確認してください。
- ADM デフォルト・モジュール内の ADMMNICK ステートメントのロケーションを確認してください。そのステートメントは、"ADMMDFT END" ステートメントの前になければなりません。
- ADMMNICK ステートメントが正しいかどうかを確認してください。
- プリンターへのパスが正しく、操作可能であることを確認してください。
- GDDM エラー・メッセージを参照して、指定された処置を実行してください。

DSQ50623 &V1 を使用中に GDDM エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50624 &V1 を使用中に GDDM エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50625 &V1 を使用中に GDDM エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50626 &V1 を使用中に GDDM エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50627 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50628 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50629 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50630 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50631 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50632 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50633 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50634 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50635 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50636 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50637 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50638 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50639 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50640 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50641 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50642 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50643 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50644 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50645 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50646 &V1 を使用中に **GDDM** エラー。詳細はメッセージ・ヘルプを参照してください。

説明: 635 ページの『DSQ50622』を参照してください。

DSQ50650 &V1 の試行期間が期限切れになりました。

説明:

試行期間が期限切れとなりました。QMF ライセンス・フィーチャーを注文してインストールするまでは、これ以上 QMF を使用することはできません。

ユーザーの処置:

QMF の発注担当者に連絡してください。

DSQ50651 試行期間はあと &V1 日で終了します。

説明:

&V1 日が過ぎると、QMF ライセンス・フィーチャーをインストールしないかぎり QMF を使用できなくなります。

ユーザーの処置:

特にありません。ただし、必要に応じて QMF の発注担当者に連絡してください。

DSQ50652 QMF プログラム &V1 に予期しない内容が含まれています。

説明:

QMF プログラムの内容 &V1 は、予期しない内容です。正しい &V1 プログラムを用意するまでは、QMF 製品をこれ以上使用することはできません。

ユーザーの処置:

1. QMF 製品またはフィーチャーが正しくインストールされていることを検証してください。エラーが発生した場合は、それらのエラーを修正してから QMF を使用してみてください。
2. QMF がエラーなしでインストールされていて、QMF プログラム &V1 に正しくアクセスできている場合、IBM お客様サポートに連絡して支援を依頼してください。

DSQ50653 QMF プログラム &V1 に予期しない内容が含まれています。

説明: 『DSQ50652』を参照してください。

DSQ50654 QMF プログラム &V1 に予期しない内容が含まれています。

説明: 『DSQ50652』を参照してください。

DSQ50655 QMF プログラム &V1 に予期しない内容が含まれています。

説明: 『DSQ50652』を参照してください。

DSQ50661 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50662 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50663 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50664 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50665 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50666 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50667 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50668 • DSQ50684

DSQ50668 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50669 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50670 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50671 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50672 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50673 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50674 現行の **DATA** オブジェクトが大き過ぎます。

説明: 272 ページの『DSQ20855』を参照してください。

DSQ50675 &V2 が見つかりません。

説明: 209 ページの『DSQ20003』を参照してください。

DSQ50676 オブジェクト &V1 はサポートされていません。

説明:

SET または GET を実行しようとしているオブジェクト &V1 のオブジェクト・タイプはサポートされていません。DSQDO_QMFOBJ_DATA 大域変数では、以下のオブジェクト・タイプをサポートしています。

- SQL QUERY オブジェクト。
- QMF PROC オブジェクト。

- QMF ANALYTIC オブジェクト。

ユーザーの処置:

SQL QUERY、QMF PROC、または QMF ANALYTIC オブジェクト・タイプを SET GLOBAL コマンドまたは GET GLOBAL コマンドに指定し、コマンドを再実行してください。

DSQ50677 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50678 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50679 &V2.&V3 を使用する権限はありません。

説明: 235 ページの『DSQ20355』を参照してください。

DSQ50680 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 629 ページの『DSQ50511』を参照してください。

DSQ50681 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 629 ページの『DSQ50511』を参照してください。

DSQ50682 この名前ですでに存在していますが、オブジェクトのタイプが違います。

説明: 253 ページの『DSQ20583』を参照してください。

DSQ50683 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ50684 &V2 はデータベース内のオブジェクトの名前にすることはできません。(&V2 **cannot be the name of an object in the database.**)

説明: 273 ページの『DSQ20864』を参照してください。

DSQ50685 **FOLDER** の指定が無効です。

説明:

DB2 Server for VSE & VM データベースに接続している場合、QMF フォルダー・オブジェクトはサポートされません。

ユーザーの処置:

FOLDER の指定を大域変数から除去し、コマンドを再実行してください。

DSQ50686 オブジェクト・タイプ **&V1** は **&V2** ではサポートされていません。

説明:

SET GLOBAL コマンドまたは **GET GLOBAL** コマンドで指定したオブジェクト・タイプ **&V1** は、大域変数 **&V2** ではサポートされていません。

DSQDO_QMFOBJ_DATA 大域変数では、以下のオブジェクト・タイプをサポートしています。

- ロケーションが **QMF** カタログの場合、**SQL QUERY**、**PROC**、または **ANALYTIC**。「ロケーション」オプション 0 (**QMF** カタログ内の **QMF** オブジェクトにアクセス) を使用する場合、ロケーションは **QMF** カタログになります。
- ロケーションが **QMF** 一時記憶域の場合、**SQL QUERY** または **PROC**。「ロケーション」オプション 1 (**QMF** 一時記憶域内の **QMF** オブジェクトにアクセス) またはオプション 2 (**QMF** 一時記憶域内および **QMF** カタログ内の **QMF** オブジェクトにアクセス) を使用する場合、ロケーションは **QMF** 一時記憶域になります。

DSQOD_OBJ_STATUS 大域変数では、以下のオブジェクト・タイプをサポートしています。

- **SQL QUERY**、**PROC**、または **ANALYTIC**。

ユーザーの処置:

サポートされているオブジェクト・タイプを **SET GLOBAL** コマンドまたは **GET GLOBAL** コマンドに指定し、コマンドを再実行してください。

DSQ50687 オブジェクト・タイプが **&V1** にありません。

説明:

大域変数 **&V1** に対する **SET GLOBAL** コマンドまたは **GET GLOBAL** コマンドに、オブジェクト・タイプがありません。**QMF** 一時記憶域のオブジェクトにアクセスするときは、オブジェクト・タイプが必要です。

ユーザーの処置:

サポートされているオブジェクト・タイプを **SET GLOBAL** コマンドまたは **GET GLOBAL** コマンドに指定し、コマンドを再実行してください。

DSQ50688 オブジェクトは **SQL QUERY** でなければなりません。

説明:

大域変数 **&V1** では、**QUERY** オブジェクト・タイプが **SQL QUERY** であることが必要です。

ユーザーの処置:

SQL QUERY オブジェクトの名前を指定し、コマンドを再実行してください。

DSQ50689 オブジェクト名が **&V1** にありません。

説明:

大域変数 **&V1** に対する **SET GLOBAL** コマンドまたは **GET GLOBAL** コマンドに、オブジェクト名がありません。**QMF** カタログのオブジェクトにアクセスするときは、オブジェクト名が必要です。

ユーザーの処置:

オブジェクト名を **SET GLOBAL** コマンドまたは **GET GLOBAL** コマンドに指定し、コマンドを再実行してください。

DSQ50690 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50692 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50693 **QMF** 拡張エディターは、**CICS** では使用できません。

説明:

QMF Enhanced Editor for TSO は、**CICS** ではなく **ISPF** で実行するように設計されています。

ユーザーの処置:

QMF Enhanced Editor for TSO は **ISPF** で実行できます。

DSQ50694 • DSQ50707

DSQ50694 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50695 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 629 ページの『DSQ50511』を参照してください。

DSQ50696 QMF Enhanced Editor for TSO を使用できません。

説明:

QMF Enhanced Editor for TSO では QMF for z/OS が必要です。QMF Enhanced Editor for TSO モジュール &V1 をロードできません。

ユーザーの処置:

QMF for z/OS を使用していることを確認してください。

QMF for z/OS を使用している場合は、パーツ &V1 のインストールが成功したことを確認してください。

DSQ50698 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ50699 表名がありません。

説明:

DSQDO_TABLE_SPEC 大域変数に、データベース内にある表の有効な名前を設定する必要があります。

ユーザーの処置:

大域変数に表名を指定して、コマンドを再発行してください。

DSQ50700 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 601 ページの『DSQ50086』を参照してください。

DSQ50701 返す行数が指定されていません。

説明:

大域変数 DSQDO_TABLE_DATA に対して、返す行数を指定する必要があります。

ユーザーの処置:

返す行数を DSQDO_TABLE_DATA ヘッダーに追加し、コマンドを再実行してください。

DSQ50702 SQL 照会ステートメントが指定されていません。

説明:

SQL 照会ステートメントは、DSQDO_TABLE_DATA 大域変数用の結果データを生成するために QMF によって実行されます。SQL 照会域へのポインターが、DSQDO_TABLE_DATA 大域変数に指定されている必要があります。SQL 照会域の形式は以下のとおりです。

- SQL ステートメントの長さ (整数)。
- SQL 照会ステートメント。SQL ステートメントの長さの後に指定する必要があります、SELECT SQL ステートメントでなければなりません。

ユーザーの処置:

SQL 照会域へのポインターを DSQDO_TABLE_DATA ヘッダーに追加し、コマンドを再実行してください。

DSQ50703 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50704 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50705 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50706 &V1 &V2 には有効な名前が必要です。

説明: 232 ページの『DSQ20313』を参照してください。

DSQ50707 &V2 が見つかりません。

説明: 209 ページの『DSQ20004』を参照してください。

DSQ50708 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ50709 データ・タイプがサポートされていません。

説明:

結果列のいずれかのデータ・タイプが、大域変数 DSQDO_TABLE_DATA でサポートされていません。以下のデータ・タイプは、DSQDO_TABLE_DATA 大域変数ではサポートされません。

- CLOB
- BLOB
- DBCLOB
- ROWID
- XML

ユーザーの処置:

DSQDO_TABLE_DATA 大域変数でサポートされているデータ・タイプを返すように SQL ステートメントを変更し、コマンドを再実行してください。

DSQ50710 複数の SQL ステートメントはサポートされていません。

説明:

大域変数 DSQDO_TABLE_DATA では、複数の SQL ステートメントはサポートされていません。

ユーザーの処置:

SQL 照会を単一の SELECT SQL ステートメントに変更し、コマンドを再実行してください。

DSQ50711 SQL ステートメントのタイプがサポートされていません。

説明:

大域変数 DSQDO_TABLE_DATA では、SELECT SQL ステートメントのみがサポートされています。

ユーザーの処置:

SQL 照会を単一の SELECT SQL ステートメントに変更し、コマンドを再実行してください。

DSQ50712 コマンド・インターフェースのアンカー・ブロックが作成されませんでした。

説明:

QMF 初期化中に、コマンド・インターフェースの初期化が試行されました。記憶域のエラーのために、この

初期化は行うことができません。このセッションでは、コマンド・インターフェース機能は使用できません。

ユーザーの処置:

おそらく、記憶域を追加して操作を行う必要があります。ログオフして、やり直すことができます。このエラーが繰り返される場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50713 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

QMF を終了中に、アンカー・ブロックを削除できませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50715 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50716 コマンド・インターフェースを初期化するための記憶域が使用できません。

説明:

QMF 初期化中に、コマンド・インターフェースの初期化が試行されました。記憶域が不十分なので、この初期化は行うことができません。このセッションでは、コマンド・インターフェース機能は使用できません。

ユーザーの処置:

おそらく、記憶域を追加して操作を行う必要があります。ログオフして、やり直すことができます。このエラーが繰り返される場合は、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50718 警告メッセージが生成されました。

説明: 26 ページの『DSQ10310』を参照してください。

DSQ50720 QMF はすでにアクティブです。2 次セッションは許可されません。

説明:

QMF がすでにアクティブになっているのに、QMF セッションが起動されようとしていました。これは許可されません。この問題の考えられる原因は、1 次 ISPF アプリケーションとして QMF が起動された後で ISPF 分割機能を使用したこと、または、ユーザー・アプリケーションを実行したことです。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50730 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50731 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50732 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50733 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50734 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50740 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50741 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50742 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DXEEFI の割り当てに無効なオブジェクト・タイプが指定されました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50743 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50744 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50745 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50746 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50758 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50759 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50760 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50761 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50762 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

内部 PCB/MDL/ADS ID &V1/&V2/&V3 を見つけることができません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50763 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ50764 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50765 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50766 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ50762』を参照してください。

DSQ50767 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ50768 OK、&V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ50769 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50770 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50771 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50772 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50773 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50774 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50775 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50776 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50777 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50778 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50779 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50780 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効な表番号 &V3 があります。

説明:

T レコード &V1 内に有効な表番号がない形式または指示照会を検索しようとしています。 無効な表番号 &V3 は、レコード内の位置 &V2 です。 表番号は 4 桁の数字でなければなりません。 ブランクは指定できません。 この T レコードの後の R レコードのすべてのデータ値は無視されます。

ユーザーの処置:

形式または指示照会の変更または作成を行うアプリケーションを開発している場合、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」で、有効な表番号の完全なリストを参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50781 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効なフィールド番号 &V3 があります。

説明:

T レコード &V1 内に有効な表番号がない形式または指示照会をインポートしようとしています。 無効なフィールド番号 &V3 は、レコード内の位置 &V2 です。 フィールド番号は 4 桁の数字でなければなりません。 ブランクは指定できません。 このフィールドに関連する後続 R レコード内のすべてのデータ値は無視されます。

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発している場合、有効なフィールド番号の詳細について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50782 レコード &V1 のフィールド番号 &V3 は表番号 &V4 に属していません。

説明:

列に対する有効なフィールド番号を持つ形式をインポートしようとしたが、この列は表番号 &V4 に属していません。このフィールド番号はレコードの位置 &V2 にあります。この列のフィールド番号に関連する後続の R レコード内のデータ値は、すべて無視されます。

ユーザーの処置:

フォームを変更または作成するアプリケーションを開発している場合、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、表番号および各表に属する列フィールド番号の完全リストを調べてください。表番号またはフィールド番号のいずれかを変更してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50783 レコード &V1 の位置 &V2 のデータ・タイプが無効です。

説明:

列表の R レコード内に有効なデータ・タイプを持たない書式をインポートしようとしています。 IMPORT コマンドは完了できません。 R レコードで有効なデータ・タイプ・キーワードは次のとおりです。

```
CHAR - for character data columns
NUMERIC - for numeric data columns
GRAPHIC - for graphic data columns
DATE - for date data columns
TIME - for time data columns
TIMEST - for timestamp data columns
TSTMPZ - for timestamp with time zone data columns
```

ユーザーの処置:

QMF の外部で書式の変更または作成を行うアプリケーションを開発している場合は、有効なデータ・タイプについて、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50784 COLUMNS 表のデータ・タイプは変更できません。

説明:

2 つ以上の COLUMNS 表を含むフォームをインポートしようとしています。2 番目の表のデータ・タイプが最初の表のデータ・タイプと異なっています。例えば、最初の表の列 3 が NUMERIC で、2 番目の表の列 3 が CHAR になっている場合などが考えられます。同じ列は、データ・タイプを同じにしてください。2 番目の表のデータ・タイプは、レコード &V1 の位置 &V2 にあります。

ユーザーの処置:

フォームを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、COLUMNS 表のデータ・タイプについて「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50785 R レコードが多すぎます。レコード &V1 は無視されます。

説明:

T レコードの後の R レコードの数が多すぎて FORM オブジェクトに収容できないようなフォームをインポートしようとした。番号 &V1 の R レコード内のデータ値は、すべて無視されます。

ユーザーの処置:

形式の変更または作成を行うアプリケーションを開発している場合、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。T レコードの後の R レコードの数は、T レコードで記述されたフォームの部分に収まる数を超えないようにしてください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50786 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効なフィールド番号 &V3 があります。

説明:

レコード &V1 内に有効なフィールド番号がない形式または指示照会をインポートしようとしています。無効なフィールド番号 &V3 は、V レコードの位置 &V2 に入っています。フィールド番号は 4 桁の数字でなければなりません。ブランクは指定できません。V レコード

内の後続のデータ値は無視されます。

ユーザーの処置:

形式の変更または作成を行うアプリケーションを開発している場合、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」で、有効な入力域番号の完全なリストを参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50787 レコード &V1 の位置 &V2 の &V3 は表番号ではありません。

説明:

レコード &V1 内に表番号がない形式をインポートしようとしています。レコードの位置 &V2 の数字は、A または V レコードのフィールド番号です。この T レコードの後の R レコードのすべてのデータ値は無視されます。

ユーザーの処置:

フォームを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」で、表番号の完全なリストを参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50788 レコード &V1 の &V3 は有効なフィールド番号ではありません。

説明:

レコード &V1 内にフィールド番号がない形式をインポートしようとした。レコードの位置 &V2 の数字 &V3 は、列に関する表番号またはフィールド番号のいずれかです。この V レコード内のデータ値は無視されます。

ユーザーの処置:

フォームを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」で、フィールド番号の完全なリストを参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50789 レコード &V1 の位置 &V2 のデータ値は切り捨てられました。

説明:

フォーム・オブジェクトに収められない長さのデータ値を含むフォームをインポートしようとしています。このデータ値は、レコード &V1 の位置 &V2 にあります。データ値は、このフィールドの最大長 &V3 に切り捨てられています。

ユーザーの処置:

フォームを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、レコード形式が正しいことを確認してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50790 予期された R レコードの数は &V2 ですが、&V3 だけが読み取られました。

説明:

&V2 個の R レコードがあとに続くことを示す T レコードを含む形式をインポートしようとしていました。しかし、あとに続く R レコードの数は &V3 だけでした。この T レコードに対して処理された最後の R レコードは、番号 &V1 の R レコードです。

ユーザーの処置:

フォームを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、T レコード内のカウントが正しいかどうかを確認してください。正しい場合は、正しい数の R レコードが続いていることを確認してください。詳しくは、『DB2 QMF アプリケーション開発の手引き』を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50791 レコード &V1 の位置 &V2 の行カウントは &V3 でなければなりません。

説明:

COLUMNS 表部分を 2 つ以上含むフォームをインポートしようとしています。COLUMNS 表用の T レコードが 2 つ以上ある場合、各レコードの行カウントが同じでなければなりません。最初の COLUMNS T レコードの行カウントが、その COLUMNS 表用の後続の T レコードすべてに対して用いられます。

ユーザーの処置:

フォームを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して詳細を確認してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50792 レコード &V2 の位置 &V3 のバリエーション番号 &V1 は無効です。

説明:

V レコード (番号 &V2) 内に有効なパネル・バリエーション番号がない形式をインポートしようとしています。無効なバリエーション番号 &V1 は、レコード内の位置 &V3 にあります。パネル・バリエーションの

番号は、1 から 99 までの数字でなければなりません。この番号は、どのパネル・バリエーションが、インポートされたファイルのその次の部分の影響を受けるのかを QMF に示します。

ユーザーの処置:

フォームを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」で、エクスポートされたフォームのパネル・バリエーション番号の詳しい説明を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50793 レコード &V2 の位置 &V3 にあるパネル番号 &V1 が無効です。

説明:

V レコード (番号 &V2) 内に有効な切れ目パネル番号がない形式をインポートしようとしています。無効なパネル番号 &V1 は、レコード内の位置 &V3 にありません。切れ目パネル番号は 1 から 6 までの数字で、どの切れ目パネルが、インポートされたファイルのその次の部分の影響を受けるのかを、QMF に示します。

ユーザーの処置:

フォームを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」で、エクスポートされたフォーム内の切れ目パネル番号についての詳しい説明を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50794 10 進数の浮動小数点数の &V2 内の桁数が多すぎます。

説明:

IMPORT、RUN、または EDIT コマンドで参照される 10 進数の浮動小数点データが長すぎます。

10 進数の浮動小数点数の形式は、次のとおりです。

(+/-)NE(+/-)eeee

それぞれの意味は次のとおりです。

- データの先頭にある + (オプション) または - は、データの符号です。
- N は仮数部の桁数を表します (長形式の場合は最大 16 桁、拡張形式の場合は最大 34 桁、小数点は除きます)。
- E は指数部の先頭で、浮動小数を表します。数値の指数部分は省略できます。
- + (オプション) または - は、指数の符号です。
- eeee は指数の桁数です (3 桁または 4 桁)。

ユーザーの処置:

10 進数の浮動小数点数が正しく構成されていることを確認し、コマンドを再実行してください。

DSQ50805 10 進数の浮動小数点数に数字がありません。

説明: 648 ページの『DSQ50804』を参照してください。

DSQ50806 10 進数の浮動小数点の指数に数字が見つかりませんでした。

説明:

IMPORT、RUN、または EDIT コマンド内の 10 進数の浮動小数点データが無効です。数値の指数に 10 進数字 (0-9) が見つかりませんでした。指数が含まれていることを示す E が 1 つ見つかりました。

ユーザーの処置:

10 進数の浮動小数点数が正しく構成されていることを確認し、コマンドを再実行してください。

DSQ50807 10 進数の浮動小数点の指数に数字が見つかりませんでした。

説明: 『DSQ50806』を参照してください。

DSQ50810 必要な情報を入手する前に最後のレコードに到達しました。

説明:

フォームをインポートしようとしていましたが、予想外に早く最後のレコードに到達しました。それぞれの形式には、ヘッダー・レコードと、その形式の COLUMNS 表の部分がなくてはなりません。

ユーザーの処置:

フォームを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、ヘッダー・レコードおよびそのフォームの COLUMNS 表の部分が、インポートしようとしているフォームに存在することを確認してください。詳しくは、『DB2 QMF アプリケーション開発の手引き』を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50811 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50812 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

警告タイプのメッセージには理由コードがなければなりません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50813 形式のインポート時にエラーが検出されました。

説明:

フォームをインポートしようとしていた時にエラーが起り、インポートが完了しませんでした。形式を予定どおりに使用できません。この形式を訂正する必要があります。

ユーザーの処置:

フォームを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、発生したエラーの訂正方法についての説明を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50814 データベース・オブジェクトを使用しようとしたときに、エラーが検出されました。

説明: 609 ページの『DSQ50204』を参照してください。

DSQ50815 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ50816 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50817 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ50818 行カウント (レコード &V1 の位置 &V2) は、1 から &V3 の間でなければなりません。

説明:

書式は、表レコード (T レコード) に無効な行カウントが含まれていたため、インポートされませんでした。FORM.COLUMNS データの T レコード (レコード &V1) 内の位置 &V2 には、1 から &V3 までの数が許可されます。この数値は、書式内の列数を示します。このレコードの行カウントには、アスタリスク (*) は許可されません。

ユーザーの処置:

QMF の外部で書式の変更または作成を行うアプリケーションを開発している場合、書式をインポートする前に FORM.COLUMNS データの T レコードを構成する方法について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ50819 レコード &V1 の位置 &V2 のデータ・タイプはサポートされません。

説明:

ユーザーは、サポートされていないデータ・タイプが COLUMNS 表の R レコード内に入っているフォームをインポートしようとしています。フォームのインポートを完了させることはできません。サポートされるデータ・タイプは、次のとおりです。

```
CHAR    - for character data columns
NUMERIC - for numeric data columns
GRAPHIC - for graphic data columns
```

ユーザーの処置:

フォームを変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、有効なデータ・タイプについて「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50820 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50821 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50822 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50823 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50824 10 進数の浮動小数点数の値が無効です。

説明:

IMPORT、RUN、または EDIT コマンド内の 10 進数の浮動小数点データが無効です。10 進数の浮動小数点数に文字 '&V1' が見つかりました。この文字は、数値内でのこの文字の位置のため、またはこのタイプの文字が 10 進数の浮動小数点値に属していないため、無効な可能性があります。

期待される形式は、次のように 10 進数の浮動小数点データによって異なります。

- 長形式の値は、次の規則に従う必要があります:
sd..ddddddddddddddEsd
- 拡張形式の値は、次の規則に従う必要があります:
sd..ddddddddddddddddddddddddddEsd

上記の形式の内容は次のとおりです。

- s は正符号または負符号か、先頭位置の場合はブランク値です。
- d は任意の有効な数字です。
- E は指数部の先頭で、浮動小数を表します。

ユーザーの処置:

適切な形式になるように 10 進数の浮動小数点数を修正して、コマンドを再試行してください。

DSQ50825 10 進数の浮動小数点数の値が無効です。

説明: 650 ページの『DSQ50824』を参照してください。

DSQ50830 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 611 ページの『DSQ50225』を参照してください。

DSQ50831 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 215 ページの『DSQ20082』を参照してください。

DSQ50832 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50833 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50834 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50835 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50836 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明:

XML ファイルをインポートまたはエクスポートすると、データは UTF-8 から EBCDIC 形式に、または EBCDIC から UTF-8 形式に変換されます。この変換は、Z/OS Unicode 変換サービス呼び出すことにより行われます。このサービスがエラーを検出して終了しました。

以下のエラー・データが戻されました。

Return code: &V1
Reason code: &V2

詳細については、使用している z/OS の情報で Unicode 変換サービスに関するトピックを参照してください。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に支援を依頼してください。

DSQ50837 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明: 『DSQ50836』を参照してください。

DSQ50838 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明: 『DSQ50836』を参照してください。

DSQ50839 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明: 『DSQ50836』を参照してください。

DSQ50840 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明: 『DSQ50836』を参照してください。

DSQ50841 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明: 『DSQ50836』を参照してください。

DSQ50842 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明: 『DSQ50836』を参照してください。

DSQ50843 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明: 『DSQ50836』を参照してください。

DSQ50844 変換環境が利用不能です。

説明:

XML データをインポートまたはエクスポートする場合、QMF は z/OS XML 構文解析サービスと、z/OS Unicode 変換サービスを使用します。XML データに対して IMPORT または EXPORT を発行する前に、これらのサービスが構成されてアクティブになっている必要があります。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。管理者は Unicode

DSQ50845 • DSQ50853

変換サービスをセットアップしてアクティブにすることができます。詳細については、使用している z/OS の情報で Unicode 変換サービスに関するトピックを参照してください。

DSQ50845 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明: 651 ページの『DSQ50836』を参照してください。

DSQ50846 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明: 651 ページの『DSQ50836』を参照してください。

DSQ50847 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 215 ページの『DSQ20082』を参照してください。

DSQ50848 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50849 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50850 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

出力レコード・タイプ &V1 はサポートされません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認

認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50851 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

出力バッファが小さすぎてレコード &V1 を形式設定できません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50852 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明:

QMF XML ファイルは、インポートされるときに z/OS XML 構文解析サービスによって解析されます。このサービスが、初期化中にエラーを検出し、処理を終了しました。

以下のエラー・データが戻されました。

Return code: &V1
Reason code: &V2

追加の詳細については、z/OS の情報と共に提供される XML の資料を参照してください。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50853 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明:

QMF XML ファイルは、インポートされるときに z/OS XML 構文解析サービスによって解析されます。このサービスが、文書の構文解析中にエラーを検出し、処理を終了しました。

以下のエラー・データが戻されました。

Return code: &V1
Reason code: &V2

追加の詳細については、z/OS の情報と共に提供される XML の資料を参照してください。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50854 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明:

QMF XML ファイルは、インポートされるときに z/OS XML 構文解析サービスによって解析されます。この構文解析プログラムがエラーを検出したため、処理を終了しました。エラーは、文書の終了中に発生しました。

以下のエラー・データが戻されました。

Return code: &V1
Reason code: &V2

追加の詳細については、z/OS の情報と共に提供される XML の資料を参照してください。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50855 インポートされている XML 文書は、整形形式 XML を含んでいません。

説明:

XML ファイルは、QMF にインポートされるときに、z/OS XML パーサーによって構文解析されます。この場合は、この構文解析プログラムが文書が整形形式 XML 文書ではないと判断しました。QMF は、整形形式 XML が含まれていない文書をインポートできません。詳しくは、パーサーから戻された理由コード (下記) を参照してください。

以下のエラー・データが戻されました。

戻りコード: &V1

理由コード: &V2

追加の詳細については、z/OS の情報と共に提供される XML の資料を参照してください。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50856 コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。

説明:

XML データをインポートまたはエクスポートする場合、QMF は z/OS XML 構文解析サービスと、z/OS Unicode 変換サービスを使用します。XML データに対して IMPORT または EXPORT を発行する前に、これらのサービスが構成されてアクティブになっている必要があります。このエラーは、モジュール GXL1INI をロードしようとして発生しました。z/OS XML 構文解析サービスが初期化できなかったことを示します。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。管理者は XML 構文解析サービスを設定してアクティブにできます。方法については、z/OS の情報と共に提供されている XML の資料を参照してください。

DSQ50857 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 215 ページの『DSQ20082』を参照してください。

DSQ50858 変換環境が利用不能です。

説明: 651 ページの『DSQ50844』を参照してください。

DSQ50859 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50860 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50861 列 &V1 は長すぎてエクスポートできません。

説明: 347 ページの『DSQ22204』を参照してください。

DSQ50870 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ50871 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 643 ページの『DSQ50762』を参照してください。

DSQ50872 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 643 ページの『DSQ50762』を参照してください。

DSQ50890 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

入力バッファがレコード &V1 に対して小さすぎます。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50891 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効なレコード・タイプ &V3 があります。

説明:

許容されるレコード・タイプは、次のとおりです。

```
H - Header record
T - Data Table Description record
R - Data Table Row record
V - Data Value record
E - End of Object record
* - Application Data record
```

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、レコード・タイプを H、T、R、V、E、または * に変更してください。この事項についての詳しい説明は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50892 レコード &V1 は短すぎてレコード・タイプを判別できません。

説明:

形式または指示照会をインポートしようとしています。レコード &V1 は短すぎてそのレコード・タイプを判別できません。必要な最小レコード長は、VM の場合 23 バイト、z/OS の場合 27 バイトです。

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、この事項に関する詳細を確認してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50893 レコード &V1 に、予期しないレコード &V2 があります。

説明:

形式のインポート時に、レコード &V1 が予期されたとおりに並べられていませんでした。

Record	Record order
H	The first record.
T	If row count in T is > 0, only an R record can follow it. Otherwise a T or V record can follow it.
R	Follows a T or another R record.
V	Not ahead of H record.
*	May appear anywhere, except ahead of H record.
E	The last record.

ユーザーの処置:

アプリケーションを開発している場合、詳細に関して「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50894 ヘッダー・レコードから無効な製品 ID が見つかりました。

説明:

ヘッダー・レコードの位置 &V2 のプロダクト ID が誤っているか、または欠落しています。入力にプロダクト ID が必要です。'QMF'、'QRW'、または 'QM4' のいずれかでなければなりません。

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、製品 ID を使用できる値に変更してください。この事項の詳細な説明については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50895 レコード &V1 の位置 &V2 に、ゼロの列長があります。

説明:

T レコード内にゼロの列長があると、後続の R レコード内の列に対してデフォルト値が設定されます。したがって、R レコード内に指定されたデータ値は無視されません。

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発しているときに、R レコードの列に対してデフォルト値を設定したくない場合は、列の長さの正数を使用してください。この事項の詳細な説明については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50896 ヘッダー・レコードのオブジェクト・タイプ &V3 が無効です。

説明:

レコード &V1 の位置 &V2 で無効なオブジェクト・タイプ &V3 が検出されました。オブジェクト・タイプをブランクにすることはできません。指定できるオブジェクト・タイプは次のとおりです。

F - for Form
R - for Report
T - for Prompted Query

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、オブジェクト・タイプをフォームの場合は F に、指示照会の場合は T に変更してください。オブジェクト・タイプの詳細については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50897 レコード &V1 の位置 &V2 のフィールド長がゼロです。

説明:

V レコード内でフィールドの長さがゼロになっていると、そのフィールドにデフォルトの値がセットされます。V レコードで指定したデータ値は無視されます。

ユーザーの処置:

形式または指示照会の変更または作成を行うアプリケーションを開発している場合で、フィールドに対してデフォルト値を設定したくない場合は、位置 &V2 の長さフィールドに実際のデータ値長さを指定するか、* を指定してその後 2 つのブランクを続けてください。この

事項の詳細な説明については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50898 ヘッダー・レコードのオブジェクト形式 &V3 が無効です。

説明:

レコード &V1 の位置 &V2 のオブジェクトの形式は、エンコード形式を表す場合は E でなければなりません。オブジェクト形式にブランクは指定できません。

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、エンコード形式の場合はオブジェクトの形式を E に変更してください。オブジェクト形式に関する詳細な説明については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50899 ヘッダー・レコードのオブジェクト・レベル (&V3) が無効です。

説明:

レコード &V1 の位置 &V2 で無効なオブジェクト・レベル (&V3) が検出されました。オブジェクト・レベルをブランクにすることはできません。指定できるオブジェクト・レベルは次のとおりです。

01 - for report objects
03, 04 - for form objects
01, 02 - for prompted query objects

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、現在作業中のオブジェクトのタイプに基づいてオブジェクト・レベルを変更してください。オブジェクト・レベルに関する詳細な説明については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50900 レコード &V1 の列カウント &V3 が大きすぎます。

説明:

フォームまたは指示照会をインポートしようとしていますが、列カウントが大きすぎます。T レコード &V1 の位置 &V2 の列カウントは、任意の表に許されている最大列カウントである &V4 を超えています。先頭から &V4 列だけ処理されます。

ユーザーの処置:

形式または指示照会の変更または作成を行うアプリケーションを開発している場合、レコード &V1 内の列カウントを変更してください。この事項の詳細な説明については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50901 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効なフィールド番号 &V3 があります。

説明: 644 ページの『DSQ50781』を参照してください。

DSQ50902 ヘッダー・レコードのオブジェクト処置 &V3 が無効です。

説明:

レコード &V1 の位置 &V2 の作業域オブジェクトに対する処置が無効です。オブジェクト処置を空白にすることはできません。処置 R は、作業域のオブジェクトを置き換えるために使用されています。

ユーザーの処置:

形式または指示照会の、修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、ヘッダー・レコード内の位置 &V2 の処置を R に変更し、オブジェクトを置き換えてください。この事項の詳細な説明については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50903 レコード &V1 の T レコードには &V3 の列がありません。

説明:

形式または指示照会をインポートしようとしていますが、位置 &V2 の列カウントの値が T レコード内の後続の列フィールド番号および長さの個数と一致しません。ただし後続の列情報は処理されます。

ユーザーの処置:

形式の修正または組み立てを行うアプリケーションを開発している場合には、位置 &V2 の列カウントの値を T レコード内の列カウントに一致するように訂正してください。この事項の詳細な説明については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50904 レコード &V1 のデータ値の長さ &V3 が短すぎます。

説明:

V レコードの位置 &V2 で指定されたデータ値の長さが、指定されたデータ値よりも短くなっています。このデータは、指定の長さに合わせて切り捨てられます。V レコード内の長さには、実際のデータの長さを指定するか、または、V レコードの終わりでデータ値が区切られることを示すために、* を指定してからその後 2 つのブランクを指定してください。

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、データ値の長さを長くするか、または V レコード内のデータを短くしてください。詳しくは、『DB2 QMF アプリケーション開発の手引き』を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50905 レコード &V1 のデータ値の長さ &V3 が長すぎます。

説明:

データ値に対して指定された長さが、提供されたデータ値よりも長くなっています。レコードの終わりまでの長さしか使用されません。

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、V レコード内のデータ値の長さを変更してください。この事項の詳細な説明については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50906 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効な行カウント &V3 があります。

説明:

フォームまたは指示照会をインポートしようとしていますが、T レコード内の行カウントが無効です。行カウントは 3 桁の数字かまたは * でなければなりません。ブランクは指定できません。* の後にブランク・スペースが 2 つ続いている場合は、表が後続の R レコードすべてによって構成されていることを示しています。しかし、フォーム COLUMNS 表および指示照会 TABLES 表の T レコードには、行カウントが数字で入っていなければなりません。

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケ

ーションを開発している場合は、T レコード内の行カウントの値を訂正してください。この事項の詳細な説明については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50907 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効なデータ長 &V3 があります。

説明:

長さが正しくないフォームまたは指示照会をインポートしようとしています。V レコードの位置 &V2 の &V3 が無効です。データ値の長さは、3 桁の数字かまたはアスタリスクでなければなりません。* の後にブランク・スペースが 2 つ続く場合は、データ値の長さが V レコードの終わりで区切られていることを示しています。データの長さをブランクにすることはできません。

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、V レコードに有効な長さを指定してください。この事項の詳細な説明については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、対処方法を QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50909 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効なフィールド番号 &V3 があります。

説明: 645 ページの『DSQ50786』を参照してください。

DSQ50910 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効なデータ長 &V3 があります。

説明: 『DSQ50907』を参照してください。

DSQ50911 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効な表番号 &V3 があります。

説明: 644 ページの『DSQ50780』を参照してください。

DSQ50912 レコード &V1 の位置 &V2 の DBCS データが無効です。

説明:

T レコードまたは V レコードに無効な DBCS データが入っているフォームまたは指示照会をインポートしようとしています。無効な DBCS データは、レコード &V1 の位置 &V2 にあります。

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照して、この事項に関する詳細を確認してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50913 レコード &V1 の位置 &V2 の DBCS データが無効です。

説明: 『DSQ50912』を参照してください。

DSQ50914 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効な行カウント &V3 があります。

説明: 656 ページの『DSQ50906』を参照してください。

DSQ50915 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効な列カウント &V3 があります。

説明:

フォームまたは指示照会をインポートしようとしていますが、この T レコード内に列カウントの正しい数字が入っていません。列カウントは 3 桁の数字でなければなりません。ブランクは指定できません。T レコード内の後続列の情報は処理されます。

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、T レコードの正しい形式について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50916 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効なフィールド長 &V3 があります。

説明:

フォームまたは指示照会をインポートしようとしていますが、T レコード内の列のフィールド長が有効ではありません。列のフィールド長は 3 桁の数字でなければなりません。ブランクまたは '*' は使用できません。T レコード内のこの列および後続列に関連する R レコード値は無視されます。

ユーザーの処置:

フォームまたは指示照会を変更または作成するアプリケーションを開発している場合は、T レコードの正しい形式について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、対処方法について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ50917 ヘッダー・レコードのオブジェクト・タイプ `&V3` が無効です。

説明: 655 ページの『DSQ50896』を参照してください。

DSQ50918 ヘッダー・レコードのオブジェクト・レベル (`&V3`) が無効です。

説明: 655 ページの『DSQ50899』を参照してください。

DSQ50919 ヘッダー・レコードのオブジェクト形式 `&V3` が無効です。

説明: 655 ページの『DSQ50898』を参照してください。

DSQ50920 ヘッダー・レコードのオブジェクト処置 `&V3` が無効です。

説明: 656 ページの『DSQ50902』を参照してください。

DSQ50921 ヘッダー・レコードに無効な各国語コード '`&V3`' があります。

説明:

指定した形式には、レコード `&V1` の位置 `&V2` に、無効な各国語コード '`&V3`' があります。 'E'(英語) と '`&V4`'(セッション言語と一致) だけが、セッションに受け入れることのできる各国語言語です。形式は一時記憶域にロードされましたが、エラー標識が立ち、与えられた言語では使用できません。

ユーザーの処置:

英語からセッション言語で保管されているフォームを `IMPORT`、または `DISPLAY` コマンドに指定してください。これらの形式には、'E' または '`&V4`' の各国語コードがあります。指定したフォームが作業を行いたいものである場合は、この警告は無視できます。エラー標識を取り除くには、`CHECK` コマンドを使用してエラーを見つけ、認識できないキーワードを訂正してください。

DSQ50922 各国語コード '`&V3`' を持つ形式は変換することはできません。

説明:

指定した形式には、レコード `&V1` の位置 `&V2` に、無効な各国語コード '`&V3`' があります。英語用の '`&V4`' (現在のセッション言語) だけが、セッションに受け入れられる各国語コードです。形式は一時記憶域にロード

されましたが、エラー標識が立ち、与えられた言語では使用できません。

ユーザーの処置:

英語で保管されているフォームを `IMPORT` コマンドまたは `DISPLAY` コマンドに指定してください。これらの形式には、'`&V4`' の各国語コードがあります。指定したフォームが作業を行いたいものである場合は、この警告は無視できます。エラー標識を取り除くには、`CHECK` コマンドを使用してエラーを見つけ、認識できないキーワードを訂正してください。

DSQ50923 浮動小数点数が正しく形式設定されていません。

説明:

浮動小数点数の形式が正しくないか、またはデータ・タイプで許可される範囲外の値があります。期待される形式は、次のようにデータの精度によって異なります。

- 単精度の値の形式は、次のとおりです:

```
sd.dddddddEsdd
```

- 倍精度の値の形式は、次のとおりです:

```
sd.dddddddddddddddEsdd
```

上記の形式の内容は次のとおりです。

- s は正符号または負符号か、先頭位置の場合はブランク値です。
- d は任意の有効な数字です。
- E は指数部の先頭で、浮動小数を表します。指数はオプションです。

値は $+/-5.4E-79$ から $+/-7.2E+75$ の範囲内にある必要があります。

ユーザーの処置:

適切な形式および範囲になるように浮動小数点数を修正して、コマンドを再実行してください。

DSQ50930 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50931 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50932 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50933 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50934 **OK、&V1** コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ50940 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

&V1 は有効な PF キー定義索引ではありません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50941 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

&V1 は有効な PF キー・ラベル索引ではありません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈について

は、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ50942 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50950 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50955 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50956 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50957 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50958 複数のロケーションからの表は結合できません。

説明:

1 つの照会にある表は、すべて同じロケーションからのものでなければなりません。

ユーザーの処置:

照会から、異なるロケーションからの表を削除してください。

DSQ50959 **OK、&V1** コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ50960 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ50965 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50968 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

CICS のローカルの日付/時刻ルーチン &V1 は AMODE 31 でなければなりません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50969 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50970 ローカルの日付ルーチンまたは時刻ルーチンがありません。

説明:

日付データまたは時刻データの処理中に、データをローカルの形式に変換するためのユーザー・ルーチンへの呼び出しが行われました。データベース・マネージャーは、使用中のデータを取り扱うローカルの形式がないことを示しています。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50971 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ローカルの日付/時刻ルーチン &V1 をロードできませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ50972 ローカルの日付または時刻ルーチン &V1 がインストールされていません。

説明:

日付データまたは時刻データの処理中に、データをローカルの形式に変換するためのユーザー・ルーチンへの呼び出しが行われました。データベース・マネージャーは、ローカルの形式がサポートされないことを示していますが、実際には、データベース・マネージャーが提供したルーチン &V1 が、ユーザー・ルーチンに置き換えられていなかったということです。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に支援を依頼して、ローカルの日付または時刻データがサポートされないようデータベース・マネージャーを変更するか、QMF がアクセスできるように、ユーザー・ルーチン &V1 をインストールしてください。

DSQ50973 ローカルの日付/時刻ルーチン &V1 が戻りコード &V2 を戻しました。

説明:

日付データまたは時刻データの処理中に、データをローカルの形式に変換するためのユーザー・ルーチンへの呼び出しが行われました。ユーザー・ルーチンが、予期しない戻りコード &V2 を設定しました。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50974 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50978 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ50979 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ50980 データ・レコード &V1 の列 &V2 の NULL 標識が無効です。

説明:

インポートしているファイルまたはデータ・セットのレコード &V1、列 &V2 内の NULL 標識は &V3 ですが、これは無効な値です。列 &V2 が NULL 値を受け入れる場合、NULL 標識は &V4 または &V5 にできます。このデータはインポートされませんでした。

ユーザーの処置:

データ・オブジェクトの変更または作成を行うアプリケーションを開発している場合、NULL 標識について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ50981 データ・レコード &V1 の列 &V2 の NULL 標識が無効です。

説明: 『DSQ50980』を参照してください。

DSQ50982 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 606 ページの『DSQ50182』を参照してください。

DSQ50983 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 606 ページの『DSQ50181』を参照してください。

DSQ50984 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 607 ページの『DSQ50184』を参照してください。

DSQ50985 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 607 ページの『DSQ50184』を参照してください。

DSQ50986 データ・レコード &V1 の列 &V2 のデータの長さが無効です。

説明: 606 ページの『DSQ50179』を参照してください。

DSQ50987 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 607 ページの『DSQ50184』を参照してください。

DSQ50988 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 607 ページの『DSQ50184』を参照してください。

DSQ50989 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 607 ページの『DSQ50189』を参照してください。

DSQ50990 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 607 ページの『DSQ50189』を参照してください。

DSQ50991 データ・レコード &V1 の列 &V2 のデータの長さが無効です。

説明: 606 ページの『DSQ50179』を参照してください。

DSQ50992 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 607 ページの『DSQ50189』を参照してください。

DSQ50993 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 607 ページの『DSQ50189』を参照してください。

き」を参照してください。 または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ51007 データ・レコード &V1 の列 &V2 のデータの長さが無効です。

説明: 662 ページの『DSQ51006』を参照してください。

DSQ51008 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、無効な 10 進データを含んでいるためインポートされませんでした。 レコード &V1、列 &V2 の値には、10 進数および + または - 符号のみが含まれている必要があります。

ユーザーの処置:

10 進数の正しい形式、精度、および位取りについては、ご使用のデータベースの情報を参照してください。 無効な 10 進数をすべて修正して、IMPORT コマンドを再試行してください。

QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ51009 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明:

ファイルまたはデータ・セットは、無効なデータを含んでいるためインポートされませんでした。 このエラーが発生するのは、形式が正しくないデータを持つ、またはこのデータ・タイプで許可される範囲外の値を持つ浮動小数点列を含むデータをインポートしようとした場合です。 期待される形式は、次のようにデータの精度によって異なります。

- 単精度の値の形式は、次のとおりです:

```
sd. ddddddEsd
```

- 倍精度の値の形式は、次のとおりです:

```
sd. ddddddddddddddEsd
```

上記の形式の内容は次のとおりです。

- s は正符号または負符号か、先頭位置の場合はブランク値です。
- d は任意の有効な数字です。
- E は指数部の先頭で、浮動小数を表します。

値は +/-5.4E-79 から +/-7.2E+75 の範囲内にある必要があります。

ユーザーの処置:

適切な形式および範囲になるように浮動小数点数を修正して、IMPORT コマンドを再試行してください。 QMF の外部にある表またはデータ・オブジェクトを変更または作成する適用業務を開発している場合は、データに要求される移入形式について、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。

DSQ51010 照会が長すぎて変換できません。

説明:

CONVERT コマンドによって実行される照会の書式設定では、32KB を超える制限が必要です。

ユーザーの処置:

照会を短くするか、または 2 つ以上の照会として書き直してください。

DSQ51011 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51012 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51014 ファイル内の、レコード &V1 の列 &V2 のデータが無効です。

説明: 608 ページの『DSQ50195』を参照してください。

DSQ51015 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51017 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51024 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51027 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51033 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51034 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51037 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51041 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51045 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 270 ページの『DSQ20825』を参照してください。

DSQ51051 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 611 ページの『DSQ50225』を参照してください。

DSQ51052 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ51053 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51054 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51055 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51056 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51057 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51058 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51059 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51061 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 12 ページの『DSQ10076』を参照してください。

DSQ51062 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51063 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51064 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51065 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51066 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51067 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51068 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51071 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51072 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51073 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 215 ページの『DSQ20082』を参照してください。

DSQ51074 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 215 ページの『DSQ20082』を参照してください。

DSQ51090 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51091 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51100 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 209 ページの『DSQ20005』を参照してください。

DSQ51101 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51102 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51103 QMF が致命的エラーを検出しました。セッションは終了します。

説明:

データベース・マネージャーが使用可能でないか、または他のコマンドを処理するのに十分な記憶域がありません。

ユーザーの処置:

詳しい情報は、トレースの出力ファイルを参照してください。

DSQ51108 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ51109 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

QMF サーバーのコマンド (&V1) はサポートされていません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

DSQ51110 • DSQ51124

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ51110 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

QMF クライアント要求コード (&V1) はサポートされていないか、コンテキストが無効です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ51111 OK、&V1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ51112 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DVR のサイズが小さすぎます: &V1

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2

666 DB2 QMF メッセージおよびコード

QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ51113 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 243 ページの『DSQ20459』を参照してください。

DSQ51114 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ51112』を参照してください。

DSQ51115 OK、&V1 コマンドは正常に実行されました。

DSQ51116 CONFIRM オプションを完了させてください。

説明: 380 ページの『DSQ22994』を参照してください。

DSQ51120 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 286 ページの『DSQ21069』を参照してください。

DSQ51121 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51122 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51123 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51124 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51125 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51126 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51127 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51128 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51129 &V2.&V3 が見つかりません。

説明:

&V3 は、データベース内に &V2 が所有しているものの名前ではありません。 &V1 コマンドに、表 &V2.&V3 に基づく同義語が指定されていると考えられます。この表はもはやデータベースにありません。したがって、この表に基づく同義語を使用するコマンドも、実行できません。

ユーザーの処置:

別の操作を続行してください。

DSQ51140 FOLDER 内で許可されるオブジェクトの最大数を超過しています。

説明:

QMF FOLDER オブジェクトに追加できる QMF オブジェクトの最大数は &V2 です。現在の &V1 コマンドは、順序番号 &V3 を FOLDER オブジェクト &V4.&V5 に追加しようとしています。

フォルダーに追加されるオブジェクトごとに、新規行が QMF オブジェクト・コントロール表 Q.OBJECT_DATA に挿入されます。フォルダー内の各オブジェクトには、Q.OBJECT_DATA 表の SEQ 列によって識別される固有の順序番号があります。

ユーザーの処置:

以下のいずれかのステップを実行して、&V1 コマンドを再実行してください。

- &V4.&V5 フォルダーから少なくとも 1 つのオブジェクトを削除します。
- DSQEC_CURR_FOLDER 大域変数に異なるフォルダー名を指定します。FOLDER キーワードが指定されていない場合、DSQEC_CURR_FOLDER 大域変数の値が &V1 コマンドのフォルダー名として使用されます。
- &V1 コマンドで FOLDER キーワードとして、異なるフォルダー名を指定します。FOLDER キーワードは DSQEC_CURR_FOLDER 大域変数をオーバーライドします。

DSQ51141 &V2.&V3 は FOLDER オブジェクト・タイプではありません。

説明:

&V1 コマンドは、QMF FOLDER オブジェクトの名前として &V2.&V3 を使用します。&V2.&V3 はデータベース内に存在しますが、QMF FOLDER オブジェクト・タイプとして定義されません。 &V2.&V3 はデータベース内で &V4 オブジェクトとして定義されます。

ユーザーの処置:

以下のいずれかのステップを実行して、&V1 コマンドを再実行してください。

- DSQEC_CURR_FOLDER 大域変数に有効な FOLDER オブジェクトの名前を指定します。FOLDER キーワードが指定されていない場合、DSQEC_CURR_FOLDER 大域変数の値が &V1 コマンドのフォルダー名として使用されます。
- &V1 コマンドで FOLDER キーワードとして、有効な FOLDER オブジェクトの名前を指定します。FOLDER キーワードは DSQEC_CURR_FOLDER 大域変数をオーバーライドします。

DSQ51154 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

CGCOL サービスに対して、オブジェクト・レコードが無効です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈について

DSQ51155 • DSQ51181

は、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ51155 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51156 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51157 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51158 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51159 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51160 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51161 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51162 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51163 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51164 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51165 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51166 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51167 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51168 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51169 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51170 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51180 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51181 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51182 コマンド `&V1` の使用法が無効です。

説明: 286 ページの『DSQ21068』を参照してください。

DSQ51183 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51184 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

REXX ERROR. 戻りコード `&V2`。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ51185 `'&V1'` は `&V2` 変数名には無効です。

説明: 398 ページの『DSQ23212』を参照してください。

DSQ51200 テキストまたは式が、言語翻訳のために切り捨てられました。

説明:

作業中の形式は、英語とセッション言語間で変換されました。この変換処理中に、テキストまたは式のフィールドが、許容される長さ `&V2` を超えました。結果として、そのフィールドは長さ `&V1` から `&V2` へと切り捨てられました。切り捨て前の翻訳されたフィールドは `&V4` でした。このフィールドにはエンコードされた形式フィールド番号 `'&V3'` があります。

ユーザーの処置:

形式上のこのテキスト、または式を修正すれば、言語の変換に使用するための十分なブランクがフィールドの終わりにとれます。テキスト・フィールドには、フィール

ドを分割したテキスト行に分ける必要が起こる場合があります。その後、永久記憶域に元の形式を入れ換えてください。

DSQ51201 キーワード `'&V1'` は、言語翻訳として認識できませんでした。

説明:

作業中の形式は、英語とセッション言語間で変換されました。この変換の処理中に、キーワード `'&V1'` が検出されました。QMF は、これを有効なフォーム・キーワードと認識しないため、このフィールドについては必要な変換を実行できませんでした。このフィールドは、エンコードされた形式フィールド番号 `'&V2'` を持っています。

ユーザーの処置:

CHECK コマンドを使用すると、QMF が認識しない(一時記憶域の)フォーム内のキーワードを見つけることができます。キーワードを有効なキーワードに変更し、永続記憶域内のオリジナルの書式を置換してください。

DSQ51202 キーワード `'&V1'` は、言語翻訳として認識できませんでした。

説明: 『DSQ51201』を参照してください。

DSQ51203 キーワード `'&V1'` は、言語翻訳として認識できませんでした。

説明: 『DSQ51201』を参照してください。

DSQ51204 キーワード `'&V1'` は、言語翻訳として認識できませんでした。

説明: 『DSQ51201』を参照してください。

DSQ51205 キーワード `'&V1'` は、言語翻訳として認識できませんでした。

説明: 『DSQ51201』を参照してください。

DSQ51206 キーワード `'&V1'` は、言語翻訳として認識できませんでした。

説明: 『DSQ51201』を参照してください。

DSQ51207 キーワード `'&V1'` は、言語翻訳として認識できませんでした。

説明: 『DSQ51201』を参照してください。

DSQ51210 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ51211 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ51212 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ51214 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51215 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51216 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 632 ページの『DSQ50576』を参照してください。

DSQ51217 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 632 ページの『DSQ50576』を参照してください。

DSQ51220 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ51221 OK、クライアントによって DVR 転送は取り消されました。

DSQ51222 OK、EXIT 要求によって DVR 転送は取り消されました。

DSQ51223 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DVR 転送のクライアントからの予期しない要求コード (&V1)。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ51225 &V1 コマンドの FOLDER キーワードには、有効なフォルダー名が必要です。
(The FOLDER keyword on the &V1 command requires a valid folder name.)

説明: 216 ページの『DSQ20089』を参照してください。

DSQ51226 &V1 コマンドの FOLDER キーワードには、有効なフォルダー名が必要です。
(The FOLDER keyword on the &V1 command requires a valid folder name.)

説明: 216 ページの『DSQ20089』を参照してください。

DSQ51227 ワイルドカード '% ' および ' _ ' はフォルダー名の一部として使用できません。

DSQ51228 FOLDER キーワードまたは DSQEC_CURR_FOLDER の修飾フォルダー名が無効です。

DSQ51229 QMF が DB2 for VSE/VM に接続されているときに DSQEC_CURR_FOLDER を変更することはできません。

DSQ51230 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ51231 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51232 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51233 変数 &V1 を設定できません。

説明: 308 ページの『DSQ21489』を参照してください。

DSQ51234 この CICS 変数名を設定することはできません。

説明: 311 ページの『DSQ21541』を参照してください。

DSQ51235 指定した CICS 大域変数キュー名が長すぎます。

説明: 311 ページの『DSQ21542』を参照してください。

DSQ51236 現行の CICS キュー名は、このキュー・タイプには長すぎます。

説明:

入力されたキュー・タイプ &V1 は、現行の CICS キュー名では無効です。次のいずれかの説明が該当すると考えられます。

- 現在のキュー名が 4 文字より長い場合に、キューのタイプが 'TD' に変更されている。
- キューのタイプが 'TD' に変更され、4 文字かそれ以下のキュー名に変更されているが、SET GLOBAL コマンドが単独で使用されているか、現在のキュー名が 4 文字より長い。

ユーザーの処置:

キューのタイプが 'TD' の場合、キュー名は 4 文字よりも長くすることはできません。キュー名とキュー・タイプの両方を変更しようとする場合、次の順序で変更してください。

1. 現在のキュー・タイプが 'TS' であることを確認する。確認するには SET GLOBAL コマンドを出すか、SHOW GLOBALS を使用する。
2. SET GLOBAL コマンドまたは SHOW GLOBALS のどちらかを使用して、キュー名を新しい短いキュー名に変更する。
3. 最後に、キュー・タイプを 'TD' に変更する。

キュー名は 8 文字より長くすることができない点に、注意してください。

DSQ51237 OK. &V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ51238 OK, &V1 コマンドは、要求どおりに取り消されました。

DSQ51239 DSQEC_LOB_RETRV を変更するには、現行 DATA オブジェクトを削除する必要があります。

説明:

現行 QMF DATA オブジェクトには LOB 列データが含まれています。QMF は、QMF 大域変数 DSQEC_LOB_RETRV の設定に応じて異なる DB2 フェッチ方式を使用して LOB データを取り出します。QMF はこの取得した LOB データを、LOB データのフェッチ方法に基づいて異なる方法で処理します。現行 QMF DATA オブジェクトには、DSQEC_LOB_RETRV が「&V1」に設定されたときにフェッチされた LOB データが含まれているため、DSQEC_LOB_RETRV 設定を「&V2」に変更することはできません。

ユーザーの処置:

- 現行 QMF DATA オブジェクトの処理を続ける場合は、「&V1」を DSQEC_LOB_RETRV 大域変数値として保持する必要があります。
- 大域変数 DSQEC_LOB_RETRV 値を変更する場合は、以下の手順を実行して既存の QMF DATA オブジェクトを削除する必要があります。
 - QMF コマンド RESET DATA を入力します。
 - DSQEC_LOB_RETRV 大域変数を別の有効な値に変更します。
 - 新しい DSQEC_LOB_RETRV 大域変数設定を使用するために照会またはコマンドを再実行します。

DSQ51240 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ51241 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51242 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

CS エラー - 呼び出し側が与えている区域が小さすぎます。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ51243 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

REXX IS UNAVAILABLE FOR PROGRAM EXECUTION.

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

672 DB2 QMF メッセージおよびコード

ださい。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ51244 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 611 ページの『DSQ50222』を参照してください。

DSQ51250 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 215 ページの『DSQ20082』を参照してください。

DSQ51252 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51253 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51254 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51255 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51256 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51257 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51258 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51259 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51260 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51261 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51266 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ51268 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ51269 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ51270 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ51271 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ51272 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ51273 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 102 ページの『DSQ14200』を参照してください。

DSQ51291 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ファイル &V1 は TSO で定義されていません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ51292 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ51291』を参照してください。

DSQ51293 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

VSAM ファイル &V1 の LRECL を取得できません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび

QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ51294 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

TSO でファイル &V1 のオープンに失敗しました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ51295 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

TSO でファイル &V1 の読み取りに失敗しました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ51296 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

TSO での VSAM ファイル &V1 レコード管理エラー。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ51297 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 673 ページの『DSQ51293』を参照してください。

DSQ51298 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

TSO でファイル &V1 のクローズに失敗しました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ51299 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ51300 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ51304 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

CICS でファイル &V1 が見つかりません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ51305 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

CICS でファイル &V1 エラー (EIBRESP コード &V2) が発生しました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

す。

第 9 章 DSQ60001 - DSQ60902

これらの標準 QMF メッセージは、QMFの実行中に発生するエラーに対するものです。メッセージには、ソリューションを提供したり、エラーを診断したりするのに役立つ情報が含まれています。

DSQ60001 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60002 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60003 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 列の無効な集約番号の設定

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60010 固定域は左または右にはスクロールできません。

説明:

報告書の固定域は、正方向または逆方向にだけスクロールできます。固定域の幅が画面幅を超えるため、左または右にはスクロールできません。

ユーザーの処置:

左または右にスクロールする場合、固定域の幅を小さくしてください。

DSQ60011 固定域は左または右にはスクロールできません。

説明: 『DSQ60010』を参照してください。

DSQ60020 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60021 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60022 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60023 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60024 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60029 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60030 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 無効な終了オプション

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報

DSQ60031 • DSQ60043

が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60031 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - レポート・オブジェクトが断片化されています。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60032 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60033 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60034 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 677 ページの『DSQ60030』を参照してください。

DSQ60035 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60036 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60037 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60038 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60039 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60040 プリンターのレコード長が短すぎます。

説明: 368 ページの『DSQ22871』を参照してください。

DSQ60041 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60042 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60043 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60044 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60045 ページ行数が &V4 から 999 までの GDDM プリンターを使用してください。

説明: 363 ページの『DSQ22681』を参照してください。

DSQ60046 このオブジェクトの印刷には、&V3 - 999 の LENGTH を指定してください。

説明: 364 ページの『DSQ22730』を参照してください。

DSQ60047 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60048 &V1 は固定ページ長で印刷できません。

説明:

ページ・ヘッダー、詳細ヘッダー、およびページ後書きの形式設定に必要な行数 (&V2) が、許容最大印刷行数 (&V3) 以上です。したがって、固定ページ長で &V1 を印刷できません。

ユーザーの処置:

&V1 を、印刷長 CONT で印刷してください。これは、プロファイルまたは PRINT コマンドで指定できません。

-OR-

FORM PAGE、COLUMNS、および DETAIL パネル (またはその一部) を使用して、報告書内のページ見出し、ページ脚注、および明細見出し (またはその一部) に必要とされる行数を減らしてください。

DSQ60049 レポートはプリントアウトできません。固定域は広すぎます。

説明:

固定域の幅は、印刷幅より 2 バイト以上小さくしなければなりません。

ユーザーの処置:

固定域の幅を小さくするか、または PRINT コマンドに指定する印刷幅を大きくしてください。

DSQ60050 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60051 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60052 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60053 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60054 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60055 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60056 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60057 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60059 報告書に解決されない大域変数があります。

説明:

報告書内のグローバル置換変数に値が割り振られていません。報告書の変数は、形式に示したのと同じ変数名が示してあります。

ユーザーの処置:

テキストで変数を置換したい場合、報告書に表示された

DSQ60060 • DSQ60078

大域変数に対して SET GLOBAL コマンドを入力してください。

DSQ60060 列 &V1 の列幅が狭すぎて、DBCS データが折り返せません。

説明:

列 &V1 (&V2) は、形式の中で、4 未満の列幅を持つものとして定義されていますが、中に DBCS データが含まれています。報告書の列の中で DBCS データの列内折り返しができるのは、列幅が 4 以上の場合だけです。

ユーザーの処置:

FORM.COLUMNS (または FORM.MAIN) パネルで、以下のアクションを実行してください。

1. 列折り返しを有効にする場合は、編集コード CW または GW を指定してください。
2. 列 &V1 の WIDTH を 4 から 32767 の値に設定してください。GW 編集コードを指定した場合、最大値は 16383 です。
3. コマンドを再入力してください。

DSQ60062 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60063 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60064 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60070 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60071 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

スキャン初期化で RP 障害です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップし

たパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60072 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ60071』を参照してください。

DSQ60073 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60074 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60075 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60076 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60077 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60078 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60079 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60080 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60081 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60090 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ60091 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60092 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60093 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60094 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60095 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60096 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60097 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60108 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60109 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60110 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

フィールド ID '&V1' は FORM オブジェクトに有効ではありません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60120 字下げには '&V1' ではなく 0 から 999 までの数値を使用してください。

説明:

'&V1' は列間幅の値には無効です。列間幅は、前列の右端から当列の左端までの間のブランクの数を示します。

ユーザーの処置:

列間幅の値を 0 から 999 までの数値にセットし、ENTER キーを押してください。

DSQ60121 列幅には '&V1' ではなく 1 から 32767 までの数値を使用してください。

説明:

'&V1' は列幅には無効の値です。WIDTH フィールドは、1 つの列に入れることができる最大文字数を示します。列境界を定義するこの値は、0 またはブランクにすることはできません。

列幅の値より長い列の中の数値データは、アスタリスク(****) で置き換えられます。列折り返しを許可する編集コードを指定しない限り、WIDTH 値より長い文字データは列境界で切り捨てられます。列折り返しを有効にすると、WIDTH 値より長いデータは列境界で次の行に折り返されます。

ユーザーの処置:

列折り返しなしでデータを表示するには、次のようにします。

列幅の値を 1 から 32767 までの数値に設定し、ENTER キーを押してください。

列折り返しを有効にするには、次のようにします。

1. WIDTH を有効な値に設定します。DBCLOB データの最大値は 16383 です。他のすべてのデータ・タイプの最大値は 32767 です。この値は、データが折り返される列境界を定義します。
2. 列折り返しを許可する編集コードを指定します。
 - CLOB データには、CW を使用します。
 - BLOB データには、BW または XW を使用します。
 - DBCLOB データには、GW を使用します。
 - ENTER キーを押します。

報告書から列を完全に除外するには、その列に取扱コード OMIT を指定します。

DSQ60123 &V1 は有効な取扱コードではありません。

説明:

有効な取扱コードは次のとおりです。

ACROSS	LAST
AVERAGE (or AVG)	MAXIMUM
BREAK1...BREAK6	MINIMUM
BREAK1X...BREAK6X	OMIT
CALC1...CALC999	PCT
COUNT	STDEV
CPCT	SUM
CSUM	TPCT
FIRST	TCPCCT
GROUP	(blank)

ユーザーの処置:

上記のコードから選択してください。

DSQ60125 日付編集コードをブランクのままにすることはできません。

説明:

日付データには、以下のコードのいずれかを使用します。

Code	Effect	Meaning
TDYx	YYYYxMMxDD	4-digit year, Year first
TDMx	MMxDDxYYYY	4-digit year, Month first
TDDx	DDxMMxYYYY	4-digit year, Day first
TDYAx	YYxMMxDD	abbreviated year, Year first
TDMAx	MMxDDxYY	abbreviated year, Month first
TDDAx	DDxMMxYY	abbreviated year, Day first
TDL		installation provides the date formatting routine
TD		default date format of the database system

x にはブランクを含む英数字以外の文字を使用できません。文字編集コードまたはユーザー編集コードは、日付データと併用できます。

ユーザーの処置:

上記の編集コードのいずれかを使用してください。

DSQ60126 &V1 は編集コードではありません。

説明:

&V1 が編集コードとして使用されました。

Valid Edit Codes	Applicable Column Data Types
-----	-----
-- B BW	Binary or Character.
-- X XW	Binary or Character.
-- C CW CT CDx	Character, Date, Time, Timestamp, Timestamp with time zone.
-- L<Z>xx I<Z>xx J<Z>xx K<Z>xx P<Z>xx D<Z><C>xx E<Z>	Numeric
-- G GW	Graphic.
-- TDYx TDMx TDDx TDL TDYAx TDMAx TDDAx TD	Date
-- TTSx TTCx TTUx TTL TTAx TTAN TT	Time
-- TSI	Timestamp
-- TSZ	Timestamp with time zone
-- M	Metadata
-- Uxxxx Vxxxx	Any allowed by user edit routine

列境界でラージ・オブジェクト・データを折り返すには、次の編集コードを使用します。

- BLOB データには、BW または XW を使用します。
- CLOB データには、CW を使用します。
- DBCLOB データには、GW を使用します。

数値編集コードの 2 番目の位置にあるオプションの "Z" は、対応する編集コードと同じ機能に加えて、ゼロの値をブランクとして表示する追加機能を実行します。

2 番目か 3 番目の位置にあるオプションの "C" は、標準の通貨記号の代わりに、ユーザー定義の通貨記号を表示します。この記号は、大域変数 DSQDC_CURRENCY で定義されます。"Z" と "C" の両方が指定される場合、"C" は "Z" の後でなければなりません。

ユーザーの処置:

上記の編集コードのいずれかを使用してください。

DSQ60127 &V1 は日付、時間またはタイム・スタンプの編集コードではありません。

説明:

&V1 が編集コードとして使用されました。指定できるコードは次のとおりです。

Permitted Edit Codes	Applicable Column Data Types
TDYx TDMx TDDx TDL TDYAx TDMAx TDDAx TD	Date
TTSx TTCx TTUx TTL TTAx TTAN TT	Time
TSI	Timestamp

ユーザーの処置:

上記の編集コードのいずれかを使用してください。

DSQ60128 &V1 は有効な取扱コードではありません。

説明: 682 ページの『DSQ60123』を参照してください。

DSQ60130 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

フィールド ID '&V1' は有効な COLUMNS フィールドではありません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60131 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

列ヘッダーにエラーがあってはなりません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報

が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60132 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ60130』を参照してください。

DSQ60137 形式の EDIT 列に編集コードを使用してください。

説明:

形式の EDIT 列をブランクにすることはできません。以下の編集コードのいずれかを使用してください。

Valid Edit Codes	Applicable Column Data Types
-- B BW	Binary or Character
-- X XW	Binary or Character
-- C CW CT CDx	Character, Date, Time, Timestamp, Timestamp with time zone
-- L<Z>xx I<Z>xx J<Z>xx K<Z>xx P<Z>xx D<Z><C>xx E<Z>	Numeric
-- G GW	Graphic
-- TDYx TDMx TDDx TDL TDYAx TDMAx TDDAx TD	Date
-- TTSx TTCx TTUx TTL TTAx TTAN TT	Time
-- TSI	Timestamp
-- TSZ	Timestamp with time zone
-- M	Metadata
-- Uxxxx Vxxxx	Any allowed by user edit routine

数値編集コードの 2 番目の位置にあるオプションの "Z" は、対応する編集コードと同じ機能に加えて、ゼロの値をブランクとして表示する追加機能を実行します。

2 番目か 3 番目の位置にあるオプションの "C" は、標準の通貨記号の代わりに、ユーザー定義の通貨記号を表示します。この記号は、大域変数 DSQDC_CURRENCY で定義されます。"Z" と "C" の両方が指定される場合、"C" は "Z" の後でなければなりません。

ユーザーの処置:

上記の編集コードのいずれかを使用してください。

DSQ60143 列間幅には、0 から 999 までの数値を指定してください。

説明:

列間幅は、前列の右端から当列の左端までの間のブラン

クの数を示します。値そのものをブランクにすることはできません。列と列の間にスペースを設けたくない場合には、列間幅をゼロに設定してください。

ユーザーの処置:

列間幅の値を 0 から 999 までの数値にセットし、ENTER キーを押してください。

DSQ60144 列幅には '&V1' ではなく **1** から **32767** までの数値を使用してください。

説明:

'&V1' は列幅フィールドには無効の値です。列幅は、1 つの列に入れることができる最大文字数を示します。列境界を定義するこの値は、0 またはブランクにすることはできません。

列幅の値より長い列の中の数値データは、アスタリスク(****) で置き換えられます。列折り返しを許可する編集コードを指定しない限り、WIDTH 値より長い文字データは列境界で切り捨てられます。列折り返しを有効にすると、WIDTH 値より長いデータは列境界で次の行に折り返されます。

ユーザーの処置:

列折り返しなしでデータを表示するには、次のようになります。

列幅の値を 1 から 32767 までの数値にセットし、ENTER キーを押してください。

列折り返しを指定するには、次のようにします。

1. WIDTH を有効な値に設定します。DBCLOB データの最大値は 16383 です。他のすべてのデータ・タイプの最大値は 32767 です。この値は、データが折り返される列境界を定義します。
2. 列折り返しを許可する編集コードを指定します。
 - CLOB データには、CW を使用します。
 - BLOB データには、BW または XW を使用します。
 - DBCLOB データには、GW を使用します。
3. ENTER キーを押します。

報告書から列を完全に除外するには、その列に取扱コード OMIT を指定します。

DSQ60145 時刻編集コードをブランクにしておくことはできません。

説明:

時刻データには、以下のコードのいずれかを使用します。

Code	Effect	Meaning
TTSx	HHxMMxSS	includes seconds, 24 hour clock
TTCx	HHxMMxSS	includes seconds, 12 hour clock
TTAx	HHxMM	excludes seconds, abbreviated
TTAN	HHMM	excludes seconds, abbreviated, no time delimiter
TTUx	HHxMM AM HHxMM PM	USA style
TTL		installation provides the time formatting routine
TT		default time format of the database system

x にはブランクを含む英数字以外の文字を使用できません。文字編集コードまたはユーザー編集コードを、時刻データと併用できます。

ユーザーの処置:

上記の編集コードのいずれかを使用してください。

DSQ60146 'E' 編集コードの後には 'Z' を除いては何も付けることはできません。

説明:

小数点以下の桁数を指定することはできません。

'E' または 'EZ' 編集コードは、数値データを科学計算表記形式で表すことを示します。

'E' 編集コードの 2 番目のオプション 'Z' は、ゼロの値をブランクとして表示する追加の機能を伴う、'E' 編集コードと同じ機能を実行します。

1234567 という数値が与えられたとすると、'E' または 'EZ' 編集コードは、この数を次のような形式にします。

```
1.234567E+06
```

0 という数値が与えられたとすると、'E' または 'EZ' 編集コードは、この数を次のような形式にします。

```
E displays 0.00000E+00
EZ displays a blank.
```

ユーザーの処置:

編集には 'E' または 'EZ' を単独で使用してください。

DSQ60147 '&V1' 編集コードの位取りが **0** から **99** までの範囲内にありません。

説明:

編集コード D<Z><C><xx>, I<Z><xx>, J<Z><xx>, K<Z><xx>, L<Z><xx>, および P<Z><xx> は、数値編集コードです。Z、C および XX は任意指定の形式の修飾子で、使用するときにはここで示された順序で表示されなければなりません。XX の値は数値の位取りで、0 から 99 までの任意の整数を使用できます。データをその小数点以下の桁数で形式設定します。

ユーザーの処置:

正しい位取りを表すように編集コードを変更してください。値を検査して、編集コードの範囲内に含めてください。

DSQ60148 '&V1' 編集コードの位取りが 0 から 99 までの範囲内にありません。

説明: 684 ページの『DSQ60147』を参照してください。

DSQ60149 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

フィールドにエラーはなく、フォームは変更されません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60151 「順」には 1 から 999 の数字を使用してください。

説明:

「順」は、特定の列の報告書内の相対列順序を示しています。 0 またはブランクは指定できません。

FORM.OPTIONS パネルの自動再配置オプションが YES に指定されているか、または ACROSS 取り扱いが指定されている場合、この順序値は報告書の形式設定には使用されません。

ユーザーの処置:

SEQ を 1 から 999 の数字に設定し、ENTER キーを押してください。

DSQ60152 「順」には '&V1' ではなく、1 から 999 の数字を使用してください。

説明:

'&V1' は「順」の有効な値ではありません。「順」は、報告書内の特定の列の相対列順序を示しています。FORM.OPTIONS パネルの自動再配置オプションが YES に指定されているか、または ACROSS 取り扱いが

指定されている場合、この順序値は報告書の形式設定には使用されません。

ユーザーの処置:

SEQ を 1 から 999 の数字に設定し、ENTER キーを押してください。

DSQ60159 ID には、&V1 ではなく、1 から 999 の固有の数字を使用してください。

説明:

&V1 は無効な ID 値であるか、または FORM.CALC パネルの ID 値の間で固有ではありません。 ID 値は、同じ行の計算式を FORM.COLUMNS の CALCID 取り扱いと関係するか、または FORM テキスト・パネルの &CALCID 変数と関係します。ここで、"ID" は ID 値です。例えば、FORM.CALC の最初の行の ID 値が 3 である場合、形式設定された報告書内に &CALC3 があるたびに最初の行の式が評価されます。

ユーザーの処置:

ID を 1 から 999 の固有な数字に設定し、ENTER キーを押してください。

DSQ60160 NULL 置換値に YES または NO を使用してください。

説明:

NULL 置換値は、データ行の NULL か NULL に似た値のどちらかが、式の変数に置換されるのを制御します。有効値は YES および NO です。NO がデフォルトです。

NO を入力すると、QMF は、式の中の変数値が NULL であれば結果も NULL であると想定します。QMF は、式を評価しようとしません。

YES を入力すると、QMF は、無効な数値データまたは文字データ (例えば、NULL または未定義のデータ) の変数を、あらかじめ定義された文字ストリングで置換します。あらかじめ定義するストリングに、例えば 0 のような便利な値を置換する REXX EXEC や式を書くことができます。また、定義したストリングを使用して、条件付きで報告書の行を形式設定することもできます。

次の表は、NULL 置換オプションに YES と指定した場合に使用される、定義済みのストリングを要約していません。

Data Value is	Predefined string is
Null	DSQNULL
Overflow	DSQOFLW
Undefined	DSQUNDEF
No Relationship (RM data only)	DSQNOREL
No Instance (RM data only)	DSQNOINS

ユーザーの処置:

DSQ60163 • DSQ60173

NULL 置換オプションに YES か NO を入力してください。

DSQ60163 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

フィールド ID &V1 は有効な CONDITION フィールドではありません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60164 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 685 ページの『DSQ60149』を参照してください。

DSQ60165 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ60166 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

マップ ID '&V1' が DXEMDL チェーンに見つかりませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび

QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60170 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60171 &V1 は、有効な計算式の変数ではありません。

説明:

以下の変数だけが、計算式で有効です。

&COUNT	&DATE	&TIME	&PAGE	&ROW
&n	&COUNTn	&AVGn	&STDEVn	&SUMn
&CSUMn	&PCTn	&CPCTn	&TPCTn	&TCPCTn
&FIRSTn	&LASTn	&MAXn	&MINn	

上記で、"n" は形式内の列番号です。

大域変数はさらに、計算式にも使用できます。

ユーザーの処置:

変数を有効な変数に変更するか、または削除してください。

DSQ60172 条件式では、変数 &V1 は許されません。

説明:

入力された置換変数は FORM.CONDITIONS 式フィールド内で許されている変数の 1 つではありません。

条件式で許される変数は、下記になります:

&n	&DATE	&TIME
&ROW	&gToba1	

ここで、"n" は、既存の列の数です。

ユーザーの処置:

変数のスペルを修正してください。SET GLOBAL コマンドで大域変数を入力するか、条件式を変更してください。

DSQ60173 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60174 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60175 '&V1' に無効な列番号が入っています。

説明:

ゼロ、または形式内の列の数 (&V2) より大きい数を、列番号として指定することはできません。

ユーザーの処置:

列番号を変更し、Enter キーを押してください。

DSQ60176 変数 &V1 は定義式で使用できません。

説明:

入力した置換変数は、定義式で利用できるものではありません。

定義式で利用できる変数は次のとおりです。

&n &DATE &TIME &ROW &global

「n」は存在している列の番号、「global」は大域変数の名前です。

ユーザーの処置:

変数名のスペルを訂正するか、定義式を変更してください。

DSQ60177 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ60178 計算式では &V1 を使用できません。

説明:

計算式は、&CALCID 変数を使用して別の計算式で定義することはできません。ただし、以下の FORM 変数は計算式の中で有効です。

&COUNT &DATE &TIME &PAGE &ROW
&n &COUNTn &AVGn &STDEVn &SUMn
&CSUMn &PCTn &CPCTn &TPCTn &TCPCn
&FIRSTn &LASTn &MAXn &MINn

上記で、「n」は形式内の列番号です。大域変数も計算式に使用できます。

ユーザーの処置:

必要に応じ、上記の任意の変数を使用して &V1 を式で置き換えてください。

DSQ60179 &V1 は、定義式では使用できません。

説明:

定義式は &CALCID 変数を使用して、計算式を定義することはできません。ただし、次の形式変数はいずれも、定義式で有効です。

&ROW &DATE &TIME &PAGE &n

上記で、「n」は形式内の列番号です。大域変数も定義式に使用することができます。

ユーザーの処置:

必要に応じ、上記の任意の変数を使用して &V1 を式で置き換えてください。

DSQ60190 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60200 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60201 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60202 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60203 記憶域のスペースが足りません。

説明:

コンピューター記憶域のスペースが足りないために、コマンドを実行することができません。予約されているスペース (ISPSTART コマンドのパラメーター R) が大きすぎるようです。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に記憶域スペースの増量を依頼してください。QMF によってこの問題を訂正することはできません。

DSQ60204 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60205 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60206 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60207 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14096』を参照してください。

DSQ60208 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60209 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60210 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 再呼び出しバッファが無効な状況にあります。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60211 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 再呼び出し予備バッファが利用できません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60212 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - バッファ制御レコードが見つかりません。 トレース・データが書き込まれました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60213 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14104』を参照してください。

DSQ60214 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 110 ページの『DSQ14357』を参照してください。

DSQ60215 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 障害が起こったバッファ・プールを削除してください。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60216 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 障害が起こったバッファ・プール・レコードを削除してください。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60220 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14096』を参照してください。

DSQ60221 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - ライブラリー行が使用不可です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60222 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60223 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 無効な列データ・タイプ

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60224 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60225 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60226 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60227 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60228 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60239 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60240 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60242 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60243 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60244 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - ヘッダー・レコードにまたがる挿入が失敗しました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60245 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60246 FM エラー。報告書レコードの検索が失敗しました。レコードが見つかりません。

説明:

次のような原因が考えられます。

1. QMF 集合体の処理中に、データベースが更新された。
2. QMF の内部エラーが起きた。

ユーザーの処置:

データベースが更新されたかどうかを調べてください。その上で照会と形式を再実行してください。

DSQ60247 FM エラー。報告書レコードの検索が失敗しました。レコードが見つかりません。

説明: 『DSQ60246』を参照してください。

DSQ60248 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60249 FM エラー。報告書レコードの検索が失敗しました。レコードが見つかりません。

説明: 690 ページの『DSQ60246』を参照してください。

DSQ60250 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 報告書の線のタイプが無効です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60251 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60252 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60253 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60260 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14096』を参照してください。

DSQ60261 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60262 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60263 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60264 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60265 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60266 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60267 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60268 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60269 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60270 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60272 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60273 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60274 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60280 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14096』を参照してください。

DSQ60281 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 要約チェックポイント・バッファが使用できません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60282 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60283 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60284 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60285 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60286 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - チェックポイント索引から記録を取ることができませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60287 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60288 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 680 ページの『DSQ60071』を参照してください。

DSQ60289 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

右方スキャンでの RP 障害です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60290 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - チェックポイント索引から記録を削除できませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60291 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 更新したチェックポイント索引に記録を挿入できませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップし

たパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60293 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60294 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60300 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 無効なソース・データのタイプ。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60301 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FM エラー - 無効な編集コード。

DSQ60310 • DSQ60332

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60310 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60311 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

モジュールで、パネル ID '&V1' を処理できません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60312 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60313 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60314 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60315 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60316 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60320 FM エラー。報告書レコードの検索が失敗しました。レコードが見つかりません。

説明: 690 ページの『DSQ60246』を参照してください。

DSQ60322 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60324 FM エラー。報告書レコードの検索が失敗しました。レコードが見つかりません。

説明: 690 ページの『DSQ60246』を参照してください。

DSQ60326 FM エラー。報告書レコードの検索が失敗しました。レコードが見つかりません。

説明: 690 ページの『DSQ60246』を参照してください。

DSQ60332 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 686 ページの『DSQ60166』を参照してください。

DSQ60333 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ60334 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60335 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60336 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60337 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60350 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60360 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 686 ページの『DSQ60166』を参照してください。

DSQ60380 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

浮動小数点値を変換できません。エラー・コード: &V1
 コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈について

は、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60381 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

10 進浮動小数点値を変換できません。エラー・コード: &V1

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60390 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DXEORC のデータ・タイプ '&V1' が無効です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60391 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 686 ページの『DSQ60166』を参照してください。

DSQ60392 デフォルトの形式では、ユーザーの日付データを作成できません。

説明:

列 &V2 に日付データが入っています。 インストール先のデフォルト値の日付の形式は、ユーザー独自の形式です。ユーザー形式を使用するには、ユーザーの日付データを編集する、日付ルーチンが必要です。ユーザーの日付ルーチンを使用できません。エラーを説明するメッセージは、以下のとおりです:

&V3

ユーザーの処置:

QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ60393 デフォルトの形式では、ユーザーの時刻データを作成できません。

説明:

列 &V2 に時刻データが入っています。 インストール先のデフォルト値の時刻の形式は、ユーザー独自の形式です。ユーザー形式を使用するには、ユーザーの時刻データを編集する、時刻ルーチンが必要です。ユーザーの時刻ルーチンを使用できません。エラーを説明するメッセージは、以下のとおりです:

&V3

ユーザーの処置:

QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ60394 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ60399 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 686 ページの『DSQ60166』を参照してください。

DSQ60400 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60401 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 686 ページの『DSQ60166』を参照してください。

DSQ60402 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 694 ページの『DSQ60311』を参照してください。

DSQ60403 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 694 ページの『DSQ60311』を参照してください。

DSQ60404 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60405 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ソース・バリエーション MDL '&V1' が、ターゲット・バリエーション MDL '&V2' と一致しません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60406 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ60430 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60431 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60432 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60433 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60434 編集コード &V2 に関するユーザー・エラー・コード &V1 を受け取りました。

説明:

編集コード &V2 に従ってデータを編集しようとしているときに、システムの編集プログラムがエラー・コード &V1 を返してきました。

ユーザーの処置:

システムで編集コード &V2 の使用上の規則を調べてください。

DSQ60435 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60436 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60437 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60438 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60439 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ユーザー編集プログラムのメモリー上書き; 編集コード &V2。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60440 編集コード &V2 は認識されていません。

説明:

形式に使用されている編集コード &V2 は無効です。次のいずれかの状態が起きているものと思われます。

1. インストール先システムの編集ルーチンがこの編集コードをサポートしていない。
2. インストール先システムに、編集ルーチンがインストールされていない。

ユーザーの処置:

コードを再度調べて、正しい編集コードを指定してください。編集コードが正しい場合には、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ60441 編集コード &V2 はこのデータ・タイプで使用できません。

説明:

この編集コードでサポートされていないデータ・タイプを含む列に、この編集コードを割り当てました。このエラーは、ユーザーのサイトのカスタム編集コードをサポートするプログラムによって検出されました。

DSQ60442 • DSQ60470

ユーザーの処置:

この編集コードが適しているデータ・タイプを調べるには、QMF 管理者に問い合わせてください。

DSQ60442 &V2 編集コードに対する入力データ値が無効です。

説明:

&V2 編集コードは、一定の値セットでのみ有効です。この編集コードが、形式上で、それとは互換性のないデータ値が入った列に対して使用されました。

このエラーは、システムの編集プログラムが発見しました。

ユーザーの処置:

インストール先の編集プログラムがこの編集コードにどのようなデータ値を予期しているのかを調べてください。

DSQ60443 編集コード &V2 に対する入力データが短すぎます。

説明:

編集コード &V2 は、一定のデータ・タイプだけに使用できるものです。形式で、このコードを、短いデータ値の入った列に対して使用しています。

このエラーは、システムの編集プログラムが発見しました。

ユーザーの処置:

システムの編集プログラムがこの編集コードに対してどれくらいの長さの入力データを予期しているのかを調べてください。

DSQ60444 編集コード &V2 の列幅 (WIDTH) が小さすぎます。

説明:

編集コード &V2 は、編集結果を入れるための最小列幅を必要とします。形式で、このコードを現報告書の列幅が不十分な列に対して指定しています。

このエラーは、システムの編集プログラムが発見しました。

ユーザーの処置:

システムの編集プログラムがこの編集コードに対してどのような最小列幅を予期しているのかを調べるか、または形式の報告書列幅 (WIDTH) を拡大するか、またはこの両方の処置をしてください。

DSQ60445 編集コード &V2 は認識されていません。

説明: 697 ページの『DSQ60440』を参照してください。

DSQ60446 編集コード &V2 はこのデータ・タイプで使用できません。

説明: 697 ページの『DSQ60441』を参照してください。

DSQ60447 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ユーザー編集出口モジュール &V1 でエラーが発生しました。 &V2、EIBRESP=&V3、EIBRESP2=&V4 からのエラーです。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60448 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60449 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60470 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FORM TEXT PANEL 用の無効なフィールド ID &V1。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレー

ス・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60471 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FORM TEXT PANEL 用のパネル ID &V1 が見つかりません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60472 「テキスト前の空白行数」の後に 0 から 999 までの数字を指定してください。

説明:

テキスト前の空白行数フィールドは、形式設定されるテキスト (ページ・ヘッダー、ページ後書きテキスト、制御の切れめヘッダー) の上の空白行の行数を示すものです。このフィールドを空白のままにすることはできません。

ユーザーの処置:

「テキスト前の空白行数 ==>」には、0 から 999 までの数字を入力してください。

DSQ60473 「テキスト後の空白行数」の後に 0 から 999 までの数字を指定してください。

説明:

「テキスト後の空白行数」フィールドは、形式設定されるテキストの後に続く空白行の行数を示すものです。このフィールドを空白のままにすることはできません。

ユーザーの処置:

「テキスト後の空白行数 ==>」には、0 から 999 までの数字を入力してください。

DSQ60474 「テキスト前の空白行数」に 0 から 999 の数字か、BOTTOM を指定してください。

説明:

「テキスト前の空白行数」フィールドは、形式設定されるテキスト (切れ目後書きテキスト、最終テキスト) の前に入れる空白行の数を示すものです。このフィールドを空白のままにすることはできません。

BOTTOM を指定すると、切れ目後書きテキストまたは最終テキストは、印刷ページの最下部に形式設定されます。

ユーザーの処置:

「テキスト前の空白行数 ==>」に、0 から 999 までの範囲内の数字または BOTTOM を入力してください。

DSQ60475 「合計行の位置」には、1 から 999 までの数字か、NONE を指定してください。

説明:

「合計行の位置」フィールドは、切れ目合計または最終合計の情報を形式設定するかどうか、およびどの行に形式設定するかを示すものです。合計情報がない場合には、この値は無視されます。このフィールドを空白のままにすることはできません。

1 から 999 までの数字を指定すると、合計情報は、切れ目後書きテキストまたは最終テキストの行に形式設定されます。

NONE を指定すると、合計情報は形式設定されません。

ユーザーの処置:

「合計行の位置 ==>」に、1 から 999 までの範囲内の数字または NONE を入力してください。

DSQ60476 「改ページ」の後に **YES** または **NO** を指定してください。

説明:

改ページ・フィールドは、印刷される報告書の後続部分を新しいページに形式設定するかどうかを示します。このフィールドを空白のままにすることはできません。

YES - the subsequent part of the report is formatted on a new page.

NO - the subsequent part of the report is not formatted on a new page unless an end of page condition is encountered.

ユーザーの処置:

「改ページ ==>」に、**YES** または **NO** だけを入力してください。

DSQ60477 「明細ヘッダーの反復」の後は **YES** か **NO** を入力してください。

説明:

「明細ヘッダーの反復」フィールドは、切れ目レベルのメンバー行の前で明細ヘッダーを繰り返すかどうか示しています。このフィールドを空白のままにすることはできません。

YES - the detail heading is repeated before the break member lines.

NO - the detail heading is not repeated before the break member lines.

ユーザーの処置:

「明細ヘッダーの反復 ==>」の後は、**YES** または **NO** だけを入力してください。 ==> .

DSQ60478 調整の下に、**RIGHT**、**LEFT**、**CENTER**、**APPEND** か数字を指定してください。

説明:

「調整」で、報告書の行の中でのテキストの位置調整を制御します。このフィールドを空白のままにすることはできません。指定できる値は次のとおりです。

RIGHT - right justify the text.
LEFT - left justify the text.
CENTER - center the text.
APPEND - to place the associated text in the position following that of the previous text.
1 to 999999 - position in line where text is to begin.

ユーザーの処置:

「調整」の下に、1 から 999999 までの数字か **LEFT**、**RIGHT**、**CENTER**、または **APPEND** を入力してください。

DSQ60479 「行」に、1 から 999 までの数字か、ブランクを指定してください。

説明:

「行」の列は、ヘッダーまたは後書きテキストのための個々のテキスト部分の配置を制御します。例えば、'5' を入力すると、該当のテキストは 5 行目に形式設定されます。2 つのテキスト部分に同じ行番号を指定すると、両方とも同じ行に形式設定されます。

ブランクを入力すると、当該テキストはすべて無視され、そのテキストは形式設定されません。

ユーザーの処置:

「行」に、1 から 999 までの範囲内の数字、またはブランクを入力してください。

DSQ60480 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60481 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 685 ページの『DSQ60149』を参照してください。

DSQ60482 形式の「列ヘッダーを明細ヘッダーに含める」領域には、**YES** または **NO** 値を使用してください。

説明:

「列ヘッダーを明細ヘッダーに含める」領域は、列ヘッダーを明細ヘッダーの一部にするかどうかを示します。この値を空白にすることはできません。

- **YES** - 列ヘッダーを、明細ヘッダー・テキストがある場合はその後に入れます。
- **NO** - 列ヘッダーは形式設定されません。

ユーザーの処置:

「列見出しを組み込む? (Include Column Headings?) ==>」の後は **YES** または **NO** の値を入力してください。

DSQ60483 &V1 は、現在の文脈では無効です。

説明:

ページ、切れ目ヘッダー、および明細ヘッダーのテキストでは以下の変数だけが有効です。

```
&DATE
&TIME
&PAGE
&ROW
&n (where "n" is a column number in the form)
```

大域変数は切れ目後書き、明細ブロックおよび最終テキストでは、上記のものと同様にテキスト・フィールドの中で使用できます。

ユーザーの処置:

変数を有効な変数に変更するか、または &V1 を切れ目の後書き、明細ブロック、または最終テキストの中で使用してください。

DSQ60484 &V1 は、有効な形式変数ではありません。

説明:

形式の「ページ」、「切れ目ヘッダー」、および「明細ヘッダー」領域では、大域変数および以下の変数のみが有効です。

```
&n &DATE &TIME &PAGE &ROW
```

上記に加えて、以下の変数が、形式の「切れ目の後書き」、「明細ブロック」、および「最終テキスト」領域にかぎって有効です。

```
&COUNT &COUNTn &AVGn &STDEVn &SUMn &CSUMn
&PCTn &CPCTn &TPCTn &TCPCn &FIRSTn &LASTn
&MAXn &MINn &CALCId
```

上記の変数リストで、"n" は形式内の列番号であり、"id" は FORM.CALC 内の式 ID です。

ユーザーの処置:

変数を有効な変数に変更するか、または削除してください。

DSQ60485 &V1 は、有効な形式変数ではありません。

説明: 『DSQ60484』を参照してください。

DSQ60486 「表データ表示行」の後には 1 から 999 までの値か **NONE** を指定してください。

説明:

形式の「表データ表示行」領域は、表データを報告書の明細行に出力するかどうか、および出力する場合は、どの行に出力するかを示します。報告書内に列がない場合、この値は無視されます。この値をブランクにすることはできません。

1 から 999 の数を使用すると、表データは明細ブロックの対応する行に形式設定されます。

報告書から表データを省略するには、値 **NONE** を使用してください。

ユーザーの処置:

「表データ表示行 ==>」.br の後に 1 から 999 までの値または **NONE** を入力してください。

DSQ60487 「ブロックをページ内に維持」の後には **YES** か **NO** を指定してください。

説明:

このフィールドは、ページの終わり条件が発生したときに、ページ境界にまたがる明細ブロック行の形式設定を制御します。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

YES - Detail block lines are not formatted across page boundaries. A YES value will make sure that all the lines will fit on the current page. If they will not fit, a new page will be started.

NO - End of page condition may cause detail block lines to be formatted across page boundaries.

ユーザーの処置:

ブロックをページ内に維持 ==> の後には **YES** または **NO** だけを入力してください。

DSQ60489 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60490 形式の「明細ヘッダーの反復」領域には、**YES** または **NO** 値を使用してください。

説明:

「明細ヘッダーの反復」領域は、報告書内で各明細行またはグループ要約に対し明細ヘッダーを繰り返すかどうかを示します。この値をブランクにすることはできません。以下のいずれかを選択してください。

- **YES** - 明細ヘッダーは反復されます
- **NO** - 明細ヘッダーは反復されません。

ユーザーの処置:

「明細ヘッダーの反復==>」の後には **YES** または **NO** 値を入力してください。

DSQ60491 '&V1' に無効な列番号が入っています。

説明: 687 ページの『DSQ60175』を参照してください。

DSQ60492 '&V1' に無効な列番号が入っています。

説明: 687 ページの『DSQ60175』を参照してください。

DSQ60493 条件 ID &V1 がありません。

説明:

条件 ID として、「パネル・バリエーションの選択」フィールドに &V1 を指定しましたが、FORM.CONDITIONS パネルにその名前の条件 ID はありません。

ユーザーの処置:

&V1 を既存の条件式の ID 番号に変更するか、FORM.CONDITIONS パネルに ID &V1 に対する条件式を作成してください。

DSQ60494 条件 ID &V1 に対する式がありません。

説明:

「パネル・バリエーションの選択」フィールドに入力した条件 ID に対応する式がありません。

ユーザーの処置:

条件 ID &V1 に対する式を作成するか、または条件 ID を FORM.CONDITIONS パネル上にあり、対応する式を持つ ID に変更してください。

DSQ60495 &V1 には、無効な計算 ID が指定されています。

説明:

&CALCID 置換変数の "ID" は 1 999 の整数だけが有効で、FORM.CALC パネルの計算行の ID の値に等しくなければなりません。

ユーザーの処置:

有効な "ID" が含まれるように &V1 を変更し ENTER キーを押してください。

DSQ60496 &V1 は、現在の文脈では無効です。

説明: 700 ページの『DSQ60483』を参照してください。

DSQ60497 バリエーションには YES、NO、E1 から E999 か C1 から C999 を指定してください。

説明:

「パネル・バリエーションの選択」のフィールドは、現パネルで指定された値 (バリエーション) が、いつテキ

ストを形式設定するのに使用されるかを決定します。指定できる値は次のとおりです。

YES	- values from this panel are ALWAYS selected.
NO	- values from this panel are NEVER selected.
E1-E999	- a column "existence" indicator; this panel is selected when data "exists" for the column number indicated.
C1-C999	- a condition id; this panel is selected when the associated condition (on FORM.CONDITIONS) is true.

ユーザーの処置:

YES、NO、E1 から E999 または C1 から C999 を入力してください。

DSQ60498 集約変数 '&V1' には、列番号が必要です。

説明:

集約変数の形式は '&Xn' です。

- 'X' は、集約関数です。許容される集約関数は、COUNT、MAX、MIN、FIRST、LAST、AVG、SUM、CSUM、STDEV、PCT、CPCT、TPCT、および TCPCT です。COUNT は、列番号を必要としない唯一の変数です。
- 'n' は、集約される列の番号です。これは、ゼロまたは形式内の列の数より大きい数にはできません。

ユーザーの処置:

変数に、集約関数の実行対象になる列番号を付加してください。

DSQ60500 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FORM TEXT PANEL 用のマップ DXEMDL ID &V1 が見つかりません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60510 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

フィールド ID &V1 は有効な CALC フィールドではありません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60511 ID には、&V1 ではなく、1 から 999 の固有の数字を使用してください。

説明: 685 ページの『DSQ60159』を参照してください。

DSQ60513 列幅には、1 から 32767 までの数値を指定してください。

説明:

WIDTH は、式の編集のために列に表示できる文字の最大数を示します。列の境界を定義するこの値は、&CALCid 変数の式の結果に適用されます。ここで「id」は、計算式と WIDTH の値の両方が含まれている FORM.CALC 行の ID 値です。幅は、0 またはブランクであってはなりません。

列折り返しを許可する編集コードを指定しない限り、WIDTH 値より長いデータは列境界で切り捨てられます。列折り返しを有効にすると、WIDTH 値より長いデータは列境界で次の行に折り返されます。

ユーザーの処置:

列境界を定義するには、以下のようにします。

1. WIDTH は 1 から 32767 の数値に設定してください。
2. 列折り返しを有効にするには、編集コード CW を指定してください。
3. ENTER キーを押します。

DSQ60514 幅には &V1 ではなく、1 から 32767 の数字を指定してください。

説明:

&V1 は、幅の有効な値ではありません。WIDTH は、式の編集のために列に表示できる文字の最大数を示します。列の境界を定義するこの値は、&CALCid 変数の式の結果に適用されます。ここで「id」は、式と WIDTH の値の両方が含まれている FORM.CALC 行の ID 値です。

数字編集コード (D、E、I、J、K、L、または P) で編集され、幅の値より長い数字の結果はアスタリスク (****) で置き換えられます。

列折り返しを許可する編集コードを指定しない限り、WIDTH 値より長い文字結果は列境界で切り捨てられます。列折り返しを有効にすると、WIDTH 値より長いデータは列境界で次の行に折り返されます。

ユーザーの処置:

列境界を定義するには、以下のようにします。

1. WIDTH は 1 から 32767 の数値に設定してください。
2. 列折り返しを有効にするには、編集コード CW を指定してください。
3. ENTER キーを押します。

DSQ60515 &V1 は CALC 変数として有効な編集コードではありません。

説明:

編集は &CALCID 変数の式の結果を編集する方法を示しています。以下の QMF 編集コードのみが有効です。

- For numeric editing of numeric results:
D<Z><C>xx, E<Z>, I<Z>xx, J<Z>xx, K<Z>xx, L<Z>xx, or P<Z>xx

Examples: D -\$123,456 E -1.23E+05 I -00123456
J 000123456 K -123,456 L -123456
P -123,456%

An optional Z in the second position of a numeric edit code performs the same function as the corresponding edit code, with the additional function of displaying the value of zero as blank.

An optional C in the second or third position displays the user definable currency symbol instead of the standard currency symbol. This symbol is defined by the Global Variable DSQDC_CURRENCY. If both Z and C are specified, C must follow Z.

Numeric edit codes, with the exception of E, can be followed by 0 to 99 to show that number of digits after the decimal point.

- For character editing of any result: C
Use edit code C for non-numeric results.
- For user editing of any result: Uxxxx or Vxxxx
"xxxx" is any combination of characters, excluding blanks or nulls, allowed by the user edit routine.

ユーザーの処置:

上記の編集コードのいずれかを設定してください。

DSQ60516 &V1 は CALC 変数として有効な編集コードではありません。

説明: 703 ページの『DSQ60515』を参照してください。

DSQ60517 &V1 は CALC 変数として有効な編集コードではありません。

説明: 703 ページの『DSQ60515』を参照してください。

DSQ60518 CALC 変数に有効な編集コードを指定してください。

説明:

編集は &CALCID 変数の式の結果を編集する方法を示しています。以下の QMF 編集コードのみが有効です。

- For numeric editing of numeric results:
D<Z><C>xx, E<Z>, I<Z>xx, J<Z>xx, K<Z>xx, L<Z>xx or P<Z>xx

Examples: D -\$123,456 E -1.23E+05 I -00123456
J 000123456 K -123,456 L -123456
P -123,456%

An optional Z in the second position of a numeric edit code performs the same function as the corresponding edit code, with the additional function of displaying the value of zero as blank.

An optional C in the second or third position displays the user definable currency symbol instead of the standard currency symbol. This symbol is defined by the Global Variable DSQDC_CURRENCY. If both Z and C are specified, C must follow Z.

Numeric edit codes, with the exception of E, can be followed by 0 to 99 to show that number of digits after the decimal point.

- For character editing of any result: C
Use edit code C for non-numeric results.

- For user editing of any result: Uxxxx or Vxxxx
"xxxx" is any combination of characters, excluding blanks or nulls, allowed by the user edit routine.

ユーザーの処置:

上記の編集コードのいずれかを設定してください。

DSQ60519 'E' 編集コードの後には 'Z' を除いては何も付けることはできません。

説明: 684 ページの『DSQ60146』を参照してください。

DSQ60520 '&V1' 編集コードの位取りが 0 から 99 までの範囲内にありません。

説明: 684 ページの『DSQ60147』を参照してください。

DSQ60521 '&V1' 編集コードの位取りが 0 から 99 までの範囲内にありません。

説明: 684 ページの『DSQ60147』を参照してください。

DSQ60522 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 685 ページの『DSQ60149』を参照してください。

DSQ60523 NULL 置換値に YES または NO を使用してください。

説明: 685 ページの『DSQ60160』を参照してください。

DSQ60530 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14096』を参照してください。

DSQ60531 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 681 ページの『DSQ60110』を参照してください。

DSQ60532 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

制御ブロックは形式のエラーを示していますが、フィールドにはエラーは検出されませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60533 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

制御ブロックは形式の警告を示していますが、フィールドには警告は検出されませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60550 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ID '&V1' を持つフィールドは従属関係を持つことはできません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60551 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

フィールド ID '&V2' のフィールド値 '&V1' は従属関係を持つことができません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを

報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60552 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DXEADS ステータス・フラグはエラーまたは警告を示していますが、検出されませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60553 行の折り返しは無視されました。取扱コード ACROSS と同時に指定できません。

説明:

行の折り返しには一定の制約があります。以下の QMF 形式設定機能は、行折り返しのある報告書では使用することができません。

1. FORM.COLUMNS パネルの EDIT フィールドに指定された列内折り返し
2. FORM.COLUMNS パネルで指定された ACROSS 取扱コード

ユーザーの処置:

これは警告メッセージです。ACROSS 列を使用したい場合は、オプション・パネルで「行の折り返し幅」を NONE に変更してください。そうでない場合には、ACROSS 取扱コードを取り除いてください。

DSQ60554 行の折り返しは無視されました。列内折り返しと同時に指定できません。

説明:

行の折り返しには一定の制約があります。以下の QMF 形式設定機能は、行折り返しのある報告書では使用することができません。

1. FORM.COLUMNS パネルの EDIT フィールドに指定された列内折り返し
2. FORM.COLUMNS パネルで指定された ACROSS 取扱コード

ユーザーの処置:

これは警告メッセージです。列内折り返しを使用したい場合には、OPTIONS パネルで「行の折り返し幅」を NONE に変更してください。そうでない場合には、列内折り返しの編集コードを変更してください。

DSQ60555 並べ替えオプション NO は無視されました。横方向報告書では列が並べ替えられません。

説明:

横方向報告書の形式化では列形式パネル上の列「順」の値は無視されます。報告書の中で列を並べ替えるには、「報告書列の並べ替え (自動的)」オプションを YES にすることで行われます。

ユーザーの処置:

これは警告メッセージです。方向列が必要であれば、オプション形式パネルの「報告書列の並べ替え」オプションを YES に変更してください。そうでない場合には、ACROSS 取扱コードを取り除いてください。

DSQ60556 テキストまたは式が大きすぎるので切り捨てられました。

説明:

ユーザーのテキストまたは式の置換変数が拡張されました。これはフォームに列を挿入したり、または言語変換が必要なフォームをインポートまたは表示する際に発生します。変数の拡張によりテキストか式の行が切り捨てられることがあります。切り捨てが起こると形式パネルの最上部に警告の標識が表示されます。

列が挿入されても、大域変数の数字は付け直されません。

ユーザーの処置:

CHECK コマンドを使用して、切り捨てが起こった行を見つかります。切り捨ての警告を取り除くには、切り捨てられた行に、別の文字を入力してください。必要で

あれば、テキストか式を修正してください。

DSQ60560 列が省略されました。GROUP とブランクの取扱コードは使用できません。

説明:

形式内のどちらかの列に GROUP 取扱コードが指定され、別の列に集約取扱コードが指定されている場合、取扱コードがブランクの列があってはなりません。ブランクが指定されていた列は報告書から省略されました。

ユーザーの処置:

この列を省略しないためには、その取扱コードを BREAKN、GROUP、または集約取扱コードに変更してください。指定可能な集約取扱コードは次のとおりです。

SUM	PCT	TPCT	FIRST	MAXIMUM	AVERAGE	COUNT
CSUM	CPCT	TCPCT	LAST	MINIMUM	STDEV	
CALC1...CALC999						

DSQ60561 ACROSS が使用されています。ほかの ACROSS 列は除外されます。

説明:

ACROSS が複数の列に入力されています。ACROSS は、1 つの列だけで使用できるものです。複数の ACROSS が入力された場合には、最初の ACROSS 列だけが使用され、2 番め以降の ACROSS 指定の列は報告書から除外されます。この列が、取扱コードに ACROSS が指定されている最初の列です。

ユーザーの処置:

これは警告メッセージです。この列を ACROSS 列として用いたくない場合には、GROUP、OMIT、BREAKN、BREAKNX、または集約取扱コードに変更してください。

DSQ60562 ACROSS には GROUP および集約取扱コードが必要です。

説明:

ACROSS が列の取扱コードとして入力されましたが、ほかの列には GROUP または集約取扱コードが指定されていません。ACROSS が使用される場合は、GROUP が少なくとも 1 つの列に指定され、別の列に集約取扱コードが指定されている必要があります。少なくとも 1 つの GROUP および以下の集約取扱コードのどちらかが追加されるまで、ACROSS が指定されている列は報告書から省略されます。

SUM	PCT	TPCT	FIRST	MAXIMUM	AVERAGE	COUNT
CSUM	CPCT	TCPCT	LAST	MINIMUM	STDEV	
CALC1...CALC999						

ユーザーの処置:

ACROSS を指定する列がある場合は、少なくとも 1 つの列に GROUP を指定し、ほかの列に集約取扱コードを指定してください。

DSQ60563 列が省略されました。GROUP は集約取扱コードが必要です。

説明:

取扱コード GROUP を使用する場合、そのほかの列の少なくとも 1 つには集約取扱コードを指定する必要があります。以下の関数が使用できます。

SUM	PCT	TPCT	FIRST	MAXIMUM	AVERAGE	COUNT
CSUM	CPCT	TCPCT	LAST	MINIMUM	STDEV	
CALC1...CALC999						

集約取扱コードが指定されていないため、GROUP が指定された列は報告書から省略されました。書式に ACROSS 取扱コードが含まれていた場合、ACROSS 列も省略されました。

ユーザーの処置:

報告書でグループ化が必要な場合は、少なくとも 1 つの列に集約取扱コードを指定してください。グループ化する場合、取扱コードがブランクの列があってはなりません。

DSQ60564 列が省略されました。列 &V1 に対して ACROSS が使用されます。

説明:

ACROSS が、複数の列に対して取扱コードとして入力されています。取り扱いに ACROSS の指定された列は 1 つだけです。取り扱いに ACROSS の指定された列が 2 つ以上ある場合には、ACROSS のある最初の列(番号 &V1) が ACROSS 列として使用されます。ACROSS 指定のある残りの列は、報告書から除外されます。

ユーザーの処置:

これは警告メッセージです。列 &V1 を ACROSS 列にしたくない場合には、その取り扱いを GROUP、OMIT、BREAKN、BREAKNX、または集約取扱コードに変更してください。

DSQ60580 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

リリース 1 からリリース 2 への変換中のエラー。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・

データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ60581 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ60582 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ60583 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ60584 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 686 ページの『DSQ60166』を参照してください。

DSQ60585 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

リリース 1 の形式に、変換できない無効な使用方法があります。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2

DSQ60600 • DSQ60650

QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60600 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 686 ページの『DSQ60166』を参照してください。

DSQ60601 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ60620 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DXEFCLX の列数が FCI の列数と一致しません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60630 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60631 &V1 に無効な属性があります。

説明: 348 ページの『DSQ22221』を参照してください。

DSQ60632 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60633 エクスポートされるレコードが出力ファイルに対して大きすぎます。

説明: 598 ページの『DSQ50048』を参照してください。

DSQ60634 エクスポートされるレコードが出力ファイルに対して大きすぎます。

説明: 598 ページの『DSQ50048』を参照してください。

DSQ60647 「固定列の数」の後には **1** から **999** か、**NONE** を指定してください。

説明:

「固定列の数」フィールドには、報告書の左側に固定する列数を指定します。 1 から 999 または NONE を指定できます。NONE がデフォルト値です。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

ユーザーの処置:

次の後に 1 から 999 までの数字または NONE を入力してください。

報告書の固定列の数 ==>>.

DSQ60648 「固定列の数」の後には **1** から **999** か、**NONE** を指定してください。

説明: 『DSQ60647』を参照してください。

DSQ60649 「固定列の数」の後には **1** から **999** か、**NONE** を指定してください。

説明: 『DSQ60647』を参照してください。

DSQ60650 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

FORM.OPTIONS パネル用の無効なフィールド ID '&V1'。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈について

は、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60651 「切れ目列の一括表示」の後には **YES** か **NO** を指定してください。

説明:

制御列 (取扱コードが **BREAKN** であるもの) の中の値の重複を抑止します。このフィールドを空白のままにすることはできません。

YES - Performs "outlining" and suppresses redundant values in control columns.

NO - Does not perform "outlining" and displays all values in control columns.

ユーザーの処置:

「切れ目列の一括表示 ===>」の後には、**YES** または **NO** だけを使用してください。

DSQ60652 「グループ化の場合の列ヘッダーに関数名を使用する?」の後には **YES** または **NO** を使用してください。

説明:

書式の「グループ化の場合の列ヘッダーに関数名を使用する?」領域を使用して、列ヘッダーに集約関数名を含めるかどうかを指示します。書式内の列で **GROUP** 取扱コードを使用した場合は、列ヘッダーにこの集約関数名を含めると便利です。この値を空白のままにすることはできません。次のオプションのいずれかを選択してください。

- **YES** - 集約関数名を列見出しに組み込みます。
- **NO** - 集約関数名を列見出しに組み込みません。

ユーザーの処置:

「グループ化したときに列見出しの関数名使用 ===>」.br の後には、**YES** または **NO** の値のみを入力してください。

DSQ60653 「列ヘッダーの区切り文字」に **YES** または **NO** を指定してください。

説明:

「列ヘッダーの区切り文字」フィールドは、列ヘッダーの下のダッシュ行を報告書に含めるかどうかを示します。このフィールドを空白のままにすることはできません。

YES - Column heading separators are displayed in the report.

NO - Column heading separators are not displayed in the report.

ユーザーの処置:

「列ヘッダーの区切り文字 ===>」に、**YES** または **NO** だけを入力してください。

DSQ60654 「列内折り返し行の同一ページ内表示」に、**YES** か **NO** を指定してください。

説明:

このフィールドは、ページ終わり条件に達したときに、別のページの列内折り返し行の形式設定を制御するものです。このフィールドを空白のままにすることはできません。

YES - Column wrapped lines are not formatted on separate pages. A YES value will make sure that all the lines will fit on the current page. If they will not fit, a new page will be started.

NO - End of page condition may cause column wrapped lines to be formatted on separate pages.

ユーザーの処置:

「列内折り返し行の同一ページ内表示 ===>」に、**YES** または **NO** だけを入力してください。

DSQ60655 「デフォルトの切れ目テキスト」に、**YES** または **NO** を指定してください。

説明:

このフィールドは、報告書の中のデフォルトの切れ目テキストの形式設定を制御するものです。デフォルトの切れ目テキストとは、制御の切れ目は指定されているがそれに関連する切れ目テキストが指定されていない場合に、制御の切れ目に現れるアスタリスクのことです。このフィールドを空白のままにすることはできません。

YES - the asterisks will be included in the report.

NO - the asterisks will not be included in the report.

ユーザーの処置:

「デフォルトの切れ目テキスト ===>」に、**YES** または **NO** だけを入力してください。

DSQ60656 「横方向合計列の表示」に **YES** または **NO** を指定してください。

説明:

このフィールドは、報告書の横方向合計列の形式設定を制御するものです。横方向合計列は、右端の「合計」という横方向ヘッダーの値の下にある、合計情報が入っている列です。このフィールドを空白のままにすることはできません。

YES - Across summary column is included in the report.

NO - Across summary column is not included in the report.

ユーザーの処置:

DSQ60657 • DSQ60665

「横方向合計列の表示 ===>」に、YES または NO だけを入力してください。

DSQ60657 「明細行の行送り」に、1 から 999 を指定してください。

説明:

明細行の行送りは、報告書の各明細行の後の行送りを制御するものです。指定できる値は 1 から 999 の内のどれかで、1 はシングル・スペース、2 はダブル・スペースと順に表します。ゼロまたはブランクの値は許されません。

ユーザーの処置:

「明細行の行送り ===>」に、1 から 999 の数値を入力してください。

DSQ60658 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 685 ページの『DSQ60149』を参照してください。

DSQ60659 「明細行の行送り」に、1 から 999 を指定してください。

説明: 『DSQ60657』を参照してください。

DSQ60660 切れ目合計の区切り文字には、YES か NO を指定してください。

説明:

「切れ目合計の区切り文字」フィールドは、切れ目合計行の前のダッシュ行を報告書に含めるかどうかを示すものです。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

YES - Break summary separators are displayed in the report.

NO - Break summary separators are not displayed in the report.

ユーザーの処置:

「切れ目合計の区切り文字 ===>」の後には、YES または NO だけを入力してください。

DSQ60661 「横方向ヘッダーの区切り文字」には YES か NO を指定してください。

説明:

「横方向ヘッダーの区切り文字」フィールドは、横方向列ヘッダーの中のダッシュ、より大、および、より小の各シンボルを報告書に含めるかどうかを示すものです。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

YES - Across heading separators are displayed in the report.

NO - Across heading separators are not displayed in the report.

ユーザーの処置:

「横方向ヘッダーの区切り文字 ===>」には、YES または NO だけを入力してください。

DSQ60662 「最終合計の区切り文字」の後には YES か NO を使用してください。

説明:

「最終合計の区切り文字」フィールドは、最終合計行の前の等号を報告書に含めるかどうかを示すものです。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

YES - Final summary separators are displayed in the report.

NO - Final summary separators are not displayed in the report.

ユーザーの処置:

「最終合計の区切り文字 ===>」の後には、YES または NO だけを入力してください。

DSQ60663 「行の折り返し幅」には 1 から 999 の数字または NONE を指定してください。

説明:

このフィールドは、報告書の一定の行を折り返すかどうかを示します。指定できる値は、1 から 999 までの数字、または NONE です。このフィールドをブランクのままにすることはできません。デフォルトの値は NONE です。NONE は、行の折り返しを行わないことを示します。

1 から 999 までの値を指定すると、その値でどこで行を折り返して次の行に継続させるかが決まります。

ユーザーの処置:

1 から 999 までの範囲内の数字または NONE を入力してください。

Line wrapping width? ===> .

DSQ60664 「行の折り返し幅」には 1 から 999 の数字または NONE を指定してください。

説明: 『DSQ60663』を参照してください。

DSQ60665 「明細行の行送り」に、1 から 999 を指定してください。

説明: 『DSQ60657』を参照してください。

DSQ60666 「行の折り返し幅」には 1 から 999 の数字または **NONE** を指定してください。

説明: 710 ページの『DSQ60663』を参照してください。

DSQ60667 「行の折り返し幅」には 1 から 999 の数字または **NONE** を指定してください。

説明: 710 ページの『DSQ60663』を参照してください。

DSQ60668 「報告書列の自動再配列」の後には、**YES** か **NO** を使用してください

説明:

このフィールドは、報告書内で列を自動的に再配置するかどうかを示しています。再配置または **ACROSS** 取り扱いが指定されている場合は、報告書での列の順序は左から右に次のようになります。切れ目取り扱いの列、グループ取り扱いの列、非集約列、集約取扱コードの列。それ以外の場合は、**FORM.COLUMNS** パネルの順の値が報告書の形式設定に使用されます。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

YES - Columns are automatically reordered on the report.

NO - SEQ column values will be used to format the report.

ユーザーの処置:

「報告書列の自動再配列 ===>」の後には、**YES** または **NO** だけを入力してください。

DSQ60669 「最高位の切れ目ごとに新しいページ番号」には **YES** か **NO** を指定します。

説明:

このフィールドでは、印刷報告書の最高切れ目レベル(最小の切れ目番号のレベル)ごとにページ番号を 1 から付け直すかどうかを指定します。このフィールドをブランクのままにすることはできません。

YES 次の場合には、最高切れ目レベルで作成される最初のページには、ページ番号 1 が付けられます。

1. 列の形式パネルで列に対して **BREAK** 取扱コードが指定されていて、
2. 対応する切れ目の形式パネルの「切れ目での改ページ」フィールドに **YES** が指定されている。

NO ページ番号の変更が不要な場合。

ユーザーの処置:

「最高位の切れ目ごとに新しいページ番号 ===>」の後

に **YES** または **NO** を入れてください。

DSQ60672 「報告書のテキストの幅」には **DEFAULT**、**COLUMNS** か 0 から **999999** を指定する。

説明:

これらの値はページ・テキストを除いた報告書テキスト域幅を指定します。指定できる値は次のとおりです。

DEFAULT -- Text is formatted to the left of any summary data column. If there is no break or final summary data, the total width of the report columns is used. (Applicable to break footing and final text only.)
COLUMNS -- The total width of report columns is as shown in **FORM.COLUMNS** panel.
 0 to 999999 -- A number that exactly defines the width of the report text area. If zero is specified, no text will be formatted.

ユーザーの処置:

報告書のテキストの幅に、0 から 999999 の数字、**DEFAULT** または **COLUMNS** を入力してください。

DSQ60673 「報告書のテキストの幅」には **DEFAULT**、**COLUMNS** か 0 から **999999** を指定する。

説明: 『DSQ60672』を参照してください。

DSQ60674 「報告書のテキストの幅」には **DEFAULT**、**COLUMNS** か 0 から **999999** を指定する。

説明: 『DSQ60672』を参照してください。

DSQ60700 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ60701 ここにはこれ以上行を挿入できません。

説明:

行を挿入しようとしている区域には、許容最大行数 (&VI) がすでに含まれています。

ユーザーの処置:

必要でない行を削除してください。

DSQ60702 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60703 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60704 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60705 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60706 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60707 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60708 最後の行または唯一の行は削除できません。リセットされています。

説明:

最低 1 行は形式のこの区域に残っていなければなりません。削除しようとした行は消去され、フィールドはデフォルト値にリセットされました。

ユーザーの処置:

処理を続行してください。

DSQ60709 挿入行のフィールドに値を指定してください。

説明:

ブランクであるかまたはデフォルト値に事前設定されている新しい行が挿入されました。これらのフィールドを必要な値に設定してください。

ユーザーの処置:

フィールドを必要な値に設定した後、処理を続行してください。

DSQ60710 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ60711 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 686 ページの『DSQ60166』を参照してください。

DSQ60712 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ60713 条件 ID &V1 に対する式がありません。

説明: 702 ページの『DSQ60494』を参照してください。

DSQ60714 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60720 取扱コード &V1 はこのデータ・タイプで使用できません。

説明:

&V1 取扱コードを指定できるのは、列の編集コードが D、E、I、J、K、L、または P の場合です。QMF は、その他の編集コードを持つデータ・タイプに対して算術演算を実行することはできません。

ユーザーの処置:

FORM.COLUMNS を使用して、この問題の原因となった列の編集コードを D、E、I、J、K、L、または P に変更します。編集コードを変更できない場合は、問題となっているデータ・タイプと互換性を持つように取扱コードを変更します。データ・タイプと互換性を持つ取扱コードがない場合は、書式の USAGE フィールドをブランクのままにするか、または OMIT 取扱コードを指定してその列を報告書から除去します。各データ・タイプについて使用可能な取扱コードおよび編集コードについて詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ60721 形式の「列間隔」には、&V1 ではなく、1 から 999 の数字を使用してください。

説明:

&V1 は、図形列に対する有効な列間隔値ではありません

ん。列間隔値は、現在の列の左端とその前の列の右端との間の空白文字の数を指定します。

ユーザーの処置:

列間隔の値を 1 から 999 までの数に設定し、Enter キーを押してください。

DSQ60722 形式の「列幅」には、'&V1' ではなく、1 から 16383 までの数を使用してください。

説明:

'&V1' は、図形列の幅に対する有効な値ではありません。幅の値は、1 つの列に入れることのできる最大文字数を示します。「列幅」に指定する値より長いグラフィック・データは、列折り返しが指定されていないかぎり、右端で切り捨てられます。

ユーザーの処置:

「列幅」の値を 1 から 16383 までの数に設定し、Enter キーを押してください。

DSQ60723 &V1 は、列 &V2 に対する有効な変数ではありません。

説明:

集約関数 SUM、CSUM、PCT、CPCT、TPCT、TCPCT、STDEV、および AVG は、数値データに対してのみ実行できます。MAX、MIN、FIRST、LAST、および COUNT 関数は、XML データを含む列を除くすべての列に対して実行できます。

列 &V2 のデータ・タイプについては、FORM.COLUMNS パネルの「編集」列を参照してください。

ユーザーの処置:

列 &V2 に対して集約関数を実行したい場合は、この列のデータ・タイプと互換性のある関数を選択してください。

DSQ60724 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 705 ページの『DSQ60550』を参照してください。

DSQ60725 ID には、&V1 ではなく、1 から 999 の固有の数字を使用してください。

説明: 685 ページの『DSQ60159』を参照してください。

DSQ60726 指定された &V1 は「パネル・バリエーションの選択」では無効です。

説明:

「パネル・バリエーションの選択」に &V1 が指定されています。このコードを指定するには FORM.COLUMNS パネルで NO に &V2 が指定された列が必須ですが、そのような列はありません。

ユーザーの処置:

&V1 を修正して存在する列の列番号を使用するか、&V1 を YES または NO に変更するかのどちらかを行ってください。

DSQ60727 固定列には、行の折り返しは指定できません。

説明:

行の折り返しと固定列は相互に排他的です。同じ報告書にこの両方を指定することはできません。

ユーザーの処置:

折り返しが必要な場合は、固定列の数を NONE に変更してください。そうでない場合は、行折り返し幅を NONE に変更してください。

DSQ60728 取り扱い &V1 用の式が FORM.CALC に存在しません。

説明:

FORM.COLUMNS に取り扱い &V1 を指定しました。しかし、この取り扱いには FORM.CALC パネルに &V2 という ID が付いた計算式が必要です。この ID の式がありません。

ユーザーの処置:

既存の計算式の ID を使用するよう &V1 を修正するか、または ID が &V2 である式を FORM.CALC に定義してください。

DSQ60729 条件 ID &V1 がありません。

説明: 702 ページの『DSQ60493』を参照してください。

DSQ60730 変数 &V1 の式が FORM.CALC に存在しません。

説明:

報告書テキストに変数 &V1 を指定しました。しかし、この変数の場合 FORM.CALC パネル上に &V2 と

DSQ60731 • DSQ60743

いう ID の計算式が必要です。この ID の式がありません。

ユーザーの処置:

既存の計算式の ID を使用するように &V1 を修正するか、または ID が &V2 である式を FORM.CALC に定義してください。

DSQ60731 条件 ID &V1 に対する式がありません。

説明: 702 ページの『DSQ60494』を参照してください。

DSQ60732 条件 ID 番号 &V1 が固有ではありません。

説明:

「パネル・バリエーションの選択」フィールドに入力された条件 ID 番号が固有ではありません。

FORM.CONDITIONS パネルに &V1 の ID が 2 つ以上あります。

ユーザーの処置:

FORM.CONDITIONS パネルの ID 番号を、それぞれ固有なものに変更して、同じ ID 番号が 2 つにならないようにしてください。

DSQ60733 条件 ID &V1 がありません。

説明: 702 ページの『DSQ60493』を参照してください。

DSQ60740 FORM 内の列の数が DATA と一致しません。

説明:

FORM (&V1) で示されている定義式なしでは列数が DATA (&V2) の列数と正確に一致しないため、レポートを作成できません。FORM 列に式の定義を任意の数で指定できます (最大 999 まで)。しかし定義がない列の数と、DATA の列の数は報告書を作成するために、一致していなければなりません。

ユーザーの処置:

INSERT または DELETE コマンドを使用して、ユーザー自身が FORM の桁数を DATA に合わせてください。または、RESET コマンドを使用して FORM (または FORM.COLUMNS) をデフォルト値に設定することもできます。

DSQ60741 数値コード &V1 は数値データ用の有効な編集コードではありません。

説明:

数値データには次のいずれかのコードを使用してください。

Code	Format Effect	
D<Z><C>xx	Currency symbol, separators.	(-\$123,456)
E<Z>	Scientific notation.	(-1.23456E+05)
I<Z>xx	Leading zeros.	(-00123456)
J<Z>xx	Leading zeros, no negative sign.	(00123456)
K<Z>xx	Separators.	(-123,456)
L<Z>xx	Normal.	(-123456)
P<Z>xx	Percent sign.	(-123456%)
Uxxxx	User edit code (can be followed by any 4 characters).	
Vxxxx	User edit code (can be followed by any 4 characters).	

数値編集コードの 2 番目のオプション Z は、ゼロの値をブランクとして表示する追加の機能を伴う、対応する編集コードと同じ機能を実行します。

2 番目または 3 番目の位置にある C は任意指定で、標準の通貨記号の代わりに、ユーザーが定義できる通貨記号を表示します。この通貨記号は、大域変数 DSQDC_CURRENCY で定義されます。Z と C の両方が指定される場合は、C が Z に続きます。

数値編集コードは、E を除いては、0 から 99 が後に続き、小数点の後の桁数を示します。

ユーザーの処置:

上記の編集コードだけを使用してください

DSQ60742 &V1 が、日付データ用の有効な編集コードではありません。

説明:

日付データには、以下のコードのいずれかを使用します。

Code	Effect	Meaning
TDYx	YYYYxMMxDD	4-digit year, Year first
TDMx	MMxDDxYYYY	4-digit year, Month first
TDX	DDxMMxYYYY	4-digit year, Day first
TDYAx	YYxMMxDD	abbreviated year, Year first
TDMAx	MMxDDxYY	abbreviated year, Month first
TDDAx	DDxMMxYY	abbreviated year, Day first
TDL		installation provides the date formatting routine
TD		default date format of the database system

x にはブランクを含む英数字以外の文字を使用できません。文字編集コードまたはユーザー編集コードは、日付データと併用できます。

ユーザーの処置:

上記の編集コードだけを使用してください

DSQ60743 日付編集コード &V1 を使用できません。

説明:

編集コード &V1 を使用するためには、列 &V2 に指定されている日付データを編集するためのローカル日付ル

ーチンが必要です。ローカル日付ルーチンが使用できません。

&V3

ユーザーの処置:

別の日付編集コードを使用してください。編集コード &V1 を使用しなければならない場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ60744 &V1 が、時刻データ用の有効な編集コードではありません。

説明:

時刻データには、以下のコードのいずれかを使用します。

Code	Effect	Meaning
TTSx	HHxMMxSS	includes seconds, 24 hour clock
TTCx	HHxMMxSS	includes seconds, 12 hour clock
TTAx	HHxMM	excludes seconds, abbreviated
TTAN	HHMM	excludes seconds, abbreviated, no time delimiter
TTUx	HHxMM AM HHxMM PM	USA style
TTL	installation provides the time formatting routine	
TT	default time format of the database system	

x には空白を含む英数字以外の文字を使用できません。文字編集コードまたはユーザー編集コードを、時刻データと併用できます。

ユーザーの処置:

上記の編集コードだけを使用してください

DSQ60745 時刻編集コード &V1 を使用できません。

説明:

編集コード &V1 を使用するためには、列 &V2 に指定されている時刻データを編集するための現地時間ルーチンが必要です。現地時間ルーチンが使用できません。

&V3

ユーザーの処置:

別の時刻編集コードを使用してください。編集コード &V1 を使用しなければならない場合は、QMF 管理者に相談してください。

DSQ60746 &V1 がタイム・スタンプ・データの有効な編集コードではありません。

説明:

タイム・スタンプ・データには、以下のコードのいずれかを使用します。

CODE EFFECT

TSI データは、yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.nnnnnnnnnnnn で書式化されます。説明:

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- nnnnnnnnnnnn は、小数点以下の秒の数字を表す 0 桁から 12 桁の値です。

C 文字編集。データは、列幅が足りない場合は、右側が切り捨てられます。

CW 列幅が足りない場合は、データは定義された列幅に従って折り返されます。この編集コードは、XML または CLOB データに使用することができます。

CT データは、列の幅が十分でなければ、テキストの切れ目で折り返されます。

CDx データは、列の幅が十分でなければ、"x" に指定した区切り文字で折り返されます。

U ユーザー定義の編集コード (この後に任意の 4 文字を置けます)。

V ユーザー定義の編集コード (この後に任意の 4 文字を置けます)。

ユーザーの処置:

タイム・スタンプ・データの形式設定には、上記の編集コードのみを使用してください。

DSQ60747 &V1 は、文字データ用の編集コードではありません。

説明:

文字データには、以下のコードのいずれかを使用します。

Code	Effect
----	-----
C	Character editing. Data is truncated on the right if the column is not wide enough.
CW	Data is wrapped according to the defined column width if the column is not wide enough. This edit code can be used for XML or CLOB data.
CT	Data is wrapped when there is a break in the text if the column is not wide enough.
CDx	Data is wrapped by the delimiter you specify for "x" if the column is not wide enough.
X	Hex editing. Data is truncated on the right if the column is not wide enough.
XW	Hex editing. Data is wrapped according to the defined column width if the column is not wide enough.
B	Binary editing. Data is truncated on the right if the column is not wide enough.
BW	Binary editing. Data is wrapped according to the defined column width if the column is not wide enough.
U, V	User edit code (may be followed by any 4 characters).
M	Displays the column metadata (data type and length).

ユーザーの処置:

DSQ60748 • DSQ60753

上記の編集コードのいずれかを使用してください。

DSQ60748 取扱コードが、列 &V1 のデータ・タイプでは許可されません。

説明:

書式の USAGE フィールドは、この列に対して空白にできます。または値 OMIT を指定できます。このデータ・タイプには、その他の書式取扱コードは許可されません。

ユーザーの処置:

問題となっている列に OMIT を割り当てるか、この列の USAGE フィールドを空白のままにします。または、報告書内の任意の列に取扱コード GROUP または ACROSS を割り当て、列 &V1 が自動的に除去されるようにします。有効な取扱コードを割り当ててから、コマンドを再試行してください。取扱コードについて詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ60749 定義済み LONG VARCHAR 列 (&V1) が誤って使用されています。

説明:

形式のこの列は定義済み列であり、列幅が 254 より大きく指定されているため、LONG VARCHAR 列であると見なされています。報告書は、次の条件のいずれかが満足されるまで作成することはできません。

- 列幅を 254 以内の値に変更する
- 列の使用コードを OMIT にするか、
- 列の使用コードは空白にし、形式の他の列に GROUP あるいは ACROSS を使用しない

ユーザーの処置:

形式を上記の条件のどちらかに合致するように変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ60750 &V1 は、グラフィック・データ用の有効な編集コードではありません。

説明:

図形データの場合には、次に示すコードのどれかを使用してください。

Code	Effect
---	-----
G	Data is cut off on the right if the column is not wide enough.
GW	Data is wrapped according to the defined column width if the column is not wide enough.
U	User edit code (may be followed by any 4 characters). You cannot use this edit code with DBCLOB data.
V	User edit code (may be followed by any 4 characters). You cannot use this edit code with DBCLOB data.

ユーザーの処置:

上記の編集コードだけを使用してください独自の編集コ

ードの定義について詳しくは、「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

DSQ60751 LONG VARGRAPHIC 列 (&V1) が間違っていて使用されています。

説明:

形式内の列 &V1 は、データの LONG VARGRAPHIC 列に対応しています。報告書は、以下のどちらかの条件が満たされるまで作成できません。

1. &V1 の取り扱いが OMIT か、または
2. &V1 の取り扱いが空白で、形式内の別の列に GROUP または ACROSS の取り扱いが指定されていない。

ユーザーの処置:

形式を上記の条件のどちらかに合致するように変更し、コマンドを再試行してください。

DSQ60752 取扱コード &V1 はこのデータ・タイプで使用できません。

説明: 712 ページの『DSQ60720』を参照してください。

DSQ60753 書式変数 &V1&V2&V3 はこのデータ・タイプで使用できません。

説明:

&V1&V2&V3 書式変数を指定できるのは、列の編集コードが D、E、I、J、K、L、または P の場合です。QMF は、その他の編集コードを持つデータ・タイプに対して算術演算を実行することはできません。

ユーザーの処置:

FORM.DETAIL、FORM.BREAK、または FORM.FINAL を調べて、このエラーの原因となった変数を見つけてください。問題となっている列の編集コードを D、E、I、J、K、L、または P に変更して、エラーを修正してください。FORM.COLUMNS または FORM.MAIN を使用して、編集コードを変更できません。編集コードを変更できない場合は、問題となっているデータ・タイプと互換性を持つように取扱コードを変更します。データ・タイプと互換性を持つ取扱コードがない場合は、書式の USAGE フィールドを空白のままにするか、または OMIT 取扱コードを指定してその列を報告書から除去します。各データ・タイプについて使用可能な取扱コードおよび編集コードについて詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ60754 編集コード **Uxxxx** または **Vxxxx** は、このデータ・タイプと互換性がありません。

説明:

編集出力ルーチンを使用して、XML、CLOB、BLOB、または DBCLOB などの非数値データ・タイプを形式設定することはできません。また、使用しているプロセッサが 10 進数の浮動小数点命令をサポートしていない場合、編集出力ルーチンを使用して DECFLOAT データを形式設定することはできません。

ユーザーの処置:

以下の編集コードのいずれかを使用してください。

Code	Use for:
C	Editing character data. Data that is longer than the column width is truncated.
CW	Editing character data that is longer than the column width. Data is wrapped when the boundary of the column is reached. You can use this edit code for XML or CLOB data.
CT	Editing character data that is wider than the column. Data is wrapped when there is a break in the text.
X	Editing hex data. Data that is longer than the column width is truncated.
XW	Editing hex data that is longer than the column width. Data is wrapped when the boundary of the column is reached. You can use this edit code for BLOB data.
B	Editing binary data. Data that is longer than the column width is truncated.
BW	Editing binary data that is longer than the column width. Data is wrapped when the boundary of the column is reached. You can use this edit code for BLOB data.
G	Editing graphic data. Data that is longer than the column width is truncated.
GW	Editing graphic data that is longer than the column width. Data is wrapped when the boundary of the column is reached. You can use this edit code for DBCLOB data.
M	Displaying the column metadata (data type and length) when the actual data cannot be displayed by QMF.

サポートされない DECFLOAT データでは、M を使用してください。

DSQ60755 &V1 は、バイナリー・データ用の編集コードではありません。

説明:

バイナリー・データに対しては、以下に示すいずれかのコードを使用してください。

Code	Effect
C	Character editing; data is cut off on the right if the column is not wide enough.
CW	Data is wrapped according to the defined column width if the column is not wide enough.
CT	Data is wrapped when there is a break in the text if the column is not wide enough.
CDX	Data is wrapped by the delimiter you specify for "x" if the column is not wide enough.
X	Hex editing. Data that is longer than the column width is truncated.
XW	Hex editing. Data that is longer than the column width is wrapped when the boundary of the column is reached. You can use this edit code for BLOB data.
B	Bit editing. Data that is longer than the column width is truncated.
BW	Bit editing. Data that is longer than the column width is wrapped when the boundary of the column is reached. You

can use this edit code for BLOB data.

M Displays the column metadata (data type and length).

バイナリー・データに対して文字編集コードを使用すると、QMF は、データに対するフィルター操作を行いません。バイナリー・データを表示するためにこれらの編集コードを使用しようとすると、QMF セッションが異常終了したり、現在表示されているデータが失われることがあります。

ユーザーの処置:

上記の編集コードのいずれかを使用してください。

DSQ60756 &V1 は、DECFLOAT データ・タイプに対する有効な編集コードではありません。

説明:

QMF を実行しているプロセッサが 10 進浮動小数点の命令をサポートしていないため、10 進浮動小数点データを表示できません。

ユーザーの処置:

10 進浮動小数点データに対して M 編集コードを使用してください。この編集コードは、列のメタデータ (データ・タイプおよび長さ) を表示し、QMF で表示できないデータの場合に便利です。

DSQ60757 'M' (メタデータ) は **DSQEC_LOB_RETRV=2** の場合に唯一の有効な編集コードです。

説明:

大域変数 DSQEC_LOB_RETRV が 2 に設定されている場合、LOB データが含まれている表を照会できますが、LOB データを検索することはできません。LOB メタデータは、LOB データを含む列についてのみ表示されます。編集コードを変更して、照会結果に LOB データを表示することはできません。

ユーザーの処置:

照会結果に LOB データを表示するには、大域変数 DSQEC_LOB_RETRV を 1 または 3 のいずれかに設定する必要があります。

DSQEC_LOB_RETRV の有効な値は次のとおりです。

1 - LOB データ検索を使用可能にする。ユーザーは LOB データを含む表を照会できます。結果のデータは、LOB データを含む列が含まれるすべての列について返されます。ただし、LOB メタデータは、照会結果に LOB データの代わりに表示されます。ユーザーは編集コードを変更して照会結果に LOB データを表示できます。これはデフォルト値です。

2 - LOB データ検索を使用不可にする。ユーザーは

LOB データを含む表を照会できます。しかし、LOB データは検索できません。照会結果データは表内の他のすべての列について返され、LOB メタデータは LOB データを含む列に対して表示されます。ユーザーは編集コードを変更して、照会結果に LOB データを表示することはできません。

3 - LOB データを自動的に検索する。ユーザーは LOB データを含む表を照会できます。結果のデータは、LOB データを含む列が含まれるすべての列について返されます。すべての結果データが、照会結果に自動的に表示されます。このオプションを選択すると、多くのリソースが消費され、非常に時間がかかる可能性があります。

DSQ60758 &V1 は、時間帯付きのタイム・スタンプ・データに有効な編集コードではありません。

説明:

時間帯付きのタイム・スタンプ・データには、以下の編集コードのいずれかを使用してください。

CODE EFFECT

---- -----

TSZ データは yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.nnnnnnnnnnnzth:tm と形式設定されます。意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- nnnnnnnnnnnn は、小数点以下の秒の数字を表す 0 桁から 12 桁の値です。
- z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号です。
- th は時間帯の時を表す 2 桁の値です。
- tm は時間帯の分を表す 2 桁の値です。

時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

C 文字編集。データは、列の幅が十分でなければ、右端で切り捨てられます。

CW 列幅が足りない場合は、データは定義された列

幅に従って折り返されます。CLOB データにはこの編集コードを使用できます。

CT データは、列の幅が十分でなければ、テキストの切れ目で折り返されます。

CDx データは、列の幅が十分でなければ、"x" に指定した区切り文字で折り返されます。

U ユーザー定義の編集コード (この後に任意の 4 文字を置けます)。

V ユーザー定義の編集コード (この後に任意の 4 文字を置けます)。

ユーザーの処置:

時間帯付きタイム・スタンプ・データの形式設定には、上記の編集コードのみを使用してください。

DSQ60765 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60766 &V1 は、形式変数として認識できません。

説明:

入力された置換変数は、正しい書式変数または既存の大域変数として認識されません。正しい形式変数は、次のとおりです。

&n	&AVGn	&CALCid	&CSUMn	&FIRSTn	&LASTn
&MAXn	&MINn	&STDEVn	&SUMn	&COUNT	&COUNTn
&DATE	&TIME	&PAGE	&ROW	&PCTn	&CPCT
&TCPCT	&TPCTn				

ここで、n は存在する列の番号です。

ユーザーの処置:

変数名のスペルを訂正し、大域変数のための SET GLOBAL コマンドを入力するか、ユーザー・プロファイルの文字 (CASE) ユーザー・プロファイルの CASE オプションが UPPER または STRING の場合、書式パネルで入力された名前のすべての文字は自動的に大文字に変更されます。MIXED の場合、入力したそのままの名前を受け入れます。

DSQ60769 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60770 記憶スペースがありません。
 説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60771 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。
 説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60772 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。
 説明: 632 ページの『DSQ50578』を参照してください。

DSQ60773 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。
 説明: 681 ページの『DSQ60110』を参照してください。

DSQ60774 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。
 説明: 686 ページの『DSQ60166』を参照してください。

DSQ60775 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。
 説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ60790 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。
 説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ60800 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。
 説明: 613 ページの『DSQ50302』を参照してください。

DSQ60810 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。
 説明: 613 ページの『DSQ50302』を参照してください。

DSQ60811 報告書に解決されない大域変数があります。
 説明: 679 ページの『DSQ60059』を参照してください。

DSQ60820 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。
 説明: 683 ページの『DSQ60130』を参照してください。

DSQ60821 調整値には、
LEFT、CENTER、RIGHT、または DEFAULT を使用してください。

説明:
 調整値は、報告行内の列ヘッダーとデータ列の位置を制御します。このフィールドをブランクのままにすることはできません。指定できる値は次のとおりです。

- LEFT - left justify the column heading or data.
- CENTER - center the column heading or data.
- RIGHT - right justify the column heading or data.
- DEFAULT - justify the column heading or data based on the column edit code. Headings and data are right justified for numeric edit codes and left justified for all other edit codes.

ユーザーの処置:
 ヘッダー調整とデータ調整に、
LEFT、RIGHT、CENTER、または DEFAULT を入力してください。

DSQ60822 NULL 置換値に **YES** または **NO** を使用してください。
 説明: 685 ページの『DSQ60160』を参照してください。

DSQ60825 列 &V1 はそれ自体の項目で定義することはできません。
 説明:

式
 &V2
 は定義として使用できません。定義式は、それ自体の項目で定義される列が 1 つもないかぎり、ほかの列を参照する置換変数 (&1 など) を使用することができます。

無効な定義の例は、次のとおりです。

Column Number	Definition Expression
1	&2 + 5000
2	&1 * 30

DSQ60830 • DSQ60884

この例では、列 1 の定義が列 2 を参照していますが、列 2 は列 1 の項目で定義されています。この形式の定義は無効です。

ユーザーの処置:

式、または置換変数を変更し、それ自身の項目での列の定義を避けてください。

DSQ60830 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ60831 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ60832 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ60840 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 412 ページの『DSQ23473』を参照してください。

DSQ60841 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 630 ページの『DSQ50527』を参照してください。

DSQ60850 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14096』を参照してください。

DSQ60851 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 98 ページの『DSQ14096』を参照してください。

DSQ60860 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 412 ページの『DSQ23473』を参照してください。

DSQ60861 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 412 ページの『DSQ23473』を参照してください。

DSQ60862 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 683 ページの『DSQ60130』を参照してください。

DSQ60880 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 412 ページの『DSQ23473』を参照してください。

DSQ60881 列 &V1 の前には列がありません。

説明:

列 &V1 は現在の形式の最初の列です。

ユーザーの処置:

ほかの列を見るには、次の列キーを使用してください。

DSQ60882 列 &V1 の前には、定義を持つ列はありません。

説明:

列 &V1 は現在の形式で、定義式を持つ最初の列です。

ユーザーの処置:

定義式を持つほかの列を見るには、次の定義キーを使用してください。ほかのすべての列を見るには、前の列または次の列キーを使用してください。

DSQ60883 列 &V1 の後には列がありません。

説明:

列 &V1 は現在の形式の最後の列です。

ユーザーの処置:

ほかの列を見るには、前の列キーを使用してください。

DSQ60884 列 &V1 の後には、定義を持つ列はありません。

説明:

列 &V1 は現在の形式で、定義式を持つ最後の列です。

ユーザーの処置:

定義式を持つほかの列を見るには、前の定義キーを使用

してください。ほかのすべての列を見るには、前の列または次の列キーを使用してください。

DSQ60885 &V1 は有効な選択番号ではありません。

説明: 413 ページの『DSQ23483』を参照してください。

DSQ60886 &V1 は、選択できません。

説明: 413 ページの『DSQ23484』を参照してください。

DSQ60887 リストから項目を選択してください。

説明: 413 ページの『DSQ23485』を参照してください。

DSQ60888 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 686 ページの『DSQ60166』を参照してください。

DSQ60889 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

DSQ60890 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

このコマンドは現行パネルに対して無効です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ60891 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ60890』を参照してください。

DSQ60892 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ60890』を参照してください。

DSQ60900 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 681 ページの『DSQ60110』を参照してください。

DSQ60901 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 686 ページの『DSQ60166』を参照してください。

DSQ60902 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 236 ページの『DSQ20358』を参照してください。

第 10 章 DSQ70001 - DSQ70177

これらの標準 QMF メッセージは、QMFの実行中に発生するエラーに対するものです。メッセージには、ソリューションを提供したり、エラーを診断したりするのに役立つ情報が含まれています。

DSQ70001 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ70002 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ70040 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ70041 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ70042 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ70044 報告書にメタデータを表示する数値列は図表化できません。

説明:

報告書内の少なくとも 1 つの数値列にメタデータが含まれています。メタデータを含む数値列は図表に表示できません。

ユーザーの処置:

特定のデータ・タイプの編集コードは、デフォルトで M に設定されます。M 編集コードが列に割り当てられていると、報告書にはその列の実際のデータではなくメタデータが表示されます。特定のデータ・タイプでは、M 編集コードを別の編集コードに変更して、列のメタデータではなく実際のデータを表示できます。

「DB2 QMF 解説書」の M 編集コードに関する情報を参照して、図表化しようとしている数値データのタイプ

に、別の編集コードを使用できるかどうか判断してください。

DSQ70045 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ70046 報告書にメタデータを表示する数値列は図表化できません。

説明: 『DSQ70044』を参照してください。

DSQ70047 報告書には図形化すべきデータがありません。

説明:

図形データは報告書の列から取られます。報告書の中には少なくとも 1 行および 2 列のデータが存在しなくてはならず、また、そのうち少なくとも 1 列に数値データが含まれていなくてはなりません。

報告書に 2 つの列しか存在せず、また数値データを含む列が 1 つしかない場合、非数値列は報告書の左端にあるか、または書式パネルで BREAK または GROUP 取扱コードが指定されているかのどちらかでなくてはなりません。

また、報告書から選択されるすべての列の値が NULL (' - '), オーバーフロー ('>>>') であるか、あるいは、狭すぎる列 ('***) の中にある場合にも、図表用のデータは存在しません。

ユーザーの処置:

上記の規準に適合する報告書を使用してください。

DSQ70048 報告書には Y データ列が必要です。

説明:

報告書の列のうちで、図形のための Y データが含まれているものとして修飾された列がありません。次の場合、図形用の Y データを提供するために列を選択することはできません。

DSQ70049 • DSQ70083

1. 報告書の中にほかの列がない場合
2. その列が数値以外のデータを含む場合
3. ユーザー (U または V) 編集コードで編集された列の場合
4. 形式パネルで取扱コード BREAK または GROUP が指定されている場合
5. 報告書の左端の列である場合 (ただし、形式パネル上で残りの 1 つまたは複数の列に BREAK または GROUP 取扱コードが指定されている場合を除く)

ユーザーの処置:

上記の規準に適合する報告書を使用してください。

DSQ70049 999 を超える Y データ列が見つかりました。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティが処理できる Y データ・グループの数は、最大 999 です。現在の報告書では、Y データ・グループとして選択可能な列が 999 を超えています。

ユーザーの処置:

これよりも数値の列が少ない報告書を使用してください。例えば、形式パネルで列をいくつか除外して、報告書の列の数を減らしてください。

DSQ70050 報告書には図形化すべきデータがありません。

説明: 723 ページの『DSQ70047』を参照してください。

DSQ70056 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ70057 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ70058 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ70060 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ70061 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ70062 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ70066 報告書に列ヘッダーがありません。(図表キーには必要です)

説明:

図表キーは FORM.MAIN または FORM、COLUMNS パネルで表示される列ヘッダーから取られます。列ヘッダーは空にできず、また報告書に含まれていなければなりません。

ユーザーの処置:

上記の規準に適合する報告書を使用してください。

DSQ70072 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ70080 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ70081 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ70082 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ70083 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ70084 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ70085 X、Y、または Z 軸の値が数値の境界を超えています。

説明:

X、Y、または Z 軸に使用されている報告書データに、境界外の 10 進浮動小数点値が含まれています。数値は、浮動小数点数に許可されるのと同じ範囲内にある必要があります。許可される範囲は、+/-1.0E-79 から +/-1.0E75 です。

ユーザーの処置:

このエラーは、以下のいずれかの方法で防ぐことができます。

- 問題となっている 10 進浮動小数点列からデータを選択しないように照会を変更してから、照会を再実行して図表を再表示します。
 - 10 進浮動小数点列に OMIT 取扱コードを割り当てて、図表を再表示します。取扱コードの割り当てについて詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。
 - 許容範囲内の値を含むように列のデータを更新します。照会を再実行して、図表を再表示します。
-

DSQ70086 X、Y、または Z 軸の値が数値の境界を超えています。

説明: 『DSQ70085』を参照してください。

DSQ70087 999 を超える X 値が見つかりました。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティが処理できる X 値の数は、最大 999 です。現在の報告書では、999 以上の行から X 値が取られています。

ユーザーの処置:

これよりも明細行の少ない報告書を使用してください。例えば、形式パネルで、1 つまたは複数の列に GROUP 取扱コードを使ってデータを要約します。

DSQ70088 報告書には図形化すべきデータがありません。

説明: 723 ページの『DSQ70047』を参照してください。

DSQ70089 図形を作成できません。報告書のデータが多すぎます。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) が図表作成に使用できるよりも多くのデータが報告書に含まれています。

ユーザーの処置:

これよりも小さな報告書を作成してください。列を除去するか、形式パネルで GROUP 取扱コードを使ってデータを要約するか、またはこの両方を行ってください。

DSQ70090 浮動小数点数が正しく形式設定されていません。

説明: 658 ページの『DSQ50923』を参照してください。

DSQ70091 浮動小数点数が正しく形式設定されていません。

説明: 658 ページの『DSQ50923』を参照してください。

DSQ70092 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ70100 図表を作成できません。ICU エラー・コードは &V1 です。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティは、次の原因で図表を作成できません。

1. &V2
2. &V3

ユーザーの処置:

解決可能であれば問題を解決して、コマンドを入力し直してください。さらに詳しくは、使用している GDDM の情報を参照してください。

DSQ70101 ICU 図表形式 &V4 が存在しません。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) は、&V4 という名前の図表形式を見つけれませんでした。

ユーザーの処置:

DSQ70102 • DSQ70112

コマンドの ICUFORM オプションに別の図表形式名を指定してください。このメッセージが誤っていると思われる場合には、QMF 管理者に連絡して問題の詳細を伝えてください。ICU code: &V1

DSQ70102 ICU 図表形式 &V4 は使用できません。

説明:

図表形式 &V4 の内容が無効なため、GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) は図表を作成できません。この図表形式が実際には図表形式ではないか、またはその内容が誤って変更されているのかのどちらかです。ICU によって戻された実際のメッセージは次のとおりです。

ICU code: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置:

コマンドの ICUFORM オプションに別の図表形式名を指定してください。QMF 管理者に連絡して、問題の詳細について説明してください。

DSQ70103 ICU 図表形式 &V4 は使用できません。

説明: 『DSQ70102』を参照してください。

DSQ70104 ICU 図表形式 &V4 は使用できません。

説明: 『DSQ70102』を参照してください。

DSQ70105 ICU 図表形式 &V4 は使用できません。

説明: 『DSQ70102』を参照してください。

DSQ70108 図形を作成できません。報告書のデータが多すぎます。

説明: 725 ページの『DSQ70089』を参照してください。

DSQ70109 図形を作成するために十分な記憶域がありません。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) が図表作成に使用できるストレージが不十分です。

ICU code: &V1

ユーザーの処置:

これよりも小さな報告書を作成してください。列を除去するか、フォーム内で GROUP 取扱コードを使ってデータを要約するか、またはこの両方を行ってください。

い。またはより大きな記憶域が使用できるようになってからやり直してください。

DSQ70110 図表を作成できません。ICU で ABEND が発生しました。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) または基礎となるサブシステムが、図表の作成を試行中に異常終了しました。ICU から次のエラー・メッセージが返されました。

ICU code: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置:

追加の詳細について GDDM の情報を参照するか、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70111 CWIDTH の値が印刷横幅を超えています。

説明:

CWIDTH は、UNITS オプションで識別される単位による図形域の横幅です。選択した値は、プリンターに対して定義されたページ横幅を超えています。

CWIDTH の値も、その値と HOFFSET (図形の左側余白) 値との合計も、ともに、図形が印刷される用紙の横幅を超えることはできません。

ICU code: &V1

ユーザーの処置:

CWIDTH の数値として、0 よりも大きくてしかも HOFFSET 値との合計が印刷横幅を超えないような値を指定してください。

DSQ70112 CLENGTH の値が印刷縦幅を超えています。

説明:

CLENGTH は、UNITS オプションで識別される単位による図形域の縦幅です。選択した値は、プリンターに対して定義されたページ縦幅を超えています。

CLENGTH の値も、その値と VOFFSET (図形の上側余白) 値との合計も、ともに、図形が印刷される用紙の縦幅を超えることはできません。

ICU code: &V1

ユーザーの処置:

CLENGTH には 0 よりも大きい数値を使用し、VOFFSET の値との合計が印刷縦幅を超えないようにしてください。

DSQ70113 **HOFFSET** の値が印刷幅を超えています。

説明:

HOFFSET は、UNITS で指定された単位での、出力域の左端から図表域までの水平オフセットです。選択した値は、プリンターに定義されたページ幅を超えています。HOFFSET の値、およびその値と CWIDTH (図表の幅) 値との合計はいずれも、図表が印刷される用紙の幅を超えることはできません。

ICU code: &V1

ユーザーの処置:

HOFFSET の数値 (0 以上) を使用してください。ただし、CWIDTH の値との合計が印刷幅を超えないようにしてください。

DSQ70114 **VOFFSET** の値が印刷長を超えています。

説明:

VOFFSET は、UNITS で指定された単位での、出力域の上端から図表域までの垂直オフセットです。選択した値は、プリンターに定義されたページ長を超えています。VOFFSET の値、およびその値と CLENGTH (図表の長さ) 値との合計はいずれも、図表が印刷される用紙の長さを超えることはできません。

ICU code: &V1

ユーザーの処置:

VOFFSET の数値 (0 以上) を使用してください。ただし、CLENGTH の値との合計が印刷縦幅を超えないようにしてください。

DSQ70115 **CWIDTH** と **HOFFSET** の合計値が印刷幅を超えています。

説明:

CWIDTH は、UNITS オプションで識別される単位による図形域の横幅です。HOFFSET は、出力域の左端から図形域までの余白です。この 2 つの値の合計が、プリンターに対して定義されたページ幅を超えています。

ICU code: &V1

ユーザーの処置:

CWIDTH に対しては 0 よりも大きな値を指定し、HOFFSET に対しては 0 以上の値を指定してください。ただし、2 つの値の合計が印刷幅を超えないようにしてください。

DSQ70116 **CLENGTH** と **VOFFSET** の合計値が印刷縦幅を超えています。

説明:

CLENGTH は、UNITS オプションで識別される単位による図形域の縦幅です。VOFFSET は、出力域の上端から図形域までの余白です。この 2 つの値の合計が、プリンターに対して定義されたページ縦幅を超えています。

ICU code: &V1

ユーザーの処置:

CLENGTH に対しては 0 よりも大きな値を指定し、VOFFSET に対しては 0 以上の値を指定してください。ただし、2 つの値の合計が印刷縦幅を超えないようにしてください。

DSQ70117 **CWIDTH** と **HOFFSET** の百分率値の合計が 100 を超えています。

説明:

CWIDTH は図形域の横幅であり、HOFFSET は出力域の左端から図形域までの余白です。UNITS=PERCENT が指定されているので、これらの値は、図形が印刷されるページの合計横幅に対する百分率で表されます。この 2 つの値の合計は、ページ横幅の 100% を超えることはできません。

ICU code: &V1

ユーザーの処置:

CWIDTH に対しては 0 よりも大きな値を指定し、HOFFSET に対しては 0 以上の値を指定してください。ただし、2 つの値の合計が 100 (%) を超えないようにしてください。

DSQ70118 **CLENGTH** と **VOFFSET** の百分率値の合計が 100 を超えています。

説明:

CLENGTH は図形域の縦幅であり、VOFFSET は出力域の上端から図形域までの余白です。UNITS=PERCENT が指定されていますので、これらの値は、図形が印刷されるページの合計縦幅に対する百分率で表されます。この 2 つの値の合計は、ページ縦幅の 100 % を超えることはできません。

ICU code: &V1

ユーザーの処置:

CLENGTH に対しては 0 よりも大きな値を指定し、VOFFSET に対しては 0 以上の値を指定してください。ただし、2 つの値の合計が 100 (%) を超えないようにしてください。

DSQ70120 図形を &V9 するにはディスク記憶域が不十分です。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) は、図表を '&V8' に &V9 できません。このデータにこれ以上のディスク・スペースを使用できないからです。

ICU code: &V1

ユーザーの処置:

より大きなディスク・スペースを用意してください。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70121 図表を作成できません。ICU で **ABEND** が発生しました。

説明: 726 ページの『DSQ70110』を参照してください。

DSQ70124 ICU で入出力エラーが起きました。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) または基礎となるサブシステムが、図表の作成を試行中に入出力エラーを検出しました。ICU から次のエラー・メッセージが返されました。

&V2
&V3
ICU code: &V1

ユーザーの処置:

追加の詳細について GDDM の情報を参照するか、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70125 ICU で入出力エラーが起きました。

説明: 『DSQ70124』を参照してください。

DSQ70126 ICU で入出力エラーが起きました。

説明: 『DSQ70124』を参照してください。

DSQ70127 ICU で入出力エラーが起きました。

説明: 『DSQ70124』を参照してください。

DSQ70128 ICU で入出力エラーが起きました。

説明: 『DSQ70124』を参照してください。

DSQ70129 ICU で入出力エラーが起きました。

説明: 『DSQ70124』を参照してください。

DSQ70132 図表は作成されません。&V7 をオープンできませんでした。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) は、図表を作成しようとしたときに &V7 をオープンできず、次のエラー・メッセージを戻しました。

ICU code: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置:

追加の詳細について GDDM の情報を参照するか、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70133 図表は作成されません。&V7 をオープンできませんでした。

説明: 『DSQ70132』を参照してください。

DSQ70134 図形が作成できません。&V8 がオープンされていません。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) は、図表を作成しようとしたときに &V8 をオープンできず、次のエラー・メッセージを戻しました。

ICU code: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置:

追加の詳細について GDDM の情報を参照するか、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70135 図表は作成されません。&V7 をオープンできませんでした。

説明: 『DSQ70132』を参照してください。

DSQ70137 図形が印刷できません。要求キューがいっぱいです。

説明:

印刷要求キューがいっぱいなので、印刷の要求が完了できません。

ICU code: &V1

ユーザーの処置:

すでに印刷要求キューに入っている項目が印刷されるまで待って、PRINT CHART コマンドを入力し直して

ださい。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70138 GDDM プリンター &V7 は要求キューに定義されていません。

説明:

印刷の要求は、指定されたプリンター &V7 が、あらかじめ GDDM 印刷要求キューに定義されていないため、完了できません。

ICU code: &V1

ユーザーの処置:

PRINT CHART コマンドに、定義済みのプリンターを指定してください。援助が必要であれば、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70151 図表を作成できません。GDDM ファイルがアクセス不能です。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) は、図表を作成しようとしたときに必要なファイルにアクセスできず、次のエラー・メッセージを戻しました。

ICU code: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置:

追加の詳細について GDDM の情報を参照するか、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70152 図形が作成できません。&V8 を使用できません。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) は、必要なファイル &V8 に無効なデータが含まれているため、このファイルを使用できません。ICU によって戻された実際のメッセージは次のとおりです。

ICU code: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置:

追加の詳細について GDDM の情報を参照するか、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70153 図形が作成できません。&V8 を使用できません。

説明: 『DSQ70152』を参照してください。

DSQ70154 図形が作成できません。&V8 を使用できません。

説明: 『DSQ70152』を参照してください。

DSQ70155 図形が作成できません。&V7 を使用できません。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) は、必要なファイル &V7 に無効なデータが含まれているため、このファイルを使用できません。ICU によって戻された実際のメッセージは次のとおりです。

ICU code: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置:

追加の詳細について GDDM の情報を参照するか、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70156 図表を作成できません。GDDM ファイルがアクセス不能です。

説明: 『DSQ70151』を参照してください。

DSQ70157 図表を作成できません。GDDM ファイルがアクセス不能です。

説明: 『DSQ70151』を参照してください。

DSQ70158 図表を作成できません。GDDM ファイルがアクセス不能です。

説明: 『DSQ70151』を参照してください。

DSQ70159 図表を作成できません。GDDM ファイルがアクセス不能です。

説明: 『DSQ70151』を参照してください。

DSQ70160 ICU が目標装置上に図形を &V9 できません。

説明:

GDDM 対話式図表ユーティリティ (ICU) は、ターゲット装置が非互換であるため、図表を &V9 できません。ユーティリティは次のエラー・メッセージを戻しました。

ICU code: &V1
&V2
&V3

ユーザーの処置:

追加の詳細について GDDM の情報を参照するか、

DSQ70161 • DSQ70177

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ70161 ICU が目標装置上に図形を &V9 でできません。

説明: 729 ページの『DSQ70160』を参照してください。

DSQ70171 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ICU がエラー・メッセージを受け取りました: &V2 &V3。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ70172 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ70171』を参照してください。

DSQ70173 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ70171』を参照してください。

DSQ70174 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ70171』を参照してください。

DSQ70175 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ70171』を参照してください。

DSQ70176 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ70171』を参照してください。

DSQ70177 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ70171』を参照してください。

第 11 章 DSQ80011 - DSQ85733

これらの標準 QMF メッセージは、QMFの実行中に発生するエラーに対するものです。メッセージには、ソリューションを提供したり、エラーを診断したりするのに役立つ情報が含まれています。

DSQ80011 同じ照会で、ある表の全体とその表の一部とを削除しようとしています。 **D.** 行を少なくとも **1** つ除去してください。

説明:

1 つの **D.** 行にはまったく条件が指定されておらず、これは表のすべての行の削除を指定しています。ところが、第 2 の **D.** 行には少なくとも 1 つの条件があり、これは、その条件を満たす行だけの削除を意味します。

ユーザーの処置:

すべての行を削除するのか、それとも一部の行だけを削除するのかを決定し、意図に反する方の **D.**行を除去してください。

DSQ80012 照会が長すぎます。

説明: 278 ページの『DSQ20923』を参照してください。

DSQ80031 例示表 **&V1** の行 **&V3** に、**I.** 演算子がありません。(Row **&V3** of example table **&V1** does not have an **I.** operator.)

説明:

例示表の 1 つの行に **I.** 演算子がある場合には、ほかのすべての行にも **I.** 演算子があればなりません。

ユーザーの処置:

表 **&V1** のすべての行の演算子域に、**I.** 演算子を入れてください。

DSQ80032 例示表 **&V1** の行 **&V3** の列 **&V2** に、挿入データがありますが列名がありません。

説明:

ある列に挿入データが入っている場合には、その列には、そのデータの挿入先となる列の名前も含まれていなければなりません。

ユーザーの処置:

列名を指定するか、または挿入データを除去してください。

DSQ80033 例示表 **&V1** の行 **&V3** に **I.** があるのに挿入データがありません。

説明:

少なくとも 1 つの列に挿入データを含めなければなりません。全部分が **NULL** の行を表に挿入することはできません。

ユーザーの処置:

挿入すべきデータを、表の少なくとも 1 つの行に入れるか、または **I.** を除去してください。

DSQ80034 照会が長すぎます。

説明: 278 ページの『DSQ20923』を参照してください。

DSQ80049 表 **&V1** の行 **&V2** は、グループから行データを検索しようとしています。

説明:

グループから行データを検索することはできません。次の無効な例を見てください。

```
Invalid Query:  Q.STAFF | NAME | DEPT |          |
                  -----|-----|-----|          |
                  | _N | G._Y |          | P. | _N |
```

この例の目標表は、**NAME** を検索しようとしています。が、**NAME** は **DEPT** グループの一部です。

ユーザーの処置:

グループへの行参照を取り除いてください。

DSQ80050 グループ化の指定された行に無効な関係があります。

説明:

グループ化の指定された行は、データの検索先である行にしかなりません。次の例では、**Q.** **STAFF** 行にグループ化が指定されており、**Q.** **ORG** 行への関係が無効です。

```
Invalid query:  Q.EMP | DEPT | SALARY | CONDITIONS
                |-----|-----|-----|-----|
                | P.G. | P.AVG._S | _S | AVG._S> AVG._S1
                |-----|-----|-----|-----|
                Q.STAFF | SALARY | DEPT | Q.ORG | DEPT | LOCATION
                |-----|-----|-----|-----|
                | _S1 | _D G. | _D G. | BOSTON
```

ユーザーの処置:

無効なリンクを取り除いてください。

DSQ80051 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 中の例示エレメント &V4 は、指定の例示表の列を示していなければなりません。

説明:

メッセージに示されている例示エレメントは、照会の中で指定されたどの表の列も表していません。したがって、その照会を実行することはできません。

ユーザーの処置:

未定義の例示エレメントに対するすべての参照を除去するか、またはその例示エレメントを定義してください。それを定義するためには、その例示エレメントが表す列の中に、その例示エレメントの名前だけを (QBE 演算子の場合を除く) 入れます。例:次に示す照会では、Q.EMP の給与列に _SAL を追加して、その列を表すものとして _SAL を定義しています。

```
Q.EMP | NAME | SALARY | COMM
-----|-----|-----|-----
| P. | P._SAL | >_SAL
```

DSQ80052 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ80057 目標表 &V1 の行 &V2 に、グループ化データと行データの両方は入れられません。

説明:

目標表の中の 1 つの行に、グループ化データと行データの両方を入れることはできません。例:

```
Invalid query:  Q.STAFF | NAME | SALARY | DEPT | AVG._S
                |-----|-----|-----|-----|
                | _N | _S | G. | P. | _N | AVG._S
```

この目標表は、_N リンクで行データを参照していると同時に、AVG._S への参照でグループ・データをも参照しています。

ユーザーの処置:

行データだけ、またはグループ・データだけを参照するように、目標表の行を訂正してください。

DSQ80058 目標表 &V1 の行 &V2 が、指定された例示表の中のどの行とも関係されていません。

説明:

目標表 &V1 の行 &V2 は、指定された例示表のどこかの行に定義された例示エレメントを持っていなければなりません。このエレメントによって目標表の行が、例示表の行にリンクされます。例:

```
Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM | P. | _N | _S+_C
-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| _N | _S | _C | P. | _N | _S+_C
```

この例では、目標表の行は、例示エレメント _N、_S、および _C によって例示表 Q.STAFF の行にリンクされています。

ユーザーの処置:

目標表 &V1 の行 &V2 に、指定された例示表の中のどちらかの行に定義されている例示エレメントを少なくとも 1 つは指定してください。

DSQ80059 条件に、無効な行参照とグループ参照があります。

説明:

条件には、データの検索先である行に対するグループ参照と行参照を同時に指定することはできません。次の例では、あるグループの平均給与をある行の手当と比較しようとしています。

```
Invalid query:  Q.EMP | DEPT | SALARY | COMM | CONDITIONS
                |-----|-----|-----|-----|-----|
                | P.G. | P.AVG._S | _S | _C | AVG._S>_C
```

ユーザーの処置:

条件を訂正してください。例えば、次のようになります。

```
Q.EMP | DEPT | SALARY | COMM | CONDITIONS
-----|-----|-----|-----|-----|
| P.G. | P.AVG._S | _S | _C | AVG._S>AVG._C
```

DSQ80060 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 は、グループからの行データを検索しようとしています。

説明:

行に G. が指定されているか、または行が集合体で参照されている場合には、その行はグループの一部です。グループから検索できるのはグループ・データだけです。次に無効な例を示します。この例では「名前」を検索しようとしています。これは、DEPT に形式設定されたグループからの行データです。

```
Invalid Query:  Q.STAFF | NAME | SALARY | DEPT | P. | _S | G. | P.AVG._S
                |-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
```

ユーザーの処置:

グループの一部でない列から P. を除去してください。

DSQ80061 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ80071 例示表 &V1 の行 &V2 に U. がありません。更新表の各行には、U. が少なくとも 1 つは含まれていなければなりません。

説明:

例示表の 1 つの行に U. がある場合には、そのすべての行に少なくとも 1 つの U. がなければなりません。

ユーザーの処置:

例示表 &V1 のすべての行の、少なくとも 1 つの列に U. を入れてください。

DSQ80072 例示表 &V1 の行 &V2 に U. があるのにデータがありません。

説明:

表 &V1 の行 &V2 の少なくとも 1 つの列に、更新データを入れる必要があります。

ユーザーの処置:

例示表の少なくとも 1 つの列に更新データを入れてください。

DSQ80073 例示表 &V1 の列 &V3 に U. があるのに列名がありません。

説明:

ある列に U. がある場合には、その列には、更新すべき列の名前も示されていなければなりません。

ユーザーの処置:

U. のある列に、更新すべき列の名前を指定してください。

DSQ80074 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 に、U. がありますが更新データがありません。

説明:

ある列および行に U. がある場合、その列には更新データも示されていなければなりません。

ユーザーの処置:

U. のある列および行に、更新データを入れてください。

DSQ80075 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の &V4 は、同じ行の中のデータを表していません。

説明:

ある行の中のデータは同じ行の中のデータでしか更新できません。例えば次のようにします。

Q.STAFF	SALARY	SALARY
U._SAL*1.15	_SAL	

各行の給与が、同じ行の既存の値をもとにして更新される点に注意してください。例えば、給与列の中の 10000 という値は 11500 に更新されます。

ユーザーの処置:

例示要素 &V4 が、例示表 &V1 の行 &V2 の中のデータを表すようにしてください。

DSQ80076 照会が長すぎます。

説明: 278 ページの『DSQ20923』を参照してください。

DSQ80080 照会が長すぎます。

説明: 278 ページの『DSQ20923』を参照してください。

DSQ80090 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ80091 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ80092 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ80100 条件ボックス &V1 の条件 &V2 が、ある行とその行を含むグループを参照していません。

説明:

次の照会の条件ボックスの中の最初の条件には、同じ行 (Q.EMP の 2 行目) に対するグループ参照 (AVG_CO) と行参照 (_S) の両方が含まれているため、これは無効です。

Invalid query:	Q.EMP	NAME	SALARY	COMM	DEPT	CONDITIONS
P.			_S	_CO		_S > AVG._CO

このタイプの照会が無効なのは、グループが、条件を満たすいくつかの行で形成されなければならないのに、グループが形成されるまではどの行が条件を満たすかわからないからです。

ユーザーの処置:

条件が別の行を参照するように照会を書き直してください。例えば、上記の照会は次のように書き直すことができます。

Q.EMP	NAME	SALARY	COMM	DEPT	CONDITIONS
P.		_S	_CO		_S > AVG._CO

DSQ80101 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の中の条件が、ある行と、その行を含むグループを参照しています。

説明:

グループは条件を満たす行で形成されますが、グループが形成されるまではどの行が条件を満たすのかわかりません。例えば、次のようになります。

Invalid query:	Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
P.	_N	_N	< AVG._C	_C

ユーザーの処置:

同じ行に対するグループ参照と行参照を除去してください。例えば、上記の照会は次のように書き直すことができます。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
P.	_N	< AVG._C	_C

DSQ80102 条件ボックス &V1 の条件 &V2 は、グループ化された行を、P.、D.、または U. 演算子のない行にリンクします。

説明:

次の例では、条件ボックスの中の条件が、グループ化された 3 行目を 2 行目にリンクしていますが、2 行目には P. 演算子が指定されていません。

Invalid query:	Q.EMP	DEPT	SALARY	COMM	CONDITIONS
P.			>_X+_Z	_Z	_Z > AVG._Y
G.			_X	_Y	

ユーザーの処置:

無効なリンクを取り除いてください。2 つの別個の QBE 照会を用いて、希望の結果を得ることができます。

DSQ80103 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 は、グループ化された行を、P.、D.、U.、または I. 演算子のない行にリンクします。

説明:

次の例では、3 行目が 2 行目に連絡されていますが、2 行目には P. 演算子が指定されていません。

Invalid query:	Q.STAFF	DEPT	SALARY	COMM
P.			>_X	>AVG._Y
G.			_X	_Y

ユーザーの処置:

無効なリンクを取り除いてください。2 つの QBE 照会を用いて、希望の結果を得ることができます。

DSQ80104 条件ボックス &V1 の条件 &V2 は、2 つのグループ化される行を参照しています。

説明:

次の例では、条件ボックスの中の条件が 2 つのグループ化される行を参照しているので、無効です。

Invalid query:	Q.STAFF	NAME	DEPT	SALARY	COMM
P.			G._D		_C

Q.EMP	DEPT	SALARY	CONDITIONS
G.	_S		AVG._C < AVG._S

ユーザーの処置:

グループ化される 2 つの行を参照している条件を、除去または変更してください。2 つの QBE 照会を用いて、希望の結果を得ることができます。

DSQ80105 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 は、グループ化された 2 つの行をリンクします。

説明:

次の例では、Q. EMP の 2 行目はグループ化された行ですが、Q. SALE のグループ化された行にリンクされています。

Invalid query:	Q.EMP	DEPT	SALARY	COMM	Q.SALE	DEPARTMENT	ITEM
P.			>AVG._X		G._D		PEN
G.			_X				

ユーザーの処置:

グループ化された行の間の連絡を取り除いてください。2 つの QBE 照会を用いて、希望の結果を得ることができます。

DSQ80108 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 は、グループ化行を別の複数の行にリンクさせています。

説明:

グループ化行は別の 1 行だけにリンクしなければなりません。

Invalid Q.EMP	NAME	SALARY	Q.STAFF	DEPT	SALARY	COMM
query:						
P.		>AVG._S	G.	_S		_C
P.		>MAX._C				

Q.STAFF 中の DEPT が Q.EMP 中の 2 つの行にリンクするため、この照会は無効です。

ユーザーの処置:

可能な場合には、次の例のように別々の行を使用してください。例えば、次のようになります。

Q.EMP	NAME	SALARY	Q.STAFF	DEPT	SALARY	COMM
P.		>AVG._S	G.	_S		_C
P.		>MAX._C	G.	_S		_C

DSQ80109 条件ボックス &V1 の条件 &V2 は、1 つのグループ化行を別の複数の行に連係させています。

説明:

グループ化行は別の 1 行だけにリンクしなければなりません。無効な照会:

Q.EMP	SALARY	CONDITIONS	Q.STAFF	DEPT	SALARY	COMM
P.	_SA	_SA>AVG._S	G.	_S		_C
P.	_CO	_CO>MAX._C				

Q.STAFF は条件によって両方の Q.EMP 行に無効に連係されています。

ユーザーの処置:

可能な場合には、次の例のように別々の行を使用してください。例えば Q.STAFF を変更します

Q.STAFF	DEPT	SALARY	COMM
G.	_S		_C
G.	_S		_C

DSQ84100 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ84101 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ84102 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ84110 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ84111 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ84113 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84120 各変数名に値を入力してください。

説明: 339 ページの『DSQ22111』を参照してください。

DSQ84121 &V2 の値 &V3 は無効です。

説明: 339 ページの『DSQ22113』を参照してください。

DSQ84122 &V2 の値の長さが、55 文字を超えています。

説明: 397 ページの『DSQ23191』を参照してください。

DSQ84125 &V2 で始まる変数の長さが、18 文字を超えています。

説明: 300 ページの『DSQ21360』を参照してください。

DSQ84126 参照されている置換変数の数が 100 を超えています。

説明: 300 ページの『DSQ21357』を参照してください。

DSQ84164 '&V3' は、条件ボックス &V1 の条件 &V2 で '&V4' の後には続けられません。ここには、'AND'、'OR'、または条件終了を示すものがが必要です。

説明:

条件が不完全です。各条件は、条件ボックス内の 1 行で完結していなければなりません。

ユーザーの処置:

条件が 1 行で完全なものとなるようにしてください。必要に応じて、ENLARGE コマンドを用いて条件ボックスを拡大してください。

DSQ84165 '&V3' は、条件ボックス &V1 の条件 &V2 で '&V4' の後には続けられません。ここには比較演算子が必要です。

説明:

条件が '&V3' で終わっています。算術演算子が欠けているか、または '&V4' と '&V3' の間に誤って空白を入れてしまったものと思われます。

ユーザーの処置:

条件を訂正してください。

DSQ84166 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 では、'&V4' で式または条件を終わらせることはできません。

説明:

式または条件が不完全です。

ユーザーの処置:

式または条件を完全なものにしてください。

DSQ84167 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 では、'&V4' で式または条件を終わらせることはできません。

説明: 『DSQ84166』を参照してください。

DSQ84168 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' を '&V5' に続けて指定することはできません。

説明:

例示エレメントまたは数値定数の後に、構文エラーの原因となるエレメントがあります。次のようなエラーが考えられます。

1. +、-、*、または / を入力し忘れた。

2. 数値定数または例示エレメントの途中で、誤って空白を入れた。
3. 左括弧を誤って使用した。
4. 上記に類する何らかの誤りがあった。

ユーザーの処置:

式または条件を修正してください。

DSQ84169 '&V4' は、表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で '&V5' に続けられません。ここには比較演算子が必要です。

説明:

NOT の後には、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. = < > <= >=
2. LIKE
3. IN
4. BT または BETWEEN
5. NULL

ユーザーの処置:

条件を訂正してください。

DSQ84170 '&V4' は、表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で '&V5' に続けられません。ここには文字データが必要です。

説明:

LIKE の後には文字データが続いていなければなりません。例えば、JA で始まる名前を持つ従業員の名前と給与を表示する場合には次のようになります。

Q.STAFF	NAME	SALARY
P.	LIKE JA%	

ユーザーの処置:

条件を訂正してください。

DSQ84171 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、'IN' の次に '(' が必要です。

説明:

IN のあとには、括弧で囲まれた定数値のリストが続いていなければなりません。

ユーザーの処置:

括弧の指定エラーを訂正してください。

DSQ84172 '&V4' は、表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の 'IN' の後に続くエレメントのリストの中に含めることはできません。

説明:

IN リストの中に含めることができるのは定数値だけです。例えば、次のようになります。

```
IN (NY,PA,CA,MD)
```

ユーザーの処置:

IN リストを訂正してください。

DSQ84173 '&V4' は、表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で &V5' に続けられません。「IN」の次の定数リストは、各定数をコンマで区切り、リストの最後に「)」を付けなければなりません。**(The list of constants after 'IN' must be separated by commas and end with ')')**

説明:

コンマまたは右括弧を指定し忘れたものと思われる。正しい IN 条件の例を次に示します。

```
IN (NY,PA,CA,MD)
```

ユーザーの処置:

条件を訂正してください。

DSQ84174 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、**BT** または **BETWEEN** の後にある '(' と ')' が同数ではありません。

説明:

BT または BETWEEN と AND との間に指定された式に、左または右の括弧がどちらか 1 つ抜けています。

ユーザーの処置:

条件を訂正してください。

DSQ84175 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、**BETWEEN** 条件の最初の式と 2 番目の式の間は 'AND' で区切らなければなりません。

説明:

BT または BETWEEN の次にくる最初の式の後は、AND および 2 番目の式が続いていなければなりません。例えば、次のようになります。

```
BETWEEN 20000 AND 30000
```

ユーザーの処置:

条件を訂正してください。

DSQ84176 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' が式の最初のエレメントとなることはできません。

説明:

式は、次のいずれかで始まっていなければなりません。

1. 例示エレメント
2. 定数値
3. 組み込み関数の名前
4. 左括弧
5. + または -

ユーザーの処置:

式を訂正してください。

DSQ84177 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、組み込み関数の次の式には例示エレメントが含まれていなければなりません。

説明:

組み込み関数の後に続く式は、例示エレメントがないかぎり意味のないものになります。例えば、

```
Invalid Query:  Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM
                -----|
                P. | | | >AVG. (200) |
```

ユーザーの処置:

組み込み関数を訂正してください。例えば、

```
Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM
        -----|
        P. | | | >AVG._C
                _C
```

DSQ84178 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' を '&V5' に続けて指定することはできません。

説明:

文字定数、組み込み関数、またはキーワード USER または NULL の次に、無効なエレメントがあります。次のようなエラーが考えられます。

- ブランクを含む文字定数に、それを囲む引用符が付いていない。
- 例示エレメントの最初の文字である_が抜けている。
- 式の中で文字定数を用いようとした。
- 式の中でキーワード NULL または USER を用いようとした。
- 式の中で組み込み関数を用いようとした。

ユーザーの処置:

式を訂正してください。組み込み関数を用いようとしている場合、式の中のその組み込み関数を実行する

SQL 照会を使用してください。

DSQ84179 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' を '&V5' に続けて指定することはできません。

説明:

ここには、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. 左括弧
2. 例示エレメント
3. 数値定数
4. 組み込み関数

ユーザーの処置:

式を訂正してください。

DSQ84180 表 &V1 の行 &V2 の列 &3 で、組み込み関数の中に別の組み込み関数を含めることはできません。

説明:

組み込み関数の中に別の組み込み関数を含めることはできません。無効な形式の例を次に示します。

```
SUM.(AVG._SAL)
```

ユーザーの処置:

式を訂正してください。

DSQ84181 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' を '&V5' に続けて指定することはできません。

説明:

ここには、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. 左括弧
2. 例示エレメント
3. UNQ.
4. ALL.

ユーザーの処置:

式を訂正してください。

DSQ84182 &V4 は、表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で &V5' に続けられません。

説明:

ここには、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. 左括弧
2. 例示エレメント
3. 数値定数

4. + または -

5. 組み込み関数

ユーザーの処置:

式を訂正してください。

DSQ84183 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の式の中では、'UNQ.' または 'COUNT.' は使用できません。

説明:

UNQ.、COUNT.、および CNT. は、式の一部となっている組み込み関数の中で使用することはできません。

UNQ. および COUNT. の有効な使用例と無効な使用例を次に示します。

INVALID	VALID
.5*AVG.UNQ._SAL	.5*AVG._SAL
COUNT.(_SAL+ COMM)	COUNT._SAL
SUM.UNQ.(_SAL+ COMM)	SUM.(_SAL+ COMM)
CNT._SAL/2	CNT._SAL

ユーザーの処置:

式を訂正してください。

DSQ84185 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、'UNQ.' または 'ALL.' の次には例示エレメントまたは '(' がなければなりません。

説明:

組み込み関数の次には、例示エレメント、または左括弧で始まる式を指定しなければなりません。

ユーザーの処置:

組み込み関数を訂正してください。

DSQ84186 条件ボックス &V1 の条件 &V2 に、例示エレメントが入っていません。

説明:

条件ボックスの中の条件には、照会の中で定義されている例示エレメントが少なくとも 1 つは含まれていなければなりません。例:

Invalid Query:	Q.STAFF NAME SALARY	CONDITIONS
	-----+-----+-----	-----
	P. _S	_S > 20000
		30000

上記の照会の中の条件 1 には、Q. STAFF の SALARY 列を表すものとして定義されている例示エレメント _S が含まれており、したがってこれは有効です。しかし、条件 2 は、例示エレメントが含まれていないため無効です。

ユーザーの処置:

条件には少なくとも 1 つの例示エレメントを含めてください。

DSQ84188 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、
'COUNT.' または 'CNT.' の次には例示エ
レメントまたは 'UNQ.' がなければなり
ません。

説明:

CNT. または COUNT. の後に ALL. または式を指定す
ることはできません。

ユーザーの処置:

組み込み関数を訂正してください。

DSQ84196 条件ボックス &V1 の条件 &V2 が不完全
です。

説明:

条件ボックスの各条件は、1 行で完結していなければ
なりません。1 つの条件を 2 行めに続けようとしたと思
われます。

ユーザーの処置:

条件が 1 行で完全なものとなるようにしてください。
必要に応じて ENLARGE コマンドを用いて条件ボック
スを拡大してください。

DSQ84197 条件ボックス &V1 の条件 &V2 が不完全
です。

説明: 『DSQ84196』を参照してください。

DSQ84198 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、
'&V3' を '&V4' に続けて指定することは
できません。

説明:

例示エレメントまたは数値定数の後に、構文エラーの原
因となるエレメントがあります。次のようなエラーが
考えられます。

1. +、-、*、または / を入力し忘れた。
2. 数値定数または例示エレメントの途中で、誤ってブ
ランクを入れた。
3. AND や OR などのキーワードのスペルを間違え
た。
4. 左括弧を誤って使用した。
5. 上記に類する何らかの誤りがあった。

ユーザーの処置:

式または条件を修正してください。

DSQ84199 '&V3' は、条件ボックス &V1 の条件
&V2 で '&V4' の後には続けられません。
ここには比較演算子が必要です。

説明: 737 ページの『DSQ84165』を参照してくださ
い。

DSQ84200 '&V3' は、条件ボックス &V1 の条件
&V2 で '&V4' の後には続けられません。
ここには文字データが必要です。

説明:

LIKE の後には文字データが続いていなければなりません。
例えば、JA または SM で始まる名前を持つ従業
員の名前と給与を表示する場合には、次のようになりま
す。

Q.STAFF	NAME	SALARY
P.	_N	
CONDITIONS		
_N LIKE JA%	OR	_N LIKE SM%

ユーザーの処置:

条件を訂正してください。

DSQ84201 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で 'IN'
の次に '(' が必要です。

説明:

IN のあとには、括弧で囲まれた定数値のリストが続い
ていなければなりません。

ユーザーの処置:

括弧の指定エラーを訂正してください。

DSQ84202 '&V3' は、条件ボックス &V1 の条件
&V2 の 'IN' の後に続くエレメントのリ
ストに含めることはできません。

説明:

IN リストの中に含めることができるのは定数値だけ
です。例えば、次のようになります。

IN (NY,PA,CA,MD)

ユーザーの処置:

IN リストを訂正してください。

DSQ84203 '&V3' は、条件ボックス &V1 の条件
&V2 で '&V4' の後には続けられません。
「IN」の次の定数リストは、各定数をコ
ンマで区切り、リストの最後に「)」を付
けなければなりません。(The list of
constants after 'IN' must be separated

by commas and end with ')'.)

説明:

コンマまたは右括弧を指定し忘れたものと思われます。
正しい IN 条件の例を次に示します。

```
IN (NY,PA,CA,MD)
```

ユーザーの処置:

条件を訂正してください。

DSQ84204 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、**BT** または **BETWEEN** の後にある '(' と ')' が同数ではありません。

説明:

BT または BETWEEN と AND との間に指定された式に、左または右の括弧がどちらか 1 つ抜けています。

ユーザーの処置:

条件を訂正してください。

DSQ84205 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、**BETWEEN** の後に続く最初の式と 2 番目の式の間は 'AND' で区切らなければなりません。

説明:

BT または BETWEEN の次にくる最初の式の後は、AND および 2 番目の式が続いていなければなりません。例えば、次のようになります。

```
BETWEEN 20000 AND 30000
```

ユーザーの処置:

条件を訂正してください。

DSQ84206 '&V3' を、条件ボックス &V1 の条件 &V2 で式の最初の要素にすることはできません。

説明:

式は、次のいずれかで始まっていなければなりません。

1. 例示エレメント
2. 定数値
3. 組み込み関数の名前
4. 左括弧
5. + または -

ユーザーの処置:

式を訂正してください。

DSQ84207 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、組み込み関数の次の式には例示エレメントが含まれていなければなりません。

説明:

組み込み関数の後に続く式は、例示エレメントがないかぎり意味のないものになります。例えば、

```
Invalid Query: Q.STAFF | NAME | COMM | CONDITIONS
                P. | | _C | | _C > AVG.(10000)
```

正しい照会は次のようになります。

```
Q.STAFF | NAME | COMM | CONDITIONS
        P. | | _C | | _C > AVG._COMS
```

ユーザーの処置:

組み込み関数を訂正してください。

DSQ84208 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、 '&V3' を '&V4' に続けて指定することはできません。

説明:

文字定数、USER、または NULL の次に無効なエレメントがあります。次のようなエラーが考えられます。

1. ブランクを含む文字定数に、それを囲む引用符が付いていない。
2. 例示エレメントの最初の文字である _ が抜けている。
3. 式の中で文字定数を用いようとした。
4. 式の中で NULL または USER を用いようとした。

ユーザーの処置:

式を訂正してください。

DSQ84209 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、 '&V3' を '&V4' に続けて指定することはできません。

説明:

ここには、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. 左括弧
2. 例示エレメント
3. 数値定数
4. 組み込み関数

ユーザーの処置:

式を訂正してください。

DSQ84210 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、組み込み関数に他の組み込み関数を含めることはできません。

説明:

組み込み関数の中に別の組み込み関数を含めることはできません。無効な形式の例を次に示します。

```
SUM.(AVG._SAL)
```

ユーザーの処置:

式を訂正してください。

DSQ84211 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、'&V3' を '&V4' に続けて指定することはできません。

説明:

ここには、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. 左括弧
2. 例示エレメント
3. UNQ.
4. ALL.

ユーザーの処置:

式を訂正してください。

DSQ84212 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、'&V3' を '&V4' に続けて指定することはできません。

説明:

ここには、次のいずれかを指定しなければなりません。

1. 左括弧
2. 例示エレメント
3. 数値定数
4. + または -
5. 組み込み関数

ユーザーの処置:

式を訂正してください。

DSQ84213 条件ボックス &V1 の条件 &V2 の式の中では、'UNQ.' または 'COUNT.' は使用できません。

説明:

UNQ.、COUNT.、および CNT. は、式の一部となっている組み込み関数の中で使用することはできません。

UNQ. および COUNT. の有効な使用例と無効な使用例を次に示します。

INVALID	VALID
.5*AVG.UNQ._SAL COUNT.(_SAL+ COMM) SUM.UNQ.(_SAL+_COMM) CNT._SAL/2	.5*AVG._SAL COUNT._SAL SUM.(_SAL+_COMM) CNT._SAL

ユーザーの処置:

式を訂正してください。

DSQ84215 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、'UNQ.' または 'ALL.' の次には、例示エレメントまたは '(' がなければなりません。

説明:

組み込み関数の次には、例示エレメント、または左括弧で始まる式を指定しなければなりません。

ユーザーの処置:

組み込み関数を訂正してください。

DSQ84216 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、'&V3' の前に 'NOT' を指定することはできません。

説明:

条件ボックスで、NOT を <, >, <=, >=, または = の前に使用することはできません。有効な形式と無効な形式の例を示します。

VALID	INVALID
NOT _A > _B	_A NOT > _B

ユーザーの処置:

条件を訂正してください。

DSQ84217 条件ボックス &V1 の条件 &V2 の中の算術式に、文字定数が含まれています。

説明:

算術式の中で文字定数を使用することはできません。

ユーザーの処置:

式から文字定数をすべて除去してください。

DSQ84218 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、'COUNT.' または 'CNT.' の次には、例示エレメントまたは 'UNQ.' がなければなりません。

説明:

CNT. または COUNT. の後に ALL. または式を指定することはできません。

ユーザーの処置:

組み込み関数を訂正してください。

DSQ84219 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、単一引用符の数が偶数ではありません。

説明:

単一引用符は定数を囲むために使用できます。また、2つの隣接する単一引用符を用いて単一の引用符を表します。例えば、次のようにします。

```
O'BOYLE          (interpreted to mean, O'BOYLE)
'P. LANGAN'      (interpreted to mean, P. LANGAN)
```

ユーザーの処置:

定数の中に含まれる単一引用符の数が偶数になるようにしてください。

DSQ84220 条件ボックス &V1 の条件 &V2 の中の二重引用符は無効です。

説明:

この文脈の中では二重引用符は無効です。

ユーザーの処置:

無効な二重引用符を除去してください。

DSQ84221 条件ボックス &V1 の条件 &V2 で、 '&V3' は無効な比較演算子です。

説明:

有効な比較演算子は次のとおりです。

```
> < >= <= = ^=
```

ユーザーの処置:

比較演算子を訂正してください。

DSQ84222 条件ボックス &V1 の条件 &V2 の '&V3' に指数が欠落しています。

説明:

この数字の中には、次の例のように指数が指定されていなければなりません。

```
456783E2
```

ユーザーの処置:

定数を訂正してください。

DSQ84223 条件ボックス &V1 の条件 &V2 の中の二重引用符は無効です。

説明:

条件の中で二重引用符を使用することはできません。

ユーザーの処置:

条件の中の二重引用符を取り除いてください。

DSQ84224 条件ボックス &V1 の条件 &V2 の '&V4' にシフトイン文字が欠落しています。

説明:

DBCS 定数はシフトイン文字で終わっていなければなりません。

ユーザーの処置:

DBCS 定数を訂正してください。

DSQ84225 条件ボックス &V1 の条件 &V2 の '&V3' は、無効な DBCS 定数です。

説明:

DBCS は次のような形になっていなければなりません。

```
G'...DBCS...'
```

ユーザーの処置:

DBCS 定数を訂正してください。

DSQ84226 条件ボックス &V1 の条件 &V2 の '&V3' は、認識されない特殊文字です。

説明:

QBE は、 '&V3' を意味のある文字として認識しません。その特殊文字をそのまま残したいのであれば、それが入っている定数を単一引用符で囲まなければなりません。次の例では、 ; は、 P;SMITH という定数に含まれている特殊文字として扱われます。

```
CONDITIONS
-----
'P;SMITH'
```

ユーザーの処置:

'&3' を照会から除去するか、またはそれを単一引用符で囲んでください。

DSQ84227 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 にある '&V4' は、認識されない特殊文字です。

説明:

QBE は、 '&V4' を有意文字として認識しません。この特殊文字を使用したい場合には、それが含まれている定数全体を単一引用符で囲まなければなりません。次の例では、 ; は、 P;SMITH という定数に含まれている特殊文字として扱われます。

```
Q.STAFF | NAME
-----|-----
P.      | 'P;SMITH'
```

ユーザーの処置:

DSQ84228 • DSQ84330

照会から '&V4' を除去するか、または定数全体を単一引用符で囲んでください。

DSQ84228 照会の中の定数の長さが 254 文字を超えています。

説明:

254 文字を超える定数は使用できません。

ユーザーの処置:

定数の長さを短くしてください。

DSQ84300 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ84301 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ84302 視点はまだ指定されていません。

説明:

視点を指定するまで ER 指示照会の実行はできません。

ユーザーの処置:

照会が表示されたとき、「指定」(SPECIFY VIEW) 機能を使用して照会の視点を指定してください。

DSQ84310 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ84311 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ84312 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84313 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 431 ページの『DSQ23778』を参照してください。

DSQ84314 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 431 ページの『DSQ23778』を参照してください。

DSQ84315 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なリスト項目索引: &V1。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ84316 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ84315』を参照してください。

DSQ84317 ツール・グループ &V1 は存在しません。

説明:

指名されたツール・グループは存在していないか、スペルが誤っています。 LIST 機能を使って、照会に含めることのできるツール・グループの名前をリストできません。

ユーザーの処置:

ツール・グループ名のスペルを確認してください。 その名前を再度、入力するか、ツール・グループのリストから選択してください。

DSQ84330 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

指示照会管理プログラム・エラー - 予期しない入力。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップし

たパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ84331 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ84332 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84333 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

テンプレート ID が見つかりませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ84334 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

テンプレート名が見つかりませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレー

ス・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ84335 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ84350 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ84351 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ84352 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84353 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ84333』を参照してください。

DSQ84354 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ84334』を参照してください。

DSQ84355 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ84362 属性とフィールドのデータ・タイプに互換性がありません。

説明:

比較値として入力されたテンプレート・フィールドのデータ・タイプが条件の左側の属性のデータ・タイプと一致しません。比較演算子の左側の属性のデータ・タイプが文字の場合、テンプレート・フィールドのデータ・タイプも文字でなければいけません。また、比較演算子の左側の属性がリポジトリ管理プログラムの数値データ・タイプの場合は、テンプレート・フィールドもリポジトリ管理プログラムの数値データ・タイプとして正しいデータ・タイプでなければなりません。

ユーザーの処置:

有効なテンプレート・フィールド (またはほかの比較値) を入力してください。または、リスト機能を使用して現在の文脈でどのフィールドが有効かを調べてください。

DSQ84363 テンプレートの選択式が長過ぎます。

説明: 290 ページの『DSQ21175』を参照してください。

DSQ84364 比較式が無効です。

説明:

リポジトリ管理プログラムは入力した比較式を無効と判断しました。これは以下の理由の 1 つに原因するものと考えられます。

- 比較式の右側のリテラルのデータ・タイプと左側の属性のデータ・タイプが一致しません。比較式を有効にするには一致しなければなりません。例えば、比較演算子の左側の属性が文字のデータ・タイプの場合は、右側のリテラルの属性は文字ストリングでなければなりません。属性がリポジトリ・マネージャーの数値データ・タイプの場合は、リテラルは有効なリポジトリ・マネージャーの数値定数でなければなりません。
- リポジトリ・マネージャーがエンティティを保管した表を使用する権限が与えられていません。

ユーザーの処置:

比較演算子の右の比較値フィールドの値が左の属性のデータ・タイプと一致することを確認してください。一致しない場合は、比較値フィールドに有効なリテラル (またはほかの比較値) を入力してください。リテラルが有効な場合は、リポジトリ管理プログラムが正しくインストールされており、適切な表をアクセスしたかどうか、QMF 管理者との確認をとってください。

DSQ84365 指定した属性の数が 999 を超えています。

説明: 290 ページの『DSQ21174』を参照してください。

DSQ84366 指定した属性の数が 999 を超えています。

説明: 290 ページの『DSQ21174』を参照してください。

DSQ84367 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ84368 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ84369 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ84370 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ84371 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ84372 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

パネル状態エラー: パネル=&V1、コード=&V2。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確

認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ84373 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ84374 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 431 ページの『DSQ23778』を参照してください。

DSQ84375 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84376 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 431 ページの『DSQ23778』を参照してください。

DSQ84377 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ84378 エンティティ &V1 がリポジトリに見つかりません。

説明:

指定したエンティティが存在しないか、リポジトリに見つからないかのどちらかです。

ユーザーの処置:

エンティティ名のスペルが正しい場合は (リスト機能を使用することによって、アクセスするエンティティのリストを表示できます)、QMF 管理者に連絡してリポジトリ管理プログラムに関する詳細を調査してください。

DSQ84379 集約 &V1 がリポジトリに見つかりません。

説明:

指定した集約は存在しないか、リポジトリに見つからないかのどちらかです。

ユーザーの処置:

集約名のスペルが正しい場合は (リスト機能を使用することによって、アクセスするエンティティのリストを表示できます)、QMF 管理者に連絡してリポジトリ管理プログラムに関する詳細を調査してください。

DSQ84380 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ84381 ルート・エンティティの削除は指定できません。

説明:

削除を指定したエンティティはルート・エンティティです。ルート・エンティティは視点の開始点を定義しているので削除することはできません。

ユーザーの処置:

すべての視点を削除したい場合、エンティティ関係指示照会基本パネルに戻り RESET コマンドを使用してください。視点の一部を削除したい場合、該当するエンティティの次にカーソルを置いて削除機能を再度使用してください。

DSQ84382 &V1 は無効な変数名です。

説明:

変数名は最初がアンパーサンドで始まり 17 文字までです。アンパーサンドの次の文字は英字か各国文字でなければなりません。残りの文字は、「DB2 QMF 解説書」に定義されているように、英字、数字、またはその他の文字にできます。

ユーザーの処置:

&V1 を有効な名前に替えてコマンドを再試行してください。

DSQ84383 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ84384 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ84385 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ84386 テンプレートが現在のテンプレートに先行していません。

説明:

テンプレート・フィールドの比較値に指定されているテンプレートが無効です。テンプレート・フィールドが条件中の比較値に使用されている場合は、このテンプレートは条件を作成するエンティティ関連を表すテンプレートに先行しなければなりません。

ユーザーの処置:

有効な TEMPLATE.FIELD (またはほかの比較値) をタイプして続けるか、リスト機能を使って現在の文脈の中で有効なテンプレートはなにかを見つけるか、または条件を取り消してください。

DSQ84387 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 243 ページの『DSQ20461』を参照してください。

DSQ84388 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 245 ページの『DSQ20482』を参照してください。

DSQ84390 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ84391 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 412 ページの『DSQ23473』を参照してください。

DSQ84392 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ84393 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84394 探索基準に一致するエンティティが見つかりません。

説明:

エンティティ・リスト探索基準ストリングを指定しましたが、指定されたツール・グループの中で基準に一致するエンティティが見つかりません。

ユーザーの処置:

探索基準を修正してください。 選択シンボル (未指定) 文字として "%" および "_" が使用できます。 指定したツール・グループのすべてのエンティティをリストしたい場合、カーソルのある入力フィールドが空かどうかを確認してください。

DSQ84395 視点はすでに指定されています。

説明:

すでに視点名を指定しており、現在「指定」(SPECIFY VIEW) 機能は使用できません。

ユーザーの処置:

照会で異なる視点を使用したい場合、RESET QUERY コマンドを使用してください。 現在の視点を使って続けたい場合、「視点」(SHOW VIEW) 機能を使用してください。

DSQ84396 探索基準に一致する集約が見つかりません。

説明:

集約リスト探索基準ストリングを指定しましたが、指定されたツール・グループの中で基準に一致する集約が見つかりません。

ユーザーの処置:

探索基準を修正してください。 選択シンボル (未指定) 文字として "%" および "_" が使用できます。 指定したツール・グループの中のすべての集約をリストしたい場合、カーソルのある入力フィールドが空かどうかを確認してください。

DSQ84397 ツール・グループが見つかりません。

説明:

ツール・グループ・リスト検索を指定しましたがツール・グループがまったく見つかりません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡して、ツール・グループにアクセスできない原因を調べてください。

DSQ84398 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

要求リストに項目がありません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ84399 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ84398』を参照してください。

DSQ84400 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ84398』を参照してください。

DSQ84401 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ84398』を参照してください。

DSQ84402 値の比較で使われるテンプレートが見つかりません。

説明:

テンプレート・リスト探索を指定している場合、現在の条件を適用している視点のエンティティ関連を表して

いるテンプレートに先行するテンプレートだけが戻りません。現在の条件を視点のルート・エンティティに適用しているため、ルート・エンティティを表すテンプレートに先行できるテンプレートがありません。

ユーザーの処置:

比較値フィールドに比較値をタイプし、現在の条件を先行するか取り消してください。

DSQ84403 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ84398』を参照してください。

DSQ84404 視点を変数名で定義されました。

説明:

視点を変数名で定義しましたが、照会の中では、ほかの視点の指定はできません。

ユーザーの処置:

照会で異なる視点を使用したい場合、RESET QUERY コマンドを使用してください。

DSQ84405 視点はまだ指定されていません。

説明:

視点を指定するまで「視点」(SHOW VIEW) 機能は使用できません。

ユーザーの処置:

「指定」(SPECIFY VIEW) 機能を使って照会の視点を指定してください。

DSQ84406 ツール・グループにエンティティが見つかりませんでした。

説明:

指定されたツール・グループにはエンティティが含まれていません。

ユーザーの処置:

ツール・グループの指定を変更してください。リスト・キーを押せばすべての使用できるツール・グループがリストできます。

DSQ84407 ツール・グループに集約が見つかりませんでした。

説明:

指定されたツール・グループには、集約が含まれていません。

DSQ84408 • DSQ84433

ユーザーの処置:

ツール・グループの指定を変更してください。リスト・キーを押せばすべての使用できるツール・グループがリストできます。

DSQ84408 &V1 データ・タイプのフィールドが見つかりません。

説明:

条件を完成するために選択されたテンプレートに、比較演算子の左側の属性と同じデータ・タイプのフィールドがありません。

ユーザーの処置:

比較演算子の左側の属性は文字か数値のどちらかです。条件を完成するためにはデータ・タイプが一致するフィールドを少なくとも 1 つは含むテンプレートを選択してください。数値にはすべての非文字データ・タイプが含まれます。

DSQ84410 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ84411 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ84412 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84413 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 745 ページの『DSQ84333』を参照してください。

DSQ84414 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 745 ページの『DSQ84334』を参照してください。

DSQ84415 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

テンプレート・フィールドが見つかりませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ84430 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ84431 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ84432 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84433 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

RUN コマンドに渡された置換変数が多すぎます。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび

QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ84434 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 20 ページの『DSQ10193』を参照してください。

DSQ84435 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 745 ページの『DSQ84334』を参照してください。

DSQ84436 エンティティ &V2 の中に属性 &V1 がありません。

説明:

置換値として、属性名 &V1 が使用されましたが、エンティティ &V2 に見つかりません。置換値が名前には長過ぎるか、名前のスペルを誤ったか、または指定した属性が別のエンティティに属しています。

ユーザーの処置:

正しいエンティティに属している属性名かどうか、正しいスペルかどうかを検査してください。

DSQ84437 リポジトリ管理プログラムがエンティティ &V1 を見つけることができませんでした。

説明:

リポジトリ管理プログラムで検索しようとしている集約に関連するエンティティ名を見つけれられません。

ユーザーの処置:

リポジトリ管理プログラムについては、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84438 リポジトリ管理プログラムが関連 &V1 を見つけることができませんでした。

説明:

リポジトリ管理プログラムは、集約に関連するエンティティ名を現在は見つけることができません。

ユーザーの処置:

リポジトリ情報については、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84439 集約 &V1 の定義は無効です。

説明:

定義はいくつかの異なる理由によって無効である場合があります。1 つの可能性として、その集約がリポジトリから削除されているエンティティまたは関連を参照していることが考えられます。リポジトリ・メッセージ &V2 を参照してください。

ユーザーの処置:

リポジトリ内の定義を訂正するか、または詳細を QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84440 集約視点がりポジトリに見つかりません。

説明: 289 ページの『DSQ21170』を参照してください。

DSQ84441 エンティティ視点がりポジトリに見つかりません。

説明: 289 ページの『DSQ21171』を参照してください。

DSQ84470 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ84471 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ84472 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 431 ページの『DSQ23778』を参照してください。

DSQ84473 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84474 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 431 ページの『DSQ23778』を参照してください。

DSQ84475 このパネルでは **ENTER** キーはアクティブではありません。

説明: 412 ページの『DSQ23474』を参照してください。

DSQ84476 &V1 は有効な選択番号ではありません。

説明: 413 ページの『DSQ23483』を参照してください。

DSQ84477 &V1 は、選択できません。

説明: 413 ページの『DSQ23484』を参照してください。

DSQ84478 リストから項目を選択してください。

説明: 413 ページの『DSQ23485』を参照してください。

DSQ84479 リストから **1** つまたは複数の項目を選択してください。

説明: 413 ページの『DSQ23481』を参照してください。

DSQ84480 **ENTER** キーを押す前に値をタイプしてください。

説明: 421 ページの『DSQ23648』を参照してください。

DSQ84481 カーソルが &V1 に有効なフィールドにありません。

説明:

機能 &V1 を完了するには、カーソルがパネルの有効なフィールドに置かれていなければなりません。

ユーザーの処置:

カーソルを正しいフィールドに移動して、機能 &V1 を再指定してください。

DSQ84482 カーソルが &V1 に有効なフィールドにありません。

説明: 『DSQ84481』を参照してください。

DSQ84483 入力は許されません。 選択にはカーソルを使用してください。

説明:

エンティティを選択するには、カーソルの位置とファンクション・キーを使用してください。 パネルの入力フィールドには入力できません。

ユーザーの処置:

エンティティ名に先行するすべての文字を除去してください。 カーソルとファンクション・キーを用いて、前進してください。

DSQ84484 カーソルが &V1 に有効なフィールドにありません。

説明: 『DSQ84481』を参照してください。

DSQ84485 このパネルでは **ENTER** キーはアクティブではありません。

説明: 412 ページの『DSQ23474』を参照してください。

DSQ84486 片方または両方のリストから項目を選択してください。

説明:

選択が必要なときに、リストから項目を選択していません。

ユーザーの処置:

片方または両方のリストから項目を選択し、**ENTER** キーを押してください。

DSQ84487 **SPECIFY** コマンドに指定された名前は無効です。

説明:

SPECIFY コマンドの形式は **SPECIFY name** です。「name」は指示照会機能です。有効な **ER** 指示照会機能は **VIEW** です。 **ER** 指示照会には名前が必須です。

ユーザーの処置:

ER 指示照会に対して有効な名前を、**SPECIFY** コマンドを再入力してください。

DSQ84488 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ84530 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

モジュール DSQGDRCI で内部論理エラーです。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ84531 このフィールドは NULL にはできません。

説明:

NULL データを示す NULL 標識 (&V1) がこのフィールドに入力されました。このフィールドはヌル・データを許さないものとしてデータベースに定義されています。

ユーザーの処置:

このフィールドには、NULL 以外の値を入力してください。

DSQ84532 &V1 は許される整数値ではありません。

説明:

値は -32768 から 32767 までの値です。

ユーザーの処置:

フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ84533 &V1 は、許されない小数点の値です。

説明:

値は、'smmm&V4nnn' の形式でなければなりません。ここで、

s はオプションの符号 (正または負) です。
m は小数点より前にある数字です。
n は小数点より後ろにある数字です。

この列で、小数点の前に許される最大桁数は &V3 で、小数点の後に許される最大桁数は &V2 です。

ユーザーの処置:

フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ84534 &V1 は浮動小数点値には使用できません。

説明:

値は 'sm&V4mmmmmmEsee' の形式でなければなりません。ここで、

s はオプションの符号 (正または負) です。
m は仮数部の数字 (最大 8 桁) です。
E は指数部の先頭です。
e は指数部の数字 (1 桁または 2 桁) です。

指数部は省略できます。値は +/- (5&V44E-79, 7&V42E+75) の範囲内でなければなりません。

ユーザーの処置:

フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ84535 &V1 はタイム・スタンプの値として使用できません。

説明:

正しい形式は、次のとおりです。

yyyy-mm-dd-hh.mm.ss

それぞれの意味は次のとおりです。

- yyyy-mm-dd は年、月、および日
- hh.mm.ss は時間、分、および秒

ユーザーの処置:

フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ84536 &V1 は日付の値として使用できません。

説明:

正しい形式は「mm/dd/yyyy」、「yyyy-mm-dd」、または「dd.mm/yyyy」です。

mm 月です。(1 桁または 2 桁)

dd 日です。(1 桁または 2 桁)

yyyy 年です。先頭の 2 桁が現在の日付の西暦であると見なされる場合は、2 桁で年を指定できます。

ユーザーの処置:

有効な形式の日付を入力してください。

DSQ84537 &V1 は日付の値として使用できません。

説明: 753 ページの『DSQ84536』を参照してください。

DSQ84538 &V1 は日付の値として使用できません。

説明: 753 ページの『DSQ84536』を参照してください。

DSQ84539 &V1 は日付の値として使用できません。

説明:

正しい形式は、「mm/dd/yyyy」、「yyyy-mm-dd」、「dd.mm.yyyy」、またはインストール先のローカル日付形式です。

mm 月です。(1 桁または 2 桁)

dd 日です。(1 桁または 2 桁)

yyyy 年です。先頭の 2 桁が現在の日付の西暦であると見なされる場合は、2 桁で年を指定できません。

ユーザーの処置:

有効な形式の日付を入力してください。

DSQ84540 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84541 &V1 は時刻の値として使用できません。

説明:

正しい形式は、「hh:mm AM」、「hh:mm PM」、「hh:mm:ss」、または「hh.mm.ss」です。

hh 時間です。(1 桁または 2 桁)

mm 分です。(1 桁または 2 桁)

ss 秒です。(1 桁または 2 桁)

秒はオプションです。

ユーザーの処置:

有効な形式の時刻を入力してください。

DSQ84542 &V1 は時刻の値として使用できません。

説明: 『DSQ84541』を参照してください。

DSQ84543 &V1 は時刻の値として使用できません。

説明: 『DSQ84541』を参照してください。

DSQ84544 &V1 は時刻の値として使用できません。

説明:

正しい形式は「hh:mm AM」、「hh:mm PM」、「hh:mm:ss」、「hh.mm.ss」、またはインストール先のユーザー時刻の形式です。

hh 時間です。(1 桁または 2 桁)

mm 分です。(1 桁または 2 桁)

ss 秒です。(1 桁または 2 桁)

秒はオプションです。

ユーザーの処置:

有効な形式の時刻を入力してください。

DSQ84545 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84546 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84547 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84548 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84549 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84550 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84551 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84552 このフィールドをブランクにすることはできません。

説明:

このフィールドをブランクにしています。しかし、このフィールドのデータ・タイプでは、ブランクの入力はできません。

ユーザーの処置:

このフィールドにはブランクでない値を入力してください。

DSQ84553 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84554 このフィールドをブランクにすることはできません。

説明: 『DSQ84552』を参照してください。

DSQ84555 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84556 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84557 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84558 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84559 このフィールドをブランクにすることはできません。

説明: 『DSQ84552』を参照してください。

DSQ84560 このフィールドをブランクにすることはできません。

説明: 『DSQ84552』を参照してください。

DSQ84561 &V1 の小数点の後の桁が多すぎます。

説明:

このフィールドで小数点の後に許されている桁の最大数は &V2 です。

ユーザーの処置:

余分な数字を除去してください。

DSQ84562 &V1 は許される整数値ではありません。

説明:

値の範囲は、-2147483648 から 2147483647 までです。

ユーザーの処置:

フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ84563 &V1 は浮動小数点値には使用できません。

説明:

値は 'sm&V4mmmmmmmmmmmmmmmmEsee' の形式でなければなりません。ここで、

s はオプションの符号 (正または負) です。
m は仮数部の数字 (最大 17 桁以下) です。
E は指数部の先頭です。
e は指数部の数字 (1 桁または 2 桁) です。

指数部は省略できます。値は +/- (5&V44E-79, 7&V42E+75) の範囲内でなければなりません。

ユーザーの処置:

フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ84564 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84565 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84566 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 753 ページの『DSQ84530』を参照してください。

DSQ84567 列のデフォルトは使用できません。

説明:

デフォルト標識 (&V1) はサポートされていません。 QMF は、この列の列デフォルト情報を判別できませんでした。

ユーザーの処置:

この列には、デフォルト標識 (&V1) を使用しないでください。 入力フィールドからデフォルト標識 (&V1) を除去し、別の値を指定してください。 使用したい値がデフォルト標識 (&V1) と同じである場合は、編集セッションを終了し、グラフィック・データ・フィールドの大域変数 DSQCP_TEDFLT または DSQCP_TEDFLT_DBCS に別の文字を設定してください。 次の編集セッションでは、このフィールド内の値を使用できます。 詳細については、QMF I2 トレースを参照してください。

DSQ84568 この列には、デフォルト値はありません。

説明:

この列に対して、フィールドにデフォルト標識 (&V1) を入力しました。 しかし、この列には、データベースに定義されているデフォルト値はありません。

ユーザーの処置:

フィールドのデフォルト標識 (&V1) を別の値に置き換えてください。 使用したい値がデフォルト標識文字 (&V1) と同じである場合は、編集セッションを終了して、図形データ・フィールドの大域変数 DSQCP_TEDFLT または DSQCP_TEDFLT_DBCS に別の文字を設定してください。 次の編集セッションでは、このフィールドを使用できます。

DSQ84569 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 418 ページの『DSQ23553』を参照してください。

DSQ84570 デフォルトは検索モードではサポートされません。

説明:

この列に対して、フィールドにデフォルト標識 (&V1) を入力しました。 デフォルト標識 (&V1) は、検索モードではサポートされません。

ユーザーの処置:

フィールドのデフォルト標識 (&V1) を別の値に置き換えてください。 使用したい値がデフォルト標識文字 (&V1) と同じである場合は、編集セッションを終了して、図形データ・フィールドの大域変数 DSQCP_TEDFLT または DSQCP_TEDFLT_DBCS に別の文字を設定してください。 次の編集セッションでは、このフィールドを使用できます。

DSQ84571 &V1 は有効な HEX 値ではありません。

説明:

1 つの 16 進文字は 2 つの英字または数字で表されます。 したがって、16 進数値は、0 から 9 までの数字および英字 A、B、C、D、E、または F の偶数個の組み合わせにより表されていなければなりません。 誤りのある 16 進数値は、奇数個の数字または英字により表されているか、または無効な英字か、そのほかの文字が含まれています。

ユーザーの処置:

フィールドに有効な HEX 値を入力してください。

DSQ84572 指定した値は有効な大整数ではありません。

説明:

&V1 は、この列には許可されない値です。 この列は、大整数 (BIGINT) データ・タイプで定義されています。 BIGINT データ・タイプで定義された列には、-9223372036854775808 から 9223372036854775807 の範囲の数を入れることができます。

ユーザーの処置:

有効な範囲内の値を入力してください。

DSQ84573 &V1 は、許されない 10 進浮動小数点値です。

説明:

このエラーが発生するのは、10 進浮動小数点値の形式が正しくない場合、または値がこのデータ・タイプの許容範囲外にある場合です。 期待される形式は、次のように 10 進数の浮動小数点データによって異なります。

DSQ84614 レコード &V1 の位置 &V2 の項目名の長さが無効です。

説明: 757 ページの『DSQ84612』を参照してください。

DSQ84615 視点が変数の場合、その後にレコードがあつてはなりません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索された照会のビューに指定されている集約またはエンティティは変数です。E レコードを除いて、レコードはビューの後に続きません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、視点に続くすべてのレコードを削除してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84616 レコード &V1 の親関連データは空白にしてください。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 は照会のルート・エンティティを表します。そのため、親関係および親テンプレート ID は空白にする必要があります。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、親関係データを訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84617 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ84618 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84619 レコード &V1 に無効なテンプレート名 &V2 があります。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定したテンプレート名 &V2 は関連表(ある場合) またはデータベースの中ではありません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、テンプレート名を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ84620 レコード &V1 の条件の比較値は無効です。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で条件中の比較値をテンプレート・フィールドとして指定しました。エンコード形式の `template.field` は、テンプレート用に 32 文字、次にフィールド用に 32 文字、その次にフィールドのマップ先の属性の名前用に 32 文字で指定されます。属性名(またはそれ以上)が欠落しています。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、比較値を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84621 レコード &V1 に無効な比較値タイプがあります。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の条件で指定された比較値のタイプは有効なタイプではありません。有効なテキスト・タイプは、L、V、TF です。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、比較値タイプを訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84622 レコード &V1 内に予期しないレコード・コード &V2 が見つかりました。

説明: 611 ページの『DSQ50219』を参照してください。

DSQ84623 指定した属性の数が 999 を超えています。

説明: 290 ページの『DSQ21174』を参照してください。

DSQ84624 レコード &V1 のエンティティ名は、視点レコードのエンティティ名と一致しません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。 &V2 という名前のルート・エンティティに基づく視点を指定しました。 また、テンプレート・ツリーのルート・エンティティが &V3 であることを示す R レコードも指定しました。 エンティティ名がルート・テンプレートに含まれている場合、それは視点レコードのエンティティ名と一致してはなりません。

ユーザーの処置:

R レコードのエンティティ名がビュー・レコードのエンティティ名に一致していることを確認するか、R レコードからエンティティ名を除去する必要があります。 指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。 または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ84625 レコード &V1 の位置 &V2 の項目名の長さが無効です。

説明: 757 ページの『DSQ84612』を参照してください。

DSQ84626 レコード &V1 の位置 &V2 の項目名の長さが無効です。

説明: 757 ページの『DSQ84612』を参照してください。

DSQ84627 レコード &V1 内に予期しないレコード・コード &V2 が見つかりました。

説明: 611 ページの『DSQ50219』を参照してください。

DSQ84628 レコード &V1 内に予期しないレコード・コード &V2 が見つかりました。

説明: 611 ページの『DSQ50219』を参照してください。

DSQ84629 レコード &V1 内に予期しないレコード・コード &V2 が見つかりました。

説明: 611 ページの『DSQ50219』を参照してください。

DSQ84630 レコード &V1 に、無効な条件結合子があります。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。 レコード &V1 で指定された条件結合子は、正しくありません。 有効な条件結合子は IF、AND、OR です。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、条件結合子を訂正してください。 指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。 あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84631 レコード &V1 に、無効な条件演算子があります。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。 レコード &V1 に指定された条件演算子は無効な演算子です。 有効な演算子は EQ、NE、GT、LT、GE、LE、LK、NL です。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、条件演算子を訂正してください。 指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。 あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84632 レコード &V1 の条件演算子に誤りがあります。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。 レコード &V1 で指定された条件演算子は有効な演算子ですが、その条件の左側と互換性がありません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合

DSQ84633 • DSQ84639

は、条件演算子を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84633 レコード &V1 に無効なテンプレート名 &V2 があります。

説明: 758 ページの『DSQ84619』を参照してください。

DSQ84634 集約視点がりポジトリーに見つかりません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索される ER 指示照会の視点に対して集約を指定しましたが、リポジトリー管理プログラムは集約名を見つけられません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、集約名を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84635 ルート・エンティティー名がりポジトリーに見つかりません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。検索される指示照会の視点としてルート・エンティティー名を指定したが、リポジトリー管理プログラムでそのルート・エンティティー名が見つかりません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、ルート・エンティティー名を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84636 レコード &V1 のテンプレート ID が固有ではありません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 に指定されたテンプレート ID は関係表のいずれかの箇所重複しているため、リポジトリーに受け入れられませんでした。

ユーザーの処置:

760 DB2 QMF メッセージおよびコード

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、テンプレート ID を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ84637 レコード &V1 のテンプレート ID がリポジトリーと一致しません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 のテンプレート ID が、関係表 (存在する場合) またはリポジトリーによって作成されたテンプレート・ツリー内のどのテンプレート ID とも一致していません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、テンプレート ID を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ84638 レコード &V1 の親が前のレコードに見つかりません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。リレーショナル表の 1 つの R レコードの親テンプレート ID は、先の R レコードのテンプレート ID としても現われなければなりません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、親テンプレート ID を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84639 レコード &V1 の関連がりポジトリーに見つかりません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定された関連はそのデータベースで有効な関連の名前ではありません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、関係名を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引

き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84640 レコード &V1 の関連は指定されたエンティティにマップできません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定された関連はデータベースに存在しますが、同一レコードで指定された親テンプレート ID にマップできません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、エンティティ名を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ84641 ユーザーには、レコード &V1 内の関連を使用する権限がありません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定した関連はデータベースに存在しますが、あなたはそれを使用することを許可されていません。

ユーザーの処置:

レコード &V1 で指定された関係が正しくない場合は、関係の名前を変更してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、関係の使用許可について QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ84642 レコード &V1 の関連はリポジトリと一致しません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定された関連はデータベースに存在します。しかし、それは指定された集約視点の構成内に正しく位置付けられてはいません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、エンティティ名を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ84643 レコード &V1 のエンティティはリポジトリと一致しません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定したエンティティは同じレコードで指定した関連に関係しているエイジトリのエンティティ名と合いません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、関係またはエンティティを訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84645 レコード &V1 に指定された属性は現在の視点にありません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の条件の左側は現在の V レコードのテンプレートに関係する属性ではありません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、属性を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ84646 レコード &V1 で指定された変数が無効です。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で、条件中の比較値は変数として指定されていますが、有効な QMF 変数の形式ではありません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、変数の書式を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84647 レコード &V1 の比較値テンプレートが見つかりません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で条件の比較値はテンプレートと指定されて

DSQ84648 • DSQ84653

いますが、現行の視点にテンプレートは存在しません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、`template.field` を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ84648 レコード &V1 のテンプレートが最後の V レコードのテンプレートの前にありません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で条件の比較値はテンプレート・フィールドです。`template.field` のテンプレートは、ビュー構造において、最後の V レコードのテンプレートの前になければなりません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、必要に応じて条件を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84649 レコード &V1 で、比較値の属性がテンプレートにありません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の条件の比較値に指定された属性は、その比較値で指定されたテンプレートに属していません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、属性名を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ84650 レコード &V1 の比較値でフィールドと属性が一致しません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の条件の比較値に指定したフィールド名が、それに続く属性に対応しません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合

は、フィールド/属性名を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ84651 レコード &V1 の属性が指定されたテンプレートに見つかりません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 で指定した属性はその直前に指定したテンプレートの一部ではありません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、属性を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ84652 行 &V1 のテンプレートに対して使用する式が長過ぎます。

説明:

検索された照会の行 &V1 の特定のテンプレートの使用説明が長過ぎます。式の合計長の制限は 3300 文字です。この値に置換変数が使われている可能性があります。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、式を訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照するか、または QMF 管理者に連絡して支援を依頼してください。

DSQ84653 &V1 行のリテラルは無効です。

説明:

条件を完成させるために入力された &V1 行目のリテラルは比較演算子の左側の属性のデータ・タイプと一致しません。比較演算子の左側の属性は文字か数値のどちらかです。属性が数字の場合、リテラル・ストリングも数字でなくてはなりません。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更する適用業務を作成している場合は、リテラルを訂正してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ84654 &V1 行目の属性フィールドのデータ・タイプは一致していません。

説明:

&V1 行目の右側にあるテンプレート・フィールドの比較値のデータ・タイプは、条件の左側の属性のデータ・タイプと一致していません。数値データ・タイプは数値に対して、文字は文字に対してだけ比較できます。

ユーザーの処置:

条件の左側の属性が数値である場合、右側の比較値を数値 `template.field` に置き換えてください。左側のデータ・タイプが文字の場合は、右側に文字を使用してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ84670 **INTEGER: -2147483648 から 2147483647** で、デフォルト値があり、NULL は使用できません。

説明:

この列は整数データ・タイプです。この列は -2147483648 から 2147483647 の範囲の数を入れることができます。(最大 10 桁)

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字が許可されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84671 **INTEGER: -2147483648 から 2147483647** で、デフォルト値があり、NULL は使用できます。

説明:

この列は整数データ・タイプです。この列は -2147483648 から 2147483647 の範囲の数を入れることができます。(最大 10 桁)

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字が許可されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字が許可されます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84672 **SMALL INTEGER: -32768 から 32767** で、デフォルト値があり、NULL は使用できません。

説明:

この列は短精度整数データ・タイプです。この列は -32768 から 32767 の範囲の数を入れることができます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字が許可されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84673 **SMALL INTEGER: -32768 から 32767** で、デフォルト値があり、NULL は使用できます。

説明:

この列は短精度整数データ・タイプです。この列は -32768 から 32767 の範囲の数を入れることができます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字が許可されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字が許可されます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84674 **FLOAT: (+/-)&V1&V2&V3E(+/-)&V4** にはデフォルト値があり、NULL は使用できません。

説明:

上記の形式で、

- (+/-) は、任意の符号です (プラス、またはマイナス)
- &V1&V2&V3 は仮数部の桁です (倍精度は 17 桁まで、単精度は 8 桁まで)
- E は指数部の先頭で、浮動小数を表します。数値の指数部分は省略できます。
- + (オプション) または - は、指数の符号です。
- &V4 は、指数部の桁です (1 または 2 桁)

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V6) の予約文字が許可されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V5) の予約文字は許可されません。

「フィールドの表示」にはこの列のデータは表示されません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84675 FLOAT: (+/-)&V1&V2&V3E(+/-)&V4 には、デフォルト値があり、NULL を使用できます。

説明:

上記の形式で、

- (+/-) は、任意の符号です (プラス、またはマイナス)
- &V1&V2&V3 は仮数部の桁です (倍精度は 17 桁まで、単精度は 8 桁まで)
- E は指数部の先頭で、浮動小数を表します。数値の指数部分は省略できます。
- + (オプション) または - は、指数の符号です。
- &V4 は、指数部の桁です (1 または 2 桁)

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V6) の予約文字が許可されます。

この列で NULL の予約文字 (&V5) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

「フィールドの表示」にはこの列のデータは表示されません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84676 DECIMAL: &V1 は仮数部の前の桁、&V2 は後の桁、デフォルト値があり、NULL は使用できません。

説明:

この列は 10 進データ・タイプです。プラス、またはマイナスの符号は 10 進数の前に使用します。符号を省略するとプラスと見なされます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V4) の予約文字が許可されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V3) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84677 DECIMAL: &V1 は仮数部の前の桁、&V2 は後の桁、デフォルト値があり、NULL は使用できます。

説明:

この列は 10 進データ・タイプです。プラス、またはマイナスの符号は 10 進数の前に使用します。符号を省略するとプラスと見なされます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V4) の予約文字が許可されます。

この列で NULL の予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84678 VARYING CHARACTER(&V1): デフォルト値があり、NULL は使用できません。

説明:

この列は VARCHAR のデータ・タイプです。&V1 の文字まで入れることができます。大域変数 DSQCP_RMV_BLANKS が 1 に設定されている場合、末尾ブランクはデータから除去されます。

この列でデフォルトの予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V2) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84679 VARYING CHARACTER(&V1): デフォルト値があり、NULL は使用できます。

説明:

この列は VARCHAR のデータ・タイプです。&V1 の文字まで入れることができます。大域変数 DSQCP_RMV_BLANKS が 1 に設定されている場合、末尾ブランクはデータから除去されます。

この列でデフォルトの予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列で NULL の予約文字 (&V2) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84680 CHARACTER(&V1): デフォルト値があり、NULL は使用できません。

説明:

この列には &V1 文字まで使用できます。データベース内の列は常に &V1 文字の長さです。&V1 文字より少ないキーが入力されると列の最後にブランクが追加されます。

この列でデフォルトの予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V2) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84681 CHARACTER(&V1): デフォルト値があり、NULL は使用できます。

説明:

この列には &V1 文字まで使用できます。データベース内の列は常に &V1 文字の長さです。&V1 文字より少ないキーが入力されると列の最後にブランクが追加されます。

この列でデフォルトの予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列で NULL の予約文字 (&V2) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84682 VARYING GRAPHIC(&V1): デフォルト値があり、NULL は使用できません。

説明:

この列には &V1 文字までの DBCS 文字を使用できます。大域変数 DSQCP_RMV_BLANKS が 1 に設定されている場合、末尾ブランクはデータから除去されます。

この列でデフォルトの予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V2) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84683 VARYING GRAPHIC(&V1): デフォルト値があり、NULL は使用できます。

説明:

この列には &V1 文字までの DBCS 文字を使用できます。大域変数 DSQCP_RMV_BLANKS が 1 に設定されている場合、末尾ブランクはデータから除去されます。

この列でデフォルトの予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列で NULL の予約文字 (&V2) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

DSQ84684 • DSQ84687

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84684 GRAPHIC(&V1): デフォルト値があり、**NULL** は使用できません。

説明:

この列には &V1 文字までの DBCS 文字を使用できます。データベース内の列は常に &V1 文字の長さです。&V1 文字より少ないキーが入力されると列の最後にブランクが追加されます。

この列でデフォルトの予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V2) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84685 GRAPHIC(&V1): デフォルト値があり、**NULL** は使用できます。

説明:

この列には &V1 文字までの DBCS 文字を使用できます。データベース内の列は常に &V1 文字の長さです。&V1 文字より少ないキーが入力されると列の最後にブランクが追加されます。

この列でデフォルトの予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列で **NULL** の予約文字 (&V2) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84686 DATE: &V1 はデフォルト値があり、**NULL** は使用できません。

説明:

デフォルトの日付の形式は上で示したとおりです。入

力しようとしたデータの正しい形式は

「mm/dd/yyyy」、「yyyy-mm-dd」、「dd.mm.yyyy」、またはインストール先のユーザー設定の日付形式です。

yyyy 年です。先頭の 2 桁が現在の日付の西暦であると見なされる場合は、2 桁で年を指定できません。

mm 月です。(1 桁または 2 桁)

dd 日です。(1 桁または 2 桁)

この列でデフォルトの予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V2) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

有効な形式の日付を入力してください。

DSQ84687 DATE: &V1 はデフォルト値があり、**NULL** は使用できます。

説明:

デフォルトの日付の形式は上で示したとおりです。入力しようとしたデータの正しい形式は「mm/dd/yyyy」、「yyyy-mm-dd」、「dd.mm.yyyy」、またはインストール先のユーザー設定の日付形式です。

yyyy 年です。先頭の 2 桁が現在の日付の西暦であると見なされる場合は、2 桁で年を指定できません。

mm 月です。(1 桁または 2 桁)

dd 日です。(1 桁または 2 桁)

この列でデフォルトの予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列で **NULL** の予約文字 (&V2) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

有効な形式の日付を入力してください。

DSQ84688 **TIME:** &V1 はデフォルト値があり、
NULL は使用できません。

説明:

デフォルトの時間の形式は上で示したとおりです。入力データの正しい形式は、「hh:mm AM (または PM)」、「hh:mm:ss」、「hh.mm.ss」、またはご使用のシステムの地方時の形式です。

hh 時間です。(1 桁または 2 桁)

mm 分です。(1 桁または 2 桁)

ss 秒です。(1 桁または 2 桁)

秒はオプションです。

この列でデフォルトの予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V2) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

有効な形式の時刻を入力してください。

DSQ84689 **TIME:** &V1 はデフォルト値があり、
NULL は使用できます。

説明:

時間のデフォルトの形式はメッセージ・テキストで示されています。入力データの正しい形式は、「hh:mm AM (または PM)」、「hh:mm:ss」、「hh.mm.ss」、またはご使用のシステムの地方時の形式です。

hh 時間です。(1 桁または 2 桁)

mm 分です。(1 桁または 2 桁)

ss 秒です。(1 桁または 2 桁)

秒はオプションです。

この列でデフォルトの予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

この列で **NULL** の予約文字 (&V2) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

有効な形式の時刻を入力してください。

DSQ84690 **TIMESTAMP:** yyyy-mo-dd-
hh.mm.ss.&V3 にはデフォルト値があり、
NULL は使用できません。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことができます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字が許可されます。)

この列はヌルにできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字は許可されません。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- &V3 は、小数秒の数値を表します。これはデータ・タイプ形式のオプション部分です。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

DSQ84691 **TIMESTAMP:** yyyy-mo-dd-
hh.mm.ss.&V3 にはデフォルト値があり、
NULL は使用できます。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことができます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字が許可されます。)

この列はヌルにできます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字が許可されます。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。

DSQ84692 • DSQ84712

- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- &V3 は、小数秒の数値を表します。これはデータ・タイプ形式のオプション部分です。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

DSQ84692 OK、表示された **VARYING CHARACTER(&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できません。

DSQ84693 OK、表示された **VARYING CHARACTER(&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できます。

DSQ84694 OK、表示された **CHARACTER(&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できません。

DSQ84695 OK、表示された **CHARACTER(&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できます。

DSQ84696 OK、表示された **VARYING GRAPHIC (&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できません。

DSQ84697 OK、表示された **VARYING GRAPHIC(&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できます。

DSQ84698 OK、表示された **GRAPHIC(&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できません。

DSQ84699 OK、表示された **GRAPHIC(&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できます。

DSQ84700 OK、**HEX** で表示された **ROWID** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できません。

DSQ84701 OK、表示された **CLOB(&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できません。

DSQ84702 OK、表示された **CLOB(&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できません。

DSQ84703 OK、表示された **CLOB(&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できません。

DSQ84704 OK、表示された **CLOB(&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できます。

DSQ84705 OK、表示された **BLOB(&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できません。

DSQ84706 OK、表示された **BLOB(&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できません。

DSQ84707 OK、**CLOB(&V1)** が表示されました。**SEARCH** は **LIKE** を使用します。

DSQ84708 OK、**BLOB(&V1)** が表示されました。**SEARCH** は **LIKE** を使用します。

DSQ84709 OK、**DBCLOB(&V1)** が表示されました。**SEARCH** は **LIKE** を使用します。

DSQ84710 OK、表示された **BLOB(&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できません。

DSQ84711 OK、表示された **BLOB(&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できません。

DSQ84712 OK、表示された **DBCLOB(&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できません。

DSQ84713 OK、表示された **DBCLOB(&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できません。

DSQ84714 OK、表示された **DBCLOB(&V1)** にはデフォルト値があり、**NULL** は使用できます。

DSQ84715 OK、表示された **DBCLOB(&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できます。

DSQ84716 **BIGINT: -9223372036854775808** から **9223372036854775807** で、デフォルト値があり、**NULL** にはできません。

説明:

この列は、**Big Integer** データ・タイプで定義されています。この列の値は、**-9223372036854775808** から **9223372036854775807** の範囲にできます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (**&V2**) の予約文字が許可されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル値 (**&V1**) の予約文字は許可されません。

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

ユーザーの処置:

上記の有効範囲に従って、この列にデータを入力してください。

DSQ84717 **BIG INT:-9223372036854775808** から **9223372036854775807** で、デフォルト値があり、**NULL** を使用できます。

説明:

この列のデータ・タイプは **Big Integer** です。この列には、**-9223372036854775808** から **9223372036854775807** の範囲の数を入れることができます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (**&V2**) の予約文字が許可されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (**&V1**) の予約文字が許可されます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ84718 **BIGINT: -9223372036854775808** から **9223372036854775807** で、デフォルトはなく、**NULL** にはできません。

説明:

この列は、**Big Integer** データ・タイプで定義されています。この列の値は、**-9223372036854775808** から **9223372036854775807** の範囲にできます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (**&V2**) の予約文字は許可されません。

この列では、追加モードまたは変更モードで、**NULL** 値用に予約された文字 (**&V1**) も許可されません。

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

ユーザーの処置:

上記の有効範囲に従って、この列にデータを入力してください。

DSQ84719 タイム・スタンプ: **yyyy-mm-dd-hh.mm.ss** には省略時値があり、ヌルにはできません。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことができます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (**&V2**) の予約文字が許可されます。)

この列はヌルにできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (**&V1**) の予約文字は許可されません。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- **yyyy-mm-dd** は年、月、および日です。
- **hh.mm.ss** は時間、分、および秒です。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

DSQ84720 タイム・スタンプ: **yyyy-mo-dd-hh.mm.ss** には省略時値があり、ヌルが許可されています。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことができます。(「追加」

DSQ84721 • DSQ84970

モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字が許可されます。)

この列はヌルにできます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字が許可されます。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

DSQ84721 タイム・スタンプ: yyyy-mm-dd-
hh.mm.ss には省略時値はなく、ヌルには
できません。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことはできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字は許可されません。)

この列はヌルにできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字は許可されません。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

yyyy-mm-dd は年、月、および日です。
hh.mm.ss は時間、分、および秒です。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

DSQ84722 タイム・スタンプ: yyyy-mm-dd-
hh.mm.ss には省略時値はなく、ヌルが許
可されています。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことはできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフ

ォルト (&V2) の予約文字は許可されません。)

この列はヌルにできます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字が許可されます。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

yyyy-mm-dd は年、月、および日です。
hh.mm.ss は時間、分、および秒です。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

DSQ84723 OK、HEX で表示された ROWID にはデ
フォルト値がなく、NULL は使用できま
す。

DSQ84970 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 に、正しく
使用されていない条件があります。

説明:

このエラーは以下のいずれかが原因で起こったと考えられます。

- 条件が、データベースにまだ存在していないデータを参照している。(I. 演算子を使用して) データを挿入しようとしている行で条件を使用することはできません。その行が挿入されるまで、その行は存在していないためです。
- XML データを挿入しようとしていますが、データが単一引用符で囲まれていません。したがって、QBE は XML データを式として解釈します。XML データは、条件と区別するため、以下のように単一引用符で囲む必要があります。

MYTABLE	XML1	SPECIES
I.	'<X>TINKERBELL</X>'	'FAIRY'

- 無名列に条件を入力した。次の例では、列の名前がないため、どの列のデータを表示するのか QBE が判別できません。

TABLE1	ID
P. = 5000	

次の例は、有効な照会であり、名前のある列に条件が入っています。

TABLE1	BONUS	ID
P. = 5000		

ユーザーの処置:

条件を除去または訂正するか、XML データを単一引用符で囲んでください。

DSQ84971 照会の中の定数の長さが 254 文字を超えています。

説明: 744 ページの『DSQ84228』を参照してください。

DSQ84972 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、二重引用符が無効です。

説明:

この文脈の中では二重引用符は無効です。

ユーザーの処置:

無効な二重引用符を除去してください。

DSQ84973 表 &V1 の行 &V2 の行フィールドで、二重引用符が無効です。

説明:

この文脈の中では二重引用符は無効です。

ユーザーの処置:

無効な二重引用符を除去してください。

DSQ84974 表 &V1 の列 &V2 の列名の中に奇数個の二重引用符があります。

説明:

列名を囲む二重引用符は、次の例に示すように偶数個でなければなりません。

```
"SALARY + COMM"
```

ユーザーの処置:

二重引用符の数が偶数になるように注意して、列名を訂正してください。

DSQ84975 表 &V1 の表名の中に奇数個の二重引用符があります。

説明:

表名を囲む二重引用符は、次の例に示すように偶数個でなければなりません。

```
"DEPT 45".STAFF  
Q."MY STAFF"
```

ユーザーの処置:

二重引用符の数が偶数になるように注意して、表名を訂正してください。

DSQ84976 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' は無効な DBCS 定数です。

説明:

DBCS は次のような形になっていなければなりません。

```
G'...DBCS...'
```

ユーザーの処置:

DBCS 定数を訂正してください。

DSQ84977 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' にシフトイン文字が欠落しています。

説明:

DBCS 定数はシフトイン文字で終わっていなければなりません。

ユーザーの処置:

DBCS 定数を訂正してください。

DSQ84978 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、二重引用符が無効です。

説明:

データ・フィールドに二重引用符を入力することはできません。

ユーザーの処置:

データ・フィールドから二重引用符を除去してください。

DSQ84979 表 &V1 の行 &V2 の行フィールドで、二重引用符が無効です。

説明:

行フィールドに二重引用符を入力することはできません。

ユーザーの処置:

行フィールドから二重引用符を除去してください。

DSQ84980 表 &V1 の列名 &V2 の中の隣接する二重引用符は無効です。

説明:

二重引用符を互いに隣合う形で指定することはできません。二重引用符の無効な使用例と有効な使用例を次に示します。

```
VALID                                INVALID  
-----                            -----  
"LOCAL STAFF"                       ""
```

ユーザーの処置:

DSQ84981 • DSQ84995

エラーを訂正し、コマンドを再発行してください。

DSQ84981 表名 &V1 の中の隣接する二重引用符は無効です。

説明:

二重引用符を互いに隣合う形で指定することはできません。二重引用符の無効な使用例と有効な使用例を次に示します。

```
VALID          INVALID
-----
"LOCAL STAFF"  ""
```

ユーザーの処置:

エラーを訂正し、コマンドを再発行してください。

DSQ84982 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の '&V4' で、指数が欠落しています。

説明:

この数字の中には、次の例のように指数が指定されていなければなりません。

```
456783E2
```

ユーザーの処置:

定数を訂正してください。

DSQ84983 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、'&V4' は無効な比較演算子です。

説明:

有効な比較演算子は次のとおりです。

```
> < >= <= = ~
```

ユーザーの処置:

比較演算子を訂正してください。

DSQ84984 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 で、単一引用符の数が偶数ではありません。

説明:

単一引用符は定数を囲むために使用できます。また、2つの隣接する単一引用符を用いて単一の引用符を表します。例えば、次のようにします。

```
O' BOYLE          (interpreted to mean, O'BOYLE)
'P. LANGAN'      (interpreted to mean, P. LANGAN)
```

ユーザーの処置:

定数の中に含まれる単一引用符の数が偶数になるようにしてください。

DSQ84985 例示表 &V1 の表名域の修飾子の次には、表名が続いていなければなりません。

説明:

修飾子の後には表名が必要です。例:

```
"Q".STAFF | NAME | SALARY |
-----+-----+-----+
P.      |      | >20000 |
```

修飾子 (Q) の次には、表名 (STAFF) が続いています。

ユーザーの処置:

欠落している表名を補ってください。

DSQ84990 例示表には、少なくとも 1 つは列が入っていないなければなりません。

説明:

QBE 照会の各例示表には、少なくとも 1 つずつ、列が入っていないなければなりません。

ユーザーの処置:

DELETE コマンドを用いて例示表を削除し、DRAW コマンドを用いて例示表を再作成してください。

DSQ84991 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84992 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84993 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84994 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84995 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84996 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84997 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ84999 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85000 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85001 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85002 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ85003 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ85004 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ85005 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ85006 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85007 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85008 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85009 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85010 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85011 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85015 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85016 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85018 照会には、名前の付いた例示表が少なくとも 1 つは含まれていなければなりません。

説明:

照会は、少なくとも 1 つ、既存の表を名前で参照していなければなりません。

ユーザーの処置:

DRAW コマンドを用いて、照会の中で使用したい 1 つまたは複数の表を作成してください。

DSQ85019 例示エレメント &V1 は不要です。

説明:

照会が実行されました。しかし、この例示エレメントは照会のどこにも使用されませんでした。したがって、必要ありません。

ユーザーの処置:

この例示エレメントを照会のどこかで参照するつもりであった場合は、そのための必要な訂正を加えた上で、照会を再実行してください。

DSQ85020 照会には、名前の付いた例示表が少なくとも 1 つは含まれていなければなりません。

説明:

照会の中のどの例示表にも、表の名前が示されていません。表のうちの少なくとも 1 つは、表名区域に入っている既存の表の名前を備えたものでなければなりません。

ユーザーの処置:

DRAW コマンドを用いて、照会で使用したい 1 つまたは複数の表を表示してください。各例示表には、それが表す表の名前が自動的に入ります。

DSQ85021 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85022 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85023 照会には、P、D、U、または I 演算子が必要です。

説明:

照会は、表示 (P)、削除(D)、更新(U)、または挿入 (I) を行うために使用するものです。

ユーザーの処置:

照会の中の例示表の該当行に、P、D、U、または I のいずれかの演算子を追加してください。

DSQ85024 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85025 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ85026 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ85027 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ85028 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85029 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85030 例示表 &V1 の表名の中の二重引用符は無効です。

説明:

表名全体を二重引用符で囲むことはできますが、名前自体の途中に二重引用符を用いることはできません。

Correct: "DEPT 46 SALES"
"DEPT '46' SALES"
Incorrect: "DEPT "46" SALES"

ユーザーの処置:

表名から二重引用符を取り除いてください。

DSQ85031 例示表 &V1 の表名域の修飾子の次には、表名が続いていなければなりません。

説明: 772 ページの『DSQ84985』を参照してください。

DSQ85032 例示表 &V1 の表名の中の二重引用符は無効です。

説明: 774 ページの『DSQ85030』を参照してください。

DSQ85033 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の中のソート形式が無効です。

説明:

有効なソート形式の例を下に示します。

AO, DO, AO(1), DO(2).

ゼロではなく英字の O を使用するよう注意してください。

ユーザーの処置:

正しいソート形式を使用してください。

DSQ85034 照会が長すぎます。

説明: 278 ページの『DSQ20923』を参照してください。

DSQ85035 表 &V1 の行 &V2 の中の重複 D. は無視されました。

説明:

照会は実行されました。

ユーザーの処置:

特にありません。

DSQ85036 表 &V1 の行 &V2 の中の重複 I. は無視されました。

説明:

照会は実行されました。

ユーザーの処置:

特にありません。

DSQ85037 表 &V1 の行 &V2 の中の重複 P. は無視されました。

説明:

照会は実行されました。

ユーザーの処置:

特にありません。

DSQ85038 例示表 &V1 の行 &V2 に、複数の ALL. または UNQ. が含まれています。

説明:

ALL. または UNQ. を行演算子として使用できるのは、1 つの行で一度だけです。

ユーザーの処置:

余分な UNQ. 演算子および ALL. 演算子をすべて除去してください。

DSQ85039 例示表 &V1 の行 &V2 に、複数の ALL. または UNQ. が含まれています。

説明: 『DSQ85038』を参照してください。

DSQ85040 例示表 &V1 の行 &V2 に ALL. または UNQ. がありますが、これは P. 演算子を持つ行でしか使用できません。(The ALL. or UNQ. in row &V2 of example table &V1 may be used only in a row that has a P. operator.)

説明:

P. 演算子が必要です。なぜなら、行演算子としての ALL. および UNQ. が参照するのは検索されたデータだけであり、データを検索するためには P. 演算子を使わなければならないからです。

ユーザーの処置:

ALL. または UNQ. を取り除くか、あるいはこの行に少なくとも 1 つの P. 演算子を入れてください。

DSQ85041 例示表 &V1 の列 &V2 の列名の中にある二重引用符は無効です。

説明:

列名全体を二重引用符で囲むことはできますが、名前自体に二重引用符が含まれてはなりません。例:

```
Correct: "SALARY + COMM"
          "DEPT 'NUM' "
Incorrect: "PART 'NUM' "
```

ユーザーの処置:

列名の中の二重引用符を取り除いてください。

DSQ85042 表 &V1 の行 &V2 の中の重複した G. が無視されました。

説明:

照会は実行されました。

ユーザーの処置:

特にありません。

DSQ85043 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の D. は、列の中に使用すると無効です。

説明:

D. は、行全体を削除する場合にかぎり使用してください。列からデータを削除する場合には D. は使用できません。

ユーザーの処置:

D. を列から取り除いてください。列からデータを削除したい場合には、U. 演算子を使用します。例:

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
	SMITH	U.NULL	

行全体を削除するには、D. を次のように使用します。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
D.	SMITH		

DSQ85044 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の I. は、列に使用すると無効です。

説明:

I. は、行全体を挿入したい場合にかぎり使用してください。既存の行の列にデータを挿入することはできません。

ユーザーの処置:

I. を列から取り除いてください。既存の列にデータを挿入したい場合には、U. を使用します。例:

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
	SMITH	U.20000	

行全体を挿入するには、I. を次のように使用します。

Q.STAFF	NAME	ID
I.	SMITH	702

DSQ85045 例示表 &V1 の行 &V2 の中の重複 U. は無視されました。

説明:

照会の中で複数の U. が使われています。2 番目以降の U. は無視されます。

ユーザーの処置:

更新したい事項がまだ残っているのであれば、新たな照会を書いて実行してください。

DSQ85046 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 の重複する演算子 P. は無視されました。

説明:

照会は、重複する P. 演算子を用いずに実行されました。

ユーザーの処置:

P. 演算子をどこかほかの場所に使用するつもりだった場合には、照会を修正し、再実行してください。

照会を保管したい場合には、重複する P. 演算子は除去しなければなりません。

DSQ85047 例示表 &V1 の列 &V3 に、複数のソート演算子 (AO. または DO.) が含まれています。

説明:

1 つの列には、分類演算子は 1 つしか使用できません。次の例は、名前列に分類演算子が 2 つ指定されているために、無効です。

Invalid query:	Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM
	P.	AO.	>20000	>800
	P.	DO.		

ユーザーの処置:

列に、AO. 演算子または DO. 演算子を 1 つだけ指定してください。

DSQ85048 表 &V2 の列 &V4 で、行 &V3 の中の &V1 は無効です。

説明:

例示表 &V2 の行 &V3 の列 &V4 の &V1 で始まる項目は、その行および列に別の入力があるので、無効です。

例えば、20 P. 30 という入力 (この入力は正しくありません) が列の中に現われたとします。ここでは、入力 30 が無効であり、このメッセージが表示されます。

ユーザーの処置:

&V1 で始まる部分をすべて取り除き、残った値が正しいことを確認して、照会を再実行してください。

DSQ85049 表 &V1 の演算子の組み合わせが無効です。

説明:

同じ例示表または目標表の中で、演算子 I.、U.、D.、および P. を 2 つ以上使用することはできません。(同じ演算子を複数使用することはできます。)

ユーザーの処置:

表 &V1 を訂正し、照会を再実行してください。

DSQ85050 D、I、U、または P. 演算子は、1 つの表にしか指定できません。

説明:

1 つの照会で複数の表の削除、挿入、更新、または検索を行うことはできません。

ユーザーの処置:

削除、挿入、更新、および検索のそれぞれに対して、個別の照会を作成し実行してください。

DSQ85051 例示表 &V1 の行 &V2 には D、U、または I. 演算子があるため、G. を使用することはできません。 (You cannot use a G. in row &V2 of example table &V1 because the row has a D., U., or I. operator.)

説明:

上記の演算子のどれかを含む行をグループ化することはできません。例:

```
Invalid query:  Q.STAFF | DEPT | SALARY |
                -----|-----|
                I. | G._D | _SAL |
```

ユーザーの処置:

グループ化演算子を除去してください。

DSQ85052 例示表 &V1 の表名の修飾子が、8 文字を超えています。

説明:

修飾子は、表の所有者を識別するためのものです。修飾子は、8 文字より長くすることはできません。

ユーザーの処置:

修飾子を訂正してください。正しい修飾子が思い出せない場合には、次のコマンドを出して見つけてください。

```
LIST TABLES (OWNER=ALL)
```

このコマンドは、使用を許可されているすべての表をリストします。使用したい表の名前をこのリストから探してください。表の修飾子はオブジェクト所有者 (OWNER) という列に示されています。

DSQ85053 例示表 &V1 の列 &V2 の名前が 30 文字を超えています。

説明:

列名を &LC. 文字より長くすることはできません。

ユーザーの処置:

無効な列名を表に対して定義された列名と置き換えてください。有効な名前を再呼び出しできない場合は、以下のコマンドを発行してください。

```
DRAW tablename
```

ここで、tablename は調べたい表の名前です。これによって、その表のすべての列の名前を備えた例示表が表示されます。

DSQ85054 例示表 &V1 の列 &V2 の列名の中にある二重引用符は無効です。

説明: 775 ページの『DSQ85041』を参照してください。

DSQ85055 例示表 &V1 の表名が 128 文字を超えています。

説明:

&LS. への現行データベース接続は、以下の長さをサポートします。

- データベース表名は <. 文字まで指定できます。

ユーザーの処置:

表名を訂正してください。名前を忘れた場合、次のコマンドを実行してください。

```
LIST TABLES (OWNER=ALL)
```

このコマンドは、使用を許可されているすべての表をリストします。

DSQ85056 例示表 &V1 に I、D. または U. がありますが、名前がありません。

説明:

変更したい表の名前を指定しなければなりません。

ユーザーの処置:

変更したい表の名前を例示表 &V1 に入力してください。

DSQ85057 例示表 &V1 内の AO. または DO. は、P. 演算子で指定された表で使用しなければなりません。(The AO. or DO. in example table &V1 must be used in a table with a P. operator.)

説明:

ソートできるのは検索されたデータだけです。データを検索するためには、P. 演算子を使用しなければなりません。

ユーザーの処置:

ソート演算子を除去するか、または、ソート演算子を含む行に P. 演算子を入れてください。

DSQ85058 例示表 &V1 の表名の修飾子が、8 文字を超えています。

説明: 777 ページの『DSQ85052』を参照してください。

DSQ85059 表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 には G. 演算子が含まれています。この列には名前が付いていなければなりません。

説明:

G. の使用は、特定の列の値で行をグループ化することを意味します。G. 列の名前が、同じ列の G. の上に入力されていないければなりません。例えば、次のようになります。

```
Q.STAFF | SALARY | DEPT |
-----+-----+-----+
      |      |      |
      |  S  | P.G. | P.AVG. S
```

ユーザーの処置:

G. を含む列の列名を、その列の G. の上に入力するか、または G. 演算子を除去してください。

DSQ85060 例示表 &V1 の表名が 128 文字を超えています。

説明: 777 ページの『DSQ85055』を参照してください。

DSQ85062 例示表 &V2 の行 &V3 の &V1 は、行演算子域では無効です。

説明:

行演算子域で有効な QBE の演算子は次のものだけです。

P., D., I., UNQ., or ALL.

ユーザーの処置:

&V1 を有効な演算子と置き換えるか、あるいは、行演

778 DB2 QMF メッセージおよびコード

算子域からそれを取り除いてください。次に示す QBE の演算子は、

U., AO., DO., and G.

行演算子域での使用は無効なので、注意してください。

DSQ85063 例示表 &V1 の列 &V2 の名前が 30 文字を超えています。

説明: 777 ページの『DSQ85053』を参照してください。

DSQ85066 例示表 &V2 の行 &V3 の列 &V4 の例示要素 &V1 の長さが、30 文字を超えています。

説明:

例示要素名は &LC. 文字を超えて指定できません。

ユーザーの処置:

短い例示要素名を選択してください。

DSQ85067 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85068 例示表 &V1 には、名前付きの列が少なくとも 1 つは必要です。

説明:

名前付きの例示表には、少なくとも 1 つは名前付きの列が含まれていなければなりません。

ユーザーの処置:

DELETE コマンドを用いて、名前のない表を削除してください。その上で、DRAW コマンドを用いて表とその列を描きなおしてください。

DSQ85074 照会が長すぎます。

説明: 278 ページの『DSQ20923』を参照してください。

DSQ85075 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85091 • DSQ85114

次の例では、条件が D. 行のグループ化を暗黙に指定しています。

ユーザーの処置:

次の例のように、暗黙のグループ化を変更してください。例えば、次のようになります。

Q.EMP	NAME	SALARY	CONDITIONS
D.		_S	_S <= AVG._SA

DSQ85091 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 に D.、U.、または I. 演算子を持つ行へのグループ参照があります。

説明:

D.、U.、または I. が指定された行をグループ化することはできません。組み込み関数の中でこの種の行を参照すると、その行のグループ化を暗に示すこととなります。例えば次のようにします。

Invalid query:

Q.EMP	NAME	SALARY	COMM
D.		>AVG._CM	_CM

2 行目の条件が D. 行のグループ化を暗黙に指定しています。

ユーザーの処置:

You may want to change the implied grouping. For example,

Q.EMP	NAME	SALARY	COMM
D.		>AVG._CM	_CM

DSQ85094 条件ボックス &V1 の条件 &V2 の例示エレメント &V3 は、指定された表の列を表すものでなければなりません。

説明:

メッセージに示されている例示エレメントは、照会の中で指定されたどの表の列も表していません。

ユーザーの処置:

未定義の例示エレメントに対するすべての参照を条件ボックスから取り除くか、またはその例示エレメントを定義してください。それを定義するためには、その例示エレメントが表す列の中に、その例示エレメントの名前だけを (QBE 演算子の場合を除く) 入れます。

例: 以下の照会で、Q.STAFF の SALARY 列に _S を追加することは、S をその列を表すものとして定義し、それを条件ボックスで使用できるようにするという事です。

Q.STAFF	NAME	SALARY	COMM	CONDITIONS
P.		AO._S	_C	_S <= 20000

DSQ85098 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85099 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85100 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85103 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85104 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85105 照会が長すぎます。

説明: 278 ページの『DSQ20923』を参照してください。

DSQ85106 照会が長すぎます。

説明: 278 ページの『DSQ20923』を参照してください。

DSQ85114 例示表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 に P. 演算子が指定されていますが、名前がありません。

説明:

データを検索したい列の名前を指定しなければなりません。

ユーザーの処置:

P. を除去するか、または、その列に名前を指定しなければなりません。列に名前を指定する場合には、それが例示表を定義している列の名前であることを確認してください。

DSQ85115 例示表 &V1 の中の P. 演算子を含む行はすべて、同じ列からデータを検索するものでなければなりません。

説明:

照会の中に、P. 演算子を含む行が 2 行以上あります。このような行の 1 つで検索されている個々の列は、ほかのすべての行でも検索されていなければなりません。

```
Invalid query:  Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM
                -----|-----|-----|-----
                | P.   | P.>20000 | P.>1200 |
```

この照会は無効です。なぜなら、1 行目は SALARY の列からデータを検索しているのに 2 行目はそうではなく、また、2 行目は COMM の列からデータを検索しているのに 1 行目はそうでないからです。

ユーザーの処置:

P. 演算子を含む行がすべて同じ列 (複数も可) から検索を行うように、P. 演算子を配置してください。

DSQ85116 例示表 &V1 の中の P. 演算子を含む行はすべて、同じ列からデータを検索するものでなければなりません。

説明:

照会の中に、P. 演算子を含む行が 2 行以上あります。このような行の 1 つで検索されている個々の列は、ほかのすべての行でも検索されていなければなりません。

```
Invalid query:  Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM
                -----|-----|-----|-----
                | P.   | P.>20000 | P.>1200 |
```

この照会は無効です。なぜなら、1 行目は SALARY の列からデータを検索しているのに 2 行目はそうではなく、また、2 行目は COMM の列からデータを検索しているのに 1 行目はそうでないからです。

ユーザーの処置:

P. 演算子を含む行がすべて同じ列 (複数も可) から検索を行うように、P. 演算子を配置してください。

DSQ85130 例示表 &V1 には表名がありません。表名を付けるか、またはこの表の列名を除去してください。

説明:

名前のない例示表 (ターゲット表) は、名前の付いた列を含むことはできません。

ユーザーの処置:

この例示表を目標表にするつもりであれば、列名を除去してください。そうでない場合には、例示表に、その例示表が表す表の名前を指定してください。

DSQ85131 目標表 &V1 の行 &V2 には、P. 演算子が必要です。

説明:

メッセージに示されている行には、少なくとも 1 個は列項目が含まれています。目標表では、このような行はデータの検索を行うために使用されるものです。したがって P. 演算子が含まれていなければなりません。

ユーザーの処置:

この行の行演算子域に P. を指定してください。または、項目のあるすべての列に、P. 演算子を入力してください。

DSQ85132 目標表 &V1 の行 &V2 に、P. 演算子が含まれていません。

説明:

目標表 &V1 の行 &V2 の P. は、データの検索を指示するものです。しかし、何を検索するのかが指定されていません。

ユーザーの処置:

表 &V1 の各列に項目を入れて、各列に必要な処理を示してください。例:

```
Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM | P. | _N | _S+_C
-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----
```

この例では、目標表の項目は _N および _S+_C です。照会を実行すると、従業員名 (_N) と、各従業員の 1 か月分の総収入 (_S+_C) がリストされます。

DSQ85133 目標表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 には、項目はありますが P. 演算子がありません。

説明:

目標表の各列項目は、検索すべきデータを指定していません。データの検索は、P. 演算子によって指示しなければなりません。

ユーザーの処置:

行 &V2 に P. 演算子を入れてください。これは、行演算子域または列 &V3 のいずれかに入れてください。

DSQ85134 例示表 &V1 の中の P. 演算子を含む行はすべて、同じ列からデータを検索するものでなければなりません。

説明:

照会の中に、P. 演算子を含む行が 2 行以上あります。このような行の 1 つで検索されている個々の列は、ほ

DSQ85135 • DSQ85155

かのすべての行でも検索されていなければなりません。

```
Invalid      Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM
query:      -----|-----|-----|-----
            P.      | P.>20000 | P.>1200 |
```

この照会は無効です。なぜなら、1 行目は SALARY の列からデータを検索しているのに 2 行目はそうではなく、また、2 行目は COMM の列からデータを検索しているのに 1 行目はそうでないからです。

ユーザーの処置:

P. 演算子を含む行がすべて同じ列 (複数も可) から検索を行うように、P. 演算子を配置してください。

DSQ85135 目標表 &V1 の行 &V2 の列 &V3 に、P. 演算子がありますが、なにを検索するのかが示されていません。

説明:

目標表の列に P. 演算子が入っている場合には、検索目標も同時に示されていなければなりません。

ユーザーの処置:

列から P. を除去するか、または検索したいものの指示を追加してください。検索できるものは、定数 ('J. JONES' など)、例示エレメント (_S など)、または式 (_S _C など) のいずれかです。

DSQ85136 例示表 &V1 の中の P. 演算子を含む行はすべて、同じ列からデータを検索するものでなければなりません。

説明:

照会の中に、P. 演算子を含む行が 2 行以上あります。このような行の 1 つで検索されている個々の列は、ほかのすべての行でも検索されていなければなりません。

```
Invalid      Q.STAFF | NAME | SALARY | COMM
query:      -----|-----|-----|-----
            P.      | P.>20000 | P.>1200 |
```

この照会は無効です。なぜなら、1 行目は SALARY の列からデータを検索しているのに 2 行目はそうではなく、また、2 行目は COMM の列からデータを検索しているのに 1 行目はそうでないからです。

ユーザーの処置:

P. 演算子を含む行がすべて同じ列 (複数も可) から検索を行うように、P. 演算子を配置してください。

DSQ85150 例示表 &V1 の列 &V2 内の AO. または DO. は、データの検索先となる列に指定する必要があります。

説明:

データのソートは、検索されたデータに基づいてだけ行うことができます。そして、データを検索するためには、P. 演算子を使用しなければなりません。

ユーザーの処置:

AO. か DO. を取り除くか、AO. または DO. が指定されているのと同じ列に P. を入力してください。

DSQ85151 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85152 行 &V1 の列 &V2 の AO. または DO. の後にソート優先順位が必要です。

説明:

QBE 照会に 2 つ以上の AO. または DO. が存在する場合、それぞれの AO. および DO. の後に数値が必要です。この数値が、ソートの優先順位となります。例えば、次のようになります。

```
Q.STAFF | NAME | DEPT | SALARY
-----|-----|-----|-----
P.      | AO(2). | AO(1). |
```

DEPT でソートされ、各 DEPT 内では NAME によってソートされます。

ユーザーの処置:

照会でのそれぞれの AO. または DO. の後に数値を挿入してください。

DSQ85153 2 つの AO. または DO. 演算子の中に同じソート優先順位があってはなりません。

説明:

ソート演算子の中の数値が、そのソート優先順位を表します。例えば次のようにします。

```
Q.STAFF | NAME | DEPT | SALARY
-----|-----|-----|-----
P.      | AO(2). | AO(1). |
```

DEPT でソートされ、各 DEPT 内では NAME によってソートされます。

ユーザーの処置:

重複したソート優先順位を取り除いてください。

DSQ85155 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

DXEECP ベース値がエコー機能を要求しました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレーサ・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップし

たパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ85156 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

機能を実行するためにはエコー・ベースを表示する必要があります。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ85157 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 782 ページの『DSQ85155』を参照してください。

DSQ85158 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

エコー・ベースが表示されています。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ85159 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

エコー行トークンまたは ID が見つかりませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ85160 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ85156』を参照してください。

DSQ85161 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ85156』を参照してください。

DSQ85162 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ85159』を参照してください。

DSQ85163 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 782 ページの『DSQ85155』を参照してください。

DSQ85164 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 783 ページの『DSQ85156』を参照してください。

DSQ85165 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

エコー照会機能の値が提供されていません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ85166 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

エコー行 ID、トークン、または行番号のいずれかが必要です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ85167 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

エコーの調整に無効な行番号が使われました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ85168 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 783 ページの『DSQ85159』を参照してください。

DSQ85169 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ85166』を参照してください。

DSQ85170 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85171 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85172 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85180 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ85181 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 39 ページの『DSQ10480』を参照してください。

DSQ85189 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85200 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85201 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ85202 部分照会のアクセスはできません。

説明:

照会が部分照会だったため、コマンドは実行されませんでした。部分照会は、確認域にアクティブ省略符号 ">..." があり、更新中です。

ユーザーの処置:

照会の更新を終了してください。

DSQ85203 変数を置換した結果、式の長さが &V1 文字を超えました。

説明:

照会には、変数のある式が含まれます。これらの変数が値に置換された結果、式は許容される最大文字数 &V1 文字を超えました。

ユーザーの処置:

許容される最大文字数より小さくなるまで、式からデータを削除してください。

DSQ85210 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85211 列情報は検索されませんでした。

説明:

記述キーを使って、データベースから情報が検索できない列に関しての情報を検索しました。これは、列情報を見る権限を持たないか、この情報の検索に使用される視点の名前を含んでいる大域変数が正しく設定されていなかったことを意味します。

ユーザーの処置:

QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ85212 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ85213 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ85214 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 22 ページの『DSQ10246』を参照してください。

DSQ85220 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ85221 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 412 ページの『DSQ23473』を参照してください。

DSQ85222 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85223 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85225 照会にはソート可能な列または式がありません。

説明:

SORT を指定しましたが、照会にはソートに使用できる列または式がありません。

ユーザーの処置:

ソートの基準を指定する前に、**COLUMNS** に 1 つ以上の列または式 (定数ではないもの) を指定してください。

DSQ85226 指示照会に表がありません。

説明:

「列」、「行条件」、「分類」、「重複行」、または「時間枠」は、それらの指定が適用される表を選択する前には指定できません。

ユーザーの処置:

指示照会に 1 つ以上の表を選択するには、選択領域で 1 を入力して「指定」パネルのメニューから「表」を選択し、**Enter** を押してください。

DSQ85227 リスト探索基準に一致する表がありません。

説明:

指定した表リスト探索基準ストリングに一致する表がありません。

ユーザーの処置:

探索基準を修正してください。文字 "%" と "_" を「共通文字」(無指定) として使用できます。使用許可されているすべての表のリストを使用したい場合、カーソルを含む入力フィールドが空であることを確認してください。

DSQ85228 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 749 ページの『DSQ84398』を参照してください。

DSQ85229 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 749 ページの『DSQ84398』を参照してください。

DSQ85230 時間枠はテンポラル表または視点にのみ指定できます。

説明:

この問題は、「指定」パネルの「時間枠」オプションを選択した場合、または指示照会でテンポラル表あるいはテンポラル表を参照する視点をまず選択せずに、コマンド行に **SPECIFY TIMEPERIOD** を入力した場合に起きます。

ユーザーの処置:

時間枠を指定する前に、テンポラル表またはテンポラル表を参照する視点を指示照会に組み込んでください。どの表がテンポラル表として定義されているかがはっきり分からない場合は、**QMF** 管理者にお問い合わせください。

テンポラル表の定義の詳細および構文については、**IBM Knowledge Center** を参照してください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

DSQ85234 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85235 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85236 式の長さが &V1 文字を超えます。

説明:

式には、修飾されていない列名が含まれており、この列名が処理されると式の長さが許容最大文字数 &V1 を超える可能性があります。

ユーザーの処置:

式が許可された最大文字数以下になるまで、式からデータを削除してください。

DSQ85237 式の長さが &V1 文字を超えます。

説明: 『DSQ85236』を参照してください。

DSQ85238 式の長さが &V1 文字を超えます。

説明: 『DSQ85236』を参照してください。

DSQ85239 &V1 コマンドは現在使用できません。

説明: 211 ページの『DSQ20038』を参照してください。

DSQ85240 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ85241 リストから選択項目を選択するか、または式を選択してください。

説明:

リストから項目を選択しさらに式を選択したか、またはどちらも選択していません。

ユーザーの処置:

1 つだけ選択し、次に Enter を押してください。

DSQ85242 &V1 は有効な選択番号ではありません。

説明: 413 ページの『DSQ23483』を参照してください。

DSQ85243 &V1 は、選択できません。

説明: 413 ページの『DSQ23484』を参照してください。

DSQ85244 リストから項目を選択してください。

説明: 413 ページの『DSQ23485』を参照してください。

DSQ85245 リストから 1 つまたは複数の項目を選択してください。

説明: 413 ページの『DSQ23481』を参照してください。

DSQ85246 選択した表は結合できません。

説明:

両方の表リスト内で同じ表を選択しています。照会の場合、表はそれ自体で正常には結合しません。

実際に表自体で結合させたい場合は、表パネル上に 2 つ以上同じ表名を指定してください。それで表名は、結合表パネルの表リストに 2 つ以上示され、いろいろ異なる表の結合を選べます。

ユーザーの処置:

結合表パネルのリストの中から異なる表を選択するか、または表パネルに戻って上記のように、2 つ以上同じ表を指定してください。

DSQ85247 リストから選択項目を選択するか、または式を選択してください。

説明: 『DSQ85241』を参照してください。

DSQ85248 片方または両方のリストから項目を選択してください。

説明: 752 ページの『DSQ84486』を参照してください。

DSQ85249 リストから選択項目を選択するか、または式を選択してください。

説明: 『DSQ85241』を参照してください。

DSQ85250 リストから選択項目を選択するか、または式を選択してください。

説明: 『DSQ85241』を参照してください。

DSQ85251 リストから選択項目を選択するか、または式を選択してください。

説明: 『DSQ85241』を参照してください。

DSQ85252 リストから選択項目を選択するか、または式を選択してください。

説明: 『DSQ85241』を参照してください。

DSQ85253 指示照会に表がありません。

説明: 786 ページの『DSQ85226』を参照してください。

DSQ85254 選択した列には互換性のあるデータ・タイプがありません。

説明:

データ・タイプの互換性がない列を使用して 2 つの表を結合しようとしています。例えば、数値である列と非数値である別の列を使用して結合しようとしていません。

ユーザーの処置:

互換性のある 2 つの列を選択して、ENTER キーを押してください。列のデータ・タイプを調べるには、列名にカーソルを移動して、記述キーを押してください。

DSQ85255 選択した項目は入力フィールドに収まりません。

説明:

選択した項目は、その項目が移動される入力フィールドの残りのスペースに収まりません。例えば、「式」パネルに入力する列名を選択しましたが、その列名が入力される入力フィールドには十分な余裕がありません。

ユーザーの処置:

選択した項目が収まるように、入力フィールドの内容を圧縮するか、短い項目を選択してください。

DSQ85256 各リストから項目を選択してください。

説明:

リストから 1 つだけ選択したか、なにも選択しなかったか、どちらかです。このパネルでは各リストにこの選択が必要です。

ユーザーの処置:

パネルの各リストから選択を行ってください。ENTER キーを押してください。

DSQ85257 各リストから項目を選択してください。

説明: 『DSQ85256』を参照してください。

DSQ85258 カーソルが &V1 に有効なフィールドがありません。

説明: 752 ページの『DSQ84481』を参照してください。

DSQ85259 このパネルでは、表名にだけ記述が使用できます。

説明:

カーソルが表名を含まない行に位置しているときに、記述キーを使用しました。このパネルでは、カーソルが表名を含む行に位置している時にだけ、記述キーが使用できます。

ユーザーの処置:

カーソルを表名のある行に移動してから、記述キーを使用して、その表に関する情報を検索してください。

DSQ85260 このパネルでは列名にだけ記述が使用できます。

説明:

カーソルが列名を含まない行に位置しているときに、記述キーを使用しました。このパネルでは、カーソルが

列名を含む行に位置している時にだけ記述キーが使用できます。

ユーザーの処置:

カーソルを列名のある行に移動してから、記述キーを使用して、その列に関する情報を検索してください。

DSQ85261 このパネルでは ENTER キーはアクティブではありません。

説明: 412 ページの『DSQ23474』を参照してください。

DSQ85262 ENTER キーを押す前に値をタイプしてください。

説明: 421 ページの『DSQ23648』を参照してください。

DSQ85263 各入力フィールドに値をタイプしなければなりません。

説明:

片方の入力フィールドには値を入力しましたが他方には入力していません。

ユーザーの処置:

両方の入力フィールドに値をタイプした後、次に Enter を押してください。

DSQ85264 ENTER キーを押す前に値をタイプしてください。

説明: 421 ページの『DSQ23648』を参照してください。

DSQ85265 時間枠指定から引用符が欠落しています。

説明:

時間枠指定のそれぞれのタイム・スタンプは、単一引用符で囲む必要があります。時間枠指定の 1 つ以上のタイム・スタンプの先頭または末尾で単一引用符が欠落しています。

ユーザーの処置:

必要な箇所に引用符を追加してください。AS OF、BETWEEN、または FROM キーワードを使用した時間枠指定について詳しくは、IBM Knowledge Center を参照してください。

<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9UMF/welcome.html>

DSQ85266 &V2 で始まる変数の長さが、18 文字を超えています。

説明: 300 ページの『DSQ21360』を参照してください。

DSQ85267 合計機能の中で合計機能を使うことはできません。

説明:

他の合計機能の中で合計機能 (SUM、AVG、MIN、MAX、または COUNT) を指定しようとした。これは指示照会では許されません。

ユーザーの処置:

内部の合計機能を削除するように照会を変更してください。

DSQ85268 合計機能は行条件には使用できません。

説明:

行条件のなかで合計機能 (SUM、AVG、MIN、MAX、または COUNT) を指定しようとした。これは指示照会では許されません。

ユーザーの処置:

行条件から合計機能を取り除くか、または WHERE 文節で合計機能が使用できる SQL 照会に指示照会を交換してください。

DSQ85269 合計機能は行条件には使用できません。

説明: 『DSQ85268』を参照してください。

DSQ85270 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85271 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85272 データが最大長を超えています。引用符を検査してください。

説明:

文字定数は引用符で囲んでください。引用符で囲むことを省略すると、データは最大長 &LE を超えてしまいます。

ユーザーの処置:

データを訂正し、照会を再実行してください。

DSQ85273 式が長すぎます。

説明:

文字位置の最大許容数は、255 です。特別な DBCS 識別文字をタイプしすぎた、または単一引用符 (式を処理する時に 2 個になります) を多く使用したために、式が長くなりすぎました。

ユーザーの処置:

式からデータを削除して、文字位置の最大許容数の範囲内に納めてください。

DSQ85274 式の長さが &V1 文字を超えます。

説明: 786 ページの『DSQ85236』を参照してください。

DSQ85275 式の長さが &V1 文字を超えます。

説明: 786 ページの『DSQ85236』を参照してください。

DSQ85276 式の長さが &V1 文字を超えます。

説明: 786 ページの『DSQ85236』を参照してください。

DSQ85277 式の長さが &V1 文字を超えます。

説明: 786 ページの『DSQ85236』を参照してください。

DSQ85278 式の長さが &V1 文字を超えます。

説明: 786 ページの『DSQ85236』を参照してください。

DSQ85279 式の長さが &V1 文字を超えます。

説明: 786 ページの『DSQ85236』を参照してください。

DSQ85280 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ85281 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85282 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85283 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

無効なタイプ・コード &V1 です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ85288 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84315』を参照してください。

DSQ85289 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 431 ページの『DSQ23778』を参照してください。

DSQ85290 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 431 ページの『DSQ23778』を参照してください。

DSQ85291 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84315』を参照してください。

DSQ85292 式の長さが &V1 文字を超えます。

説明: 786 ページの『DSQ85236』を参照してください。

DSQ85300 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ85301 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

ターゲット域の長さがソース・エリアの長さの倍ではありません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ85302 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85305 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85306 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85307 照会が空であるか、またはコメントしか入っていません。

説明: 252 ページの『DSQ20568』を参照してください。

DSQ85308 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85309 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85310 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85320 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85321 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85322 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85323 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85325 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85326 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85330 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85335 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85336 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85345 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85346 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85347 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85348 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85349 • DSQ85385

DSQ85349 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85350 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85351 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85352 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85353 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85354 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85360 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85361 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85370 指示照会によって生成された **SQL** は大きすぎます。

説明:

QMF は、指示照会と等価の SQL 照会を生成します。SQL 生成は、生成された SQL の長さがデータベースが処理可能なものより大きくなったため失敗しました。

ユーザーの処置:

792 DB2 QMF メッセージおよびコード

照会文は複数の小さな照会文に分割してください。

DSQ85371 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85372 データが最大長を超えています。引用符を検査してください。

説明: 789 ページの『DSQ85272』を参照してください。

DSQ85380 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85381 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85382 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85383 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85384 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85385 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85386 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85390 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85391 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85400 列 &V1 が複数の表にあります。

説明:

列名 &V1 は、2 つ以上のリストされた表に存在します。対応する表に列が合うように列名を修飾してください。例を次に示します。

PERS.DEPT is the column named "DEPT" in table PERS.
Q.STAFF.DEPT is the column named "DEPT" in table Q.STAFF.

ユーザーの処置:

修飾列名 &V1

DSQ85401 &V1 で始まる式が不完全です。

説明:

おそらく、この式は置換変数で作成されており、区切り文字が欠落しています。対応する表に列が合うように列名を修飾してください。例を次に示します。

SUM(SALARY is missing the right parenthesis.
Q.STAFF. is missing the column qualifier.

ユーザーの処置:

欠落している区切り文字を付け加えてください。

DSQ85402 &V1 で始まる列名が無効です。

説明:

この列名が照会の表のどの有効な列名とも一致しません。表、または位置の修飾子が指定されている場合、それらにエラーがある可能性があります。

ユーザーの処置:

列名を訂正してください。

DSQ85410 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85411 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85412 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85413 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85420 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85421 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85422 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85423 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85424 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85425 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85430 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85431 「列」の ALL キーワードは削除できません。

説明:

選択された表 (1 つまたは複数) からのすべての列を選択するように指定しているデフォルトの ALL キーワードを削除しようとしています。この項目は削除できません。照会で任意の列を選択すると、ALL キーワードは削除されます。

ユーザーの処置:

カーソルを DELETE に有効な位置に移動してください。列をユーザーの照会用に選択したい場合は、SPECIFY コマンドを入力しパネルから COLUMNS を選択してください。

DSQ85432 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85433 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85440 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85441 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85450 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 245 ページの『DSQ20482』を参照してください。

DSQ85451 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 243 ページの『DSQ20461』を参照してください。

DSQ85452 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 245 ページの『DSQ20483』を参照してください。

DSQ85455 OK。&V1 が実行されました。処理を続行してください。

DSQ85456 ここにはこれ以上行を挿入できません。

説明: 711 ページの『DSQ60701』を参照してください。

DSQ85457 カーソルが &V1 に適した位置にありません。

説明: 245 ページの『DSQ20482』を参照してください。

DSQ85458 指示照会には表が 1 つしかないため削除できません。

説明:

指示照会に 1 つしかない表を削除しようとしています。削除すると照会が完全に空になるため、削除できません。空の照会は、RESET コマンドによって作成できます。

ユーザーの処置:

カーソルを DELETE の有効な位置に移動し、DELETE コマンドをふたたび出してください。照会からこの表を削除したい場合は、コマンド RESET QUERY (LANGUAGE=PROMPTED を出します)。

DSQ85459 指示照会では表名の変更はできません。

説明:

指示照会で表名の変更をしようとしています。表名の変更はできません。

ユーザーの処置:

「変更」が可能な位置にカーソルを移動してください。この表名をほかのもので置き換える場合は、DELETE および INSERT コマンドを使って照会からこの表を除去し、別の表を追加してください。

DSQ85460 指示照会では結合条件の変更はできません。

説明:

指示照会で結合条件の変更をしようとしています。結合条件の変更はできません。

ユーザーの処置:

「変更」が可能な位置にカーソルを移動してください。この結合条件を別のものに置き換える場合は、DELETE コマンドを使って結合条件を全部除去してください (全部が削除されることに注意してください)。その後、新しい結合条件を指定するためのパネルが表示されます。

DSQ85461 列の ALL キーワードは変更できません。

説明:

表のすべての列を選択することを指定するデフォルトの ALL キーワードを変更しようとした。この項目は変更できません。照会で任意の列を選択すると、ALL キーワードは削除されます。

ユーザーの処置:

「変更」が可能な位置にカーソルを移動してください。列をユーザーの照会用に選択したい場合は、SPECIFY コマンドを入力しパネルから COLUMNS を選択してください。

DSQ85462 この列の選択は長すぎて変更できません。

説明:

指示照会で、65 文字以上の列の選択を変更しようとしています。この選択は、QMF の外で作成されており、「列の変更」ウィンドウには収まらない式なので QMF 内部では変更できません。

ユーザーの処置:

「変更」が可能な位置にカーソルを移動してください。この列選択を変更したい場合、照会をエクスポートし、編集プログラムを使って照会を修正し、修正された照会をインポートしてください。

DSQ85463 この行条件には、長すぎて変更できない式が含まれています。

説明:

指示照会で左辺が 65 文字以上の長さの式か、右辺が 45 文字以上の長さの式のどちらかが含まれる行条件を変更しようとしています。この行条件は QMF の外部で作成されており、ウィンドウに表示するには長すぎる式なので QMF 内部では変更できません。

ユーザーの処置:

「変更」が可能な位置にカーソルを移動してください。この行条件を変更したい場合、照会をエクスポートし、編集プログラムを使って照会を修正し、修正された照会をインポートしてください。

DSQ85465 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85490 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85491 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85500 &V2 で始まる変数の長さが、18 文字を超えています。

説明: 300 ページの『DSQ21360』を参照してください。

DSQ85501 検索された照会のレコード &V1 に予期しない T レコードがあります。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。 検索された照会のレコード &V1 に予期しない T レコードが存在しています。 TABLE T レコードが最初の T レコードで (H レコードの後で)、JOIN T レコードが 2 番目です。残りの T レコードはどのような順序でもかまいません。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、T レコードの順序を修正してください。指示

DSQ85502 • DSQ85508

照会の外部形式について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85502 結合条件の両側に同じ表が指定されています。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 では結合条件の両側に同じ表が指定されています。照会は 1 表だけでは結合できません。自分自身へ表を結合する必要があるときは、検索する照会の表定義表に 2 回以上表を指定することで可能になります。その後、結合する表を 2 回指定ができます。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合は、結合条件が照会で指定された 2 つ表を結合するように訂正してください。指示照会における結合条件について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85503 結合条件で列名を使っていません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の結合条件では、結合条件の部分に使う式またはリテラル定数を指定しています。結合条件の両側は照会で指定した 2 つの表の列名でなければなりません。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合は、結合条件が、照会で指定した 2 つの表の 2 つの列を参照するように訂正してください。検索される指示照会における結合条件について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85504 結合条件で指定した表は、すでに結合されています。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の結合条件で、前の結合条件によりすでに結合されている 2 つの表を指定しています。

ユーザーの処置:

照会を作成または変更するアプリケーションを開発している場合は、結合条件を、すでに結合されている 1 つの表と現在結合されていない 1 つの表を参照するよう

に訂正してください。検索される指示照会における結合条件について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ85505 検索する指示照会の右側の式が多過ぎます。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。照会の 1 つの行条件の右側の式が &V2 を超えています。エラーはレコード &V1 で検出されました。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、各行条件の行条件 R レコードの右側の指定数を超えないようにしてください。指示照会の外部形式について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85506 検索された照会の条件結合子が無効です。

説明:

レコード &V1 の位置 &V2 の条件結合子の値が無効です。最初の行条件では条件結合子の値は以下のとおりでなければなりません。

I - If

その後の行条件結合の値は以下の 1 つでなければなりません。

A - And
O - Or

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、示された位置の条件結合子の値を修正してください。指示照会の外部形式について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ85507 検索された照会の条件結合子が無効です。

説明: 『DSQ85506』を参照してください。

DSQ85508 検索された照会の条件結合子が無効です。

説明: 『DSQ85506』を参照してください。

DSQ85509 照会する列セクションでソート列が選択されていません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の結合条件で、照会の列セクションで選択されていない式または列名を指定しています。ソート式として使う場合、式は列セクションで選択しなければなりません。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、結合条件が、照会の列セクションからの列名または式と合致させるか、列セクションにソート式を追加するかなければなりません。詳しくは、『DB2 QMF アプリケーション開発の手引き』を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85510 検索された照会のレコード &V1 に予期しない T レコードがあります。

説明: 795 ページの『DSQ85501』を参照してください。

DSQ85511 検索された照会の表の数が多すぎます。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。指示照会は最大 &V2 までの表を含むことができます。検索しようとした照会はそれ以上の表を含んでいます。問題は照会のレコード &V1 で見つかりました。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、照会のなかの表の数を減らしてください。指示照会の外部形式について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85512 検索された照会の相関変数が無効です。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 に相関変数があるはずでしたが無効な値が検出されました。次のグループに属している 1 文字は、すべて有効です。

Capital Letters A - Z
Special Characters # \$ @

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、上にリストされているものに相関変数を修正してください。検索される照会におけるフィールド値に

ついて詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ85513 表 &V3 は存在しません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 に指定された表 &V3 が存在しません。この名前はスペルを誤ったと思われます。

ユーザーの処置:

照会の示された場所の表名を検査してください。表名が正しい場合は、表名が不注意に削除されていないか検査してください。

DSQ85514 表 &V3 の使用許可がありません。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 に指定された表 &V3 を使用する権限がありません。

ユーザーの処置:

表の使用許可を所有者から入手するか、検索する照会に別の表を指定してください。

DSQ85515 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効なフィールド番号 &V3 があります。

説明: 645 ページの『DSQ50786』を参照してください。

DSQ85516 検索された照会の重複後処理が無効です。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、照会結果の重複行の後処理を示していなければなりません。有効な値は次のとおりです。

K - Keep duplicate rows.
D - Keep single copy of each row.

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、上のリスト内の値で、示された位置の値を置き換えてください。指示照会の外部形式について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ85517 レコード &V1 内の位置 &V2 に、無効な表番号 &V3 があります。

説明: 644 ページの『DSQ50780』を参照してください。

DSQ85518 検索された照会の列タイプ値が無効です。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、R レコードの列項目のタイプを示していなければなりません。有効な値は以下のとおりです。

C - Column.
E - Expression.
S - Summary function with an expression.
F - Summary function (column name only).

ユーザーの処置:

照会を作成または変更するアプリケーションを作成している場合は、示された位置の値を、上記のいずれかの選択項目で置き換えてください。指示照会の外部形式については詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ85519 検索された照会の行条件タイプ値が無効です。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、タイプ &V3 行の条件項目を示す &V3 でありませんでした。有効なタイプは次のとおりです。

1 - Left of operator
2 - Operator
3 - Right of operator
4 - Connector

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、項目タイプ値を修正してください。検索される指示照会における行条件フィールドについて詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85520 検索された照会の行条件タイプ値が無効です。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、行条件の演算子の左側のタイプを示していなければなりません。有効な値は以下のとおりです。

C - Column.
E - Expression.

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、上のリスト内の値で、示された位置の値を置き換えてください。指示照会の外部形式については詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ85521 検索された照会の行条件タイプ値が無効です。

説明: 『DSQ85519』を参照してください。

DSQ85522 検索された照会の行条件動詞が無効です。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、行条件動詞でなければなりません。有効な値は次のとおりです。

IS
ISN (abbreviation for Is Not)

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、上のリスト内の値で、示された位置の値を置き換えてください。指示照会の外部形式については詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ85523 検索された照会の行条件演算子が無効です。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、行条件演算子でなければなりません。「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」に、このフィールドに対する有効な選択がリストされています。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合、有効な行条件演算子コードで、示された位置の値を置き換えてください。指示照会の外部形式については詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ85524 検索された照会の行条件タイプ値が無効です。

説明: 798 ページの『DSQ85519』を参照してください。

DSQ85525 検索された照会の行条件タイプ値が無効です。

説明: 798 ページの『DSQ85519』を参照してください。

DSQ85526 検索された照会の条件結合子が無効です。

説明: 796 ページの『DSQ85506』を参照してください。

DSQ85527 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85529 検索した照会に重複する相関変数があります。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。指示照会での各表の相関変数は固有でなければなりません。レコード &V1 の位置 &V2 に相関変数 &V3 がありますが、これは別の表の相関変数と同じです。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、示された表に固有の相関変数を割り当ててください。検索される指示照会について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85530 照会内のソート順序の値が無効です。

説明:

指示照会は、エラーが含まれているためインポートされませんでした。レコード &V1 の位置 &V2 の値は、ソート順序の値でなければなりません。有効な値は以下のとおりです。

A - Ascending order.
D - Descending order.

ユーザーの処置:

照会を作成または変更するアプリケーションを作成している場合は、示された位置の値を、上記にリストした選択項目のいずれかに置き換えてください。指示照会の外部形式について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。または、

QMF 管理者にお問い合わせください。

DSQ85531 照会内の結合条件が多すぎます。

説明:

指示照会は、この照会に許可された最大数 &V2 を超える結合条件が含まれているため、インポートされませんでした。条件の最大数は照会の中の表の数より 1 つ以上少なくなければなりません。問題は照会のレコード &V1 で見つかりました。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成している場合は、照会結合条件の数を減らしてください。指示照会の外部形式について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85532 検索した照会の比較演算子が誤りです。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の比較演算子は、条件の左側とともに使用することはできません。例えば、比較演算子がストリング関数のときに、条件の左側が数値の場合が考えられます。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、条件の左側とともに使用できる比較演算子を使用してください。詳しくは、『DB2 QMF アプリケーション開発の手引き』を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85533 検索された照会の重複後処理が無効です。

説明: 797 ページの『DSQ85516』を参照してください。

DSQ85536 検索された照会の行条件タイプ値が無効です。

説明: 798 ページの『DSQ85519』を参照してください。

DSQ85537 検索された指示照会のレコード &V1 にエラーがあります。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。問題はレコード &V1 で検出されました。

&V2

DSQ85538 • DSQ85554

ユーザーの処置:

照会の作成または変更を行うアプリケーションを作成している場合、エラーを訂正する方法について「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85538 検索する照会での合計機能の用法が無効です。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の位置 &V2 の式に合計機能 (例えば、SUM、AVG、MIN、MAX、または COUNT) がありますが、このレコードは行条件の一部分で、合計機能は指示照会の行条件では使えません。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、この合計機能を除去するか、指示照会ではなく SQL 照会を使います (SQL 照会では WHERE 文節に合計機能を使うことができます)。指示照会の外部形式について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85539 検索する照会での合計機能の用法が無効です。

説明: 『DSQ85538』を参照してください。

DSQ85540 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85545 検索する照会に照会セクションが複数回現われます。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。表フィールド番号 &V2 をもつ T レコード (またはそのフィールド番号をもつ V レコード) が、検索する照会に複数個あります。すなわち同一の照会セクションを記述する 2 つの T (または V) レコードがあります。重複はレコード &V1 にあります。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを作成する場合には、重複している照会セクションの一方を除去してください。指示照会の外部形式について詳しくは、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照し

てください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85546 検索する照会に照会セクションが複数回現われます。

説明: 『DSQ85545』を参照してください。

DSQ85547 検索する照会に照会セクションが複数回現われます。

説明: 『DSQ85545』を参照してください。

DSQ85548 検索された指示照会のレコード &V1 にエラーがあります。

説明: 799 ページの『DSQ85537』を参照してください。

DSQ85549 検索された指示照会のレコード &V1 にエラーがあります。

説明: 799 ページの『DSQ85537』を参照してください。

DSQ85550 検索された指示照会のレコード &V1 にエラーがあります。

説明: 799 ページの『DSQ85537』を参照してください。

DSQ85551 検索された指示照会のレコード &V1 にエラーがあります。

説明: 799 ページの『DSQ85537』を参照してください。

DSQ85552 検索された指示照会のレコード &V1 にエラーがあります。

説明: 799 ページの『DSQ85537』を参照してください。

DSQ85553 検索された指示照会のレコード &V1 にエラーがあります。

説明: 799 ページの『DSQ85537』を参照してください。

DSQ85554 検索された照会の中で表のデータが欠落しています。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコ

ード &V1 で始まる照会のセクションは照会のエレメントを含んでいますが、照会には表が含まれていません。検索する照会の表セクションにどの表もリストされていない場合は、それ以降のセクションの照会エレメントをリストできません。

ユーザーの処置:

照会を作成または修正するアプリケーションを開発中の場合は、照会の表セクションに少なくとも 1 つの表を追加してください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85555 検索された照会の中で表のデータが欠落しています。

説明: 800 ページの『DSQ85554』を参照してください。

DSQ85556 検索された照会の中で表のデータが欠落しています。

説明: 800 ページの『DSQ85554』を参照してください。

DSQ85557 検索された照会の中で表のデータが欠落しています。

説明: 800 ページの『DSQ85554』を参照してください。

DSQ85558 検索された照会の中で表のデータが欠落しています。

説明: 800 ページの『DSQ85554』を参照してください。

DSQ85559 レコード &V1 の中の式は、処理されると &V2 文字を超えます。

説明:

検索しようとした指示照会にエラーがあります。レコード &V1 の式には、修飾されていない列名が含まれている可能性があり、修飾されるとその式は許容最大数 &V2 文字を超えます。

ユーザーの処置:

照会の作成または変更を行うアプリケーションを作成している場合、そのアプリケーションが作成する式が、その式の中のすべての列名が完全に修飾された後でも &V2 文字より少なくなるようにしてください。指示照会の外部形式については、「DB2 QMF アプリケ

ーション開発の手引き」を参照してください。あるいは、QMF 管理者に連絡してください。

DSQ85560 レコード &V1 の中の式は、処理されると &V2 文字を超えます。

説明: 『DSQ85559』を参照してください。

DSQ85561 レコード &V1 の中の式は、処理されると &V2 文字を超えます。

説明: 『DSQ85559』を参照してください。

DSQ85562 レコード &V1 の中の式は、処理されると &V2 文字を超えます。

説明: 『DSQ85559』を参照してください。

DSQ85563 レコード &V1 の中の式は、処理されると &V2 文字を超えます。

説明: 『DSQ85559』を参照してください。

DSQ85570 照会には &V1 を超える表は指定できません。

説明:

作成している照会で許容最大個数を超える表が入力されました。

ユーザーの処置:

合計が &V1 を超えないように選択する表の数を減らし、次に Enter を押してください。

DSQ85571 このパネルでは ENTER キーはアクティブではありません。

説明: 412 ページの『DSQ23474』を参照してください。

DSQ85572 ENTER キーを押す前に値をタイプしてください。

説明: 421 ページの『DSQ23648』を参照してください。

DSQ85574 &V1&V2&V3&V4&V5 は存在しません。

説明:

指定した表は存在しません。間違っって入力した可能性があります。LIST 機能を使用することで、照会に含むことができる表の名前のリストを出力できます。

ユーザーの処置:

DSQ85575 • DSQ85634

表名のスペルを検査してください。表名を正しく入力するか、または表名のリストから選択してください。

DSQ85575 &V1&V2&V3&V4&V5 を使用する権限がありません。

説明:

メッセージに表示されている表を照会の中で指定しましたが表のアクセス許可がありません。

ユーザーの処置:

その表の所有者から表の使用許可を得るか、またはほかの表を指定してください。

DSQ85580 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85581 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85582 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 744 ページの『DSQ84330』を参照してください。

DSQ85583 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85600 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85601 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ85602 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85620 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ85621 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 412 ページの『DSQ23473』を参照してください。

DSQ85622 記憶域のスペースが足りません。

説明: 687 ページの『DSQ60203』を参照してください。

DSQ85623 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85634 データ・タイプ &V2 を含む表を編集することはできません。

説明:

表の列 &V1 には、表エディターを使用して編集できないデータ・タイプ &V2 を持つデータが含まれています。

表エディターを使用して、以下のデータ・タイプを持つ列を含む表を編集することはできません。

- XML
- BINARY
- VARBINARY
- BLOB
- DECFLOAT

DECFLOAT データを含む表を編集できるのは、10 進浮動小数点の命令をサポートするプロセッサで QMF を使用している場合です。QMF が実行されているプロセッサは、DECFLOAT データをサポートしません。

ユーザーの処置:

この表を編集する必要がある場合は、&V2 列を除去して表の視点を作成してください。その上で、視点を編集します。ビューの作成方法について詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ85635 データ・タイプ &V2 を含む表を編集することはできません。

説明:

表の列 &V1 には、表エディターを使用して編集できないデータ・タイプ &V2 を持つデータが含まれていません。

表エディターを使用して、以下のデータ・タイプを持つ列を含む表を編集することはできません。

- XML
- BINARY
- BLOB
- VARBINARY

ユーザーの処置:

この表を編集する必要がある場合は、&V2 列を除去して表の視点を作成してください。その上で、視点を編集します。ビューの作成方法について詳しくは、「DB2 QMF 解説書」を参照してください。

DSQ85640 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ85641 &V1 はタイム・スタンプの値として使用できません。

説明:

正しい形式は下記のとおりです:

yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.&V2

それぞれの意味は次のとおりです。

- yyyy-mm-dd は年、月、および日です。
- hh.mm.ss は時間、分、および秒です。
- &V2 は、小数秒です (オプション)。

ユーザーの処置:

フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ85642 以前に入力がありません。

説明:

保管されたデータが入力されていないので、コマンドの実行ができません。

ユーザーの処置:

PREVIOUS コマンドを使用して変更された入力を検索する前に、列中にデータを入力し、適切なコマンド (ADD または SEARCH) を実行してください。

DSQ85643 このフィールドのデータはオーバーフローしています。

説明: 256 ページの『DSQ20634』を参照してください。

DSQ85644 このフィールドのデータはオーバーフローしています。

説明: 256 ページの『DSQ20635』を参照してください。

DSQ85645 現在 REFRESH は、使用できません。

説明:

表示されたデータベースの行の内容は、行の更新が失敗したため、再表示できません。

ユーザーの処置:

データの編集を継続するか、または検索モードに戻ってください。現在表示された行を再表示するには、次のようにしてください。1) 検索モード・キーを押してください。2) 前入力キーを押してください。3) 検索キーを押してください。4) 行が表示されない場合は、表示されるまで NEXT コマンドを使用してください。

DSQ85651 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 412 ページの『DSQ23473』を参照してください。

DSQ85652 記憶域のスペースが足りません。

説明: 687 ページの『DSQ60203』を参照してください。

DSQ85653 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85654 SAVE=IMMEDIATE の場合には、CANCEL は実行できません。

説明:

SAVE=IMMEDIATE が指定されています。これは、追加、変更、および削除が、実行時にデータベース中に永続されることを意味します。したがって、CANCEL コマンドでこれらを破棄することはできません。

ユーザーの処置:

DSQ85655 • DSQ85663

CANCEL コマンドを出すことはできません。
SAVE=IMMEDIATE を指定した場合は、END コマンドだけが表編集プログラム・セッションを終了するのに使用できます。

DSQ85655 &V1 はタイム・スタンプの値として使用できません。

説明:

正しい形式は下記のとおりです:

```
yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.&V2zth:tm
```

それぞれの意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- &V2 は小数秒です (オプション)。
- z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号です。
- th は時間帯の時を表す 2 桁の値です。
- tm は時間帯の分を表す 2 桁の値です。

時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

フィールドに有効な値を入力してください。

DSQ85662 **TSTMPZ: yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.&V3zth&V4tm** にはデフォルト値があり、NULL は使用できません。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことができます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字が許可されます。)

この列はヌルにできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字は許可されません。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。

- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- &V3 は、小数秒の数値を表します。これはデータ・タイプ形式のオプション部分です。
- z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号です。
- th は時間帯の時を表す 2 桁の値です。
- tm は時間帯の分を表す 2 桁の値です。

時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

DSQ85663 **TSTMPZ: yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.&V3zth&V4tm** にはデフォルト値があり、NULL は使用できます。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことができます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字が許可されます。)

この列はヌルにできます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字が許可されます。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- &V3 は、小数秒の数値を表します。これはデータ・タイプ形式のオプション部分です。
- z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号です。
- th は時間帯の時を表す 2 桁の値です。

- tm は時間帯の分を表す 2 桁の値です。

時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

DSQ85664 TSTMPZ: yyyy-mo-dd-hh.mm.sszth
&V3tm にはデフォルト値があり、NULL は使用できません。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことができます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字が許可されます。)

この列はヌルにできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字は許可されません。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号です。
- th は時間帯の時を表す 2 桁の値です。
- tm は時間帯の分を表す 2 桁の値です。

時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

DSQ85665 TSTMPZ: yyyy-mo-dd-hh.mm.sszth
&V3tm にはデフォルト値があり、NULL は使用できます。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことができます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字が許可されます。)

この列はヌルにできます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字が許可されます。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号です。
- th は時間帯の時を表す 2 桁の値です。
- tm は時間帯の分を表す 2 桁の値です。

時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

DSQ85666 TSTMPZ: yyyy-mo-dd-hh.mm.sszth
&V3tm にはデフォルト値がなく、NULL は使用できません。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことはできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字は許可されません。)

この列はヌルにできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字は許可されません。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号です。
- th は時間帯の時を表す 2 桁の値です。
- tm は時間帯の分を表す 2 桁の値です。

時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考してください。

DSQ85667 TSTMPTZ: yyyy-mo-dd-hh.mm.sszth &V3tm にはデフォルト値がなく、NULL は使用できます。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことはできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字は許可されません。)

この列はヌルにできます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字が許可されます。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号です。
- th は時間帯の時を表す 2 桁の値です。
- tm は時間帯の分を表す 2 桁の値です。

時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考してください。

DSQ85668 TSTMPTZ: yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.&V3zth&V4tm にはデフォルト値がなく、NULL は使用できません。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことはできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字は許可されません。)

この列はヌルにできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字は許可されません。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- &V3 は、小数秒の数値を表します。これはデータ・タイプ形式のオプション部分です。
- z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号です。
- th は時間帯の時を表す 2 桁の値です。
- tm は時間帯の分を表す 2 桁の値です。

時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考してください。

DSQ85669 TSTMP TZ: yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.
&V3zth&V4tm にはデフォルト値がなく、NULL は使用できます。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことはできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字は許可されません。)

この列はヌルにできます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字が許可されます。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- &V3 は、小数秒の数値を表します。これはデータ・タイプ形式のオプション部分です。
- z は協定世界時 (UTC) に対する時間帯オフセットを示す正 (+) または負 (-) の符号です。
- th は時間帯の時を表す 2 桁の値です。
- tm は時間帯の分を表す 2 桁の値です。

時間帯の有効な範囲は -24:00 から +24:00 までです。UTC を指定するには、-0:00 または +0:00 の時間帯を指定するか、時間帯オフセットおよびその記号を大文字の Z で置き換えます。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

DSQ85670 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ85671 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 412 ページの『DSQ23473』を参照してください。

DSQ85672 &V1 が実行されました。検索条件に合う行はこれ以上ありません。

説明:

入力した検索条件に合う行はすべてアクセスされています。

ユーザーの処置:

PREVIOUS コマンドの後に SEARCH コマンドを使用して行セットを再度アクセスするか、または新しい検索条件をタイプして、別の行セットを検索するかしてください。

DSQ85673 検索条件に合う行が見つかりません。

説明:

入力された検索条件に合う行が見つかりません。

ユーザーの処置:

検索条件にエラーがないか検査するか、または別の検索条件をタイプしてください。

DSQ85674 このパネルで SHOW &V1 は使用できません

説明:

SHOW &V1 は、このパネルでの有効な操作ではありません。

ユーザーの処置:

このパネルで、この演算子は使用しないでください。この演算子が使用できるパネルに進んでください。

DSQ85675 表示不能なデータのある列に「フィールド」は使用できません。

説明:

通常、「フィールド」キーは、選択した列でデータを変更するために使用します。しかし、現行の行で選択された列に、表示不可能なデータが含まれています。

ユーザーの処置:

この列のデータを変更するには、SQL のようなほかの方法を使用しなければなりません。この行のほかの列のデータを変更したり、またはこの行を削除することはできます。

DSQ85676 変更したい行を検索してください。

説明:

行セットの検索を行った後でなければ、行の修正はできません。

DSQ85677 • DSQ85684

ユーザーの処置:

検索条件をキー入力して特定の行セットを検索するか、または全部の列を NULL 標識 (&V1) のままにして表内のすべての行を検索してください。

DSQ85677 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 412 ページの『DSQ23473』を参照してください。

DSQ85678 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 412 ページの『DSQ23473』を参照してください。

DSQ85679 この広い列では「フィールド」は使用できません。

説明:

254 文字 (または 127 DBCS 文字) 以上の列では「フィールド」キー (SHOW FIELD) 使用して、検索条件を入力することはできません。これは使用しているデータベースによって限定されます。

ユーザーの処置:

検索条件を入力する前に 254 文字 (または 127 DBCS 文字) 以下の列に移動してください。

DSQ85680 この表示装置では **GRAPHIC** 列の「フィールド」は使用できません。

説明:

表示装置が 2 バイト文字セットをサポートしていない場合、GRAPHIC または VARGRAPHIC を定義されている列に対して「フィールド」キーは使用できません。

ユーザーの処置:

GRAPHIC タイプでない列へカーソルを移動するか、別のディスプレイ装置を使用してください。

DSQ85681 カーソルは **SHOW FIELD** を使用する列の上になければなりません。

説明:

カーソルが列を指していません。

ユーザーの処置:

「フィールド」キーを使う前に、カーソルを列の入力域に移動させてください。

DSQ85682 **INTEGER: -2147483648** から **2147483647** で、デフォルト値はなく、**NULL** は使用できません。

説明:

この列は整数データ・タイプです。この列は -2147483648 から 2147483647 の範囲の数を入れることができます。(最大 10 桁)

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字は許可されません。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85683 **INTEGER: -2147483648** から **2147483647** で、デフォルト値はなく、**NULL** は使用できます。

説明:

この列は整数データ・タイプです。この列は -2147483648 から 2147483647 の範囲の数を入れることができます。(最大 10 桁)

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字は許可されません。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字が許可されます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85684 **SMALL INTEGER: -32768** から **32767** で、デフォルト値はなく、**NULL** は使用できません。

説明:

この列は短精度整数データ・タイプです。この列は -32768 から 32767 の範囲の数を入れることができます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字は許可されません。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列には

ヌル (&V1) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85685 SMALL INTEGER: -32768 から 32767
で、デフォルト値はなく、NULL は使用
できます。

説明:

この列は短精度整数データ・タイプです。この列は -32768 から 32767 の範囲の数を入れることができます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字は許可されません。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字が許可されます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85686 FLOAT: (+/-)&V1&V2&V3E(+/-)&V4 に
はデフォルト値がなく、NULL は使用で
きません。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列にはデフォルト値がありません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V6) の予約文字は許可されません。)

この列は NULL にできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V5) の予約文字は許可されません。)

メッセージに示される数値形式の意味は、次のとおりです。

- データの先頭にある + (オプション) または - は、データの符号です。
- &V1&V2&V3 は仮数部の桁です (倍精度は 17 桁まで、単精度は 8 桁まで)。
- E は指数部の先頭で、浮動小数を表します。数値の指数部分は省略できます。

- + (オプション) または - は、指数の符号です。
- &V4 は指数部の桁です (1 または 2 桁)。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。このデータ・タイプで有効な値は次のとおりです。

-7.2E75 to -5.4E-79, 0, 5.4E-79 to 7.2E75

DSQ85687 FLOAT: (+/-)&V1&V2&V3E(+/-)&V4 に
は、デフォルト値がなく、NULL を使用
できます。

説明:

Show Field キーは、この列のデータを表示しません。

この列にはデフォルト値がありません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルトの予約文字 &V6 は許可されません。)

この列には NULL 値を含めることができます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌルの予約文字 &V5 が許可されます。)

メッセージに示される数値形式の意味は、次のとおりです。

- データの先頭にある + (オプション) または - は、データの符号です。
- &V1&V2&V3 は仮数部の桁です (倍精度は 17 桁まで、単精度は 8 桁まで)。
- E は指数部の先頭で、浮動小数を表します。数値の指数部分は省略できます。
- + (オプション) または - は、指数の符号です。
- &V4 は指数部の桁です (1 または 2 桁)。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。このデータ・タイプで有効な値は次のとおりです。

-7.2E75 to -5.4E-79, 0, 5.4E-79 to 7.2E75

DSQ85688 DECIMAL: &V1 は仮数部の前の桁、
&V2 は後の桁、デフォルト値はなく、
NULL は使用できません。

説明:

この列は 10 進データ・タイプです。プラス、またはマイナスの符号は 10 進数の前に使用します。符号を省略するとプラスと見なされます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V4) の予約文字は許可されません。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列には

ヌル (&V3) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85689 DECIMAL: &V1 は仮数部の前の桁、&V2 は後の桁、デフォルト値はなく、NULL は使用できます。

説明:

この列は 10 進データ・タイプです。プラス、またはマイナスの符号は 10 進数の前に使用します。符号を省略するとプラスと見なされます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V4) の予約文字は許可されません。

この列で NULL の予約文字 (&V3) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85690 VARYING CHARACTER(&V1): デフォルト値はなく、NULL は使用できません。

説明:

この列は VARCHAR のデータ・タイプです。&V1 の文字まで入れることができます。大域変数 DSQCP_RMV_BLANKS が 1 に設定されている場合、末尾ブランクはデータから除去されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V3) の予約文字は許可されません。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V2) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85691 VARYING CHARACTER(&V1): デフォルト値はなく、NULL は使用できます。

説明:

この列は VARCHAR のデータ・タイプです。&V1 の文字まで入れることができます。大域変数 DSQCP_RMV_BLANKS が 1 に設定されている場合、末尾ブランクはデータから除去されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V3) の予約文字は許可されません。

この列で NULL の予約文字 (&V2) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85692 CHARACTER(&V1): デフォルト値はなく、NULL は使用できません。

説明:

この列には &V1 文字まで使用できます。データベース内の列は常に &V1 文字の長さです。&V1 文字より少ないキーが入力されると列の最後にブランクが追加されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V3) の予約文字は許可されません。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V2) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85693 CHARACTER(&V1): デフォルト値はなく、NULL は使用できます。

説明:

この列には &V1 文字まで使用できます。データベース内の列は常に &V1 文字の長さです。&V1 文字より少ないキーが入力されると列の最後にブランクが追加されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V3) の予約文字は許可されません。

この列で NULL の予約文字 (&V2) を追加モードでも

変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85694 VARYING GRAPHIC(&V1): デフォルト値はなく、NULL は使用できません。

説明:

この列には &V1 文字までの DBCS 文字を使用できます。大域変数 DSQCP_RMV_BLANKS が 1 に設定されている場合、末尾ブランクはデータから除去されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V3) の予約文字は許可されません。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V2) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85695 VARYING GRAPHIC(&V1): デフォルト値はなく、NULL は使用できます。

説明:

この列には &V1 文字までの DBCS 文字を使用できます。大域変数 DSQCP_RMV_BLANKS が 1 に設定されている場合、末尾ブランクはデータから除去されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V3) の予約文字は許可されません。

この列で NULL の予約文字 (&V2) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85696 GRAPHIC(&V1): デフォルト値はなく、NULL は使用できません。

説明:

この列には &V1 文字までの DBCS 文字を使用できます。データベース内の列は常に &V1 文字の長さです。

&V1 文字より少ないキーが入力されると列の最後にブランクが追加されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V3) の予約文字は許可されません。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V2) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85697 GRAPHIC(&V1): デフォルト値はなく、NULL は使用できます。

説明:

この列には &V1 文字までの DBCS 文字を使用できます。データベース内の列は常に &V1 文字の長さです。&V1 文字より少ないキーが入力されると列の最後にブランクが追加されます。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V3) の予約文字は許可されません。

この列で NULL の予約文字 (&V2) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力する場合は、このメッセージをガイドとして使用してください。ENTER キーを押すと、メッセージは消去されます。

DSQ85698 DATE: &V1、デフォルト値はなく、NULL は使用できません。

説明:

デフォルトの日付の形式は上で示したとおりです。入力しようとしたデータの正しい形式は

「mm/dd/yyyy」、 「yyyy-mm-dd」、 「dd.mm.yyyy」、またはインストール先のユーザー設定の日付形式です。

yyyy 年です。先頭の 2 桁が現在の日付の西暦であると見なされる場合は、2 桁で年を指定できます。

mm 月です。(1 桁または 2 桁)

dd 日です。(1 桁または 2 桁)

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V3) の予約文字は許可されません。

DSQ85699 • DSQ85702

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V2) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

有効な形式の日付を入力してください。

DSQ85699 **DATE:** &V1、デフォルト値はなく、
NULL は使用できます。

説明:

デフォルトの日付の形式は上で示したとおりです。入力しようとしたデータの正しい形式は「mm/dd/yyyy」、「yyyy-mm-dd」、「dd.mm.yyyy」、またはインストール先のユーザー設定の日付形式です。

yyyy 年です。先頭の 2 桁が現在の日付の西暦であると見なされる場合は、2 桁で年を指定できます。

mm 月です。(1 桁または 2 桁)

dd 日です。(1 桁または 2 桁)

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V3) の予約文字は許可されません。

この列で **NULL** の予約文字 (&V2) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

有効な形式の日付を入力してください。

DSQ85700 **TIME:** &V1、デフォルト値はなく、
NULL は使用できません。

説明:

デフォルトの時間の形式は上で示したとおりです。入力データの正しい形式は、「hh:mm AM (または PM)」、「hh:mm:ss」、「hh.mm.ss」、またはご使用のシステムの地方時の形式です。

hh 時間です。(1 桁または 2 桁)

mm 分です。(1 桁または 2 桁)

ss 秒です。(1 桁または 2 桁)

秒はオプションです。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V3) の予約文字は許可されません。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V2) の予約文字は許可されません。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

有効な形式の時刻を入力してください。

DSQ85701 **TIME:** &V1、デフォルト値はなく、
NULL は使用できます。

説明:

デフォルトの時間の形式は上で示したとおりです。入力データの正しい形式は、「hh:mm AM (または PM)」、「hh:mm:ss」、「hh.mm.ss」、またはご使用のシステムの地方時の形式です。

hh 時間です。(1 桁または 2 桁)

mm 分です。(1 桁または 2 桁)

ss 秒です。(1 桁または 2 桁)

秒はオプションです。

「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V3) の予約文字は許可されません。

この列で **NULL** の予約文字 (&V2) を追加モードでも変更モードでも使用できます。

SHOW FIELD ではこの列にデータを表示しません。

ユーザーの処置:

有効な形式の時刻を入力してください。

DSQ85702 **TIMESTAMP:** yyyy-mo-dd-
hh.mm.ss.&V3 にはデフォルト値がなく、
NULL は使用できません。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことはできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字は許可されません。)

この列はヌルにできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字は許可されません。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。

- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- &V3 は、小数秒の数値を表します。これはデータ・タイプ形式のオプション部分です。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

DSQ85703 **TIMESTAMP: yyyy-mo-dd-hh.mm.ss.&V3** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できます。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことはできません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V2) の予約文字は許可されません。)

この列はヌルにできます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V1) の予約文字が許可されます。)

メッセージに示されるデータ・タイプ形式の意味は次のとおりです。

- yyyy は年を表す 4 桁の値です。
- mo は月を表す 2 桁の値です。
- dd は日を表す 2 桁の値です。
- hh は時を表す 2 桁の値です。
- mm は分を表す 2 桁の値です。
- ss は秒を表す 2 桁の値です。
- &V3 は、小数秒の数値を表します。これはデータ・タイプ形式のオプション部分です。

ユーザーの処置:

この列にデータを入力したい場合は、このメッセージを参考にしてください。

DSQ85704 **OK**、表示された **VARYING CHARACTER(&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できません。

DSQ85705 **OK**、表示された **VARYING CHARACTER(&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できます。

DSQ85706 **OK**、表示された **CHARACTER(&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できません。

DSQ85707 **OK**、表示された **CHARACTER(&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できます。

DSQ85708 **OK**、表示された **VARYING GRAPHIC (&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できません。

DSQ85709 **OK**、表示された **VARYING GRAPHIC(&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できます。

DSQ85710 **OK**、表示された **GRAPHIC(&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できません。

DSQ85711 **OK**、表示された **GRAPHIC(&V1)** にはデフォルト値がなく、**NULL** は使用できます。

DSQ85712 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10101』を参照してください。

DSQ85713 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10101』を参照してください。

DSQ85714 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10101』を参照してください。

DSQ85715 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10101』を参照してください。

DSQ85716 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10101』を参照してください。

DSQ85717 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10101』を参照してください。

DSQ85718 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10101』を参照してください。

DSQ85719 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10101』を参照してください。

DSQ85720 **OK, VARYING CHARACTER(&V1)** が表示されました。検索は **LIKE** を使用します。

DSQ85721 **OK, VARYING GRAPHIC(&V1)** が表示されました。検索は **LIKE** を使用します。

DSQ85722 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 13 ページの『DSQ10101』を参照してください。

DSQ85723 これを行う権限がありません。

説明: 419 ページの『DSQ23592』を参照してください。

DSQ85724 これを行う権限がありません。

説明: 419 ページの『DSQ23592』を参照してください。

DSQ85725 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 9 ページの『DSQ10010』を参照してください。

DSQ85726 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ85727 これを行う権限がありません。

説明: 419 ページの『DSQ23592』を参照してください。

DSQ85728 **&V1.&V2** は、空の表または視点です。

説明:

編集しようとしている表または視点が空です。表編集プログラムの変更モードは使用できません。

ユーザーの処置:

ほかの表か視点を選択するか、行を挿入したい場合には、表編集プログラムの追加モードを使用してください。

DSQ85729 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ85730 **DECFLOAT: (+/-)&V1&V2&V3E(+/-)&V4** には、デフォルト値があり、**NULL** は使用できません。

説明:

Show Field ファンクション・キーは、この列内のデータを表示しません。

この列はデフォルト値を持つことができます。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはデフォルト (&V6) の予約文字が許可されます。)

NULL 値は許可されません。(「追加」モードまたは「変更」モードでは、この列にはヌル (&V5) の予約文字は許可されません。)

メッセージに示される数値形式の意味は、次のとおりです。

- データの先頭にある + (オプション) または - は、データの符号です。
- **&V1&V2&V3** は仮数部の桁です (長形式の場合は 16 桁まで、拡張形式の場合は 34 桁まで。小数点は含まれません)。
- **E** は指数部の先頭で、浮動小数を表します。数値の指数部分は省略できます。
- + (オプション) または - は、指数の符号です。

第 12 章 DSQ90001 - DSQ90575

これらの標準 QMF メッセージは、QMFの実行中に発生するエラーに対するものです。メッセージには、ソリューションを提供したり、エラーを診断したりするのに役立つ情報が含まれています。

DSQ90001 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

LTT のリテラル定数が長すぎます。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ90002 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90003 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90004 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90005 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90006 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90007 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90009 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90010 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90011 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90012 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90013 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90014 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90015 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90016 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

DSQ90017 • DSQ90402

説明: 817 ページの『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90017 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 817 ページの『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90018 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 817 ページの『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90019 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 817 ページの『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90021 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 817 ページの『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90022 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 817 ページの『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90023 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 817 ページの『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90024 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 817 ページの『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90025 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 817 ページの『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90026 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 817 ページの『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90027 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 817 ページの『DSQ90001』を参照してください。

DSQ90400 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ90401 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

端末割り込みハンドラーの設定に失敗しました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ90402 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

端末割り込みハンドラーの取り消しは失敗しました。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび

QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ90403 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ90404 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

csect DSQCSTAX に対する内部の論理問題です。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ90405 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

GDDM アテンション出口ルーチンを使用可能にすることができませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してく

ださい。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ90406 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

GDDM アテンション出口ルーチンを使用不可にすることができませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ90461 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

QMF 異常終了ハンドラーを設定できませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ90462 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

QMF 異常終了ハンドラーをキャンセルできませんでした。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ90480 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 601 ページの『DSQ50086』を参照してください。

DSQ90481 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 601 ページの『DSQ50086』を参照してください。

DSQ90484 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 601 ページの『DSQ50086』を参照してください。

DSQ90485 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 601 ページの『DSQ50086』を参照してください。

DSQ90486 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 601 ページの『DSQ50086』を参照してください。

DSQ90487 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 601 ページの『DSQ50086』を参照してください。

DSQ90490 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 601 ページの『DSQ50086』を参照してください。

DSQ90491 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ90500 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

IKJEFTSR エラー。 戻りコード = &V1。 P4 = &V2。 P5 = &V3。 P6 = &V4。

コンピューターは内部エラーを検出しました。 トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。 Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができません。

DSQ90501 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 10 ページの『DSQ10016』を参照してください。

DSQ90502 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ90510 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 601 ページの『DSQ50086』を参照してください。

DSQ90520 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 601 ページの『DSQ50086』を参照してください。

DSQ90530 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 601 ページの『DSQ50086』を参照してください。

DSQ90550 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ90551 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 209 ページの『DSQ20005』を参照してください。

DSQ90552 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ90553 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ90555 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ90556 OK。コマンドを入力してください。

DSQ90557 OK、QMF セッションは終了しました。

DSQ90558 警告メッセージが生成されました。

説明: 26 ページの『DSQ10310』を参照してください。

DSQ90559 ガバナー出口ルーチンをロードできませんでした。

説明:

QMF 初期化中に、QMF ガバナー出口ルーチンのロードが試行されました。このロードは正常に行われていません。QMF セッションは継続されますが、ガバナー出口ルーチンはアクティブになりません。

CICS で実行している場合には、ガバナー出口ルーチンは AMODE 31 でリンク・エディットされる必要があります。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ90560 ユーザー編集ルーチンをロードできませんでした。

説明:

QMF 初期化中に、ユーザー編集ルーチンのロードが試行されました。このロードは正常に行われていません。QMF セッションは継続されますが、ユーザー編集ルーチンは利用不能です。

CICS で実行している場合には、ユーザー編集ルーチンは AMODE 31 でリンク・エディットされる必要があります。

ユーザーの処置:

CICS のもとで実行している場合には、次の CICS コマンドをネイティブ CICS から実行して、QMF の外側で編集ルーチンをロードするよう試みてください。

CECI LOAD PROGRAM(DSQUECIC)

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ90561 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ90562 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ90563 ユーザー編集ルーチンをロードできませんでした。

説明: 『DSQ90560』を参照してください。

DSQ90564 ガバナー出口ルーチンをロードできませんでした。

説明: 821 ページの『DSQ90559』を参照してください。

DSQ90565 記憶スペースがありません。

説明: 9 ページの『DSQ10012』を参照してください。

DSQ90566 コントロール表をトレースするモジュールをロードできませんでした。

説明:

QMF 初期化中に、コントロール表 DSQUTRAC をトレースする QMF モジュールのロードが試行されましたが、失敗しました。QMF セッションは継続されますが、特定のモジュールのトレース・データを取得することはできなくなります。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に支援を依頼してください。

DSQ90567 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明:

LE モジュール CEEPIPI をロードできません。

コンピューターは内部エラーを検出しました。トレース・プログラムに対して QMF 管理者がセットアップしたパラメーターによっては、このエラーについての情報が Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データに入っていることがあります。

ユーザーの処置:

ご使用のインストール済み環境の手順に従ってエラーを報告してください。Q.ERROR_LOG テーブルおよび QMF トレース・データ内のエラー情報の解釈については、ご使用のオペレーティング・システムの「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。また、コマンドが正しく完了したかどうかを確認してください。QMF の使用を続けることができます。

DSQ90568 システム・エラーが発生しました。コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 『DSQ90567』を参照してください。

DSQ90569 インストール・ユーザー出口 (DSQUOPTS) をロードできませんでした。

説明:

QMF 初期化中に、QMF インストール・ユーザー出口 (DSQUOPTS) のロードが試行されました。このロードは正常に行われていません。QMF セッションは継続されますが、インストール・ユーザー出口はアクティブではありません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DSQ90570 インストール・ユーザー出口 (DSQUOPTS) は QMF では無効です。

説明:

QMF 初期化中に、QMF インストール・ユーザー出口 (DSQUOPTS) のロードが試行されました。ロードは成功しましたが、インストール・ユーザー出口が無効であることが検出されました。QMF セッションは継続されますが、インストール・ユーザー出口はアクティブではありません。考えられる問題は、以下のとおりです。

- 最小の長さ要件を満たしていない
- 破壊された、または無効な目印
- 破壊された、または無効なレベル ID

この件について詳しくは、ご使用のオペレーティング・システム用の「DB2 QMF インストールおよび管理の手引き」を参照してください。

ユーザーの処置:

インストール・ユーザー出口の検査、修正、アセンブル、およびリンクを行う必要があります。QMF 管理者に連絡してください。

DSQ90571 QMF とインストール・ユーザー出口のレベルが一致しません。

説明:

QMF 初期化中に、QMF インストール・ユーザー出口ルーチンのロードが試行されました。ロードは正常終了しましたが、インストール・ユーザー出口 (DSQUOPTS) は QMF とレベルが異なることが判明しました。QMF セッションは継続し有効なオプションの活動レベルは以下のようになります。

- QMF レベル: &V1
- インストール・ユーザー出口 (DSQUOPTS) レベル: &V2
- オプションの活動レベル: &V3

ユーザーの処置:

インストール・ユーザー出口は、有効になるすべてのユーザー・オプションについて、QMF と同じレベルでなければなりません。QMF 管理者に連絡してください。

DSQ90572 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23610』を参照してください。

DSQ90573 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23610』を参照してください。

DSQ90574 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23610』を参照してください。

DSQ90575 システム・エラーが発生しました。 コマンドは完了していない可能性があります。

説明: 419 ページの『DSQ23610』を参照してください。

第 13 章 DYQ0001 から DYQ0999

これらのメッセージは、QMF Analytics for TSO で発生するエラーの分析用です。メッセージには、ソリューションを提供したり、エラーを診断したりするのに役立つ情報が含まれています。

DYQ0001 列 &V1 は QMF Analytics for TSO には無効です。

説明:

列 &V1 には、QMF Analytics for TSO によってサポートされない DB2 データ・タイプが含まれています。以下の DB2 データ・タイプが QMF Analytics for TSO によってサポートされています。

- 文字 CHAR、VARCHAR、DATE、TIME、TIMESTAMP
- 整数 INTEGER、SMALLINT
- 10 進数 DECIMAL、FLOAT、REAL、DOUBLE、DECFLOAT、BIGINT

ユーザーの処置:

「List」キーを押して照会結果からの列名のリストを表示し、サポートされているデータ・タイプを持つ列を選択してください。サポートされないデータ・タイプが入っている列は表示されません。

照会結果を調べて、分析するデータが、サポートされる DB2 データ・タイプを持つ列に保存されていることを確認することもできます。

DYQ0002 値列 &V1 は、数値データまたはブランクでなければなりません。

説明:

値列 &V1 に、数値データが含まれていません。

円グラフの各スライスの累積値を形成する列は、数値データ・タイプでなければなりません。またはブランクのままでも構いません。

ユーザーの処置:

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。値列に対して、整数数値列または 10 進数値列のいずれかを選択してください。

セクター・スライス列の各値のオカレンスを示す円グラフを作成する場合には、このフィールドはブランクのままにしておいてください。

DYQ0003 このフィールドには列名が必須です。

説明:

パラメーター選択パネルでは、図表の作成時や統計分析の実行時に使用できる、照会結果からの列を識別する必要があります。

このメッセージが表示されると、カーソルが、列名を入力して完成させる必要があるフィールドに配置されません。

ユーザーの処置:

照会結果から直接このフィールドに列名を入力することで、列を指定してください。

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示し、図表または統計分析に使用する列を選択することもできます。

DYQ0004 OK、&V1 パラメーター選択パネルが表示されます。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0005 値列 &V1 が見つかりませんでした。

説明:

値列 &V1 が QMF Analytics for TSO により検出できませんでした。

列名のつづりが誤っているか、または照会結果の列の列名ではない可能性があります。

ユーザーの処置:

列名のつづりが正しいことを確認してください。

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。値列に対して、整数数値列または 10 進数値列のいずれかを選択してください。

DYQ0006 セクター列 &V1 が見つかりませんでした。

説明:

セクター列 &V1 が QMF Analytics for TSO により検出できませんでした。

列名のつづりが誤っているか、または照会結果の列の列名ではない可能性があります。

ユーザーの処置:

列名のつづりが正しいことを確認してください。

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。セクター列に数値または文字のいずれかの列を選択してください。

DYQ0007 セクター列が円グラフに指定されています。

説明:

円グラフは、セクター列が指定されていないと作成できません。セクター列は、照会結果のどの列を、円グラフの各スライスのセクターを設定するために使用するかを指定します。

ユーザーの処置:

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。セクター列に数値または文字のいずれかの列を選択してください。

DYQ0008 リンク列 &V1 が見つかりませんでした。

説明:

リンク列 &V1 が QMF Analytics for TSO により検出できませんでした。

列名のつづりが誤っているか、または照会結果の列の列名ではない可能性があります。

ユーザーの処置:

列名のつづりが正しいことを確認してください。

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。リンク列の列を選択してください。

DYQ0009 列 &V1 が見つかりませんでした。

説明:

列 &V1 が QMF Analytics for TSO により検出できませんでした。

列名のつづりが誤っているか、または照会結果の列の列名ではない可能性があります。

ユーザーの処置:

列名のつづりが正しいことを確認してください。

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。照会結果から列を選択してください。

DYQ0010 データ列 &V1 が数値データ・タイプではありません。

説明:

データ列には、数値データが入っていなければなりません。文字データは無効です。

ユーザーの処置:

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。

データ列に対して、整数数値列または 10 進数値列のいずれかを選択してください。

DYQ0011 データ列 &V1 が見つかりませんでした。

説明:

データ列 &V1 が QMF Analytics for TSO により検出できませんでした。

列名のつづりが誤っているか、または照会結果の列の列名ではない可能性があります。

ユーザーの処置:

列名のつづりが正しいことを確認してください。

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。データ列に対して、整数数値列または 10 進数値列のいずれかを選択してください。

DYQ0012 グループ化列 &V1 が見つかりませんでした。

説明:

列名のつづりが誤っているか、または照会結果の列の列名ではない可能性があります。

ユーザーの処置:

列名のつづりが正しいことを確認してください。

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。グループ化列に数値または文字のいずれかの列を選択してください。

DYQ0013 重複する列名 &V1 が指定されました。

説明:

列名 &V1 が複数回指定されました。

ユーザーの処置:

重複した列名を除去してください。

DYQ0014 列 &V1 が数値データ・タイプではありません。

説明:

この統計分析は、数値データのみを含む列を必要とします。文字データを含む列は使用できません。

ユーザーの処置:

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。分析する 1 つ以上の数値列を選択してください。

DYQ0016 一部の数値列を選択できませんでした。

説明:

パラメーター・パネルの列名入力フィールドより多くの数値列が照会結果にあります。これらの残りの数値列は選択されておらず、分析されません。

ユーザーの処置:

残りの数値列なしで分析を進めるか、「リスト」キーを使用して、または選択した列名を上書きして、未選択の列名を入力してください。

DYQ0017 マップに有効な地域が指定されていません。

説明:

有効な地域が指定されていないと、マップを作成することはできません。QMF Analytics for TSO は、マップをドローし、規定の地理的領域に対してデータをグラフ化するために、指定された領域および他のパラメーターを使用します。

ユーザーの処置:

マップする地域を入力するか、「List」キーを押して地域マップのリストを表示し、リストから地域を選択してください。

DYQ0040 分析を実行する観測数が多すぎます。

説明:

観測数が、統計分析に許可されている最大数を超過しています。

ユーザーの処置:

さらに行数が少ない照会結果を使用して、分析を再実行してください。

DYQ0041 分析の実行に観測を使用できませんでした。

説明:

照会結果からのすべての行は分析から除外されました。したがって、観測は使用できませんでした。

ユーザーの処置:

この分析で使用できるデータを含む照会結果を使用して、分析を再実行してください。

DYQ0042 負または非整数の頻度値が指定されました。

説明:

分析は、負または非整数の頻度では実行できません。

ユーザーの処置:

頻度値を正整数に変更してください。

DYQ0043 分析を完了するために必要とされた出力列が多すぎました。

説明:

この分析には、分析結果が含まれる一時出力表が作成される必要があります。

照会結果の分析により、出力表に作成された列の数が多すぎます。最大数は 750 です。

ユーザーの処置:

さらに列数が少ない照会結果を使用して、分析を再実行してください。

DYQ0044 DCF 分析は、IRR が不確定であるため実行できませんでした。

説明:

内部収益率 (IRR) とは、ディスカウント・キャッシュフロー分析において累積キャッシュ・フローをゼロに割り引く率のことです。

分析では IRR が数学的に不確定であると設定されているため、分析を実行できません。

ユーザーの処置:

照会結果内のデータを確認してください。

DYQ0045 割引率 &V1 が範囲外です。

説明:

割引率は、将来のキャッシュ・フローが割り引かれる率のことです。値 &V1 は、ディスカウント・キャッシ

DYQ0046 • DYQ0055

ユ・フロー分析で使用するには大きすぎるかまたは小さすぎます。

割引率は -99.9 から 250 の間の数値でなければなりません。

ユーザーの処置:

割引率を -99.9 から 250 の間の値に変更してください。

DYQ0046 割引率 &V1 が数値ではありません。

説明:

割引率は、将来のキャッシュ・フローが割引かれる率のことです。値 &V1 が数値ではありません。

割引率は -99.9 から 250 の間の数値でなければなりません。

ユーザーの処置:

割引率を -99.9 から 250 の間の値に変更してください。

DYQ0047 列 &V1 が数値データ・タイプではありません。

説明:

割引キャッシュ・フロー分析は、数値データのみを含む列を必要とします。文字データを含む列は使用できません。

ユーザーの処置:

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。割引キャッシュ・フロー分析で分析する数値列を選択してください。

DYQ0050 時系列データ列 &V1 が数値データ・タイプではありません。

説明:

時系列データ列には、数値データが入っていなければなりません。

ユーザーの処置:

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。時系列データ列に対して、整数数値列または 10 進数値列のいずれかを選択してください。

DYQ0051 時系列データ列 &V1 が見つかりませんでした。

説明:

列 &V1 が QMF Analytics for TSO により検出できませんでした。

列名のつづりが誤っているか、または照会結果の列の列名ではない可能性があります。

ユーザーの処置:

列名のスペルが正しいことを確認してください。

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。時系列データ列に対して、整数数値列または 10 進数値列のいずれかを選択してください。

DYQ0052 開始期間 &V1 が数値ではありません。

説明:

「開始期間」は、時系列データ分析が開始する期間を表し、特定されている場合は数値でなければなりません。

ユーザーの処置:

このフィールドには数値を入力してください。

DYQ0053 開始年 &V1 は無効です。

説明:

「開始年」は、時系列データ分析が開始する年を表し、特定されている場合は数値でなければなりません。この値は、正の整数でなければなりません。

ユーザーの処置:

開始年を 4 桁の形式で入力してください。

DYQ0054 予測する期間数 &V1 が数値ではありません。

説明:

予測する期間数は、数値でなければなりません。

ユーザーの処置:

このフィールドには数値を入力してください。

DYQ0055 無効な組み合わせのオプション・パラメーターが指定されました。

説明:

単変量カーブ・フィッティング分析のオプション・パラメーターは、次のとおりです。

- 年間の期間数
- 開始期間
- 開始年

オプション・パラメーターは、以下の組み合わせでのみ使用できます。

- すべてのパラメーターがブランクである。
- すべてのパラメーターに有効な値がある。

- 「開始年」に有効な値が含まれている。「年間の期間数」および「開始期間」の両方をブランクのままにする。

ユーザーの処置:

有効な組み合わせのオプション・パラメーターを入力してください。

DYQ0056 年間の期間数 &V1 は無効です。

説明:

年間の期間数を 2 より小さくするか 13 より大きくすることはできません。

ユーザーの処置:

2 から 13 の数値を入力してください。

DYQ0057 開始期間 &V1 は無効です。

説明:

開始期間は、「年間の期間数」フィールドに指定された値以下でなければなりません。

開始期間をゼロにすることはできません。

ユーザーの処置:

開始期間を有効な値に変更してください。

DYQ0060 Y 軸列 &V1 が数値データ・タイプではありません。

説明:

Y 軸列には、数値データが含まれている必要があります。文字データは無効です。

ユーザーの処置:

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。Y 軸列に対して、整数数値列または 10 進数値列のいずれかを選択してください。

DYQ0061 Y 軸列 &V1 が見つかりませんでした。

説明:

Y 軸列 &V1 が QMF Analytics for TSO により検出できませんでした。

列名のつづりが誤っているか、または照会結果の列の列名ではない可能性があります。

ユーザーの処置:

列名のスペルが正しいことを確認してください。「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。Y 軸列に対して、整数数値列または 10 進数値列のいずれかを選択してください。

DYQ0062 X 軸 &V1 列が見つかりませんでした。

説明:

X 軸列 &V1 が QMF Analytics for TSO により検出できませんでした。

列名のつづりが誤っているか、または照会結果の列の列名ではない可能性があります。

ユーザーの処置:

列名のつづりが正しいことを確認してください。

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。X 軸列の列を選択してください。

DYQ0063 無効な組み合わせのオプション・パラメーターが指定されました。

説明:

線形トレンド分析のオプション・パラメーターは、次のとおりです。

- 年間の期間数
- 開始期間
- 開始年

オプション・パラメーターは、以下の組み合わせでのみ使用できます。

- すべてのパラメーターがブランクである。
- すべてのパラメーターに有効な値がある。

ユーザーの処置:

有効な組み合わせのオプション・パラメーターを入力してください。

DYQ0064 季節オプションが選択されましたが、他のパラメーターがブランクです。

説明:

季節オプションが選択されている場合、すべてのパラメーターは必須になります。

季節オプションを選択する場合は、以下のパラメーターの値を入力する必要があります。

- 年間の期間数
- 開始年
- 開始期間
- 予測する期間数

ユーザーの処置:

季節以外オプションを選択するか、またはすべての必須パラメーターを入力してください。

DYQ0065 分析を実行する観測数が少なすぎました。

説明:

照会結果には、分析に十分な観測が含まれていませんでした。選択した列について、十分な監視が行に含まれていません。

ユーザーの処置:

より多くの表の行を含む照会結果を使用して、分析を再実行してください。

DYQ0066 X 軸列 &V1 が数値ではありません。

説明:

プロット・グラフでは、X 軸列は、数値データ・タイプまたはブランクのいずれかでなければなりません。

ユーザーの処置:

「リスト」キーを押して、照会結果から列名のリストを表示してください。X 軸列に対して、整数数値列または 10 進数値列のいずれかを選択してください。

すべての表の行をプロットできるように、X 軸列はブランクのままにしておいてください。

DYQ0067 分析でゼロ除算条件を検出しました。

説明:

照会結果を使用して、ゼロ除算条件が検出されました。

分析中に、計算された値が予期せずにゼロに変換されました。これは、照会結果に不適切な数値データが入っているために生じた可能性があります。

ユーザーの処置:

照会結果内の数値データを確認してください。

DYQ0068 分析がオーバーフロー条件を検出しました。

説明:

分析中に、計算された値が大きくなりすぎました。これは、照会結果に不適切な数値データが入っているために生じた可能性があります。

ユーザーの処置:

照会結果内の数値データを確認してください。

DYQ0069 値がゼロまたは負であったため、分析を実行できませんでした。

説明:

この分析には正の値が必要です。

ユーザーの処置:

照会結果内の数値データを確認してください。

DYQ0070 GDDM-PGF がインストールされていないため、図表を表示できません。

説明:

QMF Analytics for TSO には、図表を作成して統計分析からの結果を表示するために、GDDM-PGF が必要です。

GDDM-PGF がインストールされていないか、またはこのシステム上で活動化されていません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DYQ0071 グラフィック端末以外の端末装置に結果を表示することはできません。

説明:

この端末装置はグラフィックを表示できません。QMF Analytics for TSO は、図表および統計結果を表示するためにグラフィック端末を必要とします。

ユーザーの処置:

ご使用の 3270 エミュレーターがグラフィックス機能に対応していることを確認してください。

DYQ0072 図表はデータ値が大きすぎるために表示できません。

説明:

照会結果の使用時に、固定小数点オーバーフロー条件が検出されました。

これは、照会結果に極端に大きな数値が入っているために生じた可能性があります。

ユーザーの処置:

照会結果内の数値データを確認してください。

DYQ0073 図表はデータ値が大きすぎるために表示できません。

説明:

照会結果の使用時に、浮動小数点オーバーフロー条件が検出されました。分析中に大きすぎる値が検出されました。

これは、照会結果に不適切な数値データが入っているために生じた可能性があります。

ユーザーの処置:

照会結果内の数値データを確認してください。

DYQ0074 図表はデータ値が小さすぎるために表示できません。

説明:

照会結果の使用時に、浮動小数点アンダーフロー条件が検出されました。分析中に小さすぎる値が検出されました。

これは、照会結果に不適切な数値データが入っているために生じた可能性があります。

ユーザーの処置:

照会結果内の数値データを確認してください。

DYQ0076 図表はデータ値が無効であるため表示できません。

説明:

データ値が大きすぎるかまたは小さすぎて、図表の軸を描くことができません。軸は、X 軸、Y 軸、Z 軸のいずれかです。

有効な最小のデータ値は 1.0E-18 です。

有効な最大のデータ値は 1.0E+18 です。

ユーザーの処置:

照会結果内の数値データを確認してください。

データ値が 1.0E-18 以上、1.0E+18 以下であることを確認してください。

DYQ0077 円グラフは、負の円スライス値で表示することはできません。

説明:

照会結果のセクター列で負の値が検出されました。円スライスのデータ値は、セクター列から決定され、負にすることはできません。

ユーザーの処置:

照会結果内のセクター列のデータを確認してください。

DYQ0078 照会結果を使用して曲線を適合させることができませんでした。

説明:

&V1 分析は、照会結果から選択した列データを使用して、いずれの曲線も適合させることができませんでした。

照会結果データがこの分析に適していない可能性があります。

ユーザーの処置:

QMF Analytics for TSO での統計分析の実行については、QMF for TSO の参照資料を参照してください。

DYQ0079 EPA オプションは 4 または 12 のいずれかの年間の期間数を必要とします。

説明:

&V1 分析は、4 または 12 の年間の期間数が指定されていない限り、EPA オプションを指定して使用することはできません。

ユーザーの処置:

&V1 分析パラメーター・パネルに戻り、「年間の期間数」フィールドに 4 または 12 のいずれかを入力してください。

DYQ0080 リンク列が非互換のため、マップを表示できません。

説明:

地理的地域を表す、QMF Analytics for TSO によって提供された座標表で使用するために、マップ・データ表からリンク列を指定しました。

QMF Analytics for TSO は、指定された列のデータ・タイプを、この地域の ISO 値を含む内部座標表と突き合わせることはできません。

内部座標表はすべて、数値 ISO コードか、2 文字または 3 文字の ISO コードに関して突き合わせが行われますが、以下の例外があります。

- ドイツでは、2 文字の ISO コードに関してのみ突き合わせが行われます。
- 米国では、数値 ISO コード、2 文字の ISO コード、および州を表す完全な文字値 (例えば GEORGIA) に関してのみ突き合わせが行われます。

ユーザーの処置:

指定された地域の ISO コードのいずれかと互換性があるリンク列を指定してください。

DYQ0081 マップ領域に一致するデータがないため、マップを表示できません。

説明:

マップ・データ表のリンク列の値が、座標表のリンク列のどの値とも一致しません。これら 2 つの列には、作成するマップ・チャートに関して一致する値が含まれていなければなりません。

ユーザーの処置:

マップ・データ表の指定したリンク列の値が、座標表の

DYQ0090 • DYQ0101

リンク列の値に一致するようにしてください。列はいずれも、類似のデータ・タイプ (文字または数値) でなければなりません。

独自の座標表を使用し、マップ・データ表から数値リンク列を指定した場合、QMF Analytics for TSO は座標表リンク列の値が数値であると想定します。

QMF Analytics for TSO によって提供された座標表 (地理マップ) の 1 つを使用している場合、マップ・データ列の値は ISO 標準に一致しなければなりません。これらは ISO 3166-1 標準または ISO 3166-2 US 標準 (2 文字の州の省略形、米国の場合) です。

DYQ0090 **SHARE** オプション &V1 が無効です。

説明:

SHARE オプションに指定できる値およびその意味は以下のとおりです。

- YES - ANALYTIC オブジェクトは他の QMF ユーザーと共有できます。
- NO - ANALYTIC オブジェクトは他の QMF ユーザーと共有できません。

このフィールドを空白のままにしておくと、QMF Analytics for TSO は QMF プロファイルに設定された値を使用します。

ユーザーの処置:

SHARE オプションに有効な値を入力してください。

DYQ0091 **CONFIRM** オプション &V1 は無効です。

説明:

無効な値 &V1 が CONFIRM オプションに入力されました。QMF Analytics for TSO は、CONFIRM オプションに指定された値を使用して、ANALYTIC オブジェクトの QMF データベースへの保存時に名前の競合が検出された場合に実行する内容を決定します。

- YES - QMF データベース内の同じ名前を持つ ANALYTIC オブジェクトを置き換えるか、または保存を取り消すかを指定できるウィンドウを表示します。
- NO - 「確認」ダイアログ・ウィンドウを表示しません。QMF Analytics for TSO は、ANALYTIC オブジェクトを保存するときに、同じ名前を持つ既存の ANALYTIC オブジェクトを置き換えます。

ユーザーの処置:

有効な値を入力してください。

DYQ0092 **ANALYTIC** オブジェクト名が空白です。

説明:

ANALYTIC オブジェクト名は空白にすることはできません。オブジェクト名は、QMF カタログで保存済みオブジェクトを識別するために必要です。

ユーザーの処置:

有効な ANALYTIC オブジェクト名を入力してください。

DYQ0093 選択番号 &V1 が無効です。

説明:

オブジェクトを置き換えるには 1 を、保存を取り消すには 2 を選択してください。

ユーザーの処置:

有効な選択番号を入力してください。

DYQ0100 **OK, ANALYTIC** オブジェクト &V1 がデータベースに保管されました。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0101 **ANALYTIC** オブジェクト &V1 は既に存在しています。

説明:

オブジェクト名 &V1 は QMF カタログ内に既に存在しています。

各 ANALYTIC オブジェクトは、保存時に固有名を付ける必要があります。QMF データベース内の既存の ANALYTIC オブジェクトを置き換える場合は、オブジェクト名 &V1 のみ使用することができます。

ユーザーの処置:

ANALYTIC オブジェクトの新規名を選択してください。

さらに、既存のオブジェクトは、CONFIRM オプションを NO に変更するか、または CONFIRM パネルで YES を選択することで置き換えることもできます。

DYQ0102 異なるタイプのオブジェクトが、名前 &V1 で既に存在します。

説明:

オブジェクト &V1 は、QMF カタログに既に存在します。

これは ANALYTIC オブジェクトではないため、入力したオブジェクト名を使用して置換することはできません。QMF では、同じタイプのオブジェクトのみが置換可能です。

ユーザーの処置:

ANALYTIC オブジェクトの新しい名前を選択してください。

DYQ0103 &V1 分析オブジェクト名は無効です。

説明:

オブジェクト名 &V1 は、QMF における ANALYTIC オブジェクト名の命名規則に従っていません。

ユーザーの処置:

ANALYTIC オブジェクトの新規名を選択してください。

QMF ANALYTIC オブジェクト命名規則のヘルプについては、「関連トピック」キーを押してください。

DYQ0104 ANALYTIC オブジェクト名 &V1 は予約語です。

説明:

オブジェクト名 &V1 は、QMF の予約語です。これは ANALYTIC オブジェクト名として使用することはできません。

予約語とは、FORM または PROC など、QMF 自体による使用以外は使用が制限されている語です。

ユーザーの処置:

ANALYTIC オブジェクトの新規名を選択してください。

QMF ANALYTIC オブジェクト命名規則のヘルプおよび QMF 予約語のリストについては、「関連トピック」キーを押してください。

DYQ0105 オブジェクト &V1 を保存する権限がありません。

説明:

名前に指定されているユーザー ID にオブジェクトを保

存する権限がないため、オブジェクト名 &V1 を保存できません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡を取り、該当するユーザー ID を使用して ANALYTIC オブジェクトを保存することが許可されているかどうかを確認してください。

自分のユーザー ID を使用して ANALYTIC オブジェクトの保管を再試行してください。

DYQ0106 OK、SAVE コマンドは、要求どおりに取り消されました。

説明:

ANALYTIC オブジェクトの保存が取り消されました。ANALYTIC オブジェクトは QMF データベースに保存されませんでした。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0107 OK、ANALYTIC オブジェクト &V1 は、データベース内で置き換えられています。

説明:

このメッセージは単なる確認メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0111 ANALYTIC オブジェクト &V1 を保管できません。

説明:

内部エラーのため、ANALYTIC オブジェクトを保存できません。このオブジェクトは正常に記憶域にコピーされなかったため、QMF データベースに保存できません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DYQ0112 ここがパネルの境界です。

説明:

&V1 を出した時点でカーソルがパネルの境界に置かれていたために、このコマンドによる画面の変更は行われませんでした。

ユーザーの処置:

別の操作を続行してください。

DYQ0113 &V1 は、選択できません。

説明:

選択リストに入力された数は無効です。

ユーザーの処置:

選択リストの各オプションには、先頭に番号が付いています。リストされている番号のみを入力できます。

選択リストにある番号を入力フィールドに入力し、Enter を押してください。

DYQ0114 &V1 は有効な選択番号ではありません。

説明:

入力された値が数値でないか、またはそれが選択リストにありません。

ユーザーの処置:

選択可能なオプションには、番号が付いています。

リストされているいずれかの番号を入力フィールドに入力し、Enter を押してください。

DYQ0115 &V1 は有効なスクロールの値ではありません。

説明:

入力されたスクロールの値が数値でないか、またはリストにない数値が入力されました。

ユーザーの処置:

スクロール先の項目の番号を入力し、Enter を押してください。

DYQ0116 リストからオプションを選択してください。

説明:

リストからオプションが選択されませんでした。

ユーザーの処置:

リストからオプションを選択し、Enter キーを押してください。

DYQ0117 &V1 はこのパネルではアクティブではありません。

説明:

&V1 には、関連付けられている機能がありません。関連する機能があるのは、ラベルが付けられているキーのみです。

ユーザーの処置:

ラベルが付けられているファンクション・キーを選択してください。

DYQ0118 SCREEN TRACE は既に実行中であるため、開始できません。

説明:

SCREEN TRACE を開始しようとしたが、既に実行中でした。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0119 SCREEN TRACE は既に実行していないため、停止できません。

説明:

SCREEN TRACE を停止しようとしたが、現在実行していません。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0120 ANALYTIC オブジェクトをロードできませんでした。

説明:

ANALYTIC オブジェクトを QMF データベースからロードできませんでした。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DYQ0121 &V1 分析は NULL 値を使用して実行することはできません。

説明:

照会結果から選択した列には NULL 値が含まれており、&V1 分析では使用できません。分析は完了しています。

ユーザーの処置:

QMF Analytics for TSO での NULL 値の使用については、QMF for TSO の参照資料を参照してください。

DYQ0122 &V1 分析により NULL 値がゼロに変換されました。

説明:

照会結果から選択した列には NULL 値が含まれており、&V1 分析では使用できません。

QMF Analytics for TSO がデータ内の NULL 値をゼ

ロに変換したため、分析を実行できません。

ユーザーの処置:

QMF Analytics for TSO での NULL 値の使用については、QMF for TSO の参照資料を参照してください。

DYQ0123 &V1 分析では NULL 値を持つ行は無視されました。

説明:

照会結果から選択した列には NULL 値が含まれており、&V1 分析では使用できません。

QMF Analytics for TSO は、分析を実行できるように、NULL 値を含む選択列からの行は無視します。

ユーザーの処置:

QMF Analytics for TSO での NULL 値の使用については、QMF for TSO の参照資料を参照してください。

DYQ0124 パラメーター値 &V1 が無効です。

説明:

パラメーター値 &V1 が無効であり、コマンド・プロンプト・パネルで処理できませんでした。

ユーザーの処置:

コマンド・プロンプト・パネルの指示に従い、このパラメーターの有効な値を再入力してください。

DYQ0125 コマンド・プロンプト・パネルの指示に従ってください。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

すべての必須フィールドに値が指定されていることを確認して、Enter を押してください。

DYQ0130 プリンター &V1 が使用できません。

説明:

プリンター &V1 が、使用できないか、オンになっていません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DYQ0131 プリンター &V1 に指定された出力サイズが無効です。

説明:

プリンター &V1 で、縦の長さ、幅、または余白の値により最大ページ・サイズを超過しています。

ユーザーの処置:

縦の長さ、幅、または余白のパラメーターの値を下げて、再試行してください。

DYQ0132 プリンター &V1 がグラフィックスを印刷できません。

説明:

プリンター &V1 ではグラフィックスを印刷できません。

ユーザーの処置:

グラフィックスを印刷できるプリンターを指定してください。

DYQ0133 プリンター &V1 がテキストを印刷できません。

説明:

プリンター &V1 ではテキストを印刷できません。

ユーザーの処置:

テキストを印刷できるプリンターを指定してください。

DYQ0140 このデータを使用して図表を作成するには固有値が多すぎます。

説明:

列に含まれる固有値の数が多すぎるため、このデータを使用して図表を完成できません。代わりに既定の最大値が使用されています。

円グラフ以外のすべての図表では、x 軸列に最大 120 の固有値を使用できます。

円グラフでは、「セクター」列に最大 50 の固有値を使用できます。

ヒストグラムでは、「グループ化」列に最大 20 の固有値を使用できます。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0141 図表の作表が不完全でした。

説明:

端末に、この図表の完全な作表テーブルを表示するための十分な画面スペースがありません。

ユーザーの処置:

端末エミュレーターを使用して画面の幅を広げ、図表を再度作成してください。

DYQ0142 ヒストグラムを表示するために十分な固有データ・ポイントがありません。

説明:

意味のあるグループ化を表すには、少なくとも 5 つのデータ・クラスがなければなりません。

QMF Analytics for TSO は、ヒストグラムで使用されるデータ・クラスの数を決定するために、スタージェスの公式を使用します。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0143 データ内にデータ・ポイントが多すぎます。

説明:

QMF Analytics for TSO は、データ・ポイントが多すぎるために、プロット・グラフ全体を表示できません。

プロット・グラフは、最大で 2000 のデータ・ポイントを持つことができます。2000 を超えたすべてのデータ・ポイントは破棄され、グラフには表示されません。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0144 スライスの切り出し機能は使用できません。

説明:

切り出し関数を使用する場合は、円グラフに 32 より多いスライスを含めることはできません。

QMF Analytics for TSO は円グラフを展開スライスなしで表示します。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0145 図表全体を表示するには画面幅が不十分です。

説明:

X 軸列の値が多すぎます。その結果、QMF Analytics for TSO が作成した図表は幅が広すぎて、画面に収まりません。

図表にタブが含まれている場合、タブが不完全である可能性もあります。

ユーザーの処置:

端末エミュレーターを使用して、画面の幅を増やしてから、図表を作成し直してください。

DYQ0150 OK、カーソルが置かれています。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0151 OK、&V1 が実行されました。処理を続行してください。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0152 OK、&V1 コマンドが正常に実行されました。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0153 OK、&V1 図表が表示されます。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0154 OK、&V1 分析が表示されます。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0155 OK、Analytics が表示されます。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0156 OK、Analytics が示されます。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0157 OK、&V1 が表示されます。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0158 OK、&V1 曲線が表示されます。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0159 OK、&V1 予測が表示されます。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0160 OK、SCREEN TRACE 開始されました。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0161 OK、SCREEN TRACE 停止しました。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0162 OK、&V1 選択リストが表示されます。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0163 OK、Analytics 出力が &V1 で印刷されました。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0164 OK、&V1。

説明:

これは単なる通知メッセージです。

ユーザーの処置:

アクションは不要です。

DYQ0901 QMF Analytics for TSO には多くの内部表が累積しすぎています。

説明:

通常の操作の過程で、QMF Analytics for TSO は、独自に使用するための多数の内部表を作成します。これ以上の図表の作成または統計分析はできない可能性があります。

通常、QMF セッションを終了すると、それらの内部表は削除されます。

DYQ0902 • DYQ0915

ユーザーの処置:

QMF を再開して、図表または分析の処理を再実行してください。

問題が続く場合は、QMF 管理者に連絡してください。

DYQ0902 QMF Analytics for TSO は内部記憶域不足を検出しました。

説明:

内部記憶域の不足が検出されました。図表作成または統計分析はこれ以上行うことができない可能性があります。

通常の操作の過程で、QMF Analytics for TSO は、独自に使用するためのシステム記憶域を獲得します。

通常、QMF セッションを終了すると、システム記憶域は解放されます。

ユーザーの処置:

QMF を再開して、図表または分析の処理を再実行してください。

問題が続く場合は、QMF 管理者に連絡してください。

DYQ0903 QMF Analytics for TSO が書き込もうとした内部表の行は多すぎました。

説明:

統計分析中に内部表の行を書き込もうとしたときに、内部制限を超えました。

照会結果から分析に渡された表の行が多すぎました。

ユーザーの処置:

照会結果のセット数を少なくして、表の行の数を減らしてください。

DYQ0911 内部エラー &V1 が検出されました。

説明:

QMF Analytics for TSO の処理中に、&V1 タイプの内部エラーが検出されました。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡し、内部エラー番号を伝えてください。

DYQ0912 予期しない開始エラーです。

説明:

QMF for TSO Analytics は、予期しない開始エラーを検出しました。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DYQ0913 QMF Analytics for TSO には GDDM-PGF がインストールされている必要があります。

説明:

QMF Analytics for TSO には、図表を作成して統計分析からの結果を表示するために、GDDM-PGF が必要です。

GDDM-PGF がインストールされていないか、またはこのシステム上で活動化されていません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DYQ0914 照会結果に表の行がありません。

説明:

現在の QMF 照会結果には表の行がないため、QMF Analytics for TSO 内で使用できません。

ユーザーの処置:

QMF Analytics for TSO を開始する前に、QMF で照会を実行して 1 つ以上の表の行を含む照会結果を作成するか、または表の行を含む既存のオブジェクトを使用してください。

DYQ0915 サポートされる DB2 データ・タイプが照会結果に含まれていません。

説明:

現行の QMF 照会結果には、QMF Analytics for TSO によってサポートされる DB2 データ・タイプを持つ、少なくとも 1 つの列が含まれている必要があります。

ユーザーの処置:

QMF で照会を実行して、QMF Analytics for TSO によってサポートされる DB2 データ・タイプを持つ列を含む照会結果を生成してください。

ほとんどの図表および統計分析には、数値データを含む少なくとも 1 つの列が必要です。

QMF Analytics for TSO によってサポートされる DB2 データ・タイプのリストを表示するには、「関連トピック」キーを押してください。

DYQ0916 照会結果に無効データまたは破損データが入っています。

説明:

現在の QMF 照会結果を QMF Analytics for TSO が使用することはできません。少なくとも 1 つの列に無効データが含まれています。

ユーザーの処置:

これらの照会結果を生成した QMF 照会を再実行してください。

問題が続く場合は、QMF 管理者に連絡してください。

DYQ0917 内部表を開くことができません。

説明:

QMF 照会結果データを入れる内部表を開こうとしているときに、QMF Analytics for TSO によってエラーが検出されました。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DYQ0918 内部表を作成できません。

説明:

QMF 照会結果データを入れる内部表にデータを設定しようとしているときに、QMF Analytics for TSO によってエラーが検出されました。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DYQ0919 データ・オブジェクト仕様エラーが検出されました。

説明:

QMF 照会結果を記述するデータ・オブジェクト仕様で、QMF Analytics for TSO によってエラーが検出されました。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

DYQ0999 メッセージ・テキストが入手できません。

説明:

要求されたメッセージ ID に使用可能なメッセージ・テキストがありません。

ユーザーの処置:

QMF 管理者に連絡してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料の他の言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、これを入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様自身の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

商標

IBM、IBM ロゴ、および [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用条件: IBM Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。

ます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』（<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>）の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』（<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>）を参照してください。

用語集

異常終了 (abend) (abnormal end of task (abend))

実行中に回復機能が解決できなかったエラー状態のために、タスク、ジョブ、またはサブシステムが終了すること。

アドレス・スペース (address space)

コンピューター・プログラムまたはプロセスで使用可能なアドレスの範囲。アドレス・スペースは、物理記憶域、仮想記憶域、またはその両方を指すことがある。

拡張プログラム間通信 (Advanced Program-to-Program Communication)

APPC を参照。

集約関数 (aggregate function)

列中のデータを総計する関数の任意のグループ。形式パネル上で以下の取扱コードを使用して要求する。AVERAGE、CALC、COUNT、FIRST、LAST、MAXIMUM、MINIMUM、STDEV、SUM、CSUM、PCT、CPCT、TPCT、TCPCT。

集約変数 (aggregation variable)

FORM.BREAK、FORM.CALC、FORM.DETAIL、または FORM.FINAL パネルを使って報告書の中に入れられる集約関数。作成された報告書には、その値は、切れ目後書き、明細ブロック・テキスト、または最終テキストの一部として出力される。

別名 (alias)

表、視点、データベース、またはニックネームを識別するために使用される代替名。別名は、同じ DB2 システム/サブシステムにおいて、またはリモートの DB2 システム/サブシステムにおいて、表、視点、またはデータベースを参照する SQL ステートメント内で使用できる。

APAR (プログラム診断依頼書) (APAR (Authorized Program Analysis Report))

サポート対象リリースの IBM 提供プログラムにおける問題点に対する修正要求。

許可プログラム機能 (authorized program facility (APF))

z/OS 環境で、制限付き機能の使用を許可されたプログラムの識別を可能にする機能。

アプリケーション・プログラミング・インターフェース (application programming interface (API))

高水準言語で記述されたアプリケーション・プログラムが、オペレーティング・システムまたは他のプログラムの特定のデータや機能を使用できるようにするインターフェース。

アプリケーション (application)

QMF サービスを使用して、特定のビジネス・プロセス (複数の場合もあり) を直接サポートする機能を提供する、1 つ以上のコンピューター・プログラムまたはソフトウェア・コンポーネント。

拡張プログラム間通信機能 (Advanced Program-to-Program Communication (APPC))

相互接続した複数のシステムが互いに通信してプログラムの処理を分担できるようにする、SNA LU 6.2 プロトコルのインプリメンテーション。

アプリケーション・プラン (application plan)

バインド処理中に生成される制御構造。QMF バージョン 12.1 アプリケーション・プランのデフォルト名は QMF12 です。

アプリケーション・プログラミング・インターフェース (application programming interface)

API を参照。

アプリケーション・リクエスター (application requester)

DRDA に対応したリモート・リレーションアル・データベース管理システム (RDBMS) への要求の送信元。QMF が開始できる唯一のデータベース・タイプであるため、DB2 for z/OS データベースのみがアプリケーション・リクエスターとして機能できる。

アプリケーション・サーバー (application server)

アプリケーション・リクエスターからの要求の目標。アプリケーション・サーバー設置場所のデータベース管理システム (DBMS) が、要求に対応する。リモート・サーバーとの接続は、QMF for TSO が DB2 for z/OS ストアード・プロシージャーとして実行されている場合はサポートされない。

引数 (argument)

実行時に関数またはプロシージャ間で渡されるか、または返される値。

許可 ID (authorization ID) (authorization identifier (authorization ID))

1 組の特権を指定する文字ストリングで、権限の検証に使用される。許可 ID は、オブジェクト、個々のユーザー、組織グループ、関数、またはデータベース・ロールを表している。QMF は、QMF 初期化中に、Q.PROFILES テーブルの列に対して、データベース許可 ID を認証するか、またはオプションで QMF TSO ログオン ID を認証する。

プログラム診断依頼書 (Authorized Program Analysis Report)

APAR を参照。

許可プログラム機能 (Authorized program facility)

APF を参照。

補助表 (auxiliary table)

定義されている表の外側の列を保管する表。基本表 も参照。

基本製品 (base product)

QMF のインストール時に設定される QMF の英語バージョン。他の言語環境は、その言語に関連付けられた各国語機能 (NLF) をインストールすることにより、インストール後に設定される。

基本表 (base table)

SQL CREATE TABLE ステートメントにより作成され、永続データを保持する表。

バイナリー・ストリング (binary string)

コード化文字セットに関連付けられていないため変換されることのない、バイトの連

続。例えば、BLOB データ型はバイナリー・ストリングである。CCSID も参照。

バインド (bind)

DBMS プリコンパイラーからの出力を、アクセス・プラン、アプリケーション・プラン、パッケージなどの、使用可能な制御構造に変換すること。

ビット・データ (bit data)

コード化文字セットに関連付けられていないため変換されることのない、CHAR または VARCHAR データ型のデータ。

バッファー・プール (buffer pool)

データ・ページが読み込まれるメモリー領域であり、処理中にデータ・ページの変更が行われて保存される場所でもある。アドレス・スペースも参照。

組み込み関数 (built-in function)

DB2 データベースに不可欠な、厳密に型指定された高性能関数。組み込み関数は、SQL ステートメント内の、その式が有効なあらゆる場所で参照できる。

呼び出し接続機能 (call attachment facility (CAF))

TSO または z/OS バッチで実行されるアプリケーション・プログラムの DB2 for z/OS 接続機能。CAF は DSN コマンド・プロセッサの代替機能であり、実行環境でのより優れた制御を可能にする。

呼び出し接続機能 (call attachment facility)

CAF を参照。

呼び出し可能インターフェース (callable interface)

QMF オブジェクトとサービスへのアクセスを可能にするプログラミング・インターフェース。

カスケード削除 (cascade delete)

DB2 データベース・マネージャーが、削除された親行の下層行をすべて削除することにより参照制約を強制するプロセス。

カタログ (catalog)

表、視点、索引などのオブジェクトの記述を含む表と視点の集合。QMF オブジェクト・カタログ も参照。

コード化文字セット ID (coded character set identifier (CCSID))

特定のコード化スキーム ID のセット、文字セット ID、コード・ページ ID、およびコード化図形文字表現を一意に識別するその他の情報を含む 16 ビットの数値。QMF では、GDDM が提供する表示サービスを使用するため、GDDM アプリケーション・コード・ページは、データベースで使用中の CCSID と一致している必要がある。バイナリー・ストリング も参照。

文字ストリング (character string)

ビット・データ、1 バイト文字、または 1 バイト文字とマルチバイト文字の組み合わせを表す一連のバイト。

チェック制約 (check constraint)

ユーザー定義の制約で、基本表の特定の列に含むことができる値を指定する。制約も参照。

CICS (顧客情報管理システム: Customer Information Control System)

オンライン・トランザクション処理サービスおよびビジネス・アプリケーションの管理を提供する IBM ライセンス・プログラム。

節 (clause)

SQL では、SELECT 節や WHERE 節など、言語構造のステートメントの特徴的部分。

CM (互換モード) (Compatibility Mode)

QMF バージョン 8.1 および QMF バージョン 9.1 のインストール・モードで、QMF オブジェクト・カタログ内の所有者名およびオブジェクト名をそれぞれ 8 文字と 18 文字に制限する。NFM も参照。

コード・ページ (code page)

GRAPHIC 文字へのコード・ポイントの特定の割り当て。特定のコード・ページ内では、コード・ポイントは 1 つの限定した意味のみを持つことができる。コード・ページは、未定義のコード・ポイントの処理方法も識別する。

コード化文字セット ID (coded character set identifier)

CCSID を参照。

共存 (coexistence)

2 つの QMF リリースが同じ DB2 サブシステムに存在する状態。QMF バージョン 12.1 は、QMF バージョン 9.1 新機能モード または QMF バージョン 8.1 新機能モード とのみ共存させることができる。

column

データベース表の垂直方向のコンポーネント。列は、特定のデータ・タイプ (例えば、文字、10 進数、整数) と名前を持つ。

列関数 (column function)

集約関数 を参照。

列折り返し (column wrapping)

1 つの列内で値が複数の行にまたがる、報告書内の値の書式設定。列折り返しは、XML データの表示を必要とする場合など、列に含まれる値の長さがその列の幅を越えるときに、しばしば使用される。

コマンド・インターフェース (command interface)

QMF コマンドを発行するためのインターフェース。コマンド・インターフェースを使用すれば、QMF のもとで実行中の ISPF ダイアログから QMF コマンドを発行できる。このインターフェースを使用して、QMF は ISPF 変数プールを介してダイアログと通信する。

コマンド同義語 (command synonym)

サイトの定義コマンドの verb または verb / オブジェクトの部分。QMF プロファイルでコマンド同義語を定義してアクティブにすると、ユーザーは、通常の QMF コマンドと同じように、QMF コマンド行で同義語を入力できる。

コマンド同義語表 (command synonym table)

行ごとに 1 つの地域別定義コマンドを保管する表。この表の名前をユーザーのプロファイルに保管することにより、ユーザーにコマンド同義語のセットを割り当てる。

比較演算子 (comparison operator)

SQL の比較式で、2 つの値の関係を指定するために使用される記号。比較演算子には、= (等しい)、<> (等しくない)、< (より小)、> (より大)、<= (以下)、および >= (以上) がある。

互換モード

互換モード (CM) を参照。

コミット (commit)

作業単位で行われたデータベースの変更を他のプロセスが認識できるように、ロックを解除することにより作業単位を終了すること。この処理は、データ変更を永続的なものにする。

連結 (concatenation)

2 つの文字または文字列を結合して 1 つの文字列にすること。

接続 (connection)

データ通信で、エンティティー間で情報を伝達するために設定されるアソシエーション。SQL 接続 も参照。リモート・サーバーとの接続は、QMF for TSO が DB2 for z/OS ストアード・プロシージャーとして実行されている場合はサポートされない。

定数 (constant)

変化することのない値を指定する言語エレメント。定数は、ストリング定数または数値定数として分類される。

制約 (constraint)

表での挿入、削除、または更新が可能な値を制限する規則。

制御セクション (control section)

CSECT を参照。

コントロール表 (control tables)

QMF が QMF オブジェクトに関する情報の保管、および QMF 演算を管理するために使用する一連の表。QMF オブジェクト・カタログ も参照。

関連参照 (correlated reference)

副照会の外側にある表または視点の列の参照。

関連名 (correlation name)

単一の SQL ステートメント内でオブジェクト (表、視点、表関数の参照、ネストされた表の式、データ変更表の参照など) の直接的な名前として指定され、使用される識別子。関連名は、SQL ステートメントで、同じ基本表への 2 つの別個の参照を許す場合や、代替名を使用したオブジェクトの表現を許す場合に便利である。

制御セクション (control section (CSECT))

プログラマーによって再配置可能単位として指定されるプログラムの一部。この部分のエレメントは、すべて主記憶域ロケーションにロードされる。

現在場所 (current location)

QMF セッションが現在接続されているアプリケーション・サーバー。接続が確立されると、このサーバーはすべての SQL ステートメントを処理する。QMF を初期化する場合、現行ロケーションは DSQSDBNM 開始パラメーターを使用して示すことができる。リモート・サーバーとの接続は、QMF for TSO が DB2 for z/OS ストアード・プロシージャーとして実行されている場合はサポートされない。

現行オブジェクト (current object)

一時記憶域に保持されている QMF オブジェクト。そのため、使用のたびにデータベースの検索を必要とせずに簡単にアクセスできる。QUERY、FORM、PROC、PROFILE、REPORT、DATA、および CHART の 7 つの一時記憶域がある。ユーザーは、SHOW コマンドと DISPLAY コマンドを使用して DATA 領域以外のすべての領域にナビゲートできる。一時記憶域 も参照。

カーソル (cursor)

セットのデータ行をポイントして選択するためにアプリケーション・プログラムにより使用される名前付き制御構造。

顧客情報管理システム (Customer Information Control System)

CICSを参照してください。

データ・タイプ (data type)

各種データの 1 つを特定する種別。SQL でのデータ・タイプは、列、リテラル、ホスト変数、特殊レジスター、パラメーター、および関数と式の結果を表す属性。

データベース (database)

1 つ以上のアプリケーションに対して提供するために、まとめて保管されている関連したデータ項目や独立データ項目の集合。

データベース管理者 (database administrator)
データベースの設計、開発、運用、セキュリティ、メンテナンス、および使用を担当する個人。

データベース管理システム (database management system (DBMS))
DBMS を参照。

データベース・マネージャー (database manager)
効率的なアクセス、保全性、回復、並行性制御、プライバシー、およびセキュリティを目的に、集中制御、データ独立性、複雑な物理構造を提供することによりデータを管理するプログラム。

データベース・サーバー (database server)
データベース・マネージャーを使用して他のソフトウェア・プログラムまたはコンピューターにデータベース・サービスを提供するソフトウェア・プログラム。

DBCS (2 バイト文字セット) (DBCS (double-byte character set))
各文字が 2 バイトで表現される文字セット。これらの文字セットは、一般的に日本語や中国語のような 1 バイトで表現できない記号が多い各国語で使用される。SBCS も参照。

データベース管理システム (database management system (DBMS))
データベースの作成と編成、変更、およびそのデータベースに保管されているデータへのアクセスについて、制御を行うソフトウェア・システム。

宛先管理テーブル (destination control table (DCT))
CICS で使用されている、一時データ宛先をそれぞれ記述する表。このテーブルは、区画外、区画内、および間接宛先ごとの項目を含む。

デフォルト形式 (default form)
保存された書式が RUN QUERY コマンドで指定されない場合に作成される QMF 書式。

デフォルト値 (default value)
他に値が指定されていない場合に使用される、事前に定義されている値、属性、また

はオプション。DB2 表の列データのデフォルト値は、データを変更する SQL ステートメント (INSERT、UPDATE、MERGE など) に DEFAULT キーワードを指定することにより定義できる。

従属行 (dependent row)
親行の親キーの値と一致する外部キーを含む行。外部キーの値は、従属行から親行への参照を表す。

従属表 (dependent table)
オブジェクトに従属する表。例えば、外部キーを持つ表は、対応する主キーを含む表に従属する。

宛先管理テーブル (destination control table)
DCT を参照。

明細ブロック・テキスト (detail block text)
データ内のある行に対応している、報告書の本文中のテキスト。

明細見出しテキスト (detail heading text)
報告書の見出しのテキスト。

詳細バリエーション (detail variation)
FORM.DETAIL パネルに指定されて、条件に応じて、1 つの報告書または報告書の部分の形式の設定に使用できる、データ形式設定定義。

特殊タイプ (distinct type)
共通の表現を組み込みデータ型と共有する、ユーザー定義のデータ型。

分散データ (distributed data)
複数のシステムに保管され、リモート・ユーザーおよびアプリケーション・プログラムで使用できるデータ。

分散データベース (distributed database)
ユーザーからは論理的に完全な、ローカルからアクセスできるデータベースに見えるが、実際にはデータ通信ネットワークで接続された複数の場所にあるデータベースで構成されているデータベース。

Distributed Relational Database Architecture™ (Distributed Relational Database Architecture)
DRDA® を参照。

分散作業単位 (distributed unit of work)
分散リレーショナル・データベース処理の形式。ユーザーやアプリケーション・プロ

グラムが 1 つの作業単位内で、複数の場所でデータの読み取りや更新を行える。1 つの作業単位内では、1 つのシステムで実行されている QMF などのアプリケーションが、複数のリモート・データベース・システムに対して、これらのシステムがサポートしている SQL を使用して SQL 要求を送信できる。要求は、3 部構成の表名または視点名を含む QMF コマンドを介して実行される。3 部構成の名前の QMF コマンドは、DB2 (VM または VSE 版) データベースに送信することはできず、QMF for TSO を DB2 for z/OS ストアード・プロシージャーとして開始した場合には使用することもできない。QMF コマンドの 3 部構成の名前は、ラージ・オブジェクト (LOB) データ・タイプを含む表を参照することもできない。

2 バイト文字セット (double-byte character set)
DBCS を参照。

倍精度浮動小数点数 (double-precision floating-point number)
実数に関する 64 ビットの近似的表現。

DRDA (分散リレーショナル・データベース体系)
(DRDA: Distributed Relational Database Architecture)

リモート・データへの透過的なアクセスを提供する形式とプロトコルを定義する体系。DRDA は、アプリケーション・リクエスト関数とアプリケーション・サーバー関数の 2 種類の関数を定義する。

環境 (environment)
関数のパフォーマンスをサポートするために使用される論理および物理リソースの名前付きコレクション。

出口ルーチン (exit routine)
別のプログラムから制御を受け取って特定の関数を実行するプログラム。

Extensible Markup Language
XML を参照。

拡張構文 (extended syntax)
呼び出し可能インターフェース・アプリケーションにおいて、QMF SET GLOBAL コマンドと GET GLOBAL コマンド、および特定の関数呼び出しに使用される構文。拡張構文は、アセンブラー、C、

COBOL、Fortran、または PL/I 言語で記述された、QMF 呼び出し可能インターフェース・アプリケーションによって使用されるパラメーターを定義する。

フォールバック (fallback)
現行リリースへの移行を試みたか、または完了した後、ソフトウェア・プログラムの前のリリースに戻る処理。

フェッチ (fetch)
データベースまたはファイルから行を検索して QMF DATA オブジェクトを作成する処理。QMF は、DSQSMRFI パラメーターを介した複数行フェッチをサポートしている。

外部キー (foreign key)
リレーショナル・データベースで、別の表の主キーを参照する表内のキー。

GDDM (図形データ表示管理プログラム)
(GDDM: Graphical Data Display Manager)
ディスプレイ・デバイスまたはプリンターに出力するテキストと図形を定義して表示するグラフィック・ソフトウェア。

グローバル変数 (global variable)
デフォルトで、QMF セッション期間は値が持続する名前付きエンティティ。QMF は、大域変数を使用してセッションとデータベース・アクティビティの両方を管理する。大域変数によっては、SET GLOBAL コマンドで設定できるものもあれば、現在の QMF セッションの状態に関する情報を記録するため、SET GLOBAL コマンドでは設定できないものもある。

グラフィック・ストリング (graphic string)
一連の 2 バイト文字セット (DBCS) 文字。

図形データ表示管理プログラム (Graphical Data Display Manager)
GDDM を参照。

ホスト (host)
データ通信構成内の制御または最上位システム。

ハイパーテキスト・マークアップ言語 (hypertext markup language (HTML))
Standard Generalized Markup Language

(SGML) に準拠し、主にハイパーテキスト・リンクを含むテキストおよび図形情報のオンライン表示をサポートするために設計されたマークアップ言語。

ハイパーテキスト・マークアップ言語 (**hypertext markup language**)

HTML を参照。

ICU (対話式図表ユーティリティー) (**ICU (Interactive Chart Utility)**)

プログラマーではなくても図表、グラフ、ダイアグラムを表示、印刷、またはプロット可能にする、IBM の図形データ表示管理プログラム (GDDM) のメニュー方式のコンポーネント。

ID 列 (**identity column**)

表に挿入される行ごとに数値を自動的に生成する方法を DB2 データベース・マネージャーに提供する列。ID 列は、AS IDENTITY 節を使用して定義される。ID 列は、1 つの表に 1 つのみ定義できる。

索引 (**index**)

キーの値によって論理的に順序付けされるポインターのセット。索引は、データに対する迅速なアクセスを提供し、表の行についてキー値の固有性を強制できる。

内部結合 (**inner join**)

結合されている両方の表の一致する行のみを含める結合演算の結果。外部結合 も参照。

インストール検査手順 (**installation verification procedure**)

IVP を参照。

統合交換形式 (**Integrated Exchange Format**)

IXF を参照。

対話式図表ユーティリティー (**Interactive Chart Utility**)

ICU を参照。

対話式システム生産性向上機能 (**Interactive System Productivity Facility**)

ISPF を参照。

ISPF (対話式システム生産性向上機能) (**ISPF (Interactive System Productivity Facility)**)

フルスクリーン・エディターおよびダイアログ・マネージャーとして機能する IBM

ライセンス・プログラム。アプリケーション・プログラムを記述するために使用され、標準スクリーン・パネルの生成や、アプリケーション・プログラマーと端末ユーザー間での対話式対話の方法を提供する。

IVP (インストール検査手順) (**IVP (installation verification procedure)**)

製品が正しくインストールされていることを検証するプロシージャーまたはプログラム。

IXF (統合交換形式) (**IXF: Integrated Exchange Format**)

さまざまなソフトウェア・プロダクト間で表データを転送するためのプロトコル。

JCL (ジョブ制御言語) (**JCL: job control language**)

オペレーティング・システムに対してジョブを識別し、ジョブの要求を記述するコマンド言語。

ジョブ制御言語 (**job control language**)

JCL を参照。

結合 (**join**)

一致する列の値に基づいて複数の表からデータを検索できるようにする SQL 関係演算。

キー (**key**)

表、索引、または参照制約の記述の中で識別される、列または列の順序付きコレクション。同じ列を複数のキーの一部とすることができる。

キーワード (**keyword**)

プログラミング言語、人工言語、アプリケーション、またはコマンドの定義済みワードの 1 つ。

キーワード・パラメーター (**keyword parameter**)

キーワードと続く 1 つ以上の値で構成されるパラメーター。定位置パラメーターも参照。

ラージ・オブジェクト (**large object**)

LOB を参照。

リンク・エディット (**link-edit**)

リンケージ・エディターを使用して、ロード可能なコンピューター・プログラムを作成すること。

リンケージ・エディター (**linkage editor**)

モジュール間での相互参照を解決することによって、また、必要に応じてアドレスを調整することによって、1 つ以上のオブジェクト・モジュールまたはロード・モジュールからロード・モジュールを作成するコンピューター・プログラム。

リテラル (**literal**)

値がその文字自体によって与えられる文字ストリング。例えば、数値定数 7 は値 7 を持ち、文字定数 'CHARACTERS' は値 CHARACTERS を持つ。

線形プロシージャー (**linear procedure**)

QMF コマンドまたはコマンド同義語のシーケンス・セット。複数の演算を一度に実行するために使用できる。ロジックを持つプロシージャー (*procedure with logic*) も参照。

線形構文 (**linear syntax**)

あるプログラムまたはプロシージャーの 1 ステートメントに入力するか、または QMF コマンド行に入力できる QMF のコマンド構文。

ロード・モジュール (**load module**)

主記憶域にロードして実行するのに適した形式のプログラム。

LOB ラージ・オブジェクト (**large object**) (**LOB (large object)**)

サイズが 0 バイトから 2 ギガバイト (マイナス 1 バイト) の範囲のサイズを持つ一連のバイト。バイナリー・ラージ・オブジェクト (BLOB)、文字ラージ・オブジェクト (CLOB、1 バイト文字のみか、または 1 バイトと 2 バイト文字を混合したものを含めることが可能)、および 2 バイト文字ラージ・オブジェクト (DBCLOB) という 3 種類の LOB データ・タイプがある。QMF は、最大 32 KB の LOB 列サイズをサポートする。

ローカル (**local**)

QMF が現在実行されているシステムにイ

ンストールまたは保管されているデータベース、オブジェクト、またはアプリケーションに関する表現。

ロケーション (**location**)

分散リレーショナル・データベース・システム内の特定のリレーショナル・データベース・サーバー。各ロケーションは固有のロケーション名を持つ。

ロケーション名 (**location name**)

データベース・サーバーの固有の名前。アプリケーションは、ロケーション名を使用して DB2 データベース・サーバーにアクセスする。

ロック (**lock**)

一連のイベントをシリアライズする、またはデータへのアクセスをシリアライズする方法。

ログ (**log**)

システムで発生するイベントを順番に記述するレコードの集合。

LUW Linux、UNIX、および Windows の省略形。

各国語機能 (**National Language Feature**)

NLF を参照。

新機能モード

NFM を参照。

NFM (新機能モード) (**NFM (New Function Mode)**)

QMF バージョン 8.1 と QMF バージョン 9.1 のインストール・モードの 1 つで、QMF オブジェクト・カタログ内の所有者名およびオブジェクト名をデータベースで許可されている最大長に制限するモード。QMF バージョン 12.1 では、所有者名とオブジェクト名もデータベースが許可している長さがにできる。互換モード (CM) も参照。

NLF (各国語機能) (**NLF (National Language Feature)**)

QMF で使用できる複数のオプション・フィーチャーのいずれか。NLF によってユーザーは、特定のネイティブ言語で QMF と対話できる。

オブジェクト (object)

名前付きの記憶域スペースであり、スペース、場合によってはデータを記述する特定のセットから成る。オブジェクトは、記憶域内のスペースを占めるすべてのものを指し、ライブラリーやディレクトリーに配置可能で、機密保護機能を設定可能であり、それに対して定義された操作を実行できる。QMF オブジェクト も参照。

外部結合 (outer join)

結合されている両方の表の一致する行を含み、結合されている表の一致しない行のいくつか、またはすべてを保持する結合演算の結果。内部結合 も参照。

パッケージ (package)

プログラムの準備中に作成される制御構造データベース・オブジェクト。静的 SQL ステートメントまたは XQuery 式の実行可能な書式と、動的 SQL ステートメントの実行可能な書式の配置ホルダーの両方を含むことができる。

パネル (panel)

画面上の情報の定様式表示。項目フィールドを含めることができる。

パラメーター (parameter)

関数、コマンド、またはプログラムに渡される値またはリファレンスで、入力または制御のアクションとして機能する。値はユーザーによって、または別のプログラムやプロセスによって提供される。

区画 (partition)

ページ・セットの一部。各区画は、単一の、独立して拡張可能なデータ・セットに対応している。区画は、区画化されたページ・セットの区画数に応じて、最大 1、2、または 4 ギガバイトまで拡張できる。特定のページ・セットの区画は、すべて同じ最大サイズを持つ。

プラン (plan)

アプリケーション・プラン を参照。

定位置パラメーター (positional parameter)

他のパラメーターと相対的な、決まった位置に指定しなければならないパラメーター。キーワード・パラメーター も参照。

精度 (precision)

有効数字の総数を表す数値の属性。

述部 (predicate)

比較演算を記述または暗示する検索条件の要素。

1 次許可 ID (primary authorization ID)

z/OS 用 DB2 に対してアプリケーション・プロセスを識別するために使用される許可 ID。

主キー (primary key)

リレーショナル・データベースで、データベース表の 1 つの行を一意的に識別するキー。

特権 (privilege)

SQL では、GRANT ステートメントを処理することによりユーザーに与えられる機能。

プロシージャー (procedure)

1 つ以上のタスクを実行するために使用されるステートメントまたはコマンドのシーケンス・セット。線形プロシージャー と ロジックを持つプロシージャー も参照。

ロジックを持つプロシージャー (procedure with logic)

1 つ以上のタスクを実行するステートメントのセット。REXX コメントで開始し、条件付きロジック (REXX を使用)、計算、ビルド・ストリング、および TSO コマンドまたは CICS コマンドを許可するロジックを持つプロシージャー。線形手順 も参照。

プロファイル (profile)

ユーザーのセッションの特性に関する情報が含まれるオブジェクト。

プログラムの一時修正 (program temporary fix)

PTF を参照。

指示照会 (prompted query)

ユーザー提供のパラメーターによって制御されるメニュー方式の照会。

PTF (program temporary fix)

System i[®]、System p、および System z[®] 製品については、IBM によって検査された修正であり、すべての顧客が使用できる。

QBE (例示照会) (QBE (Query-by-Example))
照会を図形によって作成できるようにする QMF のコンポーネント。

QMF 管理者権限 (QMF administrator authority)

ユーザーに Q.PROFILES 制御表での行の挿入や削除を許可する権限。この権限を持つユーザーは、他のユーザーが所有する QMF 照会、書式、プロシージャーで、SAVE、ERASE、IMPORT、EXPORT、および DISPLAY コマンドを実行できる。その所有者にこれらのオブジェクトをすべてのユーザーと共有するように強制する必要がない。QMF は、初期化中に各ユーザー ID の管理者権限をチェックする。このチェックは DSQUOPTS 出力ルーチンか、または別の任意のプログラムに DSQEC_DISABLEADM 変数を設定することで無効にできる。

QMF 管理者 (QMF administrator)
QMF 管理者権限を持つユーザー。

例示照会 (Query-by-Example)
QBE を参照。

QMF オブジェクト (QMF object)
QMF ユーザーがデータを照会、形式化、および表示するために、または QMF とデータベースとの間の対話を管理するために使用するオブジェクト。QMF オブジェクトは、照会および照会結果データ、書式、プロシージャー、報告書、図表、および QMF プロファイルを含む。各 QMF オブジェクトは、オブジェクトを表示するために使用される名前付き一時記憶域を持つ。報告書と図表を除くすべてのオブジェクトをデータベースに保存できる。報告書と図表は、ユーザー要求時に、特定の QMF 書式仕様をデータベースから返された結果データに適用することにより、動的に作成される。一時記憶域 も参照。

QMF オブジェクト・カタログ (QMF object catalog)
QMF の照会、プロシージャー、フォーム、フォルダー、および分析オブジェクトに関する情報を保管するコントロール表のセット。これらの管理表は、Q.OBJECT_DIRECTORY、

Q.OBJECT_DATA、および Q.OBJECT_REMARKS を含む。

修飾子 (qualifier)
QMF オブジェクトについて用いられるときは、オブジェクトの所有者または場所を識別する名前の部分。TSO データ・セットについて用いられるときは、それ以外の名前の部分とピリオドで区切られている名前の部分。例えば、'TCK'、'XYZ'、および 'QUERY' は、すべてデータ・セット名 'TCK.XYZ.QUERY' の修飾子である。

照会 (query)
特定の条件を基準に、データベースの情報を要求すること。例えば、顧客表の残高が 1000 ドルを超える全顧客のリストの要求など。QMF では、照会は Prompted Query、QBE、または SQL 照会パネルから実行された SQL ステートメントも、これらのステートメントが情報を要求しない (SELECT ステートメント) の場合でも参照する。

リソース管理テーブル (resource control table (RCT))
CICS トランザクションと DB2 リソースとの間の関係を定義する DB2 管理テーブル。

リレーショナル・データベース管理システム (relational database management system (RDBMS))
リレーショナル・データベースを編成し、リレーショナル・データベースへのアクセスを提供するハードウェアとソフトウェアの集合。

オンライン・リソース定義 (resource definition online (RDO))
CICS で、CICS を実行しながらユーザーが特定の CICS リソースを対話式に定義できるようにする機能。具体的には、RDO によってユーザーは端末、プログラム、およびトランザクションを対話式に定義できる。

レコード (record)
行またはその他のデータの記憶表現。

レコード長 (record length)
行やその他のデータを表す記憶の長さ。

再入可能 (reentrant)

すべてのデータベース・スレッドに対して 1 つの共有コピーとして記憶域に常駐できる実行可能コード。再入可能コードは、自己書き換えコードではなく、スレッドごとに別々の記憶域を提供する。

参照制約 (referential constraint)

指定された外部キーの NULL 以外の値は、親表の主キーの値としても表現される場合のみ有効であるという要件。参照制約は、常に従属ファイルの視点から定義される。

リレーショナル・データベース (relational database)

表のセットとして見なすことができ、データのリレーショナル・モデルに従って取り扱われるデータベース。各データベースは、データの論理構造と物理構造を記述するシステム・カタログ表のセット、データベースに割り振られているパラメーター値を含む構成ファイル、およびに実行中のトランザクションとアーカイブ可能なトランザクションによるリカバリー・ログを含む。

リレーショナル・データベース管理システム (relational database management)

RDBMS を参照。

リモート (remote)

QMF が現在実行しているシステム以外のシステムにインストールまたは保管されているデータベース、オブジェクト、またはアプリケーションに関する表現。QMF CONNECT コマンドを使用して、リモート・サーバーでオブジェクト (QMF の照会、フォーム、プロシージャ、フォルダー、および分析オブジェクト) にアクセスできる。リモート・ロケーションから、表または視点のみにアクセスする場合は、3部構成の表名、または視点名で QMF コマンドを使用することもできる。リモート・アクセスは、QMF for TSO が DB2 for z/OS ストアード・プロシージャとして実行されている場合は許されない。

リモート作業単位 (remote unit of work)

QMF などのアプリケーション・プログラムが、1 つの作業単位内で 1 つのリモ

ト・データベースのデータへアクセスが行える分散リレーショナル・データベース処理の形式。接続は、QMF CONNECT コマンドによって確立される。CONNECT コマンドは、QMF for TSO が DB2 for z/OS ストアード・プロシージャとして実行されている場合には使用できない。

リクエスター (requester)

アプリケーション・リクエスター を参照。

リソース (resource)

ロックまたはクレームのオブジェクト。表スペース、索引スペース、データ・パーティション、索引パーティション、またはロジカル・パーティションが挙げられる。

リソース・コントロール表 (resource control table) RCT を参照。

オンライン・リソース定義 (resource definition online)

RDO を参照。

再構造化拡張実行プログラム (Restructured Extended Executor)

REXX を参照。

REXX (再構造化拡張実行プログラム) (REXX: Restructured Extended Executor)

汎用高水準プログラミング言語。特にパーソナル・コンピューティングのための EXEC プロシージャまたはプログラムに適している。

ロールバック (roll back)

SQL ステートメントによって変更されるデータを、その最後のコミット・ポイントの状態にリストアすること。複数のステートメントを含み、COMMIT ステートメントは含まない照会でエラーが発生した場合、QMF セッション (SET など) に影響するものを除いて、すべてのステートメントがロールバックされる。1 つ以上の COMMIT ステートメントを含む照会でエラーが発生した場合、最後の正常な COMMIT ステートメント以降のすべての更新はロールバックされる。いずれの場合も、照会はエラーが発生した後に終了する。

ルーチン (routine)

プログラム、またはプログラムによって呼び出される一連の命令。通常、ルーチンは用途が広く、頻繁に使用される。

行 (row)

表の水平方向のコンポーネントで、表の列ごとに 1 つ、一連の値で構成されている。

実行時変数 (runtime variable)

プロシージャまたは照会の変数であり、プロシージャまたは照会の実行時にユーザーがその値を指定する。実行時変数の値は、現行のプロシージャまたは照会でのみ使用できる。大域変数 も参照。

1 バイト文字セット (single-byte character set (SBCS))

各文字が 1 バイトコードで表現されるコード化文字セット。最大 256 文字の表現を許容する 1 バイト・コード・ポイント。2 バイト文字セット も参照。

スカラー関数 (scalar function)

オプションで引数を受け付け、呼び出されるたびに単一のスカラー値を返す SQL 関数。スカラー関数は、SQL ステートメントの中で式が有効なあらゆる場所で参照できる。

スクラッチパッド域 (scratchpad area)

プログラムの実行中に、アプリケーション・プログラムからの情報を保持するため、会話型処理で使用される作業領域。

検索条件 (search condition)

表から行を選択するための基準。検索条件は、1 つ以上の述部で構成される。

2 次許可 ID (secondary authorization ID)

z/OS 用の DB2 で、許可出口ルーチンにより 1 次許可 ID に関連付けられる許可 ID。1 次許可 ID も参照。

セグメント表スペース (segmented table space)

セグメントと呼ばれる同じサイズのページ・グループに分割される表スペース。セグメントは、別の表の行が同じセグメントに保管されないように表に割り当てられる。表スペース も参照。

サーバー (server)

アプリケーション・サーバー を参照。

セッション (session)

ユーザーが QMF を呼び出した時点から、EXIT コマンドを出すまでの、ユーザーと QMF 間で行うすべての対話。

シフトイン文字 (shift-in character)

EBCDIC システムで使用される制御文字 (X'0F')。後続のバイトが、SBCS 文字を表すことを示すため使用される。シフトアウト文字 も参照。

シフトアウト文字 (shift-out character)

EBCDIC システムで使用される制御文字 (X'0E') で、後続のバイトが、次のシフトイン制御文字まで、DBCS 文字を表すことを示す。シフトイン文字 も参照。

1 バイト文字セット (single-byte character set) SBCS を参照。

単精度浮動小数点数 (single-precision floating-point number)

実数に関する 32 ビットの近似的表現。

SQL (構造化照会言語) (SQL (Structured Query Language))

リレーショナル・データベースにあるデータの定義および操作のための標準化言語。

SQL 許可 ID (SQL authorization ID)

SQLID を参照。

SQL 接続 (SQL connection)

アプリケーション・プロセスとローカルまたはリモート・サーバー、またはデータベース・サーバー間のアソシエーション。リモート作業単位、分散作業単位 も参照。

SQL 関数 (SQL function)

SQL ステートメントと SQL PL ステートメントのサブセットを使用することにより完全に実装される関数。

SQL 許可 ID (SQL authorization ID) (SQL ID (SQL authorization ID))

z/OS 用の DB2 で、いくつかの状況で動的 SQL ステートメントの許可のチェックに使用される ID。

SQL 戻りコード (SQL return code)

SQL ステートメントが前回 1 つ以上の警告、またはエラーなしで正常に完了したかどうかを示す SQLSTATE または SQLCODE。

構造化照会言語通信域 (Structured Query Language Communication Area (SQLCA))

アプリケーション・プログラムに、その SQL ステートメントの実行に関する情報、またはデータベース・マネージャーからの要求を提供する一連の変数。エラーが SQL コードに関連する場合、QMF メッセージ・ヘルプ (ヘルプ・キーを押して選択可能)が SQLCA の内容を表示する。

ストアード・プロシージャ (stored procedure)

ホスト言語ステートメントと SQL ステートメントの両方を含む演算を実行するため、SQL CALL ステートメントを使用して呼び出すことができるルーチン。

ストアード・プロシージャ・インターフェース (stored procedure interface)

QMF for TSO へのインターフェース。QMF を DB2 for z/OS ストアード・プロシージャとして開始し、QMF 照会または必要な作業を実行するプロシージャの名前を渡し、トレース出力の結果セットを含む最大 21 個の結果セットを受け取ることができる。QMF for TSO は、DB2 for z/OS ストアード・プロシージャを実行可能なあらゆる製品からこの方法で開始できる。

構造化照会言語 (Structured Query Language)

SQL を参照。

構造化照会言語通信域 (Structured Query Language Communication Area)

SQLCA を参照。

副照会 (subquery)

別の照会の WHERE 節または HAVING 節に表現される SQL 照会一式。

置換変数 (substitution variable)

(1) 値が大域変数または実行時変数のいずれかによって指定される、プロシージャまたは照会内の変数。(2) 値が大域変数によって指定される、QMF 書式の変数。

サブストリング (substring)

文字ストリングの一部。

サブシステム (subsystem)

z/OS 用の DB2 では、リレーショナル・データベース管理システム (RDBMS) の個別インスタンス。

表 (table)

リレーショナル・データベースで、固定数の列で構成されるデータベース・オブジェクト。順序付けられていない行セットの保管に使用される。基本表 も参照。

表スペース (table space)

データベース内の記憶域の論理単位。z/OS 用の DB2 では、表スペースは、ページ・セットであり、1 つ以上の表を含むことができる。DB2 for Linux, UNIX, and Windows では、表スペースはコンテナの集合であり、表のデータ、索引、長フィールド、および LOB 部分は、同じ表スペース、または別の表スペースに保管できる。

一時記憶域 (temporary storage)

ユーザーが作業中に QMF オブジェクトを一時的に保管するために使用する記憶域。データベースをそれ以上検索せずに、簡単にオブジェクトにアクセスできる。QUERY、DATA、FORM、PROC、REPORT、CHART、または PROFILE の 7 つの一時記憶域がある。照会結果データ (DATA オブジェクト) を除き、これらの記憶域にある QMF オブジェクトは、SHOW コマンドの後に一時記憶域の名前を指定して実行することにより表示できる。DATA 領域の内容は直接表示できないが、ユーザーは、SHOW REPORT または SHOW CHART コマンドを発行して、FORM 領域の現行書式の仕様で書式化された照会データを表示できる。QMF オブジェクト、現行オブジェクト も参照。

一時記憶域キュー (temporary storage queue)

CICS の、あらゆる順序で読み取りおよび再読み取りが可能なデータ項目のキュー。キューは、タスクにより作成され、同じタスクまたは別のタスクによって削除されるまで存続する。一時データ・キュー も参照。

スレッド (thread)

DB2 の構造であり、アプリケーションの接続を記述し、その進行を追跡し、リソース関数を処理し、さらに DB2 リソースとサービスへのアクセス可能性の範囲を決定

する。ほとんどの DB2 機能は、スレッド構造のもとで実行される。

3 部構成の名前 (three-part name)

表、視点、または別名のフルネーム。場所名、許可 ID、およびオブジェクト名で構成され、それぞれピリオドで区切られている。3 部構成の名前を含む QMF コマンドは、DB2 for z/OS データベースからのみ開始することができ、DB2 (VM/VSE 版) を除くすべてのデータベースに送信できる。QMF for TSO が DB2 for z/OS ストアード・プロシージャーとして開始されている場合、3 部構成の名前を持つ QMF コマンドはサポートされない。

タイム・シェアリング・オプション (Time Sharing Option (TSO))

TSOを参照してください。

トレース (trace)

コンピューター・プログラムまたはトランザクションの処理の記録。トレースから収集された情報は、問題とパフォーマンスの評価に使用される。

トランザクション (transaction)

1 つ以上のアプリケーション・プログラムで構成される処理単位。1 つ以上のオブジェクトに影響し、単一の要求によって開始される。

一時データ・キュー (transient data queue)

CICS 記憶域。オブジェクトは、後続の内部処理または外部処理のために、ここに保管される。一時データ・キューも参照。

トリガー (trigger)

単一の基本表または視点に関連付けられたデータベース・オブジェクト。規則を定義する。規則は一連の SQL ステートメントで構成され、関連付けられた基本表または視点で挿入、更新、または削除のデータベース操作が発生すると実行される。

TSO (タイム・シェアリング・オプション) (TSO (Time Sharing Option))

ユーザーがシステムと対話的に作業できるようにする、z/OS オペレーティング・システムの基本エレメント。

2 フェーズ・コミット (two-phase commit)

外部サブシステム内のリカバリー可能リソ

ースをコミットする 2 段階の処理。最初の段階では、データベース・マネージャー・サブシステムがポーリングされ、コミットの準備ができていることが確認される。サブシステムすべてがポジティブに応答した場合、データベース・マネージャーはこれらのサブシステムにコミットするよう指示する。

ユーザー定義関数 (user-defined function (UDF))

CREATE FUNCTION ステートメントを使用して DB2 データベース・システムに定義される関数。定義後は、SQL ステートメントで参照できる。UDF は SQL 関数でも外部関数でもよい。

Unicode

文字エンコード規格。世界の共通語で記述されたテキストに加え、一部の古典的および伝統的テキストの交換、処理、および表示をサポートする。ユニコード規格には、ISO 10646 で規定された 16 ビットの文字セットがある。

リカバリー単位 (UR) (unit of recovery (UR))

整合点間の作業単位内の操作順序。

作業単位 (UOW: unit of work)

アプリケーション・プロセス内のリカバリー可能な一連の操作。アプリケーション・プロセスは任意の時点で単一の作業単位であるが、その活動中には、コミット操作またはロールバック操作の結果として多くの作業単位が関わる場合がある。マルチサイト更新操作では、単一の作業単位が複数の回復単位を含む場合がある。複数のステートメントを含み、COMMIT ステートメントは含まない QMF SQL 照会においては、すべてのステートメントが単一の作業単位を構成するため、セッションに影響するステートメント (SET など) を除くすべてのステートメントが障害時にロールバックされる。複数のステートメントを含み、1 つ以上の COMMIT ステートメントを含む QMF SQL 照会においては、作業単位は COMMIT ステートメントと、照会の先頭または最後の COMMIT ステートメントまでさかのぼるすべてのステートメントで構成される。エラーが発生した場

合、最後の正常な COMMIT ステートメント以降のすべての更新はロールバックされる。

ユーザー定義関数 (user-defined function)

UDF を参照。

ビュー (view)

基礎となる一連の表に保管されているデータに基づく論理表。視点によって返されるデータは、基礎表で実行されている SELECT ステートメントによって決定される。

XML (Extensible Markup Language)

Standard Generalized Markup Language(SGML) に基づくマークアップ言語を定義するための標準メタ言語。

z/OS 64 ビットの実記憶を使用する IBM メインフレーム・オペレーティング・システム。



プログラム番号: 5650-DB2
5615-DB2
5697-QM2

Printed in Japan

GC43-3487-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21